

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第72集

お お け い け だ
大毛池田遺跡

1 9 9 7

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

序

愛知県一宮市は、尾張北西部に位置し、織物業の発達した地域として、また古来より主要幹線道の置かれた交通の要所として知られております。

このたび調査を実施いたしました大毛池田遺跡は、一宮市と葉栗郡木曽川町にかけて所在し、木曽川左岸域に形成された自然堤防および後背湿地にかけて立地しています。遺跡の北東方向扇状地末端付近は、浅井古墳群をはじめ古代寺院跡など数多くの遺跡が分布する地域であり、沖積地の広がる遺跡周辺では耕地の拡大とともに発展した集落跡が検出されるものと期待されました。

大毛池田遺跡では古墳時代の水田跡、奈良～平安時代に掘削された大規模な水路群、鎌倉時代から戦国時代初期にかけての居館跡などが検出されました。古墳時代水田跡の検出は県内では初例であり、古墳時代水田の構造、あるいは古代の水田開発の規模を考える上で新たな問題を提起する重要な資料であります。また古代～中世では、出土土器・陶磁器類がクニ境をこえた美濃地域との深い関わりを示すとともに、木曽川水系の豊かな恵みをめぐって行われた各時代の開発と集住の歴史が明らかになってきました。こうした成果をここに公開し、その内容が学術的な資料として、社会教育・学校教育の目的で活用されることを期待しております。

最後になりましたが、大毛池田遺跡の発掘調査につきまして各方面の方々に御配慮を賜わり、各関係機関及び関係者のご指導とご協力を頂きましたことにたいし、厚く御礼申し上げます。

平成9年8月

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
理事長 安部 功

例 言

- 1 本書は愛知県一宮市大字大毛字池田、葉栗郡木曽川町黒田地内に所在する大毛池田遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、東海北陸自動車道建設に伴う事前調査として、日本道路公団、愛知県土木部から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターが、平成5年4月から平成8年3月にかけて実施した。
- 3 調査にあたっては以下の関係機関のご協力を得た。
愛知県教育委員会文化財課 愛知県埋蔵文化財調査センター
日本道路公団 愛知県土木部 一宮市博物館
- 4 発掘調査においては以下の方々のご協力を得た。(敬称略)
寺沢なつ江・堀坂智美(以上発掘調査補助員)・水谷豊(平成8年3月より調査研究員、現三重県埋蔵文化財センター)
- 5 調査、報告書の作成にあたっては以下の方々の御指導を賜わった。(敬称略)
井上喜久男、久保禎子、城ヶ谷和広、鈴木良孝、鈴木康之、
外山秀一、高橋 学、若尾正人、渡辺博人、矢田 勝
- 6 本書の執筆は、Ⅳ-2を早野浩二、Ⅳ-3を永井宏幸、Ⅳ-5-cを永井(竹ノ脇)智子、Ⅳ-5-aを八木佳素実、Ⅴ-2を服部俊之(愛知県立津島北高等学校)、Ⅴ-4を森勇一(愛知県立明和高等学校)、Ⅴ-1、3、5を 鬼頭 剛が分担し、Ⅵは伊藤秀紀と武部真木が執筆し、その他と編集は武部真木が行った。
- 7 報告書に関わる整理・図版作成には以下の諸氏の協力を得た。
八木佳素実、河合明美(以上調査研究補助員)、深川 進(写真撮影)
加藤明美、小檜山洋子、玉作美智子、土井てる子、山本律子(以上整理補助員)
- 8 調査に使用した座標は、国土座標第Ⅶ系に準拠する。
- 9 調査記録・出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターが保管している。

目 次

I	調査の概要	1
	調査の経緯・経過	
II	遺跡の概要	2
	1.位置と地理的環境	
	2.歴史的環境	
	3.基本層序	
III	遺構	10
	1.遺構の概要・時期区分	
	2.古墳時代	
	3.古代	
	4.中世～戦国期	
IV	遺物	37
	1.古墳時代以前の遺物	
	2.古墳時代の遺物	
	3.古代の遺物	
	4.中世・戦国期の遺物	
	5.その他の遺物	
	a貿易陶磁器	
	b土錘・陶錘	
	c加工円盤・陶丸	
	d墨書土器・陶器	
	e木製品	
	f石製品	
	g金属製品	
V	自然科学分析	109
	1.水田表面にみられる足跡および調査区よりみつかる獣骨	
	2.大毛池田遺跡の地震痕	
	3.花粉・珪藻・植物珪酸体からみた古環境	
	4.畑作農村地帯を特徴づける	
	愛知県大毛池田遺跡（中世）の食植性昆虫について	
	5.大毛池田遺跡93Ab区で認められた水田土壌の理科学分析	
VI	まとめにかえて	154

付表 中世期出土遺物分析表

遺構一覧

遺物一覧

図版 基本遺構図

写真図版

主要遺構変遷図

挿図・表目次

第 1 図	調査区位置図 (1; 5000)	第 46 図	中世遺物実測図 (3)
第 2 図	大毛池田遺跡の位置および約6000年前頃の海陸分布	第 47 図	中世遺物実測図 (4)
第 3 図	周辺遺跡分布図 (1; 25,000)	第 48 図	中世遺物実測図 (5)
第 4 図	大毛池田遺跡・大毛沖遺跡調査区位置図 (1; 5000)	第 49 図	中世遺物実測図 (6)
第 5 図	94Aa南北トレンチ西壁断面図	第 50 図	中世遺物実測図 (7)
第 6 図	大毛池田遺跡模式層序	第 51 図	中世遺物実測図 (8)
第 7 図	古墳時代主要遺構配置図	第 52 図	中世遺物実測図 (9)
第 8 図	94G北壁土層セクション	第 53 図	中世遺物実測図 (10)
第 9 図	94Ab小土坑検出状況 (1;100)	第 54 図	中世遺物実測図 (11)
第 10 図	95AbSD205・206遺物出土状況 (1; 40)	第 55 図	中世遺物実測図 (12)
第 11 図	SK平面図・断面図	第 56 図	中世遺物椀・皿類法量分布
第 12 図	95AbSB102平面・断面図	第 57 図	区画6周辺出土遺物分布傾向
第 13 図	古代主要遺構配置図	第 58 図	貿易陶磁器実測図 (1)
第 14 図	95AaSZ01平面・断面図	第 59 図	貿易陶磁器実測図 (2)
第 15 図	溝 (B,C,D,E,F) 断面図	第 60 図	貿易陶磁器種別出土割合
第 16 図	中世～戦国期の主要遺構配置図	第 61 図	貿易陶磁器出土傾向
第 17 図	屋敷地区画関連SK・SD断面図	第 62 図	土錘実測図
第 18 図	SK・SE平面図・断面図 (1)	第 63 図	土錘 重量/孔径分布
第 19 図	SK・SE平面図・断面図 (2)	第 64 図	土錘 長さ/幅分布
第 20 図	SK・SE平面図・断面図 (3)	第 65 図	遺構出土土錘 重量別個体数
第 21 図	古墳時代以前の遺物実測図	第 66 図	遺構出土土錘 長さ別個体数
第 22 図	古墳時代遺物実測図 (1)	第 67 図	土錘出土分布
第 23 図	古墳時代遺物実測図 (2)	第 68 図	加工円盤実測図
第 24 図	古墳時代遺物実測図 (3)	第 69 図	加工円盤 長径・重量分布
第 25 図	古墳時代遺物実測図 (4)	第 70 図	加工円盤・陶丸出土分布
第 26 図	古墳時代遺物実測図 (5)	第 71 図	墨書土器・陶器実測図 (1)
第 27 図	古墳時代遺物実測図 (6)	第 72 図	墨書土器・陶器実測図 (2)
第 28 図	古墳時代遺物実測図 (7)	第 73 図	墨書土器・陶器出土分布
第 29 図	古墳時代遺物実測図 (8)	第 74 図	木製品実測図
第 30 図	古代遺物実測図 (1)	第 75 図	卒塔婆実測図
第 31 図	古代遺物実測図 (2)	第 76 図	石製品実測図 (1)
第 32 図	古代遺物実測図 (3)	第 77 図	石製品実測図 (2)
第 33 図	古代遺物実測図 (4)	第 78 図	金属製品実測図
第 34 図	古代遺物実測図 (5)	第 79 図	出土銭貨拓本
第 35 図	古代遺物実測図 (6)	第 80 図	94Ab 検出された足跡・馬骨
第 36 図	古代遺物実測図 (7)	第 81 図	93C 地震痕スケッチ
第 37 図	古代遺物実測図 (8)	第 82 図	93A 地震痕
第 38 図	古代遺物実測図 (9)	第 83 図	93C 地震痕
第 39 図	古代遺物実測図 (10)	第 84 図	93C 地震痕
第 40 図	古代遺物実測図 (11)	第 85 図	95Bb 地震痕スケッチ
第 41 図	古代遺物実測図 (12)	第 86 図	95Bb 地震痕全景
第 42 図	古代遺物実測図 (13)	第 87 図	砂脈平面
第 43 図	古代遺物実測図 (14)	第 88 図	断裂部分
第 44 図	中世遺物実測図 (1)	第 89 図	94Aa 地震痕
第 45 図	中世遺物実測図 (2)	第 90 図	95Ab 地震痕

第 91 図	95Ab	地震痕
第 92 図	93Ab	試料採取地点および採取層準
第 93 図	94AbI	試料採取地点および採取層準
第 94 図	94AbI	第4層水田堆積物各粘土層における珪藻分析結果
第 95 図	94AbI	水田一筆水平（面的）採取試料の珪藻分析結果
第 96 図	93Ab	A地点の主要珪藻化石の層位分布
第 97 図	93Ab	C地点の主要珪藻化石の層位分布
第 98 図	93Ab	A地点花粉分析結果
第 99 図	93Ab	C地点花粉分析結果
第 100 図	93Ab	植物珪酸体分析結果（1）
第 101 図	93Ab	植物珪酸体分析結果（2）
第 102 図	94E	昆虫試料分析結果
第 103 図	93Ab	土壤化学分析試料採取地点および採取層準
第 104 図	93Ab	各地点の土壤理化学性分析結果（1）
第 105 図	93Ab	各地点の土壤理化学性分析結果（2）
第 106 図		遺跡周辺の中世後期・戦国期の様相概念図
第 107 図		中世～戦国初期における遺構の変遷

第 1 表		大毛池田遺跡関連年表
第 2 表		中世期編年対照表
第 3 表		貿易陶磁器器種構成
第 4 表		加工円盤計測値一覧
第 5 表		加工円盤出土遺構一覧
第 6 表		出土砥石の石材
第 7 表		試料採取場所および分析対象
第 8 表	94AbI	珪藻分析結果（1）
第 9 表	94AbI	珪藻分析結果（2）
第 10 表	93Ab	A地点珪藻分析結果（1）
第 11 表	93Ab	A地点珪藻分析結果（2）
第 12 表	93Ab	A地点珪藻分析結果（3）
第 13 表	93Ab	C地点珪藻分析結果（1）
第 14 表	93Ab	C地点珪藻分析結果（2）
第 15 表	93Ab	A・B・C・D地点植物珪酸体分析結果
第 16 表		大毛池田遺跡から産出した昆虫化石
第 17 表		各地点の土壤理化学性分析結果

付表・写真図版目次

別表・写真図版

- PL 1 表 区画6周辺出土遺物分布傾向 器種別
PL 2 表 区画6周辺出土遺物分布傾向 地域別
PL 3 表 土器カウント集計表 (1) 灰釉系陶器
PL 4 表 土器カウント集計表 (2) 土師器
PL 5 表 土器カウント集計表 (3) 常滑産陶器
PL 6 表 土器カウント集計表 (4) 瀬戸美濃産陶器
PL 7 表 土器カウント集計表 (5) 瀬戸美濃産陶器
PL 8 表 土器カウント集計表 (6) 瀬戸美濃産陶器
PL 9 表 土器カウント集計表 (7) 灰釉陶器
PL 10 表 土器カウント集計表 (8) 須恵器
PL 11 表 土器カウント集計表 (9) 土師器甕
PL 12～31 遺構一覧表
PL 32～52 遺物登録一覧表

基本遺構図

- PL 54 図版 古墳時代 (1)
PL 55 図版 古墳時代 (2)
PL 56 図版 古墳時代 (3)
PL 57 図版 古墳時代 (4)
PL 58 図版 古墳時代 (5)
PL 59 図版 古墳時代 (6)
PL 60 図版 古墳時代 (7)
PL 61 図版 古墳時代 (8)
PL 62 図版 古墳時代 (9)
PL 63 図版 古代 (1)
PL 64 図版 古代 (2)
PL 65 図版 古代 (3)
PL 66 図版 中世 (1)
PL 67 図版 中世 (2)
PL 68 図版 中世 (3)
PL 69 図版 中世 (4)
PL 70 図版 中世 (5)
PL 71 図版 中世 (6)
PL 72 図版 中世 (7)
PL 73 図版 中世 (8)

写真図版

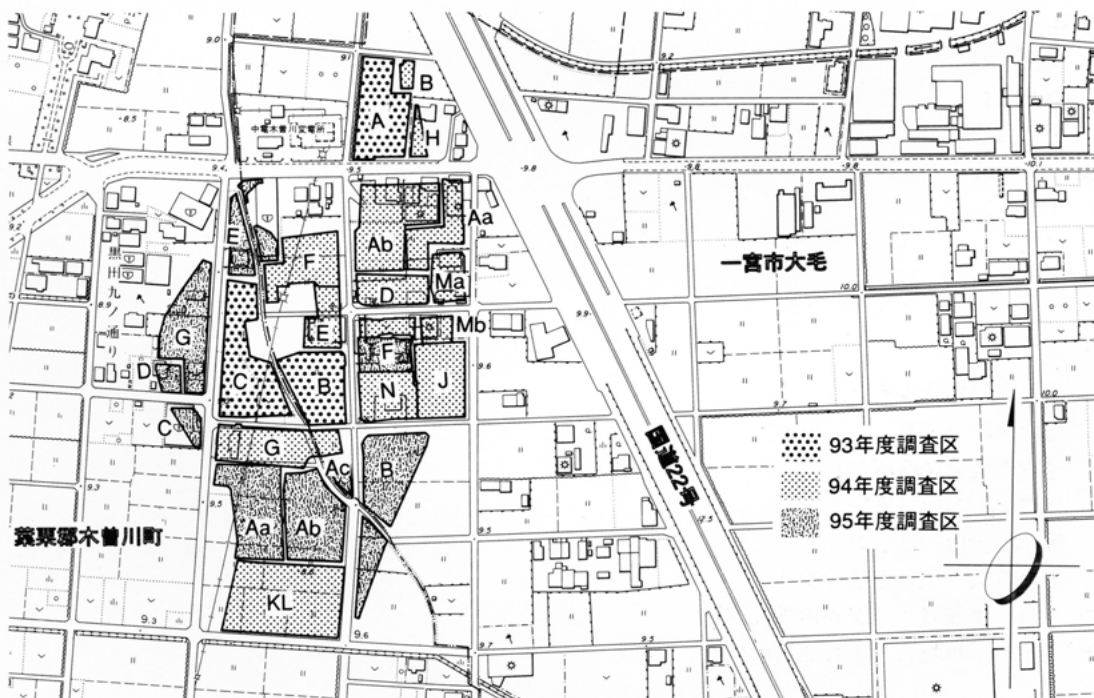
- PL 74～89 遺構
PL 90～99 遺物
PL 100 珪藻遺骸の顕微鏡写真
PL 101 花粉顕微鏡写真
PL 102 植物珪酸体顕微鏡写真
PL 103 昆虫化石の顕微鏡写真
PL 104 出土緑釉椀・卒塔婆
PL 105 図版 古墳時代 主要遺構配置図
PL 106 図版 奈良・平安時代 主要遺構配置図
PL 107 図版 鎌倉・室町時代 主要遺構配置図

I 調査の概要

調査の経緯・経過

大毛池田遺跡は愛知県一宮市と葉栗郡木曽川町の接するあたり、一宮市大字大毛字池田および木曽川町黒田一帯にかけて広がる。周辺は、現況標高9 m前後ののびやかな水田耕作地帯が広がり、畑地、住宅が点在している。岐阜県との県境をなす木曽川が、古来よりこの地域の地形、生活環境を規定する大きな要素となっており、古くは東山道と東海道を結ぶ重要なルートが近辺を通り、中世以降の鎌倉街道、岐阜街道の整備へとつながってゆく。また現在でもJR東海道本線、名鉄名古屋本線、名古屋―岐阜を結ぶ国道22号線が木曽川を渡河する交通の要所となっている。尾張北西部地域にあって、犬山扇状地先端部に位置する周辺では浅井古墳群など古墳時代末期の群集墳、黒岩廃寺など古代寺院跡の分布が知られているほか、沖積低地部では街道沿いの旧跡などが多い。

さて、大毛池田遺跡は、東海北陸自動車道建設に伴い実施した平成4年度の大毛地区の試掘調査で遺跡の存在が明らかになった。調査対象地域は仮称一宮北インター予定地内にあたり、遺跡が全面に展開することが判明していたが、隣接する大毛沖遺跡との間に谷地形（調査により旧流路を確認）の存在が想定されたため暫定的に遺跡を二分し、うち41,300㎡を大毛池田遺跡として平成5年度～8年度にかけて調査を実施した。また、道路予定地の調査である門間沼遺跡が遺跡南側より隣接しており、以上の周辺3遺跡で同事業による調査面積は約117,000㎡となった。大毛池田遺跡・門間沼遺跡では、県内で初めて古墳時代水田跡が確認され、大毛沖遺跡では古代における流路の移動と集落の変遷過程が明らかにされるなど、尾張北部地域における古墳時代～古代にかけての具体的な開発の動きを知る貴重な資料が得られている。



第1図 調査区位置図 (1:5000)

Ⅱ 遺跡の概要

1 位置と地理的環境

地形・地質

伊勢湾に臨む臨海低平地である濃尾平野は、関東平野・大阪平野にならぶわが国有数の平野である。濃尾平野の西縁は養老山脈に、東縁は台地や段丘群の発達する更新統堆積物によって画されている。濃尾平野は、日本列島のほぼ中央部に位置するという地理的特徴や比較的温暖な気候から、古くから人々の社会生活環境の中心となってきた。とくに木曽川で境される愛知県側の沖積平野面は尾張平野とも呼ばれ、東西およそ25km、南北およそ40kmにおよぶ沖積低地面を形成している。大毛池田遺跡は尾張平野北部の一宮市大毛地区に位置する古代～中世の遺跡である。調査区全体はおよそ41300m²におよぶ面積を有する。大毛池田遺跡に隣接して古代～中世（8世紀～14世紀）の大毛沖積跡（愛知県埋蔵文化財センター、1996）がある。これらの遺跡の存在する一宮市大毛地区のおよそ2.5km北側には木曽川が流れる。

堆積物で埋めることが可能な空間のことを堆積空間という。構造運動や海水準（ユースタシー）の影響によって堆積空間は変化する。堆積空間がどのように埋積されるかは、相対的海水準変動との関係で求められ、相対的海水準変動が一定あるいはゆっくりと上昇している場合、堆積システムは沖側に前進する。新たな堆積空間は相対的海水準の上昇によって付け加わり、この場合堆積システムは上方に積み重なる。このように、海水準変動の上昇速度の違いによって堆積システムが前進するか、累積するかが決まるのである（酒井ほか、1995）。濃尾平野では、最終氷期最盛期以降の急激な海面上昇にともなって、内陸部まで海が入り込んでいたことがわかっている。とくに後氷期の海進（縄文海進）時には、現在の海岸線よりも20数kmも陸側（北側）へ進入していた（第2図）。このような濃尾平野の沖積面（木曽川デルタ）の堆積過程は①10000～8500年前の海進期（transgressive stage）、②8500～6500年前の海進期（transgressive stage）、③6500～5500年前の累積期（aggradational stage）、④5500年前～現在までの前進期（progradational stage）の4つのステージに区分されている（海津、1992）。④のステージにおいて濃尾平野の内湾は埋積されていく。言い換えれば、内湾を埋め立てるだけの多量の土砂が、この時期を通じて上流部から運ばれてきたわけである。今日われわれの生活基盤面となっている大部分は、縄文海進以降、木曽川デルタの海側（南側）への前進（プログラデーション）にともない、それまでの内湾を埋積する形で進行していった。

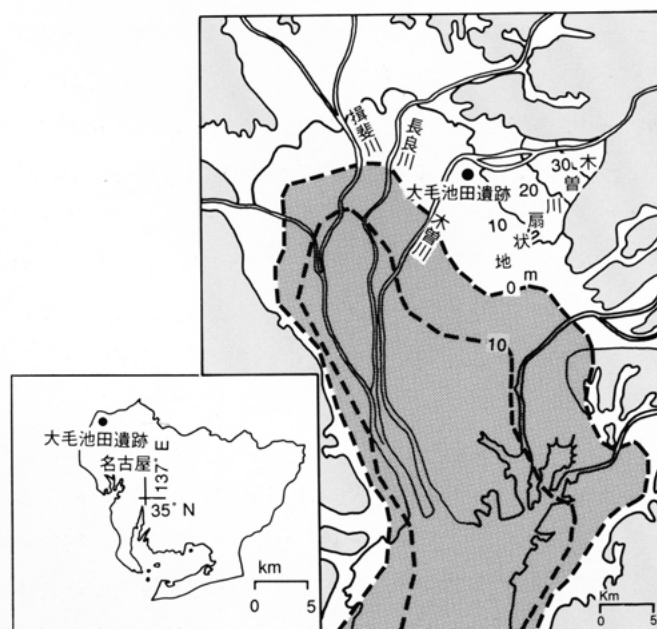
以上のような相対的海水準変動は、堆積プロセスの状態変化のほか、陸源碎屑物の供給量や供給プロセスにも変化をおよぼす。大毛池田遺跡の地理的位置から考えると、当地域は縄文海進以降、木曽川デルタに碎屑物を供給するバイパスの一部であった。一般に沖積平野は、①山麓につづく扇状地帯、②扇状地帯から三角州帯までの自然堤防帯、③海に近い三角州帯の3地帯に区分でき、濃尾平野の場合、犬山市付近より東側に扇形に広がる半

径およそ12kmの犬山扇状地（木曽川扇状地）が、標高およそ10mラインまで広がっている。大毛池田遺跡の調査区が設定された現地表面の標高はおよそ9.0mであり、前述した区分帯でいえば、扇状地帯が自然堤防帯へと移り変わる境界部付近にあたっている。ところで、扇状地においては土石流（debris flow）、掃流（traction）的な土砂の運搬・堆積がおこなわれる。とくに上流からの土砂の供給量が多い場合、流路内の河床面には厚い堆積物が累積し、平野面よりも高くなるいわゆる天井川（raised bed river）を形成する。天井川化した河川は、増水時に破堤や洪水氾濫などを引き起こす危険性をもっているが、強固な堤防で流路が固定されている今日、洪水を経験する機会は極端に少なくなった。しかし、土木技術が今ほど発達していなかったはるか昔においては、天井川化した河川流路の破堤や氾濫が今よりも高い頻度で生じていたものと思われる。当地域には古文書から、犬山扇状地上を扇頂付近から北東―南西方向に幾筋もの河川が流れていたことがわかっており、それらは東から一之枝川・二之枝川・三之枝川・黒田川と呼ばれていた。犬山扇状地を流れ下るこれらの河川は、扇央部での破堤などによって流路が変われば、下流側でもその度ごとに流路は他の場所へジャンプしたことであろう。扇状地帯と自然堤防帯の漸移帯にあたる大毛池田遺跡の位置は、河川流路の変遷と上流部から運ばれる大量の土砂によって、ときに洪水などに悩まされつつも、自然堤防といった微高地上に住居を、低平な場所に水田という現在みられるような明瞭な土地利用の差を生み出した。

（鬼頭 剛）

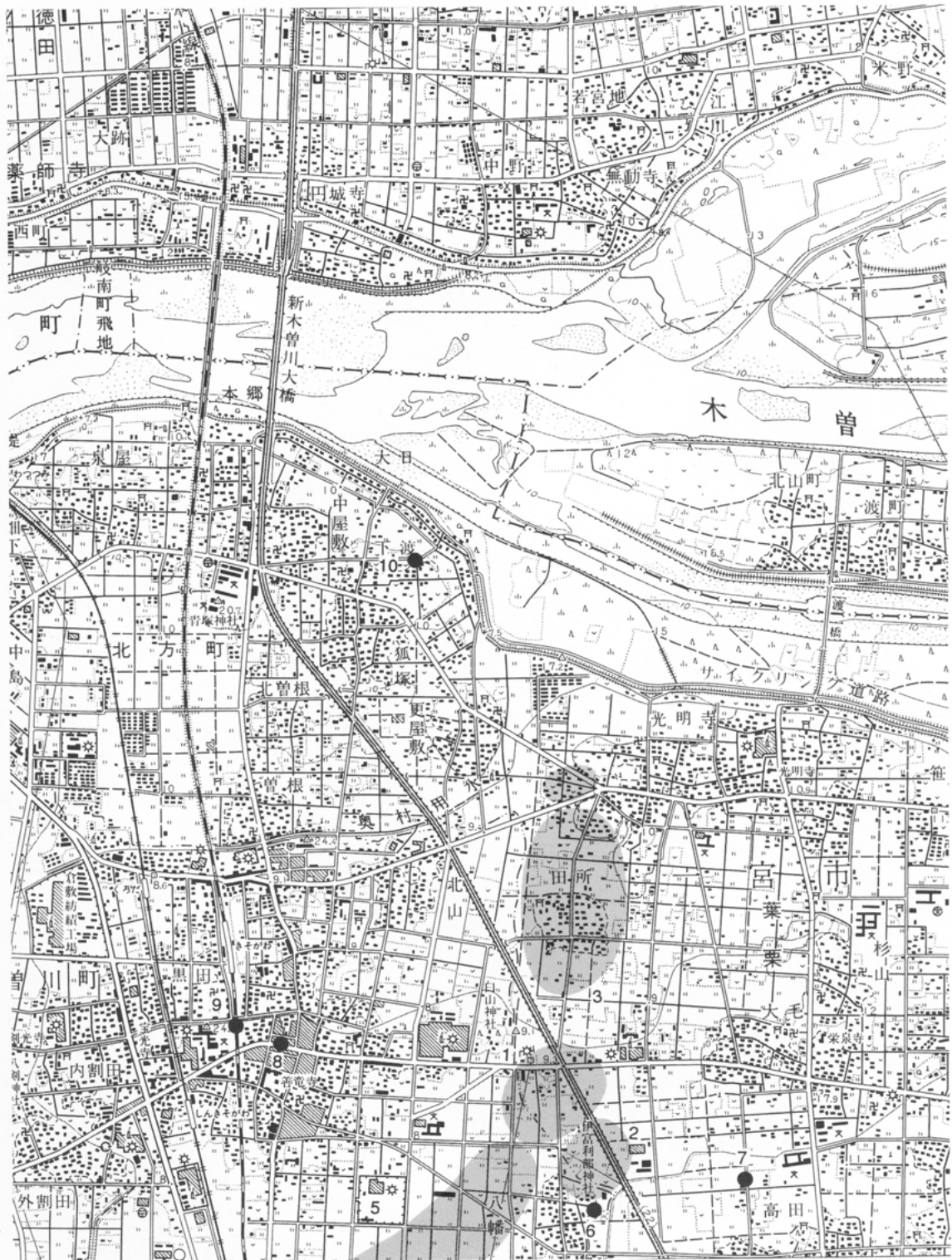
参考文献

- 愛知県埋蔵文化財センター，1996，愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第66集「大毛池田遺跡」，260 p.
 酒井哲弥・斎藤文紀・増田富士雄，1995，シーケンス層序学入門，地質学論集、45、1-14.
 海津正倫，1992，木曽川デルタにおける沖積層の堆積過程，堆積学研究会報，36、47-56.



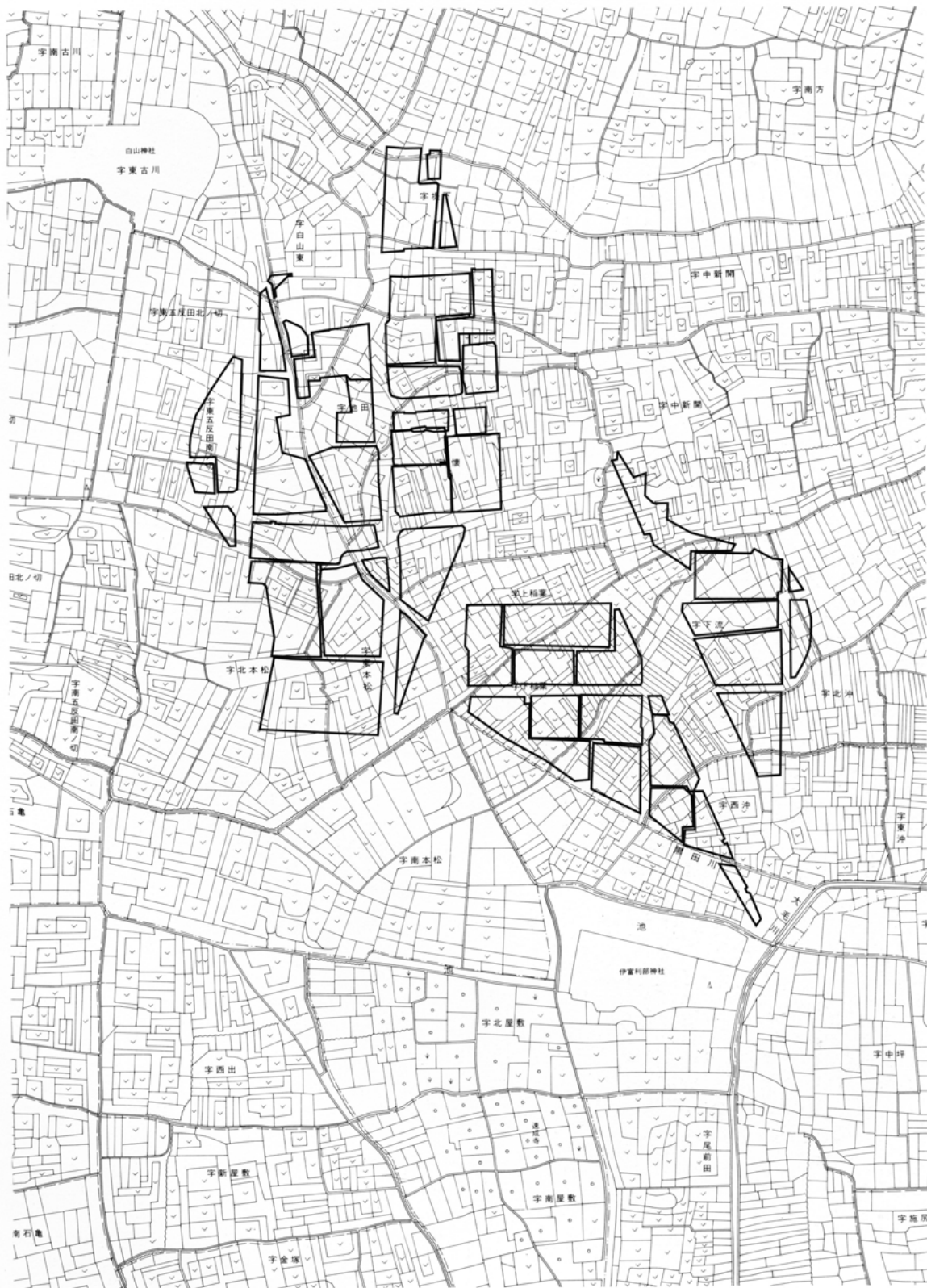
第2図 大毛池田遺跡の位置および約6000年前頃の高陸分布
 （海津（1992）を一部改変）

2 歷史的環境



1. 大毛池田遺跡 2. 大毛沖遺跡 3. 田所遺跡 4. 北道手遺跡
5. 門間沼遺跡 6. 伊富利部古墳 7. 高田遺跡 8. 善光寺跡
9. 黒田城跡 10. 下渡遺跡

第3図 周辺遺跡分布図 (1:25,000)



第4図 大毛池田・大毛沖遺跡調査区位置図
(1:5,000 明治17年地籍図をもとに合成)

第1表 大毛池田遺跡関連年表

5C後半	葉栗郡に凡海部・敢石部・石作部・伊福部などの部が設置される。	古代溝群の掘削が はじまる
7C中頃	小規模な古墳が造られ、追葬が盛んに行われる。（浅井古墳群）	
672（天武元）	壬申の乱。尾張の2万の兵が大海人皇子方に参加。	
684（天武13）	天武天皇、尾張・伊賀・伊勢・美濃に対し、以降調年に役を役年には調を免除することを定める。	
7C後半	このころから奈良時代にかけて当地域に黒岩廃寺・東流廃寺・音楽寺が建立される。	
706（慶雲3）	笠朝臣麻呂、美濃守に任ぜらる。この前後に「美濃」が用いられる。	古代溝E・Fの堀削
720（養老4）	老洞・朝倉・太田古窯で「美濃」刻印を有する須恵器が焼かれる。 「尾張國葉栗郡若栗□□里敢石部赤猪」と記された年米納入木簡が平城宮跡より出土。	
752（天平勝宝4）	葉栗庄初見。東大寺領	
769（神護景雲3）	鵜沼川（現木曾川）大洪水。河道没して葉栗・中島・海部郡の百姓の田畑に甚大な被害を及ぼす。（続日本紀）	
775（宝亀6）	伊勢・尾張・美濃の河川、台風により氾濫。百姓300余人、牛馬1000余匹死没。	
866（貞観8）	広野河事件おこる。これより以前、広野河（木曾川）の流路尾張側に変更する。このため旧河道掘削の作業中、美濃國各務郡大領各務雄・厚見郡大領各務吉宗等、兵衆700余人を率いて襲来し、工事を妨害。尾張の郡司、役夫を殺傷。	
12C中葉	下野国那須郡深栖を名字の地とする深栖源氏の一族（尾塞氏）、尾塞・泉・大毛等の尾張北部の地を領有。	中世期集落の発生
1191（建久2）	「長講堂領課役注進状案」に上門真庄の名が現れる。	
1192（建久3）	一条能保、亡妻の所領平家没官領である松枝領を娘全子（西園寺公経妻）に譲渡する。	
1220（承久2）	松枝保初見。白河伯王家領「…東限門間庄、西限玉井庄、南限中島郡、北限黒田河…」	屋敷地区画の成立
1221（承久3）	承久の乱。割田領主開田氏、京方について戦死する。	
1325（正中2）	五年に限り延暦寺に給付された上門真庄領主職、慈光寺仲経に返付される。	
1338（暦応1）	北畠顕家、下津・黒田で足利軍を破る。	
1350（観応1）	土岐周済房、美濃で挙兵する。土岐頼康、義詮・師直の援軍により鎮圧する。観応の擾乱始まる。水野致秋、直義派として高師直・師泰と黒田宿に戦う。甲賀郡の儀俄・高山氏ら直義派（南朝）として蜂起する。	
1351（観応2）	土岐頼康、尾張守護となる。六角氏頼、八幡の戦いに破れ直義派に変わる。その後、氏頼は出家し、六角氏は千寿丸が継ぎ山内定詮が後見となる。	
1352（観応3）	足利尊氏、直義を毒殺。観応の擾乱終わる。義詮、尾張・美濃・近江に半済令を出す。近江の宛所は六角千寿丸であり、この頃千寿丸は守護に就任する。儀俄知俊、この頃蒲生彦六郎とともに蒲生郡の郡奉行となる。	
1353（文和2）	南朝軍京都に進撃する。儀俄知秀、山内定詮のもとで戦い戦死する。定詮・千寿丸、義詮とともに近江を退く。	
1375（永和1）	六角高経、儀俄氏秀の儀俄庄地頭職・上門真庄本加納等を安堵する。	

1382 (永徳2)	土岐氏、神戸隠岐入道に高山二郎の松枝庄への干渉を停止させるよう命ずるがかなわず、翌年にかけて室町幕府、三度にわたりの件の施行状を出す。	
1385 (至徳2)	義満、儀俄庄下司職等を安堵する。	
1388 (嘉慶2)	土岐康行、家督をめくり満貞と黒田で戦う。	
1392 (明徳3)	六角満高、儀俄氏秀に守護代官職を与える。	
1394 (応永1)	今川仲秋、中賀野修理亮に給人の如意庵領(松枝庄)への干渉の停止を命ずる。	
1397 (応永4)	今川仲秋、斉藤仲善に斉藤三郎左衛門尉の松枝郷への干渉を停止させるよう命ずる。	
1407 (応永14)	この年までに上門真庄領主職慈光寺光仲と日野町資藤に折半される。	1398 (応永5)
1409 (応永16)	白川業定王、割田郷を如意庵に売却する。	剣光寺が現在地に再建される
1421 (応永28)	青蓮院児に給付された上門真庄領主職、慈光寺家に返付される。	このころには居館
1444 (文安1)	美濃守護代斉藤氏、同富島氏と戦う。土岐氏は斉藤氏を、六角氏は富島氏を支援し、美濃国混乱する。	方形大区画成立
15C 後半	兼松氏、越前国から島村に移り住む。	
1467 (応仁1)	応仁の乱始まる。	
1475 (文明7)	織田敏定、東軍として尾張に侵攻する。斉藤妙椿これを支援する。	
1478 (文明10)	敏定、尾張守護代に任ぜられ清須に本拠を構える。	
1479 (文明11)	敏広・敏定の間に和議が成立する。清須・岩倉両織田氏による尾張分割支配が始まる。	
1487 (長享1)	六角氏の寺社領横領を理由に六角征伐始まる。室町幕府、六角氏領上門真庄を近江国横溝郷の替え地として臨川寺に与える。	
1489 (延徳1)	足利義尚鈎の陣で病没し、第一次六角征伐終わる。幕府、寺社領の返還を条件に六角氏を赦免する。六角氏家臣寺社領返還を拒み、六角高頼出家して永源寺に籠る。	
1491 (延徳3)	足利義材、第二次六角征伐を開始する。	
1494 (明応3)	高頼、美濃の斉藤利国の援軍により幕府側の山内就綱・延暦寺軍を撃退する。幕府、六角征伐を断念する。	1492 (明応1)
1496 (明応5)	元頼派に細川・六角・北畠、政房派に京極・浅井・朝倉の援軍が来て、城田寺合戦が行われる。元頼派破れ、美濃守護土岐氏も没落する。	法蓮寺創建される
1490年代	五藤氏、相模国多摩から尾張に移り黒田城主になる。	
1517 (永正14)	斉藤利良、守護政房と戦いこれを破る。永正の大乱。	
1527 (大永7?)	山内氏、尾張に移住する。	1556 (弘治2)
1532 (天文1)	土岐二郎、守護所を枝広に移す。	和田河内守八幡宮
1535 (天文4)	長良川氾濫し、枝広から井口にかけて大被害。美濃に内乱起きる。長井新九郎(斉藤道三)、土岐二郎を追放し土岐頼芸を国主に据える。	(伊富利部神社)を現在地に造営する
1540ころ	山内氏、黒田城主となる。	1558 (永禄1)
1582 (天正10)	澤井雄重黒田城主になる。	浮野合戦。白山社、
1585 (天正13)	「織田信雄分限帳」ができる。泉の河端の知行主は尾塞掃部。大毛・黒田等の名はない。(黒田城主沢井氏の知行地か?)	宝光寺焼失する
		1576 (天正4)
		善龍寺現在地に移建される

3 基本層序

層序

第6図は大毛池田遺跡の模式層序である。層序は概ね7つのユニットに区分される。下位の堆積物より順を追って述べる。

7. 中粒～極粗粒砂層

層相：粘土やシルトを基質として含まない白色～灰白色を呈する砂層である。粒径は中粒～粗粒であり、まれに小礫を挟む。板状 (tabular) なフォアセット (foreset) 葉理が明瞭であり (第5図)、ひとつのセットはおよそ50～100cmの厚さをもつ。基質を含まないこと、斜層理が明瞭であることから河川流路内の堆積物である。斜層理から求められる古流向は北から南ないし北東から南西方向を示す。

6. 緑灰色シルト～粘土層

層相：緑灰～灰緑色を呈するシルトないしは粘土からなる層である。下位の中粒～粗粒砂層とは明瞭な境界をもって接する。まれに上位に堆積する黒色～黒褐色の粘土層のブロックを含み、上位層との境界は不連続で漸移的である。厚さ数mmの平行葉理の確認される場合もあるが、ふつう塊状で堆積構造はみられない。河川流路 (channel) に近い氾濫原 (流路縁辺部) の堆積物である。

5. 黒色粘土層

層相：黒色～黒褐色を呈する主に粘土からなる層である。塊状・均質で堆積構造は確認されない。本層の下位層である緑灰色シルト～粘土層と、上位層である灰色～紫灰色粘土層との境界は、微少な凹凸面をもち両層のブロックを中部に含むところもある。本層はその層相から後背湿地堆積物と考えられる。大毛池田遺跡、古墳時代前期の水田を形成する主要な堆積物である。

4. 灰色～紫灰色粘土層

層相：灰色～紫灰色を呈する粘土からなる。下位の黒色～黒褐色粘土層と同様に、塊状・均質で堆積構造はみられない。下位の黒色～黒褐色粘土層とは、その色調から区別されるが、境界部に微少な凹凸面をもって重なっている。上位の黄褐色極細粒砂層とは一部で明瞭な、一部で漸移的な境界をもつ。赤褐色～橙色を示す斑状構造がみられる場合もある。本層もその層相より後背湿地堆積物と考えられる。古墳時代前期の上層水田を構成する主要な堆積物である。

3. 黄褐色シルト～極細粒砂層

層相：褐色～黄褐色を呈する砂を主体とするシルト～極細粒砂からなる。下位層の灰色～紫灰色粘土層との境界面は、漸移的に変化するところや明瞭なところなど一定せず、軽微な凹凸面をもって境される。上位層である褐色極細粒砂質シルト層との境界面は不明瞭であり漸移的に変化する。初生堆積構造としてアンギュラー型のフォアセット葉理が確認できるところもあるが、全体に堆積構造の残りは悪く、塊状を呈するのがふつうである。側方へは不連続でレンズ状堆積を示す。層厚は最大10cmのところや、調査区によっては本層の上位層が直接4層の灰色～紫灰色粘土層と癒着 (アマルガメイト) する。砂の部分では下位よりさらに3つのユニットに分けられる。ユニット5aは灰色シルトと極細粒砂との薄互層であり、平行葉理が卓越する。ユニット5bは細粒砂層であり、基質を含まない砂で、一部タビュラー型の斜層理が確認される。ユニット5cは極細粒砂層と植物片を含んだシルト層との互層で、明瞭な堆積構造はみられない。本層はその層相と下位層を削除

した痕跡がみられることから、洪水により短期間で埋積したものである。

層相：褐色～黄褐色を呈する主にシルトからなる層である。砂を含む割合は調査区ごとに
2. 褐色極細粒砂質シルト
に変化し、砂質シルト～シルト質細粒砂までの幅をもつ。全体に塊状・均質で堆積構造は
全くみられない。本層が大毛池田遺跡、中世の主たる遺物包含層である。河川流路の変遷
にともない微高地化し、そこに人の生活面が形成された。

層相：褐色～黄褐色を呈するシルトからなる層である。ときに中粒砂を狭む。本層は戦
1. 褐色中粒砂混じりシルト
国時代の遺物包含層であり、後世の人為活動によるためか堆積構造はみられず、塊状・均
質な堆積物である。水田などの現世堆積物へ移行していく。



第5図 94Aa 南北トレンチ西壁断面図

標高	柱状図	ユニット	色調	堆積物	堆積構造	堆積環境	遺構	時代
9.0m								
		1	褐色	中粒砂混じりシルト	見られない		区画溝	鎌倉～戦国期
		2	褐色	極細粒砂質シルト	見られない		住居・溝	奈良～平安前期・室町
8.0m		3	黄褐色	極細粒砂～シルト	フォーセット葉理（汜濫流）	河川流路のジャンプ（近傍）により微高地化	水田の埋積	
		4	灰色～紫灰色	粘土	塊状・無層理		上層水田	古墳前～中期
		5	黒色～黒褐色	粘土	塊状・無層理		下層水田	
		6	緑灰色	粘土～シルト	塊状、まれに平行葉理	河川流路のジャンプ（遠方）により後背湿地化		
		7	灰白色	粗粒砂	平板状斜層理	河川流路		

第6図 大毛池田遺跡模式層序

Ⅲ 遺構

1 遺構の概要・時期区分

大毛池田・大毛沖遺跡（以下沖遺跡）一帯を統合的にとらえることを目的に、古代～中世末期まで、基本的に『大毛沖遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第66集）報告での区分を踏襲する。古墳時代遺構群については大毛池田遺跡報告から新たに時期区分を加える。

古墳時代

大毛池田遺跡の古墳時代は水田の構築から始まる。基本層序第5層水田の出現から展開、第4層水田の開始と洪水による埋没過程が確認できる。第4層水田は洪水による埋没直前の様相を示すものであり、田面を覆う砂層直下で出土した土器群は一括性の高いきわめて良好な資料となっている。3世紀から4世紀後半にかけて、水田耕作地帯、すなわち生産域として機能したものと思われる。なお、水田の時期決定は調査域南部で検出した微高地上の遺構群と包含層出土遺物による。水田耕地は放棄された後6世紀後半にいたるまで明確な遺構はみられない。

古墳Ⅰ期 基本層序第5層で検出される下層水田が出現する時期である。出現期の水田の規模、範囲は明確でないが、埋没後の遺構群に先行する出土遺物から廻間Ⅰ式末葉が想定できる。第5層水田が平面的に拡大し、大規模に展開するのは廻間Ⅱ式初頭～廻間Ⅲ式の時期と思われる。

Ⅱ期 第4層水田が構築され耕作される期間。廻間Ⅲ式末葉～松河戸Ⅰ式の時期が相当する。

Ⅲ期 第4層水田の埋没時期である。第4層を2～10cmの厚さのシルト・砂層が覆う。この直下で検出した土器群はほぼ完形に近く、洪水によって短期間に埋没したものと思われる。洪水直前の時期を示す資料である。

古代

大毛池田遺跡で古代の遺構として明確に捉えられるのは、古墳時代水田を覆った厚い洪水性の堆積物の上位からであり、円墳、竪穴住居跡、土壙、溝等が展開する。最も注目されるのは幅5m以上の大型の溝群及び旧流路である。特に旧流路は、当概時期の大毛池田遺跡・沖遺跡の遺構群を隔絶するものであり、以降の河道の変遷過程が沖遺跡調査範囲内で追跡できる。古代に属する出土遺物の大半がこれらに含まれるため、出土資料は一括性に乏しく、詳細に遺構の変遷を示すことはできない。大毛沖遺跡との関連をとらえる意味で以下の区分を用いる。

古代Ⅰ期 6世紀後半～7世紀代の時期。調査域東南端で検出した旧河道、これに並行する溝A、B、幅6～8mの溝C、Dがある。沖遺跡では7世紀後半代が中心であり、造付カマドの竪穴

住居（大毛沖93A）などが出現する。

8世紀前葉から中葉に相当する。「美濃」刻印を有する須恵器片を含む幅8m前後の溝E、Fが、I期の溝群の西側の位置に並行して掘削される。大毛沖遺跡では旧河道が機能し始める。 II期

8世紀後半から9世紀代を中心とする。溝E、Fは再掘削されるなどして上層が依然として機能していた可能性がある。また溝E、Fの廃絶期には溝西側で居住域A、Cが展開する。大毛沖遺跡では8世紀後半、河道に護岸施設が築造され、9世紀後半には河道右岸の遺構が消滅する。 III期

10世紀から11世紀前半の時期。大毛池田遺跡では明確な遺構は検出されず、中世集落の出現まで断絶がみられる。大毛沖遺跡でも旧河道内より遺物が比較的多く出土するものの、遺構数が減少する衰退期にあたる。 IV期

鎌倉時代～室町時代末期を中世ととらえ、0期、I～IV期に大別する。

中世

11世紀後半から12世紀前半、生産地遺跡の窯編年では藤澤良祐氏編年^{*1}の第3形式と第4形式（古）に相当する。消費地となる尾張部集落遺跡で遺構がほとんどみられない時期であるため、窯式編年を主軸とした時期区分の意味で「0期」の名称を使用する。大毛池田遺跡中世集落の初現であり、遺構は94FSD17、95ESE01など調査域の北西部に散見できる。 中世0期

藤澤編年第4形式（新）～第5形式に相当する。大毛池田・沖遺跡ともに遺構数が増加する。大毛池田遺跡では大型の井戸、土坑が散漫に展開し、区画溝を伴う屋敷地が出現する。ただし、溝による方形区画は明瞭でない。これらは3期に細別でき、Ia期は第4形式（新）、Ib期は第5形式（古）、Ic期は第5形式（新）が各々相当する。 I期

藤澤編年第6形式～第7形式に相当する。大毛池田・沖遺跡ともに遺構数が一挙に増加し、大毛池田遺跡では区画溝を方形にめぐらす屋敷地が出現する。大毛沖遺跡においては4区画の屋敷地が想定される。2期に細別でき、IIa期は第6形式、IIb期は第7形式が相当する。 II期

藤澤編年第8～第10形式が相当する。大毛池田遺跡では南北方向にのびる中世溝A_{*2}を基本軸とした新たな屋敷地区画が整備され、調査域東半部分では一町四方もの大型方形区画が建設される。逆に大毛沖遺跡では大毛池田遺跡に近い北辺の屋敷地（大毛沖94H）以外で遺構数が減少し、衰退が始まる時期である。 III期

藤澤編年第11形式～大窯II期が相当する。IVa期は第11形式あるいは古瀬戸後期IV古、IVb期は古瀬戸後期IV新～大窯I期が相当する。大毛池田遺跡ではIVb期には大型方形区画が廃絶し、同位置には小規模の区画溝、土坑がわずかに展開する。これより東方100mの地点、大毛沖遺跡94H区で屋敷地区画が確認される。また、中世溝Aの西側の東西方向の道が整備され、周辺に井戸、土坑が展開する。 IV期

1) 藤澤良祐 1994 「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要3』三重県埋蔵文化財センター

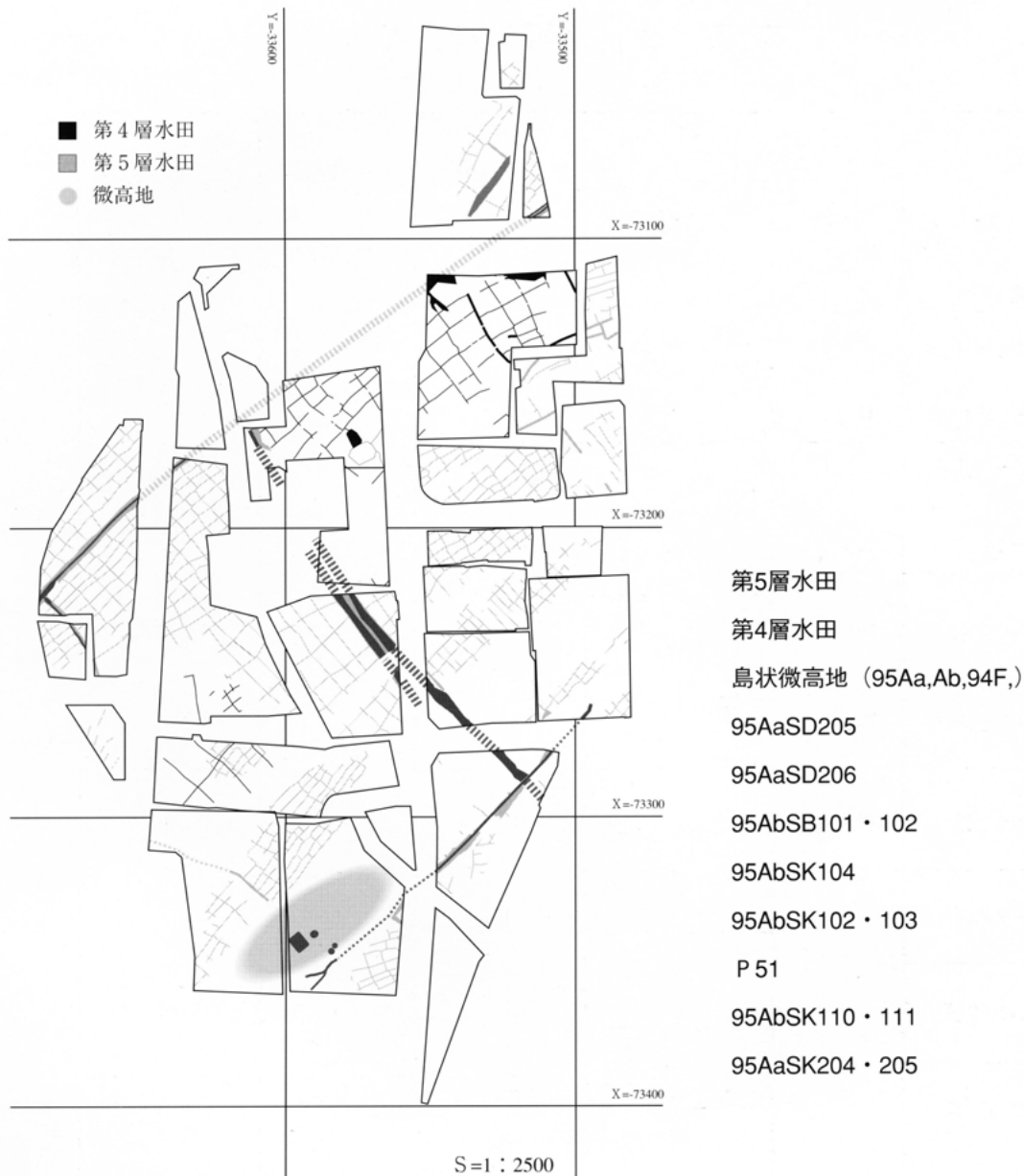
2) 現在の一宮市と栗原郡木曽川町の境に沿ってのびる。境界は現状では側溝程度の水路となっている。

第2表 中世期編年対比表

尾張型			東濃型	古瀬戸	大毛沖・池田
瀬戸	猿投	常滑			
1100	第3型式	古Ⅶ1新			0期
1150	第4型式古	Ⅶ2古	1130 I a		
			1150 I b		
	第4型式新	Ⅶ2新	1175 2	谷迫間	I a期
	第5型式古	Ⅶ3古	1190 3	浅間窯下丸石3	I b期
1200	第5型式新	Ⅶ3新	1220 4	窯洞	I c期
	第6型式	Ⅷ1	5	白土原	Ⅱ a期
1250	第7型式	Ⅷ2	1250 6a	明和	Ⅱ b期
			1275		
1300	第8型式	Ⅷ3	1300 6b	大畑大洞	Ⅲ a期
	第9型式		7	大畑大洞新	Ⅲ b期
1350			1350 8		
1400	第10型式		1400 9	大洞東	Ⅲ c期
1450	第11型式		1450	脇之島	Ⅳ a期
				生田	
				大窯 I	Ⅳ b期

藤澤1994・『大毛沖遺跡』報告書ほかに補足改変

2 古墳時代



第7図 古墳時代主要遺構配置図

大毛池田遺跡の遺構群は、主に堆積層序と検出面をもとにⅠ期～Ⅲ期に区分することができる。

古墳Ⅰ期 基本層序第5層；暗褐色～黒色粘質土層で確認される遺構群 水田跡

古墳Ⅱ期 基本層序第4層；上位および包含層中で確認される遺構群 水田跡、溝、井戸、土坑

古墳Ⅲ期 基本層序第3層；の堆積開始時期をもってⅢ期とする。明確な遺構はないが、第4層直上で埋没時期を示す遺物群を検出。

93年度 A区の調査のテスト・トレンチ土層断面で、標高8.0mのレベルで平行堆積する粘土層がみられた。粘土層は、灰褐色（第4層）ときわめて暗い黒褐色（第5層）の上下2層からなり、層厚は灰褐色粘土層で10cm～25cm程度であり、黒褐色粘土層は若干薄く平

水田跡調査の経緯と概要

均して8cm程度であった。特に黒褐色粘土層は側方への連属性も高く、塊状、均質で堆積構造は確認できない。黒褐色粘土層以下は自然堆積層であり、黒褐色粘質土層生成の時期が弥生時代に遡る可能性も想定されていたため、水田耕作土確認の意味でイネ・プラント・オパール定性分析を行った。両層で一定量の検出があり、さらに精査を行った。それまで愛知県内では古墳時代に遡る水田遺構の調査例がなく、疑似畦畔、被覆土、作土、下層土 *₁ といった埋没水田の構造に関する調査員の認識も不十分であり、検出面の設定にやや混乱を招いたこともあったが、畦畔、水路など水田構造の一端が明らかになった。また、若干の分布がみられた土器片から廻間Ⅲ期後半の時期を比定した。

94年度 調査域北部のA区、F区においてこれまでの異なる層位で水田区画（畦畔）を検出し、上下2層の水田跡について各々被覆土、作土、下層土という水田構造を分析する資料が得られた。

95年度 隣接する門間沼遺跡*₂においても同時期の水田遺構が確認されたほか、大毛池田遺跡では水田の時期決定に有効な一括資料を含む遺構の集中域を確認した。

古墳Ⅰ期

基本層序第5層で検出されたのは、水田畦畔と溝である。調査範囲内では、以後削平により破壊された部分を除いて、ほぼ全面で水田畦畔が認められる。ただし、94N、95A区の一部では水田化されなかった範囲がみられる。*₃ほか水田に付随する施設として水路と思われる溝4条がある。

1) 水田基盤

1. 土壌（被覆土・作土・下層土・地下水位）

被覆土

第5層直上に堆積する第4層灰色～灰褐色粘質土層がこれにあたる。若干のシルト成分を含んだ塊状、均質な粘土層である。層厚は10cm～厚いところで20cmあり、下位の黒色粘土層とは高さ数mm～1cm程の微妙な凹凸面をもって境面をもつ。また、黒色粘土層上位で高さ数cmの台形状の起伏が認められる。

作土

第5層水田の作土層については大半は既に確認することはできない。第5層水田の疑似畦畔が微小な高まりとして検出される場合のみ、最下層の土壌がわずかに残っている可能性がある。実際には経年の水田耕作による土壌の堆積と連続した耕起により大半は上層水田の作土となっており、平面的な抽出は困難である。

下層土

各調査区で普遍的に確認される第5層黒色～黒褐色粘土層がこれにあたる。層厚は平均して10cm程度であり、砂成分を含まず堆積構造がみられない塊状均質な粘土層である。非常に濃い黒味を帯び、下位の第6層緑灰色シルト～粘土層とは明瞭な色彩の差から区別される。軽微な凹凸をもって境されるものの、水田耕作によるいわゆる「巻あげ痕」はみられず、黒色土層下位の一部が緑灰色シルト層中にとりこまれる部分は網目状を呈している。部分的に管状の斑鉄の集積が認められる。

地下水位

下層土では表面水型水田（乾田）に特徴的な酸化マンガンの集積が確認される。*₄

2. 水田遺構の認定・検出方法

イネ・プラント・オパール（P・O）は第5層上位～第4層の間で連続して検出される*₅。

採取箇所により若干のばらつきがみられるが、分布のピークは第5層直上の層位に認められる。ここに水田耕作の可能性が想定されるが、畦状の起伏が確認できるのは黒色粘質土層の上部である。これを下層土に残された擬似畦畔Bとし、この面で平面精査を行った。実際には第4層を10～15cm程度残し、以下慎重に灰色粘質土の除去を行った。第5層による擬似畦畔頂部が確認できる高さで一旦止め、最終的には第4層すべてを除去した。

3. 田面起伏とその成因

周辺の自然地形では北東が高く、南西にむかって低くなる。田面の傾斜も基本的にはこれに従う。南北200m、東西150mの調査範囲内で40cm程度の傾斜が認められる。さらに微小な単位では部分的に一筆内でも最大15cmの差が生じる場合もあり、実際には湛水および「かけ流し」給排水に適さない水田区画が存在することになる。成因は、埋没以降の地震や調査時の重機使用による影響などが考えられる。

畦の走行は北東－南西方向を基本とし、断面観察で畔は台形あるいは半円形のわずかな突出部として認められる。畦は幅20cm、残存高5cm程度のもの、高さ25cm、幅80cm程度のやや規模の大きい大畦の2タイプがある。推定される旧地形の傾斜は、北東が高く南西に低くなっており、北東－南西方向の基本ラインは等高線にたいして直交方向に設定されていることになる。水田区画は平均して8～10㎡であり、自然地形の起伏に左右されるものの、ほぼこの規模の区画を特徴とする。畦畔の補強材などは検出されなかった。

大畦を伴い規模、形状は95GSD201と同様である。ただしここでは周辺の畦畔の走行と一致せず、大畦に対して小畦は直角に取り付かない。水田開田以前から存在した水路を改修して利用したものであろうか。この調査区よりのびる溝に95AbSD206がある。

調査区を北西～南東にのびるSD21とこれに直角方向のSD19,20がある。いずれも大畦を伴い、いわゆる「畎畝」と呼称されるものである。水田区画の畦畔走行を規制する。給・排水路のいずれかは不明確であるが、旧地形より北西より南東に流れていたと思われる。水口などは不明。

基本層序第4層で検出された遺構には、水田畦畔、溝、井戸、土坑、ピット、堅穴住居がある。水田跡は94A、F、G区、95A区の一部で確認された。また、その他の遺構群は95A区南端部分で確認された島状の微高地上に展開する。

II) 水田形態
畦畔と水田の
遺構

溝95BSD301

溝93CSD21,
93B19,20,95GSD201

古墳II期

1. 土壌（被覆土・作土・下層土・地下水位）

基本層序第3層がこれにあたる。洪水による堆積層と思われ、調査域全体で同様の堆積状況が認められる。下位は層厚1cm程度の細粒のシルト層、中位以上は細粒砂層との薄互層を形成している。

第4層上位がこれにあたる。第3層にパックされた埋没水田の景観を呈する。

第5層および耕起されなかった第4層の下位がこれにあたる。

I) 水田基盤

被覆土

作土
下層土

2.水田遺構の認定・検出方法

イネP・Oは第4層は上位から下位まで検出されており、ここでの耕作を想定した。ただし分布の密度は下位で最も高い。基本的に第3層をすべて除去していく過程で畦畔、作土面を検出した。

3.田面起伏とその成因

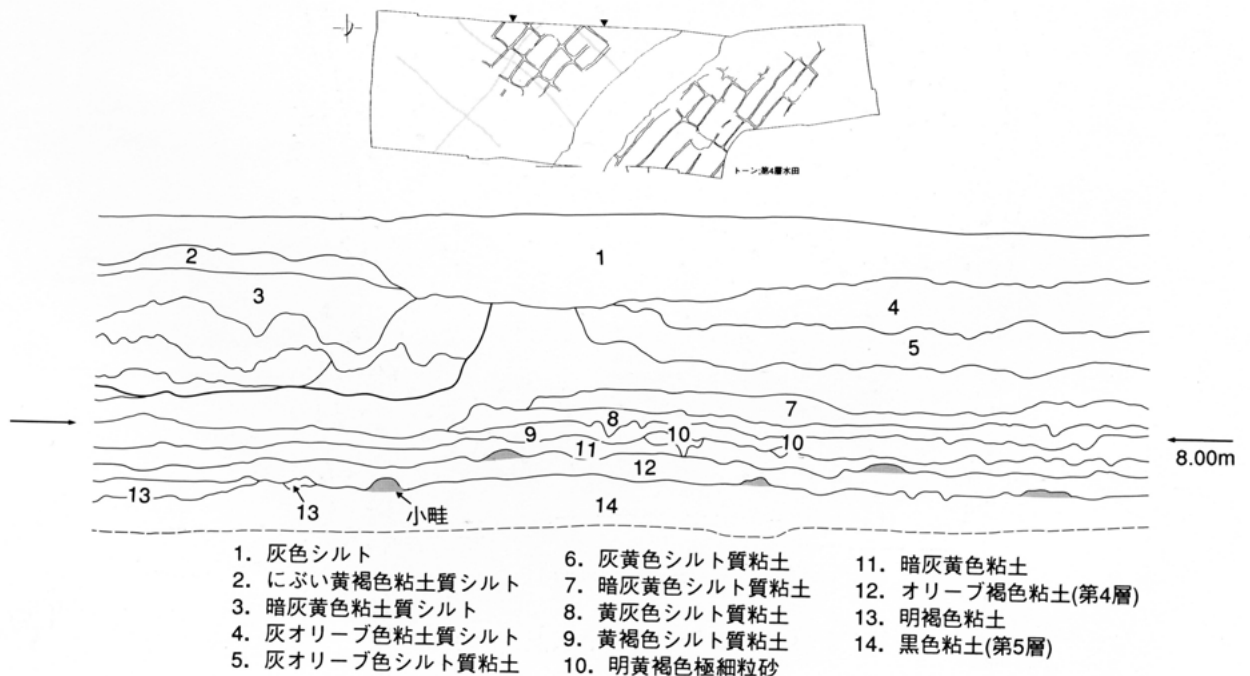
94Ab区では、調査区東側の一角で大畦に囲まれた単位を検出した。これの西側水田面とはレベル差20cmが認められ、大畦の西側は畦畔のラインに沿って浅い窪地を形成している。また、調査区中央で北西—南東方向にのびる畦周辺が最も高く、この地点では一筆内での比高差が25cmにも達する。調査区西側の水田区画への水まわしについては部分的に北西—南東方向を想定できるであろうか。

畦畔と水田の遺構

畦畔は耕作時の状況がある程度残していると思われる。後世の堆積による土層の圧密化が想定されるが、小畦は幅20cm、高さ5cm前後であり、断面は半円形または三角形を呈する。94Ab区で検出された大畦は、幅70cm、高さ25cmあり、94Aa区壁面で一部確認されたものは高さ40cmを測る。畦畔の走行は基本的に第5層と同様であるが、小畦で囲まれる水田区画は平均して20㎡あり、第5層水田に比較して大きい。94G区の一部では第4層、第5層の上下の水田の両層が検出されたが、これによると小畦の規模においては第4、5層の畦畔の位置は全く一致していないことがわかる。なお95A区では上下層水田の大畦をほぼ同

II) 水田形態

足跡位置で確認している。水田面表層では、ヒトの足跡、鳥類、偶蹄類、奇蹄類など動物の足跡が検出される。また、94Ab区では水田面全体で径7cm程度の砂が埋積した小土坑が分布する。断面観察ではそれぞれ形状は一様でなく、深さは検出面から5cm前後であった。水田一筆あたり500個以上分布し、稲株痕とも思われたが、根跡など断面観察では確認できなかった。



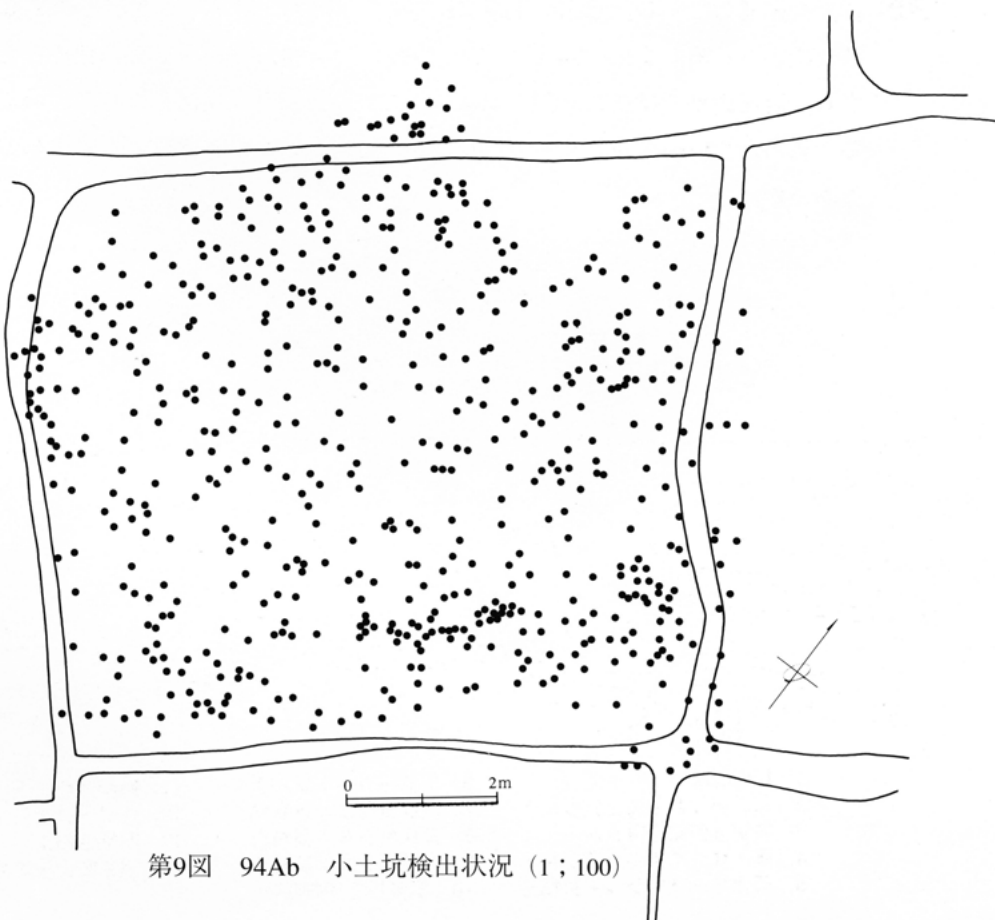
第8図 94G 北壁土層セクション (縦1;40/横1;100)

水田造成されず、削り残されたような小規模な微高地が存在する。95Aa区の南東端～水田以外の遺構群
95Ab区南西にかけての範囲では、下層水田面で推定50×30mの帯状に広がる微高地、非水
田高地 島状微高地
94F,95Aa,95Ab
田地帯が広がり、ここでは第5層；黒色粘質土層と第4層；灰色粘土層が攪拌を受け、層厚
40cmの暗褐色粘土層を形成している。周辺水田域第5層上端より50cm高く、第4層上端よ
りもさらに30cm高い。井戸、土抗多数が分布し、大量の土器を含む遺物包含層を形成し
ている。表層、すなわち第3層の砂層に覆われた層位からは台付甕、高坏、丸底壺など検
出された。松河戸Ⅱ式後半段階に属する資料のまとまりがみられる。

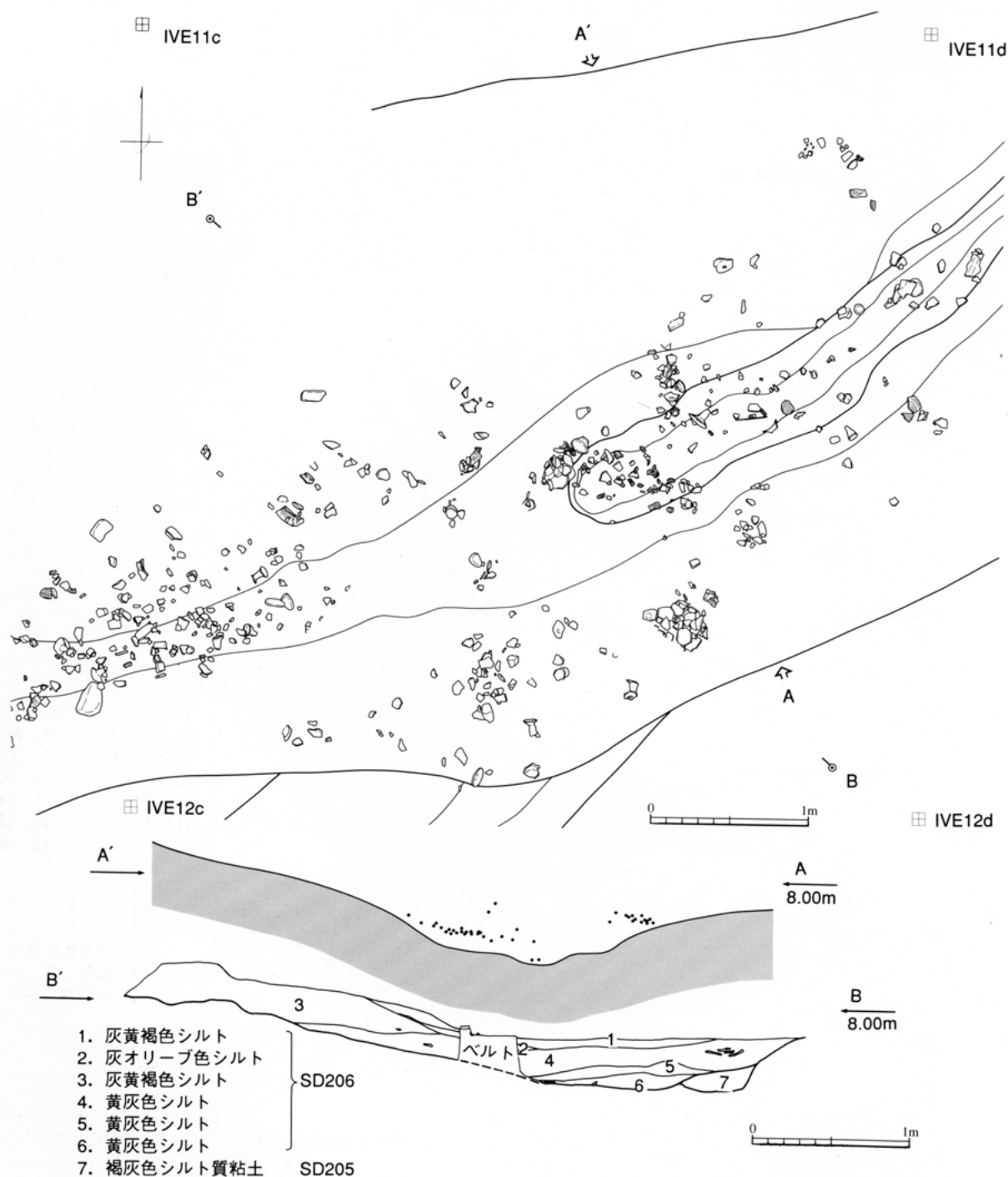
古墳時代遺物包含層を形成する微高地に沿って南北方向に延びる幅60cm、深さ11cmの溝95AbSD205
溝であり、北端が途切れて一部がSD206に切られる。遺物は大半が細片であり、微高地側
から廃棄された状況を示している。

95B区では北東から南西方向に直線状に延び、95Ab区微高地の周辺でこれをめぐるように溝95AbSD206
西へ大きく曲がる。もとは第5層水田に伴う水路であったと思われる。上層は特に土器の
密度の高い廃棄層を形成している。95B区内では水田区画の方向性を規制しており、95GSD
201と同じく「畎畝」にあたるものであろうか。規模は幅1.2m、深さ20cmを測る。

竪穴住居と認定する根拠には乏しいが、SB102は4×2.8m、深さ20cmの方形竪穴状の土 95AbSB101・102
坑である。埋土には大量の土器片を含み、ピットおよび床面にあたる土層についても明瞭
でない。部分的に水平方向に炭化物の集積がみられる。SB101は一部分であり、詳細は不
明である。

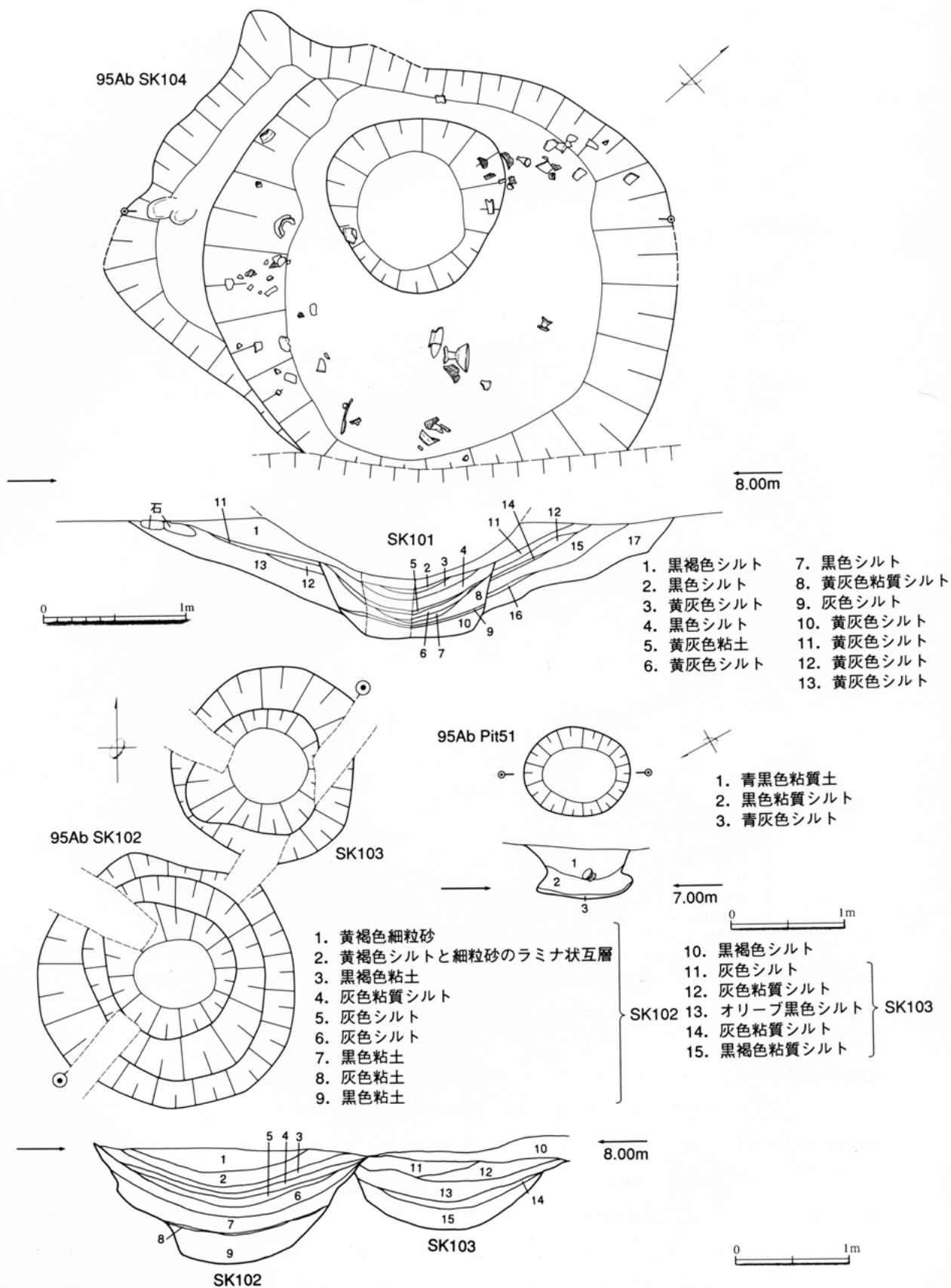


第9図 94Ab 小土坑検出状況 (1; 100)

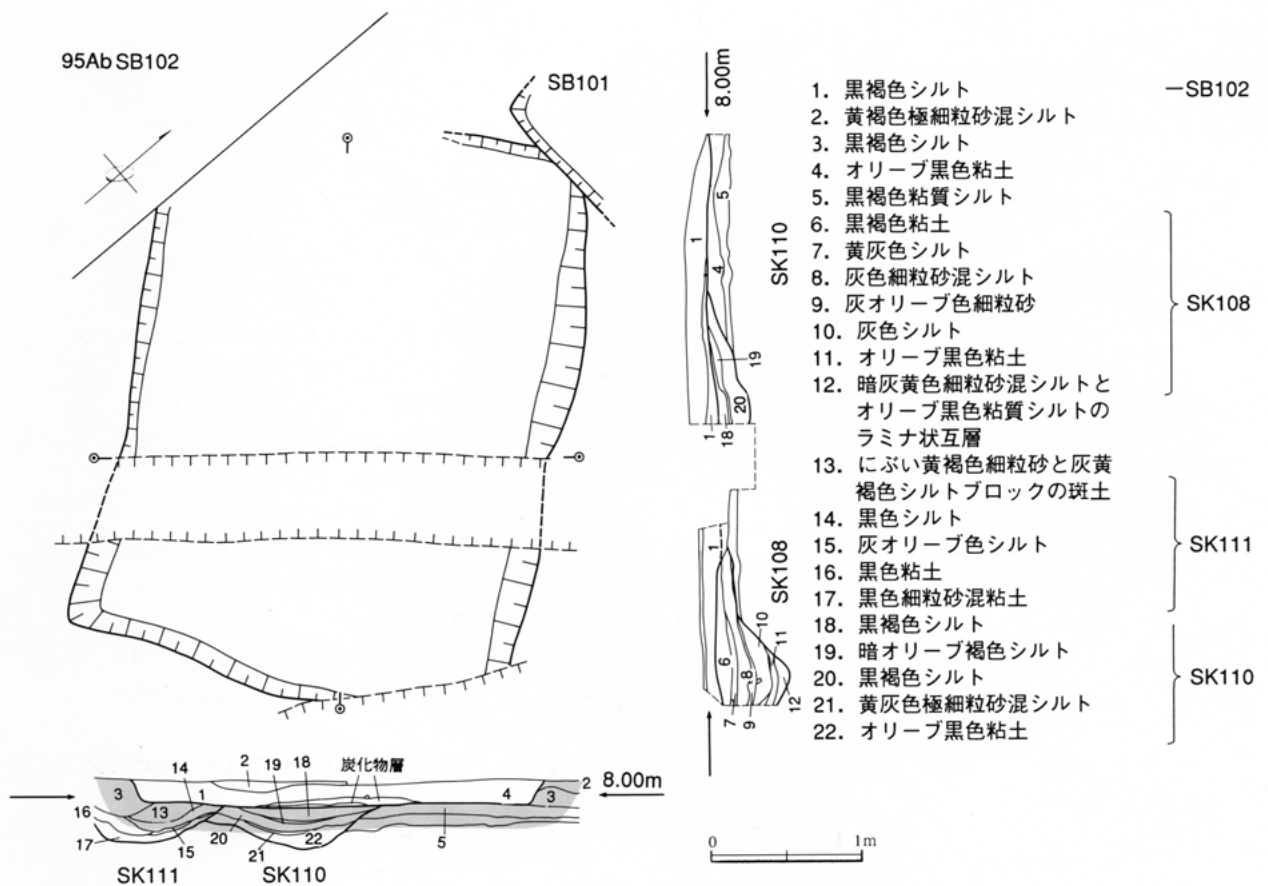


第10図 95AbSD205・206遺物出土状況 (1;40)

- 95AbSK104 検出面で掘方径2.9mを測る井戸である。内部構造は不明であるが最下部には円形の構造物が存在したと思われる。S字甕D類、高坏など松河戸I式の土器一括資料を含む。
- 95AbSK102・103 SK102掘方は径2.3mの円形、SK103は径1.8mを測る井戸状の土坑である。内部構造は存在せず。SK104とほぼ同時期の土器一括資料を含む。
- P51 (SK) 古代の溝SD52の底で検出した。底レベルは6.9mであり、古墳時代包含層検出面より少なくとも1m以上の深さを測る。埋土上層から中位までは黒色粘土ブロック混シルト、最下層は細粒砂混シルトであり、遺物は主に最下層より出土した。線刻で装飾の施された小型丸底壺が含まれる。



第11図 SK平面図・断面図



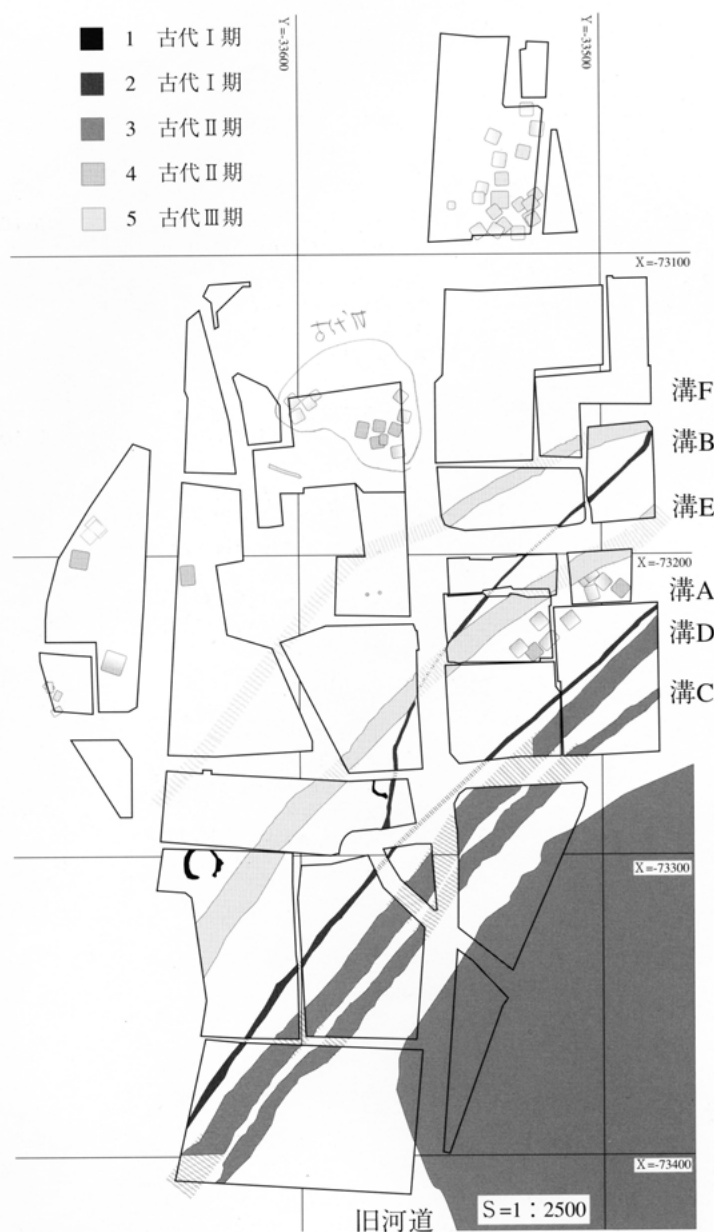
第12図 95AbSB102平面・断面図

95AbSK110・111

SB102の直下で検出された井戸状の土坑である。土器は細片が多い。

- 1) 作土は即ち水田耕作土、耕起される部分。下層土は水田耕作土の下方への水分透過を止める基盤となる層、基本的に耕起されない。被覆土は作土を覆うもの。水田埋没の状況を示す。なお水田遺構の報告・分析の記述項目については、標準的、総括的に把握することを目標に矢田論文（矢田勝1994『箕輪遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所/第3回1990、第4回1992「東日本の水田跡を考える会」及び斎野1994参考）を参考にした。但し、調査段階で取り上げられなかった諸項目については本報告において変更した。
- 2) 愛知県埋蔵文化財センター年報 平成7年度
- 3) 94A、94F区では諸々の事情により平面での確認はできなかった。断面層位観察と部分的な平面調査で第5層水田の存在を確認した。
- 4) 詳細は第V章3を参照
- 5) 第V章3参照

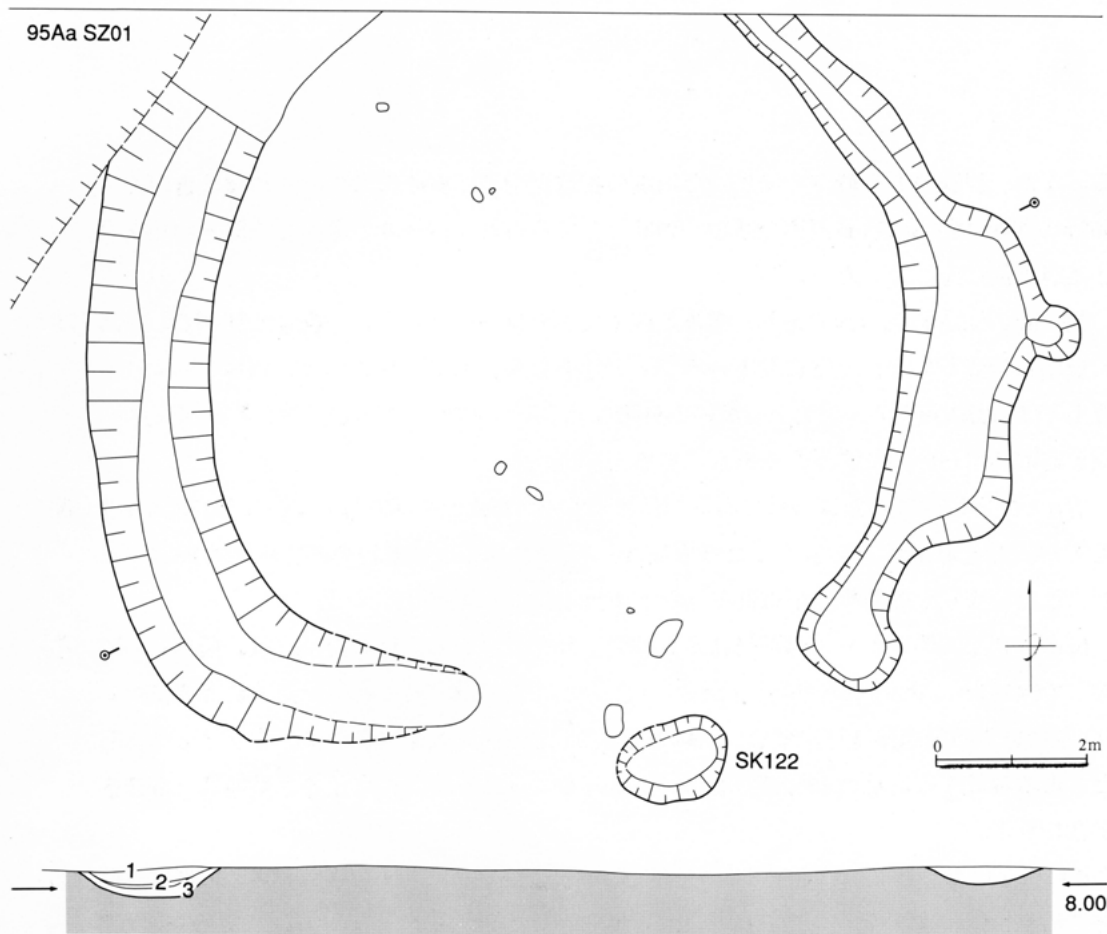
3 古代



第13図 古代主要遺構配置図 (1; 2500)

- 95AaSZ01
- 95GSD15
- 旧流路
- 95BNR201
- 溝A
- 94JSD19/94NSD21/95AbSD55/
- 95AaSD107/94KLSD30
- 溝B
- 94MaSD10/94DSD15/94CSD03・10/
- 95FSD202/93BSD14/94GSD12
- 溝C
- 94JSD18/95BSD201/95AbSD51/
- 94KLSD28
- 溝D
- 94JSD17/95BSD202/95AaSD52/
- 94KLNR01
- 溝E
- 94MbSD09/94CSD11/95FSD201/
- 93BNR02/94GSD02/95AaSD101
- 溝F
- 94MaSD01/94AaSD14・15/94DSD16/
- 94ESD15
- 居住域A
- 94FSB01~12
- 居住域B
- 94MbSB01~05/95FSB01~03
- 居住域C
- 93AbSB01~14
- その他の建物跡
- 95GSB01~03/93CSB03/95DSB01~03

基本層序第4・5層で検出した古墳時代の水田面を埋没させた洪水性の厚い砂質の堆積層に覆われ、ここに断絶が認められる。数次の洪水がもたらしたと思われるシルトと砂層の堆積は、厚いところで50cm、少ない地点においても30cmを測り、この間には明確な生活面は認められない。極めて不安定な時期であったことが推測される。古代の遺構は主に基本層序第2層の中位、及び上位で検出した。地表面はかなり削平を受けているとみえ、円墳、竪穴住居跡・ピット・井戸・土壇・大小規模の溝などの遺構がほぼ同一面で検出される。大小6条の溝群は、掘削、存続時期は異なるものの、自然地形および旧流路に規制され、ほぼ同一方向に設定されていた。溝群出土遺物より7世紀後半～9世紀の時期が比定さ



1. 暗灰黄色シルト 2. 暗灰黄色シルト 3. 暗灰黄色シルト
第14図 95AaSZ01平面・断面図 (1;100)

れる。

円墳1 95AaSZ01 上部はすべて削平されており、わずかに地山面に残された周溝を検出したのみである。円墳は周溝で直径13mを測る。幅1.5m、深さ30cm前後の周溝は、古墳中期以降の洪水性の堆積層である砂質シルト層を掘込んでおり、最深部でも古墳時代水田層（第4層；灰色粘質土層）には達していない。周溝の付近で長さ60cm程度の河原石が1点、この傍らに奈良時代に掘削された溝（溝E）の中位より直径30～40cm前後の河原石40数個がまとまって出土した。大溝西側より投棄した状況が窺われ、主体部で使用されたものとすれば、奈良時代の溝が掘削され開発の進む中で円墳の墳丘部分が破壊されたのであろう。遺物は、周溝の一部と思われる落ち込み（SK122）より出土した須恵器高坏1点がある。時期は7世紀中葉と推定される。

円墳2 94GSD15 弧を描くようにして延びる幅85cm、深さ10cmの溝であり、周辺の様相から直径8m前後となる円墳の周溝の一部と思われる。上部、東半部分は削平されている。出土遺物はない。

**旧流路
95BNR201**

大毛池田遺跡調査範囲では東南の一端にあたる。検出されたライン、および落ち込みの壁面はともに凹凸が多く不規則に蛇行する。隣接する大毛沖遺跡で報告されている旧流路の最も北よりを流れた場合の右岸に相当するものであろう。最深部は検出面より2.5mあり、埋土上層は細粒砂とシルトの互層、中位以下は稀に細粒砂～シルトの間層を挟みながら粘土が厚く堆積している。埋没後、上位堆積層では近世以降水田が営まれていたようであ

る。また、埋積のある時点で発生した地震の痕跡が明瞭に認められた。これは垂直断面で幅2m、検出面で高さ1m規模の噴砂、砂脈としてみられ、ベース砂層から下層・中層を貫き上層下位に達していた。*1

幅1.3m、深さ0.6mの溝であり、調査範囲中央を北東―南西方向に一直線に延びる。断面 溝Aの形態に特徴があり、上位に幅広のテラス部分をもち、下位が垂直に近い箱型を呈する。埋土上位は黄灰色シルトであり、溝の中央部付近、テラスのレベル前後の層位で6世紀末の須恵器蓋坏が部分的にまとまりをもって出土している。

溝Aと断面形態の特徴は同様である。調査範囲の北東隅から弧を描くようにして溝Aに接 溝B近する。調査範囲外で交差するため重複関係は不明である。遺物の出土状況も同様であり、地点により土師器甕、須恵器蓋坏などが出土している。

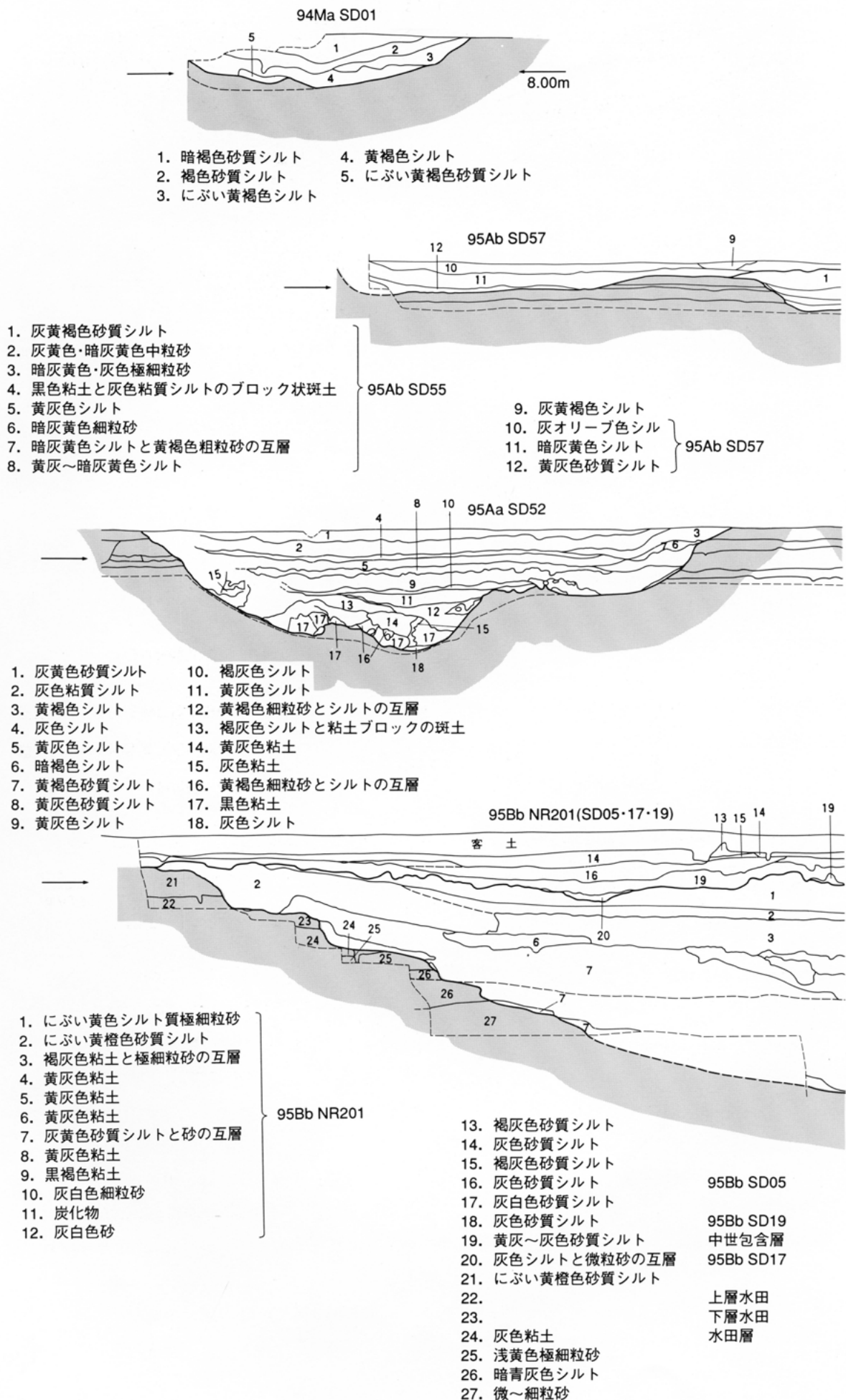
検出された溝群のうち、旧流路に最も近い位置を北東から南西方向に線状に延びる。平 溝C均して幅5.5m、深さ1.6mあり、最も深い地点でレベルは6.6mであった。遺物は希薄であり、7世紀代の須恵器蓋坏、横瓶、土師器甕、など94J区で若干のまとまりをもって出土した。古墳時代の微高地と遺物包含層にかかる部分では、埋土中に大量の古墳時代土師器類が含まれる。

溝Cの北西側に並行して延びる平均して幅9m、深さ2mの大溝である。断面の形状、遺 溝D物の出土状況等は溝Cと同様である。調査範囲内では溝の重複はみられず、前後関係は明らかにできなかった。埋土中位以下では、部分的に下層堆積物のブロック状の斑土の堆積がみられる。

調査域中央を北東から南西方向へわずかに湾曲して延びる。幅は7.5m、深さ1.0～1.8m 溝Eとこれら溝群のなかでは最も規模が大きい。検出面から1/3程度までの上層は灰オリーブ色粘土質のシルト、中位から下層は中粒砂を含んだ粗い砂が埋積している。溝は全体に比較的多くの遺物を含み、部分的に集中地点がみられる。傾向として砂層中から最下層にかけて須恵器、土師器甕が、上層のシルト層では灰釉陶器碗、皿類が目立つ。また砂層中の遺物のほとんどは廃棄後と思われる外面の磨滅もなく、完形の遺物が多い。砂層より「濃」の刻印のある須恵器蓋片1点、内陸河川での検出例が少ない有溝土錘1点が出土している。なお、93B区NR02のある地点では、シルト層表層～上位で銅製の容器蓋片、須恵器では小型の壺類などが比較的まとまって出土している。

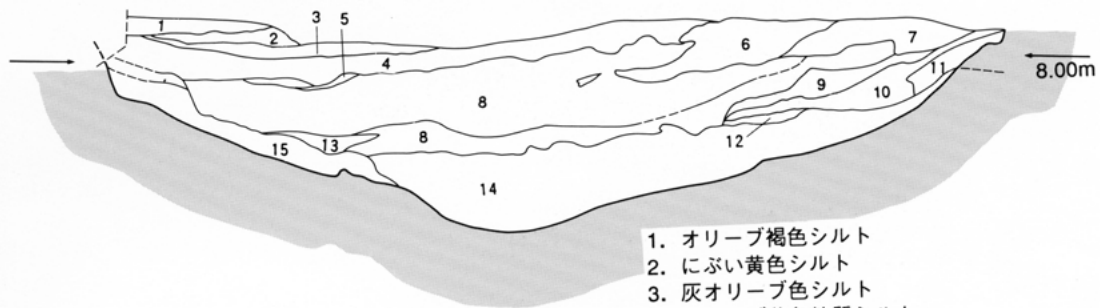
溝E北西側に20mの間隔をおいて並行して延びる。検出面で幅6.1m、深さは0.9mと若干 溝F浅い。地点により遺物の出土量が異なるが、出土層位と器種との関係なども溝Eとほぼ同様である。溝E、Fの前後関係について決め手となるデータは無く、逆に同時存在の可能性も想定できる。溝最下層より「美濃」刻印のある須恵器坏1点が出土している。

竪穴住居跡12棟を検出した。平面プランは隅円の方形または長方形であり、掘り込みは 居住域A94 F6～22cm程度、地山面、埋土ともに色砂混じりのシルト層であるために判別しづらい。層位、出土遺物より調査区北東辺に分布するSB01～08は古代Ⅱ期に属す。住居床面のレベルは平均して8.4mである。数棟のまとまりで調査区外の西北辺にむかって若干広がるもの



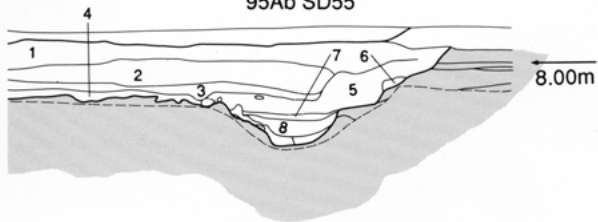
第15図 溝 (B・C・D・E・F) 断面図 (1; 80)

95AaSD101

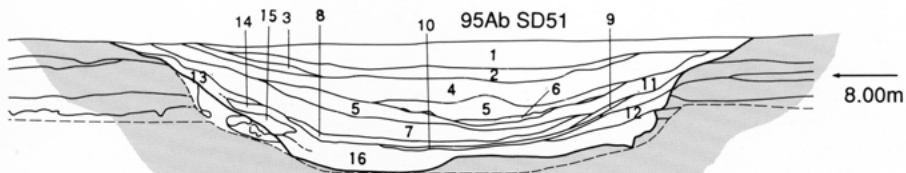


1. オリーブ褐色シルト
2. にぶい黄色シルト
3. 灰オリーブ色シルト
4. オリーブ黄色粘質シルト
5. 褐色粗粒砂
6. 灰オリーブ色シルト質砂
7. 灰オリーブ色細粒砂
8. 黄褐色中～粗粒砂
9. 暗灰黄色シルト
10. 黄褐色シルトとオリーブ黄色粘質シルトの互層
11. 暗灰黄色シルト
12. 褐色粗粒砂
13. 黄褐色中～粗粒砂
14. 黒褐色粘土と灰色粘土のブロック状斑土
15. 灰色粘土

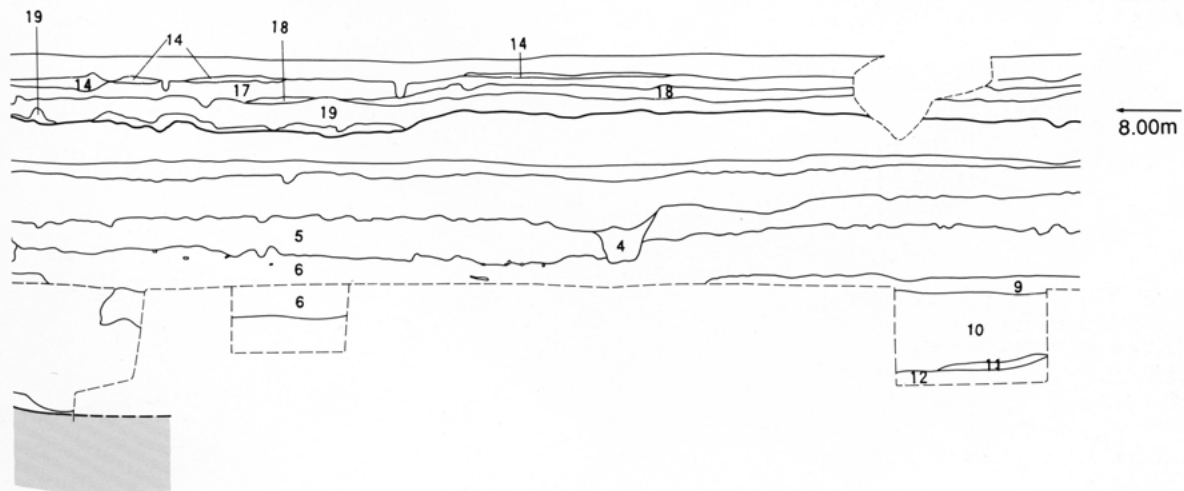
95Ab SD55



95Ab SD51



1. 黄褐色粘質シルト
2. 黄褐色シルト
3. 黄褐色シルト
4. にぶい黄褐色シルト
5. 黄灰色シルト
6. 褐灰色粘土
7. 黄灰色シルトと黒色・青灰色粘土ブロックの斑土
8. 黒褐色シルト
9. 灰オリーブ色極細粒砂
10. 褐灰色粘土
11. 暗灰黄色細粒砂
12. 暗灰黄色細粒砂と黄灰色シルトの互層
13. 暗灰黄色シルト
14. 暗灰黄色細粒砂と黄灰色シルトの互層
15. 灰色シルト
16. 黄褐色中～粗粒砂



0 2m

と思われる。調査区北西辺に分布する、SB09～12は古代Ⅲ期に比定される。遺物は少量であるが、SB06より須恵器坏、SB10より土師器、灰釉陶器、河原石等が出土している。

居住域B94Mb,95F 竪穴住居跡9棟を検出した。掘り込みは10cm以下で地山、埋土ともに褐色砂混じりシルトであり、柱穴も判別しづらい。95FSB03では造付カマドの痕跡と思われる炭化物の集中地点がみられた。遺物は土師器甕片数点と希薄である。大半は古代Ⅱ期に属するものと思われる。

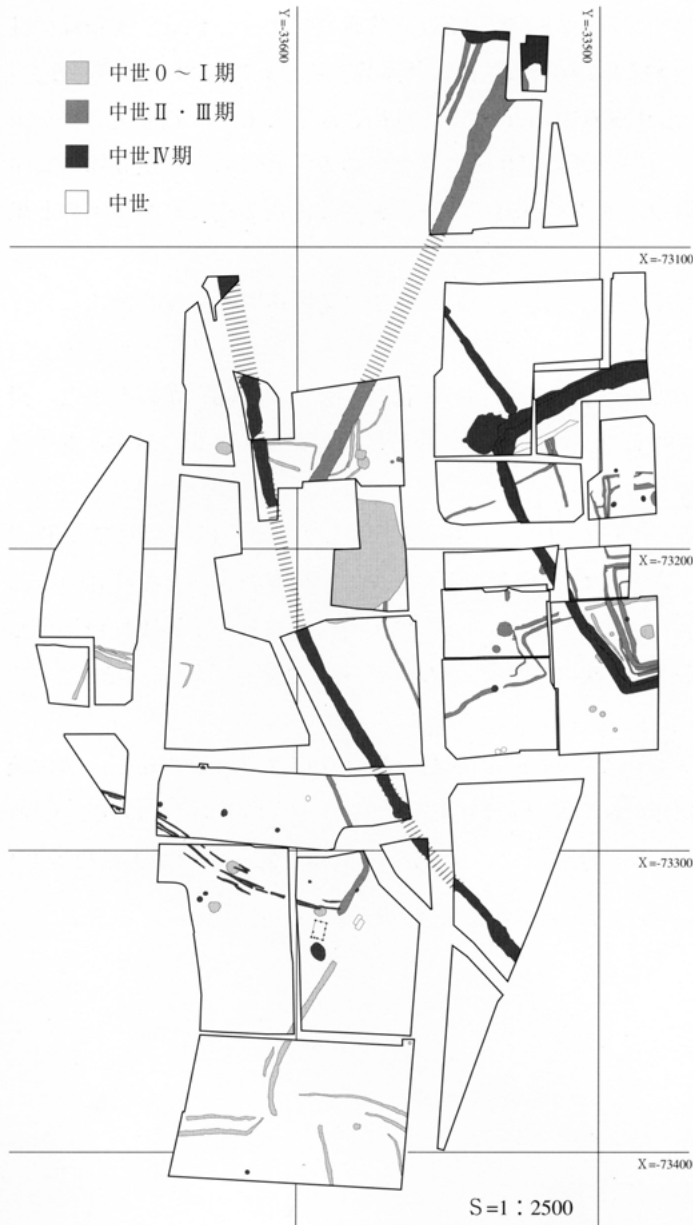
居住域C93Ab 調査区東半部分はわずかに微高地状をなしており、ここに竪穴住居跡19棟を検出した。方形プランの軸方向より、これらは2つの時期のまとまりがみられる。地山、埋土ともに褐色～暗褐色の砂混じりシルトであり、うち1棟で炭化物の集中する部分がみられた。遺物はSB12,14より須恵器、灰釉陶器碗、土師器甕が出土している古代Ⅲ期に属するものと思われる。

**その他建物跡
95G,93C,95D** 93C区SB03はやや規模の大きい、6.6×4.8mの隅円長方形を呈する。内部に幅45cm程度の壁溝がめぐり、北辺にカマドが造られたとみえ焼土、炭化物が集積する。掘り込みは約5cm、埋土は暗褐色シルトである。カマド部分より古代Ⅰ期に属する土師器甕片が出土している。95G区SB03-a、03-bは掘立柱建物であり、SB03-aは2×4間、柱間1.5～2.3mであった。出土遺物はなく時期などは不明である。

94ESE01,02 竪穴住居跡は検出されているものの、これら住居群に伴う井戸は明らかでない。居住域Aに近い94FSK24、94ESG01の底で検出された94ESE01、02などがある。なお94ESG01埋土中より、カマド支脚に転用された大型の砥石、内外の両面に「公平」の墨書須恵器坏1点が出土している。

1) 詳細はV-2 大毛池田遺跡の地震痕を参照

4 中世～戦国期



第16図 中世～戦国期主要遺構配置図
(1:2500)

94ESG01
溝 94FSD01/93ASD01
94FSD17
94JSD20
94JSX01
94JSD13・15
95ESE01
94KSK56
95AaSK55・56
94JSK72

区画1
区画2
区画3
区画4
区画5
区画6
区画7

溝A
95ESD05/94FSD18/93BSD02/
95BaSD09

94CSK10
95FSE0203
94JSK85-a・-b
95FSX02
94JSK51
94AbSX01
94JSD01
95AaSK25・26
95AbSX01 (SK03)
94LSK10
94GSE01
94GSE03

95DSD01・02・03・04
94GSD04・05・06・07
95AaSD01・02・03・07・08・10
95AbSD03

中世以降戦国初期にかけての遺構群は、全調査区において認められ、また全出土資料の3/5程度が中世以降に属する。遺構は屋敷地に伴う区画溝、井戸、土壇、ピット等であり、11世紀半ば～16世紀初頭にかけて分布の疎密はあるもののほぼ継続して認められる。

大毛池田遺跡では複数の屋敷地区画の変遷がみられ、これらの成立・廃絶が遺構群消長の画期ととらえられる。方形にめぐる区画1～6は隣接して検出されており、この地域に周辺支配者の中心的な居住域が存在したと考えられる。なかでも区画6は推定で一町四方規

模の方形区画であり、遺構群の変遷のなかでは中心的な事象といえる。ここでは区画6の消長から大きく＜成立以前＞＜成立期＞＜廃絶以降＞の時期に区分し、遺構が比較的濃密に分布する調査範囲の中央東半部分、屋敷地区画と区画の内部構成を主に記述する。

本来ならば遺構すべてに記述が付されるべきであるが、遺跡の特徴として中心居住域の変遷を記述することを目的に適宜選択した。

＜区画6成立以前＞	中世0～Ⅱ期
中世集落の発生	
区画1・2の出現	
溝A・区画3・4の出現	
＜区画6成立期＞	中世Ⅲ期
＜区画6廃絶以降＞	中世Ⅳ期

区画6成立以前 大毛池田遺跡において中世集落が営まれ始めた時期より居館区画6が成立するまで3段階に細分できる。

第1段階は、集落が出現する時期である。屋敷地に伴う数条の溝が認められるものの、区画される範囲は不明瞭である。井戸・土坑は離れて点在し、特にまとまりはみられない。一括性の高い遺物を含むものは主に中世0～Ⅰ期に属する。

第2段階では屋敷地方形区画（区画1・2）が出現する（中世Ⅱa期）。

第3段階では屋敷地方形区画（区画3・4）が出現し（中世Ⅱb期）、これに先行して中世溝Aが掘削される。

94ESG01 調査範囲の中央部分94F区と93B区に及ぶ。確認できた部分では周囲約60m、最深部で0.8mを測る楕円形の落ち込みである。埋土は長期にわたる止水性の堆積状況を示しており、流入・流出量の少ない溜め池的な性格であったと思われる。底部では奈良時代の井戸2基が検出されている。古代の集落が廃絶した後改めて近辺の耕地開発にともない掘削されたものとすれば、SG01の掘削は中世集落の出現期、11世紀後半から12世紀の間に求められよう。池周囲に連続して掘削された土坑及び池の落ち込みに近い部分では、12世紀半ば～13世紀前半期の灰釉系陶器が多く含まれる。

94FSD01 93ASD01 幅4.9m、深さ93cmあり、北東から南西に直線状に延びる。調査範囲外でSG01と接するため両者の関係は不明であるがほぼ同時期に存続していた可能性は高い。貿易陶磁器の出土割合では白磁片が多く含まれる。

94FSD17 幅94cm、深さ17cmの東西方向の溝である。一部に遺物の集中する箇所があり、灰釉輪花碗が一括投棄された状態で出土した。周辺に同時期の遺構はみられない。

94JSD20 幅1.02m、深さ35cm、東西方向に延びる。西端は終息し、東側はSX01に削平されている。溝全体にわたって灰釉系陶器碗、皿、鉢、土師器皿、伊勢型鍋、灰釉壺類などと共に被熱の痕跡のある拳大の礫が数多く含まれる。一括性の高い遺物群である。

94JSX01 幅1.5m、深さ1.4mを測り、溝断面は緩やかなV字状を呈する。SD20とほぼ同一方向に重

複し、西端は終息している。出土遺物では土師器皿の割合が最も高く、集中部分が認められる。

幅60cm、深さ30cm程度、南北方向に延びる。SD13の南側にSD15が延び、SD13南端は纔に蛇行して終息する。SD15上端はSD01と重複しており、一部が確認できるのみである。法量の異なる土師器皿がまとまって出土した。 94JSD13,15

調査範囲北西部に位置し、検出面で直径4.5mを測る井戸である。井戸側などは残存しておらず、裏込め、埋土より灰釉系陶器碗、小碗、鉢などが出土した。 95ESE01

現一宮市と木曽川町境である水路西側で検出した。直径1.2mと小規模な土坑であるが、検出面から約1m下の底部まで夥しい量の灰釉系陶器類を出土した。遺物の大半を占める碗が、数個単位のまとまりで重ねられており、他に若干の皿、鉢、土師器皿、伊勢型鍋、大型の壺甕類を含む。 94KSK56

堀形の径約4.5m、深さは検出面より193cmを測る井戸である。埋土中位以下に切りそろえられた丸太材、被熱の痕跡のある河原石数個があり、これらを取り除くとで砂層に達するが以下で曲物3段を検出した。径が若干異なるこれら曲物の接続部の隙間には灰釉系陶器碗などの破片が挟まれてあった。丸太材は自然木を切断したものであり、井戸の杵材とは思われない。この曲物直上までの廃棄層には、12世紀後半代灰釉系陶器碗、皿類が多く含まれる。 95AaSK55

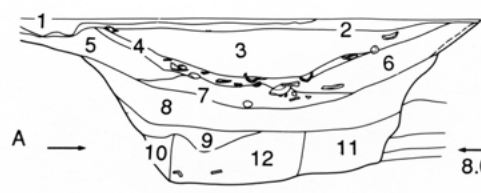
上記SK55に隣接する規模・時期もほぼ同様の井戸である。方形井戸杵のみ存在した。四隅には垂直方向の竹材が残り、横棧には板または角材が使用されたものと思われる。 95AaSK56

SX01下層で検出した。出土遺物はSD20とほぼ同時期であり、大半を土師器皿が占める。土師器皿は破碎したものも多く土坑中に密集する。刀子片を検出した。 94JSK72

幅80cm、深さ30cm前後の溝が部分的に確認できる。溝の一部は多数検出されているピットと重複しており、溝が先行する。埋土は砂質のシルトであり灰釉系陶器類の細片を含む。区画西辺の距離は約20m。区画内部にはピットが数多く展開するが、一部は溝と重複関係にあり、具体的な建物跡は想定できなかった。 区画1
94MaSD02・03・07

区画1の南に隣接する一辺40m規模の区画。屈曲するSD10の南北部分は幅108cm、深さ38cm、東西部分は規模が縮小する。SD14は幅1.8m、深さ60cm前後で屈曲する。遺物は少量で灰釉系陶器細片を含む。 区画2
94MbSD10・94JSD14

幅4.2m深さ80cm、断面皿状の溝である。定期的に溝をさらえるなどして継続的に管理されていたためであろうか、出土遺物は比較的少量であり大半は細片であった。灰釉系陶器類を主体に瀬戸美濃産陶器、天目茶碗などを含み、12世紀～16世紀初めまで中世期の遺物を含む。溝が掘削された位置は、現在の一宮市と木曽川町の市町境となる水路の東側5m前後の位置に並行して延びており、この境界がさかのぼれるとすれば中世絵図等でみられる領域の境界を公に明らかにする目的で設定された「境堀」と呼称される溝と同様の性格が想定されよう。 溝A
95ESD05・94FSD18・93BSD02・



94C SK10/SE01

1. 暗灰黄色シルト
2. にぶい黄褐色シルト
3. 灰黄褐色シルト
4. 黒褐色シルト
5. 暗灰黄色シルト
6. 暗褐色シルト
7. 灰色シルト

SK10

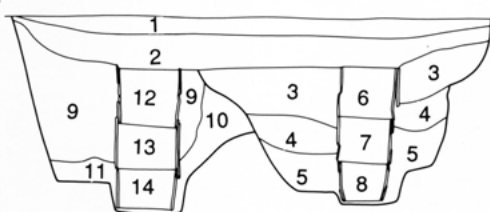
8. 暗灰黄色シルト
9. 黄灰色シルト
10. 灰色シルト
11. 黄灰色シルト
12. 灰色粘土

SE01

94J SK85



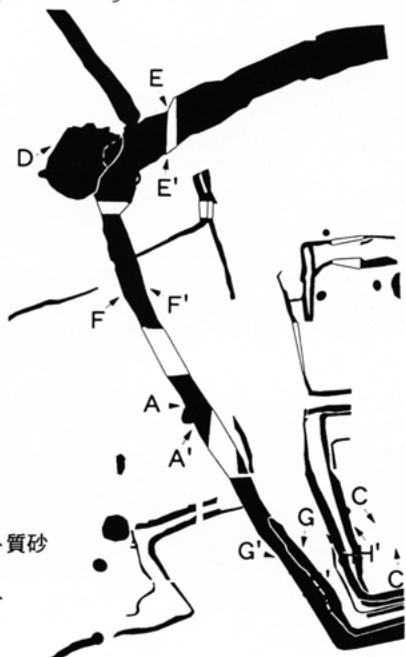
B →



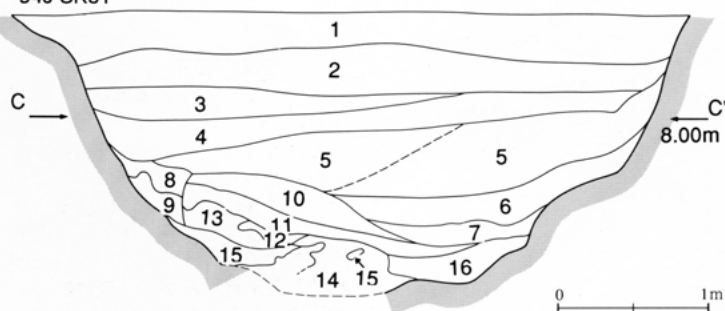
B' →

1. 灰色粘土
2. オリーブ黒色粘土
3. 灰色粘土とオリーブ黒色粘土のブロック状斑土
4. 灰色細粒砂
5. 灰色細粒砂
6. オリーブ黒色シルト質砂
7. オリーブ黒色細粒砂

8. シルト質砂
9. 灰色細粒砂
10. 灰色細粒砂
11. 灰オリーブ色シルト質砂
12. 灰色シルト
13. オリーブ黒色シルト
14. 灰色シルト質砂



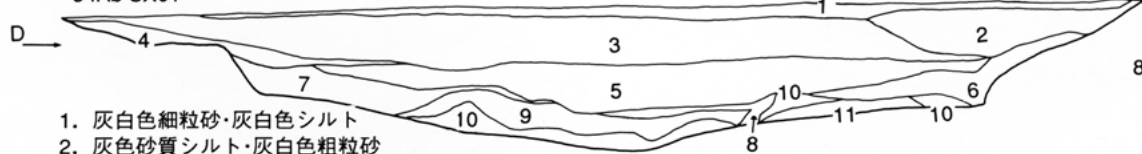
94J SK51



C' →

1. 暗灰黄色シルト
2. 暗灰黄色シルト
3. オリーブ黒色粘質土
4. オリーブ黒色粘質土
5. オリーブ黒色粘質土
6. オリーブ黒色砂質シルト
7. 灰色粘質シルト
8. 暗オリーブ灰色シルト
9. 灰色粘質シルト
10. 黄灰色シルト
11. オリーブ黒色粘土
12. オリーブ黒色砂質シルト
13. 暗オリーブ灰色シルト・灰色砂質シルト
14. 灰色細粒砂
15. オリーブ黒色粘土
16. 暗オリーブ灰色シルト・オリーブ黒色粘質シルト

94Ab SX01

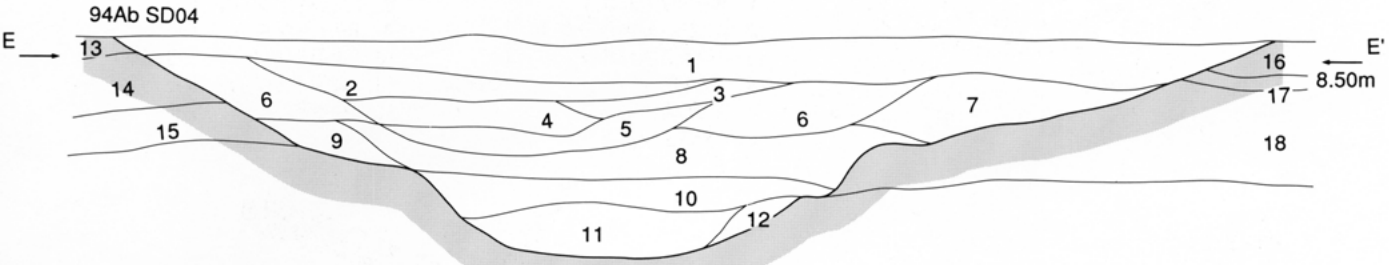


D' →

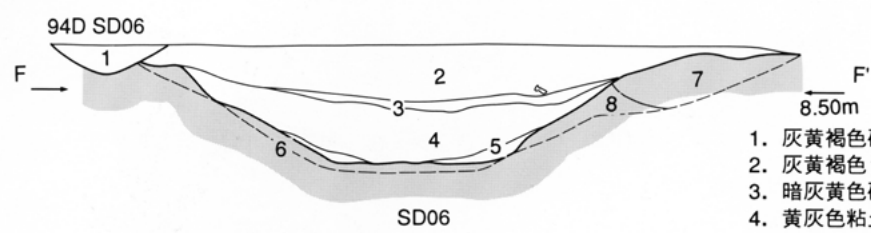
1. 灰白色細粒砂・灰白色シルト
2. 灰色砂質シルト・灰白色粗粒砂
3. 灰色粘質シルト
4. 灰色粗粒砂
5. オリーブ色粘質シルト
6. 灰色粗粒砂
7. 灰色砂質シルト・明オリーブ灰色シルトブロック・灰白色粗粒砂・灰白色粗粒砂
8. 灰白色粗粒砂
9. 灰色砂質シルト・明オリーブ灰色シルトブロック・灰白色粗粒砂
10. 明緑灰色シルト・灰色砂質シルト・明オリーブ灰色シルトブロック
11. 灰色粗粒砂

0 2m

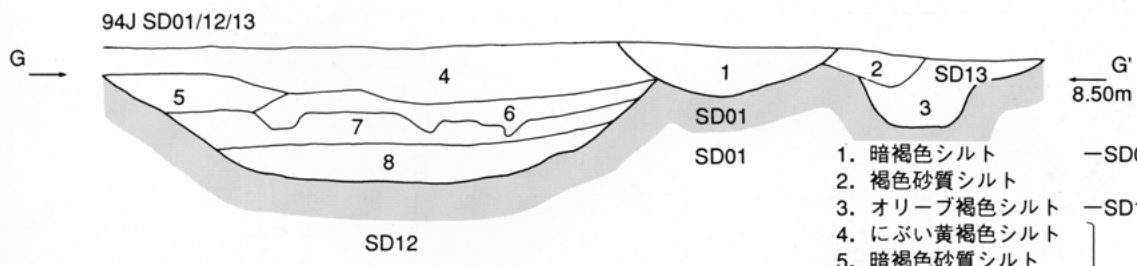
第17図 屋敷地区画関連SK・SD断面図



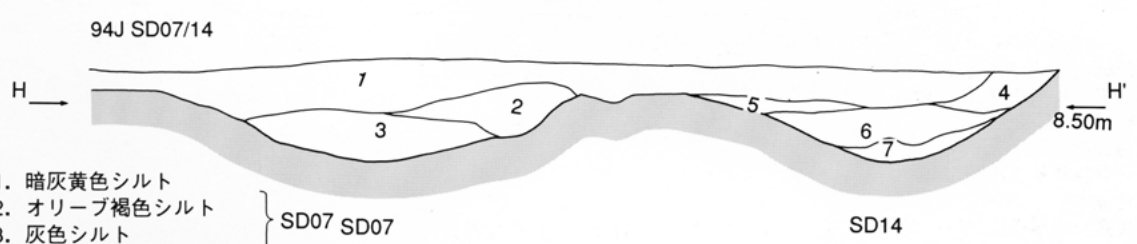
- | | |
|-------------|--------------------------|
| 1. 灰白色粗粒砂 | 10. 褐灰色粗粒砂 |
| 2. 灰色粘質シルト | 11. 暗青灰色粗粒砂 |
| 3. 灰色粗粒砂 | 12. 明緑灰色シルトと暗青灰色粗粒砂の縞状堆積 |
| 4. 黄灰色粗粒砂 | 13. 褐灰色砂質シルト |
| 5. 褐灰色粗粒砂 | 14. 極細粒砂 |
| 6. 黄灰色粗粒砂 | 15. 灰色極細粒砂 |
| 7. 褐灰色砂質シルト | 16. 灰白色極細粒砂 |
| 8. 褐灰色砂質シルト | 17. 灰褐色砂質シルト |
| 9. 灰黄色細粒砂 | 18. 浅黄色砂質シルト |



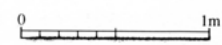
- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 灰黄褐色砂質シルト | } SD02
} SD06 |
| 2. 灰黄褐色シルト・褐色シルト | |
| 3. 暗灰黄色砂質シルト | |
| 4. 黄灰色粘土 | |
| 5. 黄灰色シルト | |
| 6. 黄灰色シルト | |



- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 暗褐色シルト | } SD01 |
| 2. 褐色砂質シルト | |
| 3. オリーブ褐色シルト | } SD13
} SD12 |
| 4. にぶい黄褐色シルト | |
| 5. 暗褐色砂質シルト | |
| 6. 暗灰黄色粘質シルト | |
| 7. 黄灰色シルト | |
| 8. 暗灰黄色粘土 | |



- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 暗灰黄色シルト | } SD07 SD07 |
| 2. オリーブ褐色シルト | |
| 3. 灰色シルト | } SD14 |
| 4. 暗灰黄色砂質シルト | |
| 5. 暗オリーブ褐色シルト | |
| 6. 黒褐色シルト | |
| 7. 黄灰色シルト | |



区画3
94MaSD
94MbSD06・12 区画1の位置で建替えが行われている。区画西南隅を基点に軸線を西方に若干ふる。これは西側に位置する溝Aの方向性とほぼ一致している。溝の規模は区画1をそのまま踏襲している。溝はここでも一部のピットに先行する。

区画4
94MbSD04
94JSD07 区画1から3への改築とはほぼ同じ時期にここも建替えられたようである。規模は区画2を踏襲する。軸線は区画3と同様西方に変更されている。遺物は灰釉系陶器碗、皿類では東濃型で胎土の均質なものが多く含まれる。その他土師器皿、瀬戸美濃産陶器などがあり、その他管状土錘が数点まとまって出土している。

94CSK10 検出面で径3.4cmを測る井戸であり、上部に土器、炭化物を大量に含んだ廃棄層を形成する。内部構造は残っていない。上部東半分がSD12に切られている。灰釉系陶器碗、皿を中心に鉢、土師器皿、伊勢型鍋を含むコンテナ3箱程度を出土した。中世Ⅱb期。

区画6成立期 中世Ⅲ期に入りまず区画5が出現し、この東側に隣接する94A・94J区の範囲に区画6が出現する。

区画5
95FSD01・02
03 西辺が溝Aの方向と一致する一辺40m規模の区画であり、溝の幅1m前後、深さ50cm程度。区画南辺と西辺が確認された。東辺では区画溝に並行して蛇行する溝がみられる。遺物は東辺に集中し、河原石碎礫に混じり東濃型の灰釉系陶器碗、皿類、古瀬戸壺類などがある。区画内部には井戸(95FSE02・03)、廃棄土坑95FSX02、ピットが展開するが、具体的な建物跡については不明である。

区画6
94AaSD01
94AbSD04
94SD06
94CSD02
94JS12 94Aa区および94J区で確認された屈曲部分の間は100mあり、調査部分はほぼ一辺一町規模の区画の西側1/3程度の面積に相当する。溝の規模と形状は各辺で異なり、区画北辺に相当する94A区では幅7.2m、深さ85cmと最も大きく、断面V字状に近い薬研堀となっている。また溝中位からは埋納されたと思われる馬骨を検出した。区画西辺に相当する94Cと94D区部分では幅3.9m、深さ54cm、断面の形状は皿型を呈し、94JSD12では屈曲部分で幅4m、深さ95cmと規模を増し、断面の形状もややV字に近い落ち込みになる。出土遺物の分布では区画北辺に中世前半期の灰釉系陶器類が多く、区画西南コーナー付近にかけては土師器皿の割合が増加する傾向がある。区画の方向は溝Aに一致する。

区画7
95GSD07・08
09 調査域西部に位置し、溝A西側で単独で検出された唯一の区画である。区画北辺にあたるSD07・08は若干方向を異なった重複関係にあり、SD08が先行する。溝の規模はSD07は幅62cm、深さ22cm、SD09で幅2.3m、深さ36cmを測る。区画の方向は溝Aに規制されておらず、南側に位置する95DSD01、02、03、04の方向性に近い。ただし、出土遺物の主体は中世Ⅲa期であり、区画5の時期に併存していたものと思われる。

95FSE02・03 区画5内部に位置する。SE02は方形縦板組の井戸である。検出面で掘形径5.2m、内部には曲物1段が残る。方形枠組は一辺80cm、板材は幅28cm、厚さ2.0cm前後あり、一辺につき3枚が縦方向で用いられている。板材の両面には工具の削り痕を明瞭に残す。掘方部分に重複してこれに先行するSE03を検出した。

上部はSD12に切られている。隣接した位置に掘り直された2基の井戸である。SK85-aは 94JSK85-a・b
曲物3段を組み合わせ、周囲に曲物底板を割った板片をめぐらしている。SK85-bの構造も
同じであり、曲物の径が若干大きい。

区画5の内部に位置する廃棄土坑である。検出できたのは断面皿状の浅い落ち込みであ 95FSX02
り、埋土に炭化物を多く含む。灰釉系陶器、土師器の皿類がまとまって出土している。中
世Ⅲa期。

区画1、2内部に位置する井戸である。内部施設は残っていない。井戸枠等抜き取りのた 94JSK51
め上部は掘り返されている。

居館区画6が廃絶した後、調査範囲北側では遺構は減少する。区画6を構成する溝に重複 区画6廃絶以降
する遺構では94AbSX01、94JSD01がある。

区画6の西北隅に位置し、SD04廃絶後に掘削された12.5×10m規模の方形土坑である。 94AbSX01
上部は灰白色砂質シルト、中位以下灰白色～オリーブ色粘質シルトが堆積し、止水性の池
状の様相を窺うことができる。最下層で「天文八年（1539）」銘の卒塔婆を検出したほ
か、石塔類、常滑産の壺、甕類など大型の陶器類を多く含む。

幅2.5m、深さ33cmを測る。SD12が埋積した後、区画6の内側に沿ってめぐる。河原石碎 区画8
礫多数と大窯期の瀬戸美濃産陶器類、土師器皿類が集中して出土した。 94JSD01

SK25は検出面で掘形径1.5m、SK26は同1.9mの井戸である。内部施設は無く、素掘り井 95AaSK25・26
戸の可能性が高い。隣接する両者ともに数個体の内耳鍋のみを含む。遺物から時期差はみ
られない。

掘立柱建物SB01に隣接する、検出面で掘形径4.5～5.3mを測る井戸（SK03）である。西 95AbSX01・
南側は井戸枠抜き取りのため拡張されている（SX01）。内部施設は残っていない。ロク SK03
口整形土師器皿、漆椀、内耳鍋を含む。

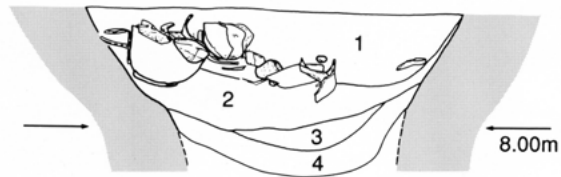
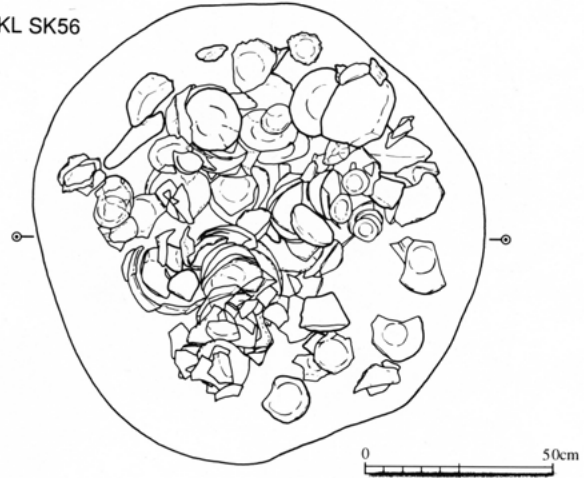
調査域南端部に近い位置で検出された土坑である。天目茶椀、内耳鍋などを含む。周辺 94LSK10
に同時期の遺構はみられなかった。

掘方径1.7mを測る結桶の井戸である。 94GSE01

上層に廃棄層を形成する。内部構造は存在せず、抜き取りによる拡張部も判然としな 94GSE03
い。埋積の状況からは井戸として使用されなかった素掘りの土坑の可能性も考えられる。

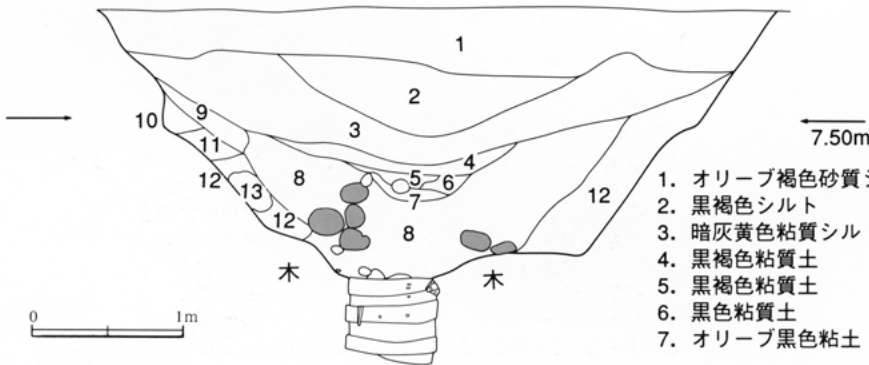
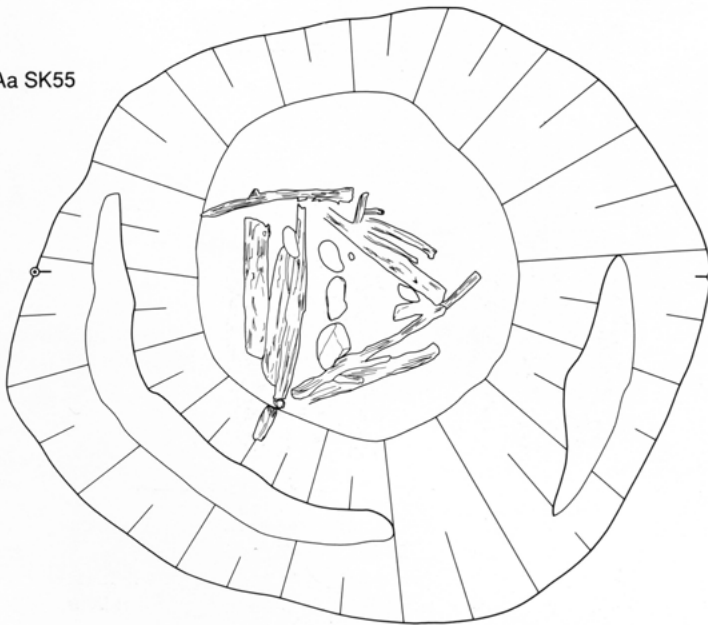
道両脇に設けられた側溝であったと思われる。数次の改修と付け替えのためか重複が甚 溝B群
だしく、完全には連続して検出できない。最も上位にある溝の規模は、95AaSD02で幅60 95DSD01・02・
cm、深さ10cm、断面皿状を呈する。出土遺物は碎礫が混じり、内耳鍋、瀬戸美濃産陶器を 03・04・
含む。土師器皿の割合が高く、出土状況は一括して投棄された可能性を示唆している。や 94GSD04・05・
や先行する時期の溝群は遺物を殆ど含んでおらず、区画7の方向と整合する位置関係にあ 06・07・
るが、先行する溝群からは区画7の成立期に遡る資料はみられない。 95AaSD01・
02・03・07・
08・10・11・
13・95AbSD03

94KL SK56



- 1. 暗灰黄色シルト
- 2. 灰色シルト
- 3. 灰色シルト
- 4. シルト

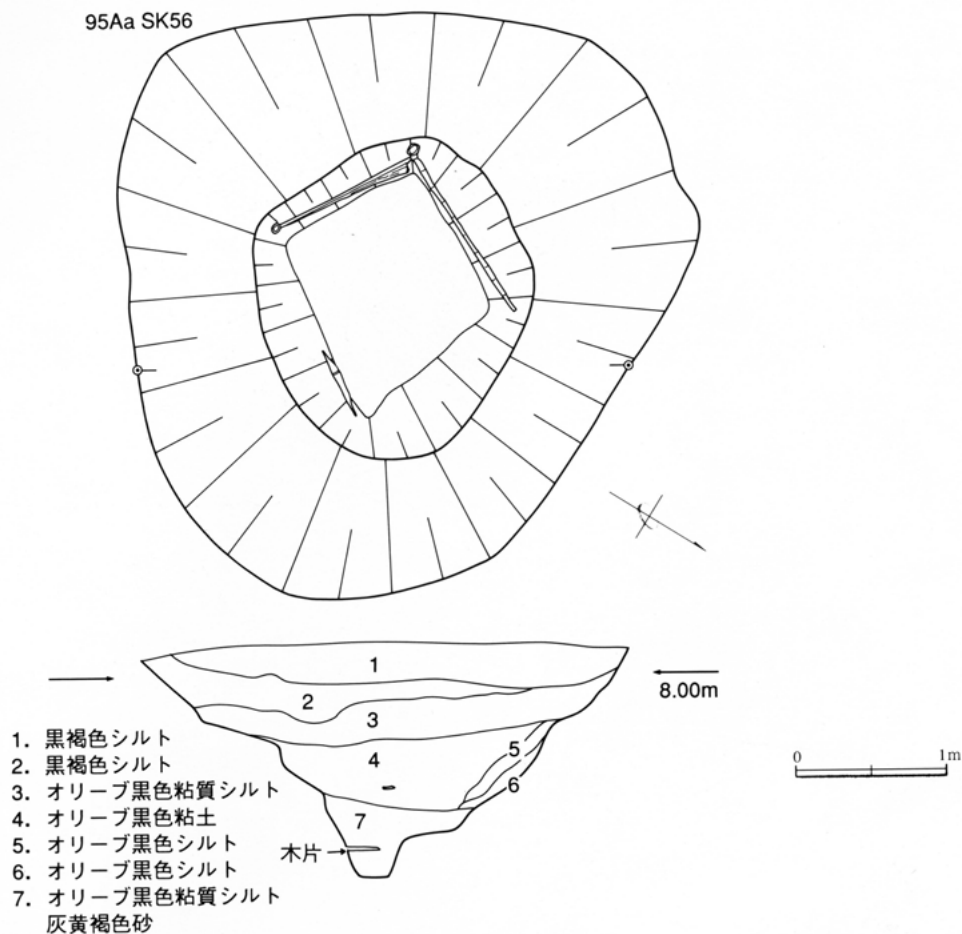
95Aa SK55



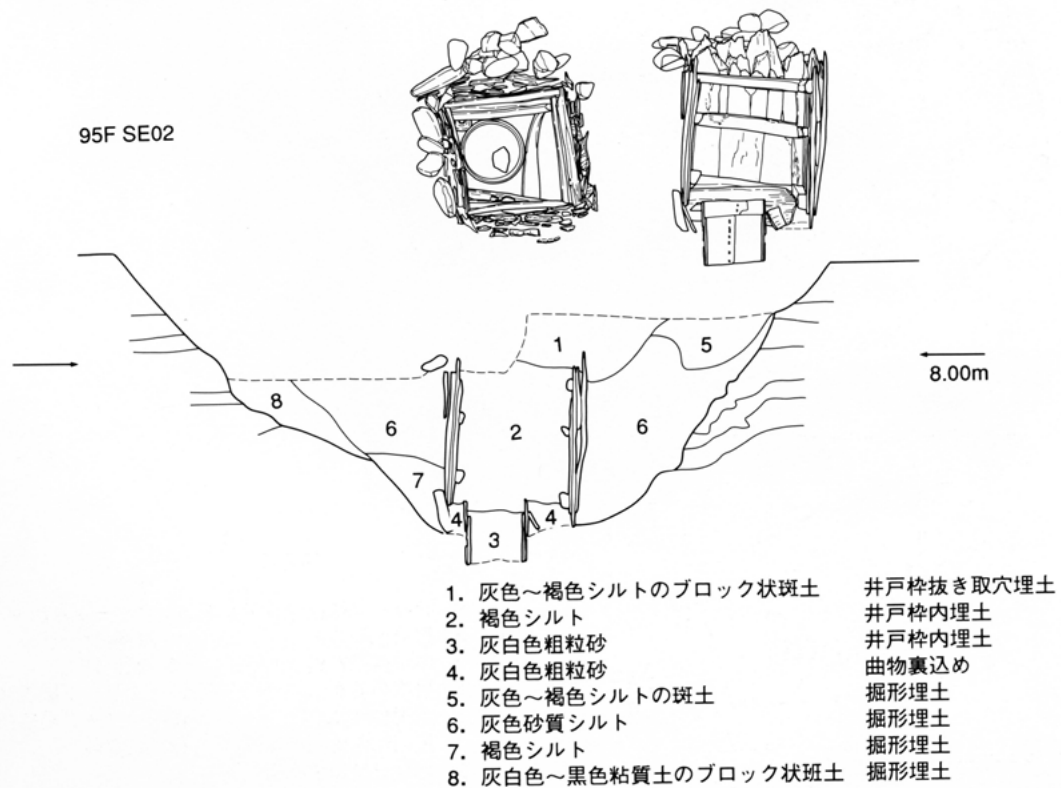
- 1. オリーブ褐色砂質シルト
- 2. 黒褐色シルト
- 3. 暗灰黄色粘質シルト
- 4. 黒褐色粘質土
- 5. 黒褐色粘質土
- 6. 黒色粘質土
- 7. オリーブ黒色粘土
- 8. オリーブ黒色シルト
- 9. 黒褐色粘土
- 10. 灰色粘土
- 11. オリーブ黒色粘土
- 12. オリーブ褐色粘質シルト
- 13. 粗粒砂

第18図 中世 SK・SE平面図・断面図 (1)

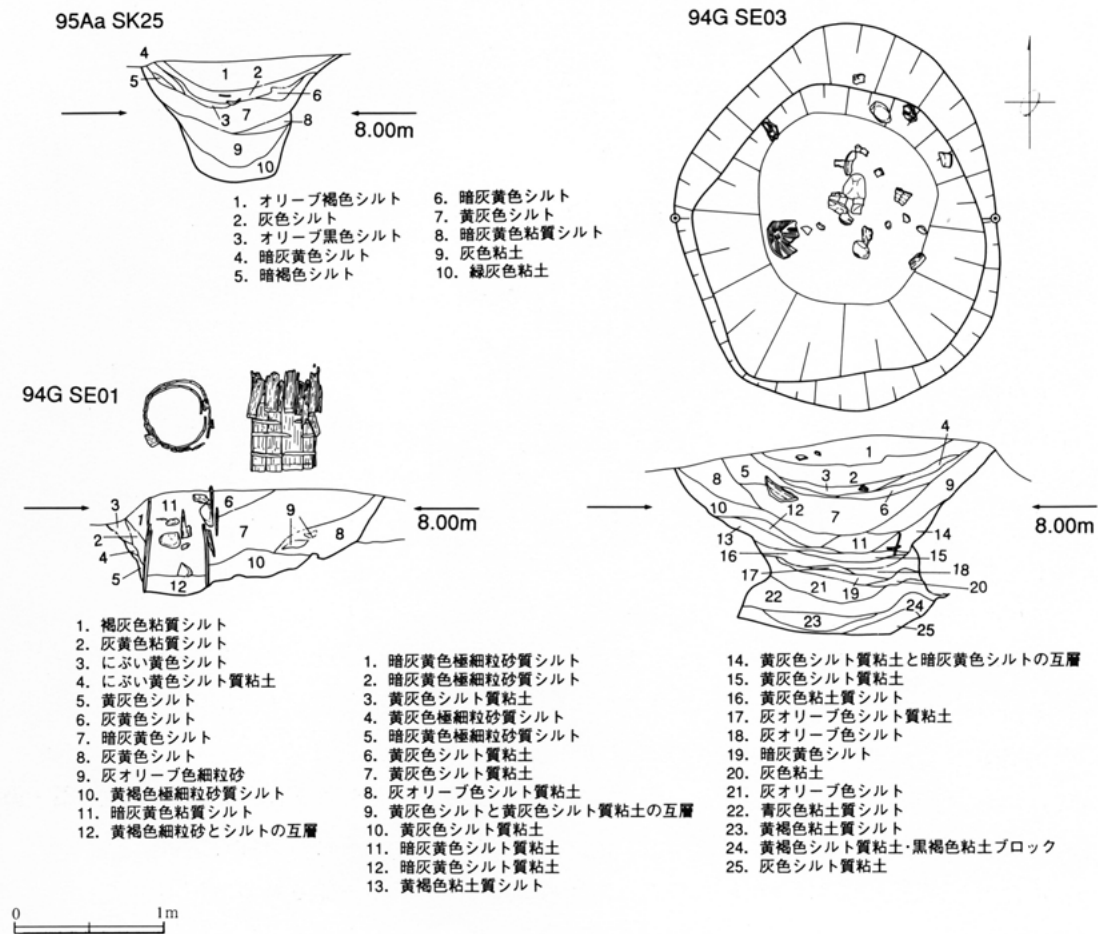
95Aa SK56



95F SE02



第19図 中世SK・SE平面図・断面図(2)



第20図 中世SK・SE平面図・断面図 (3)

Ⅳ 遺物

1 古墳時代以前の遺物

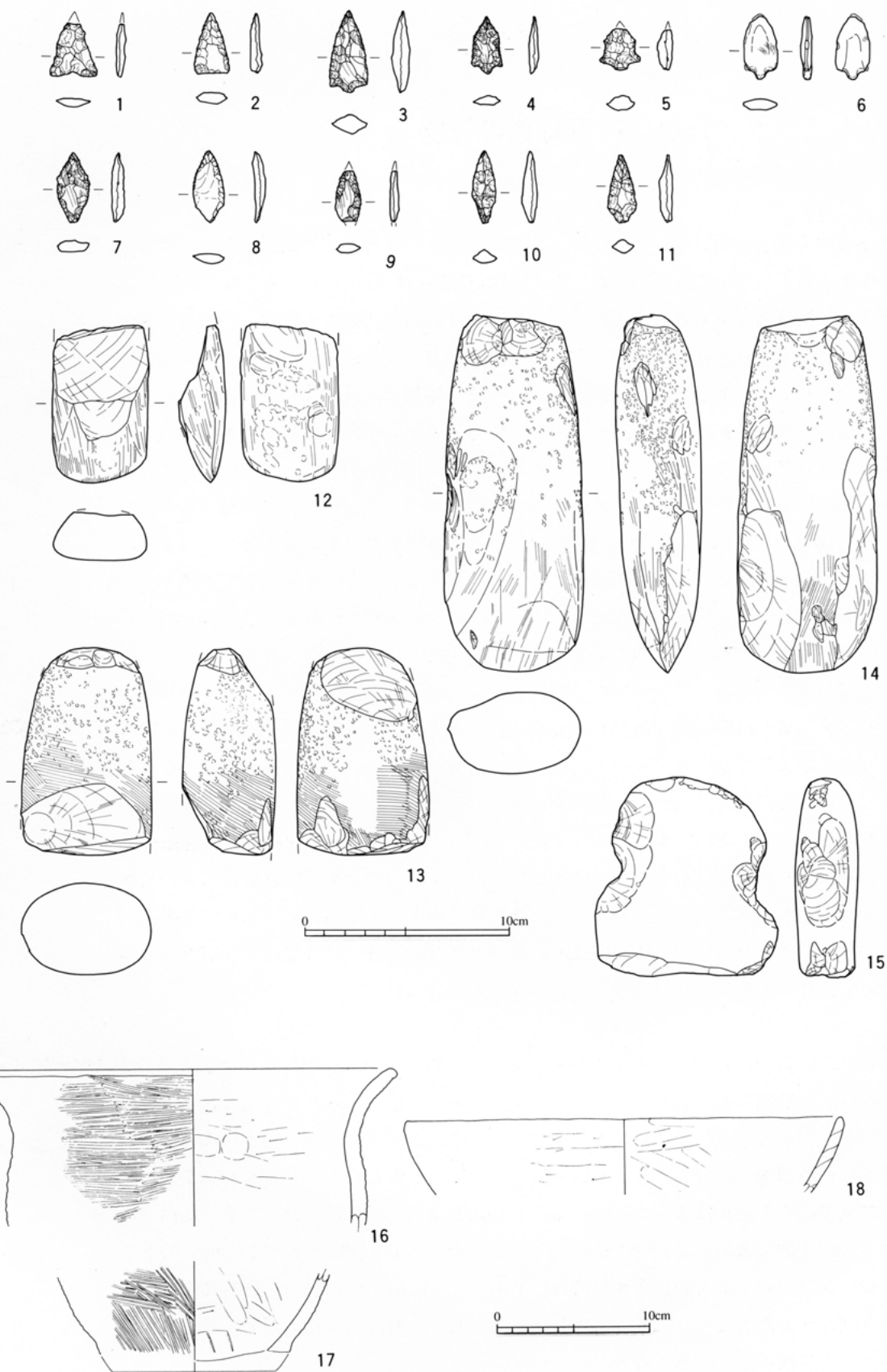
遺構外出土ではあるが、95Aa・Ab区南辺を中心とした範囲、包含層Ⅲ・Ⅳ出土遺物に石器、弥生土器がある。

石鏃、磨製石斧、未製品などがある。いずれも遺構外出土であるものの、その分布範囲は95A区古墳時代遺物包含層、95F、94J区の同じく古墳時代土器類を比較的多く検出した周辺に集中する。1～9、11は石鏃10点（うち6は磨製石鏃）、10は石錐、磨製石斧3点、不明石製品、その他未製品・剥片などがある。石鏃、石錐はすべて下呂石と呼称される細粒玄武岩（ガラス質石英安山岩）である。また下呂石剥片9点、チャート剥片2点を検出した。13、14の2点は大型蛤刃石斧であり14はほぼ完存しており、刃部を研磨するのみで残りは敲打痕をのこしている。95A区古墳時代遺物包含層下位より出土した。13は基部のみで刃部を欠損している。15は（石材）の用途不明石製品である。成形は初期の段階にとどまり判断は困難であるが、2箇所凹部をもち多頭石斧の未製品かとも思われる。

古墳時代以前の土器は、直接遺構に伴うものではないが、少量認められる。18は縄文時代後～晩期に属すると考えられる粗製の鉢。16・17は条痕の鉢で、同一固体の可能性もある。16はやや屈折気味に外反する口縁部の破片で、外面には横位の条痕が施される。17は底部破片で、条痕は縦位に施される。いずれも内面は平滑に仕上げられている。

石器

縄文土器・弥生土器



第21図 古墳時代以前の遺物実測図

2 古墳時代の遺物

19はS字甕C類*₁新段階。20～24はS字甕D類で、口縁端部に平坦面を有し、頸部の95AbSD206
凹線を痕跡として残すものが多いことから、概ね古段階の範疇として考えられる。25は
広口壺で、口縁端部にやや鈍い平坦面を有する。28は小型丸底壺で、口縁部径が体部径を
凌駕する形態ではあるものの、体部外面はヘラケズリ調整のみによっていることなど、粗
製化を看取することができる。29・30は、口縁部径と体部径がほぼ等しくなると考えられ
る小型の壺であるが、器壁は厚い。31は偏平な体部を有する小型の壺で、底部付近には雑
なヘラケズリ調整が施される。32の小型の壺には比較的精良な胎土が用いられている。33
は単純口縁を有する大型の壺で、口縁端部は上方へつまみ上げられる。34～38は無透穴屈
折脚高杯。34の脚柱状部は肉厚で、口縁端部はヨコナデによりわずかに外方へとつまみ出
され、脚裾の端部は下方に突出する。杯部外面の下端にはヘラミガキ調整を観察すること
ができ、脚柱状部内面にはシボリ目をとどめる。35はやや深めの杯部を有し、脚柱状部外
面は指頭ナデで整えられる。38の脚裾端部は下方へ突出するが34に比べて鈍い。

40はS字甕C類新段階。39・41はS字甕D類古段階で、口縁部下段が肥厚する。39は肩95AbSK102
部の張りを留め、体部上半のヨコハケが2条の断続的な刻線となって残る。体部内面は板
状工具による調整が施される。42はS字甕の小型品で、一見するとC類の特徴を有してい
るが、体部のハケメは器壁に浅く刻まれるうえに羽状をなさない。さらに、白色系の胎
土、口縁部のつくりなど、通常のS字甕とは趣を異にする点が多く、内外面にススの付着
を観察することもできない。43・44は開き気味の柱状脚を有する高杯で、脚柱状部の上部
にはほぞが挿入されている。43の脚柱状部内面はヘラケズリ調整。44は深めの杯部を有する
やや大型の高杯。ともに包含層Ⅲ層からの混入と考えられる。

45はいわゆる山陰系口縁が付加されたS字甕。口縁部は指で整えられ、比較的薄いつ95AbSB102
くりである。口縁部の段の屈曲も鈍く、最終段階に近い形態とみられる。46はS字甕C類
新段階。47～51はS字甕D類。47は古段階の特徴を備えるが、48は口縁部から体部にかけ
て器壁がやや厚く均一化していることから中段階のものとみられる。50はやや小型のS字
甕で、口縁部はやや開き気味となる。52は口縁端部が上方につまみ上げられる単純口縁の
壺。53・54は中型の直口壺で、53の口縁部には2条のヘラ描き沈線がめぐる。55～57は小
型壺。58は小型器台、あるいは高杯の口縁部であろうか。59～61は無透穴屈折脚高杯。61
はハケメ調整が基調となり、一部指によりナデ消される。脚柱状部は肉厚で、外面には幅
の広いメントリ状のナデが施される。

62はく字口縁台付甕。口縁端部はわずかに外方につまみ出され、器壁はヘラケズリに95AbSK104

よって整えられるが、厚い。台部は八の字状に開く。63・64はS字甕D類で、口縁部の厚さが均一化し、器壁もやや厚くなっていることから、中段階に属するものと考えられる。65は中型の直口壺。66は広口壺の口縁部で、ヨコナデが強く施されることにより鈍い段が作り出される。67～70は無透穴屈折脚高杯。67・68の杯部外面は指で整えられるのみで、接合痕を観察することができる。

95Ab包含層Ⅲ層

71・72はS字甕B類古段階。74は有段高杯の脚部で、内彎志向を留め、透穴を中位よりやや上に3方穿つ。75は手焙り形土器で、口縁部が受口状を呈する鉢部に覆部を接合した形態。鉢部の口縁部から内面にかけて接合面となるが、口縁部は外方に突出しない。

76はS字甕B類、77はS字甕C類古段階の特徴を有する。78～80はS字甕C類新段階。81～86はS字甕D類古段階。89は柳ヶ坪型壺で、口縁部内面の段は痕跡的となる。90は広口壺。92～95は柱状脚を有する高杯。92はやや深めの杯部を有し、内面はヘラケズリ調整が施される。93は脚柱状部がなかほどで膨らみを有し、内面にはシボリ目をとどめる。94の脚柱状部は肉厚で、外面の調整はハケメが基調となる点など、60の高杯に類似する。95は脚高が高く、裾部が緩やかに広がる形態。脚柱状部内面シボリ。96・97は直口壺。96の口縁部と体部外面上半は縦位のヘラミガキ調整。97の体部はやや偏平で、体部外面上半には横位のヘラミガキ調整が観察できるものの、下半はヘラケズリ調整が表面化する。98は有段口縁鉢*2で、体部内面には匙面状のヘラミガキが放射状に施されるが、体部外面下半にはヘラケズリ調整が表面化する。器壁は薄い。99は小型の壺で、底部は上げ底状となる。頸部には1状の凹線がめぐる。100は長めの頸部がやや膨らみをもち、口縁部が外反する器形で、口縁端部は内面に肥厚する。接合しない体部の破片からは、長胴というよりは、球形に近い体部の形態が想定される。頸部から体部にかけて、外面には細かいハケメ調整が施される。

101～108はS字甕D類新段階で、いずれも器壁は厚く、最大径を体部中位よりやや上におく。S字甕特有の体部外面に施される羽状ハケメが原則からやや逸脱したものも見受けられる。101～103は口縁部の鈍い屈曲が残存するものの、106～108は屈曲が完全に消失し、口縁端部がわずかに窪む形態となる。104・105は前者と後者の過渡的様相を示すものであろう。109～111はS字甕台部。112～114は宇田型甕1類*3。112は口縁端部がわずかに窪む程度で、肩部が張り、台部も偏平化していない点など、初期の宇田型甕の特徴をよく備えている。113・114は口縁端部がわずかに外方へ張り出す。115～117はく字口縁甕で、115は台付甕となる。117にも台が付されていた可能性が高い。118・119はく字口縁台付甕の台部。120は単孔型の甗で、頸部がくびれる形態。

121～137は高杯。121は杯部下端の稜が消失、脚裾に向かって緩やかに広がる脚部をもつ。脚裾端部は丸くおさめられる。122・123はやや浅めの杯部で、杯部下端に粘土帯を伴う。杯部と脚部は別づくりであったとみられ、脚部との接合部には粘土が継ぎ足されることによって補強される。126・127は浅く大きく広がる杯部で、127の口縁端部付近には2

条の沈線がめぐる。128・129はやや深めの杯部をもち、脚部は比較的緩やかに広がる。脚部内面は横位のヘラケズリ調整。130は大きく八の字状に開く脚部をもつ形態の高杯。杯部下端には垂下稜を伴う。131は深めの大きい杯部で、杯部下端には突帯が垂下される。132は小型品の脚部。133～137は緩やかに広がる脚部で、内面には横位のヘラケズリ調整が施されるものが多い。138は有段口縁壺。139～141は直口壺。143～146は小型壺の体部であるが、底部がやや広めの平底状となる形態（143）や、やや小型で底部がわずかに上げ底状となる形態（144）、体部中位が大きく張り出す形態（145）、やや扁平で丸底となる形態など、器形は変化に富んでいる。

後世の遺構の掘削により、二次的な移動を被った状態で検出された遺物のなかで、特徴的なものを以下にまとめておく。本来は包含層中に伴っていたと考えられる。

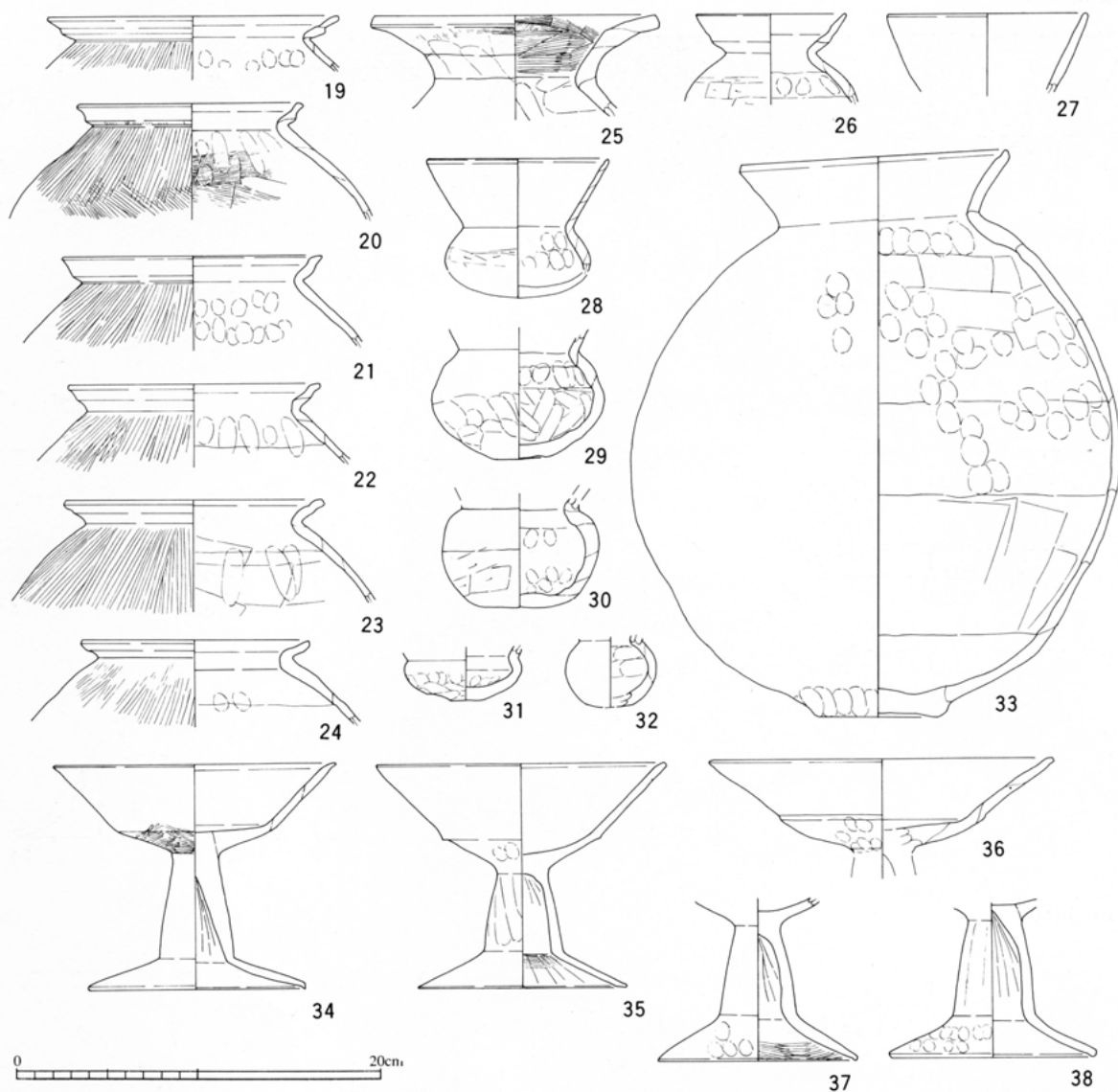
その他の古墳時代の土器

150～152はパレス壺の口縁部。150・151は口縁部内面が屈折し文様面が作出される。口縁部内面の文様は貝殻による綾杉状の刺突と単純な刺突の組合せにより構成される。口縁端部の拡張面には擬凹線と棒状の浮文が施され、赤彩される。152は単純に外反する口縁部で、口縁部内面の文様も櫛（ヘラ）状工具による羽状をなさない単純化した文様となる。口縁端部および頸部外面は赤彩される。153は小型の壺で口縁部の中位に突帯が垂下される。体部外面は横位のヘラミガキ調整。特徴的な器形と黒色系の胎土から搬入品と考えられようか。154は小型丸底壺で、口縁部内外面と体部外面上半にはほぼ等間隔で櫛状工具による沈線が施される。体部外面下半は横位のヘラミガキ調整。器壁は厚めでやや重厚な印象を与える。155は無透穴屈折脚高杯であるが、脚柱状部には鋸歯状の線刻が2段にわたって施される。156は布留式甕。やや小型で、体部は大きく張る球形を呈する。口縁部は内彎気味に外傾し、端部は内面に肥厚する。体部内面には入念なヘラケズリが施され、器壁は極限にまで薄く仕上げられる。体部外面にはススが付着する。157は小型のS字甕でD類の古段階に相当する。158はやや長胴を呈する甕。内外面は雑なハケメ調整で、口縁部は明確なヨコナデが施されずに指で整えられるのみ。底部付近は加熱赤変し、体部から口縁部の外面にはススが厚く付着する。

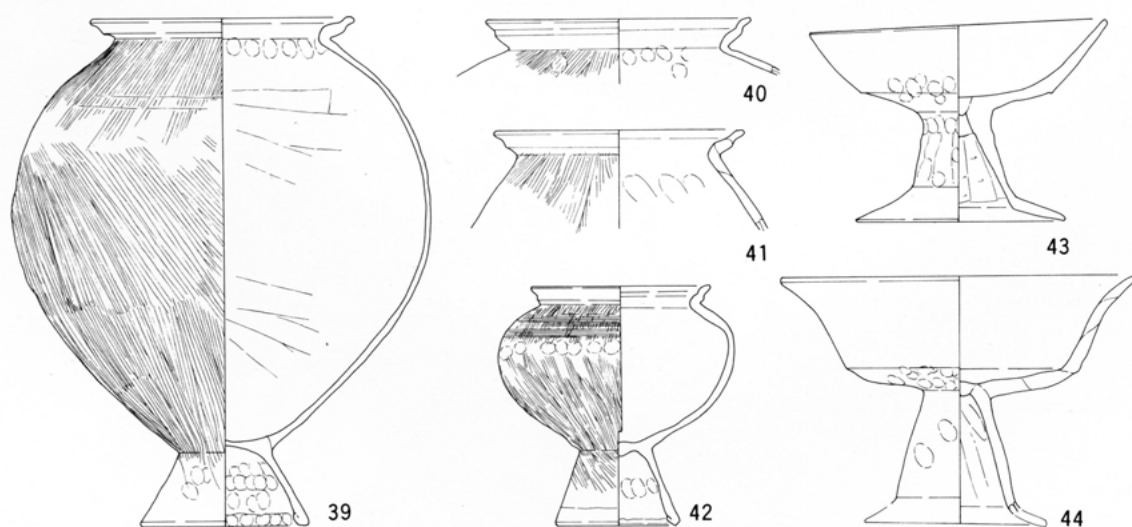
包含層出土遺物として数点の石製品を検出した。159はメノウのフレークであり全面に加工痕を残す。黄褐色～明褐色を呈する。160は滑石製管玉。161も滑石製の丸玉。162の砥石は、2面に研磨の痕跡があり、一方に幅1.3cmの溝状凹部をもつ。また側面との境にも同様のわずかな凹部をもつ。玉砥石と思われる。163は凝灰質砂岩製の石錘と思われる。穿孔は両側から行われ、また側面端部にはわずかな凹部がつくられている。

その他石製品

95Ab SD206

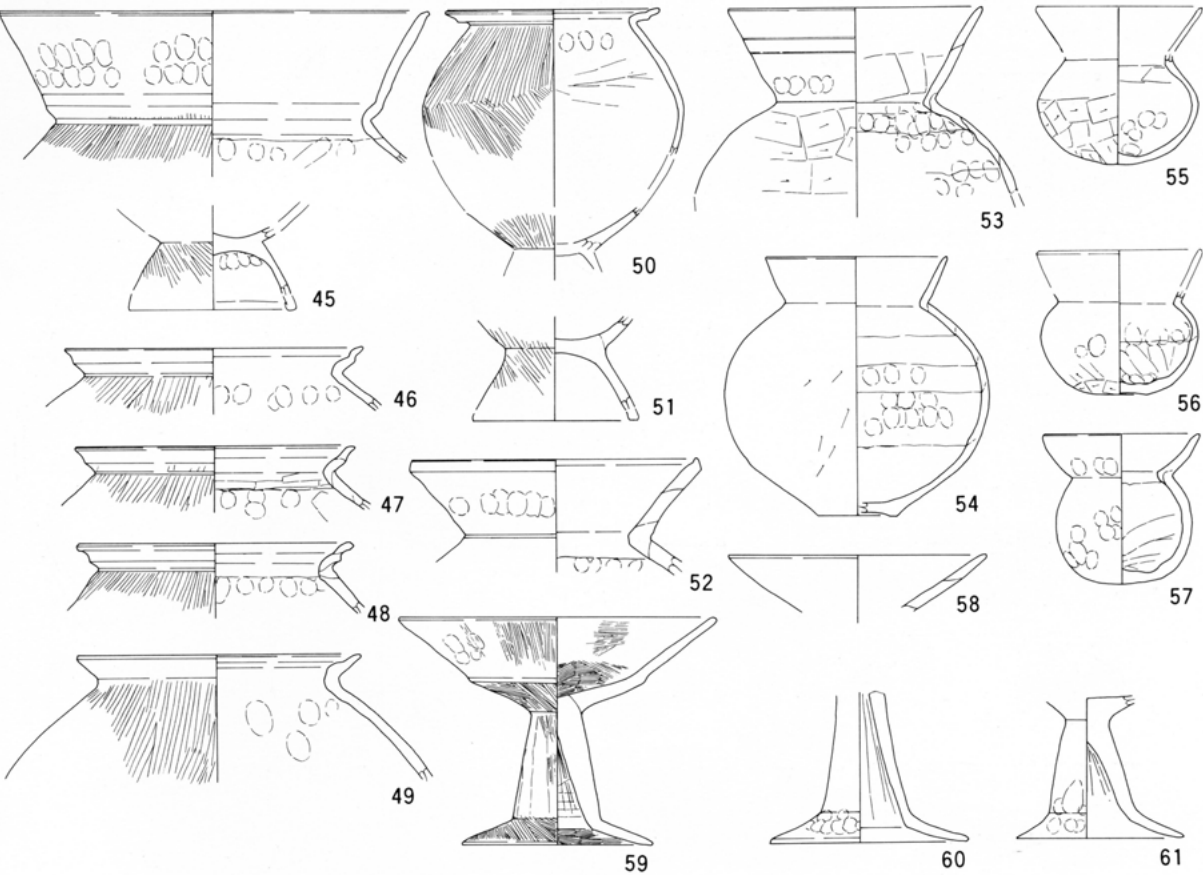


95Ab SK102

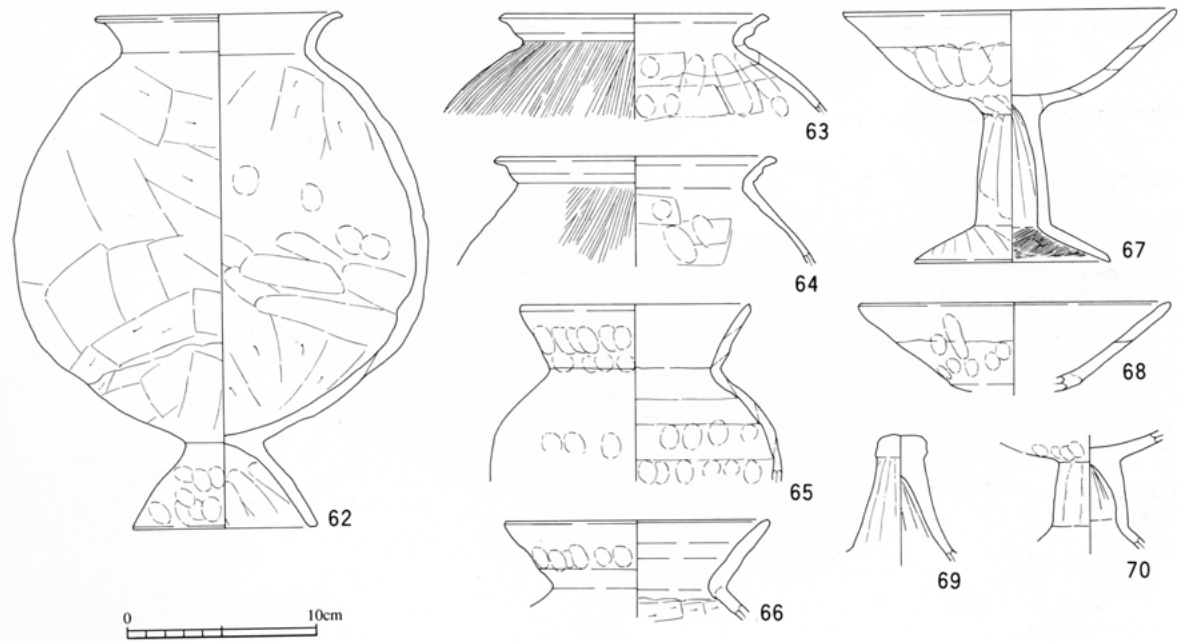


第22図 古墳時代遺物実測図 (1)

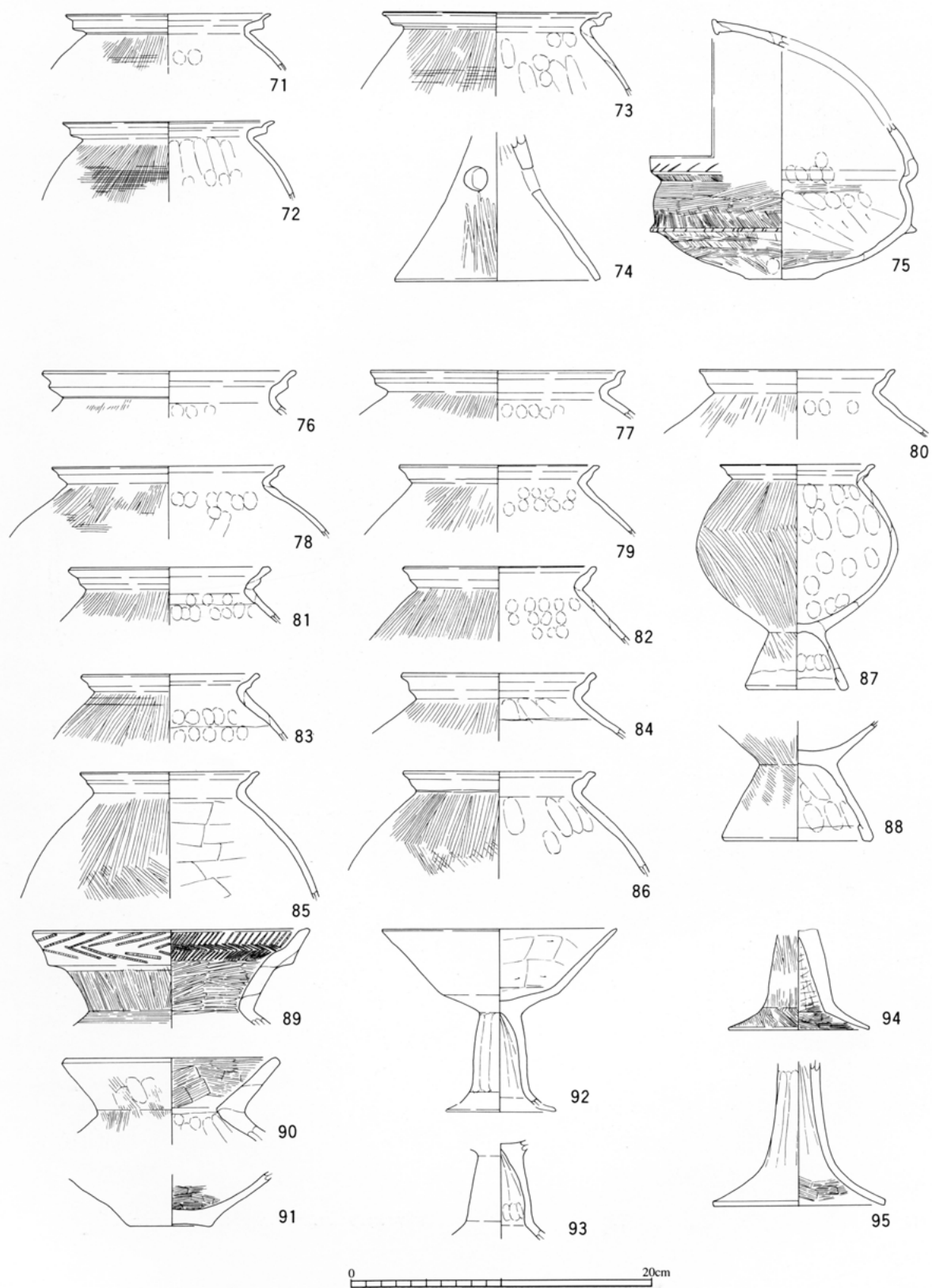
95Ab SB102



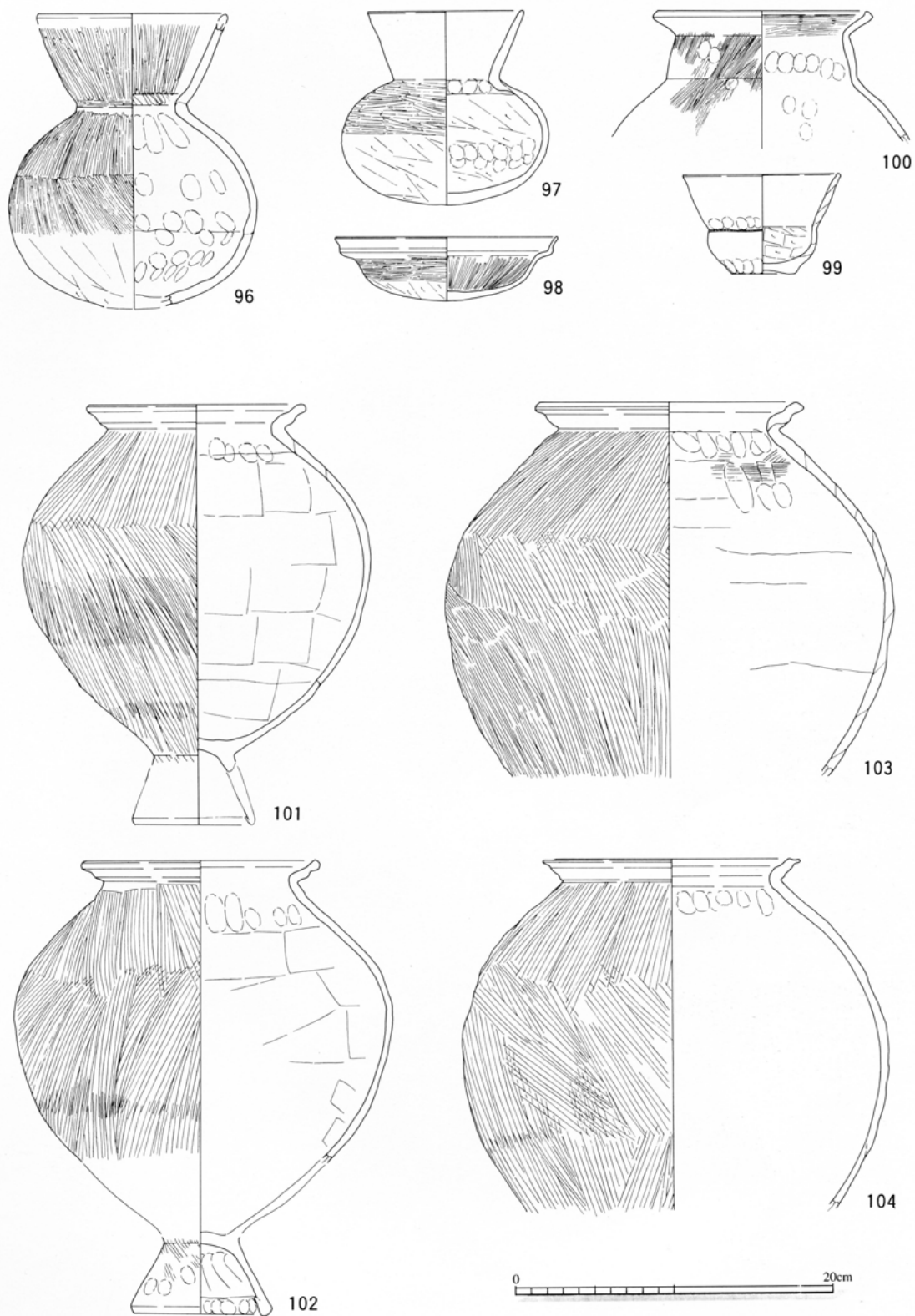
95Ab SK104



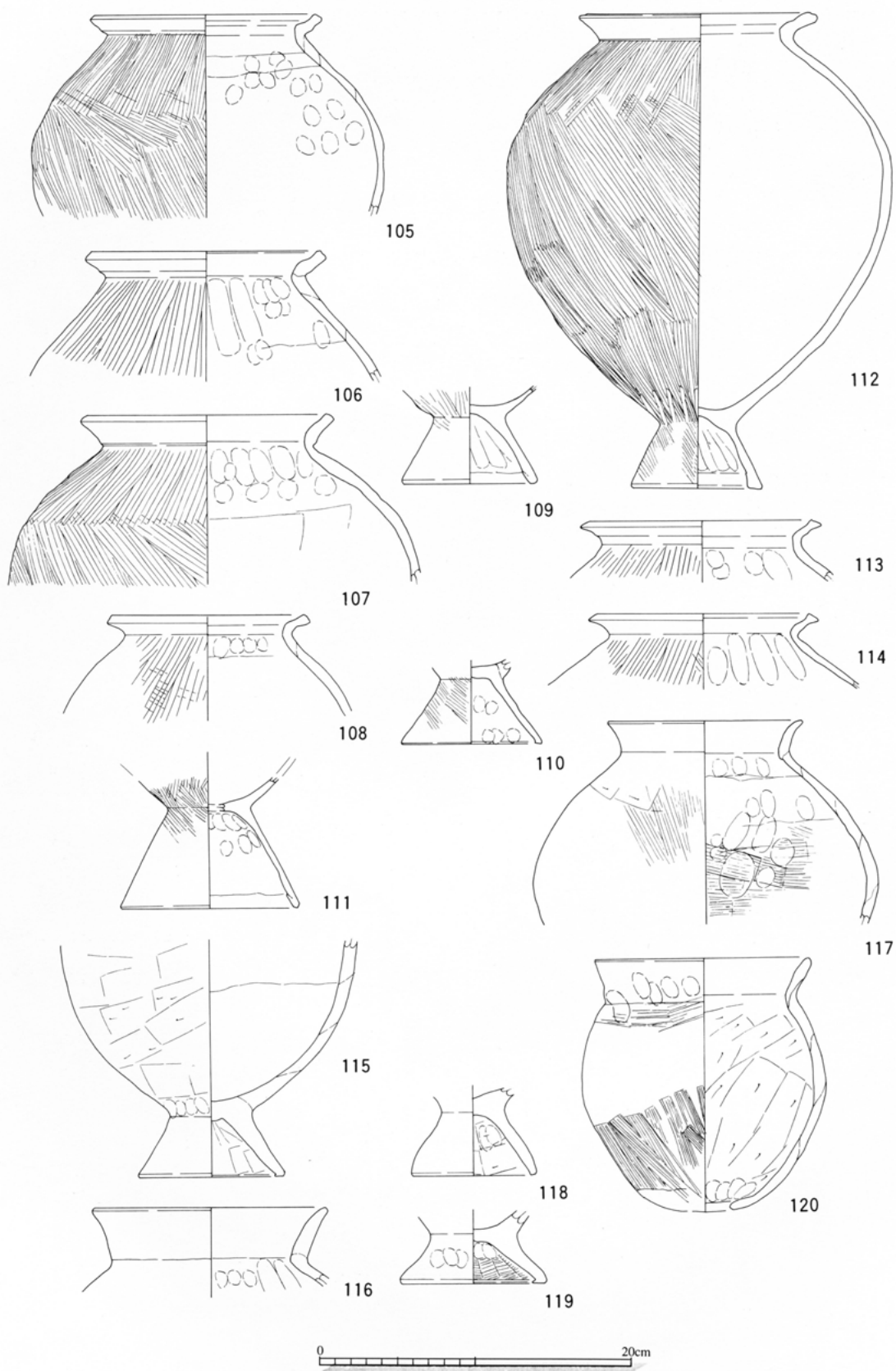
第23図 古墳時代遺物実測図 (2)



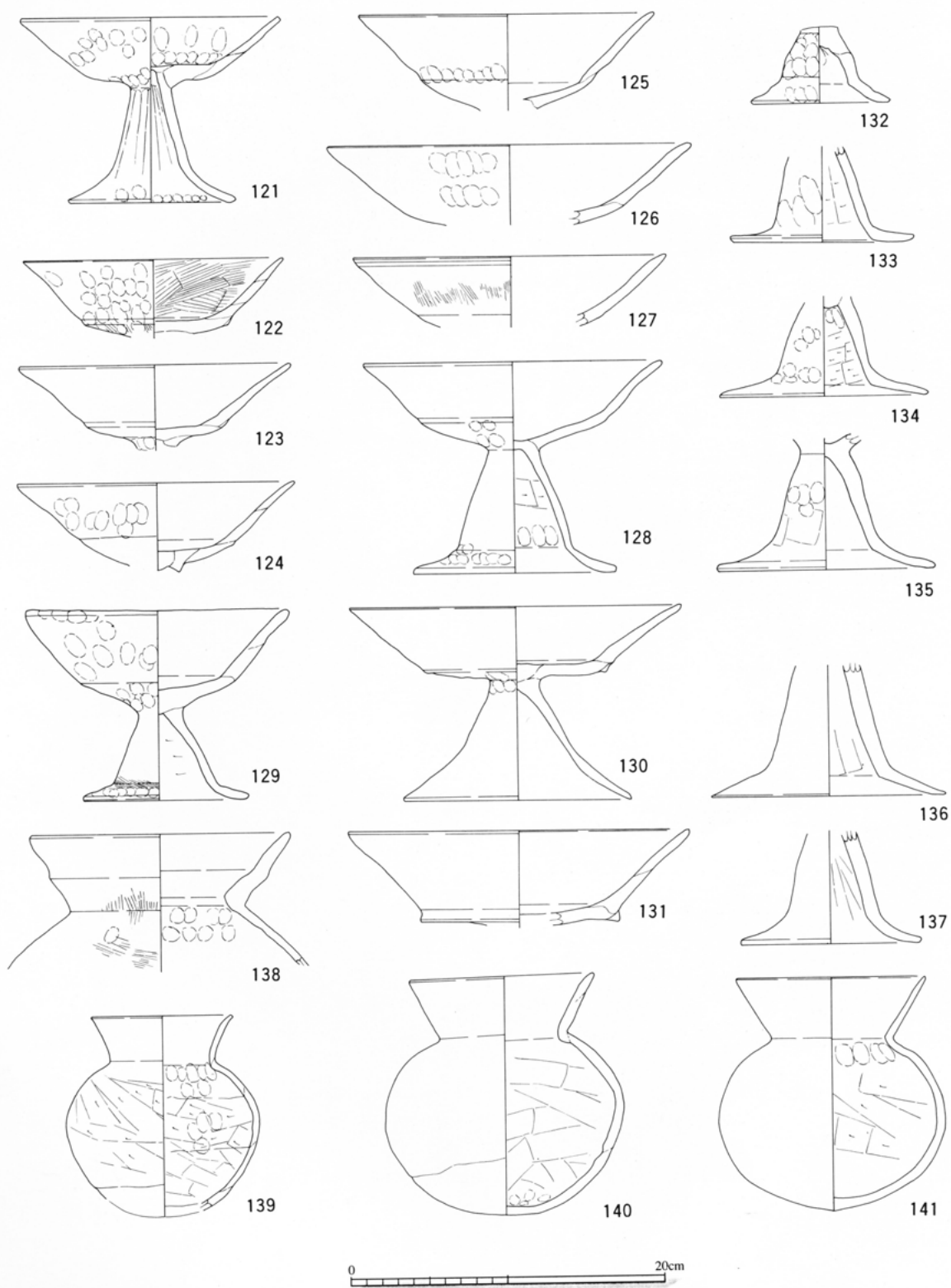
第24図 古墳時代遺物実測図 (3)



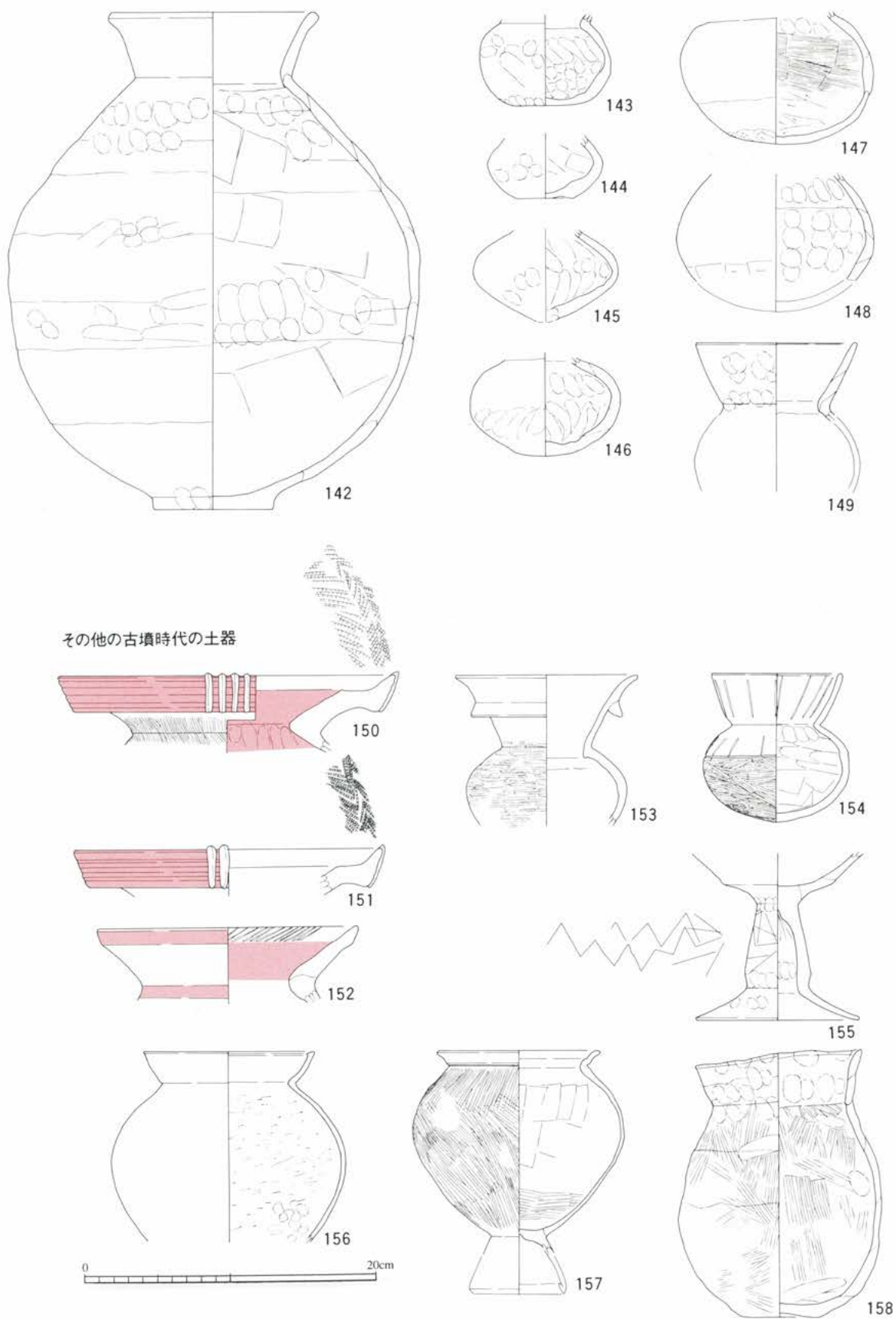
第25図 古墳時代遺物実測図 (4)



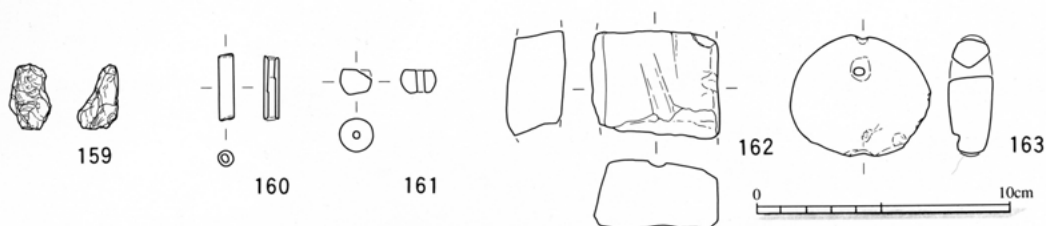
第26図 古墳時代遺物実測図 (5)



第27図 古墳時代遺物実測図 (6)



第28図 古墳時代遺物実測図 (7)



第29図 古墳時代遺物実測図 (8)

小結

大毛池田遺跡では土坑・溝などから、松河戸様式^{*4}を構成する良好な一括資料が得られた。以下にそのその編年的位置に関して述べる。

95A b区S D206から出土した土師器は以下の特徴をもつ。S字甕はD類古段階が主体となり、高杯は無透穴屈折脚高杯によって占められる。口縁部径が体部径を凌駕する形態の小型丸底壺が残存する、等である。周辺の出土資料と比較すると、岩倉市西北出遺跡溝B^{*5}から出土した土師器の内容とに多くの共通点を見出すことができる。これらの前段階に位置づけられる稲沢市堀之内花ノ木遺跡S D206出土土師器^{*6}、名古屋市月縄手遺跡上層資料^{*7}と比較するならば、柳ヶ坪型壺や小型器台はほとんど見られなくなり、多くの器種でヘラミガキ調整が欠落していくものと考えられる。器種が充実しないものの、95A b区S K102出土の土師器に関しても、95A b区S D206出土土師器とほぼ同様の編年的位置を認めることができよう。

95A b区S B02出土土師器は、S字甕はD類古段階のものが中心となるが、中段階のものも混在する。95A b区S D206出土土師器と比較すると、高杯の杯部の深さ、脚裾端部の調整手法や小型丸底壺の体部の形態等にも若干の後出的要素を見出すことができる。また、中型の直口壺が増加する傾向にある。

95A b区S K104ではS字甕D類は中段階のもののみとなる。高杯に関しても杯部の外面などで、調整手法の省略がさらに進行する。ただ形態的には95A b区S B02出土の高杯と大きくは隔たらないことから、95A b区S K104出土土師器は95A b区S B02出土の土師器の次段階に位置づけられるものと考えられる。さらには、高杯の杯部がさらに浅くなり、脚柱状部に膨らみを有するようになる春日井市松河戸遺跡S K102出土資料^{*8}の前段階に95A b区S K104出土土師器が位置づけられよう。

上記の編年的位置に関する記述から、大毛池田遺跡の遺構出土資料は松河戸I式を細分する基準資料となりうるものと考えられ、概ね95A b区S D206・S K102出土土師器がI式1～2段階、95A b区S B02出土土師器がI式2～3段階、95A b区S K104出土土師器がI式3段階にそれぞれ相当しよう。

遺構外出土遺物 一方、95 A b 区包含層Ⅲ層から出土した土師器は、廻間Ⅰ式末葉～Ⅱ式初頭*₉ (71～75、包含層Ⅲ層A群)、廻間Ⅲ式末葉～松河戸Ⅰ式前半 (78～100、包含層Ⅲ層B群)、松河戸Ⅱ式 (101～158、包含層Ⅲ層C群) の時期にまとまりをもつ。

包含層Ⅲ層A群の土師器が示す、廻間Ⅰ式末葉～Ⅱ式初頭の時期は大毛池田遺跡における水田の開削時期にあたる。A群の出土土師器は量的には充実しないものの、S字甕B類古段階、脚部に内彎志向をとどめた有段高杯、手焙り形土器によって構成される。

包含層Ⅲ層B群 (廻間Ⅲ式末葉～松河戸Ⅰ式前半) は、主にS字甕C類新段階～D類古段階、無透穴屈折脚高杯、柳ヶ坪型壺、有段口縁鉢などによって構成される一群である。

包含層Ⅲ層C群は、包含層出土土師器中、最もまとまりをもつ一群であり、この一群が示す時期の松河戸Ⅱ式は大毛池田遺跡における水田の埋没時期にもあたる。包含層Ⅲ層は洪水性の堆積によって短期間のうちに埋没したものとみられるうえ、C群の遺物の残存率はきわめて高い。つまり、今後、周辺の遺跡から出土した資料との比較検討を経たうえで一括資料として扱えることになると思われる。S字甕は新段階のD類 (なかでも106～108はその最終形態とみられる) で、宇田型甕1類もみられる。単孔型の甕が組成に加わる。高杯では、杯部下端の稜が消失するか、痕跡となって残る程度になり、脚部は下膨れの柱状部で裾が緩やかに広がる形態が多くなり、脚部内面には横位のヘラケズリ調整が一般化する。やや大型で、大きく八の字状に広がる脚部をもつ高杯も出現する。これらの諸特徴は松河戸Ⅱ式、なかでも前半期の特徴を示しているものと考えられようか。

註

- 1) 赤塚次郎「S字甕覚書'85」『年報 昭和60年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1985年
- 2) 尾張では山中遺跡S Z 12、岩倉城遺跡S X 1201・S K 1204、月縄手遺跡S X 01などで出土例が知られる。
服部信博編『山中遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1992年
松原隆治編『岩倉城遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1992年
樋上昇編『貴生町遺跡Ⅱ・Ⅲ 月縄手遺跡Ⅱ』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1992年
- 3) 赤塚次郎「松河戸様式の設定」『松河戸遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1994年
- 4) 赤塚次郎、前掲註(3) 文献
- 5) 浅野清春・安達厚三「西北出遺跡の土師器」『いちのみや考古』No18 1971年
服部信博「岩倉城下層出土の古墳時代前半期の遺構と遺物」『年報 平成元年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1990年
- 6) 蟹江吉弘編『堀之内花ノ木遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1994年
- 7) 樋上昇編、前掲註(2) 文献
- 8) 赤塚次郎編『松河戸遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1994年
- 9) 赤塚次郎「V 考察」『廻間遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1990年

3 古代の遺物

古代の遺物は、遺構出土の大半が溝資料で、いくつもの調査区をまたがる大規模な遺構から出土している。そのため、資料の一括性が乏しく細かな時期設定を妨げる。したがって、遺構の時期決定が自ずと時期幅を持つことになる。古代の遺物については、概ね7世紀から9世紀が中心となる。そこで溝を中心に遺構配置から資料を見ていくと、大きく2群の時期設定が可能となる。一つは6世紀末から7世紀代の遺構群（溝A・B・C・D）、もう一つは8世紀から9世紀代の遺構群（溝E・F、居住域A・Cなど）に分けられる。後者については溝Eの遺物出土層位から8世紀後葉を境に遺物群（上層・下層）が分けられる。したがって、大別で2期、細別で3期に分けて進めていく。

時期設定

分類の基準は須恵器について城ヶ谷分類（城ヶ谷 1993）を、灰釉陶器について斉藤分類（斉藤 1994）を、土師器甕について永井分類（永井1996）を参考にして提示する。また、須恵器の杯・椀・蓋・盤については杯A、杯Bなどの分類を使用する。

器種分類

杯H：古墳時代から続く器形で立ち上がりとし蓋受けを持つ杯身（杯H身）とつまみを持たない杯蓋（杯H蓋）の組合せ。杯A：無台杯身。杯B：平底で底部に高台がつく杯身。蓋A：頂部につまみがつき、内面の端部近くにかえりを持つ蓋。蓋B：頂部につまみがつき、蓋Aとは異なりかえりがない蓋。蓋C：頂部につまみがつかず、天井部に平らな面を持つ蓋。椀A：高台がつかない椀。椀B：高台がつく椀。盤B：低い高台のつく盤。盤C：盤Cに比べやや高く「八」の字に開く高台のつく盤。高盤：高杯のように円柱状の脚を持つ盤。

須恵器

上記以外に高杯・長頸瓶・甕・甗などがある。

椀（椀・深椀）・皿（皿・段皿）類の他に、手付瓶・浄瓶などがある。

灰釉陶器

基本的には伊勢系甕と濃尾系甕の2種がある。

土師器甕

口縁端部が断面三角形の摘み上げ状となる。小型品は球形の体部。中・大型品は長胴の体部。底部はいずれも丸底。体部外面のハケ調整は細かく縦方向に行われる。内面は下半部に縦方向のケズリ調整を行うものもあるが基本的には横方向のハケ調整。

伊勢系甕

体部外面調整と底部成形技法に特徴のある甕。今回は全形をとどめる資料に恵まれないが、その特徴を示す。器形は長胴の平底甕。口縁部は頸部から水平近く折れ曲がり、体部に比べ肥厚する。体部外面の調整は器壁を薄く仕上げるためケズリ調の荒々しいハケ調整となる。底部は内面に有段接合痕が認められる。底部外面には木葉痕が見られるものもある。

その他の器種

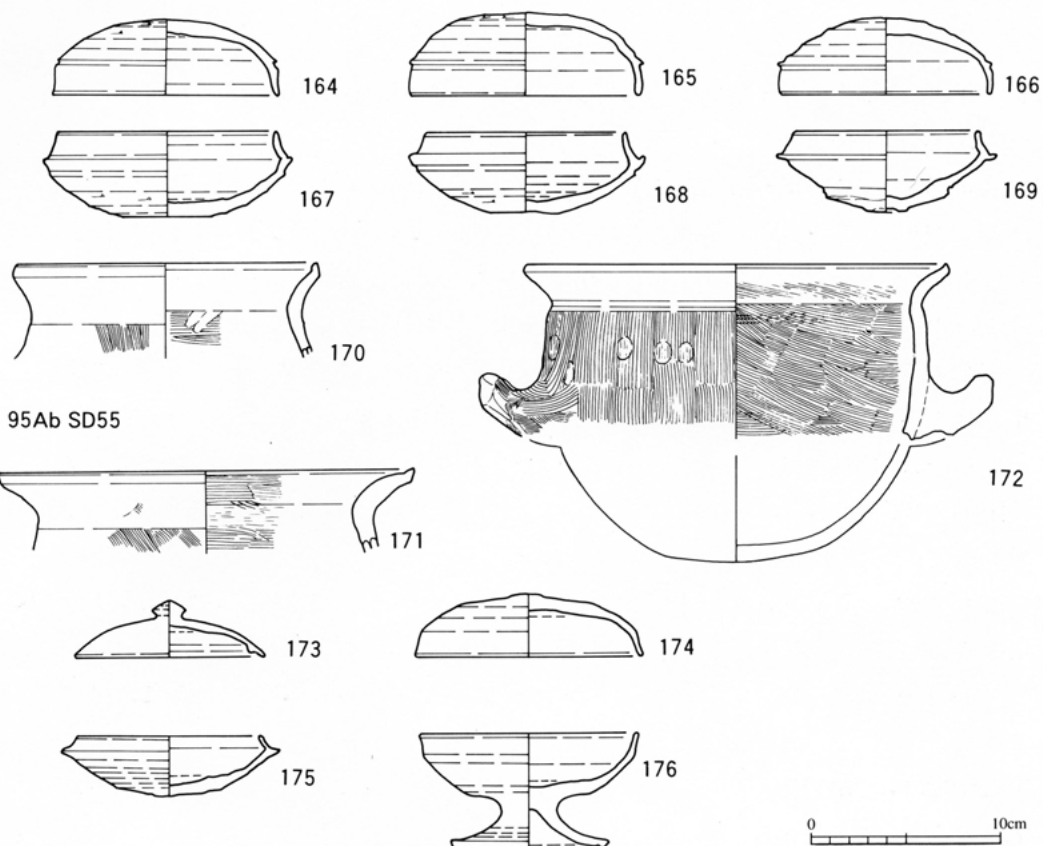
上記以外に畿内産土師器・黒色土器・瓦器などがある。

164～172は94JSD19出土資料。164・165は須恵器杯H蓋。天井部との境に明瞭な稜線が入る。天井部付近には回転ヘラケズリ調整が施されている。167・168は須恵器杯H身。受部は内傾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げ、蓋受けは僅かに突出する。164・165・167・168は東山44号窯式に相当する。166は須恵器杯H蓋。164・165に比べ口縁部が内側

溝A

溝A

94J SD19



95Ab SD55

第30図 古代遺物実測図 (1)

に向く。169は須恵器杯H身。底部は粗雑な成形。166・169は岩崎17号様式に相当する。170・171は土師器伊勢系甕。いずれも7世紀代となるが口縁端部の形状が170は垂直方向に立ち上がり、171は外反気味になることから、170は7世紀前半、171は7世紀後半とした。172は把手の付く伊勢系鍋。6世紀から7世紀前半に見られる器種。底部は欠損しているが丸底の鍋。

173～176は95AbSD55出土資料。173は擬宝珠形のつまみが付き、内面の端部近くにかえりをもつ須恵器蓋A。内面のかえりが口縁端部を結ぶ線より上方に付くことから岩崎17号窯式でも新相となる。174は須恵器杯Hの蓋。天井部との稜線が明確にならない。175は杯身。受部が内傾し、底部がやや尖る。176は須恵器高杯。脚部に透穴がない低脚のもの。

溝B 177～192は94C SD03・10出土資料。177～183は須恵器。177～179は杯H。全体に丸みを帯びたプロポーシオン。180は甕。体部上位に1条、体部中位に2条の沈線が入る。注口部は下方がやや突出し、穿孔時の丁寧な調整はない。181は大型の甕。口縁端部は玉縁状にやや丸味を帯びる。182は短頸壺。体部から直立して口縁部までのびる器形。体部上位に1条の沈線が入る。183は鉢（甕）。体部中位に1条の沈線が入る。184～192は土師器。191は甕。底部中央が板状の帯により分割される。185～190・192は伊勢系甕。184は

口縁部がやや直立気味になるものでこの時期に稀にみられる口縁部形態の甕。94CSD03・10資料はおおよそ7世紀後半に比定できる。

193～202は94MaSD10資料。193～200は須恵器杯H。193・194は受部が内彎せずに立ち上がる古い様相を持つ。東山44号窯併行の杯身。195～200は東山50号窯式併行の杯蓋（195～197）と杯身（198～200）。201・202は土師器甕。いずれも伊勢系甕。94MaSD10資料は193・194が1時期古い様相となるものの、おおよそ7世紀後半に比定できる。

203～210は94DSD15資料。須恵器は203のみで、その他は土師器甕。203は脚部に2段の透孔を持つ長脚高杯。6世紀後葉。204～210はすべて伊勢系甕。204～207は小型で球胴丸底。208～210は中型で長胴丸底。一般に尾張平野で出土するこれら伊勢系甕は7世紀前半まで体部内面下半を板ケズリする（204・205）ようで、これら伊勢系甕は6世紀後半～7世紀前半に比定できる。

211～213は94JSD18資料。すべて須恵器。211・212は杯H身。211は受部が212よりも溝C若干垂直に上がる古い様相を残す。いずれも7世紀後半。213は横瓶の口縁部でやや受口気味となる。7世紀前半に比定できる。94JSD18資料は213がやや古いものの7世紀代に比定できる。

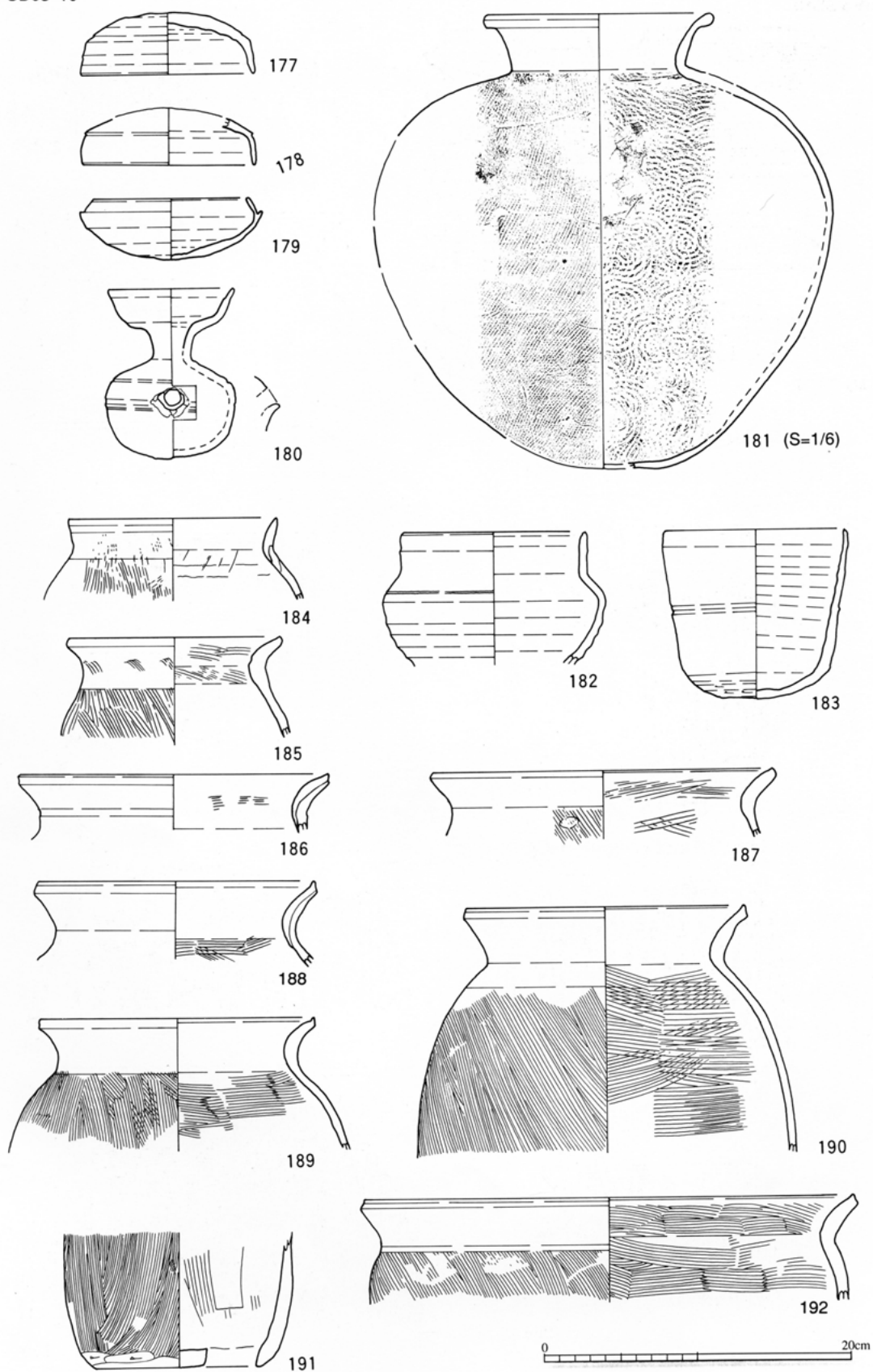
214～216は94BaSD201資料。すべて須恵器杯H。214が杯蓋、215・216が杯身。いずれも東山50号窯式比定できる。

217～220は95BaSD202資料。217～219は須恵器。218は杯Hの蓋。218は体部に1条の溝D沈線が入る鉢。219は頸部上位に波状紋とその下に2条の沈線が入る甕。220は土師器で伊勢系甕。95BaSD202は219が6世紀に遡る可能性はあるものの、7世紀後半に比定できる。

221～232は94JSD17資料。221～228は須恵器。221～224は杯H。225は杯A。226は透孔のない高杯。杯部に沈線が1条入る。227は甌か？。228は横瓶。229～232は伊勢系土師器甕。94JSD17は221・222が7世紀前後に遡る可能性はあるが、おおよそ7世紀後半に比定できる。

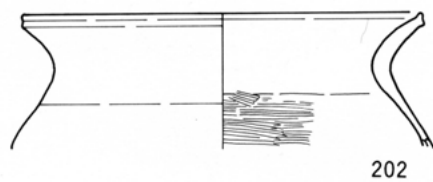
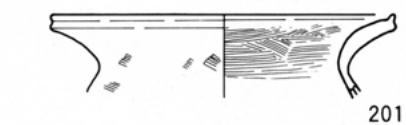
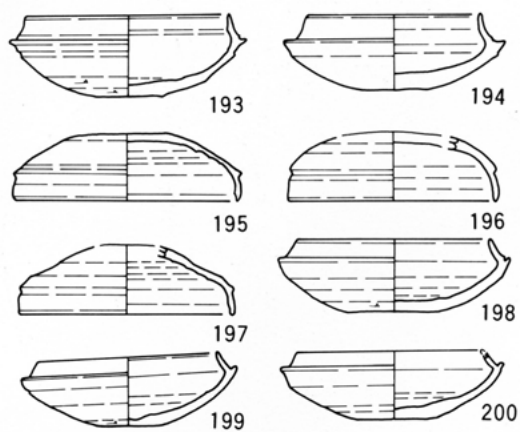
溝Eの資料は出土層位から上層と下層に分けられる。時期的には厳密に分けられない溝Eが、おおよそ8世紀前半を中心とする下層資料と、8世紀後葉を中心に9世紀代までの上層資料に分けられる。

233～253は94CSD11資料。233～239・241・242は須恵器。233・234は蓋B。233は内面に「濃」刻印が見られる。刻印形式はA-I-1に相当する（岐阜市教委 1981）。235は杯A。236は碗。口縁部直下に1条の沈線がめぐる。体部および底部は回転ヘラケズリ。237は鉢B。体部は球形で口頸部が直立する。238は杯B。内面は使用痕がみられる。底部外面は回転ヘラケズリ。239は杯A。241は碗A。底部外面に静止糸切り痕がみられる。242は鉢B。240は上層資料で灰釉陶器碗。243～250は土師器甕。243は底部下半外面を板ケズリする近江系甕。244～247は伊勢系甕。248～250は濃尾系甕。250は底部外面に木葉痕が見られる。94CSD11資料は240の上層資料以外は8世紀前半の下層資料に比定でき

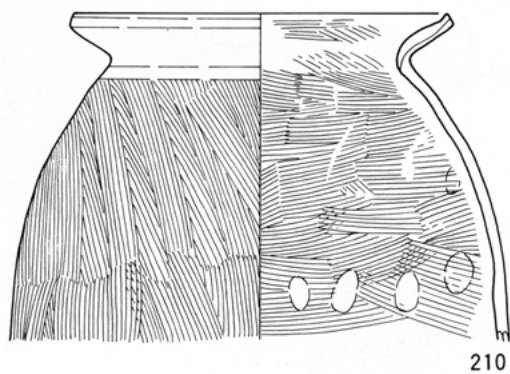
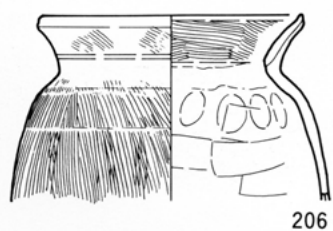
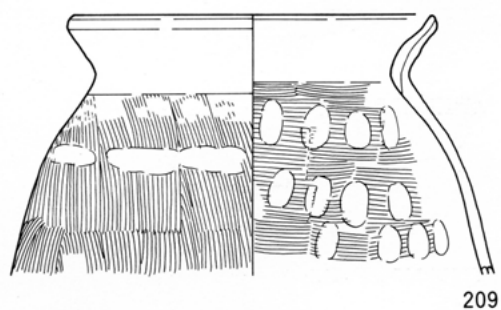
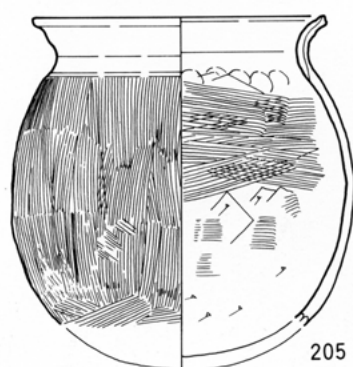
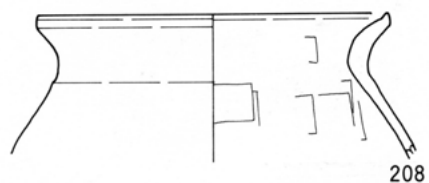
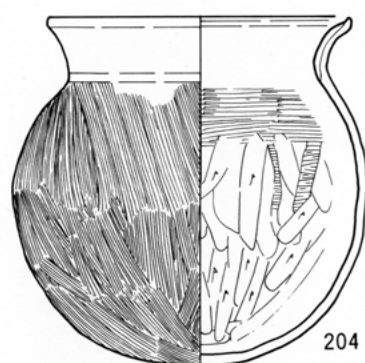
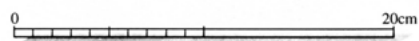


第31図 古代遺物実測図 (2)

溝B
94Ma SD10



94D SD15



第32図 古代遺物実測図 (3)

溝C

94J SD18



211

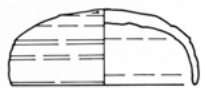


212



213

94Ba SD201



214

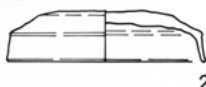


215



216

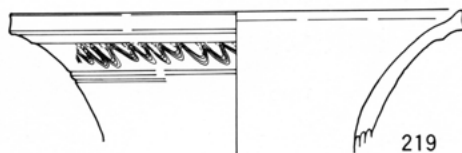
95Ba SD202



217



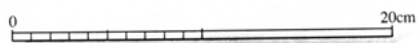
218



219



220



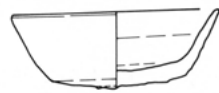
94J SD17



221



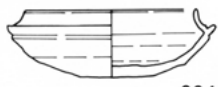
223



225



222



224



226



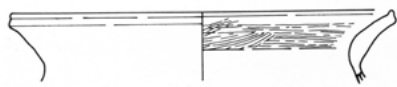
227



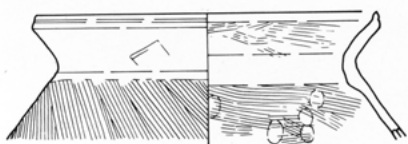
228



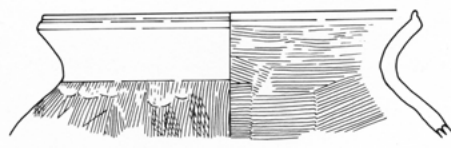
229



230



231



232

第33図 古代遺物実測図 (4)

る。251～253は溝E掘削以前の須恵器。251は7世紀後葉の鉢B。252は東山11号窯式の杯H。253は東山50号窯式の杯H。

254～272は93BNR02資料。254～260が下層資料。254～258は須恵器。254は蓋のつまみ部分が環状となる。関東産か？257は金属器模倣の椀。259・260は土師器で伊勢系甕。これら下層資料は8世紀前半に比定できる。261～272は上層資料。261～269は須恵器。263の杯Aの底部には「十」の墨書表記がある。265・267・268は長頸瓶。266は水瓶。269は2ヶ所に把手が付く鉢。270～272は灰釉陶器。272は耳皿。下層資料は時期幅があり8世紀後葉から9世紀前葉までを含む。

273～292は95AaSD101資料。280・277が下層資料（8世紀中葉）の可能性があるものの、すべて上層資料。287・288は灰釉陶器椀。いずれも黒笹90号窯式。なお、288の底部外面に「富」の墨書表記あり。これら以外は須恵器。279は底部に墨書表記のある杯A。280は口縁部が有段となり立ち上がる杯Aで8世紀中葉。284は灰釉陶器写しの椀Bで、扁平な高台が付く。286は高盤の脚部。289・290は長頸瓶。289は口縁部の形状が内彎する形態、290は口縁部が下方に垂れ下がる形態。95AaSD101資料は8世紀後葉を中心に8世紀中葉～9世紀前半の時期幅を持つ。

293・294は94GSD02資料。いずれも上層資料。293は蓋Bで折戸10号窯式、294は鉢で8世紀末。

295～346は95FSD201資料。ほとんどが上層資料。下層資料は320～322、344・345のみ。320は体部上位に把手が付く須恵器甕。把手は3あるいは4ヶ所、8世紀初頭。321は須恵器鉢で8世紀初頭。322は須恵器甕8世紀前半。344・345は伊勢系土師器甕でいずれも8世紀前半。

295～319、323・324・337は須恵器。295～300は蓋Bで折戸10号窯式。301・302はつまみのない蓋C。いずれも9世紀前半。303～312は杯A。いずれも8世紀後葉。306は「田」(?)の墨書表記がある。311は「福」(?)の墨書表記がある。313～315は椀A。いずれも8世紀後葉。314・315は底部外面に回転糸切り痕がみられる。316・317は椀D。316は器形から灰釉陶器写しか？、9世紀前半以降。318は盤B。319は盤C。323は甕、口縁部がT字状になり水平に折れる。324は甌の底部。底部の形状は一段大きく外に張り出す。底部の穿孔は中央に円形、その周辺に楕円形の小孔がめぐるもの、8世紀末。

325～338は灰釉陶器。ただし333は緑釉陶器。内面中央にハケ塗りとトチン痕が確認できる、黒笹14号窯式。325は椀で黒笹14号窯式。326は椀で黒笹90号窯式古段階併行。327はツケ掛け、三日月高台の椀で折戸53号窯式併行。溝Eの資料としては最も新しい時期のもの。328～332は皿で、すべて黒笹14号窯式。334は脚付香炉、黒笹90号窯併行。335は金属器模倣の蓋のつまみ部分か？、336は浄瓶の注口部分、いずれも全形を留めていないが黒笹90号窯式併行と思われる。338は小瓶で黒笹90号窯式併行。

339は黒色土器の鉢。内外面にわたりいぶして黒色化している。内外面ともに横方向のミガキ調整がなされている。表面には砂粒子がみえる。340は黒色土器。畿内系Ⅲ類（森

1995)に類似する。内黒で内面は横方向のミガキ調整がなされている。341はいわゆる畿内産土師器。外面下半にヘラケズリ調整がみられる、内面に暗紋は見られない。伊勢産の土師器の可能性もある。

342は6世紀後半以前の土師器甕。345は濃尾系土師器甕。346は伊勢系土師器甕、口縁端部の面取りが強く凹状になる。伊勢系甕のなかでも古い様相を持つ口縁形態で6世紀後半以前。

347～386は94MbSD09資料。379～381の土師器甕以外は下層資料。347～363・378は須恵器。347・348は蓋B。347は348に比べてやや大型、口径が17.8cm。天井部約1/2に回転ヘラケズリを行い、扁平なつまみ部が付く。348は口径が14.6cm、天井部約1/3に回転ヘラケズリを行う。いずれも折戸10号窯式。349は小型の蓋で、壺蓋か？つまみ部分が欠損している、折戸10号窯式併行。350～352は杯A。いずれも折戸10号窯式併行。362は杯Bで8世紀末。354～356は椀A。356は底部に回転糸切り痕がみられる。いずれも折戸10号窯式。357～360は盤B。357は口縁部が短く屈曲するタイプ、折戸10号窯式。358・359は口縁部が屈曲しないタイプ、いずれも9世紀前葉。361は盤C。口縁端部を丸く仕上げる、9世紀前後。362は灰釉陶器水瓶の底部、9世紀前半。363は須恵器甕の口縁部。378は甌の底部。底部の形状および穿孔は324と同じ、8世紀末。

364～376は灰釉陶器。364以外はすべて黒笹14号窯式併行。364は手付瓶。把手部分は欠損しているが、口縁部近くにその痕跡を留める。黒笹90号窯式。365～367・370は皿。366は底部内面にトチン痕がある。370は底部外面に墨書表記あり。368は底部内面に三叉トチン痕がある段皿。369は獣脚状の足が付く三足盤。371は深椀。内面の釉は磨耗のためか剥離が著しい。372は高台がいわゆる蛇目高台となる椀。373・374は底部内面に三叉トチン痕がある椀。375・376は底部外面に墨書表記のある椀。375は底部が大部分欠損しているため判読不能。376は「福」か？311の「福」と字体が類似する。377は底部尖端が欠損するが口縁部が大きく内彎する鉢。外面は全面回転ケズリ調整。379～386は土師器甕。379～381は伊勢系甕。380は口縁部形態が摘み上げ状にならない点若干異なる。これらの伊勢系甕は口縁部の形状が最も新しい、すなわち口縁端部の断面三角形の形状がほとんど痕跡程度となることや、須恵器の時期が古くとも8世紀後葉より遡らないことから8世紀後半と考える。382～386は濃尾系甕。382は小型の甕。体部外面にスス付着。内面にはヨゴレが付く。383はハケ調整が荒く頸部と体部の境目に稜線が入る、口縁端部の形状がやや丸味を帯びて内側に入ることなどから10世紀以降の鍋の可能性もある。383・384は9世紀前後。386は口縁端部に面取りがされていることから9世紀後半の可能性もある。

溝F 溝Fは溝Eの北側に並行する溝。規模・層位・出土資料も類似する。したがって、上層・下層の区分が可能な遺構に関しては溝Eと同様な記述ですすめる。

387～391は94AaSD14・15資料。いずれも下層資料。387・388は須恵器杯A。387は底部内面に「美濃」刻印がある。刻印形式はA-I-11(岐阜市教委 1981)。389は須恵器杯B。390は黒色土器杯。内黒仕上げ、内面に横方向の丁寧なヘラミガキが見られる。時期・産地は不明。畿内産とういよりは伊勢系の可能性もある。391は伊勢系土師器甕。

94AaSD14・15資料は390以外ほぼ8世紀前葉、刻印須恵器の時期幅で考えられる。

392～395は94DSD16資料。すべて須恵器。392は杯Hの身。受部がやや内傾気味から立ち上がる、東山50号窯式。393は高杯脚部。3ヶ所に三角形の1段透孔がつくと思われる、東山50号窯式。394は台付長頸瓶の頸部で8世紀前葉。395は長頸瓶、鳴海32号窯式。

396～414は94MaSD01資料。396～401・414は8世紀前半におさまる下層資料。396～401は須恵器。396・397は杯A。398は杯部がやや深い杯B。399は金属器模倣の水瓶。体部に数条の沈線が見られる。400は甕。注口部分が突出し、高台がつく。401は杯C。414は伊勢系土師器甕。

402～408は上層資料。402～406はほぼ8世紀後葉におさまる須恵器。402は蓋B、天井部約1/3に回転ヘラケズリが見られる。403はつまみ部分が欠損するものの蓋B。404は盤B。口縁端部がL字状に折れ、面を持つ。405は杯部の深い杯C。406は杯部が大きく開く杯B。407は灰釉陶器碗、黒笹14号窯式。408は口縁部が水平に折れ曲がる濃尾系甕、8世紀後半。

409～413は下層資料に混入した溝F以前の資料。409・410は須恵器無蓋高杯の杯部。409は東山50号窯式併行。410は受部の痕跡が稜線として残る、6世紀。411・412は須恵器甕。411は体部上位に沈線が入る。体部内面に横方向の板ケズリが見られる、7世紀。412は体部と頸部の境目と体部上位に沈線が見られる。6世紀後半。413は伊勢系土師器甕。口縁端部が凹状に窪む強いナデ調整を行う伊勢系甕の最も古いタイプで6世紀後半。

424・425は95FSB03資料の土師器甕。424は胎土・調整は伊勢系甕と類似するが、口縁部がやや直立気味で端部が丸くなるタイプ。425は伊勢系甕。口縁端部がやや外に開くことから新しい様相を持つ。須恵器を伴出していないが8世紀前半と考えられる。

415～417は94FSB06資料の須恵器。415・416は蓋B。ともに8世紀後葉。417は底部を欠損している碗。時期は不明。

418～420は灰釉陶器碗。418は施釉がツケ掛け、黒笹90号窯式併行。419は施釉がツケ掛けで口縁端部が若干外側に折れる、黒笹90号窯式。420は施釉がツケ掛けで折戸53号窯式併行。421は灰釉陶器皿、施釉はツケ掛けで折戸53号窯式併行。422・423は土師器甕。口縁部が短く外傾し端部に面取りをするタイプ。両者とも口縁部から体部上位までしか残存していないが、長胴にはならない鍋的な器形が想定できる。したがって、濃尾系甕の型式変化の延長で捉えるよりは別系統として考える。9世紀後半。

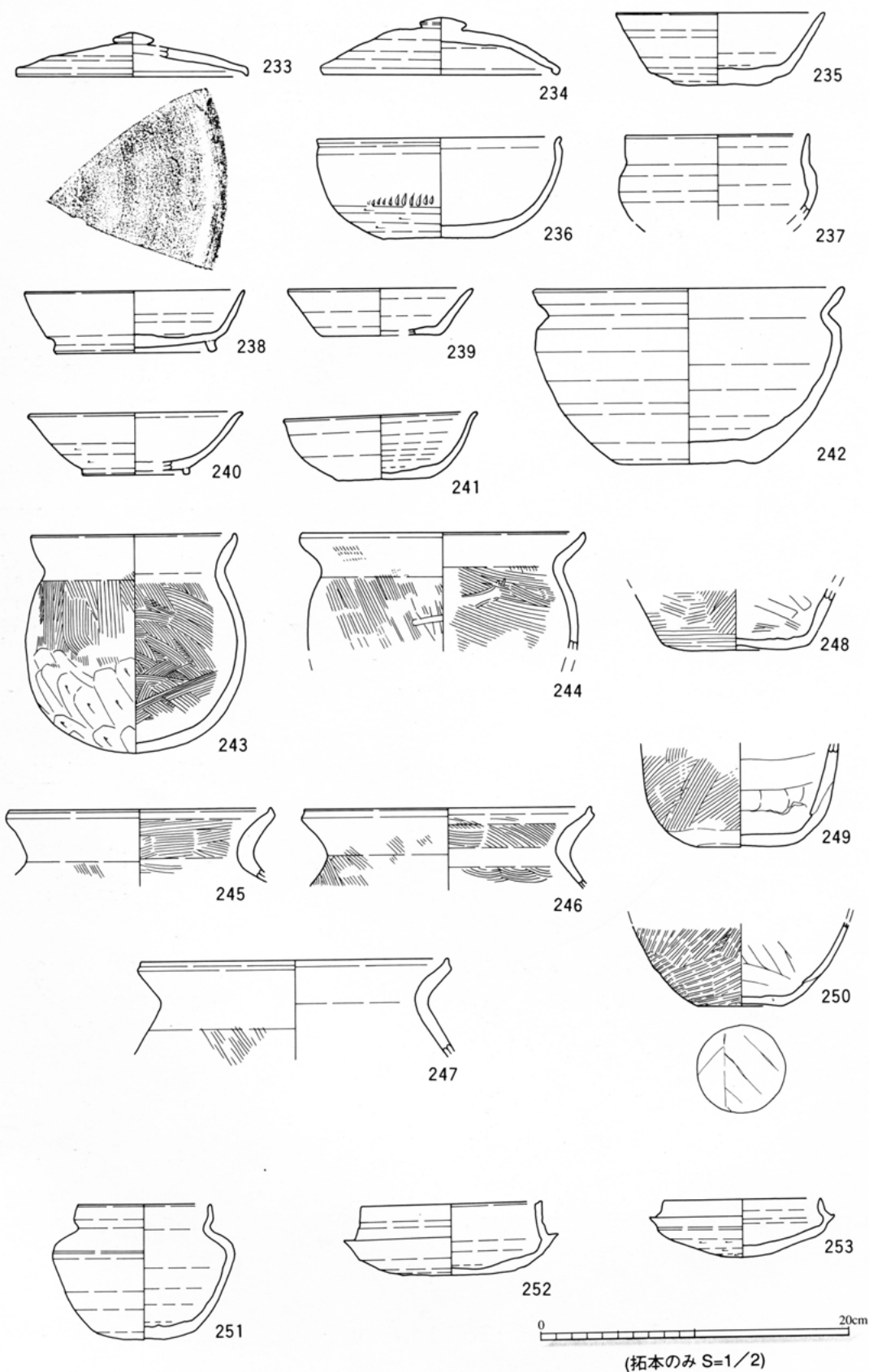
426・427は93AbSB02資料。426は灰釉陶器碗。内面と口縁部外面付近に灰釉が掛る、黒笹14号窯式。427は鉄鉢模倣の須恵器鉢。

428・429は93AbSB13資料。428は灰釉陶器碗。内外面ともに厚く灰釉が掛かる、黒笹14号窯式。429は須恵器鉢。やや高めの高台を持つ、口縁直下に1条の沈線が入る。430は93AbSB13資料の濃尾系土師器甕。時期は9世紀前半。

431～433は95DSB02資料。灰釉陶器。431・432は皿、433は碗、いずれも黒笹14号窯式。 その他の出土資料

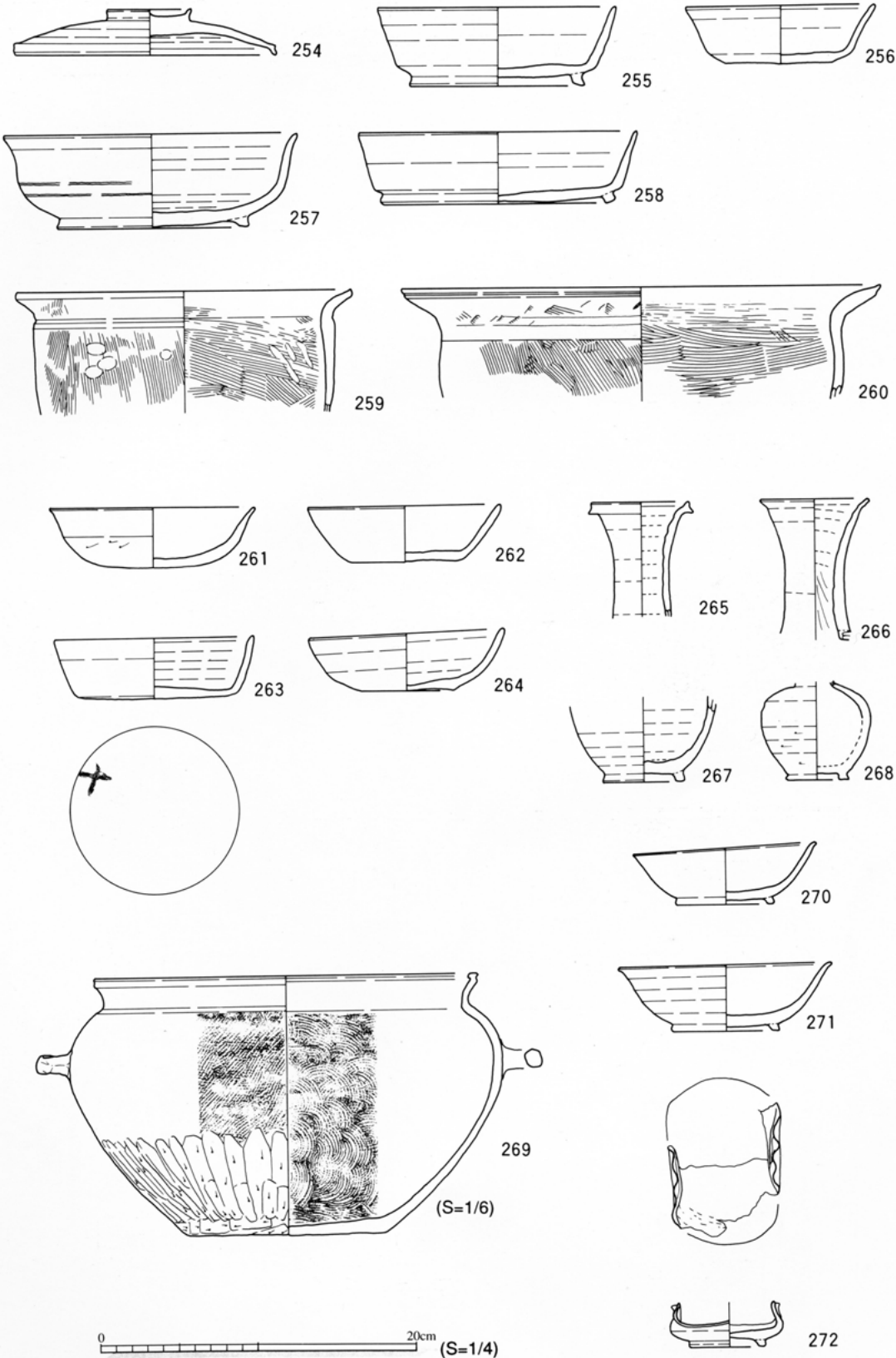
434は95AaSZ01資料の須恵器高杯。7世紀中葉前後。435は95AbSD04資料の灰釉円面硯。橋部には長方形の透穴がある。硯部は磨耗し使用痕が確認できる。黒笹14号窯式併行。

満E
94C SD11



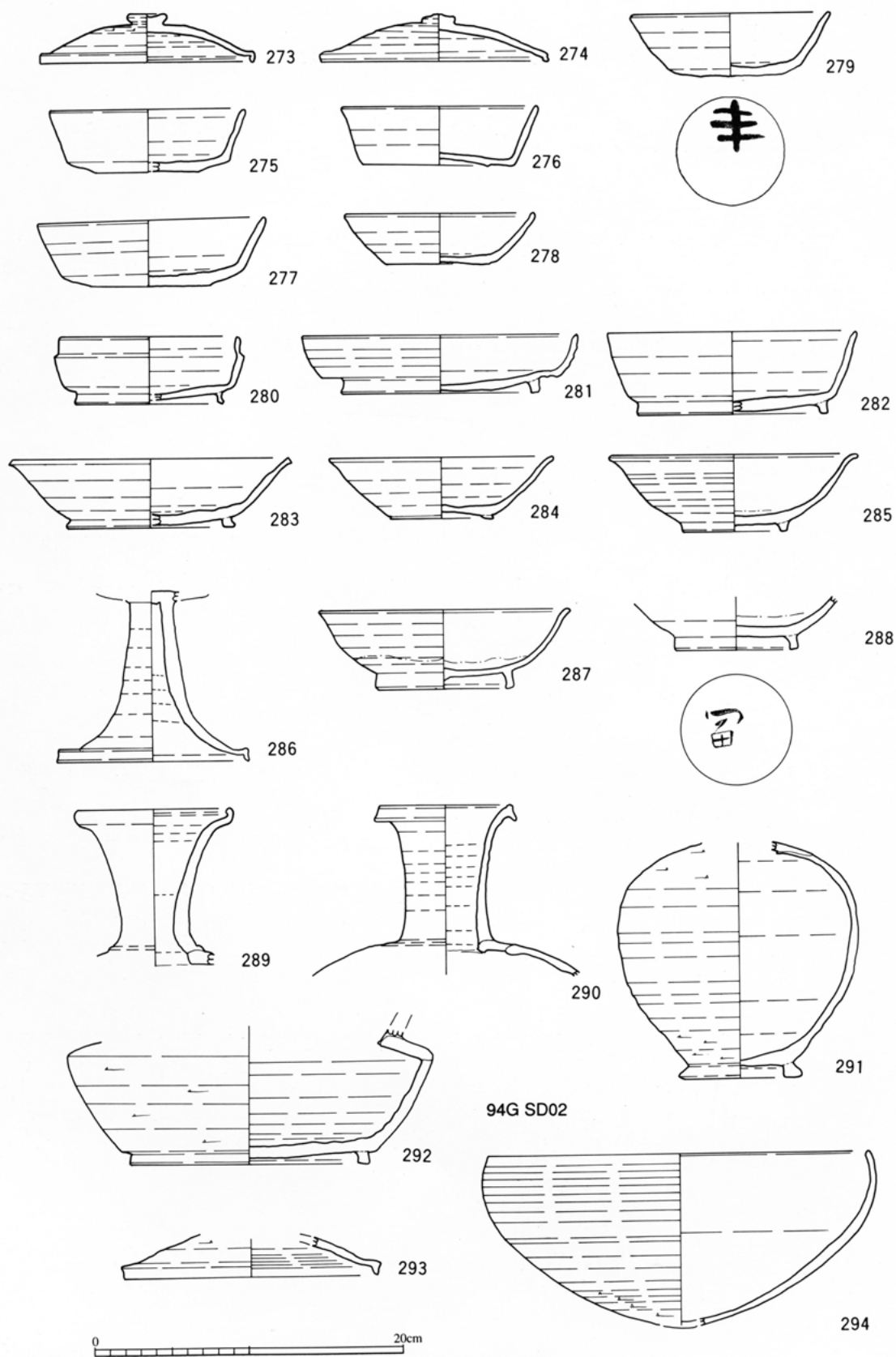
第34図 古代遺物実測図 (5)

溝E
93B NR02



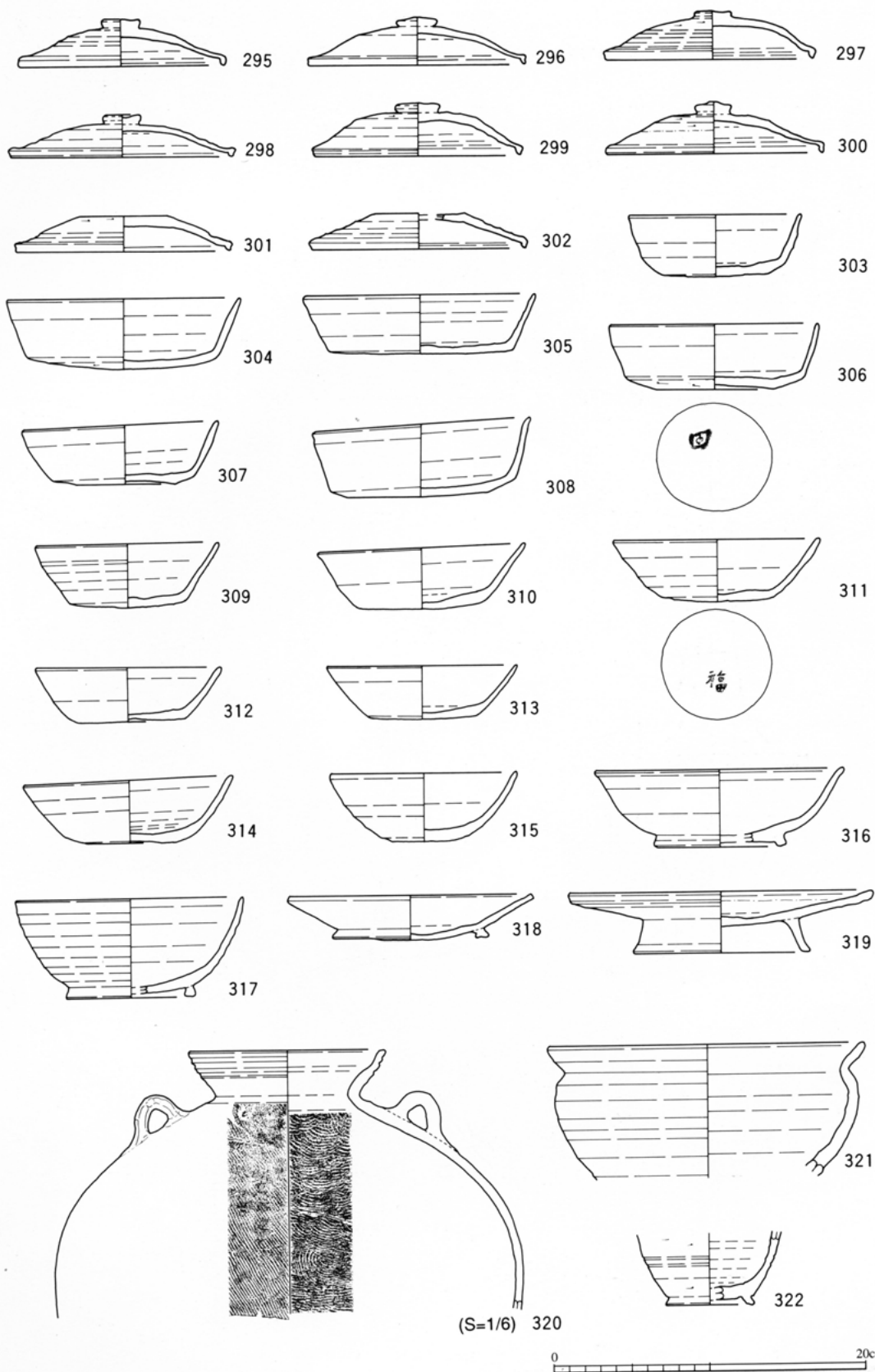
第35図 古代遺物実測図 (6)

溝E
95AaSD101

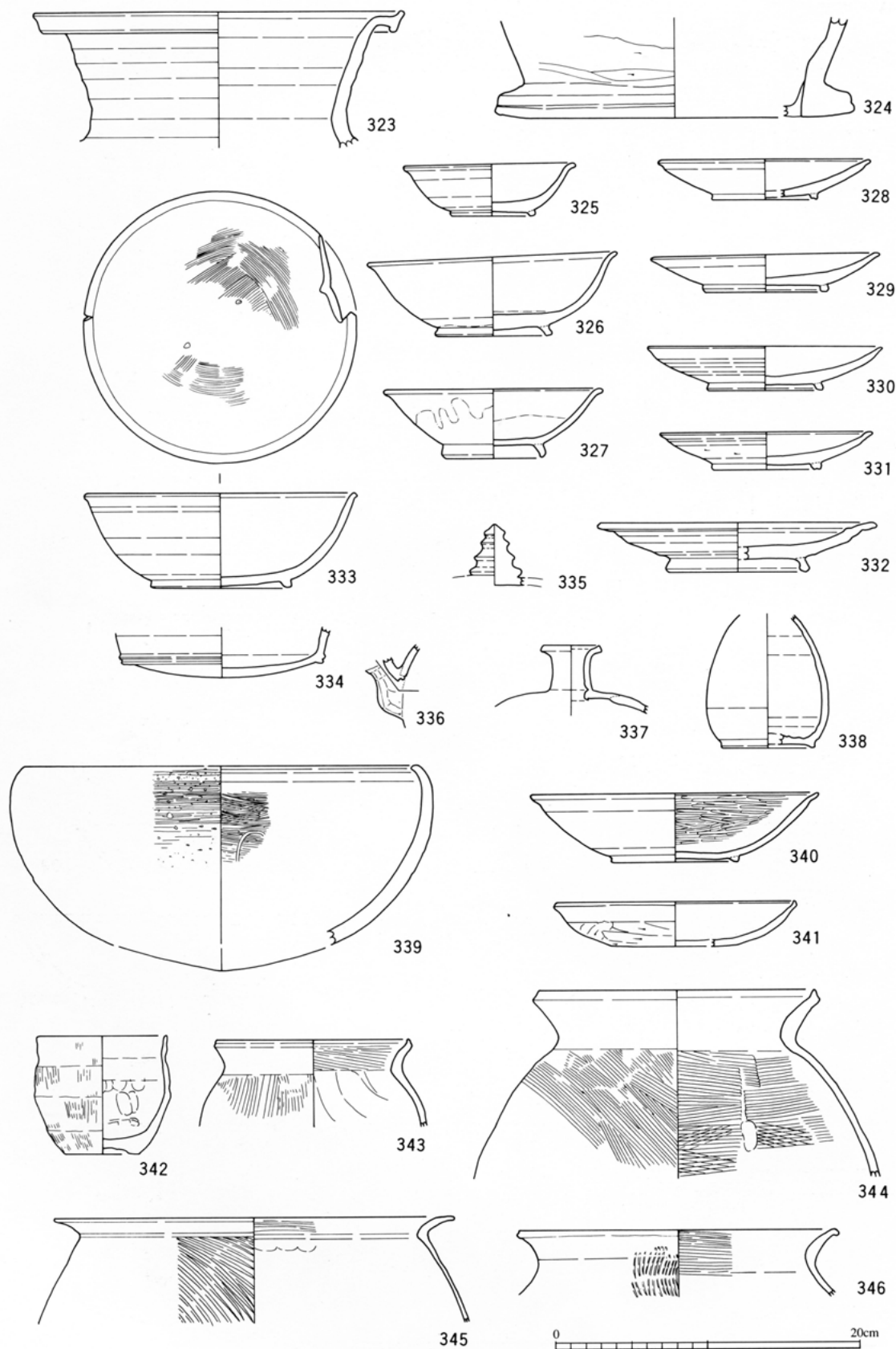


第36図 古代遺物実測図 (7)

溝E
95F SD201

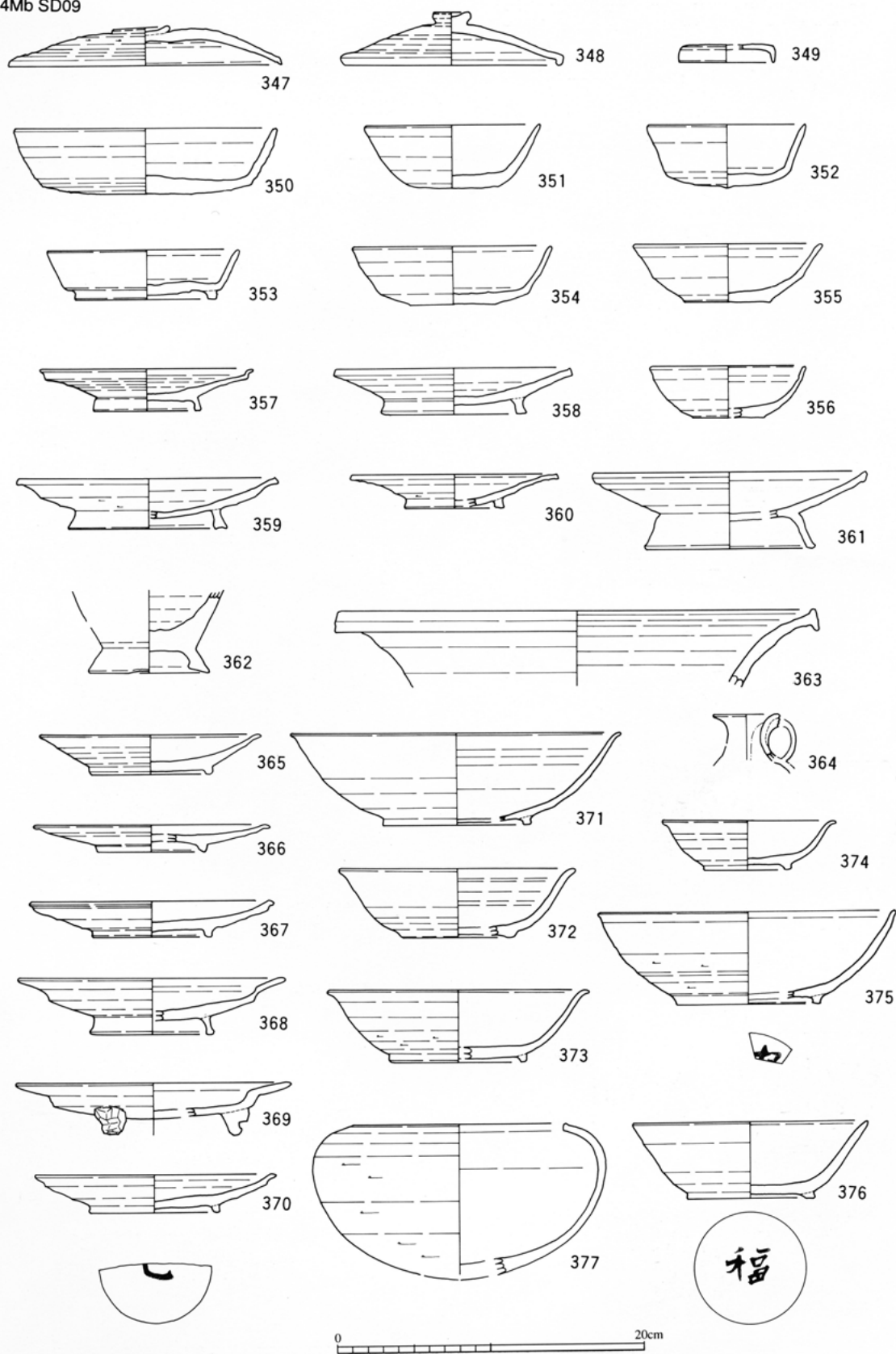


第37図 古代遺物実測図 (8)



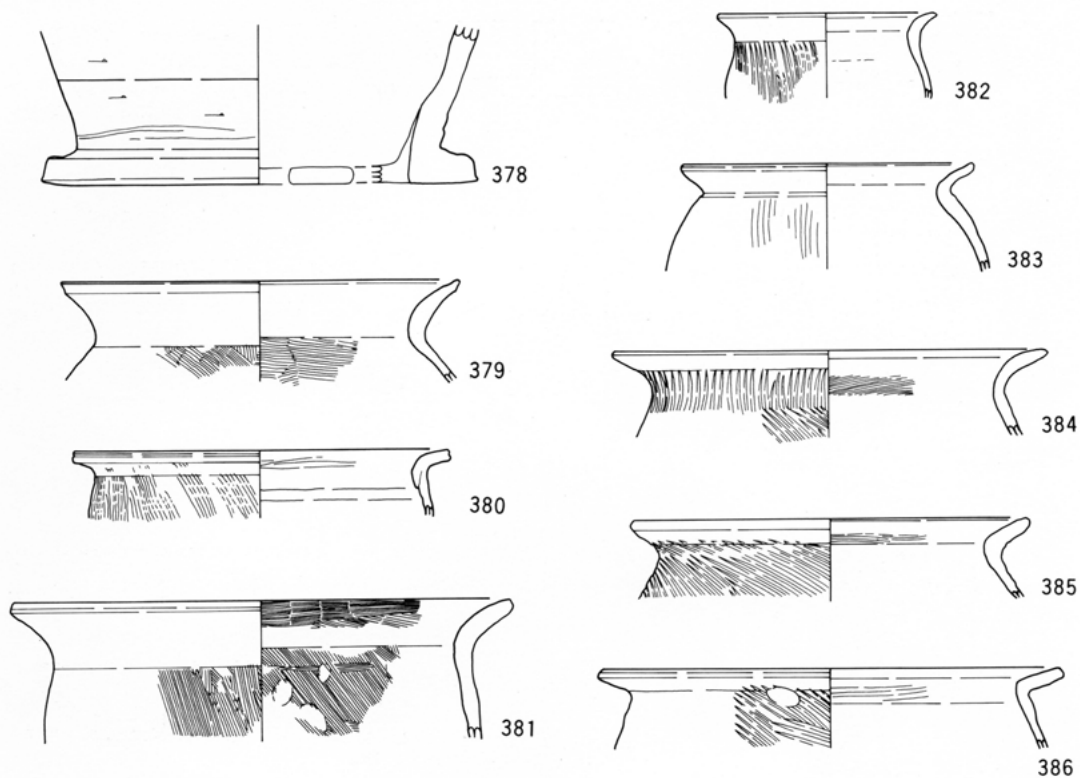
第38図 古代遺物実測図 (9)

溝E
94Mb SD09

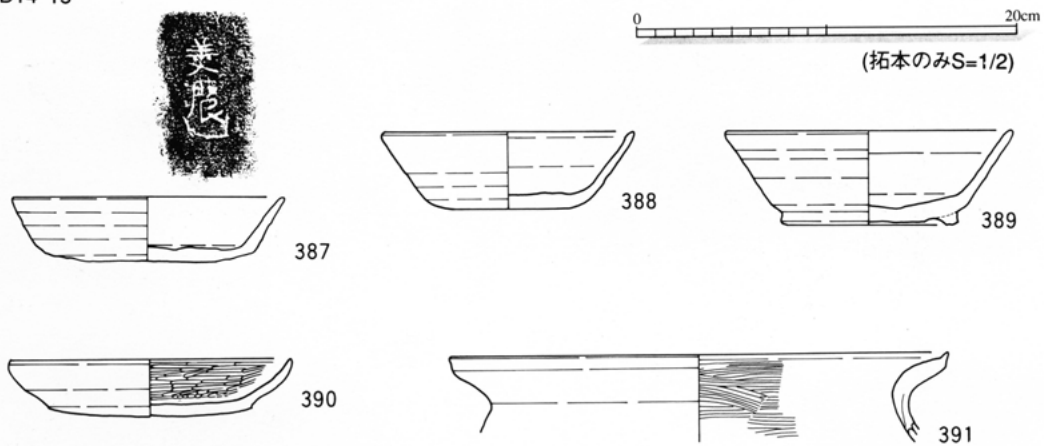


第39図 古代遺物実測図 (10)

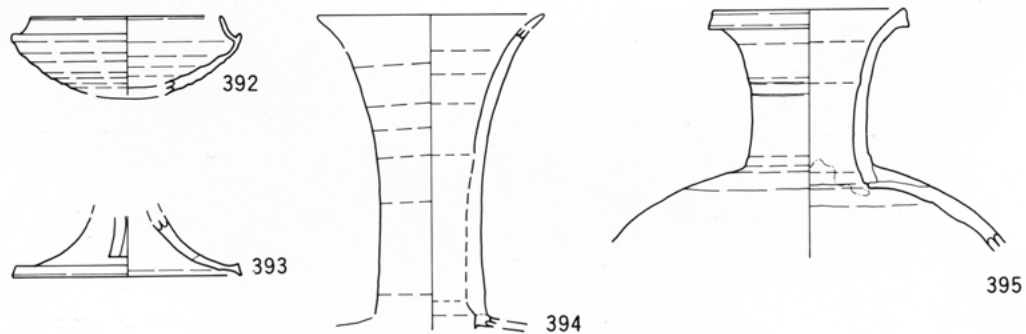
溝E
94Mb SD09



溝F
94Aa SD14・15

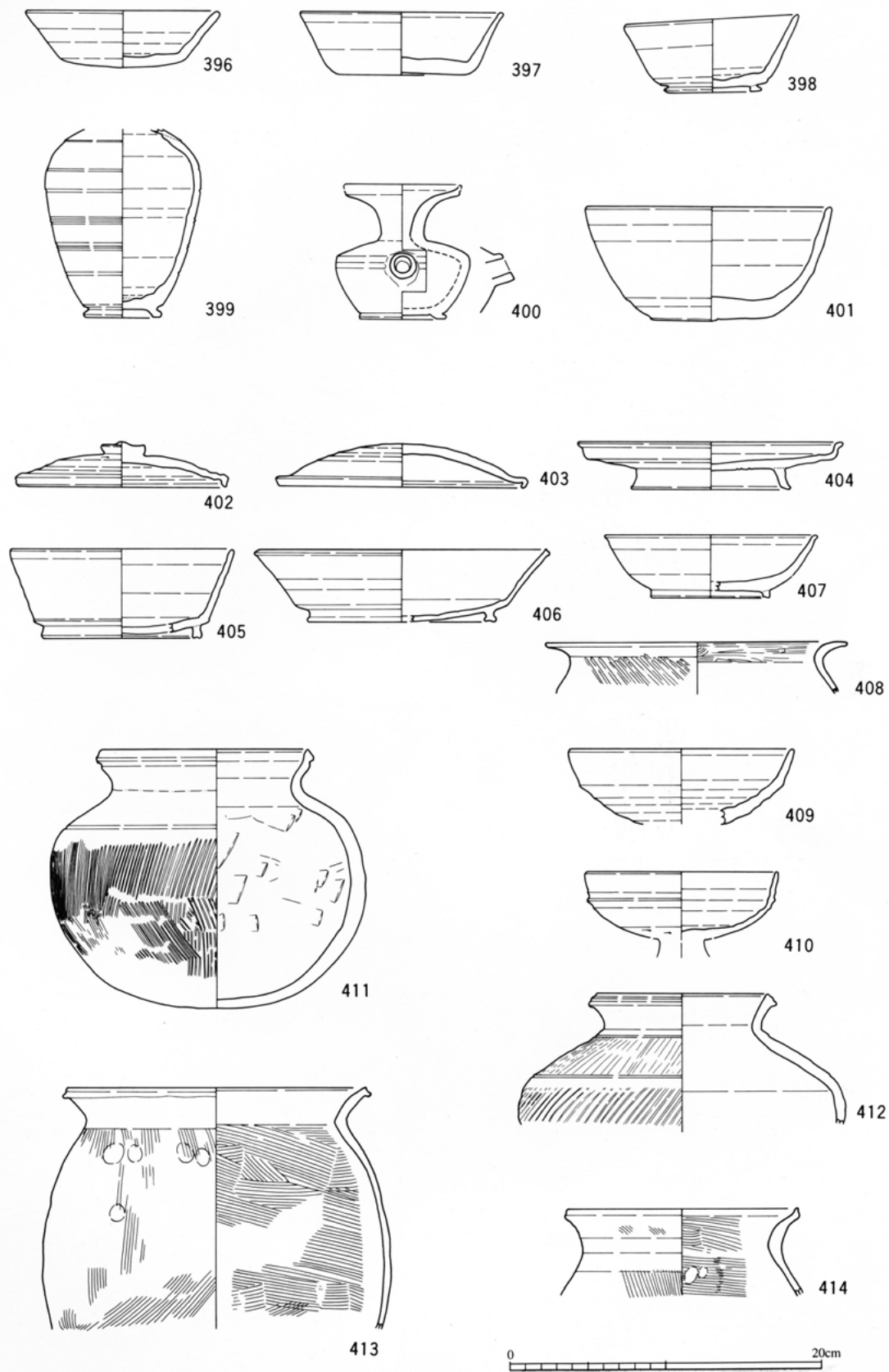


94D SD16



第40図 古代遺物実測図 (11)

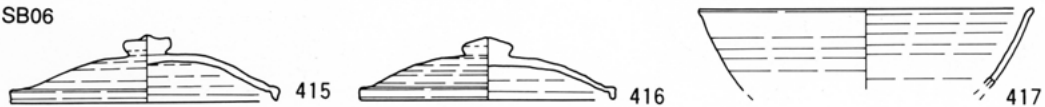
溝F
94Ma SD01



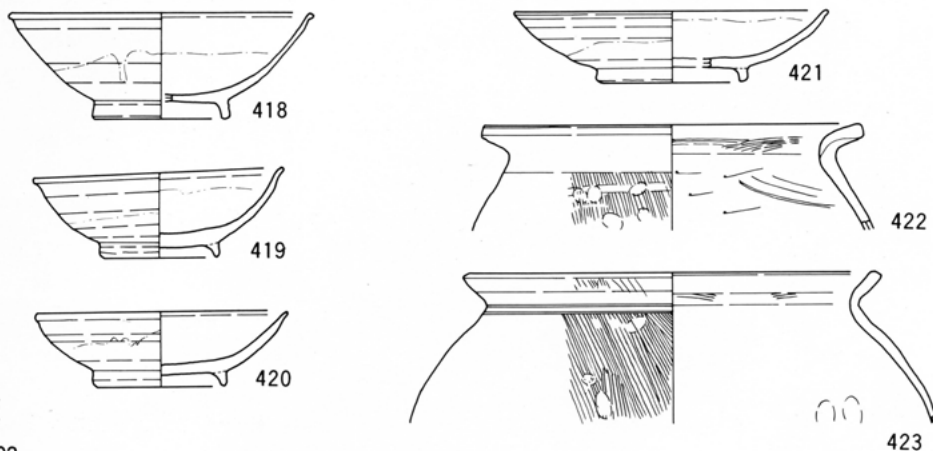
第41図 古代遺物実測図 (12)

居住域A

94F SB06



94F SB10



居住域B

95F SB03

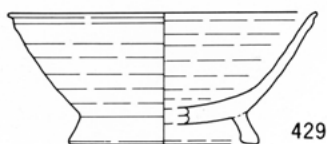
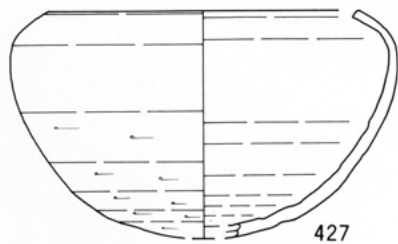


居住域C

93Ab SB12



93Ab SB13

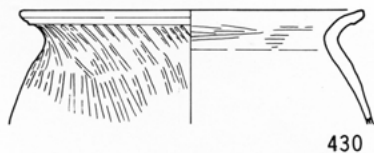


その他

95D SB02

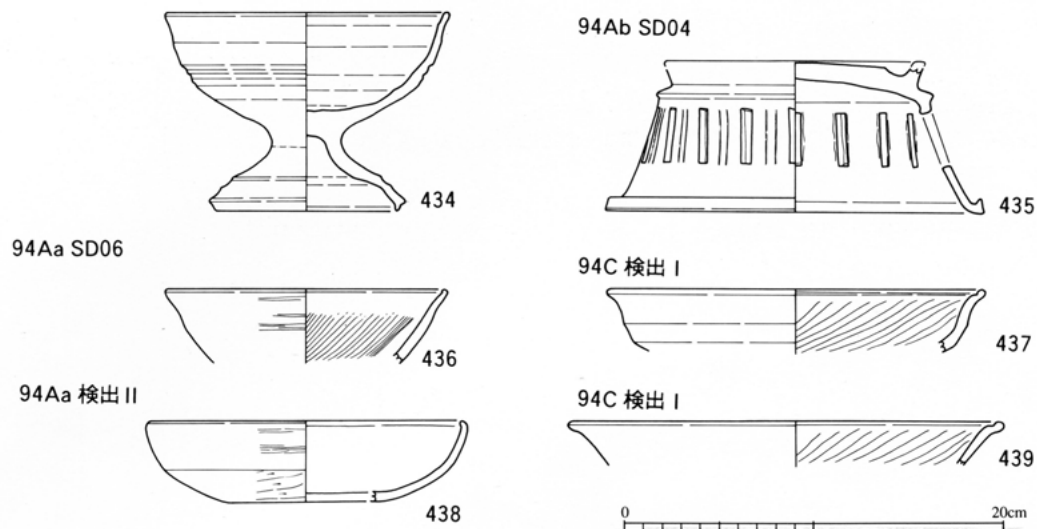


93Ab SB14



第42図 古代遺物実測図 (13)

95Aa SZ01



第43図 古代遺物実測図 (14)

436～439は土師器。436・437・439は内面に放射暗紋が見られる。いわゆる「畿内産土師器」。438は外面下半にケズリ調整で内面に暗紋はない。胎土は精緻で色調は赤褐色。畿内産でないとすると伊勢産か？これらの時期はおそらく8世紀代と思われる。

遺構の時期について。時期設定の項で記したように大きく2時期に分けられる。7世紀代を中心とする遺構群（溝A～D）と8世紀～9世紀を中心とする遺構群（溝E・F、居住域A・B・C）に分けられる。

溝遺構については、規模・配置から溝Aと溝B、溝Cと溝D、溝Eと溝Fがそれぞれ一対として捉え掲載した。なかでも溝Eと溝Fは出土遺物の層位から上層資料と下層資料に分けて記述した。これは溝の掘削時期が大きく2時期に分けられることに起因する。上層資料のなかに8世紀後葉に比定されている折戸10号窯式の須恵器が多く含まれている。これらが9世紀前半に比定されている黒笹14号窯式併行の灰釉陶器と共伴資料ということになれば、溝E・溝Fの再掘削時期を再考しなければならない。いずれにしても溝E・溝Fは少なくとも2回の大規模な掘削がされ、8世紀後葉前後にその隔絶が想定できる。

出土資料の産地について、時期毎に追ってゆくような傾向がある。まず、7世紀代を中心とする時期には美濃須衛窯産、猿投窯産に比較的差がなく見られる。ところが8世紀前半を中心とする時期（溝E・溝Fの下層資料）は圧倒的に美濃須衛窯産が多い。さらに8世紀後葉から9世紀前半を中心とする時期は、須恵器では美濃須衛窯産、猿投窯産の出土頻度に差はないものの灰釉陶器は猿投窯産や尾北窯産が多く、東濃産や美濃須衛窯産はあまり見られない。9世紀後半以降は美濃須衛窯産はほとんど見られなくなる。

参考文献

- 斎藤孝正ほか編 1995 『須恵器集成図録第三巻』雄山閣出版
 斎藤孝正 1994 「東海地方の施釉陶器生産」『古代の土器研究 施釉陶器』古代の土器研究会
 城ヶ谷和広 1993 「尾張における7世紀から9世紀半ばの須恵器」『古代の土器研究 須恵器』古代の土器研究会
 植崎彰一ほか 1981 『老洞古窯跡群発掘調査報告書』岐阜市教育委員会
 渡辺博人 1984『美濃須衛古窯群発掘調査報告書』各務原市教育委員会
 永井宏幸編 1995『大毛沖遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター
 永井宏幸 1995 「尾張平野を中心とした煮炊具の変遷」『鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
 森 隆 1995 「黒色土器」『概説中世の土器・陶磁器』中世土器研究会

4 中世・戦国期の遺物

大毛池田遺跡の中世～戦国期の土器は11世紀後半から16世紀前半までを対象とする。時期設定については藤澤編年（藤澤1994など）、赤羽・中野編年（赤羽・中野）を参考にした。分類については灰釉系陶器は『松河戸遺跡』報告書による分類（赤塚1994）、施釉陶器は鈴木分類（鈴木1994）・藤澤分類（藤澤1995など）、煮沸具は鈴木分類（鈴木1994）を参考にした。基本的には『大毛沖遺跡』報告での記述を踏襲している。なお貿易陶磁器、墨書土器・陶器、加工円盤・陶丸、金属製品、石製品については遺構外出土遺物も含め別途掲載した。

分類

灰釉系陶器 碗・皿*松河戸分類（赤塚1994）

碗0類 灰釉碗の中で出現する形態。底部の器壁は厚い。高台は高く体部と独立した形態を留める。

碗Ⅰ類 「尾張型」とされるもの。

尾張型A 体部内彎、口縁部がわずかに外反するもの。（瀬戸窯・東山窯系？）

尾張型B 体部直線的、口縁にむかって外反するもの。（有松・鳴海窯系？）

碗Ⅱ類 「瀬戸型」とされるもの。高台径が比較的小さく、体部は底部からやや直線的にのびる。

瀬戸型A 胎土のやや精良な製品を含み、直線的で深さのある体部形態をもつもの。

（南山窯系？）

瀬戸型B 胎土の粗い製品、体部直線的、口縁端部に著しい肥厚がみられるもの。

（瀬戸・黒笹・藤岡窯系？）

碗Ⅲ類 「東濃型」とされるもの。精製品、薄碗。「均質手・北部系」と称されるもの。

東濃型A 灰釉系陶器碗では特に器高の高いもの。

東濃型B 器高が低く、体部が大きく外傾するもの。

皿0類 高台をもつ「小碗」とされるもの。

皿Ⅰ類 「尾張型」高台は消失、体部ヨコナデによる2段構成。

尾張型A 体部外傾、底部小さく、突出するもの。

尾張型B 上記以外

皿Ⅱ類 「瀬戸型」大きな底径に短い体部がつく。口縁端部に明瞭な面をもつ。

皿Ⅲ類 「東濃型」碗と同様に胎土が均質薄手のもの

尾張型A 器壁の薄い、精製品。

尾張型B 特に器高1cm以下となる精製品

その他の灰釉系陶器

甕、壺、羽釜、鉢（片口鉢）がある。

施釉陶器 産地および器類により分類する。

土師器 皿*ここでは土師器皿に限り、形態を規定している製作技法をもとに分類項目を設定する。

土師器皿Ⅰ類 底部に回転糸切りに痕跡を残す回転台使用のもの 手成型または整形の段階で回転台使用のもの、ロクロ製品

土師器皿Ⅱ類 非ロクロ製品、いわゆる手づくねによるもの 型づくり（ⅡA）とその他（ⅡB）に細分する

土師器煮沸具

伊勢型鍋 B 平坦な肥厚する口縁部をもち、体部は球形、口縁部は体部から直接屈曲する。

C 斜めに肥厚する口縁部をもち、口縁部は体部から緩やかに外彎する。

D 直立する頸部をもち口縁端部は折り返し内彎する。体部はやや扁平となる。

E 口縁端部は内彎し、特に器壁が薄いもの。体部はさらに扁平化が進む。体部外面にハケ調整

を行い、その後体部下半はケズリ調整を行う。
羽付釜 半球形の鉢で鐙があるもの
内耳鍋 半球形の鉢で鐙がなく内耳がつくもの
貿易陶磁器 別途記載
加工円盤・陶丸 別途記載

ここでは大毛池田遺跡の遺構群のうち、各時期の年代観を大表するもの、遺構変遷の時的指標となるものを特に選択し記述する。 遺構出土の遺物

440～447は椀Ⅰ類。輪花椀を含む灰釉椀の一群。底部糸切り痕を残すものが含まれる。 94FSD17
445、447は無釉椀。口径平均16.6cm、底径7.1cm、器高5.6cm。溝出土資料であるが百代寺窯式に属するきわめて一括性の高い遺物群である。中世Ⅰ期。

448～453は椀Ⅰ類の後段階を中心とする資料。口径平均16.5cm、底径7.6cm、器高5.5 95ESE01
cm。454～457は高台を有する小椀、皿Ⅰ類。458、459は灰釉系陶器鉢。内面及び高台接地面は摩耗している。460は土師質煮沸具と思われるが、類例など不明。胎土に砂粒分を多く含む。外面はハケ調整。

遺構の規模に比してコンテナ約9箱の出土量は、大毛池田遺跡ではやや特異である。遺物の 94KSK56
大半が灰釉系陶器椀であり、灰釉系陶器皿、鉢、土師器皿などがある。461～507灰釉系陶器椀はすべて椀Ⅰ類に属し、A、Bの両タイプがある。両者あわせて口径平均16.8cm、底径7.6cm、器高6.0cm。これらは数個単位が重なった状態で埋まっており、整理・保管の痕跡を残すものかもしれない。墨書の表記は特にみられない。508～522は皿Ⅰ類に属する。これもA、Bの両タイプがみられる。523体部に丸味をもつ片口鉢。内面は著しく磨耗している。525、526は伊勢型鍋B。527～532は土師器皿ⅡA類。内面を「の」の字状にナデ、外面口縁部周囲に幅1cm前後のナデを施す。12世紀第Ⅰ四半期を中心とする。

主に井戸上部の廃棄層からの出土遺物であり、灰釉系陶器椀Ⅰ類A、B、灰釉系陶器皿 95AaSK55
Ⅰ類で構成される。上記SK56の次段階に属する資料。537は内面に漆のような付着物が認められる。

方形区画成立以前に存在した屋敷地区画溝の一つ。遺物は極めて一括性が高く、土器、 94JSD20
陶器類のほか被熱の痕跡のある砕礫、河原石が多く混入する。灰釉系陶器では椀Ⅰ類BにⅡ類の資料が混在する。皿ではⅡ類が主体となる。鉢、灰釉三筋壺、その他壺・甕類も共伴する。561～565は口縁端部の折り返し部分が扁平となり、やや内彎する伊勢型鍋Dに分類される資料である。565は直立した頸部が明瞭な大型の製品。土師器皿は口縁端部内外に幅1.5～2.0cmのナデを施し、外面にはユビ圧痕を残すⅡB。法量に大小2タイプ、大型では形態に2タイプあり、553～555は体部に丸味をもつ口径13.0cm器高3.0cm前後、556～559は器高2.5cm前後、外面ナデの境が明瞭であり端部が肥厚し面をもつ。小型皿資料は極端に少ない。

上記SD20のに重複する溝であり、重複する土坑資料も混入している可能性がある。特 94JSX01
徴として皿類がその他の器種を圧倒する。土師器皿は594、595がⅡAの可能性が考えられ

るほかはすべてⅡB分類される。法量は大小の2タイプがあり、576～593は口径9cm、器高1.5cm前後であり、外面端部に強いナデを施す。一部の資料で内面にタールの付着が認められる。596～600は口径13.0～14.0cm、器高2.5～3.0cm前後のやや深いタイプであり、体部が内彎する丸いものと底部との境が明瞭で強いナデが施されるものがある。574、575など灰釉系陶器碗はⅡBが主体となる。546～549は灰釉系陶器皿Ⅱ類。藤澤編年第6型式後半に比定される。

94JSK72 上記94JSX01に重複して検出された土坑の一つ。器種では土師器皿ⅡBが圧倒し、法量では大小2タイプがある。94JSD20とほぼ同時期の資料と思われる。

94JSD13・15 一括性の高い資料群であり、土師器皿ⅡBに分類される。法量は大小の2タイプがある。171～165は口径8.2～8.7cm、底部との境が不明瞭で丸みを帯びた皿である。一部の資料で体部外面に螺旋状の凹線が確認される。620～622は径12.5cm前後のやや深いタイプ。胎土は比較的精良でありピンク系の白色を呈する。外面周囲にナデを施す。これらも体部外面に螺旋状の凹線が確認される。^{*1}

94JSD06 624は伊勢型鍋E。体部の扁平化が進み、器壁も薄くなっている。外面ハケメ調整。

94CSK10 居館区画6（SD12）に切られる井戸である。上層の廃棄層に多くの遺物が含まれる。灰釉系陶器では、体部が直線状にのび、口縁端部に面をもつ碗ⅡBが主体であり、東濃型の碗ⅢAおよび皿ⅢAが出現する。（窯式では窯洞～白土原を主体とする）鉢は体部の丸いもの658、直線的に開くもの659がある。土師器皿ⅡBは大小2タイプあり、口径12.2～13cm、器高2.5cmで外面周囲をナデるものと口径7.6～8.2cm、器高1.9cmがあり、663、664は外面周囲に帯状にナデを施さないタイプ。666は伊勢型鍋D。その他常滑産壺・甕など大型製品を共伴する。藤澤編年第7型式、13世紀前半期を中心とした資料である。

94JSD11 東西方向の区画溝の一つ。灰釉系陶器碗ⅢAが碗ⅡBを数量的に凌駕する。669は碗ⅡAに分類される数少ない資料である。灰釉系陶器では他に皿、鉢を共伴する。674～677は土師器皿ⅡB。法量は2タイプあり、口径8cm前後と13.4cmのものがある。藤澤編年第8型式、13世紀後葉～14世紀前葉を中心とした資料である。

95FSD01 区画5を構成する溝であり、出土遺物は比較的多く被熱の痕跡のある割石などと共に出土している。灰釉系陶器は東濃型碗Ⅲ類、皿Ⅲ類の資料が多数を占める。（窯式では明和～大洞東）690、693は碗ⅡBであり、高台は消失または痕跡程度である。施釉陶器では古瀬戸中期から後期に属するものがあり、灰釉合子702、仏具703、水注704、折縁鉢705、その他平鉢、縁釉皿、常滑産の壺・甕類706～708などがある。

94JSD07 区画4を構成する溝。出土遺物の主体は灰釉系陶器Ⅲ類であるが、記載したのは区画西南コーナー付近の上層に分布した遺物群。灰釉系陶器の流れをくむ無釉の重圈皿709～711、瀬戸美濃産陶器では天目碗712、713、灰釉平碗714、縁釉皿716、灰釉平鉢723、古瀬戸壺類などがある。土師器皿ⅡBは口径7.2～7.8cm。窖窯末～大窯Ⅰ期を中心とする資料である。SD12、すなわち区画6の時期の区画内部にあたる。

94JSD12 一辺一町規模の居館区画（区画6）の南西コーナーにあたり、SD07・14の重複する地点

付近でL字状に折れる。これ以前の多くの遺構と重複関係にあり、灰釉系陶器の占める割合は大きい。天目碗724～729、縁釉皿、重圈皿732、733、播鉢735、736、738、鉄釉釜737、常滑産大型の壺・甕類がある。窖窯末～大窯Ⅰ期を中心とする。この地点では土師器皿が比較的集中して出土する。法量は2タイプあり、ロクロ整形による土師器皿Ⅰ類は口径12～13cm、外面に螺旋状あるいは同心円状に凹線が認められる。手づくねによる皿ⅡBは口径7cm前後の小型皿である。一部の資料でタール状の付着物、煤の痕跡が認められる。その他ここでは箸、漆碗や木片など木製品も出土した。

居館区画大溝と重複関係にある溝資料。瀬戸美濃産陶器と土師器皿の構成であり、碎石 94JSD01 片に混じり出土した。灰釉平碗800、天目碗805～807、縁釉皿801～804、香炉808、鎚釉鉢810、灰釉合子811は蓋812も伴う。播鉢813、814、鉄釉釜816がある。大窯Ⅰ期を中心とする資料。土師器皿はⅡ類のみであり、焼成はやや軟質、白色で精良な胎土を使用している。817～826は外面全体に指頭圧痕が分布し、器壁は薄い。口径は7.4cmに集中しており、規格性があり内型を用いた可能性も考えられる。836～839は口径9.5cm前後、器高2.1cm、口縁端部にかけてやや肥厚する。土師器皿には特に使用の痕跡はみられない。

居館大区画北西に位置し、これと重複関係にある土坑出土資料。下層より天文八年銘の 94AbSX01 木簡を出土した。瀬戸美濃産陶器では古瀬戸後期段階に属する資料が比較的多い。常滑産大型の製品も多く、灰釉壺796は別に美濃須衛産かと思われる。791、792はこの地点でのみ分布し、胎土な比較的均密であり、灰釉がみられる。中世初期の瓦片と思われる。

井戸状の土坑出土資料である。出土遺物の8割以上が内耳鍋で占められる。外面に1条の 95AaSK25・26 凹線をめぐらし、胴部下半にケズリを施す点はすべて同じである。法量は、口径22cm、25cm前後の一群と29cm前後の一群がある。

調査域南端に近い位置で検出された土坑出土資料である。天目碗841、端反皿843があ 94LSK10 る。内耳鍋845は口径28.0cm、外面に1条の凹線がめぐる。

礎盤を検出した建物（SB01）脇に位置する井戸出土資料である。846～849は土師器皿 95AbSX01・SK03 Ⅰ類で、径12.7～15.5cm、内耳鍋851を共伴する。

溝B 群とした道側溝と想定される。大窯Ⅰ期を中心とした資料。天目碗、縁釉皿灰釉、四耳 95AaSD02・03 壺、筒型壺、内耳鍋がある。ロクロ整形の土師器皿を含みⅠ類、ⅡB類がある。900は偏った位置に3箇所穿孔があり、901は底部外面に「道」の墨書がある。

中世として扱ったこれら鎌倉・室町時代に属する出土遺物について、以下の項目で分析 出土遺物分析表 を行った。

①灰釉輪花碗、灰釉系陶器碗・皿、土師器皿の法量分布

②区画6周辺の出土遺物分布状況

区画6を構成する溝、および周辺の土坑出土遺物について5mのグリッド単位でカウントを行った。計測・集計の方法は、鈴木1994『清洲城下町遺跡』Ⅳに基本的に従うものである。ただし、大毛池田遺跡では中世Ⅱ期までの遺物の割合が多く、瀬戸美濃産陶

器類の器種もさほど多様でない。そのため中世前半期の分類については城ヶ谷簡略化して行った。

参考文献・註

藤澤良祐 1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要3』三重県埋蔵文化財センター

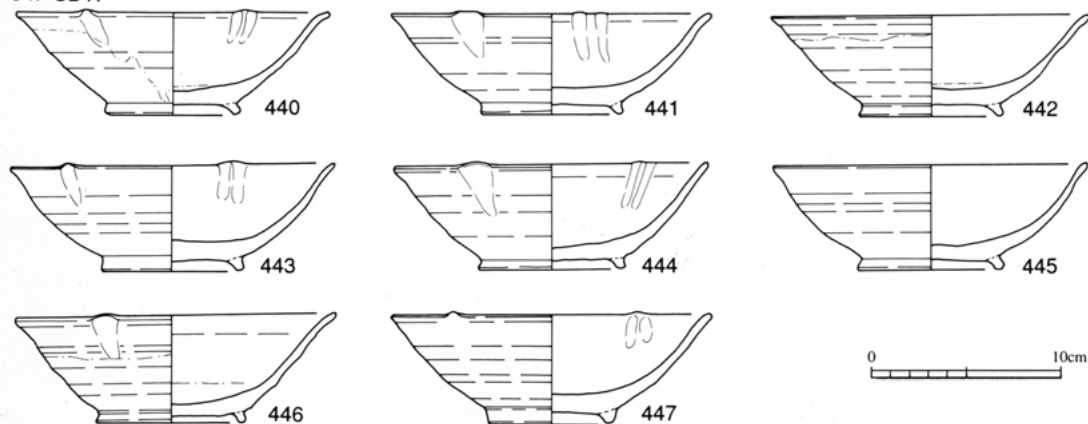
鈴木正貴 1994『清洲城下町遺跡Ⅳ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書53集

鈴木正貴 1995『清洲城下町遺跡Ⅴ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書54集

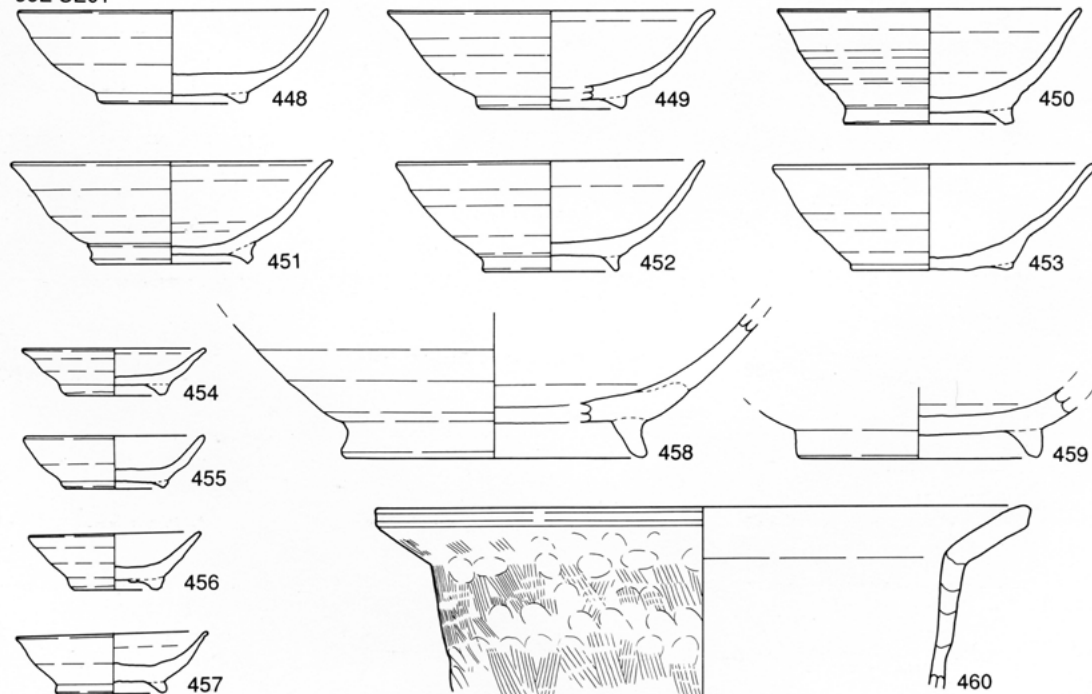
赤塚次郎 1994『松河戸遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書48集

1) 蟹江吉弘 1996『清洲城下町遺跡Ⅵ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書65集、大毛池田遺跡資料の一部が比較、検討されている。

94F SD17

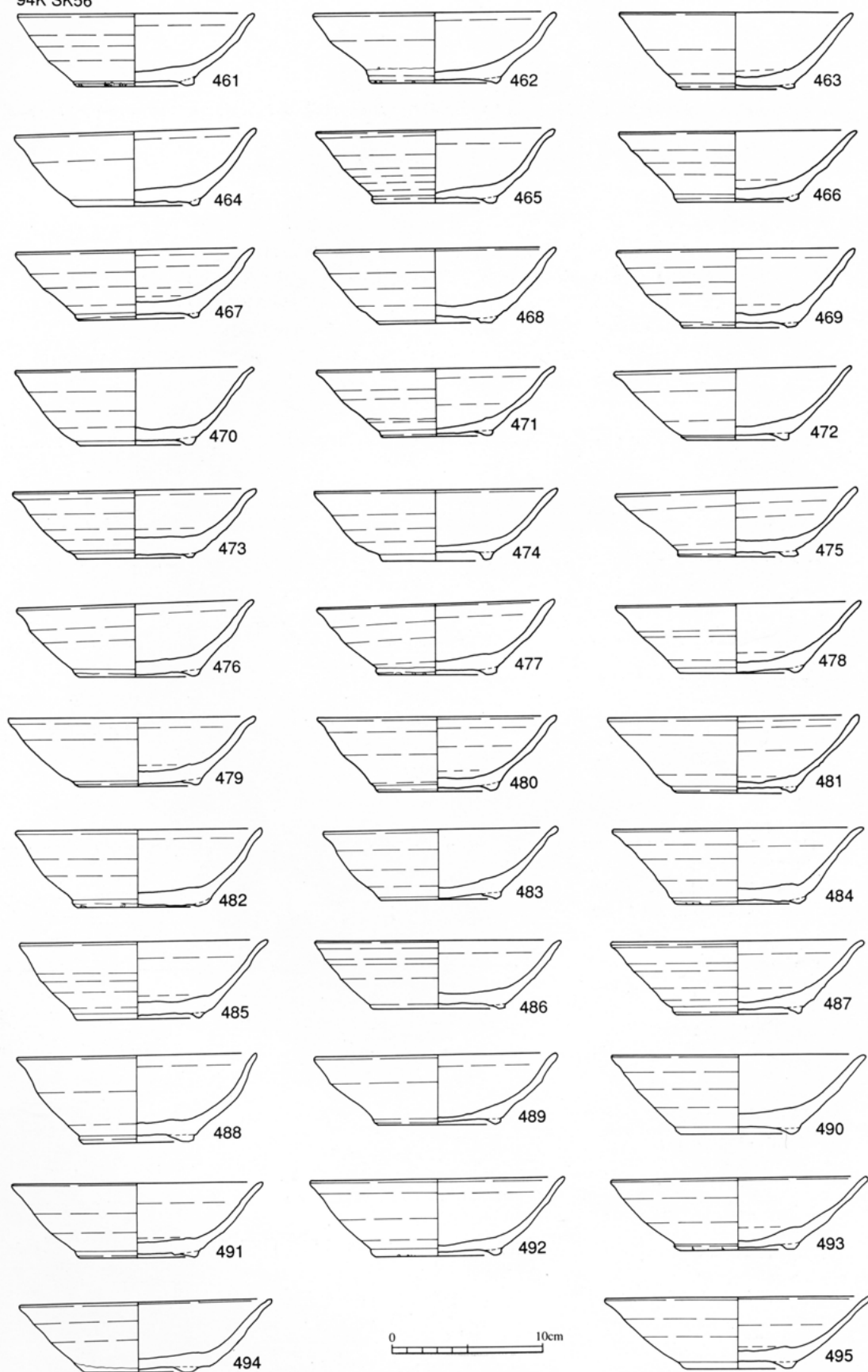


95E SE01

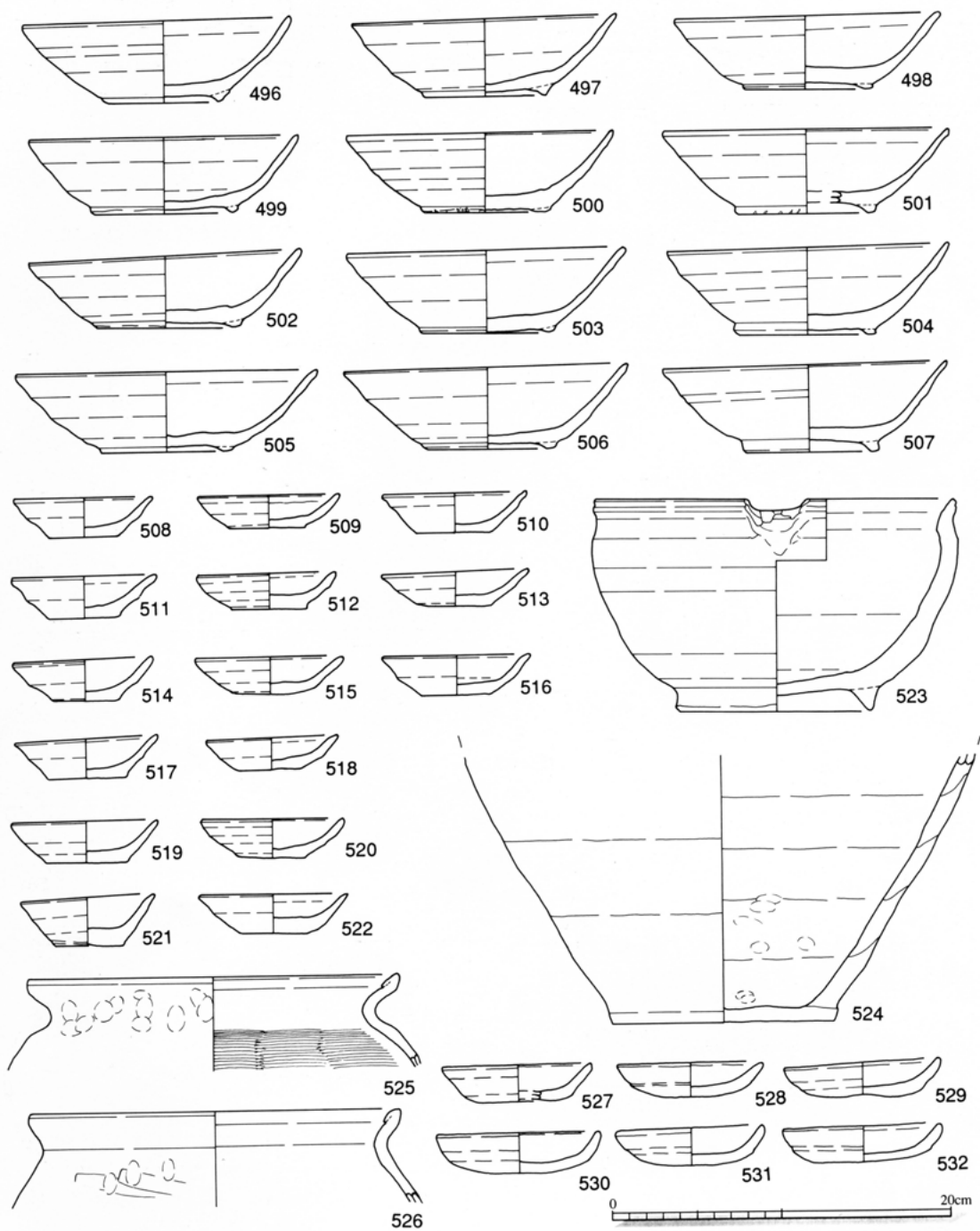


第44図 中世遺物実測図 (1)

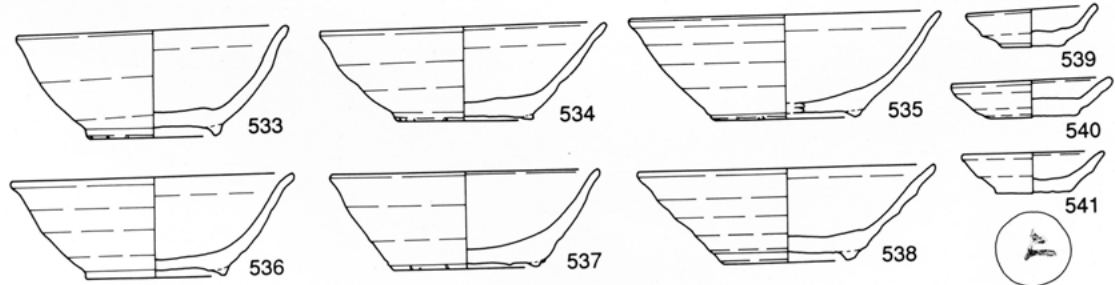
94K SK56



第45図 中世遺物実測図 (2)

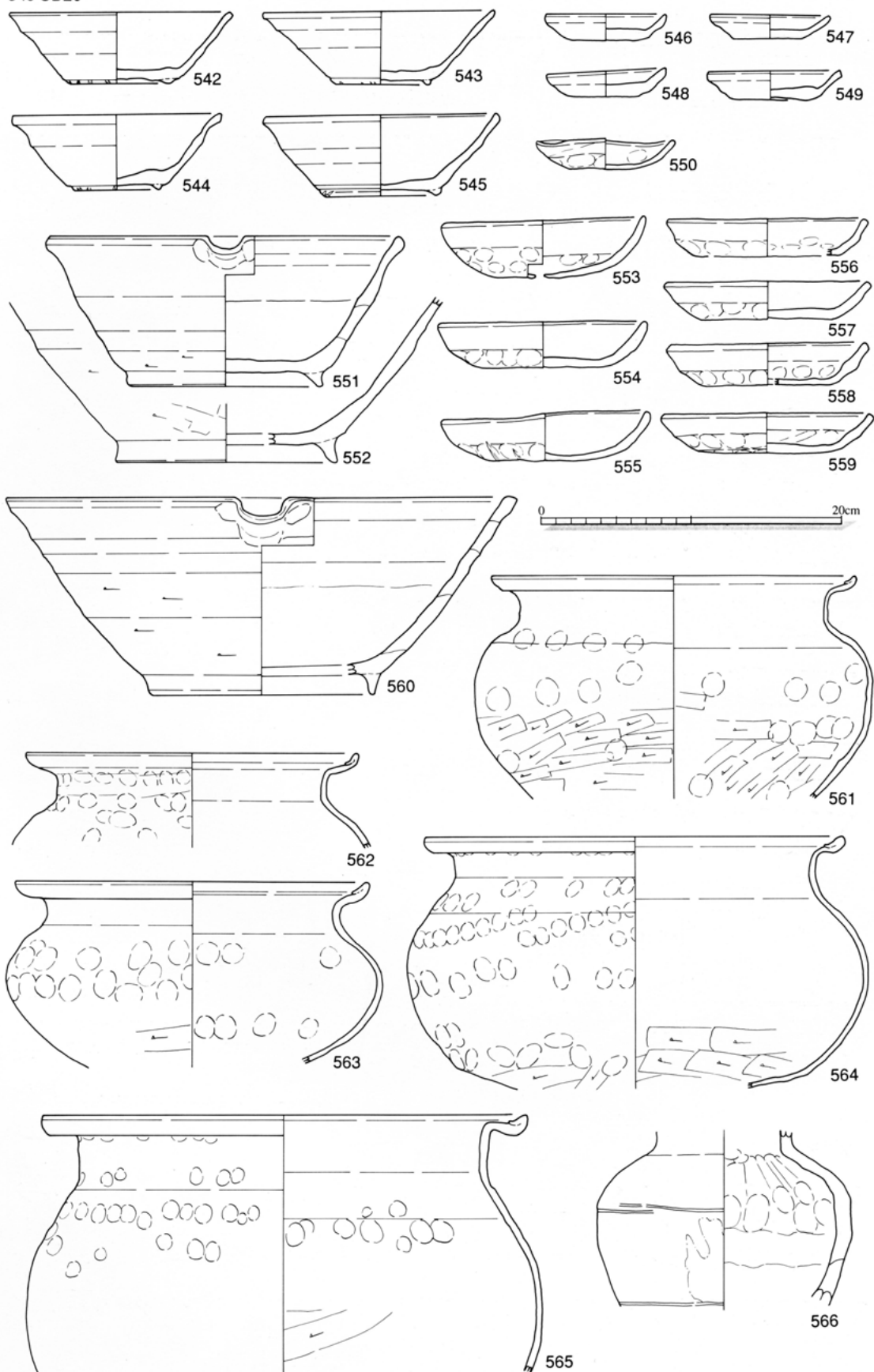


95Aa SK55

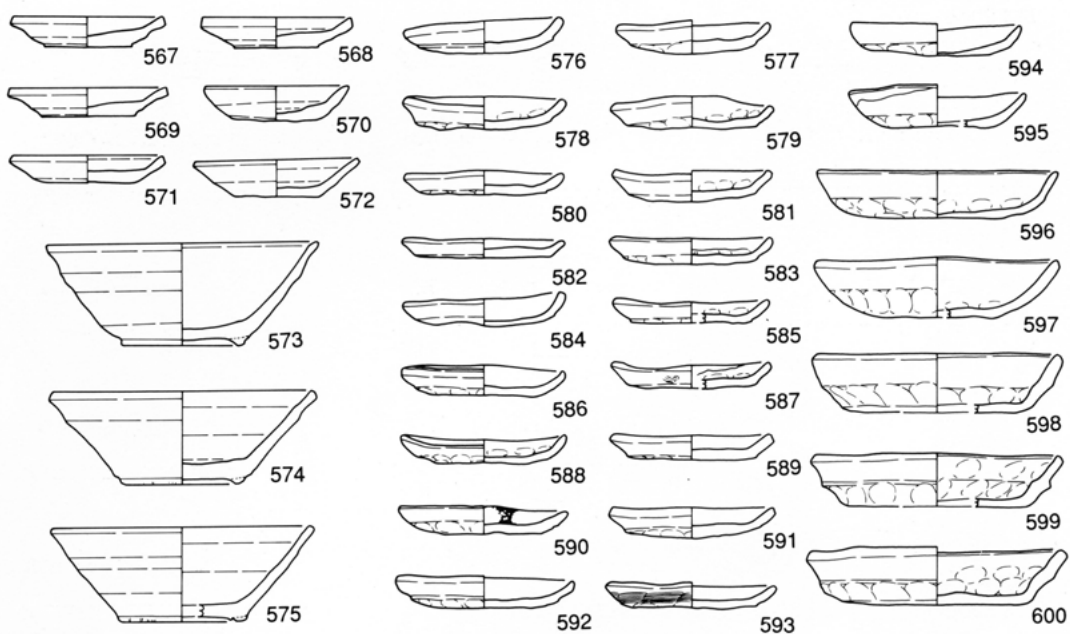


第46図 中世遺物実測図 (3)

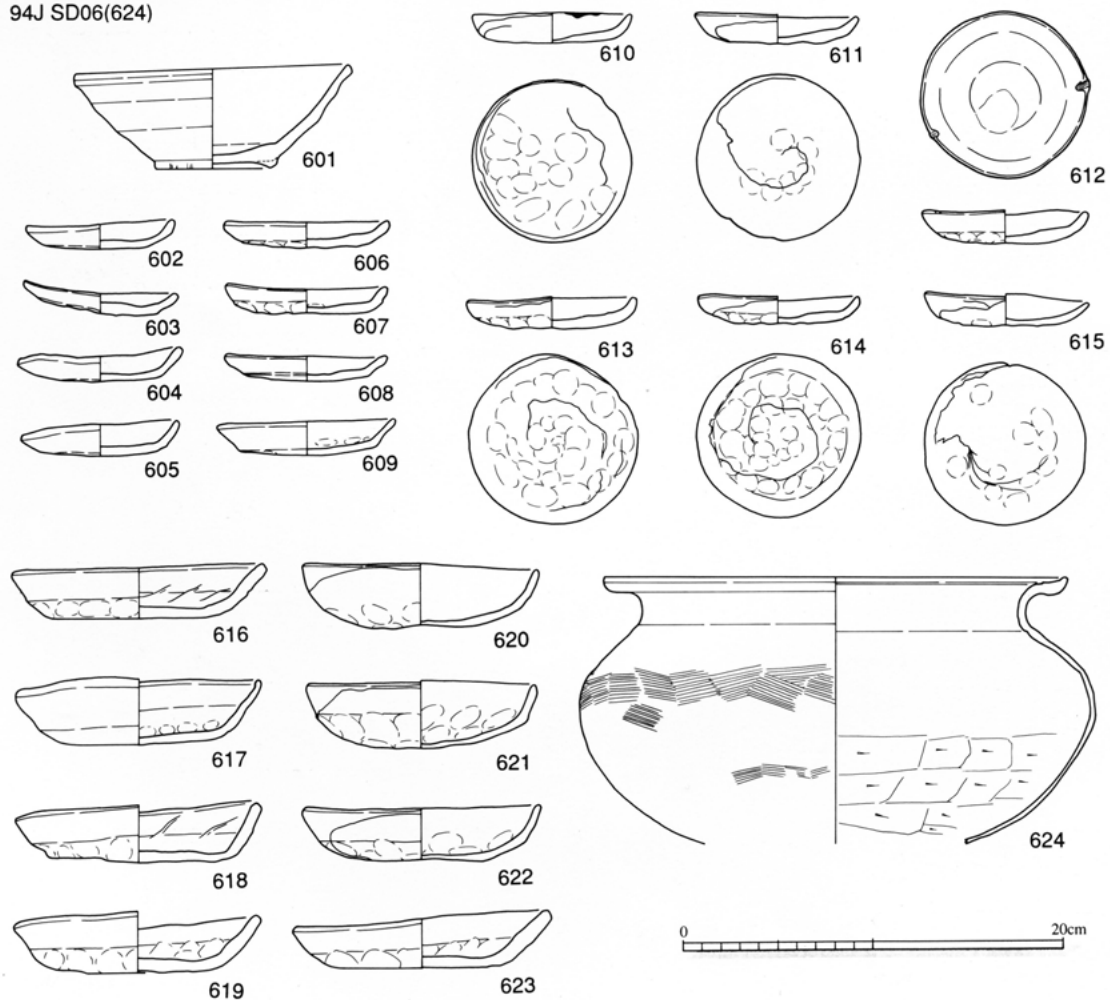
94J SD20



第47図 中世遺物実測図 (4)

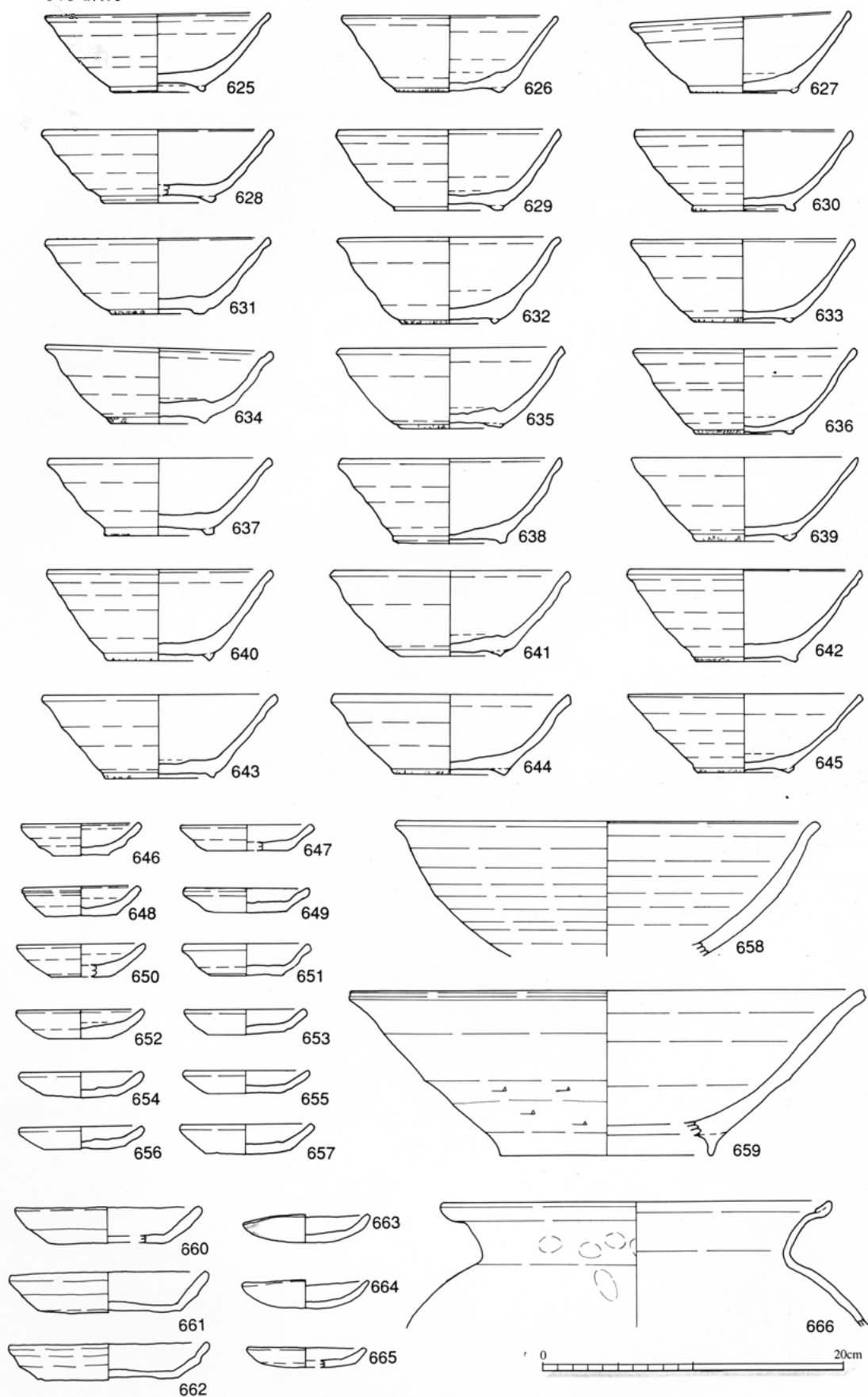


94J SK72(601~605, 616~619)
94J SD13・15(606~615, 620~623)
94J SD06(624)



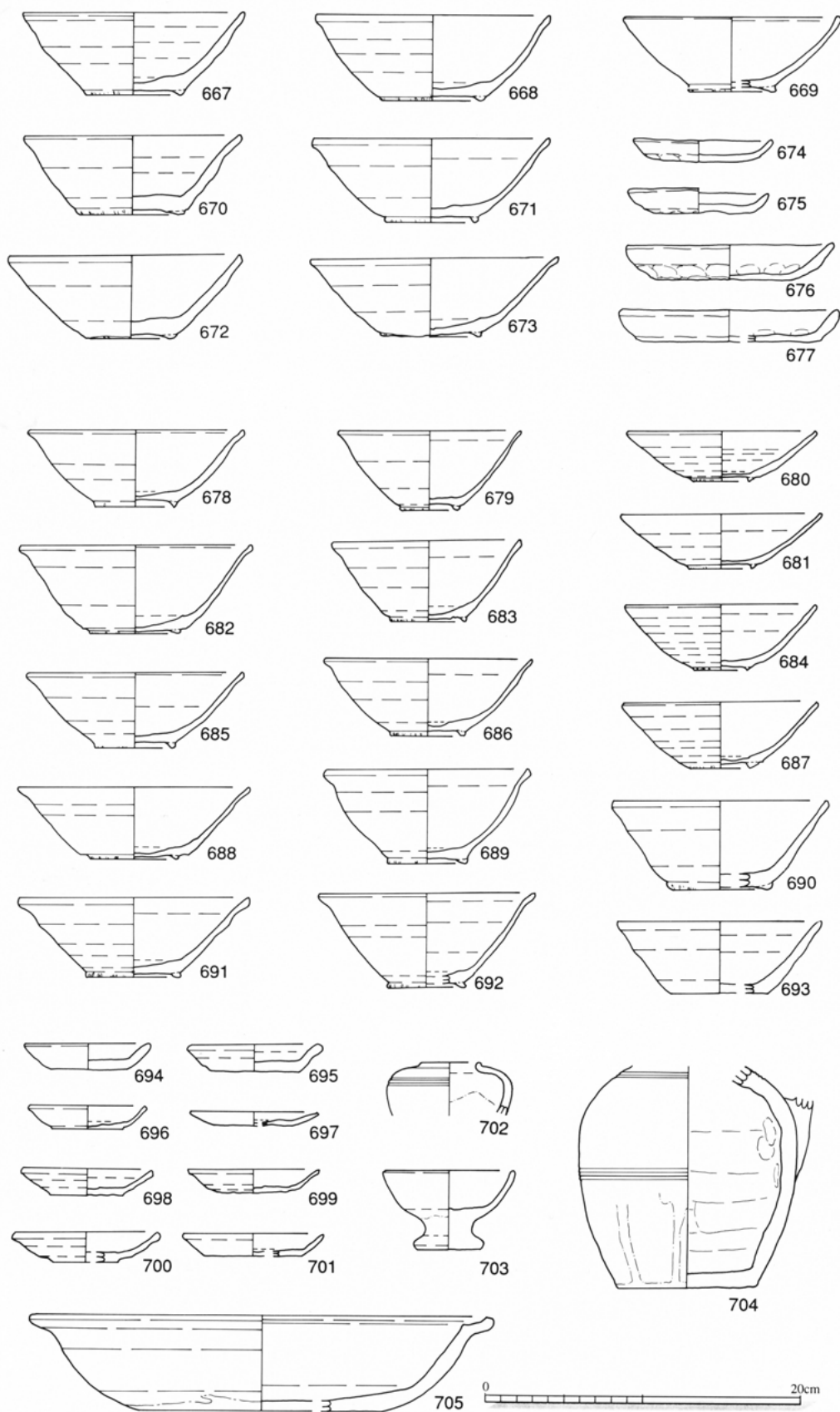
第48図 中世遺物実測図 (5)

94C SK10

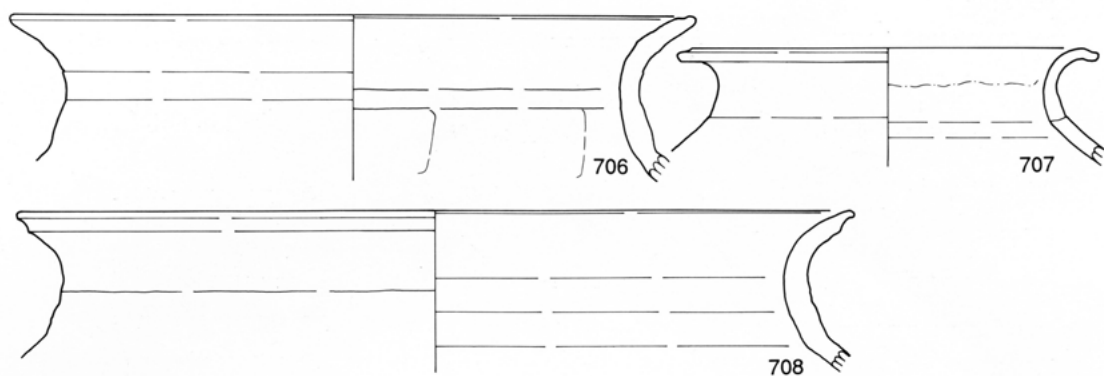


第49図 中世遺物実測図 (6)

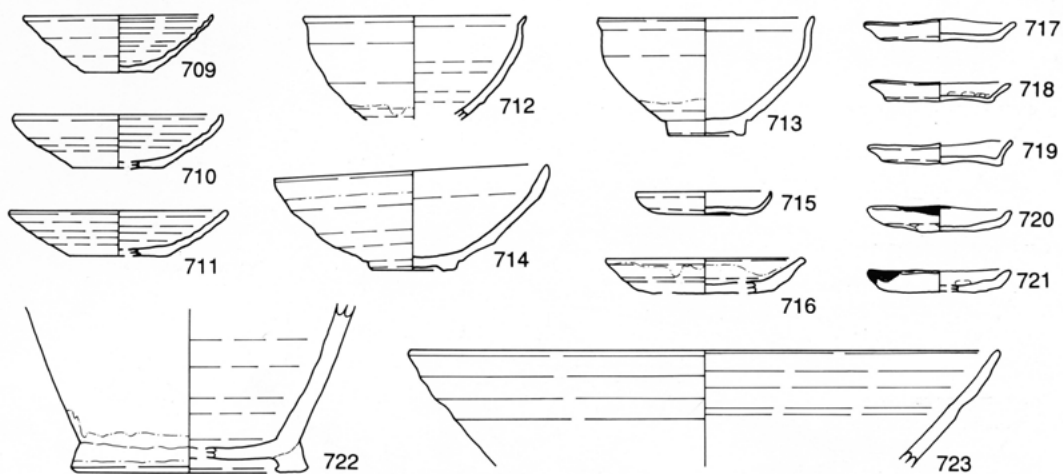
95F SD01



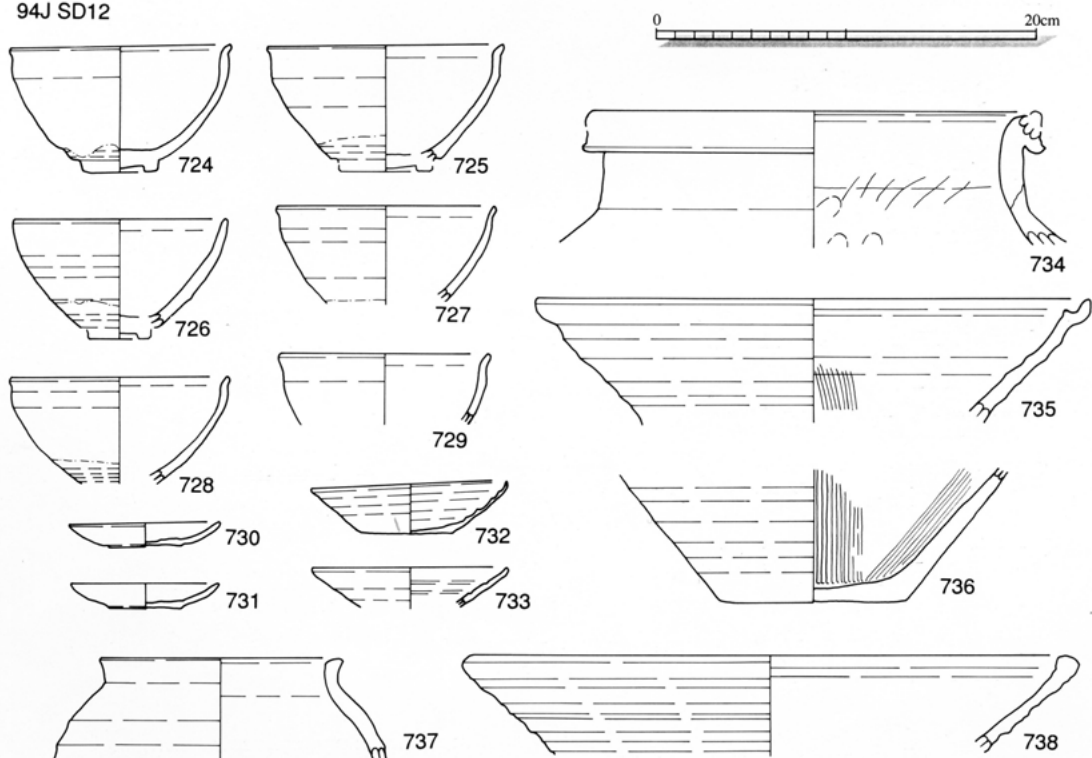
第50図 中世遺物実測図 (7)



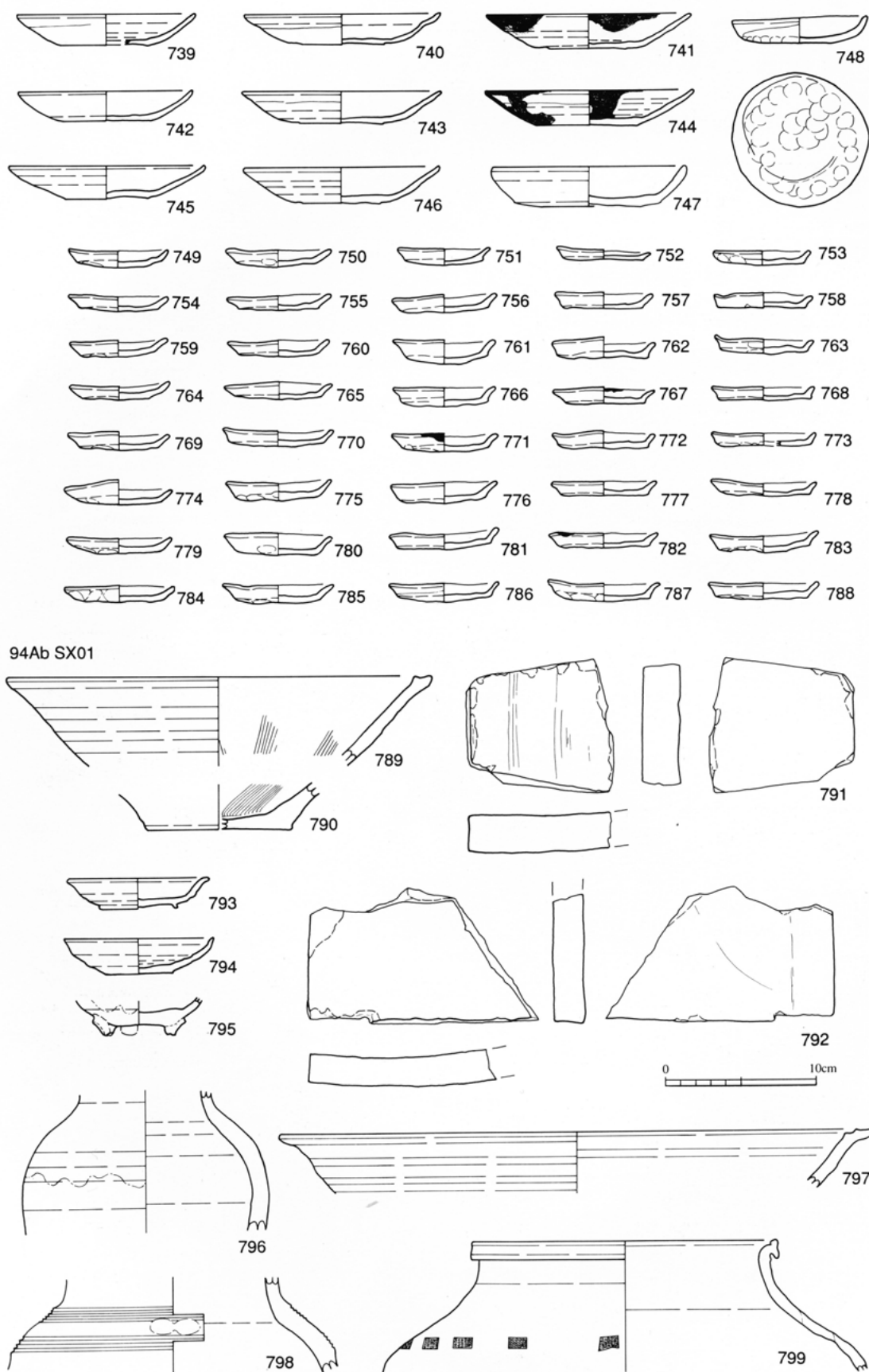
94J SD07



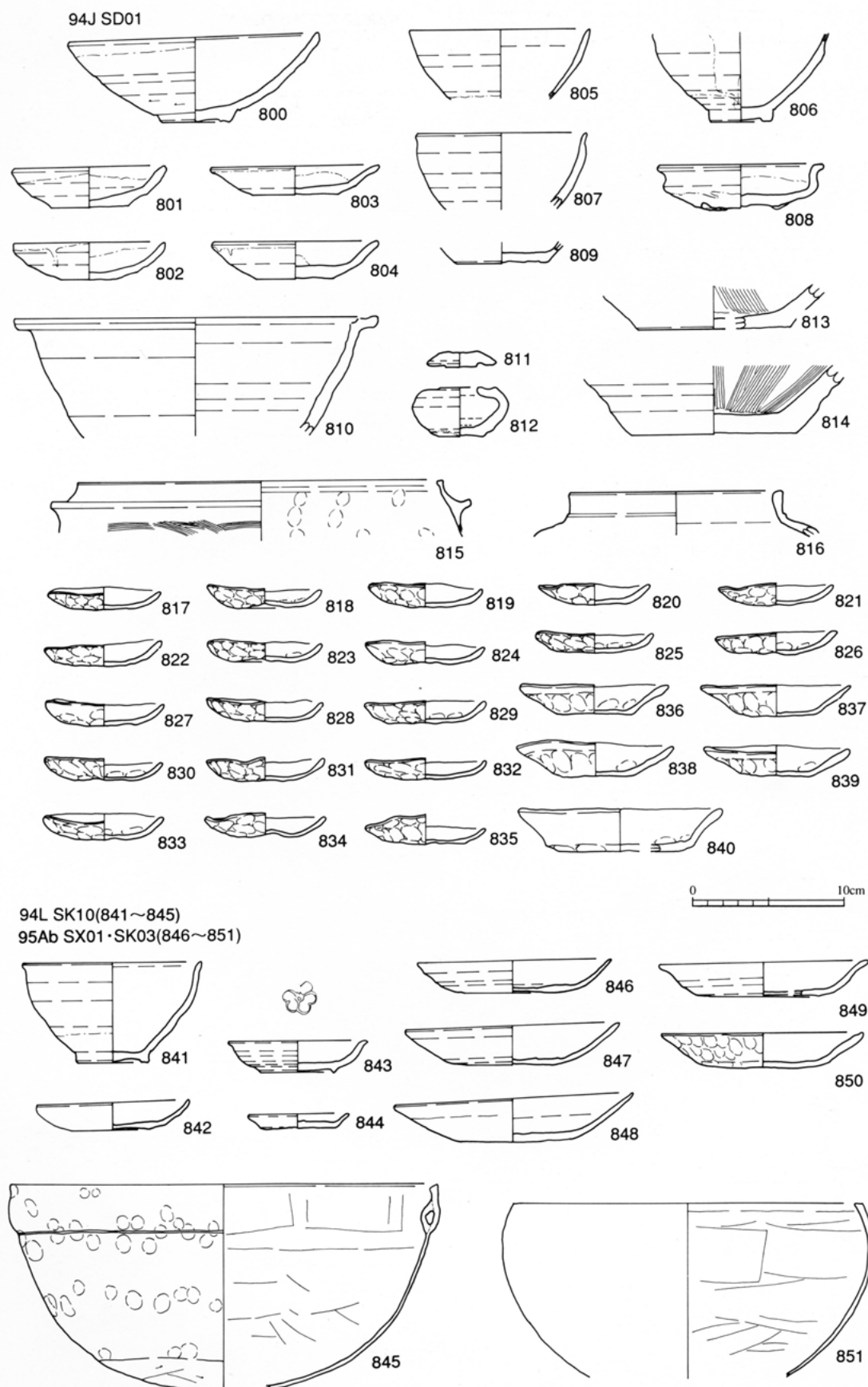
94J SD12



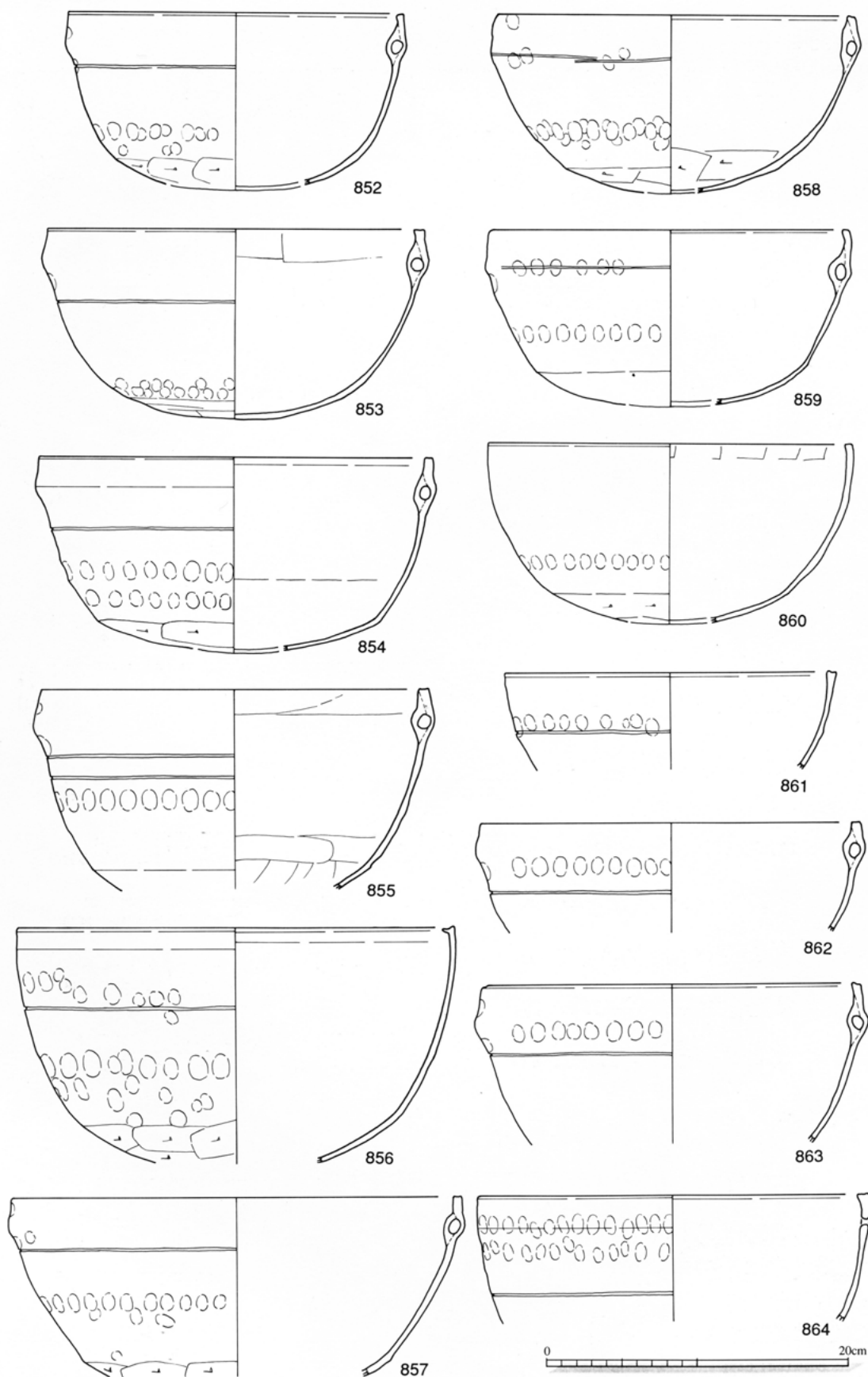
第51図 中世遺物実測図 (8)



第52図 中世遺物実測図 (9)

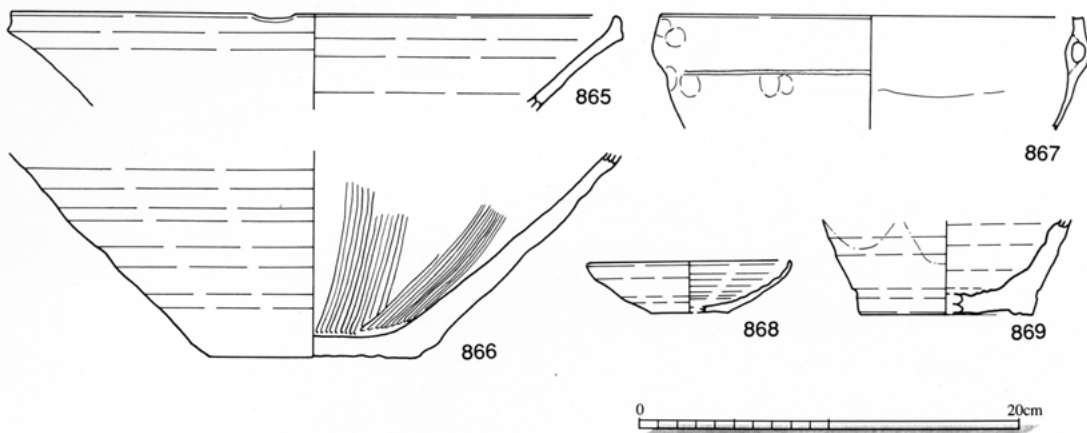


第53図 中世遺物実測図 (10)

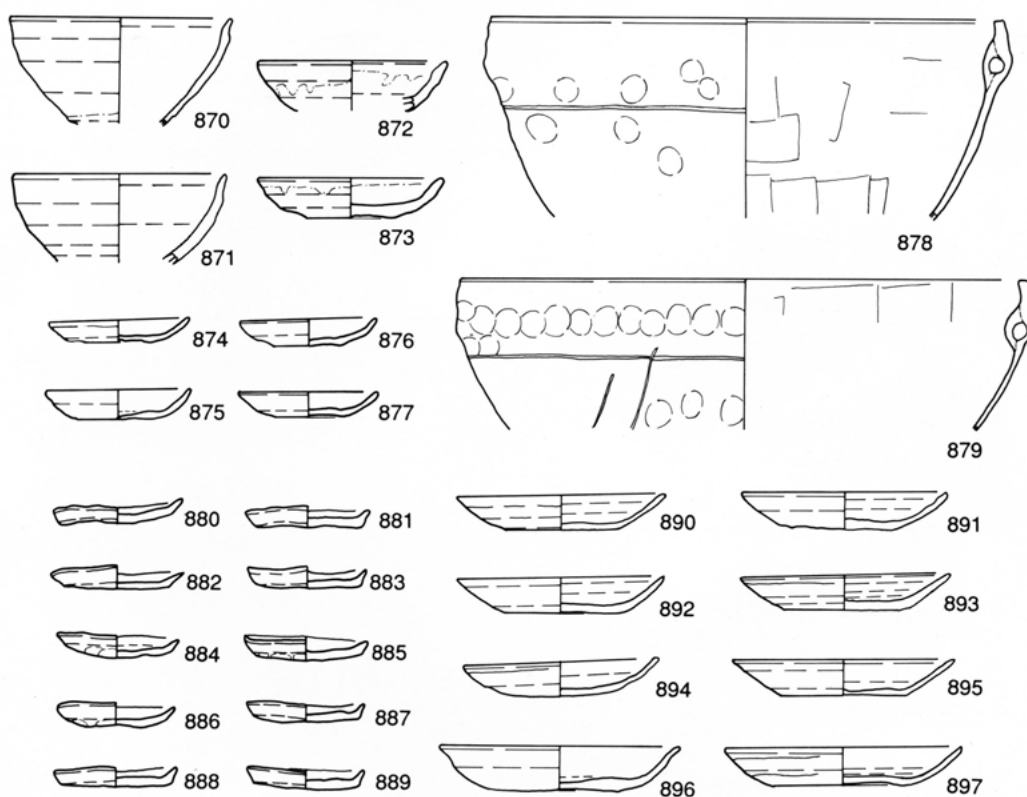


第54図 中世遺物実測図 (11)

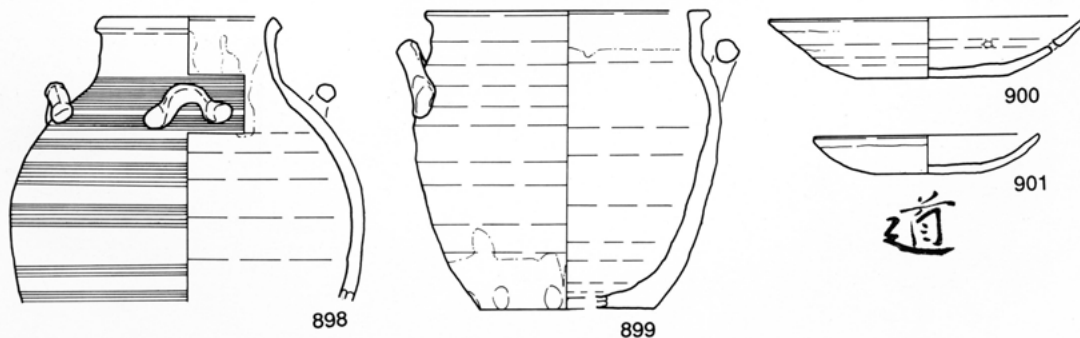
94G SE03



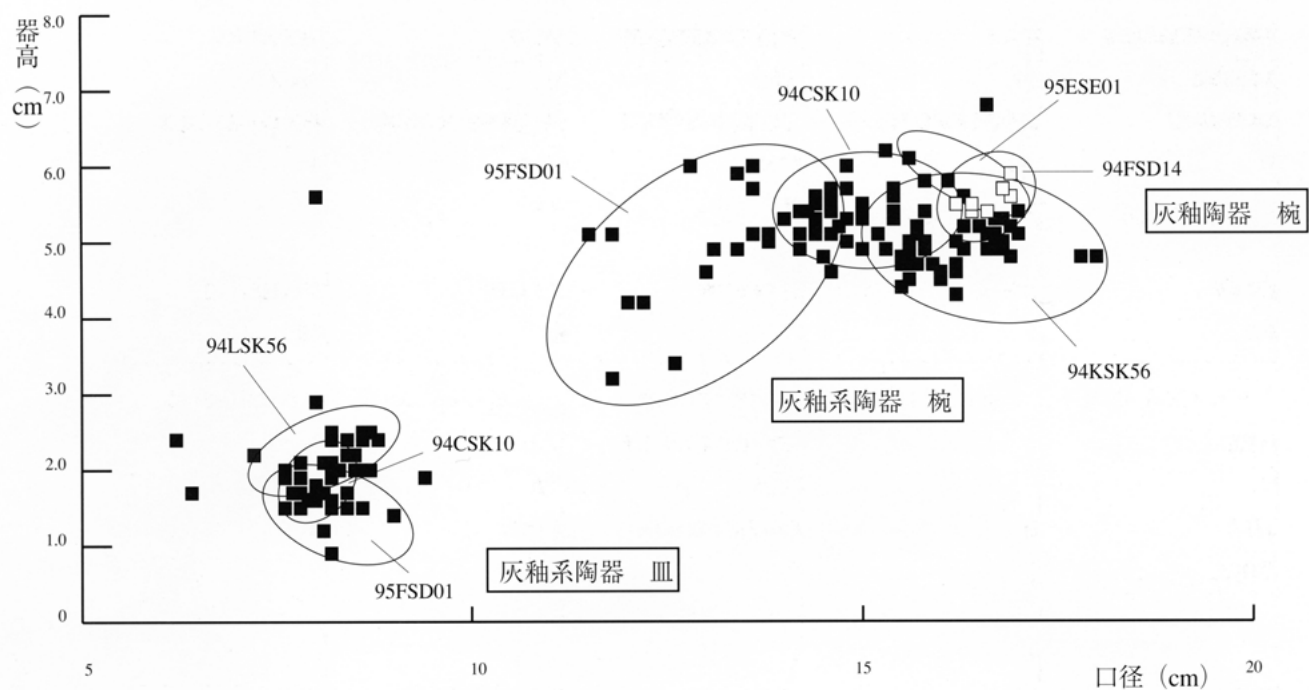
95Aa SD02



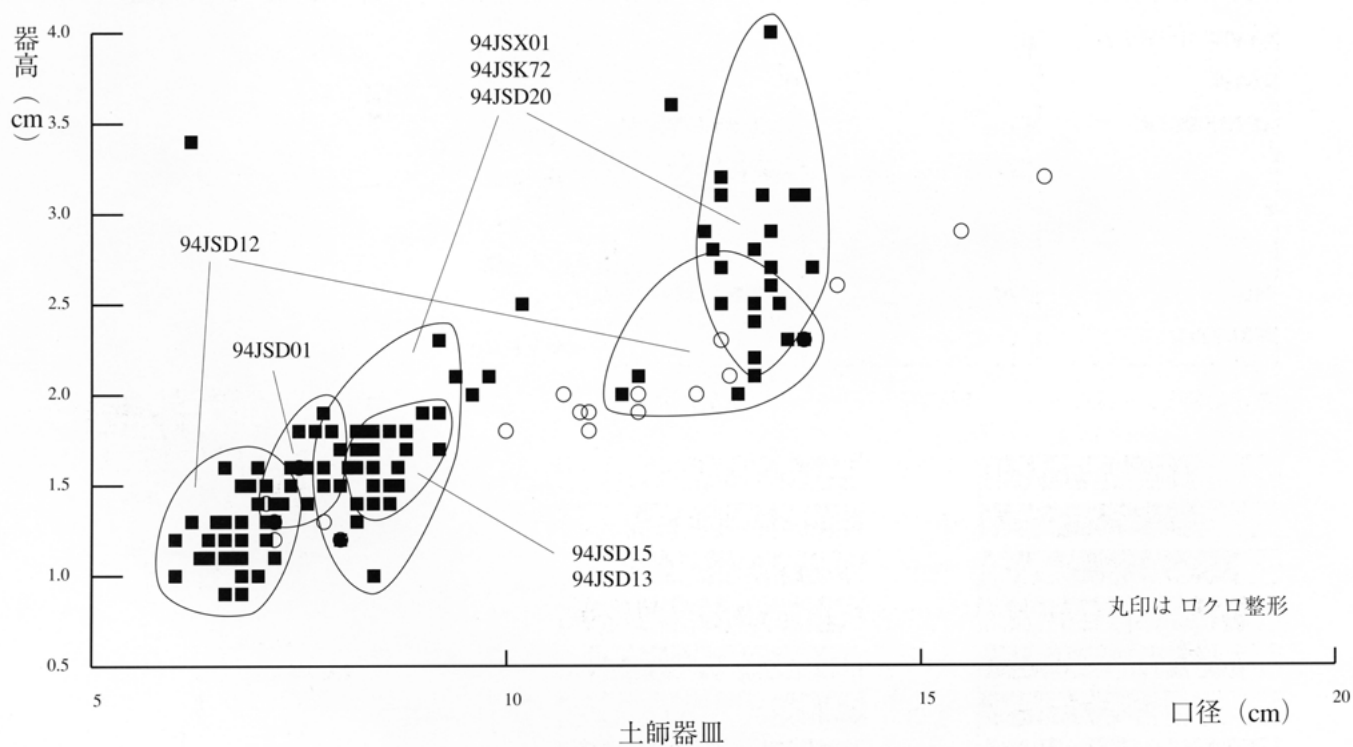
95Aa SD03



第55図 中世遺物実測図 (12)

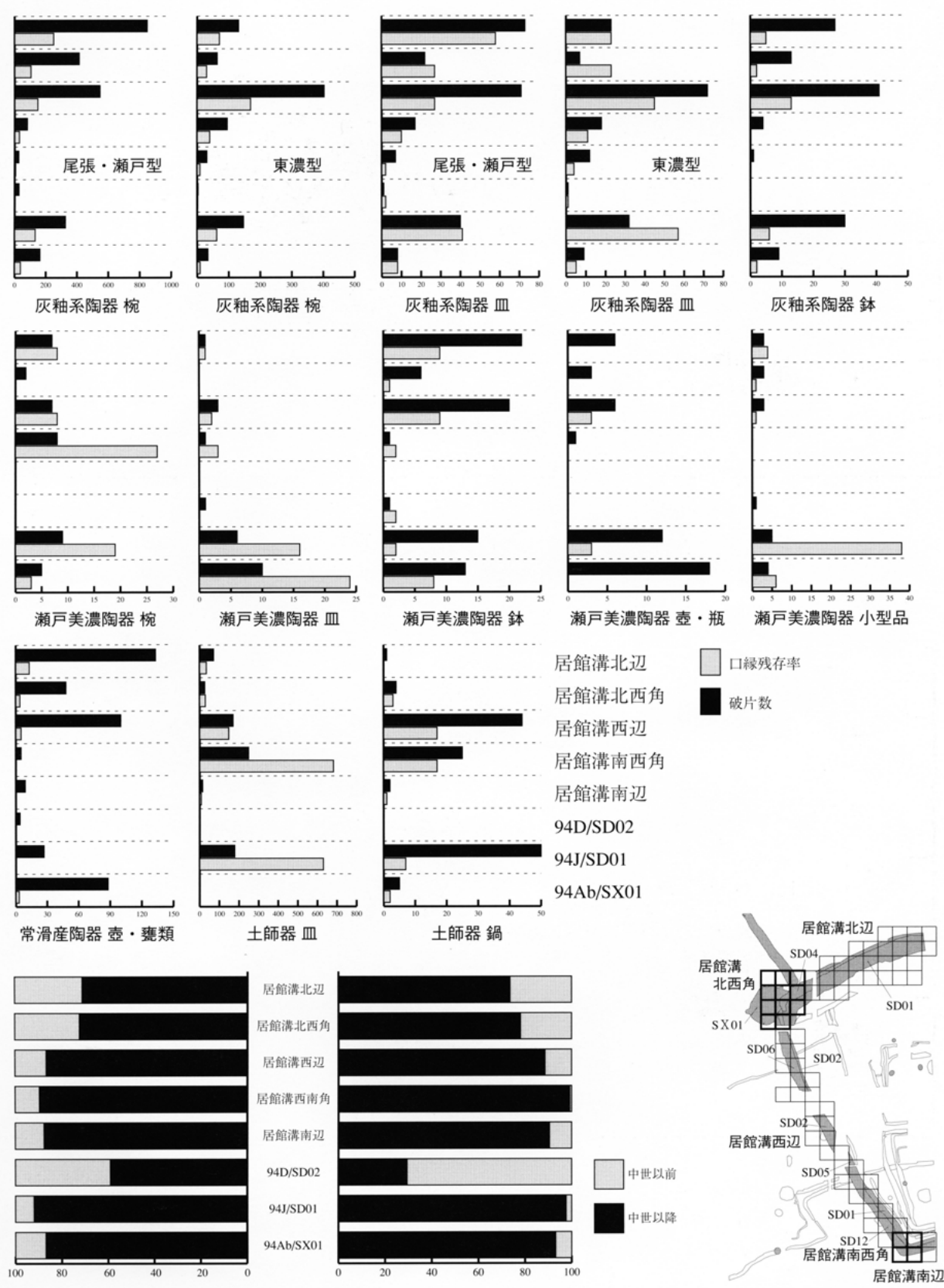


灰釉系陶器碗・皿



第56図 中世遺物 碗・皿類法量分布

区画6周辺出土遺物分布傾向



区画6周辺 中世以降/中世以前の遺物割合
第57図 区画6周辺 出土遺物分布傾向

5 その他の遺物

a.貿易陶磁器

大毛池田遺跡から出土した貿易陶磁器は総数403点。その内訳は白磁165点、青白磁9点、青磁226点、青花3点である（第60図）。分類が可能なものについては従来の研究^{*1}に基づいて分類した。

分類

白磁 総数165点。碗142点、皿16点、四耳壺2点、小杯2点、瓶2点、合子1点。

碗（第58図902～919）

902～904は口縁部が小さい玉縁状になり、釉全体に貫入がみられる。902は体部に丸みがあり、釉色は黄色味をおびた白色。903の体部外面下半部はヘラ削り調整で、施釉されていない。904の釉色はうすい緑色。（大宰府編年Ⅱ類）

905～910は口縁部を玉縁状にし、釉は灰色をおびた白色で厚く施釉されている。905は体部下半に施釉されていない。908は見込みに沈線状の段がある。910は胎土が粗く、釉全体に貫入がみられる。911は高台部のみであるが高台の幅が広く削りが浅い。体部外面下半部はヘラ削り調整され、施釉されず、見込みには沈線状の段を有する。（大宰府編年Ⅳ類）

912～914は口縁部が外反し、体部内面の口縁部近くに沈線があるもの。912・913は体部内外面に櫛目の紋様を有する。915・916は細く高い高台をもち、釉はうすく、高台部に施釉されない。見込みに沈線状の段をもつ。（大宰府編年Ⅴ類）

917は口縁部が外方向にひらき、体部内面の口縁部近くに沈線がある。破片が小片で図化できなかったが見込み部分の釉を環状に掻き取っているものも確認される。（大宰府編年Ⅶ類）

918は口縁部を施釉しないいわゆる口禿の碗。釉は青味をおびた灰白色で、内面口縁部近くに沈線がある。（大宰府編年Ⅸ類）

919は底部の器肉が厚く、低い高台をもつ。外面高台部に段状の沈線が入る。

皿（第58図920～922）

920は平底で外面体部下半および底部は施釉されていない。内面に白化粧土による区画をもち、見込みに段を有する。釉はうすく黄色味をおびた白色。11世紀後半から12世紀の潮州窯系の皿と思われる。

921は全面施釉された皿。（大宰府編年Ⅸ類）

922は口縁部が外反し、釉は光沢のある白色。15世紀代の皿と思われる。

青白磁 総数9点。碗1点、小碗1点、皿2点、合子2点、入子1点、不明2点。

923は口縁端部は施釉されていない。12世紀から13世紀の入子と思われる。924は12世紀代の合子の蓋。925は高台部が低く削り出され施釉されない、12世紀代の小碗。

同安窯系と龍泉窯系のものが確認できる。

同安窯系32点。碗22点、皿10点。

碗（第58図926・927）

926は体部外面に細い櫛目を内面にジグザグ紋様を施し、釉はうすい緑色。927は台形状の高台が外方向にひらき、体部外面は無文、内面には櫛目の紋様が入り、見込みに段をもつ。釉は飴色。（同安窯系Ⅰ類）

皿（第58図928～930）

928～930は体部が中位で屈曲し、見込みとの境に段を有する。928は外面体部下半部に施釉されていない。930は見込みにヘラと櫛状工具による紋様が施され、底部の釉は全面施釉後掻き取られている。

龍泉窯系191点。碗176点、皿5点、小碗4点、大皿4点、香炉1点、小杯1点。

碗（第58図931～936、第59図937～947）

931は体部内外面とも無文。932～934は外面は無文、内面にヘラおよび櫛状の工具で紋様を施す。935は沈線で内面を区画する劃花紋の碗。936は高台部のみであるが、断面は四角形で畳付および高台内は露胎である。（龍泉窯系Ⅰ類）

937～937は外面に鎬連弁の紋様を有するもの。937は内面にも紋様をもつ。釉は青味をおびた緑色。（龍泉窯系BⅠ類）

940・941はヘラ描きの連弁紋。（龍泉窯系BⅢ類）

942・943は連弁紋碗の高台部。底部の器肉は厚く、畳付および高台内の釉は掻き取られている。

944・945は細い線描きの連弁紋碗。（龍泉窯系BⅣ類）

946は断面三角形の高台をもつ鎬連弁紋碗。高台部の端部を除いて全面施釉する。（龍泉窯系BⅤ類）

947は口縁部を外反させる端反碗。内外面とも無文。（龍泉窯系D類）

小碗（第59図948・949）

948は高台の断面が四角形で端部には施釉されない。外面に幅の広い連弁紋をもつ。949は内外面とも無文。

皿（第59図950）

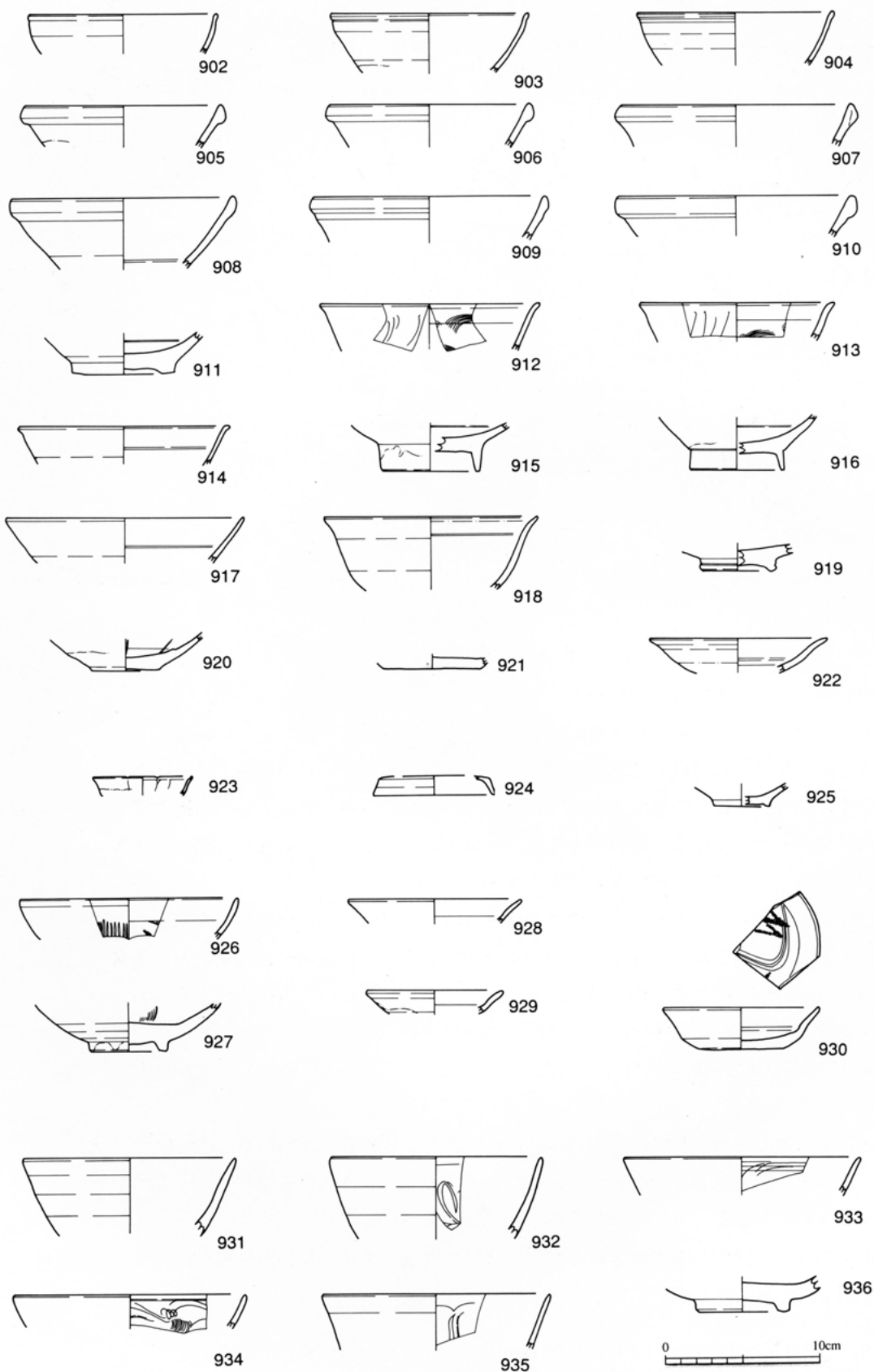
950は体部中位で屈曲し、底部の釉は焼成前に掻き取られている。見込みに放射状の櫛目の紋様を施す。

大皿（第59図951・952）

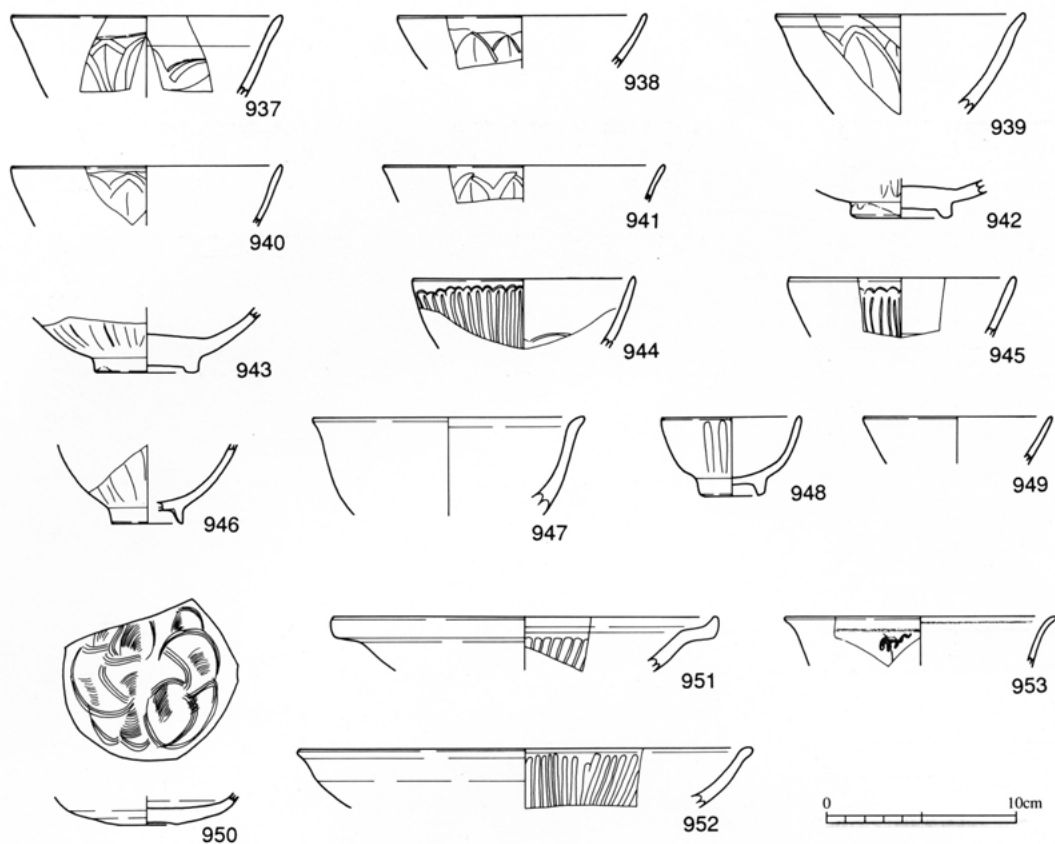
951は口縁部を外反させ端部を直上につまみ上げている。952は口縁部を玉縁状にする。両者とも内面を菊状に削ぐ紋様を施している。

碗 3点。

953は口縁部を外反させる碗。外面に唐草紋が描かれる（染付碗B群）。他に外面にアラベスク紋様が描かれる染付碗D群も確認できる。



第58図 貿易陶磁器実測図 (1)



第59図 貿易陶磁器実測図 (2)

遺構の時期と一致するものは極めて少ない。

小結

以下、各調査区における出土量の割合からみえる分布の傾向を示す。(第61図)

- ・93A a b区では、白磁の出土量が全調査区の中で23%の割合を占め、最も多く出土しているのに対して青磁はわずかに4%出土しているのみである。出土した白磁の時期は11世紀から12世紀中葉と思われるものが多数であることから、93A a b区は貿易陶磁器の分布のなかでは比較的古い様相を示す。
- ・青磁は94J区からの出土が多く全体の27%を占める。居館大溝に区画された内側からの出土が多く確認され、14世紀末～15世紀初めの龍泉窯系碗E類や15世紀代の白磁碗(918)・白磁皿(922)などが居館大溝から出土している。また、白磁の出土分布図から居館大溝からは白磁も多く出土していることがわかる。
- ・95Ba区では全体の11%の青磁が出土している。ここは屋敷地(区画6)の南側にあたる。

その他特筆できる遺物としては94Ab区SX01から出土した白磁皿(920)がある。11世紀後半から12世紀の潮州窯系産の白磁皿で、あまり類例もなく、特殊な遺構の性格とあわせて考えることができよう。

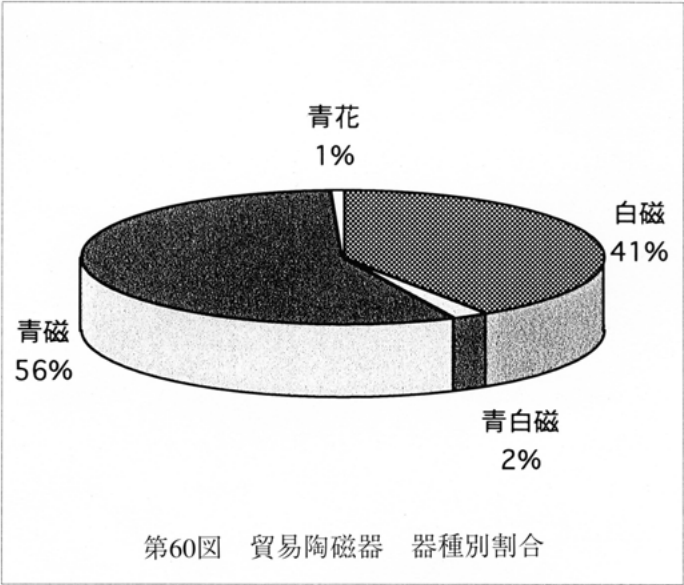
貿易陶磁器の産地分類、年代比定にあたっては森達也氏(愛知県陶磁資料館)にご教示を得た。記して感謝いたします。

参考文献

- 横田堅次郎・森田勉 1978「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』
 上田秀夫 1982「14から16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』2号
 森田勉 1982「14から16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』2号
 国立歴史民俗博物館 1994『日本出土の貿易陶磁 東日本編2』

	白磁	青白磁	青磁	青花
碗	142	1	198	3
皿	16	2	15	
小碗		1	4	
大皿			4	
四耳壺	2			
瓶	2			
合子	1	2		
入子		1		
小杯	2		1	
香炉			1	
不明		2	3	
計	165	9	226	3

第3表 貿易陶磁器器種構成



白磁出土分布



青磁出土分布

第61図 貿易陶磁器出土傾向

b.土錘・陶錘

調査区域全体での出土総数は115点、うち大まかな時期が判明しているもの67点がある。特殊なものでは古墳時代中期の遺物包含層から有孔土錘1点、溝Eから出土した有溝土錘1点がある。その他はすべて管状土錘であり、古代に属する大溝群と中世屋敷地の区画溝、境堀と思われる長大な溝群に集中する。また遺構外では中世屋敷地の区画内部に比較的多く分布する傾向がある。

有孔土錘、有溝土錘と呼称される2点の遺物を除き、残りすべてが管状土錘である。この管状土錘について大毛池田遺跡と奈良・平安時代の旧流路を隔てた左岸域に近接する大毛沖遺跡での報告に従い、主に重量及び端面の形状をもとに次のような分類を行った。

分類

- 分類1 I 孔径が0.5mm以下で重量が20g未満 (=刺網)
- II 孔径が0.5mm以上で重量が20g以上 (=曳網)
- 分類2 Aa 両端部を平坦に調整するもの
- Ab 両端部を平坦に調整するが、痕跡が不明瞭なもの
- B 両端部を平坦に調整しないもの

管状土錘には土師質97点、須恵質・陶質の製品16点がある。土錘の属性として最も重要と思われるのは「重量」であるが、いずれもI類に分類されるものが全体の70%以上を占め、大毛沖遺跡同様に刺網の漁網錘に推定されるものが最も多い。これを7世紀後半～9世紀の大溝出土遺物を古代、それ以降12世紀～16世紀に遺構出土遺物を中世として分析すると、古代の遺物群の度数分布のピークは10g～20g、中世は10g以下となる。これらが使用される漁網の種類、漁法のどのような違いによるものかは不明である。大毛池田遺跡では古代は幅5～10mもの水路群が掘削され、中世では境堀および屋敷地区画溝等が木曽川水系の一支流である旧黒田川から取水して設定されている。

管状土錘

「瀬戸内型土錘」「棒状土錘」とも呼ばれる。962は古墳時代遺物包含層より出土した。有孔土錘 両端部に径5mmの円い貫通孔を穿った横断面が偏平な厚い板状を呈する土製品である。円孔に近い端部の一方は整形時に両側から力を加えられたためか溝状に凹む。この種の土錘の平均的なもので長さ7cm、重量は20g前後であり、962の長さ7.6cm、67.8gはやや大型であろうか。使用される網の規模、具体的な装着方法などは明らかでないが、民俗資料より小型刺網の漁網錘に用いられたと考えられている。分布圏に特徴があり、弥生時代前期～奈良時代に消滅するまで大阪湾岸～瀬戸内海にかけての海浜部集落遺跡に集中する。伊勢湾周辺では9遺跡、内陸部では大毛池田遺跡のほかに宮之脇遺跡（岐阜県/木曽川と飛騨川の合流域）で確認されている。

有孔土錘

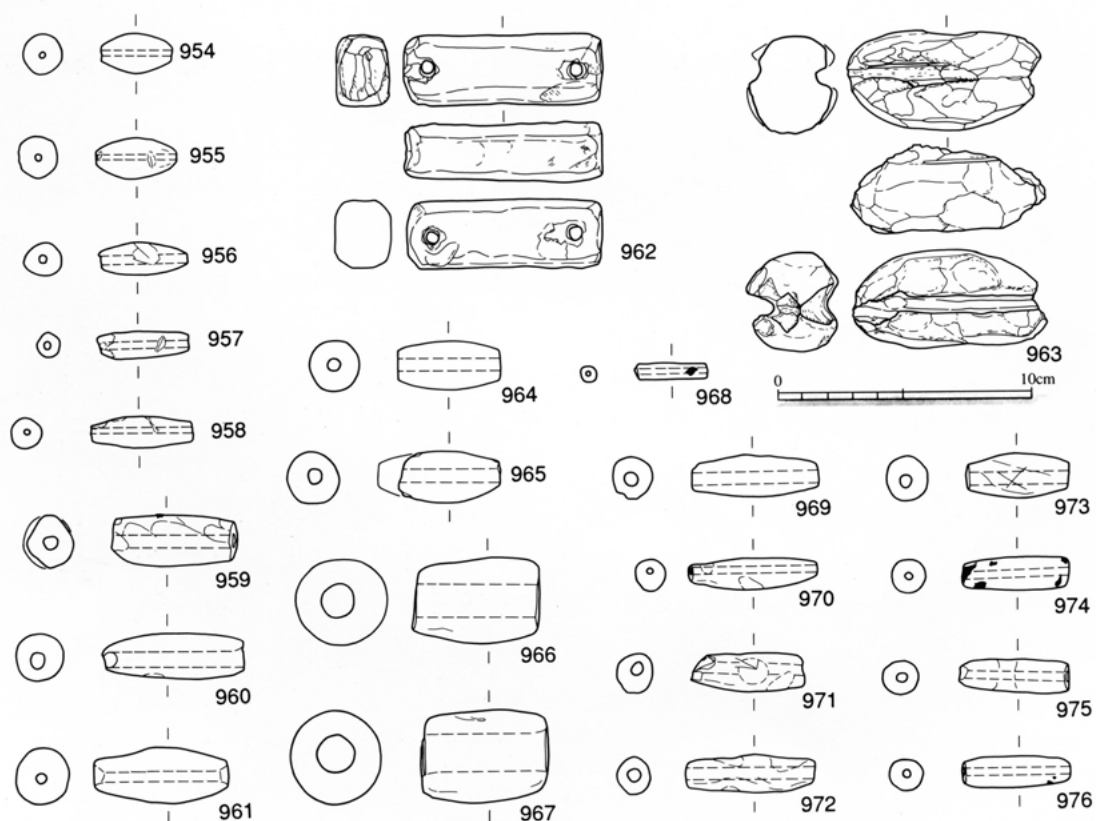
「工字型土錘」または「有溝土錘」と呼称される963は「美濃」刻印の須恵器を含む大溝砂層から出土した。963は長さ7.6cm、87.8g。断面が工字状を呈し、楕円球形の両側面長軸方向に溝をもつ。瓦質で全体に暗灰色を呈する。共伴する須恵器・土師器類が殆ど

有溝土錘

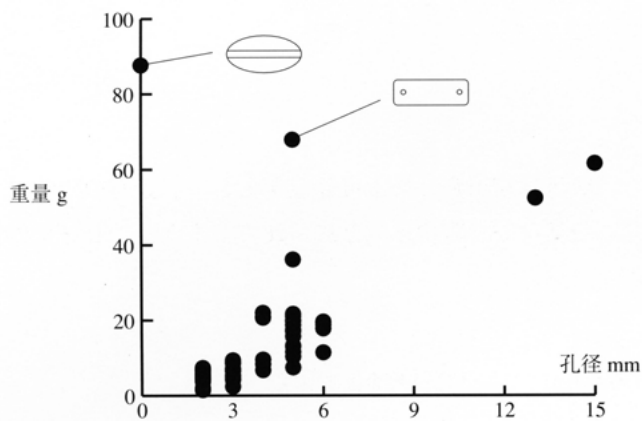
ローリングを受けていないことから、磨滅は使用痕である可能性が大きい。分布の中心域は瀬戸内地域にあり、伊勢湾周辺への伝播は奈良時代以降と思われる。また、これまで内陸部に位置する遺跡では未確認であった。

参考文献

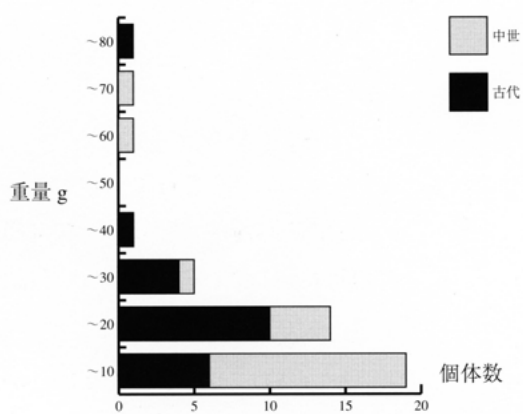
- 一宮市博物館1994『漁の技術史—木曾川から伊勢湾へ—』平成6年度企画展図録
 大野左千夫1979「有溝土鍾について」古代学研究
 大野左千夫1980「有孔土鍾について」古代学研究
 大野左千夫1995「有孔土鍾再考—紀伊半島から東海へ—」地方史研究256
 久保禎子 1996 4・8土鍾『大毛沖遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書66集



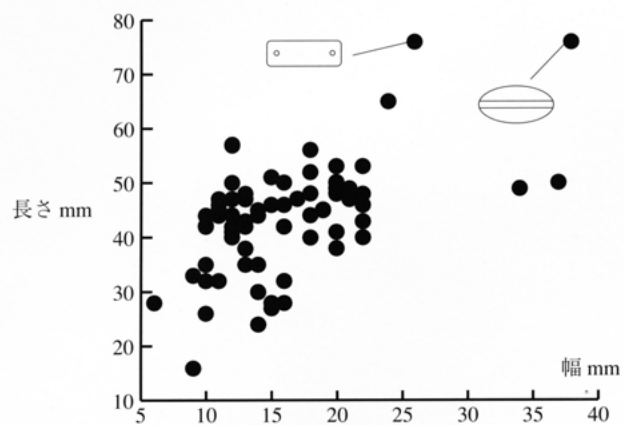
第62図 土鍾実測図



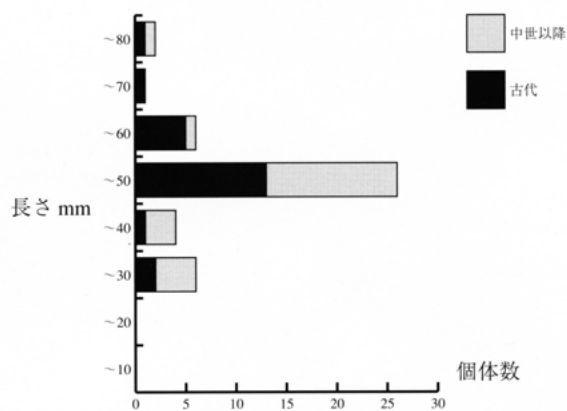
第63図 土錘 重量/孔径分布



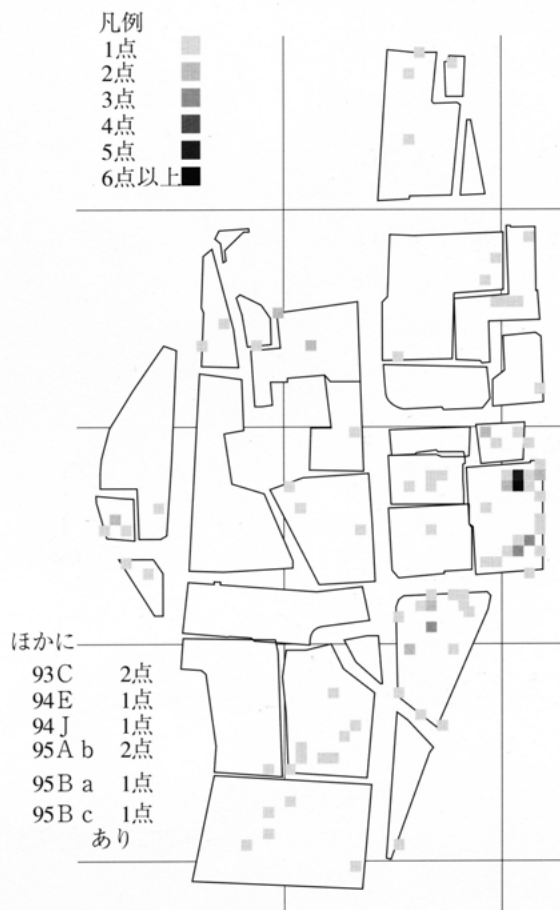
第65図 遺構出土土錘 重量別個体数



第64図 土錘 長さ/幅分布



第66図 遺構出土土錘 長さ別個体数



第67図 土錘出土分布

c.加工円盤・陶丸

加工円盤

(第68図 977~1028)

陶器の破片を打ち欠いて円形に調整したものを、加工円盤としてここで取り扱う。今回の調査では278点が出土した。

分類 素材と使用部位を基準に、今回の調査で出土した加工円盤を以下の様に分類する。

- A 1 灰釉系陶器の、高台部（及び底部角）を使用したもの。
- A 2 灰釉系陶器の、A 1 以外の部位を使用したもの。
- B 1 須恵器・灰釉陶器の、高台部（及び底部角）を使用したもの。
- B 2 須恵器・灰釉陶器の、B 1 以外の部位を使用したもの。
- C 常滑産陶器（中世）を使用したもの。
- D 施釉陶器を使用したもの。
- E その他の素材を使用したもの。

その構成比を第69図・表に示す。A 1 が211点と圧倒的に多く、76%を占めている。A 1・2は殆どがいわゆる「粗肌手」の山茶碗で、東濃産の「均質手」は5点のみである。施釉陶器を使用したDは、僅か8点しか出土していない。使用器種は、A 1・A 2・B 1が碗・皿・鉢、B 2・Cが甕などの大型品の体部、Dが天目茶碗と近世陶器の中・大型品の体部である。Eには常滑産の赤物の甕、土師質の炮烙鍋、不明陶器が各1点ある。A 1・B 1のような高台部の使用は、灰釉系陶器以前の素材に限られている。

加工方法 周縁部を打ち欠いて加工したものと、その破面をさらに研磨しているものがある。A 1~Cは殆どが前者であるが、明らかに研磨されているものもA 1で5点、B 1で2点あった。その中には、丸く形を整えるというよりは破面をそのまま擦り減らせた、砥石の様な別の用途に転用されたと考えられるものもある。Dは8点中4点が研磨されており、A 1に比べて比率が高い。Dのうち天目茶碗は胎土が硬いためか、志野の天目茶碗1点を除いて研磨されていない。なお、打ち欠いただけのものには、打撃が5~6程度でしかないものを含んでいる。A 1・B 1の場合、素材の特殊性から加工円盤として抽出し易くなっているためである。

規格 計測結果を第1表・第2図に示す。計測値の分布をみると、A 1が重さ6~13g、長径23~31mmを中心にして広く分布している領域に、その他のグループの値も概ね重なる。但し、A 1と比べると、A 2・B 1は長径に対する重さがやや軽く、またB 2は長径が小さい。計測値の平均では、A 1が重量・長径ともに大きい、短径ではDが大きい。A 1は高台の円弧に沿って長軸をとるので楕円形になり易いためと考えられる。

出土状況 第70図・表に示す。出土の集中するのは、94Ab・E・KL区、95Ba・F区である。遺構では、中世前期の94E区SG01から最多の17点が出土している他、中世後期・戦国期の大規模遺構及び、近世以降の遺構埋土からも多く出土している。また、中世前期の井戸・土壙からの出土も目立つ。分類別にみると、A 1~Cは概ね同じ分布をみせ、Dは調査範囲西端にやや偏る。中世前期の遺構からはA 1~B 1が出土し、Dは戦国期の遺構と、それ以

降の時期の包含層から出土している。

今回出土の加工円盤には、加工前の使用痕、及び加工後の使用痕あるいは風化痕が観察 使用痕
される。加工前の使用痕は、内面・高台部の磨滅、内面の黒色の付着物・染み込み、漆の
付着などがあり、A1では少なくとも20%以上にこうした使用痕が残る。素材となる器物
が、相当使い込まれた後に円盤として加工されたことを示すと考えられる。加工後の使用
痕は、前述の砥石転用を想像させる磨滅の他、意図的な研磨以外の破面の磨滅がある。A
1・B2・Dではそうした磨滅痕のあるものが50%に達し、少い方でもCで25%ある。打
ち欠き加工後の破面の磨滅は、素材自体の硬度や、埋没するまでの環境とも関わってくる
が、加工円盤の使用状況にも要因が求められる。加工円盤が単に一回性の使用を目的とし
たものではなく、ある程度の期間続けて使用されたことが考えられる。

大毛池田遺跡出土の加工円盤はA1、即ち灰釉系陶器の碗の高台部を使用するものを主
体とする。二次堆積からの出土が多いが、時期は中世前期に属すると考えられる*1。ま
た生活空間及び井戸からの出土割合が高く、これらの点では土田遺跡などの尾張地方の中
世遺跡出土の加工円盤と共通している。但し、遺跡の存続期間の違いにより、戦国・近世
以降の加工円盤は数が少なく、また高台以外の部位を使用するものの比率が小さい。

小結

(第68図 1029～1038)

直径2cmほどの球に成形された灰釉系陶器の製品を、陶丸とよぶ。今回の調査では22点
が出土した。また、同様の形状で土師質のものが2点出土した。

陶丸

灰釉系陶器の陶丸の大きさは、長径が19～26mmの範囲で、平均22.3mmである。重さは 規格
7.3～15.8gの範囲で、平均11.2gである。形は、殆どは整った球形であるが、歪みの大
きいもの(1030,1034)も2点あった。

第69図に出土地点を示す。7点を出土した95F区その他、94J・95A・95B区に若干の集中傾 出土状況
向がみられる。遺構では、中世後期以降の遺構から出土している。

陶丸22点のうち19点は、表面が全面的に磨滅して滑らかになっている。磨滅のないもの 使用痕
3点のうち、1点は表面に細かい剥離があり(1034)、2点は自然釉が付着し、焼成による
赤っぽい発色がある(1053)。

95F区より「×」の刻印のある陶丸が1点出土した(1037)。刻印は焼成前に施され、刻印
焼成後にヘラ痕が全く残らないほど磨滅している。土田遺跡にも類例がある。

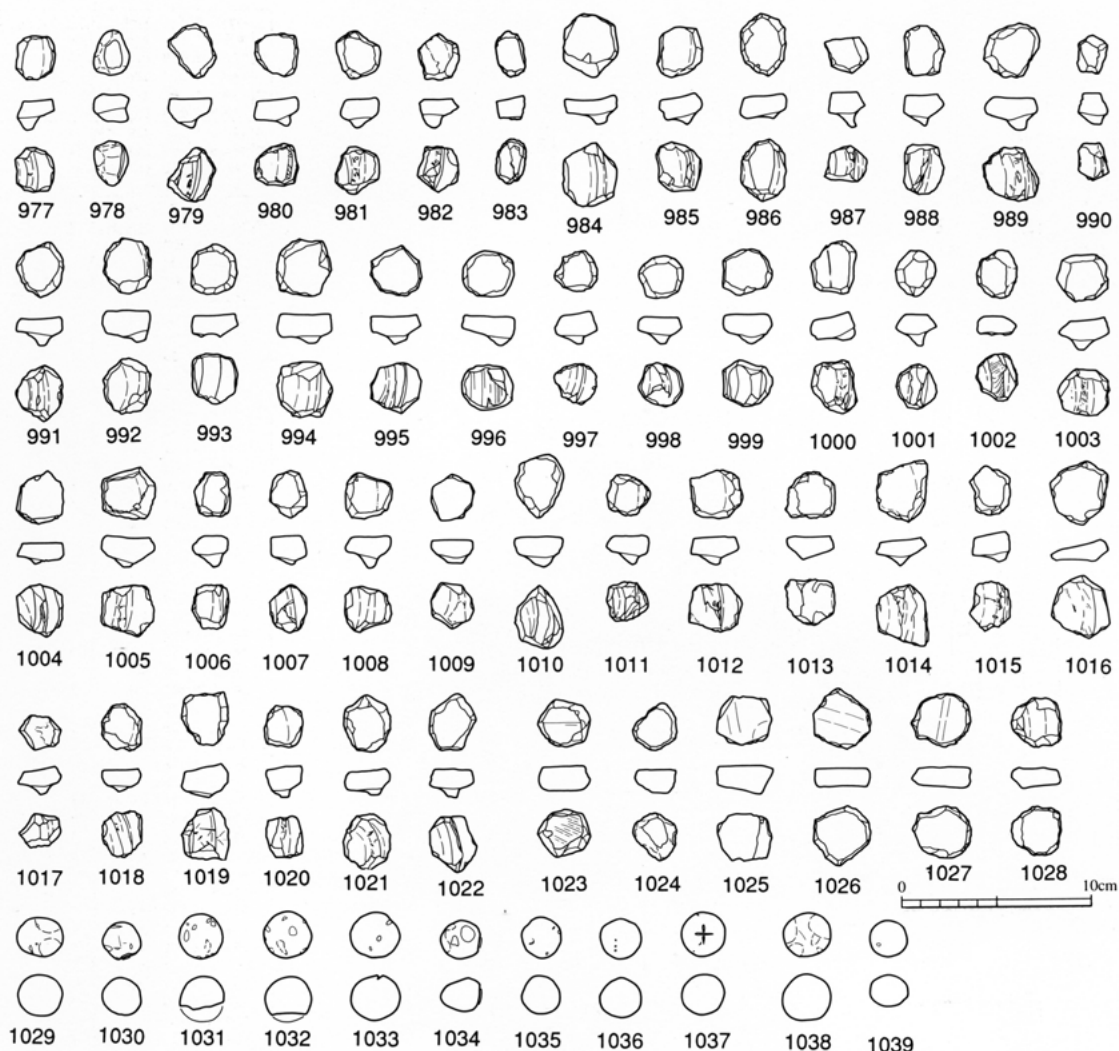
土師質の土玉が2点出土した(1038・1039)。大きさは陶丸とほぼ同じだが、重さは2/3 土師質
以下になる。中世後期の遺構から出土している。

大毛池田遺跡では、陶丸の出土数は多くない。時期は中世後期に属すると考えられる。
殆どのもので表面に相当の磨滅があることは、その使用方法を考える上で留意すべき点で
あると考えられる。

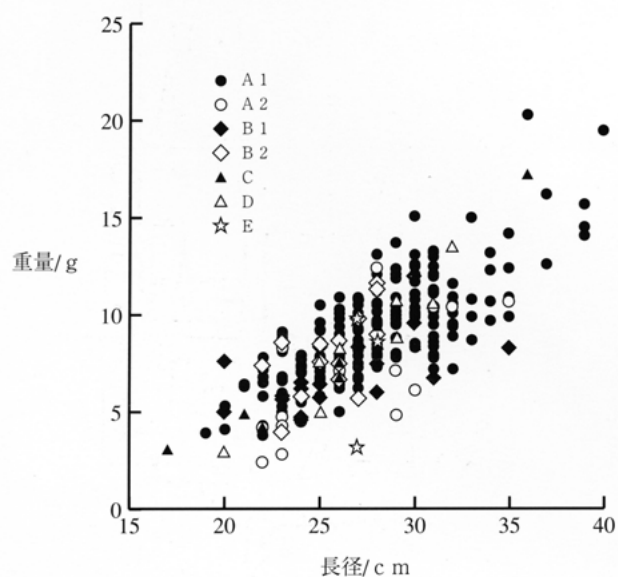
小結

参考文献

1) 赤塚美智代 1987「加工円盤」『土田遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第2集



第68図 加工円盤実測図



加工円盤 長径・重量分布

	重量平均 /g	長径平均 /mm	短径平均 /mm	総数	%
A1	9.1	28	23	211	75.9
A2	6.6	26	23	16	5.8
B1	7	26	23	18	6.5
B2	8	26	22	14	5.0
C	7.7	26	23	8	2.9
D	8.5	27	25	8	2.9
E	7.2	27	23	3	1.1
合計				278	100

第4表 加工円盤計測値一覧

第69図 加工円盤 長径・重量分布

出土地点不明

93Ab ● 94L ▲
93B ● 95Ba ○
93C ■ 95E ●
94Mb東 ● 95F ●



X=-73100

Y=-33500

X=-73200

- A1
- A2
- ◆ B1
- ◇ B2
- ▲ C
- △ D
- ☆ E

加工円盤

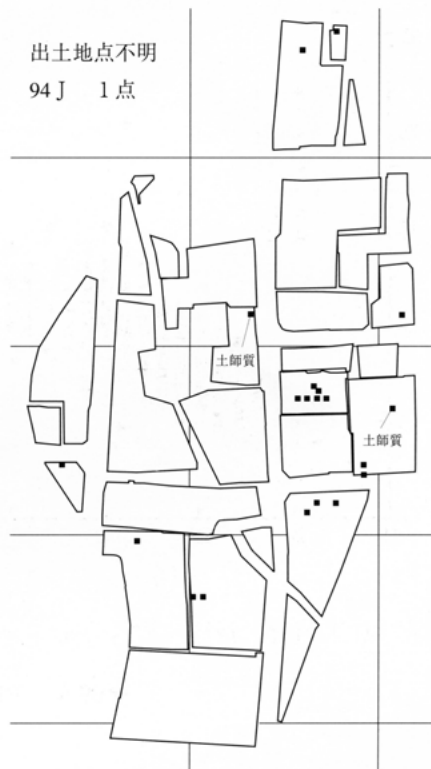
第70図 加工円盤・陶丸出土分布

調査区	遺構	時期	A1	A2	B1	B2	C	D	合計
堀	94F	SD05	8	1					15
堀	94F	SD18	1						1
堀	93B	SD02	3				1		4
堀	94G	SD08					1		1
堀	95B	SD09							
居	94A	SD01	3				1		4
居	94A	SD04	1				1	1	3
大	94D	SD06						1	1
溝	94C	SD02	3				1		4
大	93A	SD01	7	1			1		9
溝	94F	SD01	2						2
	93A	SD02	3						3
	93A	SD03	1						1
	93A	SD04		1					1
	93B	SD01						1	1
	93B	SD08	1						1
	93C	SX01	13	2					15
	94A	SD06	1						1
	94A	SD05	1						1
	94A	SK11	1						1
	94A	SX01	8						8
	94C	SD02					1		1
	94D	SD01	1						1
	94D	SK04	1						1
	94E	SD09	1						1
	94E	SD12	1				1		2
	94E	SG01	17						17
	94F	SK11	1						1
	94J	SD07	1						1
	94J	SD12	1						1
	94J	SD13	1						1
	94J	SD14					1		1
	94J	SD17		1					1
	94J	SK51	2		1				3
	94K	SD01	1						1
	94K	SD04	1						1
	94K	SD10	2						2
	94K	SK29	5						5
	94Mb	SD12	1						1
	94Mb	SD13	2						2
	94Mb	SK103	1						1
	95A	SK24	1						1
	95A	SK56	1		1				2
	95A	SD04	1						1
	95A	SD06	1						1
	95A	SE01	1						1
	95B	SD01		1					1
	95B	SD10			2				2
	95B	ST01	9		3				12
	95B	ST02	7	2		1			10
	95B	ST04	2						2
	95F	SD01					1		1
	95F	SD201	2						2
	95F	SK01	2						2
	95F	SK31	1						1
	95F	SK32			1				1
	95F	SE01		1					1
	95F	SE02	1						1
	95F	SX01	1						1
	95F	SX02					1		1

第5表 加工円盤出土遺構一覧

出土地点不明

94J 1点



陶丸

d.墨書土器・陶器

大毛池田遺跡では、遺構内外含めて合計69点が出土している。内訳は須恵器12点、灰釉陶器6点、灰釉系陶器50点、土師器1点であり、すべて碗、皿類、中世以降に属する資料が73%を占める。

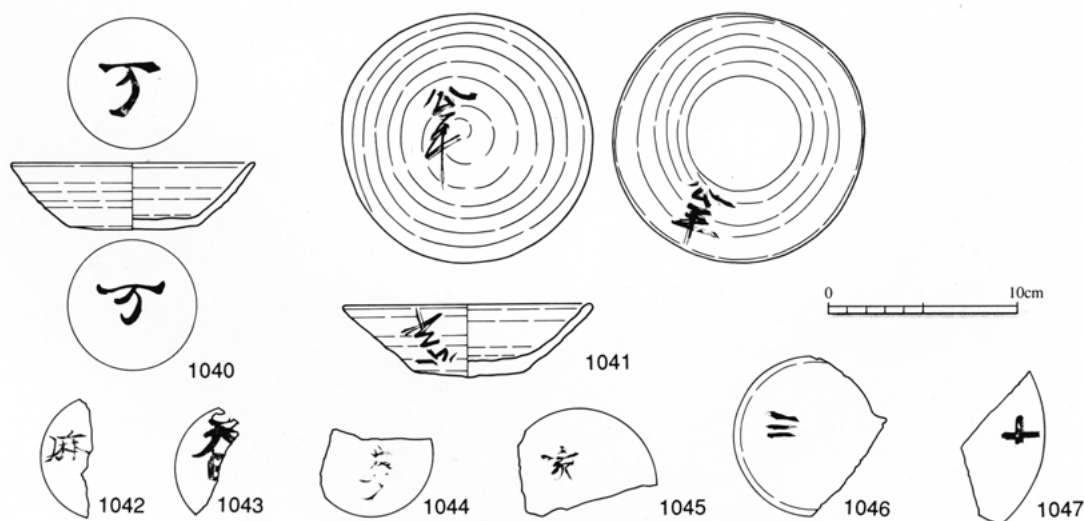
部位 1039と1040の須恵器坏2点のみ内外両面に表記されている他は、すべて底部外面にある。1039は外部側面と内面底部、1040は内外面の底部に各々同じ文字が記されている。

大別してA；数字を表記するもの、B；文字を表記するもの、C；その他3つに分類できる。

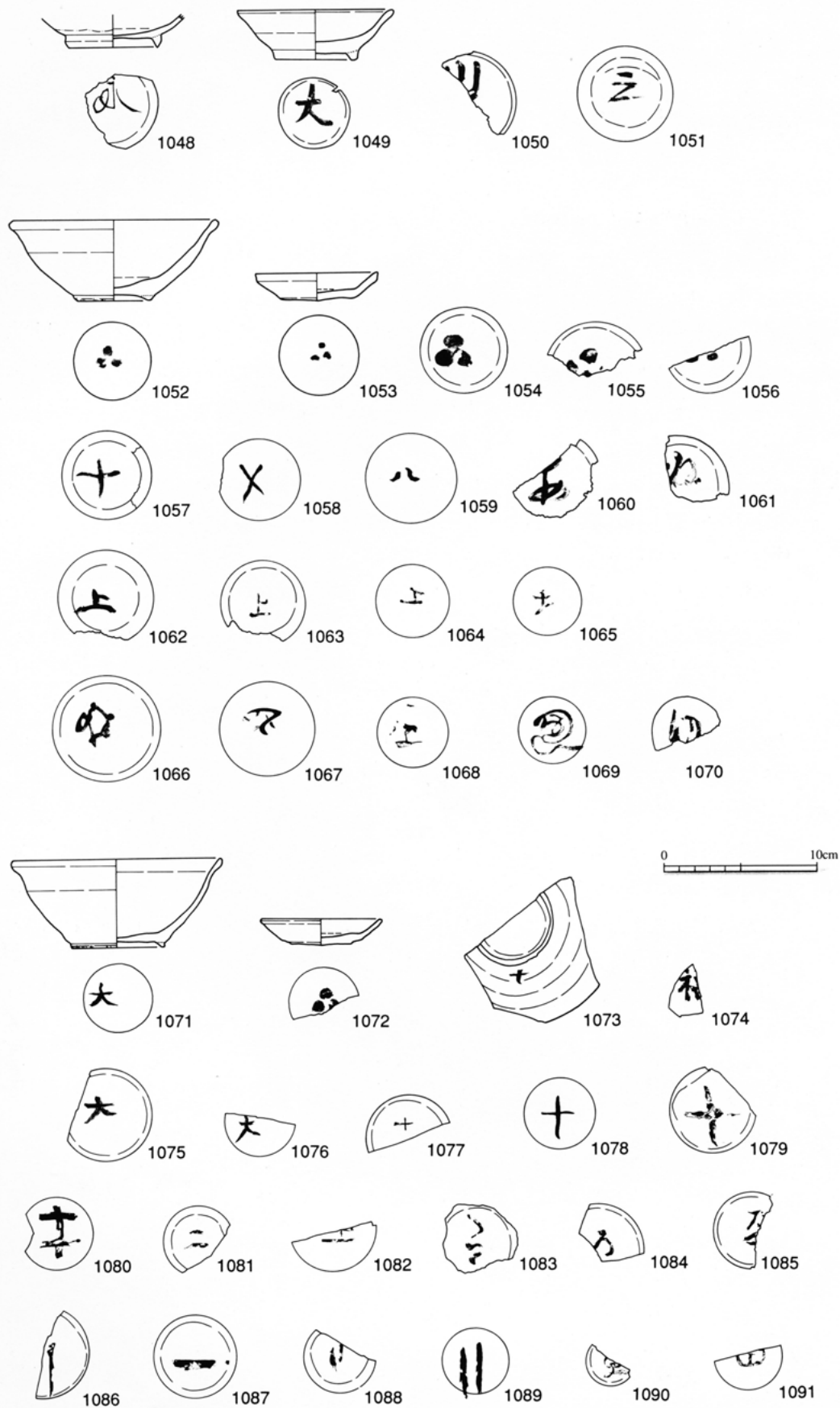
内容 古代に属する資料では、判別可能なものでA4点、B9点がある。文字では「公平」1040が唯一2文字を記し、その他「万」1040、「富」288、「福」2点311,376、「麻」(?)1042、その他判別不明のもの1043~1045などがある。

中世はA点14、B19点、文字の判別不明7点、C10点、があり、数字では「十」1056、1072、1076、1077、1078、が7点、「廿」が1点、文字では「大」1048、1070、1074、1075が4点、「上」1061、1062、1063、1081が点、「之」1050、「福」1073や「あ」1059、「ね」1060などひら仮名の文字がみられる。ほか判別不明のものは花押状の文字1068、1069、1089などがある。その他記号かと思われるもので「・」1051、1052、1053、1054、1055、1071は合計7点あり、大毛池田遺跡での特徴といえる。

時期・分布 古代の墨書須恵器は、大半が「美濃」刻印のある須恵器のほか完形品、優品を多く出土した溝E下層出土遺物群に含まれる。また、94ESG01出土の1040は周辺に分布した居住域に属するものと思われる。中世0期は屋敷地周辺の井戸等に分布し、中世I期~II期前半では94J屋敷地区画溝内、区画周辺に集中域がみられる。II期後半~中世III期でもやはり居館区画大溝周辺に分布するが、遺構外で検出されるものも多い。



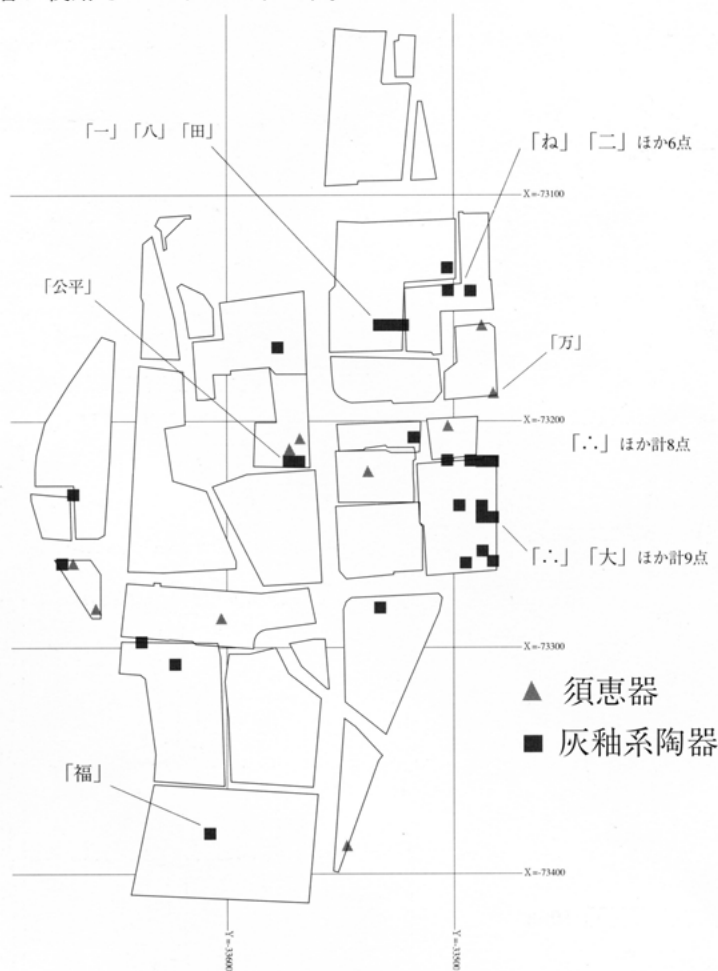
第71図 墨書土器・陶器実測図 (1)



第72図 墨書土器・陶器実測図 (2)

小結

古代Ⅲ期の須恵器に記された墨跡は明瞭であり、しかも筆致は滑らかである。文字には「福」「富」などが目立ち、明らかに吉祥句的な意味で選ばれた文字と思われる。周辺居住域についてはなお不明な点が多いものの、溝E、Fへ投棄された破損のない大量の遺物群を総合してみた場合、居住者に一般の集落とは異なる階層を想定することは可能である。特にこの地点に出土する墨書土器には、そのような集落における儀礼的な意味での使用法も想定できよう。2字を記す「公平」の文字であるが、大毛沖遺跡では同じく古代Ⅲ期に「公」文字の墨書のある4点もの須恵器が出土している。内面にも墨書があることより食膳用以外の用途も考えられよう。古代においては、墨書は椀、皿個体を識別する目的でなく、字句の独立した意味が重要であり、個体の使用目的を明らかにする必要性から施されたものと思われる。一方、中世墨書土器は、主に所有者や用途など個体所属の識別の必要性から施されたものといえよう。「十」あるいは「廿」などの数字が多くみられることは、消費以前の段階、製品管理・保管上の必要性によるものとも解釈される。また、まとまった出土がみられる「∴」は、個体の所属を示す消費者側による墨書と考えられる。居館区画大溝周辺、屋敷区画周辺に限り分布することから、中世Ⅱ期後半～Ⅲ期のある時期の居住者に使用されたものであろう。



第73図 墨書土器・陶器出土分布

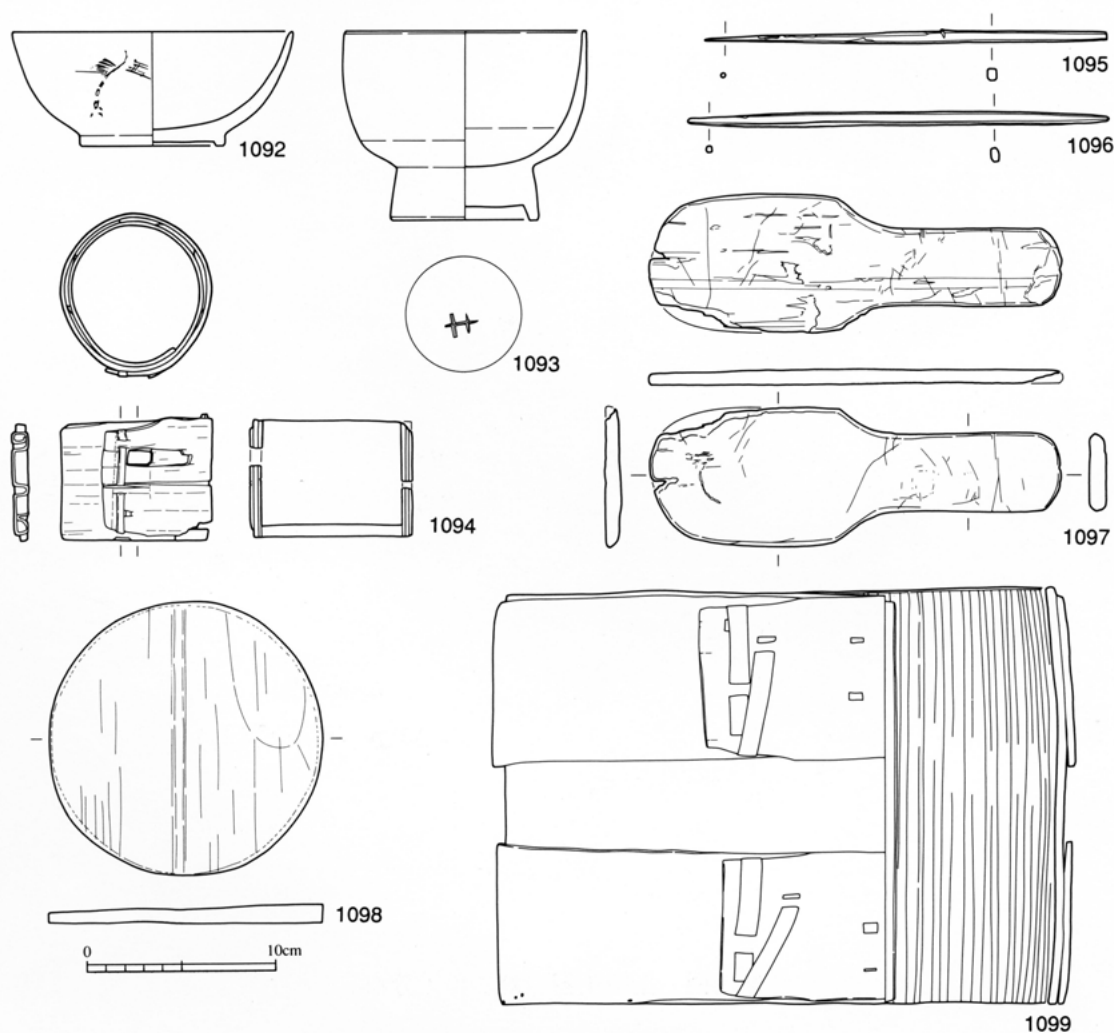
e.木製品

出土木製品は、結桶、曲物、板材、角材といった井戸内構造物以外では、掘立柱建物の柱穴の礎板に転用された建築部材の一部、食膳に用いられた漆器椀、箸、杓子などが散見できる。そのうち漆器椀は、居館大区画の南西コーナー付近で数個体分の破片が検出されたほか、95Aa・Ab区へ続く道周辺に展開する井戸跡でもわずかに確認される。

1092の漆椀は高台が低く、黒地に赤色漆で紋様を描くもの。遺存状態が良くないため紋様は不鮮明である。1093は高台が高く、底部の厚いタイプ。全面に黒色漆が塗布され、底部外面に傷がつけられている。

1094は柄杓。1095・1096の箸は長さ21～22cm。断面多角形であり、部分的に丸みの強い箇所がみられる。1097は長さ22cmのしゃもじ。使用のためと思われる磨減が著しい。1098は径15cmの曲物底板。1099は井戸の下部に用いられた曲物。

1100は、居館区画溝の廃絶後に掘削された12.5×10mの方形池（94AbSX01）最下層よ 卒塔婆



第74図 木製品実測図 (1)

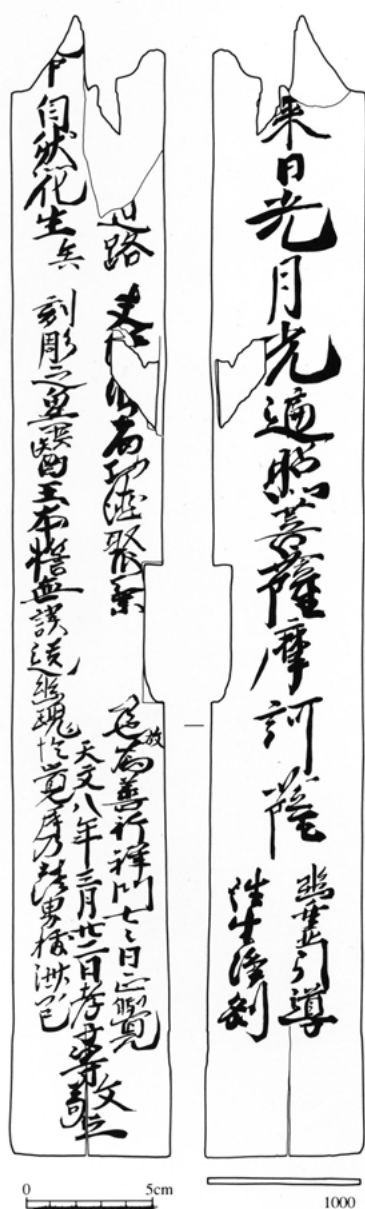
り出土した「天文八年」（1539）の紀年銘を有する卒塔婆である。上部は欠損しているが長さ45.1cm、幅6.3cm、厚さ2mm、文字は表裏両面に比較的鮮明に認められ、内容、文字数ともに豊富であり貴重な発見例となった。

釈文表面の「来」より上の文字は、「日光月光」が薬師如来の脇侍菩薩であること、裏面「醫王」が「薬師如来」の別称であることより「薬師如来」と想定できる。また裏面「自然化生」より上は「南無帰命」かと推定される。内容は、「善行」の子供達が親の四十九日の仏である薬師如来にその冥福を祈願したものである。薬師如来は確かに十三仏中の四十九日の仏であるが、これは初七日から四十九日までの七日ごとの法要にそれぞれの

仏に冥福を祈って作られる「七本塔婆」とは性格を異なり、父親あるいはこの一族が特別に薬師如来に対する信仰を持っていたと考えられる。出土遺構は居館区方形区画の北西隅にあたり、その他石製五輪塔（火輪・風空輪）、古瀬戸中期～後期に属する大型の壺・甕類、土師器、陶磁器類、漆碗のほか瓦数点が共伴する。ただし、木簡とこれら共伴遺物の年代観とは大きく隔たり、木簡が大毛池田遺跡屋敷地周辺の終焉の時期、最末期の年代を示す遺物となっている。SX01と居館の位置関係が意味をもつとするならば、石塔類や瓦、壺類の伝世の可能性の高い遺物群は、居館内部に設けられた持仏堂など宗教施設に伴うものであり、これが居館廃絶後、すなわち地域の支配者の変更にともない破壊されたとも考えられる。

参考文献

- （財）愛知県埋蔵文化財センター年報 1995
- （財）愛知県埋蔵文化財センター 1995
- 埋蔵文化財愛知40
- 武部真木 1996 大毛池田遺跡 木簡研究18、奈良国立文化財研究所



〔命力〕

×□自然化生矣刻彫之魂醫王本誓無誤送幽魂於覺□乃□法界拔濟而已

（ママ）

天文八年三月廿二日孝子等敬立

〔廻力〕

×□路

夫修惟者功德聚乘

〔所以力〕放

□□也為善行禪門七々日正覺

×来日光月光遍照菩薩摩訶薩

往生淨刹

幽靈引導

第75図 卒塔婆実測図

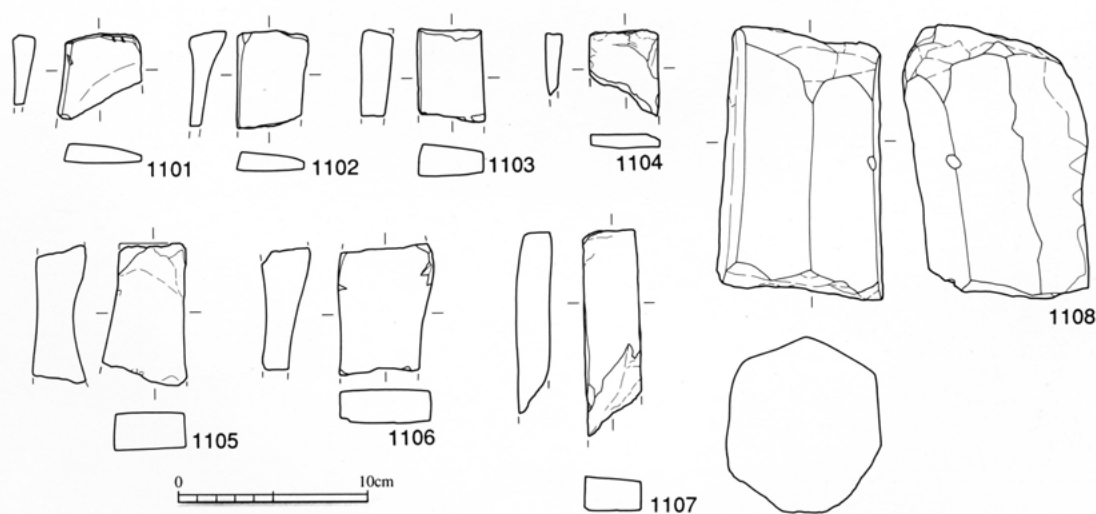
f.石製品

石製品では鍋、硯、砥石など生活に関係する製品、五輪塔など信仰に関係する石塔類がある。

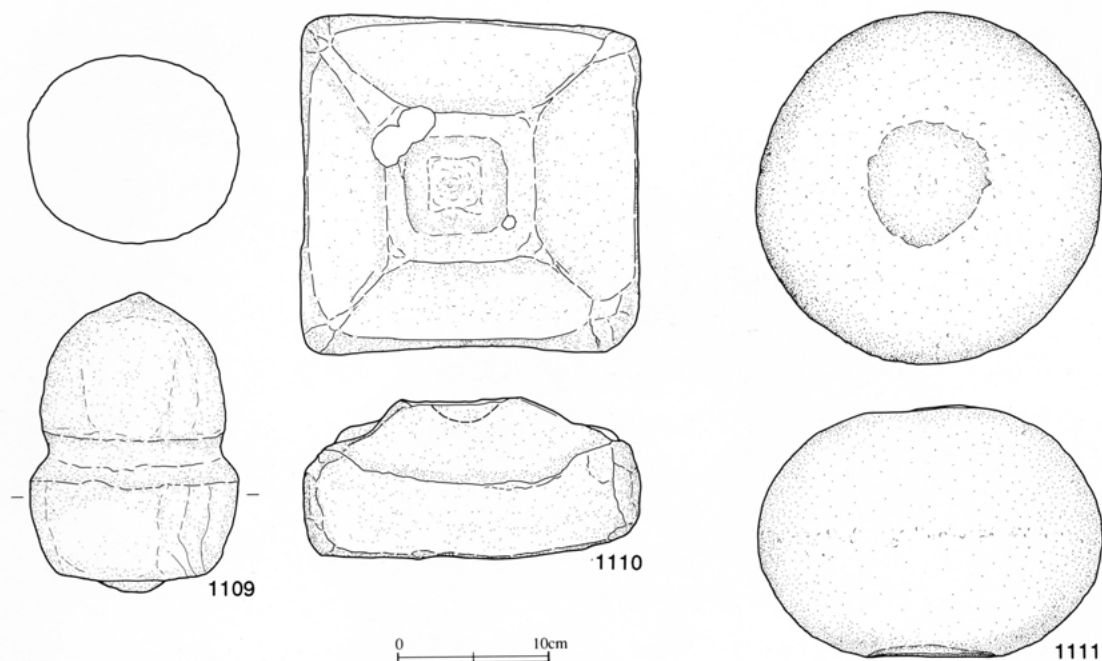
小片のため図示していないが、滑石（絹雲母片岩）製の8点を検出した。砥石その他に 石鍋 転用、加工されているため全体の形状は不明である。遺構から出土した6点は、室町時代末期の居館区画大溝とその周辺で検出している。

出土総数54点のうち中世以降の遺構より出土したものは7割である。石材の周囲を切断 砥石 し定型化するもの（短冊型と長方形の角柱型がある）、不定型なまま使用したもの、使用により不定型となったものがある。短冊型のものは小型で薄い板状をなし、表裏の両面に浅く湾曲する研ぎ面をもつ。側面には鋸による切断の加工痕を残す場合がみられる。シルト岩、流紋岩など粒子の細かい石材を用いており、仕上砥石と思われる。1107は若干厚みのある長方形を呈し、表裏両面に加えて側面の使用度も大きく不定型となっている。主に珪質頁岩、流紋岩、凝灰質砂岩などの石材を用いる。多面体で不定型の砥石は大型のものが多く、砂岩、流紋岩など粒子の粗い石材を使用している。荒砥、中砥用と思われる。

空風輪1点、火輪1点、水輪1点が出土した。いずれも花崗岩製であり、室町末期の居館区 五輪塔 画大溝付近、大溝廃絶後の層位で検出した。1108の宝珠形の突起は小さく不明瞭で空輪基部のくびれも浅い。空輪・風輪の最大径の差は小さく、風輪底部に円錐台形の柄がつく。1109の軒線、棟線の反りは比較的小さく、頂点は丸みをもつ。上部の柄穴は隅円方形を呈し、これら空風輪、火輪の組合せでセットとなる。単独で検出された1110は、規模のやや大きい五輪塔の水輪である。上面、下面にやや凹んだ円形の平坦面をもつ。



第76図 石製品実測図（1）



第77図石製品実測図 (2)

調査区	遺構番号	材質	研磨 面数	備考	No.
93Aa	SK06(下層)	安山岩	1	転用?	1
93Aa	SK02	流紋岩質凝灰岩	2	風化著しい	2
93B	SD02上層	シルト岩(〆'レット含む)	2	うすい	3
94TT5	検出	流紋岩	4	定形,角柱	4
94Ab	SD02(中央〆'跡)	流紋岩	3	うすい,定形,欠損	5
94H	検出	流紋岩	2	定形,欠損	6
94H	検出	凝灰質砂岩	1	不定形	7
94I	包含層	シルト岩	1	砥石?	8
94J	東北ノゾ	シルト岩	2	うすい,定形,短冊形	9
94K	検出	シルト岩	2	定形,欠損	10
94K	検出	シルト岩(〆'レット含む)	3	定形	11
94Mb	SD04続き	流紋岩質凝灰岩	3	定形?	12
94Mb	SD07続き	流紋岩質凝灰岩	2	定形?	13
94Mb東	SK106	流紋岩	4	定形,角柱	14
94Mb	検出	シルト岩	2	定形?欠損	15
94Mb	表土剥ぎ	凝灰質砂岩	4	定形,角柱	16
94N	SD05	流紋岩	4	定形,角柱	17
95Aa	SK55	流紋岩	4	定形,短冊形	18
95Aa	SK35	珪質頁岩	3	定形,角柱	19
95Ab	SD06	流紋岩質凝灰岩	3	定形,欠損	20
95Ab	SD06	流紋岩(溶岩)	4	定形,玉砥石	21
95Ab	SD52	珪質頁岩	1	砥石?	22
95Ab	包含層Ja下層	シルト岩	4	転用?	23
95Ba	ST02	流紋岩	4	定形	24
95Ba	SD09上層	流紋岩	3	定形	25
95Ba	ST01	流紋岩	1	不定形	27
95Ba	ST01	流紋岩	1	不定形	28
95E	SD05	シルト岩(〆'レット含む)	2	定形,欠損	29
95E	検出	流紋岩	2	定形,欠損	30
95F	SD01土器群	珪質頁岩	2	欠損	31
95F	SD01土器群	頁岩	3	欠損	32
95F	SD01土器群	流紋岩	2	不定形	33
95F	SD01土器群	流紋岩	3	定形,欠損,(大型)	34
95F	SD201上層	流紋岩	4	定形,短冊形	35
95F	SE02Nゾ	珪質頁岩	4	定形,短冊形	36
95F	SX02〆'跡	流紋岩質凝灰岩	3	不定形	37
95F	SE01Nゾ1	珪質頁岩	4	定形,短冊形,欠損	38
94B	SD01	流紋岩質凝灰岩	3	(大型),六角柱,欠損	39
94H	SB01	珪質頁岩	2	定形,欠損,(大型)	40
94I	包含層	珪質頁岩	1	うすい,欠損	41
94J	SD17	珪質頁岩	2	転用?	42
94Ma	検出	流紋岩質凝灰岩	4	定形,欠損	43
94Mb	SD04続き	流紋岩	4	定形,欠損,(大型)	44
94TT1	SD04	流紋岩質凝灰岩	2	不定形,石斧形	46
95Aa	検出	凝灰質砂岩	2	定形,欠損	47
95Ab	SD52	流紋岩質凝灰岩	1	欠損	48
95Ab	SD52	石英安山岩	1		49
95Ba	SD201・202交差点下層	石英安山岩	2	(大型)	51
95Ba	検出,暗褐色土	安山岩	2	不定形,(大型)	52
95D	検出	流紋岩	5	不定形,(大型)	53
95E	SK01	凝灰質砂岩	1	不定形,(大型)	54
95E	SK01	安山岩	1		55
95F	SD01土器群	凝灰質砂岩	3	スジ	56
95F	SD01土器群	シルト岩(〆'レット含む)	2	スジ	57

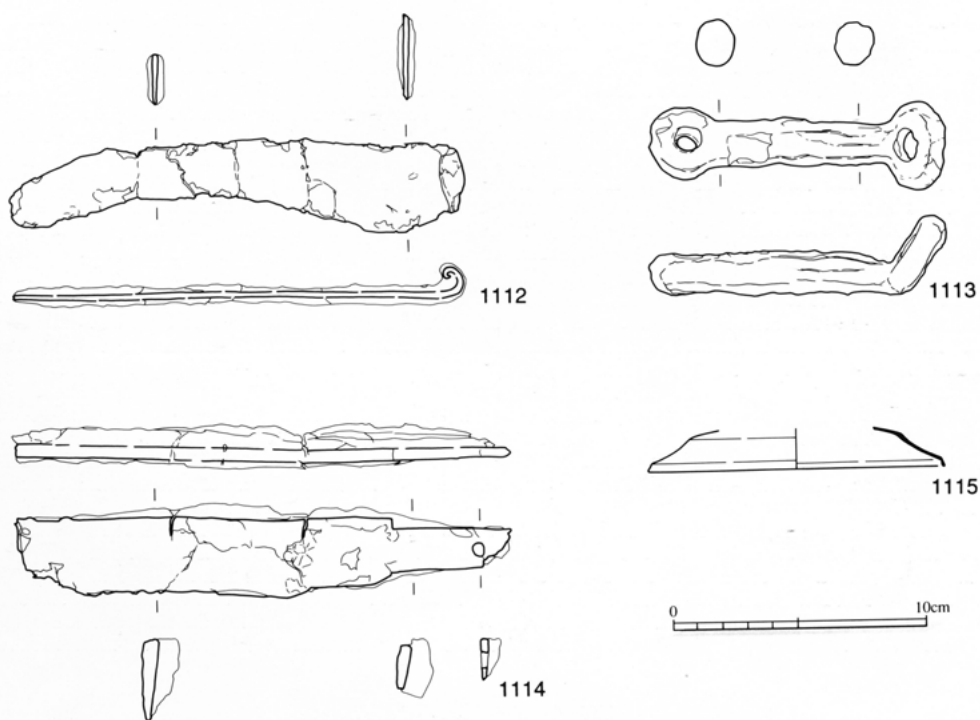
第6表 出土砥石の石材

g.金属製品

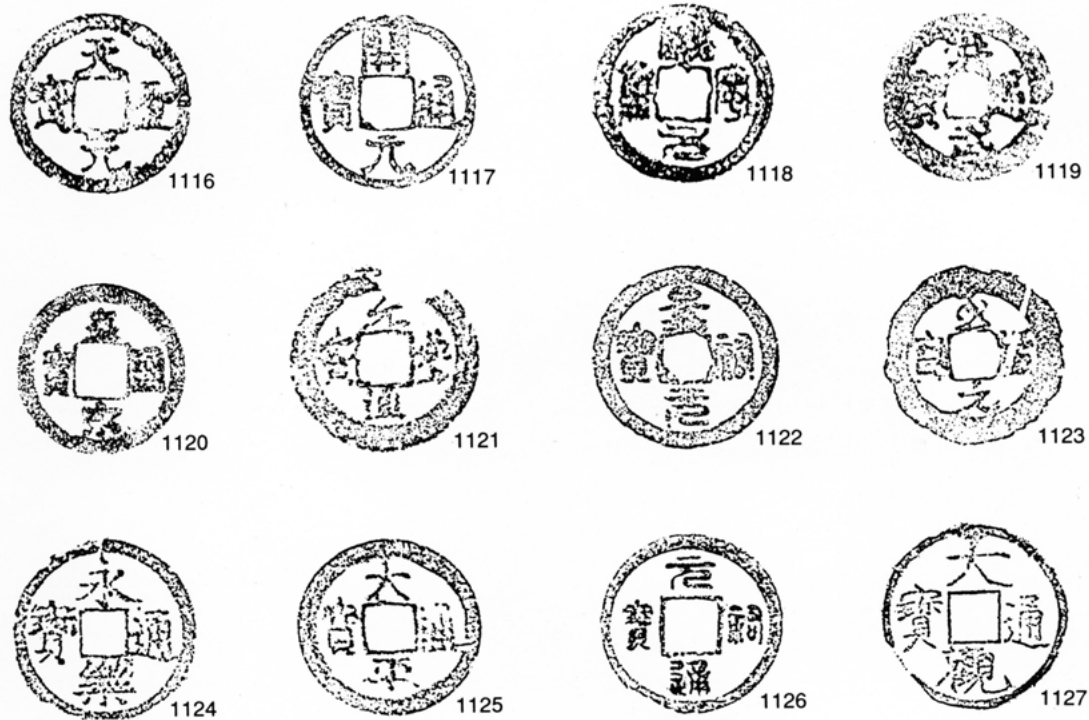
大毛池田遺跡で出土した金属製品は、古代に属する遺物として、鉄鎌、馬具の一部と思われる鉄製品、銅製容器蓋片があり、中世では包丁がある。その他銭貨、鑛滓（スラグ）鉄鎌などを検出している。

古代の遺物は、主に「美濃」刻印須恵器を出土した溝Fの下層に含まれる。鉄鎌1112は、鉄鎌刃部の長さ12.5cm、厚さ5mmであり、柄の装着部は8mm程度を折り曲げる。装着部の角度より刃に対して柄は鈍角についていたと思われる。使用による磨滅が甚だしく、刃部は先端から基部にかけて緩やかな弧を描く。1113は長さ11.6cm、中央は径1.7mmの棒状を呈し、両端刀子は孔径12mmと13mmの環を形成する。環の部分は断面馬蹄形状の中空となっており、細長く薄い鉄板をねじ曲げ接合している。環の外周および孔の周囲は磨滅が著しく使用痕を残している。1115は、銅製容器蓋であり、溝Fの上層で古代Ⅲ期（0-10号窯式）須恵器小型壺類銅製容器などと共に出土した。径11.5cm、残存高1.6cm、肩に稜をもつ。古墳時代末以降の遺物として報告される銅碗蓋は、肩は丸みを帯び頂部に宝珠鈕をもつものが多い。大毛池田遺跡出土遺物は、肩部に稜をもつうえ径も10cm前後と比較的小さく、やや時期の下る経筒のような容器の蓋であろうか。1114の刀子は刃部の残存長13.3cm、刃幅3.3cm、断面は鋭角三角形を呈する。茎部には目釘穴が残る。

出土銭貨は調査域全体で計38枚であり、調査範囲北部から東部にかけての集落中心部分に分布する。居館大溝より5枚がまとまって出土した他は、単独で検出されている。



第78図 金属製品実測図



第79圖 出土錢貨拓本

V 自然科学分析

1 水田表面にみられる足跡および調査区よりみつかる獣骨

大毛池田遺跡では古墳時代前期の水田跡が検出されている。水田堆積物の上位を、灰褐色を呈するシルト質極細粒砂層が層厚およそ10cmで覆う。この砂層を取り除く過程で水田面上に足跡が確認された。特に94Ab区および94AbI区では、足跡は水田耕作土である灰色～紫灰色粘土層（堆積物、ユニット4）の上面に踏み込まれ、深さ約2～3cmの凹部を形成している。凹部の中をシルト質極細粒砂層が充填する。検出時には水田層の紫灰色と、上位の砂層の灰褐色という明瞭な色調の差となって識別できる。足跡にはヒト、ウシやシカなどの偶蹄類と推定されるもの、ウマなどの奇蹄類と推定されるものがあった。これらの足跡は、水田平面上に規則性がなくランダムに配置しており、一部、歩行の方向性いわゆる「行跡」が確認される部分もあるが、連続的な行跡を追跡することは不可能であった。また、水田面には日照り等で生じるひび割れである「乾裂」などの、乾燥履歴は認められなかった。これは水田耕作土が未固結時に足跡が付けられた後、洪水砂により一気に埋積されたことを示唆する。

94Ab区の方形居館を区画する溝（SD04：13世紀前半～15世紀末）からは、ウマの下顎骨が3点と脚の骨5点が確認された。これらは溝を埋積する塊状を呈する暗灰色極細粒砂混じりのシルト層（13世紀前半）から出土した。保存状態は悪く、藍鉄鉱が骨を置換しており、表面の剥離が激しいものである。また、94Ab区の15世紀末～16世紀初頭にかけて埋積されたと推定されるSX01と、94J区の15世紀末の年代を示す屋敷地内側の井戸であるSK94からカメの背甲が確認された。これらは植物片を大量に含む暗緑色粘土層から出土し、背甲の組織は一部藍鉄鉱に置換されていた。94Ab区、SX01の下位層からは1538年の木簡がみつまっているが、これらの土坑や井戸の埋積物は、植物の種子および材や甲虫の体節片、小動物の骨片などの集積や藍鉄鉱が沈積していることから、かなり淀んだ滞水環境であったと推定される。



94AbI区、ヒトの足跡
(西から東への行跡)



SD04、ウマの骨出土状況

第80図 94Ab 検出された足跡・馬骨

2 大毛池田遺跡の地震痕跡

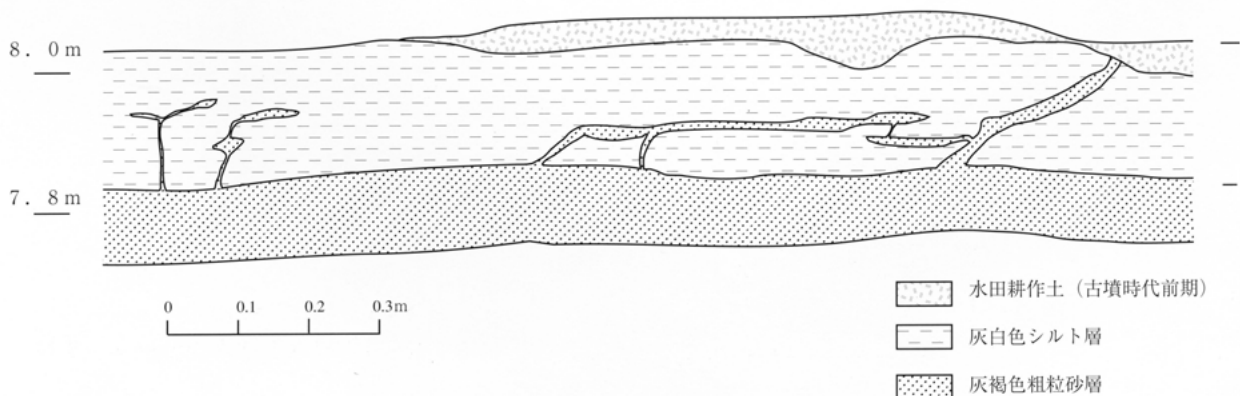
93A区の地震痕

1995年1月17日、阪神・淡路地方を襲った兵庫県南部地震は人々にあらためて地震災害の恐ろしさを認識させた。また、この震災を機に防災に対する関心が高まり活断層の発掘調査を始めとした様々な地震関連の研究がこれまで以上に盛んに行われるようになった。地震考古学（寒川、1988）も防災のために有効な情報を得る研究分野として注目を浴びるようになった。とりわけ濃尾平野のような軟弱な地盤で構成される沖積平野では液状化の痕跡が地層中に残されている場合が多く、遺跡の発掘調査で確認されれば地震発生日を推定することも可能になる。地震国である日本では昔から多くの地震史料が残されているが、記録が残っていない時代や地域も多い。こうした地震史料の欠落部分を補うのが地震考古学である。今回の大毛池田遺跡の発掘調査でもいくつかの歴史地震の痕跡を確認できたのでここに報告する。

93A区の基本層序は、遺跡基盤層としての粗粒砂層の上位に厚さ15~20cm程度の灰白色シルト層が堆積し、この上面に古墳時代前期に利用された水田耕作土が認められる。ここで確認された地震痕は、基盤となる粗粒砂層から噴き出し、上位の灰白色シルト層を引き裂く砂脈である。砂脈の規模は幅2~3cm、45°程度の傾斜角を持ち垂直上昇量として最低20cmが確認できた。砂脈上端部是水田耕作により削りとられ、水田耕作土中には延びていなかった。

93C区の地震痕

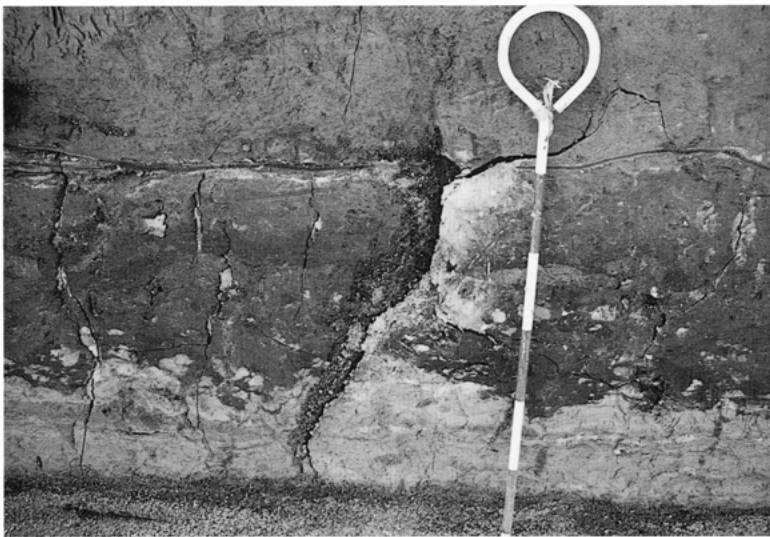
93C区では93A区同様の層序が認められ、地震痕は基盤となる粗粒砂層から噴き出し、上位の灰白色シルト層さらには古墳時代前期に利用された水田耕作土を引き裂き、その上面に噴き出す噴砂として観察された。砂脈部分の最大幅は4cmで粗粒砂~細礫で充たされていた。水田耕作土上での広がりはずか半径30cm程度で、噴砂丘に相当する明確な砂の高まりは残存していなかった。



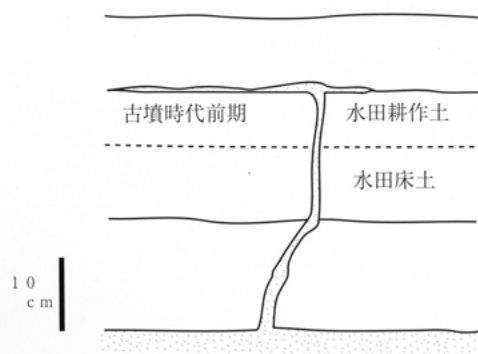
第81図 93C 地震痕スケッチ



第82図
93Aの地震痕



第83図
93Cの地震痕



第84図 93Cの地震痕
古墳時代前期水田層の上に噴砂が広がっている。

95Bb区の地震痕

95Bb区では9世紀後半以前に埋積された旧河道の縁の部分で、旧河道を埋積する古墳時代前期以降の時期に相当する暗灰色シルト-黒色シルト互層を引き裂き、6世紀末～7世紀中頃の須恵器を包含する暗灰色シルト層に上端部を削られる砂脈と、この砂脈の噴き出しにより生じた断裂を確認した。

砂脈は2本あり、東側（旧河道の流心部側）では幅約2m、西側（旧河道の岸側）では幅約1.2mで基盤砂層より約1m噴き出し、暗灰色シルト-黒色シルト互層を引き裂き、上位の暗灰色シルト層に削り取られていた。また、砂脈の西側では、砂脈の噴き出しにより基盤砂層の体積が減少したために生じた陥没性の断裂も観察された。この断裂は前述の2本の砂脈と同様に、上位の暗灰色シルト層には全く影響をあたえていないことから砂脈と同時期に形成された可能性が高い。

さらに、暗灰色シルト層上面には、地震による地割れと考えられる幅2～3cm程度の亀裂が確認できた。この地割れは、2本の砂脈の影響を受けていない、すなわち2本の砂脈形成の原因となった地震のあとに堆積した暗灰色シルト層上面に形成されているもので、砂脈以降の別の地震によるものである。さらにこの地割れを被う灰色砂質シルト層は中世の方形土坑に掘り込まれているので、少なくとも中世以前の地震により形成された地割れである。

94Aa区の地震痕

94Aa区では、基盤となる粗粒砂層から噴き出し、上位の灰白色シルト層さらには古墳時代前期に利用された水田耕作土を引き裂き上昇し、奈良時代の遺物を含む溝により上端部を削り取られている砂脈が観察できた。砂脈は水田耕作土を引き裂く部分は幅4cm程度であるが、その上位の部分では斜め方向に不規則に広がりシルト塊などを取り込む様子も観察された。

95Ab区の地震痕

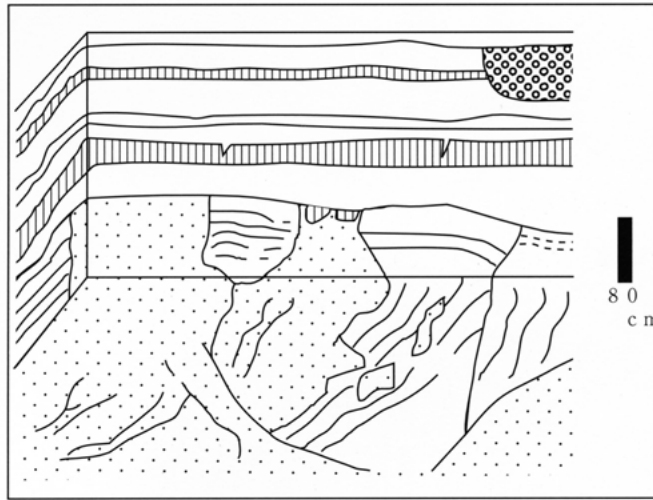
95Ab区では、埋土中に須恵器を包含する7世紀の溝（SD52）掘削時に上端部を削られた数本の砂脈を確認した。これらの砂脈は、遺跡基盤層の灰白色中～細粒砂層より噴き出した幅1～2cm程度のもので、20cm程度上昇した部分が溝（SD52）に削り取られている。平面的には、ほぼ南北方向に2～3m延びていることが確認できた。

さらに同じ溝の底部に長径2m、短径1m程度の噴砂の噴き出し口と考えられる部分が確認出来たが、前述の砂脈と同じ地震によるものと考えられる。これは、清洲城下町遺跡で確認されたような噴砂の噴き出し口とその周囲に発達する砂脈の関係（服部, 1994）を示しているもので、比較的大規模な地震であったと想像されるにも関わらず、巨大な噴き出し口1ヶ所で力の解放がなされたために周囲の砂脈の発達は抑えられたのであろう。

大毛池田遺跡の地震発生履歴

ここで、以上のような観察所見から推定される大毛池田遺跡における歴史時代の地震発生履歴についての若干の考察を加えてみる。なお、ここで扱う地震の規模は、地層中に液化の痕跡を残すものであり、最低でも震度5以上のものである。従って、防災基準の整備された現代とはくらべものにならないような被害が生じたことは想像出来よう。

まず93A区の地震痕は、古墳時代前期（出土遺物から廻間Ⅲ～松戸Ⅱ式期）の水田耕



第85図
95Bb区の地震痕スケッチ



第86図
95Bb区地震痕全景



第87図
砂脈平面（上図部分拡大）



第88図
断裂部分（上図拡大）

作により上端部を削り取られているという年代情報しか得られない。このため正確な地震発生年代の特定はできないが、少なくとも古墳時代前期（廻間Ⅲ式期）以前の地震と言うことができる。

93C区の地震痕は、前述の水田耕作土上に広がる噴砂であり、まさに水田の年代が地震発生年代に近いことになる。従って古墳時代前期（出土遺物から廻間Ⅲ～松河戸Ⅱ式期）頃に発生した地震が想定できよう。

95Bb区の地震痕は、砂脈および断裂を形成させた地震と、上層に見られる地割れを形成させた2時期の地震を考える必要がある。まず砂脈および断裂の年代であるが、大毛池田遺跡全域で観察される古墳時代前期水田と同時期の暗灰色シルト-黒色シルト互層を引き裂き、古墳時代後期の暗灰色シルト層に上端部を削られていることから、古墳時代前期以降で古墳時代後期以前という年代に限定される。93C区の地震痕と同じ地震の可能性も否定できない。地割れの年代については、古墳時代後期以降で中世以前という幅広い年代を考えなくてはならないであろう。

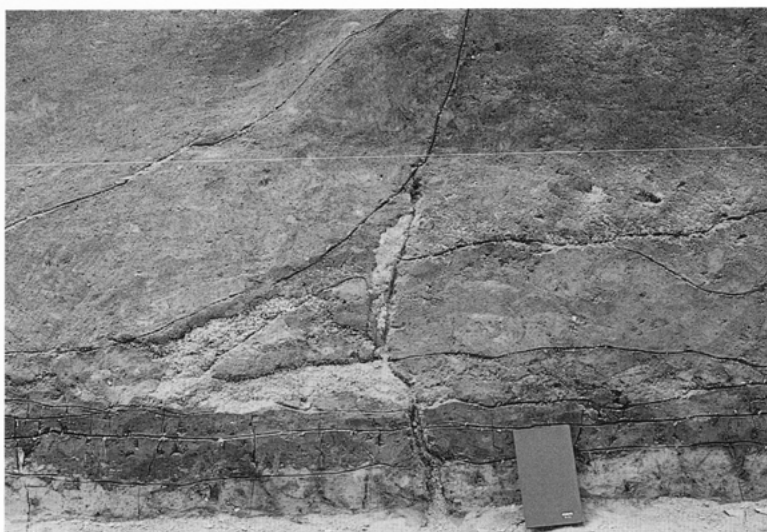
94Aa区の地震痕は古墳時代前期の水田層を引き裂き、奈良時代の溝に上端部を削られていることから、この間の地震発生が考えられる。ただし、水田層上位の堆積物をも引き裂いていることから、93C区の地震痕よりも後の地震であることは明らかである。

95Ab区の地震痕は、須恵器を包含する7世紀の溝に上端部を削られる砂脈であるからすくなくとも7世紀以前の地震によるものであるが、古墳時代前期の水田層との層位的関係は明らかでない。

これらの歴史地震に加えて、大毛池田遺跡全域ではほぼすべての時代の地層を引き裂いて、最近の耕作などにより上端部を削り取られた砂脈が観察された。この砂脈は、最大幅20cm程度、延長数m～10数mで概ね北東-南西方向に延び、雁行状の配列を示す。このような特徴を示す砂脈は、大毛池田遺跡に近接する北道手遺跡や大毛沖遺跡、田所遺跡でも認められ（服部、1996b・c）、いずれも1891年10月28日に発生した濃尾地震によるものと考えられる。

文献

- 宇佐美龍夫（1996）新編日本被害地震総覧増補改訂版。東京大学出版会。
寒川旭（1988）考古学の研究対象に認められる地震の痕跡。古代学研究，116，1-26。
寒川旭（1992）地震考古学-遺跡が語る地震の歴史-。中央公論社。
服部俊之（1994）濃尾平野における歴史時代の地震痕-その2-。（財）愛知県埋蔵文化財センター年報平成5年度，134-142。
服部俊之（1995）濃尾平野における歴史時代の地震痕-その3-。（財）愛知県埋蔵文化財センター年報平成6年度，136-146。
服部俊之（1996a）濃尾平野における歴史時代の地震痕-その4-。（財）愛知県埋蔵文化財センター年報平成7年度，176-181。
服部俊之（1996b）歴史時代の自然災害。愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第66集 大毛沖遺跡，154-159。
服部俊之（1996c）北道手遺跡の地震の痕跡。愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第67集 北道手遺跡，74-79。



第89図
94Aa地震痕
奈良時代の溝に切られている



第90図
95Ab地震痕
砂脈上端部が溝により削られている



第91図
95Ab区の地震痕
噴砂の噴き出し口

3 花粉・珪藻・プラント・オパールからみた古環境

本章では花粉・珪藻・プラント・オパールの微化石分析を通して、特に古墳時代前期水田の自然環境について考察を加えたいと思う。採取した分析試料は93Ab区と、94AbI区のものに大きく分けられ、詳細を第7表に示す。また、試料採取位置および層準は第92図・第93図に示す。珪藻分析は小杉（1985）など、花粉分析はMoore, Webb and Collinson（1991）など、植物珪酸体分析は藤原（1976）などの分析方法を参照されたい。なお、93Ab区の珪藻・花粉分析はバリノ・サーヴェイ株式会社に、植物珪酸体分析は古環境研究所にお願いした。

93Ab区の分析結果

珪藻分析

A地点：産出した種群は26属97種20変種（8不明種）の計118分類群である。塩分濃度に対する適応性は、下位の2層および8層上部では貧塩-不定性種が90%を占め、貧塩-嫌塩性種および貧塩-不明種が合わせて10%産出しているにすぎない。貧塩-好塩性種の産出率も極めて低い。しかし、7層下部および8層下部では貧塩-好塩性種が10%前後産出している。pHでは全体に好アルカリ性種およびpH不定性種の産出率が高い傾向にある。流水性では、最優占種は流水不定性種であるが、2層下部および8層では好流水性種が20%程度産出している。また、2層下部においては好止水性種が25%の産出率を示している。その他の層準では好止水性種の産出率は低く10%以下である。7層および8層では陸生珪藻も卓越する傾向にある。

C地点：産出した種群は27属78種15変種（8不明種）の計101分類群である。塩分濃度では、全体に貧塩-不定性種が優占し80~90%を占める。貧塩-好塩性種も試料番号1または12で産出するが、いずれも10%以下と低率である。pHでは大半が好アルカリ性種であり、60~70%の産出率を示す。好酸性種は全体に低率で10%に満たない。流水性では流水不定性種が優占するが、試料番号1および12では好流水性種が卓越し20~25%の産出率を示す。好止水性種は試料番号2および12で10%前後産出している。

花粉分析

A地点：全体に花粉化石は極めて少ない。試料番号21・23では、木本花粉ではマツ属維

調査区	試料採取場所	主な遺構 (遺物)	分析対象	分析目的	試料数	時期
93Ab区	調査区東壁(A地点)	水田跡	珪藻	流水環境	17	古代~中世
	調査区東壁(A地点)	水田跡	花粉	古植生	17	古代~中世
	調査区東壁(c地点)	水田跡	珪藻	流水環境	12	古代~中世
	調査区東壁(c地点)	水田跡	花粉	古植生	12	古代~中世
	調査区東壁(A地点)	水田跡	植物珪酸体	古植生および稲作状況	24	古代~中世
	調査区東壁(B地点)	水田跡	植物珪酸体	古植生および稲作状況	9	古代~中世
	調査区東壁(C地点)	水田跡	植物珪酸体	古植生および稲作状況	12	古代~中世
	調査区東壁(D地点)	水田跡	植物珪酸体	古植生および稲作状況	13	古墳時代前期
94AbI区	調査区南壁(黒色粘土層)	下層水田	珪藻	古水田の古環境	3	古墳時代前期
	調査区東壁(灰色粘土層)	上層水田	珪藻	古水田の古環境	9	古墳時代前期
	水田一筆平面(灰色粘土層)	上層水田	珪藻	平面的な水廻り状況	10	古墳時代前期

第7表 試料採取場所および分析対象

管束亜属が卓越する。マキ属、スギ属、コナラ属コナラ亜属なども随伴する。草本花粉ではイネ科が卓越し、ナデシコ科、アブラナ科や水生植物のミズアオイ属、サンショウモなどを伴う。

C 地点：全体に花粉化石は極めて少ない。試料番号1 では、木本花粉ではマツ属維管束亜属が卓越し、マキ属、スギ属、ハンノキ属、ニレ属、ケヤキ属などを随伴する。草本花粉ではイネ科が卓越し、ミズアオイ属、サンショウモといった水生植物やナデシコ科、アブラナ科を伴う。

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は、イネ科の機動細胞由来のものとして、植物珪酸体イネ、キビ族（ヒエ属など）、ヨシ属、ウシクサ族（ススキ属やチガヤ属など）、キビ族型、ネザサ節型、クマザサ属型、メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、タケ亜科が確認された。

地点1：試料中より出現した珪藻遺骸は17属35種であった。全体に珪藻遺骸は200個体に満たなかった。pHでは真・好アルカリ性種が、水流性では不定性種が、生態性については底生種と付着生種が、塩分については不定性種が優占した。特に生態性において浮遊性種が全く検鏡されなかった。

94Ab区・I区の
分析結果
珪藻分析

特徴種として*Pinnularia*属が13%を占めた。試料1では好アルカリ性・中塩性種の*Rhopalodia gibberula*が10%を占める。また、好アルカリ性・底生種の*Hantzschia amphioxys*が7%を占め、特に試料7（灰褐色粘土；上層水田堆積物）では同種が16%と高率で認められた。また、試料1（黒褐色粘土層；下層水田堆積物）において中塩性種が10%、嫌塩性種が6%と塩分濃度に対して全く正反対の種がともに高率を示し、前者は*Rhopalodia gibberula*の、後者は*Eunotia*属の増加に起因している。

地点2：試料中より出現した珪藻遺骸は22属56種である。pHでは真・好アルカリ性種が、水流性については不定性種が、生態性については底生種と付着生種が、塩分については不定性種がそれぞれ優占した。

特徴種として*Pinnularia*属が平均21%を占める。ほかに、底生種の*Stauroneis phoenicenteron*が9%、好アルカリ性・付着生種の*Synedra ulna*が8%、好アルカリ性・底生種の*Amphora libyca*が7%と、この3種が全試料を通じて優占した。また、好アルカリ性・中塩性種の*Rhopalodia gibberula*が3%、好アルカリ性・付着生種の*Cymbella cuspidata*が4%、好アルカリ性・付着生種の*Gomphonema parvulum*が7%と、以上の種も比較的多くみられた。

地点3：試料中より出現した珪藻遺骸は12属21種である。試料1（黒色粘土層）と試料3（黄灰色粘土層）からは珪藻殻は全くみられなかった。pHについては真・好アルカリ性種が、水流性については不定性種が、生態性については底生種と付着生種が、塩分については不定性種がそれぞれ優占した。

本試料でも種までの同定が不可能な*Pinnularia* sp.が多く、*Pinnularia*属が38%を占めた。他の種については、産出する個体について生態性に特徴のある種はみられなかった。た

だ、試料2（灰褐色粘土層）において嫌塩性種が8%を占める。これは好酸性・付着生かつ嫌塩性種の *Eunotia pectinalis* var. *undulata*、*Eunotia praerupta* の2種の出現による。

水田平面試料：94Ab区・I区では、水田一筆について水平的（面的）に試料を採取し、水田の水廻りの状況について復元を試みた。試料中より出現した珪藻遺骸は25属58種（3変種を含む）であった。pHでは真・好アルカリ性種と不定性種が、水流性については不定性種が、生態性については底生種と付着生種が、塩分については不定性種がそれぞれ優占した。

特徴種として、*Pinnlaria*属が35%を占めた。また、好アルカリ性・中塩性種の *Rhopalodia gibberula* が9%、底生種の *Stauroneis phoenicenteron* が10%を占めた。

古環境の変遷 A地点：2層下部からは、好流水性種の *Gomphonema sumatrense*、流水不定性種の *Synedra*
93Ab区 *ulna*、好止水性種の *Cymbella cistula*、*Gomphonema acuminatum* 等が多産している。以上の
種群の多産は、流水域および止水域の両者を示し、いずれかの種群は二次的に混入した種
群と考えられる。この場合、攪乱の影響が強いと考えるのが妥当である。水田耕作の影響
によるのかもしれない。

7層（試料番号13）で産出した種群は流水不定性種を主体とし、好流水性種あるいは好
止水性種の産出率は低い傾向にある。また、陸生珪藻の産出率が高い傾向が認められた。
多産した種は、流水不定性種の *Amphora ovalis* var. *affinis*、*Gomphonema angustum*、
Rhopalodia gibberula、陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys* 等である。流水不定性種の3種は河川
の影響が少ない沼沢地に認められる。*Rhopalodia gibberula* は好塩性種であり、温泉などの
塩類を多く含んだ場所にも生息する。一方、*Hantzschia amphioxys* などの陸生珪藻は、陸上
植物の表面や岩石の表面、土壌の表層部など大気に接した環境に生活する一群である。特
に本種は離水した場所の中で乾燥に耐えられる種群とされる（伊藤・堀内、1991）。本層
は流水性種が少なく陸生珪藻が多いことを考慮すると、攪乱の影響が強い堆積物と考えら
れる。また、2層あるいは8層と比較して、好流水性種の産出率が低く好塩性種の産出率
が高いことから、水の流入は少なくやや淀んだ水域であった可能性がある。

8層（試料番号21・23）からは好流水性種および陸生珪藻が卓越した。多産した種は好流
水性種の *Navicula elginensis* var. *neglecta*、陸生珪藻の *Navicula confervacea*、*Nitzschia amphibia*
などである。*Navicula elginensis* var. *neglecta* は河川等の常に流れのある水域で基物に付着生育
する種である。*Navicula confervacea*、*Nitzschia amphibia* は陸生珪藻であり、好気的な環境に
も水中にも生育する種群とされる（伊藤・堀内、1991）。これは沼沢地には多産種として
認められる。よって、上記の産出種群の特徴からみるとほぼ沼沢地のような水域が推定さ
れる。

C地点：1層下部～中部（試料番号1・2）では、好流水性種の *Cymbella turgidula*、流水不
定性種の *Cocconeis placentula*、*Gomphonema angustum*、*Synedra ulna* が多産している。これら
の中で好流水性種2種は、河川の中～下流性河川指標種群とされている（安藤1990）。し

たがって、比較的流水の影響を受ける沼沢地のような水域環境である4層（試料番号12）では好流水性種および好止水性種の両者とも10%以上の産出率を示し、陸生珪藻も多い。よって、本層準も沼沢地的な水域環境が推定される。

A・C地点の堆積物は、ほとんどの層準で花粉化石の保存状態が悪かった。本地点でおこなわれた土壌理化学分析によれば、古墳時代前期の水田耕土から中世の遺物包含層には表面水型水田（乾田）の下層土に特徴的に認められる遊離酸化マンガンの集積が確認されている。これは堆積物が酸化還元状況下におかれる時間があつたことを示唆しており、花粉化石がほとんど検出されなかった傾向と調和的である。いずれにしても、これらの層準における古植生について検討することは困難である。

花粉分析

水田跡（稲作跡）では、イネの植物珪酸体が試料1gあたりおよそ5000個以上検出された場合に、稲作の可能性が高いと判断する。また、その層に植物珪酸体のピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくく、稲作がおこなわれていた可能性はより確実なものとなる。以上の判断基準に基づき、各地点ごとに稲作の可能性について検討をおこなった。

植物珪酸体

A地点：水田跡が検出された5層（試料9）では密度が20100個/g、3層上部（試料8）でも11000個/gと非常に高い値であり、明瞭なピークが認められた。稲作の可能性が極めて高いと考えられる。また、7層下部（試料11）では密度が6000個/g、8層（試料23）でも4300個/gと比較的高い値であり、明瞭なピークが認められた。これらの層でも稲作の可能性が高いと考えられる。

B地点：水田跡が検出された5層（試料9）では密度が5300個/gと高い値であり、明瞭なピークが認められる。同層では稲作がおこなわれていた可能性が高いと考えられる。

C地点：2層（試料5、6、7）では密度が10400～14600個/g、3層下部（試料8）でも14100個/gと非常に高く、明瞭なピークが認められた。稲作の可能性が極めて高いと考えられる。

D地点：全ての試料からイネが検出された。密度は平均13500個/gと非常に高い値である。稲作の可能性が極めて高い。

以上のように、水田跡が検出された層準（5層）では、全ての試料からイネの植物珪酸体が多量に検出され、調査区の全域で稲作がおこなわれていたことが検証された。また、A地点の3層上部、7層下部、8層、C地点の2～3層下部でも稲作がおこなわれていた可能性が高い。3層より上位ではおおむねイネが卓越し、次いでヨシ属が優勢となることから、3層の時期にはヨシ属などが生育する湿地的な環境に移行し、このような湿地を利用して水田稲作が開始されたものと推定される。なお、稲作の開始以降もヨシ属が多くみられることから、水田雑草などとしてヨシ属が生育していた可能性も考えられる。

下層水田は黒褐色粘土層からなる。試料は3地点で採取したが、東壁セクションの地点3の試料からは珪藻殻は全くみられなかった。本層から産出する珪藻遺骸群集は、pH

94Ab区・I区の
古環境

ではアルカリ性種、流水性では好流水性種がほぼ同数、生態性では底生種と付着生種、塩分では中塩性種と嫌塩性種が多くみられた。この結果から、下層水田ではアルカリ性種の多産から比較的汚濁の進んだ淀んだ状態であり、かつ底生種が多いことから水深の浅い場所であったことがわかる。また、付着生珪藻も底生種と同数産出するので、珪藻が付着できるような水生植物が生えていたと推定される。

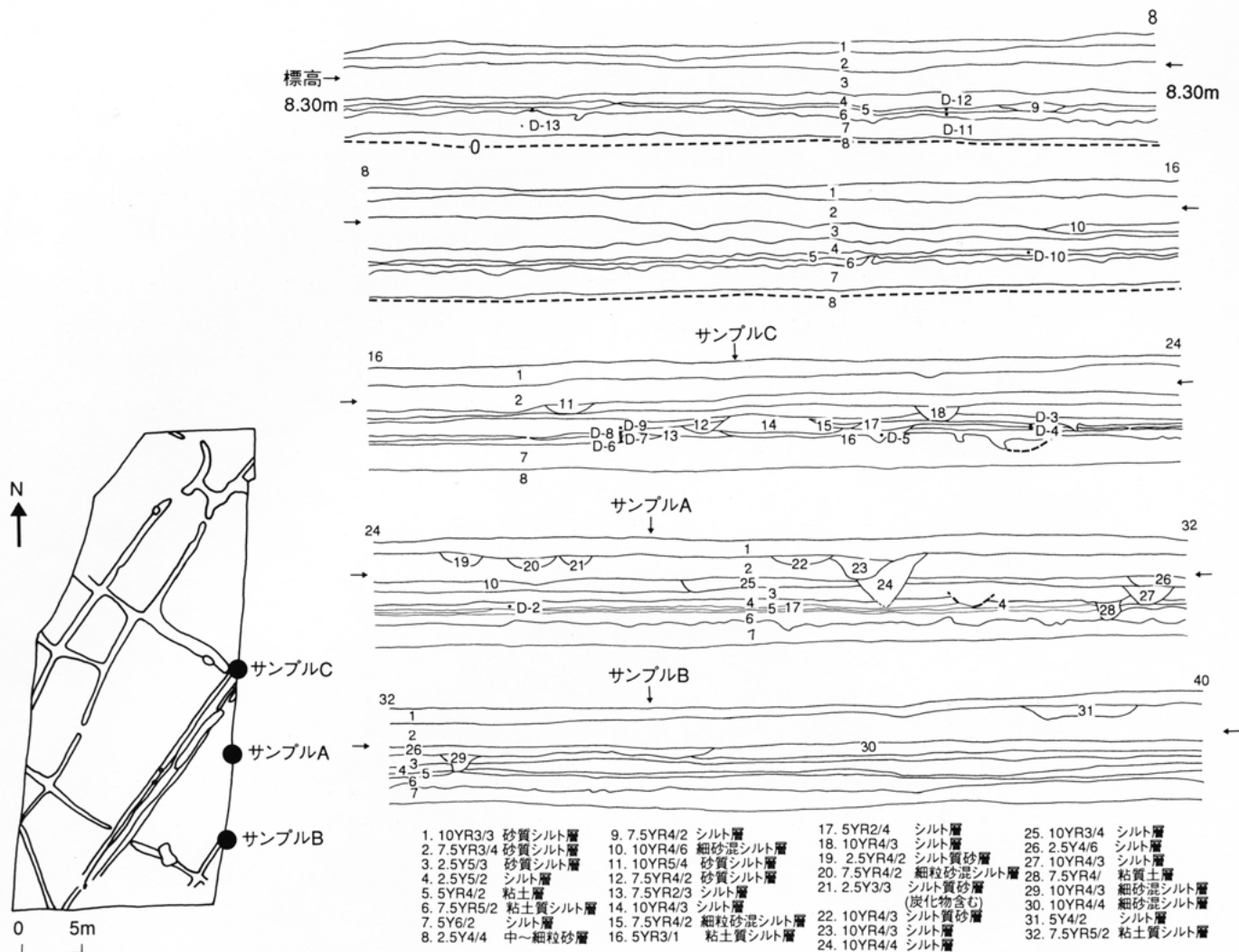
上層水田は灰褐色粘土層からなる。産出する珪藻遺骸群集は、pH ではアルカリ種がそのほとんどを占め、汚濁性の水域であったと考えられる。生態性では底生種と付着生種で全体の60%以上を占める。このことから水深の浅い水域であったことがうかがえる。また、流水性では止水性種と流水性種の相反する特徴をもつものがみられるが、下層水田堆積物（黒褐色粘土層）に比べて流水性種の割合が多くなるのが特徴である（第94図）。

水平的な各生態性についてを第95図に示す。pH についてみると、酸性種に対してアルカリ性種の割合が高い。全体に汚濁度の高い環境であったと推定される。水流性では全体に止水性種の割合が高く、滞水環境であったことがわかる。また、詳細にみると、水口試料（試料1）および試料6・16・26では流水性種が多く、試料2・4・12・14・22では止水性種が多い。生態性では、底生種の割合が付着生種や浮遊生種に比べて圧倒的に多い。水深のかなり浅い水田面が想定されよう。塩分では全体に統一性がなく値にばらつきがみられるが、真・中塩性種が多い。水田面はかなり富栄養な環境におかれていたことがわかる。

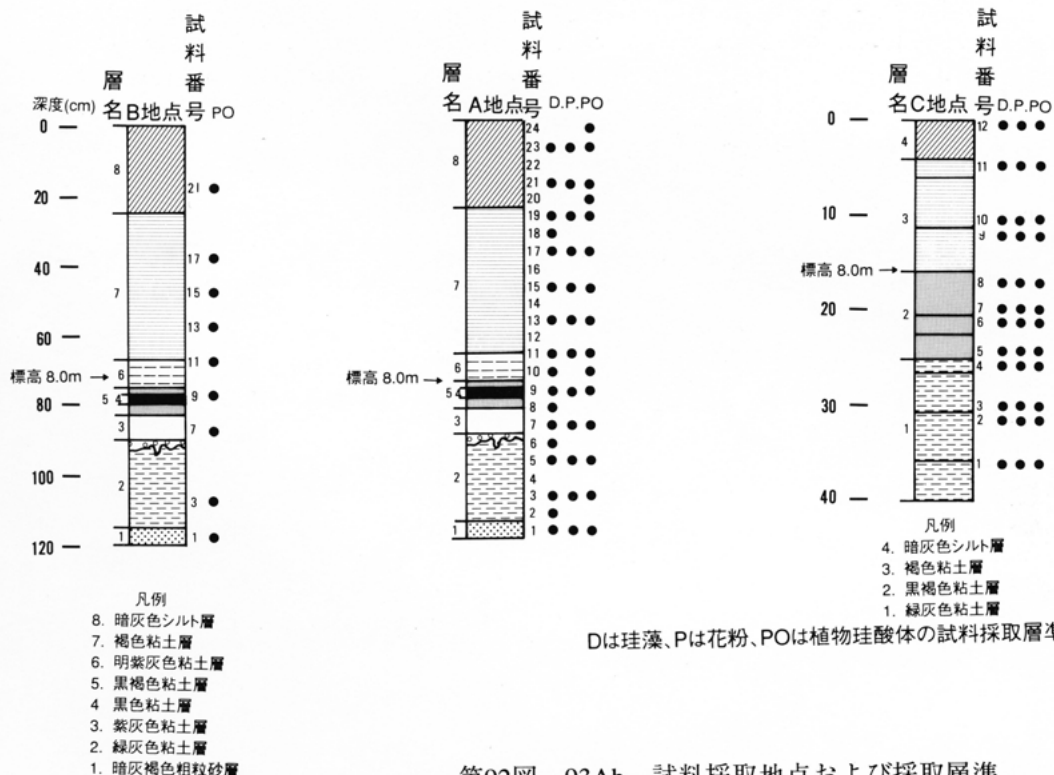
（鬼頭 剛・堀木真美子・尾崎和美）

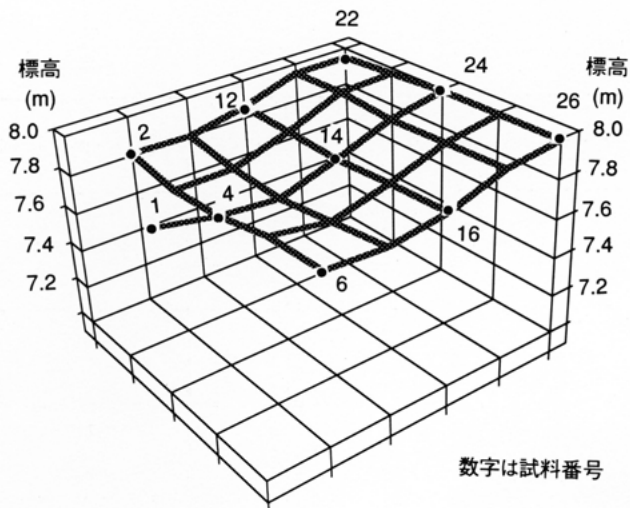
参考文献

- 安藤一男、1990、淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境への応用、東北地理、42、73-88。
伊藤良永・堀内誠示、1991、陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用、珪藻学会誌、6、23-45。
小杉正人、1985、染色像による珪藻の生体・遺骸の識別法とその意義、第四紀研究、24、139-147。
Moore, P. D., Webb, J. A. and Collinson, M. E., 1991, Pollen Analysis., Black-well, Oxford, 216p.
杉山真二、1987、遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点、植生史研究、2、27-37。
藤原宏志、1976、プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-、考古学と自然科学、9、15-29。



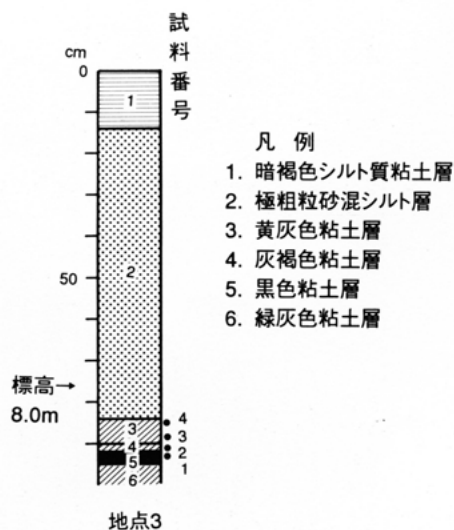
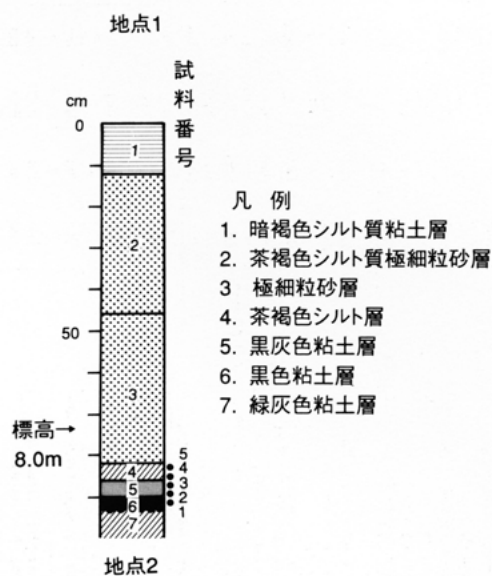
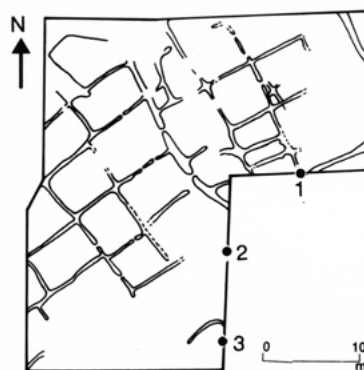
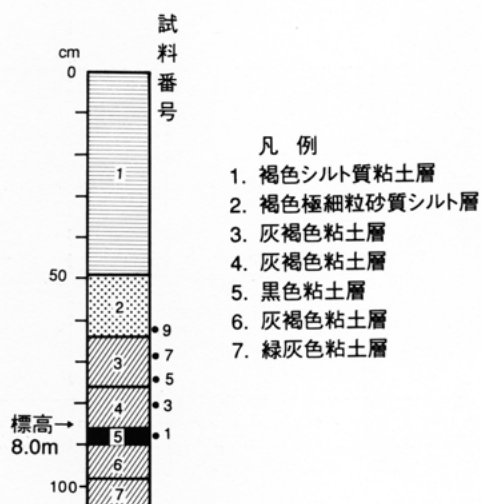
93Ab区、A・B・C・D地点の層序および試料採取層準



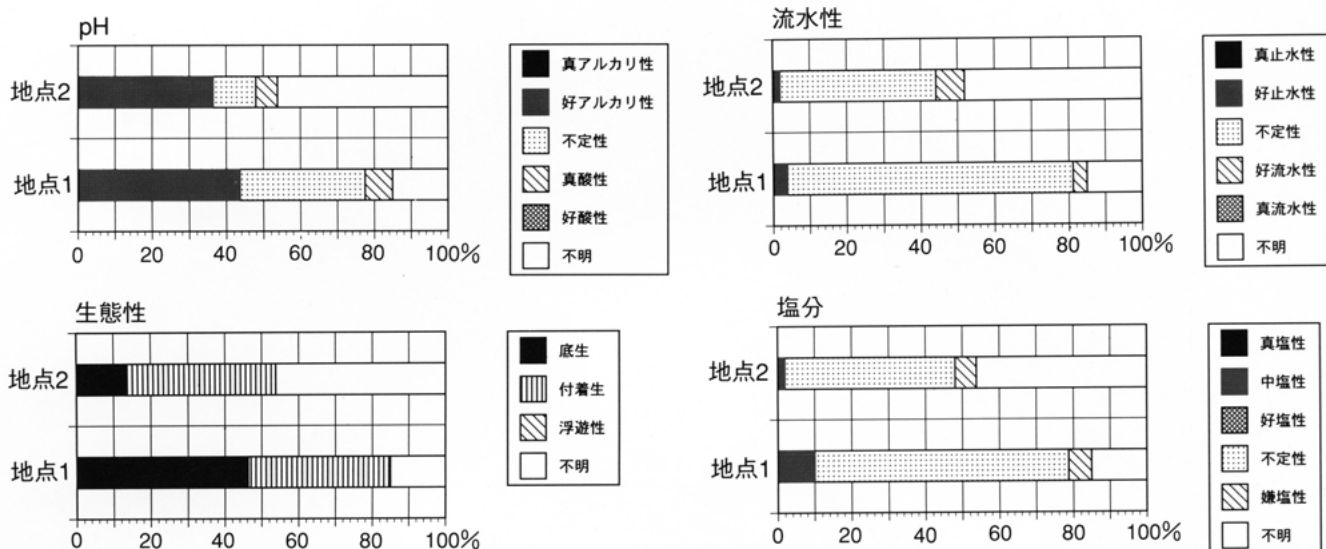


試料番号	標高 (m)	試料番号	標高 (m)
1	7.84	14	7.84
2	7.85	16	7.86
4	7.78	22	7.99
6	7.81	24	7.99
12	7.87	26	7.95

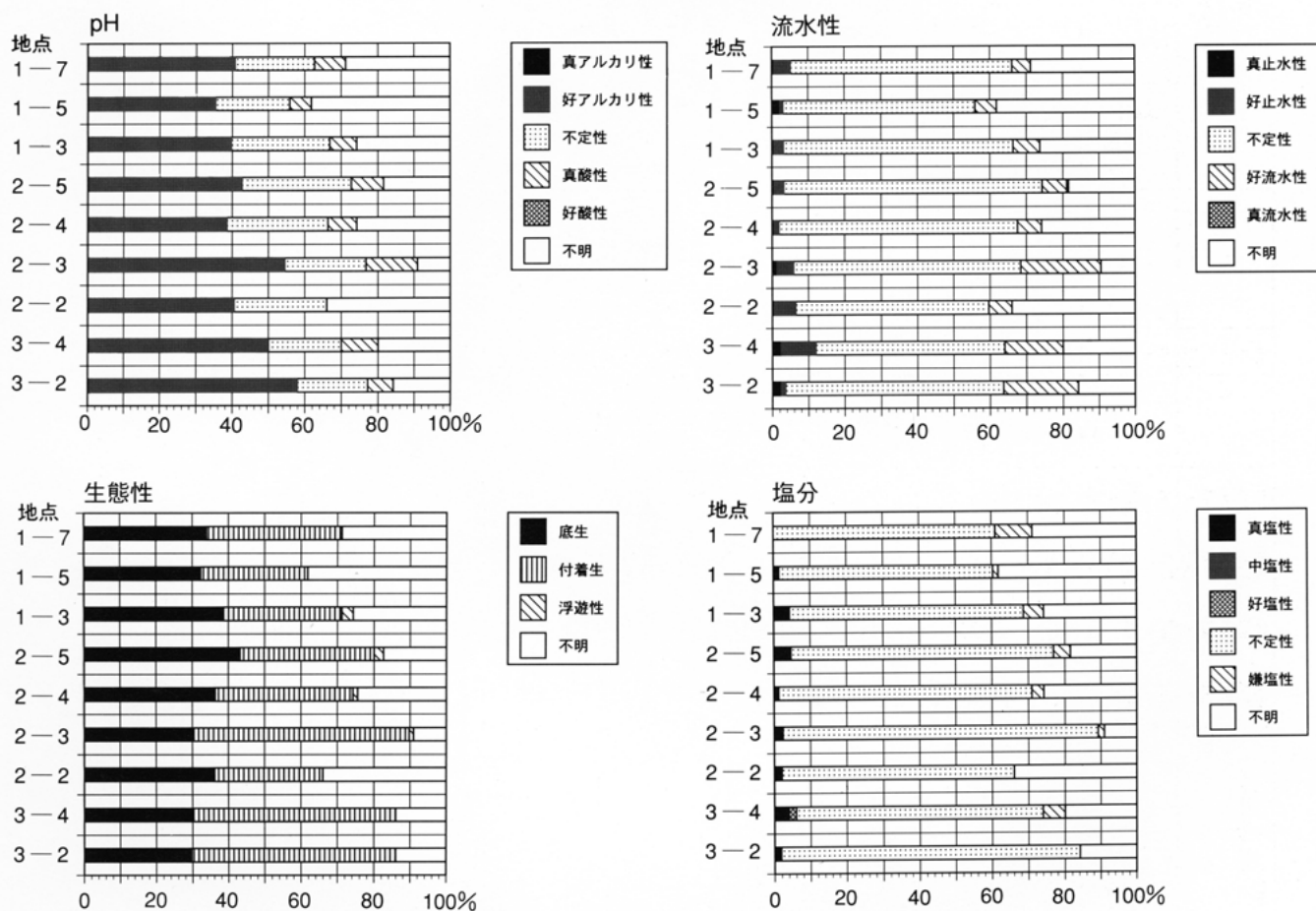
94AbI区、上層水田一筆の水平（面的）試料採取位置



第93図 94AbI 資料採取地点および採取層準

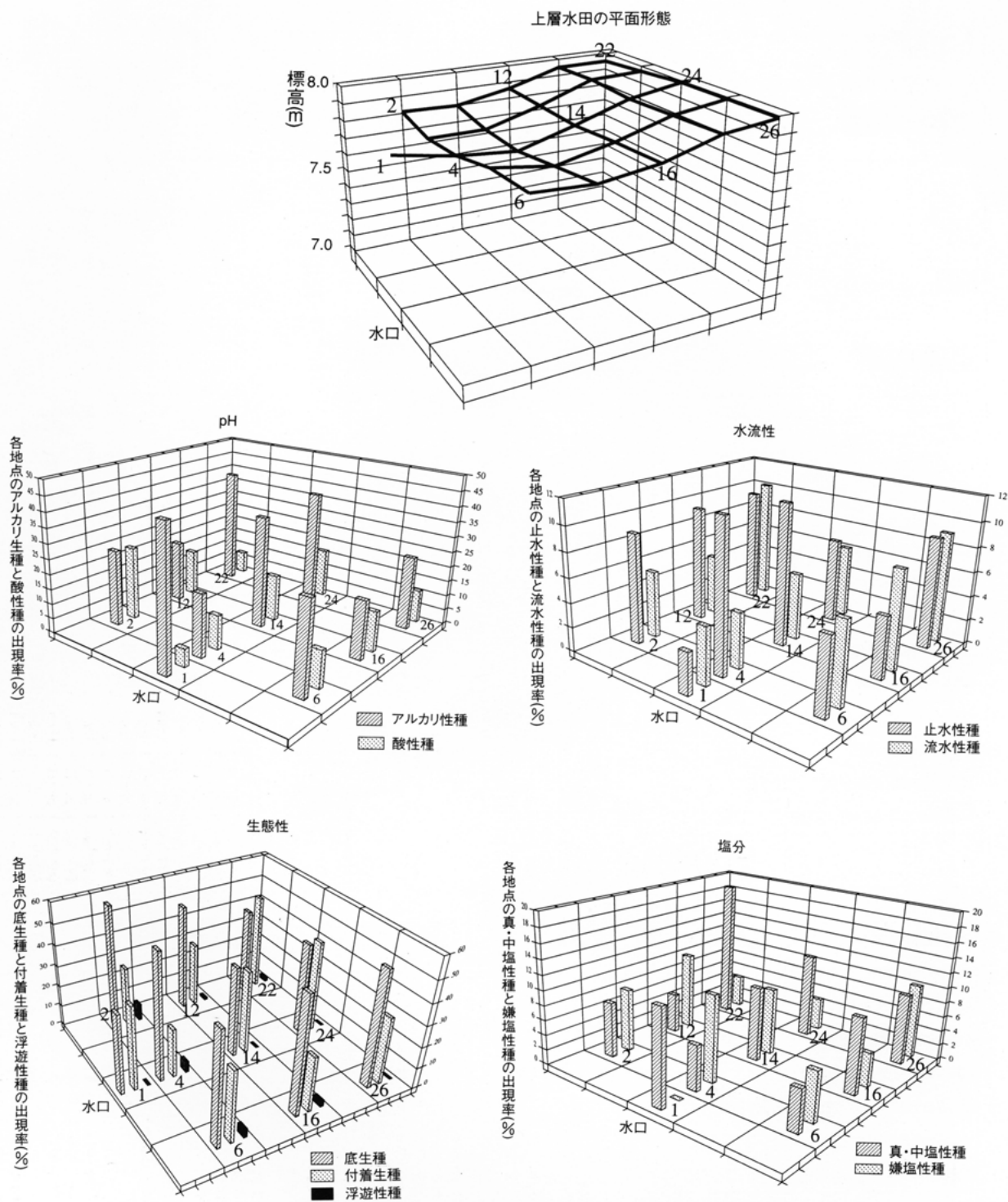


黒色粘土層（下層水田）の珪藻分析結果
(1と2は試料採取地点を示す。地点3からは検鏡されなかった。)



灰色粘土層（上層水田）の珪藻分析結果
(ハイフンの左が試料採取地点、右が試料番号を示す。)

第94図 94AbI区 古墳時代前期水田堆積物各粘土層
における珪藻分析結果



第95図 94AbI水田一筆水平(面的)採取試料の珪藻分析結果

第10表 93Ab A地点珪藻分析結果 (1)

Species Name	Ecology										23	21	19	18	17	15	13	11	10	9	8	7	6	5	3	2	1	
	H.R.	pH	C.R.																									
# <i>Achnanthes exigua</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind								1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes hungarica</i> Grunow	Ogh-hil	al-il	ind								-	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes inflata</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind								-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1
# <i>[J]Achnanthes Japonica</i> H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-ph								1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Amphora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-bi	ind								1	-	-	-	1	-	10	-	7	-	-	-	-	-	2	1	-	-
<i>Aulacoseira italica</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	L-ph								1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
L-AJ <i>Caloneis aerophila</i> Bock	Ogh-ind	al-il	ind								1	1	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.) Mereschkowsky	Ogh-ind	al-il	r-ph								3	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind								1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis silicula</i> var. <i>intermedia</i> Mayer	Ogh-ind	al-il	ind								1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
# <i>Ceratoneis arcus</i> var. <i>recta</i> (Cl.) Krasske	Ogh-ind	ind	r-ph								-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind								-	4	5	2	-	1	-	1	2	-	-	-	-	-	1	2	-	-
# <i>Cocconeis placentula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph								-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
# <i>[L]Cyclotella meneghiniana</i> Kuetzing	Ogh-hil	al-il	ind								1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella affinis</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind								-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6	-	-
# <i>[O]Cymbella aspera</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind								-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	3	1	1	1
# <i>[O]Cymbella cistula</i> (Hemp.) Grunow	Ogh-ind	al-il	L-ph								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	16	2	-
<i>Cymbella cuspidata</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>[O]Cymbella ehrenbergii</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	L-bi								-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella helvetica</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	L-bi								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella heteropleura</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella heteropleura</i> var. <i>minor</i> Cleve	Ogh-hob	ac-il	L-ph								-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-
<i>Cymbella leptoceros</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind								-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
<i>[O]Cymbella mesiana</i> Cholnoky	Ogh-ind	al-bi	L-bi								1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
# <i>[K]Cymbella minuta</i> Hilse ex Rabh.	Ogh-ind	ind	r-ph								2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
# <i>Cymbella silesiaca</i> Bleisch	Ogh-ind	ind	ind								-	6	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
# <i>Cymbella tumida</i> (Breb.) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind								-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	11	3	-
# <i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i> Skvortzov	Ogh-ind	ind	r-ph								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Cymbella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
# <i>[K]Diatoma hiemale</i> (Lyng.) Heiberg	Ogh-hob	ind	r-bi								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
# <i>[K]Diatoma hiemale</i> var. <i>mesodon</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diploneis finnica</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ind	L-ph								-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Diploneis oblongella</i> (Naegeli) Cleve-Euler	Ogh-ind	al-il	ind								-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind								-	2	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diploneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk								-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Epithemia adnata</i> (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Epithemia turgida</i> (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	L-ph								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Epithemia turgida</i> var. <i>westernianii</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind								-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	5	-
<i>Eunotia duplisoraphis</i> H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	L-ph								-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia lunaris</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-hob	ac-il	ind								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>[O]Eunotia monodon</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	L-ph								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>[O]Eunotia pectinalis</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind								1	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>[O]Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind								1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>[O]Eunotia pectinalis</i> var. <i>undulata</i> (Ralfs) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind								-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
L-BJ <i>[O]Eunotia praeurupta</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	ind								-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
L-BJ <i>[O]Eunotia praeurupta</i> var. <i>bidens</i> Grunow	Ogh-hob	ac-il	ind								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Eunotia sudetica</i> (O.Mull.) Hustedt	Ogh-hob	ac-il	L-ph								-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria brevistriata</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	L-ph								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
# <i>Fragilaria construens</i> var. <i>venter</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	L-ph								1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria intermedia</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind								-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
# <i>Fragilaria pinnata</i> var. <i>lancectula</i> (Schum.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>[P]Frustulia rhomboides</i> (Ehr.) De Toni	Ogh-hob	ac-bi	L-bi								1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第11表 93Ab A地点珪藻分析結果(2)

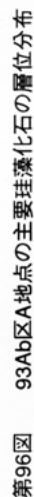
[illegible]

第12表 93Ab A地点珪藻分析結果 (3)

Species Name	Ecology																1
	H.R.	pH	C.R.														
<i>Pinnularia microstauron</i> var. <i>brevissonii</i> (Kuetz.) Husted	Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
# <i>L-BPinnularia molaris</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind	9	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>L-APinnularia obscura</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>L-Pinnularia schroederii</i> (Hust.) Krammer	Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia stomatophora</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>L-BPinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ind	ind	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>L-Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	5	2	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
# <i>L-Rhoicosphenia abbreviata</i> (Ag.) Lange-Bertalot	Ogh-hil	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Rhopalodia gibba</i> (Ehr.) O. Muller	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.) O. Muller	Ogh-hil	al-bi	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis acuta</i> W. Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis anceps</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis kriegeri</i> Patrick	Ogh-ind	ind	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>L-Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> var. <i>signata</i> Meister	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>L-BPinnularia tenera</i> Husted	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>L-Stauroneis thermicola</i> (Petersen) Lund	Ogh-unk	unk	unk	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Surirella angusta</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Surirella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Synedra ulna</i> (Kuetz.) Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Marine Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Marine to Brackish Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Brackish Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Fresh Water Species				207	118	19	27	41	7	122	36	39	9	0	6	49	136
Total Number of Diatoms				207	118	19	27	41	7	122	36	39	9	0	6	49	136

凡例

- H. R. : 塩分濃度に対する適応性 pH : 水素イオン濃度に対する適応性 C. R. : 流水に対する適応性
 Ogh-hil : 貧塩好塩性種 al-bi : 真7カ力性種 l-bi : 真正水性種
 Ogh-ind : 貧塩不定性種 al-il : 好7カ力性種 ind : 好止水性種
 Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種 ind : pH不定性種 r-ph : 好流水性種
 Ogh-unk : 貧塩不明種 ac-il : 好酸性種 r-bi : 真流水性種
 ac-bi : 真酸性種 unk : 流水不明種
 unk : pH不明種
- 環境指標種群
 [J] : 上流性河川指標種, [K] : 中～下流性河川指標種, [M] : 湖沼浮遊性種, [O] : 沼沢湿地付着性種.
 [P] : 高層湿原指標種, (以上は、安藤, 1990による) # : 好汚濁性種, ## : 好清水性種 (以上は、渡辺ほか, 1986による)
 [-] : 陸生珪藻 [-A] : A群, [-B] : B群、伊藤・堀内, 1991による)



海水・汽水・淡水・水生種産出率・各種産出率・空形穀産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示した。なお、●は1%未満の産出、○は100個体未満の試料における産出を示す。

環境指標種：

[J]:上流性河川指標種.[K]:中～下流性河川指標種.[M]:湖沼浮遊性種.[O]:沼沢湿地付着生種.

[P]:高層湿原指標種.(以上は、安藤, 1990による) #:好汚職性種, ##:好清水性種(以上は、渡辺ほか, 1986による)

[・]:陸生珪藻([・A]:A群,[・B]:B群,伊藤・堀内,1991による)

第96図 93Ab A地点の主要珪藻化石の層位分布

第13表 93Ab C地点珪藻分析結果 (1)

Species Name	Ecology			12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	H.R.	pH	C.R.												
##Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-hil	al-bi	ind	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-
Achnanthes hungarica Grunow	Ogh-hil	al-il	ind	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Achnanthes inflata Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1
##[J]Achnanthes japonica H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Amphora ovalis var. affinis (Kuetz.)V.Heurck	Ogh-ind	al-bi	ind	-	1	-	1	1	-	-	-	-	2	2	2
[M]Aulacoseira granulata (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Aulacoseira italica (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Caloneis bacillum (Grun.)Mereschkowsky	Ogh-ind	al-il	r-ph	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[B]Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Caloneis silicula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
[J]Ceratoneis arcus var. hattoriana Meister	Ogh-ind	ind	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
##Ceratoneis arcus var. recta (Cl.)Kraske	Ogh-ind	ind	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Cocconeis placentula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	1	1	-	-	-	-	2	15	16
##Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
##Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1
##[O]Cymbella aspera (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	2	2
##[O]Cymbella cistula (Hemp.)Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8	-
[O]Cymbella ehrenbergii Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-bi	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Cymbella heteropleura var. minor Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Cymbella leptoceros (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	16	2
##[K]Cymbella minuta Hilse ex Rabh.	Ogh-ind	ind	r-ph	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	11	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##Cymbella tumida (Breb.)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	8	3
##[K]Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	2	10
##Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	ind	r-ph	-	-	1	1	1	-	-	-	-	2	3	7
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	1
##[K]Diatoma hiemale var. mesodon (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Diploneis finnica (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Diploneis parva Cleve	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
Epithemia adnata (Kuetz.)Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
Epithemia turgida var. westermanni (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	2
Eunotia duplicoraphis H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
[A]Eunotia fallax A.Cleve	Ogh-hob	ac-bi	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Eunotia lunaris (Ehr.)Grunow	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
[O]Eunotia monodon Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
[O]Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	3	-
[O]Eunotia pectinalis var. undulata (Ralfs)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	14	1
[B][O]Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
Eunotia sudetica (O.Mull.)Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	2	1
##Fragilaria vaucheriae (Kuetz.)Petersen	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
[P]Frustulia rhomboides (Ehr.)De Toni	Ogh-hob	ac-bi	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Frustulia vulgaris (Thwait.)De Toni	Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[O]Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11	2
Gomphonema angustum Agardh	Ogh-ind	al-il	ind	11	1	7	2	2	1	-	-	-	2	44	14
Gomphonema augur Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Gomphonema clavatum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
##Gomphonema clevei Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	7	2
[O]Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-bi	l-ph	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[J]Gomphonema sumatrense Fricke	Ogh-ind	ind	r-ph	1	3	-	-	-	2	-	-	-	1	3	2
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	6	2
Gyrosigma scalproides (Rabh.)Cleve	Ogh-ind	al-bi	r-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Gyrosigma spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[A]Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##[B]Navicula confervacea (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##Navicula cuspidata Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	ind	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
[K]Navicula decussis Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[O]Navicula elginensis (Geg.)Ralfs	Ogh-ind	al-il	r-ph	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula elginensis var. neglecta (Kras.)Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##Navicula goeppertiana (Bleisch)H.L.Smith	Ogh-hil	al-il	ind	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula mobiliensis var. minor Patrick	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
##[A]Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	4	1
[A]Navicula placenta Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula protracta Grunow	Ogh-hil	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
##Navicula pupula Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Navicula radiosa Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	9	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-
Neidium spp.	Ogh-unk	unk	unk	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia fonticola Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia frustulum (Kuetz.)Grunow	Ogh-hil	al-bi	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia tryblionella var. victoriae Grunow	Ogh-hil	al-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[O]Pinnularia acrosphaeria W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[A]Pinnularia borealis var. rectangularis Carlson	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Pinnularia divergens W.Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
[O]Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
Pinnularia imperatrix Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
##Pinnularia interrupta W.Smith	Ogh-ind	ac-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia microstauron var. brevissonii (Kuetz.)Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	3	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

第14表 93Ab C地点珪藻分析結果 (2)

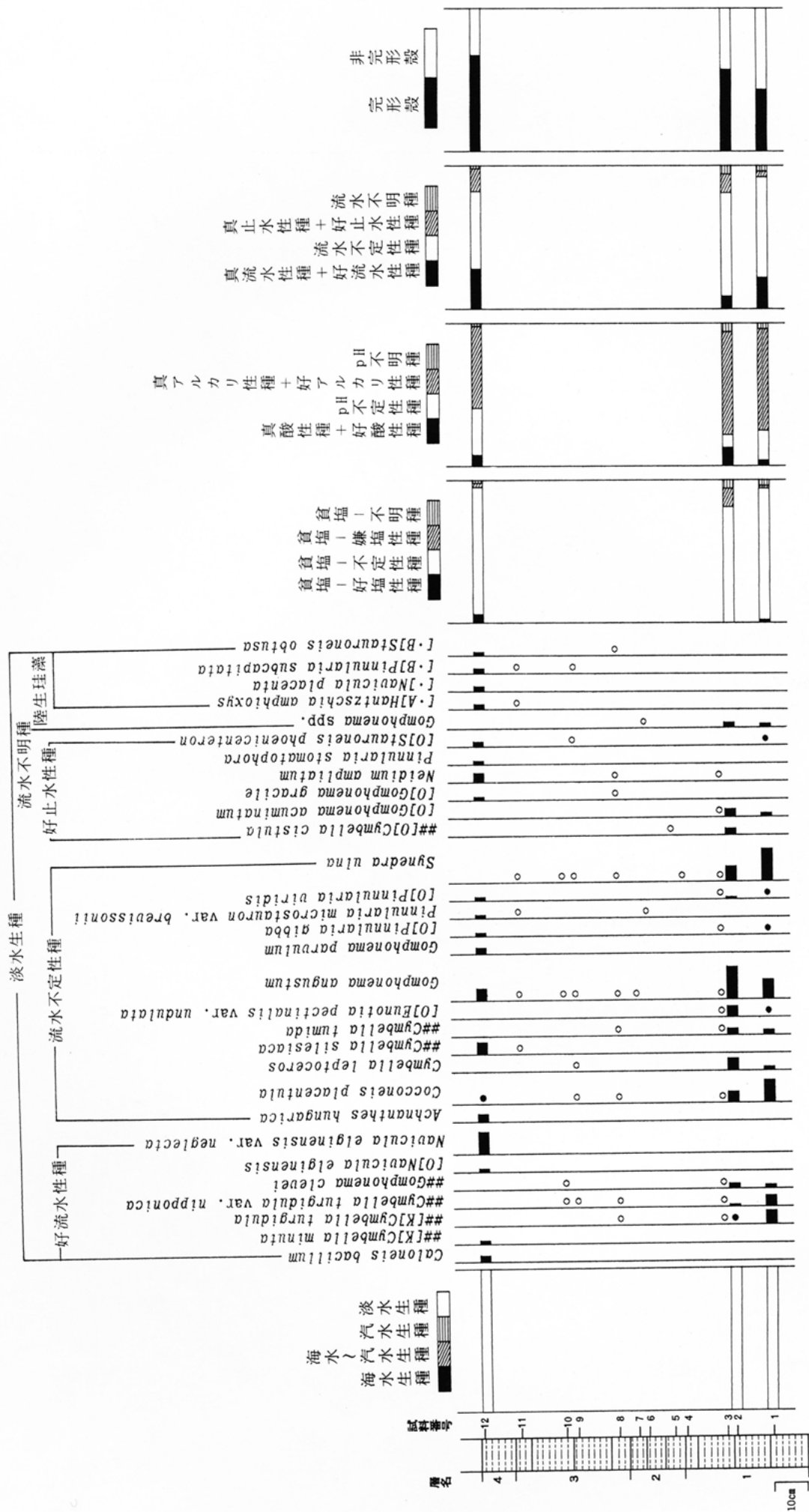
Species Name	Ecology			12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	H.R.	pH	C.R.												
#[·B]Pinnularia molaris Grunow	Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia nobilis Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia rupestris Hantzsch	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Pinnularia stomatophora (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[·B]Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ind	ind	4	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
[O]Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	ind	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	1
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	2	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-
##[K]Rhoicosphenia abbreviata (Ag.)Lange-Bertalot	Ogh-hil	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
Rhopalodia gibberula (Ehr.)D.Müller	Ogh-hil	al-bi	ind	-	-	2	-	4	-	1	-	-	-	-	-
Rhopalodia quismirgiana Skvortzow	Ogh-hil	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Stauroneis acuta W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Stauroneis nobilis Schumann	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
[·B]Stauroneis obtusa Lagerst	Ogh-ind	ind	ind	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
[O]Stauroneis phoenicenteron (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
Surirella angusta Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Surirella ovata var. pinnata (W.Smith)Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Synedra ulna (Kuetz.)Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	-	2	1	2	2	-	-	-	4	7	20	24
##[O]Tabellaria fenestrata (Lyngb.)Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
Marine Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Marine to Brackish Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Brackish Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Fresh Water Species				141	25	16	19	18	6	6	4	8	35	203	107
Total Number of Diatoms				141	25	16	19	18	6	6	4	8	35	203	107

凡例

H. R. : 塩分濃度に対する適応性	pH: 水素イオン濃度に対する適応性	C. R. : 流水に対する適応性
Ogh-hil: 貧塩好塩性種	al-bi: 真7W性種	l-bi: 真止水性種
Ogh-ind: 貧塩不定性種	al-il: 好7W性種	l-ph: 好止水性種
Ogh-hob: 貧塩嫌塩性種	ind : pH不定性種	ind : 流水不定性種
Ogh-unk: 貧塩不明種	ac-il: 好酸性種	r-ph: 好流水性種
	ac-bi: 真酸性種	r-bi: 真流水性種
	unk : pH不明種	unk : 流水不明種

環境指標種群

[J]: 上流性河川指標種, [K]: 中～下流性河川指標種, [M]: 湖沼浮遊性種, [O]: 沼沢湿地付着性種,
[P]: 高層湿原指標種, (以上は、安藤, 1990による) #: 好汚濁性種, ##: 好清水性種 (以上は、渡辺ほか, 1986による)
[·]: 陸生珪藻 ([·A]: A群, [·B]: B群、伊藤・堀内, 1991による)



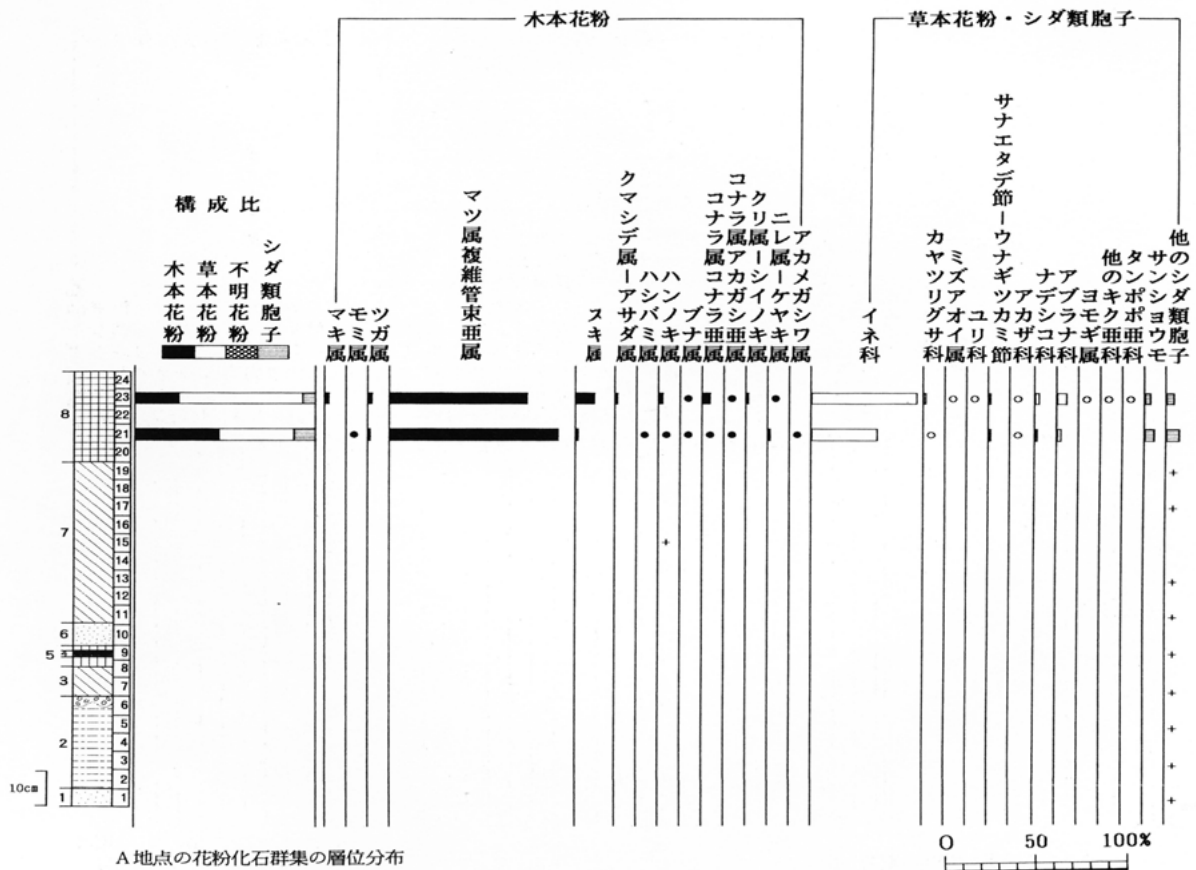
海水・汽水・淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として算出した。
 いずれも100個体以上検出された試料について示した。なお、●は1%未満の産出、○は100個体未満の試料における産出を示す。

環境指標種：
 [J]: 上流性河川指標種、[K]: 中～下流性河川指標種、[M]: 湖沼浮遊性種、[O]: 沼沢湿地付着生種。
 [P]: 高層湿原指標種 (以上は、安藤, 1990による) # 好汚濁性種, ## 好清水性種 (以上は、渡辺ほか, 1986による)
 [-]: 陸生珪藻 ([-A]: A群, [-B]: B群, 伊藤・堀内, 1991による)

第97図 93Ab C地点の主要珪藻化石の層位分布

93Ab区A地点の花粉分析結果

種 類 (Taxa)	試料番号	23	21	19	17	15	13	11	9	7	5	3	1
木 本 花 粉													
マキ属		3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モミ属		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツグ属		3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属 複維管束亜属		123	197	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スギ属		17	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマシデ属-アサダ属		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハシバミ属		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハンノキ属		4	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ブナ属		1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属コナラ亜属		7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属アカシ亜属		1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリ属-シイノキ属		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニリ属-ケヤキ属		1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカメガシワ属		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草 本 花 粉													
イネ科		402	168	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カヤツリグサ科		8	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズアオイ属		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ユリ科		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節		9	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ科		2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ナデシコ科		16	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アブラナ科		35	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他のキク亜科		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タンポポ科		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明花粉		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シダ 類 胞 子													
サンショウモ		22	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他のシダ類胞子		25	32	1	2	-	17	18	20	15	1	5	1
合 計													
木 本 花 粉		164	213	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
草 本 花 粉		477	193	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
木 本 花 粉		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
草 本 花 粉		47	57	1	2	0	17	18	20	15	1	5	1
シダ 類 胞 子		689	463	1	2	1	17	18	20	15	1	5	1



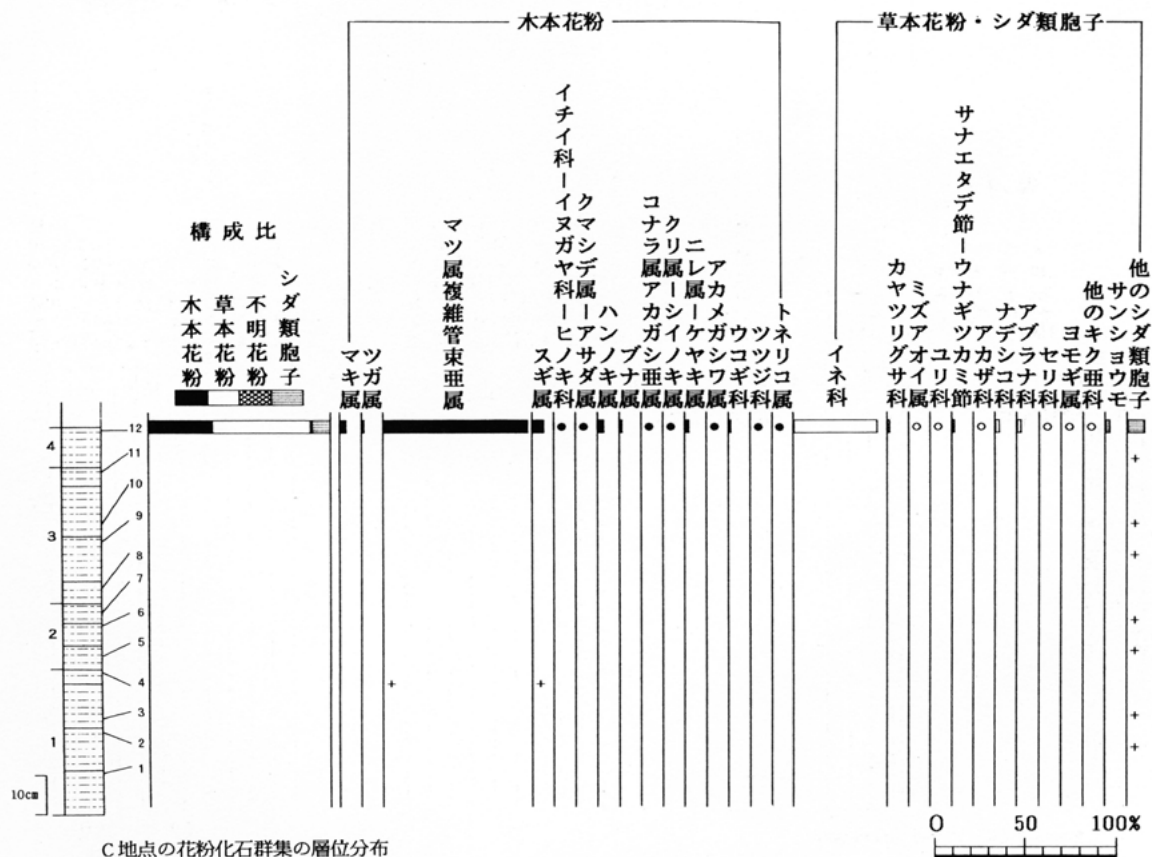
A地点の花粉化石群集の層位分布

出現率は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。
なお、●○は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

第98図 93Ab A地点花粉分析結果

93Ab区C地点の花粉分析結果

種 類 (Taxa)	試料番号	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
木 本 花 粉													
マキ属	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツツジ属	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属	171	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
スギ属	13	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマシデ属-アサダ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハンノキ属	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブナ属	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属-アカガシ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリ属-シイノキ属	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニレ属-ケヤキ属	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカガシ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウコギ科	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツツジ科	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トネリコ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草 花 粉													
イネ科	281	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カヤツリグサ科	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズアオイ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ユリ科	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ科	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ナデシコ科	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アブラナ科	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他のキク亜科	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明花粉	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シダ 類 胞 子													
サンショウモ	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他のシダ類胞子	54	3	-	3	3	-	6	6	-	3	3	-	-
合 計													
木 本 花 粉	217	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
草 花 粉	327	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シダ 類 胞 子	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明花粉	64	3	0	3	3	0	6	6	0	3	3	0	0
総 計	613	3	0	3	3	0	6	6	3	3	3	0	0



C地点の花粉化石群集の層位分布

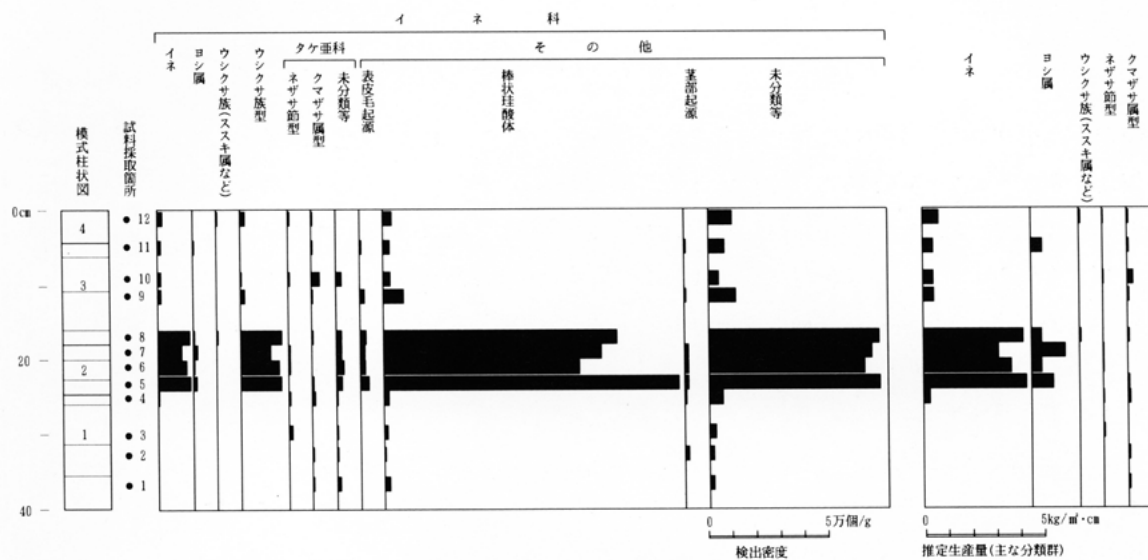
出現率は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。
 なお、●○は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

第99図 93Ab C地点花粉分析結果

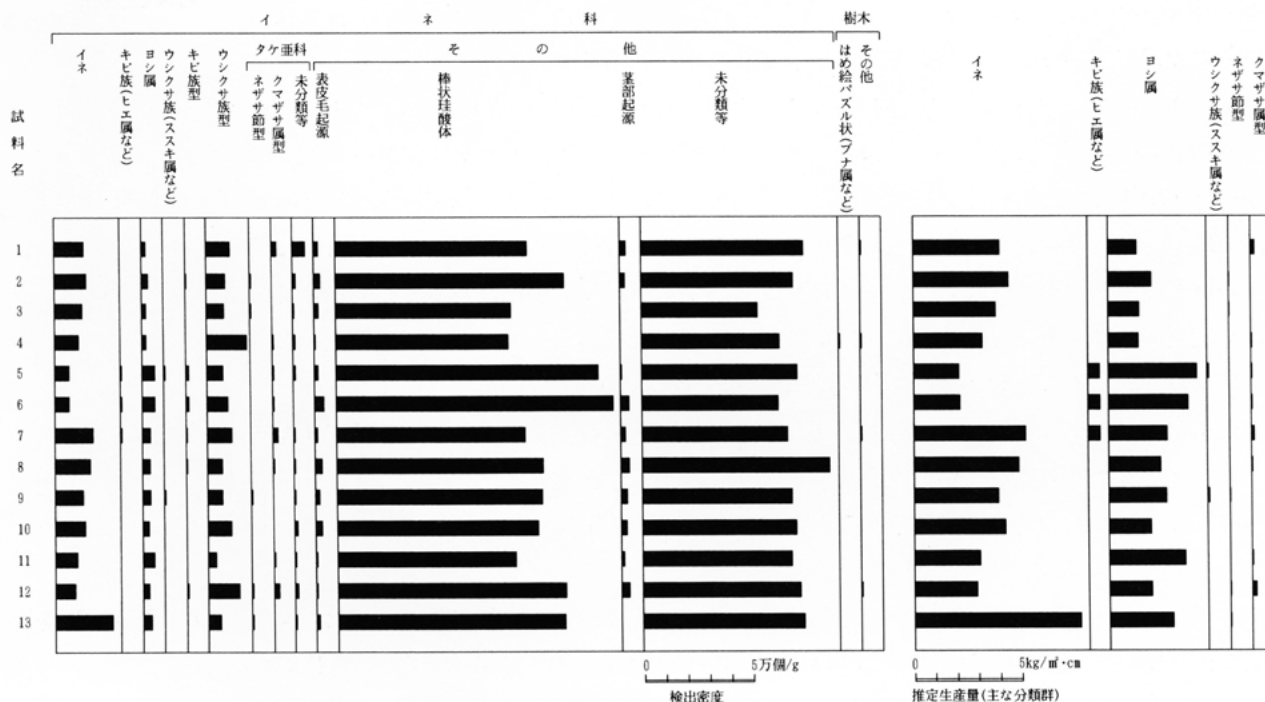
第15表 93Ab A・B・C・D地点植物珪酸体分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)		A地点																								B地点											
分類群 \ 試料		1	3	5	7	8	9	10	11	13	15	17	19	20	21	23	24	1	3	7	9	11	13	15	17	21	24										
イネ科																																					
イネ					37	110	201	37	60	30		15		8	23	43	15		7	33	53	15			16	8											
キビ族(ヒエ属など)																																					
ヨシ属					22	44	52		8	30			8		8				7	38	7																
ウシクサ族(ススキ属など)							7		8																												
キビ族型							7	15																													
ウシクサ族型			7	7	66	186	7	30	15		15	32	16						53	121																	
タケ亜科																																					
ネザサ節型					15				8		15						7	22								24											
クマザサ属型			8	22	7		7				22		16	16			29	15		7		15				8											
メダケ節型							7				7																										
未分類等					7	51	22	7		52	7	15	24	8	8	7	15			38	7	8				16											
その他のイネ科																																					
表皮毛起源						7	45		15	7			8	16	8	14	30			20	38		8														
棒状珪酸体			22	52	741	1035	44	219	185	22	53	40	31	138	43	97			30	604	921	37	8	38	23	102											
茎部起源						29	37			7									7	7	45		8			8											
地下茎部起源																			7																		
未分類等			16	22	37	653	603	51	271	355	109	68	222	47	61	72	67		30	597	770	97	24	23	39	47											
樹木起源																																					
はめ給バズル状(ブナ属など)																																					
その他							7	7																													
(海綿骨針)																										8											
植物珪酸体総数			24	74	185	1716	2212	147	618	681	181	167	350	140	246	217	262		82	1327	2023	180	55	61	78	212											
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm)																																					
イネ					1.09	3.23	5.91	1.08	1.77	0.87		0.45		0.23	0.68	1.28	0.44		0.22	0.98	1.55	0.44			0.46	0.23											
キビ族(ヒエ属など)																																					
ヨシ属					1.40	2.78	3.29		0.48	1.87			0.50		0.48					0.42	2.38	0.47															
ウシクサ族(ススキ属など)							0.09		0.09																												
ネザサ節型					0.07				0.04		0.07						0.03	0.11							0.11												
クマザサ属型			0.06	0.17	0.06		0.06				0.16		0.12	0.12			0.22	0.11		0.05		0.11			0.06												
※仮比重を1.0と仮定して算出。																																					

検出密度 (単位: ×100個/g)		C地点												D地点													
分類群 \ 試料		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
イネ科																											
イネ					8	146	124	104	141	15	16	16	24	137	150	130	108	71	72	177	166	133	145	104	99	261	
キビ族(ヒエ属など)																		7	7								
ヨシ属					15	8	22	7				8		22	32	22	22	64	58	43	38	42	31	55	31	46	
ウシクサ族(ススキ属など)								7					8					7									
キビ族型																		14	14	7	8				8		
ウシクサ族型					177	163	133	178	15	8		24		115	95	87	187	78	101	113	76	77	107	42	145	54	
タケ亜科																											
ネザサ節型				15	8		8	7				8	8		8	7					7				8	8	
クマザサ属型		8	8		15	8			7	8	32	8	8	22			7	7	7	21	8		7	23			
メダケ節型																											
未分類等		15	8	8	8	23	31	22	22		24			57	16	7	14	14		7	8	7	15	7	15	8	
その他のイネ科																											
表皮毛起源						38	23	15	22	15		8		22	32	22	7	21	43	14	30	21	31	7	8	15	
棒状珪酸体		23	8	15	23	1229	817	909	972	91	32	31	39	877	1042	804	792	1202	1208	865	951	938	918	823	1047	1042	
茎部起源			16		8	15	16	15		8		8		29	24			7	43	21	45	35	31	14	46		
地下茎部起源																											
未分類等		23	23	31	62	714	654	680	712	114	48	70	103	740	695	536	633	721	627	667	861	686	704	685	726	743	
樹木起源																											
はめ給バズル状(ブナ属など)																	7										
その他														7			7							8			
(海綿骨針)							8												7		8			7	15		
植物珪酸体総数		69	62	70	131	2366	1844	1908	2070	266	167	148	213	2026	2100	1615	1785	2214	2241	1950	2190	1954	1981	1743	2162	2176	
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm)																											
イネ					0.23	4.29	3.66	3.04	4.14	0.45	0.47	0.46	0.70	4.01	4.41	3.83	3.17	2.08	2.12	5.21	4.88	3.91	4.27	3.05	2.92	7.66	
キビ族(ヒエ属など)																		0.59	0.61	0.60							
ヨシ属					0.97	0.49	1.40	0.47			0.49			1.36	1.99	1.37	1.36	4.02	3.64	2.68	2.38	2.65	1.93	3.49	1.93	2.90	
ウシクサ族(ススキ属など)								0.09				0.10						0.09				0.09					
ネザサ節型			0.07	0.04			0.04	0.04			0.04	0.04				0.04	0.03					0.03			0.04	0.04	
クマザサ属型		0.06	0.06		0.12	0.06			0.06	0.06	0.24	0.06	0.06	0.16			0.05	0.05	0.05	0.16	0.06			0.05	0.17		
※仮比重を1.0と仮定して算出。																											



93Ab区C地点の植物珪酸体分析結果:
(層序番号は第103図と対応)



93Ab区D試料の植物珪酸体分析結果

第101図 93Ab 植物珪酸体分析結果 (2)

4 畑作農村地帯を特徴づける愛知県大毛池田遺跡 (中世)の食植性昆虫について

森 勇一 (愛知県立明和高等学校)

生物が土地条件や気候などに支配されその組成を異にすることは、日本各地の森林や水田・畑地、人里周辺などの生物相を観察することにより容易に理解できる。6本の脚と2対の羽根を有し世代交代が速い昆虫は、時代の移り変わりとともに他のどの生物よりも明瞭にかつダイナミックに、その群集組成を変化させてきた(森1994・1995・1996)。

中世が人為による自然改変の大きく進行した時期であったらしいことは、昆虫分析(森, 1996ほか)や文献史料(黒田 1984; 木村, 1992)などにより、次第に明らかになってきた。濃尾平野における中世の昆虫相は、一宮市大毛沖遺跡にみるように、ヒメコガネ *Anomala rufocuprea*を中心とした食葉性昆虫の大増殖により特徴づけられ、これは中世における山林開発と、この地域の土地条件(畑作地)を反映したものであったことはすでに述べたとおりである(森, 1996)。

小論では、愛知県一宮市大毛池田遺跡の古代から中世にかけての遺物包含層中より得られた昆虫化石群集とその意義について述べる。

大毛池田遺跡は濃尾平野北東の一宮市北西部から葉栗郡木曽川町にかけて位置し、標高9~10mの古墳時代~中世を中心とした遺跡である(武部, 1996; 第3図)。分析試料は、平安時代後期(11世紀~12世紀前半)から鎌倉時代(12世紀~14世紀初頭)にかけての頃に掘削された溝、土坑および井戸内の堆積物より採取されたものである。うち試料A(94E区SG01-1)および試料B(94E区SG01-2)は池の埋積物であり、平安時代後期より鎌倉時代前期まで(11世紀~12世紀前半)のものとされる。試料C(94F区SE01)は井戸内の堆積物で鎌倉時代前期(12世紀前半)、試料Dは土坑の埋積物で同じく鎌倉時代前期(12世紀後半~13世紀前半)、また試料Eは溝堆積物であり鎌倉時代後期(13世紀半ば~14世紀初頭)のものとされている。分析試料はいずれも暗褐色ないし黄褐色の粘土混じり砂質シルト層である。第102図に、遺構配置図および試料採取地点を示した。

昆虫化石の抽出は主にブロック割り法によった。昆虫化石の検出にあたってはアサヒペンタックス単眼顕微鏡(20倍)を利用し、実体顕微鏡下でクリーニングののち、一つずつの節片について筆者採集の現生標本の各部位と顕微鏡下で比較・検討しながら同定した。

大毛池田遺跡より発見された昆虫化石(節片ないしは破片数)の現時点での集約数は計633点である。試料ごとでは試料Aが42点、試料Bが44点、試料Cが173点、試料Dが47点、試料Eが327点であった。産出した昆虫化石のリストを第16表に、また、主な昆虫化石の顕微鏡写真を図版103に掲げた。

発見された昆虫は、そのほとんどが鞘翅目(COLEOPTERA)に属する鞘翅(Shard)・

I. はじめに

II. 分析試料 および方法

III. 昆虫化石群集

前胸背板 (Pronotum) 等の節片よりなり、鞘翅目以外ではカメムシ目 (PENTATOMIDAE) が2点、アリ科 (FORMICIDAE) が4点発見された。

出現した昆虫化石のうち、科レベルまで同定できたもの10科96点 (15.2%)、2亜科3点 (0.5%)、属レベル9属35点 (5.5%)、種レベル31種472点 (74.5%) であった。なお、目レベルでとどめたものは1目1点 (0.2%) であり、不明甲虫としたものは26点 (4.1%) であった。。

生息環境および生態による分類では、食肉性および食植性の水生昆虫1亜科1属10種計41点 (6.5%)、食糞性および食屍性の地表性歩行虫1科2属4種計27点 (4.3%)、雑食性および食肉性の地表性歩行虫2科5属3種計69点 (10.9%)、陸生の食植性昆虫1目5科1亜科14種の計466点 (35.3%) であった。その他の昆虫片は計30点 (4.7%) であった。

全試料を通じてヒメコガネ *Anomala rufocuprea* の出現頻度が高く、とくに試料Cでは計173点のうち3点を除く170点が本種の頭部や鞘翅、前胸背板などの体節片で占められた。池を埋積した地層とされる試料AおよびBからは、ゲンゴロウ *Cybister japonicus* やガムシ *Hydrophilus acuminatus*、オオミズスマシ *Dineutus orientalis*、コガムシ *Hydrochara affinis*、ヒメガムシ *Sternolophus rufipes* などの食肉性ないし食植性の水生昆虫を多産した。

また、試料Eではヒメコガネ (146点) のほかに、ドウガネブイブイ *Anomala cuprea* (3点)、マメコガネ *Popillia japonica* (3点)、サクラコガネ属 *Anomala* sp. (8点)、クワハムシ *Frcutiauxia armata* (1点) などの食植性昆虫、およびエンマコガネ属 *Onthophagus* sp. (計10点) やマグソコガネ属 *Aphodius* sp. (計10点)、ナガヒョウタンゴミムシ *Scarites terricola pacificus* (1点) などの地表性歩行虫を随伴した。

IV. 畑作指標昆虫相 本昆虫化石群集は、いずれの試料においても食葉性昆虫であるヒメコガネが優占し、これに他の食植性昆虫と数種の地表性歩行虫をまじえる組成であるとみなすことができる。紙数が限られていることもあり、本論ではこのうちヒメコガネと共産する食植性昆虫を中心に述べる。

ヒメコガネにつづいて産出点数の多い食植性の分類群は、コガネムシ科 *Scarabaeidae* (16点)、およびサクラコガネ属 *Anomala* sp. (12点)、スジコガネ亜科 *Rutelinae* (2点) であった。その大部分はヒメコガネ・ドウガネブイブイ・マメコガネなどに分類されるべき体節片と考えられるが、産出部位が腿脛節や頭部、および鞘翅の破片であったため種を同定することは困難であった。

ドウガネブイブイ (5点)、アオドウガネ *Anomala albopilosa* (1点)、コガネムシ *Mimela splendens* (2点)、マメコガネ (4点)、クロコガネ *Holotrichia kiotoensis* (2点)、コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* (2点)、カナブン *Rhomborrhina japonica* (3点)、アオカナブン *R. unicolor* (5点) の8種は、いずれもコガネムシ科に属する昆虫であり、うち前記6種は木本や草本植生の主として葉を食害する陸生の食植性昆虫である。

これらは幼虫時代、種々の植物の根を加害することでも知られる。また、後記の2種は、人里周辺に生育するクヌギやコナラなどの樹液に集まる昆虫として著名なものである。

コガネムシ科以外の食植性昆虫では、アカガネサルハムシ *Acrothinium gaschkevithii* (1点)、クワハムシ (1点) などのハムシ科 *Chrysomelidae* (計7点) や、クシコメツキ *Melanotus legatus* (1点) を含む計10点のコメツキムシ科 *Elateridae*、ゾウムシ科 *Curculionidae* (6点)、およびヒメアカホシテントウ *Chilocolus kuwanae* (1点) などが見いだされており、これらの分類群もコガネムシ科同様、主に草本類や樹葉上に認められる。

大毛池田遺跡より産出した昆虫化石の加害植物に関連し、最も多く検出されたヒメコガネは、元来林縁や二次林等の樹葉に依存して生活する食葉性昆虫であり、日本各地に分布している。本種はダイズやアズキをはじめとしたマメ科植物や、クリ・ブドウなどの果樹を食害する畑作有害昆虫として知られる(湯浅・河田, 1952; 日本応用動物昆虫学会編, 1987)。平坦地では台地や扇状地などに多く発生し、沖積低地では比較的少ないとされ、また山間地でも棲息密度が低い傾向があるといわれる(桑山, 1953)。随伴するドウガネブイブイは山麓地帯や段丘・扇状地などで分布密度が高く(桑山, 1953)、またマメコガネは台地および低地ともに発生しとくに水田地帯の畦畔に作付されたマメ類を多く加害するとされる(桑山, 1953)。

筆者は、遺跡産出の昆虫化石の分析と並行し、日本各地の種々の環境下における昆虫相について、ライトトラップ法やベイトトラップ法などを用いて調査・研究を継続させてきている。このような研究と遺跡産出の昆虫群集とを比較してみると、大毛池田遺跡より得られたヒメコガネを主体にドウガネブイブイ・マメコガネなどのコガネムシ科、およびハムシ科・ゾウムシ科などを随伴する昆虫化石群集は、三重県東員町穴太 (Site-0422)、同藤原町坂本 (Site-0415) において1995年6月17日および同年7月29日の両日、ライトトラップ法により採集された食植性の昆虫群集と類似している。化石群集に認められなかったビロウドコガネ *Maladera japonica*・アカビロウドコガネ *M. castanea*・セマドラコガネ *Blitopertha orientalis*・サクラコガネ *Anomala daimiana*・スジコガネ *Mimela testaceipes*の5分類群が現生群集に含有されるが、うち前記4種は隣接するゴルフ場のシバの根を加害する食根性昆虫、スジコガネはアカマツ林に多い昆虫として知られるものである。なお、Site-0422 (東員町穴太) は員弁川の河岸段丘上に位置し、南側には主に水田、北側には水田と畑地が混在する田園地帯の一角にある。付近には道路沿いに人家が建ち並んでいる。また、Site-0415 (藤原町坂本) は、鈴鹿山系藤原岳山麓の扇状地性の段丘上に位置し、水稻耕作地と畑地の中に人家が点在する山村である。

大毛池田遺跡の平安時代～鎌倉時代後期にかけての遺物包含層からは、現在の畑作地帯に多く認められるヒメコガネを主体とした食葉性昆虫を多産した。このため、中世初頭(12～13世紀)の頃には、本遺跡の位置する濃尾平野周辺地域では土地改変が進行し、人家と畑作地が混在する人為度の高い空間であったと考えられる。このような結果はほぼ同

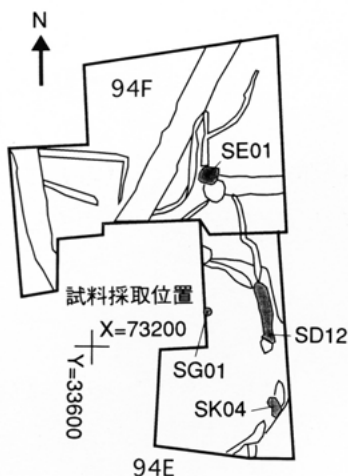
時代の大毛沖遺跡（森，1996）・田所遺跡（森，1997）からも得られており，一宮市周辺の濃尾平野北西部一帯ではマメ科植物を中心に，果樹・桑・綿花などの畑作物を栽培する畑作農村的な景観が展開していたものと推定される

謝 辞

小文を草するにあたり，以下の方々にお世話になった。心よりお礼申し上げる。服部恵子（愛知県埋蔵文化財センター）・宇佐美美幸（同）・鬼頭 剛（同）・武部真木（同）。

参考文献

- 木村茂光（1992） 日本古代・中世畠作史の研究．校倉書房，412p.
黒田日出男（1984） 日本中世開発史の研究．校倉書房，502p.
桑山 覚（1953） 日本における大豆害虫の分布と害相．養賢堂，129p.
武部真木（1996） 大毛池田遺跡．愛知県埋蔵文化財センター年報（平成7年度），20-23.
森 勇一（1994） 昆虫化石による先史～歴史時代における古環境の変遷の復元．第四紀研究，33(5)，331-349.
森 勇一（1995） 虫は世につれ，人につれ．昆虫考古学のすすめ（4），考古学フォーラム6，愛知考古学談話会，53-61.
森 勇一（1996） 愛知県一宮市大毛沖遺跡より得られた昆虫群集について．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第66集）大毛沖遺跡，愛知県埋蔵文化財センター，188-194.
森 勇一（1997） 畑作農村地帯を特徴づける愛知県田所・西上免遺跡の地表性歩行虫について．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第71集）田所遺跡，愛知県埋蔵文化財センター，154-158
日本応用動物昆虫学会編（1987） 農林有害動物・昆虫名鑑．日本植物防疫協会，379p.
湯浅啓温・河田 薫（1952） 予察防除・農作害虫新説．朝倉書店，491p.



調査区	試料名	試料採取場所	時期
94E	試料A	池 (SG01)	11世紀～12世紀前半
94E	試料B	池 (SG01)	11世紀～12世紀前半
94F	試料C	井戸 (SE01) 埋積物	12世紀前半
94E	試料D	土坑 (SK04) 埋積物	12世紀後半～13世紀前半
94E	試料E	溝 (SD12) 埋積物	13世紀半ば～14世紀初頭

第102図 94E昆虫試料分析結果

第16表 大毛池田遺跡から産出した昆虫化石

生態		和名	学名	試料A 94E SG01-1	試料B 94E SG01-2	試料C 94F SE01	試料D 94E SK04	試料E 94E SD12	合計
水生	食肉性	カワトンボ	<i>Mnais strigata</i> SELYS					A1	1
		ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i> SHARP	T1				P1 W3	5
		ゲンゴロウ (♀)	<i>Cybister japonicus</i> SHARP		W1				1
		ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE	T1					1
		クロヒメゲンゴロウ属	<i>Ilybius</i> sp.					W2	2
昆虫	食植性	オオミズスマシ	<i>Dineutus orientalis</i> MODEER	W1	W1				2
		ミズスマシ	<i>Gyrinus japonicus</i> SHARP	T1				P1	2
		ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY		P1 W7 A1			L2	11
		コガムシ	<i>Hydrochraa affinis</i> (SHARP)	W1				W1 L2	4
		ヒメガムシ	<i>Sternophorus rufipes</i> (FABRICIUS)	W1 部位不明1					2
地表性	雑食・食肉性	マメガムシ	<i>Regimbartia attenuate</i> (FABRICIUS)	W1		W1			2
		セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)					P1 W6	7
		イネクイハムシ	<i>Donacia provosti</i> FAIRMAIRE	W1					1
		センチコガネ	<i>Geotrupes laevistriatus</i> MOTSCHULSKY		L1			P1 W1 L1	4
		エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	T1	A1			H1 P1 W1 T2 A2	9
地表性	雑食・食肉性	コブマルエンマコガネ	<i>Onthophagus atripennis</i> WATERHOUSE					P1 A1 L1	3
		マグソコガネ属	<i>Aphodius</i> sp.					H1	1
		オオマグソコガネ	<i>Aphodius haroldianus</i> BALTHASAR					W1	1
		マグソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (MOTSCHULSKY)					H1 P4 W3	8
		シデムシ科	SILPHIDAE					P1	1
歩行虫	雑食・食肉性	ゴミムシ科	HARPALIDAE	P1 T1 A3 L2	A1			H3 P5 W11 T4 A9 L2 部位不明1	43
		ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synuchus</i> sp.		W1			W4	5
		アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.					H1 P1 W1	3
		トックリゴミムシ属	<i>Lachnocrepis</i> sp.					P1	1
		ナガヒョウタンゴミムシ	<i>Scarites terricola pacificus</i> BATES			P1		P1	2
歩行虫	雑食・食肉性	オオトックリゴミムシ	<i>Oodes vicarius</i> BATES					P1	1
		オサムシ属	<i>Carabus</i> sp.				L1		1
		クロナガオサムシ	<i>Leptocarabus procerulus</i> (CHAUDOIR)					P1	1
		ハネカクシ科	STAPHYLININAE	A1 L1				P5 W1 T1	9
		キマワリ属	<i>Plesioththalmus</i> sp.					L1	1
陸生の植生依存型昆虫	食性	ゴミムシ目	TENEBRIONIDAE					P1 W1	2
		コガネムシ科	SCARABAEIDAE		P1 W3			P2 W1 T1 A1 L7	16
		スジコガネ亜科	RUTELINAE	L1			W1		2
		サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	P1 W2 L1				P2 W1 T1 A1 L3	12
		ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE			A1	L1	H1 T1 A1	5
陸生の植生依存型昆虫	食性	アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa</i> HOPE		W1				1
		ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	P1 W2 A1 L1	S1 P5 W10 T1 A1 L4	H6 P34 W82 T7 A23 L18	H7 P10 W8 T1 A11 L5	H17 P25 W52 T2 A21 L29	385
		コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> CYLLENHAL					P1 W1	2
		マメコガネ	<i>Popillia japonica</i> NEWMANN		L1			L3	4
		クロコガネ	<i>Holotrichia kiotoensis</i> BRENSKE		W1		L1		2
陸生の植生依存型昆虫	食性	コアオハナムグリ	<i>Oxyctetonia jucunda</i> (FALDERMANN)					P2	2
		カナブン	<i>Rhomborrhina japonica</i> HOPE	P1				H1 A1	3
		アオカナブン	<i>Rhomborrhina unicolor</i> MOTSCHULSKY					H1 W1 A3	5
		カミキリムシ科	CERAMBYCIDAE					L1	1
		ハムシ科	CHRYSOMELIDAE					H1 W4	5
陸生の植生依存型昆虫	食性	アカガネサルハムシ	<i>Acrothium gashkevitchii</i> (MOTSCHULSKY)					W1	1
		クワハムシ	<i>Flautiaxia armata</i> (BALY)					W1	1
		コメツクムシ科	ELATERIDAE	T1				M1 P4 W3	9
		クシコメツキ	<i>Melanotus legatus</i> CANDEZE					W1	1
		ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	T1				口吻1 W4	6
その他	食性	ヒメアカホシテントウ	<i>Chilocorus kuwanae</i> SILVESTRI					W1	1
		カメムシ目	HEMIPTERA	A1				A1	1
		イネノクロカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> BURMEISTER						1
		不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明7			部位不明1	P1 W4 L5 部位不明8	26
		アリ科	FORMICIDAE	H1 A1				H1 P1	4
合計				42	44	173	47	327	633

(検出部位凡例)

W(Wings)：鞘翅 H(Head)：頭部 T(Thorax)：胸部 A(Abdomen)：腹部 P(Pronotum)：前胸背板 S(Scutellum)：小楯板

L(Legs)：腿関節 M(Mandible)：大腮

5 大毛池田遺跡93Ab区で認められた水田土壌の理化学分析

はじめに 大毛池田遺跡93Ab区では、県内最古とされる古墳時代前期の水田跡が検出されてる。一般に水田土壌では畑土壌にない土層配列が認められ、特に表面水型水田（乾田）では、灌漑水利用による湛水・落水の繰り返しによって起こる鉄とマンガンの斑紋集積層が顕著に認められる。この斑紋集積層は過去の水田跡にも顕著に認められ、当時の水田の様態を検討する上で多くの情報を提供する（松井、1970）。また、肥沃度の高い作土層ではより水稻の収量も高く、栽培による有機物や無機養分の集積がある。

今回の自然科学分析では、本遺跡で認められた水田土壌を対象として、土壌理化学分析をおこない、上記したような現水田に認められる傾向について検証する。具体的には、遊離酸化鉄・マンガンの分析および土壌の自然肥沃度指標と考えられる有機物量（ここでは有機物の指標となる有機炭素量）、陽イオン交換容量の分析、植物の必須元素であるリンについて分析をおこない、当時の水田の様態について土壌学的に検討する。

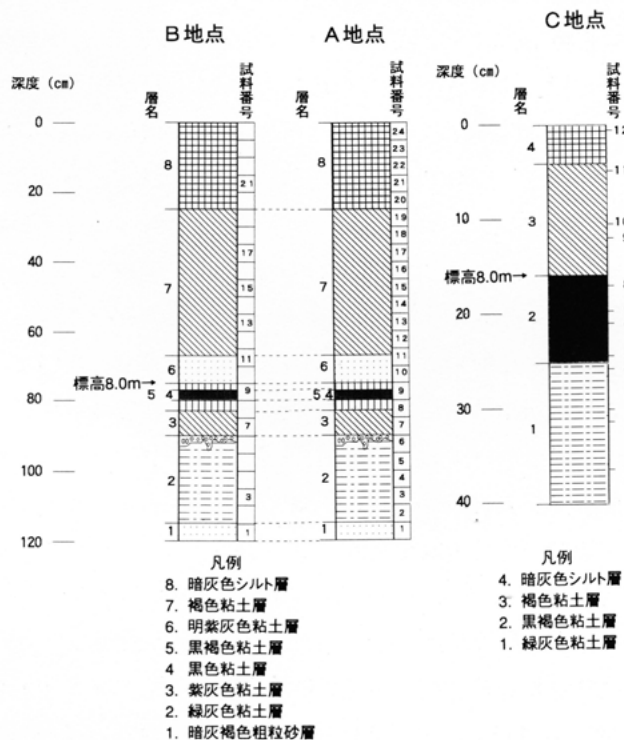
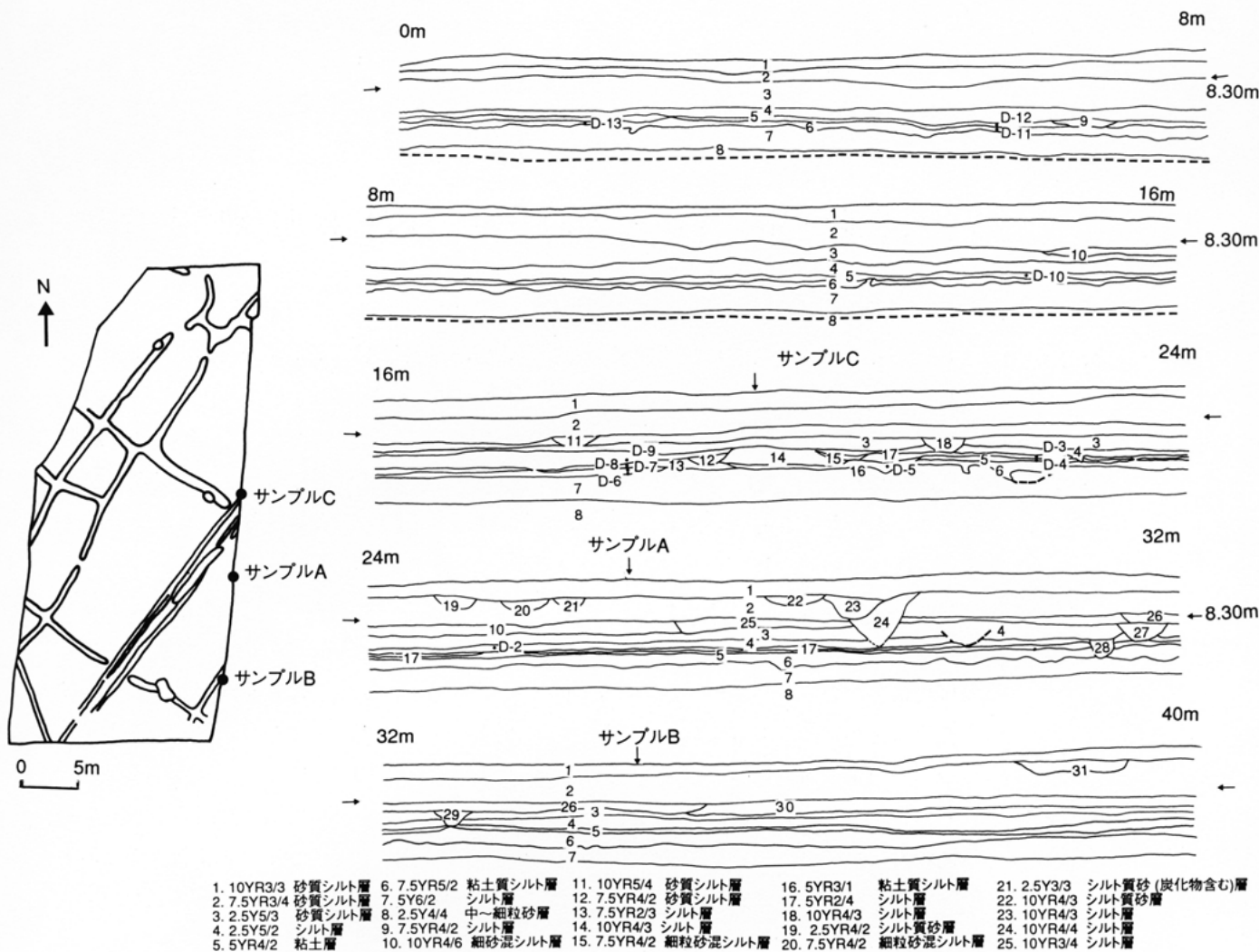
試料 今回の調査は93Ab区でおこなわれた。調査地点としてA～D地点が設定され、A～C地点では断面から垂直方向、D地点では古墳時代の水田耕土およびそれ以前の水田耕土から面的に試料が採取された（第103図）。採取試料のうち、分析を実施した試料数はA地点が24点、B地点が9点、C地点が12点、D地点が13点の合計58点である。

調査区内の層序は、発掘調査時の所見に基づいて記載する。A地点では現水田耕土の下位の堆積物は8層に区分されている。1層が暗灰褐色粗粒砂、2層が緑灰色粘土、3層が紫灰色粘土、4層が黒色粘土、5層が黒褐色粘土、6層が明紫灰色粘土、7層が褐色粘土、8層が暗灰色シルトからなる。このうち6層と7層の間には多少の時間間隙が存在すると考えられている。また、7層の層相は水平的に変化しており、場所によってその上部が腐植化している。また、各堆積物の時代性は、遺物の出土状況から1～5層が古墳時代前期以前、6層が古墳時代前期、7層が中世、8層が中世以降と推定されている。このうち5層上面と6層上面からは水田遺構が確認されており、その耕土は前者が4・5層、後者が6層と推定されている。

分析方法 遊離酸化鉄は酸性シュウ酸塩法（日本分析化学会、1991）、遊離酸化マンガンは酸性シュウ酸塩法とDCB法（日本分析化学会、1991）、有機炭素はチューリン法（土壌標準分析・測定法委員会、1986）、全リン酸は硝酸・過塩素酸分解-バナドモリブデン酸比色法（土壌養分測定法委員会、1981）、陽イオン交換容量（塩基置換容量）はショーレンベルガー法（土壌標準分析・測定法委員会、1986）でそれぞれおこなった。

試料の調整 試料を風乾後、磁製乳鉢で軽く粉碎し、2.00mmφのふるいを通過させた（風乾細土料）。その一部を細かく粉碎して0.5mmφのふるいを全通させ（微粉碎試料）、分析試料とした。分析試料中の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定した。

結果 結果は第17表に示す。また、各試料採取地点ごとに各項目の含量変化を把握するために第104～105図にA～D地点の垂直分布図または水平分布図を示した。



第103図 93Ab土壌科学分析試料採取地点および採取層準

- (1) A地点 遊離酸化鉄：最高値はA-24の0.59%、最低値はA-1の0.06%である。垂直変化の特徴として、全体的に上位層から下位層へ含量が減少する傾向にある。ただし、A-18・A-13では局所的に含量が若干高くなる。

遊離酸化マンガン：酸性シュウ酸塩可溶マンガン（Tamm-MnO₂）、DCB可溶マンガン（DCB-MnO₂）ともに最高値はA-18の109.31、182.85mg/100g、最低値は遊離酸化鉄と同じA-1の2.15、6.26mg/100gである。垂直変化の特徴として遊離酸化鉄と同様に上位層から下位層へ減少する傾向があるが、A-18とA-13では明瞭なマンガン集積が認められる。また、A-8・A-4においてもDCB可溶のマンガンは局所的に増加し、集積傾向が認められる。

有機炭素：最高値はA-23の0.96%、最低値はA-1の0.06%である。全体的に1%未満の低い含量を示す。垂直変化の特徴としてA-24・23・22で含量が高くなり、集積傾向が認められる。また、A-13～A-9でも含量が高く、とくにA-9では顕著な集積が認められる。

全リン酸：最高値はA-24の2.23mg/g、最低値はA-1の0.28mg/gである。垂直変化の特徴はA-24・23・22で高く、それ以深の下位層では徐々に減少する傾向が認められる。その中でA-13・A-3については増加傾向が認められる。

陽イオン交換容量：最高値はA-9の20.2me/100g、最低値はA-1の2.8me/100gである。垂直変化はA-24～A-14では8～9me/100g前後の比較的近似した値を示し、A-13～A-9では局所的な増加が認められる。

- (2) B地点 遊離酸化鉄：最高値はB-21の0.41%、最低値はB-1の0.05%である。土壌全体に上位層から下位層へ含量が減少し、サンプルA地点と同様な傾向が認められる。特徴的な垂直変化としてB-11で増加の傾向が認められる。これはサンプルA地点より増加位置が下位である。

遊離酸化マンガン：酸性シュウ酸塩可溶マンガンでは最高値がB-17の33.07mg/100g、最低値はB-1の0.50mg/100gである。一方、DCB可溶マンガンでは最高値がB-11の63.37mg/100g、最低値はB-1の2.77mg/100gである。垂直変化は遊離酸化鉄同様に上位層から下位層へ減少する傾向にある。しかし、B-11に明瞭な集積が認められる。これは遊離酸化鉄の集積層位と全く同じであるが、サンプルA地点の集積層位より下位である。

有機炭素：最高値はB-9の1.06%、最低値はB-1の0.16%である。全体的に低い含量であるが、垂直変化の特徴としてB-9に明瞭な集積が認められる。これはサンプルA地点と全く同じ層位である。

全リン酸：最高値はB-21の1.56mg/g、最低値はB-1の0.33mg/gである。垂直的变化の特徴として上位層から下位層へ減少する傾向があり、特にB-11を境に急激に含量が低下する。

陽イオン交換容量：最高値はB-9の20.7me/100g、最低値はB-1の1.8me/100gである。垂直変化の特徴として最高値を示すB-9で著しい増加が認められる。これはサンプルA地点と同じ傾向である。また、この層位では有機炭素量も相対的に高い。

遊離酸化鉄：最高値はC-12の0.62%、最低値はC-2の0.09%である。垂直変化の特徴として(3) C地点
は上位層から下位層へ徐々に減少する傾向にあるが、C-5で局所的に高くなり、集積傾向が認められる。

遊離酸化マンガン：酸性シュウ酸塩可溶マンガンの最高値はC-11の113.04、171.13mg/100g、最低値は酸性シュウ酸塩可溶マンガンのC-1の8.66mg/100g、DCB可溶マンガンのC-2の13.77mg/100gである。垂直変化の特徴として酸性シュウ酸塩可溶、DCB可溶ともにC-11・C-3でマンガン集積が認められる。また、DCB可溶マンガンはC-8・C-5においても局所的に高くなり、集積傾向が認められる。

有機炭素：最高値はC-7の0.62%、最低値はC-1の0.16%である。いずれも1%未満の低い含量を示し、C-4からはさらに0.5%未満の著しく低い含量になる。

全リン酸：最高値はC-12の1.57mg/g、最低値はC-4の0.46mg/gである。垂直変化は有機炭素と類似しており、C-4から激減する。

陽イオン交換容量：最高値はC-5の17.6me/100g、最低値はC-1の7.8me/100gである。垂直変化の特徴としてC-12～C-5までは徐々に増加する傾向にあるが、C-5を境に減少する。C-5に変局点があるのは遊離酸化鉄、遊離酸化マンガン、有機炭素、全リン酸ともに同じである。

遊離酸化鉄：最高値はD-5の0.88%、最低値はD-13の0.17%である。水平分布はD-2およびD-5～D-9で平均値より高い値を示し、特にD-5とD-9では平均値に対して約2倍程度(4) D地点
高い含量である。

遊離酸化マンガン：酸性シュウ酸塩可溶マンガンの最高値はD-5の44.12mg/100g、最低値はD-4の10.71mg/100g、平均値28.85mg/100gである。DCB可溶マンガンの最高値はD-5の98.73mg/100g、最低値はD-4の20.24mg/100g、平均値は53.72mg/100gである。最高値、最低値は両マンガともにD-5、D-4である。水平分布は酸性シュウ酸塩可溶マンガではD-2、D-5、D-12が40mg/100g以上の値を示し、平均値よりも著しく高い含量である。一方、DCB可溶マンガではD-5～D-9とD-11が平均値よりかなり高い含量である。

有機炭素：最高値はD-5の1.32%、最低値はD-4の0.34%、平均値0.77%である。水平分布ではやはりD-5が遊離酸化鉄・マンガ同様著しく高く、次いでD-6とD-9が高い含量である。

全リン酸：最高値はD-5の1.32mg/g、最低値はD-4の0.34mg/g、平均値は0.71mg/gである。水平分布ではD-5とD-9に特徴的な高い含量が認められる。

陽イオン交換容量：最高値はD-5の25.4me/100g、最低値はD-11の15.5me/100g、平均値は20.0me/100gである。水平分布ではD-5が特徴的に高く、その他にD-5～D-9で平均値より高い含量が認められる。

考察 各地点の土壤特性

- (1) A地点 本地点では、7層上部と下部（試料番号18・13）に明瞭な遊離酸化マンガンの集積が認められた。マンガンの集積は、表面水型水田（乾田）の下層土で特徴的に認められるものであり、その集積層位は酸化下層土に認められる。ここでの遊離酸化マンガンの集積も、そのような乾田耕作に由来するものである可能性が強い。また、岡山平野に位置する津島遺跡では、1断面に4組の集積セットが確認されており水田面が4枚存在したことが推定されている（松井、1970）。このことから、7層上部と下部の集積が別の時期の水田耕作に由来するものであることを示唆している。すなわち、作土層は7層上部の集積が7層最上部ないし8層、7層下部の集積が7層中部～上部の作土層において乾田型の水稲栽培がおこなわれていた可能性がある。

このような乾田型水田の下層土では、遊離酸化マンガンと同時に遊離酸化鉄の集積が認められる。一般的には、遊離酸化鉄の集積は遊離酸化マンガンの集積よりも上位に集積すると言われている。7層では、遊離酸化鉄は遊離酸化マンガンのような顕著な集積状況は確認されなかったが、遊離酸化マンガン集積とほぼ同じ層準に僅かな集積が認められた。このような集積状況は赤黄色土水田の状況に類似する（三土、1975）。赤黄色土では、遊離鉄は結晶化の進んだ形態のものが大部分を占めているため、湛水条件下におかれても還元可溶化されにくいと言われている。したがって、鉄の結晶度を分析しなければ確実なことは言えないが、顕著なマンガン集積からみて今回の土壤も赤黄色土のように結晶化の進んだ遊離鉄が大半であった可能性が高いと考えられる。

最上位の水田耕土と考えられている4層では、有機炭素の集積と陽イオン交換容量の高まりが認められた。有機炭素は土壤有機物（腐植）の量的把握の指標であり、有機炭素量の多い土壤は土壤有機物量も多い。土壤有機物は土壤に供給された植物遺体が分解し、腐植といわれる高分子化合物として再合成されたものである。その供給源が地表に生育していた植物であることから、腐植含量は地表の植生環境の指標となる。また、累積土壤では過去の地表の検出に用いることができる（竹迫、1990）。したがって、4層は、6層堆積以前に地表面であった可能性が高く、水田耕作土である発掘調査所見とも調和的である。また、陽イオン交換容量は土壤の養分保持能力（自然肥沃度の指標）をみるもので、この値が高いほど養分をより多く保持できる。したがって、有機炭素量の多い4層は養分保持能力も高く、耕作土としての自然肥沃度は高いと判断される。一方、全リン酸については特徴的な集積は認められず判然としない。

- (2) B地点 B地点では6～7層（試料番号11）にマンガン集積が一層準だけ認められた。A地点の集

積位置と少しずれる。これは、例え両地点が同じ土層断面であったとしても水田耕作による上位からのマンガン成分の溶解→移動→集積は、局所的な土壌環境（透水性や酸化還元の状態）で変化するため、集積位置が多少ずれるのは当然である。したがって、6～7層に認められた集積はA地点の7層下部に認められた集積と対応するものと考えられる。また、本地点はA地点のように連続的に試料を分析していないためA地点での7層上位の集積に対応するマンガン集積はないと結論することはできない4層では有機炭素量の集積、陽イオン交換容量の高まりが特徴的に認められA地点と同様なことが言える。全リン酸については特徴的な変化は認められない。

C地点では、A・B地点の2・3層に対応する3層上部で特徴的な遊離酸化マンガン集積が (3) C地点認められた。量的にはA地点の7層上位の遊離酸化マンガン集積量とほぼ同じ含量であった。この集積はA・B地点の5層上面で確認された水田に由来する集積である可能性があり、当時の水田が乾田であった可能性が考えられる。有機炭素量・陽イオン交換容量については、A・B地点のような特徴的な変化は認められず、有機物の多い4層の分布状況と合わせた解析が必要である。また、A地点2層下部に対応する1層中部にも量的に少ないが、特徴的な集積が認められた。この集積については、A・B地点では認められておらず、普遍的な傾向として捉えて良いかは判断がつかない。

古墳時代前期とそれ以前の時期の水田耕土における土壌化学性では、C地点の南へ1.5 m (4) D地点の試料D-5がいずれの含量においても高い値を示した。また、C地点の北へ1 mのD-9もD-5に次いで全体的に高い値を示し、比較的肥沃度の高い土壌と考えられる。一方、C地点の南へ1 mの試料D-4では各項目ともに最も低い値を示した。全体的には理化学性のばらつきが大きく、統一的な水平面の傾向はないが、陽イオン交換容量だけはいずれの試料も15me/100g以上の値を示し、現在の耕地土壌の判定基準からは適正な範囲にある（鬼鞍1985）。すなわち、耕作土として自然肥沃度の比較的高い土壌が面的に存在していたことが考えられる。

各地点の情報からみた調査区内の水田について

まとめ

古墳時代前期の水田耕土を中心に垂直方向、および水平方向に調査を実施した結果、上記したような各地点の傾向が捉えられた。各地点の傾向を整理すると、次のようなことが推定される。

古墳時代前期および古墳時代前期以前の水田耕土の下位層準では、複数の地点（C地点3層上部、D地点試料番号D-5・D-9）において、遊離酸化マンガンの集積が認められた。このことから、当時の水田の形態は表面水型水田（乾田）であった可能性が強い。また、古墳時代前期以前の水田耕土は腐植の集積が認められたことから、水田の養分保持能力も高く、耕作土層として自然肥沃度が高かったことが推定される。

古墳時代前期の水田耕土の上位でも、中世の遺物包含層の上部と下部の2層準において明瞭な遊離酸化マンガンの集積が認められた。この集積も表面水型水田（乾田）の耕作に由来するものであった可能性が強く、集積層準から中世包含層最上部ないしその上位の層と、中世包含層中部～上部の層準が耕作土であった可能性が推定された。以上のように、今回の調査では古墳時代前期およびそれ以前の水田の形態や様態を検討する上で示唆的な情報が得られた。

参考文献

土壤標準分析・測定法委員会編、1986、土壤標準分析・測定法、博友社、354 p.

松井 健、1970、岡山県津島遺跡における弥生時代の灌漑水利用水田の存在について、考古学研究、16、(4)、61-68.

三土正則、1975、静岡県三方原の台地水田土壌、土肥誌、46、333-339.

日本分析化学会編、1991、土壌の無機成分、分析化学便覧、丸善、1426 p.

農林省農林水産技術会議事務局監修、1967、新版標準土色帖.

鬼鞍 豊、1985、日本土壌肥料学会監修『土壌・水質・農業資材の保全-法の制定とその技術対策-』、博友社、316 p.

ペドロジスト懇談会編、1984、野外土性の判定、土壌調査ハンドブック、博友社、156 p.

竹迫 紘、1990、土壌分析法、浅海重夫編『土壌地理学』、古今書院、302 p.

第17表 各地点の土壤理化学性分析結果

地点名	試料番号	酸性沈殿酸塩(Tamm)可溶 鉄(Fe2O3) マンガン(MnO2)		DCB可溶 マンガン(MnO2)	有機炭素 Org-C	全リン酸 P2O5	陽イオン 交換容量	土色	土性
		%	mg/100g	mg/100g	%	mg/g	me/100g		
A地点	A-24	0.59	37.07	77.35	0.86	2.23	8.9	2.5Y3/2.5黒褐～暗グレー褐	L
	23	0.57	35.63	49.60	0.96	2.15	9.1	2.5Y3/2.5黒褐～暗グレー褐	L
	22	0.54	33.17	42.72	0.88	2.16	8.9	2.5Y3/2.5黒褐～暗グレー褐	L
	21	0.53	46.38	56.29	0.54	1.56	8.3	2.5Y3/2.5黒褐～暗グレー褐	L
	20	0.39	48.01	78.16	0.43	1.23	8.7	2.5Y3/3グレー褐	L
	19	0.37	94.28	123.52	0.39	1.10	9.3	2.5Y3/3グレー褐	SiL
	18	0.44	109.31	182.85	0.38	1.15	9.3	2.5Y3/3グレー褐	SiL
	17	0.36	50.76	79.43	0.34	1.08	9.1	2.5Y4/3グレー褐	SiL
	16	0.36	42.32	72.55	0.31	1.04	8.3	10YR4/4褐	SiL
	15	0.23	25.85	69.77	0.24	0.99	7.0	10YR4/3にぶい黄褐	SiL
	14	0.33	28.71	58.52	0.28	1.08	8.0	10YR4/4褐	SiL
	13	0.37	47.67	117.44	0.47	1.24	13.4	10YR4/4褐	CL
	12	0.32	27.83	68.68	0.42	1.00	11.4	10YR4/3にぶい黄褐	CL
	11	0.32	14.58	56.50	0.48	1.02	13.8	2.5Y4/3グレー褐	HC
	10	0.21	11.18	35.21	0.41	0.59	13.4	2.5Y3/3暗グレー褐	HC
	9	0.18	9.59	27.39	0.68	0.34	20.2	10YR3/2黒褐	HC
	8	0.20	8.18	30.73	0.49	0.32	18.5	10YR4/3にぶい黄褐	HC
	7	0.15	5.11	26.66	0.37	0.34	15.5	2.5Y4.5/4黄褐～グレー褐	HC
	6	0.20	10.40	20.44	0.27	0.38	14.2	2.5Y5/3黄褐	HC
	5	0.15	6.91	14.74	0.22	0.34	11.5	2.5Y5/3黄褐	HC
B地点	B-21	0.41	26.76	39.52	0.52	1.56	8.9	2.5Y4/3グレー褐	CL
	17	0.33	33.07	57.30	0.34	1.12	8.5	2.5Y3/3暗グレー褐	SiL
	15	0.29	25.68	51.42	0.28	1.03	7.2	2.5Y4/3.5グレー褐	SiL
	13	0.33	22.04	56.00	0.26	1.10	8.7	2.5Y4/3.5グレー褐	CL
	11	0.36	13.79	63.37	0.40	1.18	10.8	2.5Y4/3.5グレー褐	CL
	9	0.17	7.19	16.56	1.06	0.36	20.7	10YR3/1黒褐	HC
	7	0.24	8.86	27.17	0.51	0.36	16.1	2.5Y3.5/3グレー褐	HC
	3	0.17	6.00	13.45	0.22	0.72	9.7	5Y5/2.5灰グレー	HC
	1	0.05	0.50	2.77	0.16	0.33	1.8	2.5Y4/2暗灰黄	S
C地点	C-12	0.62	18.39	24.91	0.50	1.57	7.2	2.5Y4/3.5グレー褐	CL
	11	0.43	113.04	171.13	0.42	1.19	10.8	10YR3.5/4褐～暗褐	CL
	10	0.41	44.13	92.01	0.46	1.15	10.4	10YR～2.5Y4/4褐	CL
	9	0.39	29.68	91.96	0.44	1.17	11.2	10YR4/4褐	CL
	8	0.49	39.66	105.71	0.57	1.46	14.2	10YR3/4暗褐	CL
	7	0.46	29.76	93.84	0.62	1.20	15.5	10YR3.5/4褐～暗褐	CL
	6	0.40	27.68	72.81	0.53	1.04	15.3	10YR3/3暗褐	CL
	5	0.56	17.77	72.97	0.54	0.99	17.6	10YR3.5/4褐～暗褐	CL
	4	0.27	9.94	20.64	0.34	0.36	12.7	2.5Y4/3グレー褐	HC
	3	0.24	27.96	55.15	0.25	0.52	13.4	2.5Y4/3グレー褐	HC
	2	0.09	9.77	13.77	0.18	0.46	10.8	5Y5/2.5灰グレー	HC
	1	0.17	8.66	18.76	0.16	0.75	7.8	2.5Y5/3.5黄褐	CL
D地点	D-1	0.21	13.43	33.04	0.88	0.42	20.2	10YR3/2黒褐	CL～HC
	2	0.55	42.47	27.74	0.74	0.45	18.0	10YR3.5/2灰黄褐～黒褐	CL～HC
	3	0.32	20.42	51.81	0.74	0.56	19.5	10YR3/2黒褐	CL～HC
	4	0.19	10.71	20.24	0.34	0.31	15.7	2.5Y4/3グレー褐	HC
	5	0.88	44.12	98.73	1.32	2.22	25.4	10YR2/3黒褐	L～CL
	6	0.44	30.51	66.25	1.08	0.58	24.0	10YR2/2黒褐	L
	7	0.56	30.11	65.37	0.61	0.81	21.5	10YR3/2黒褐	CL
	8	0.52	28.02	63.32	0.75	0.85	22.0	10YR3/2黒褐	L～CL
	9	0.77	26.21	63.85	1.09	1.59	22.2	10YR3/2黒褐	L～CL
	10	0.29	26.55	37.40	0.77	0.40	20.0	10YR3/2黒褐	HC
	11	0.37	35.26	70.71	0.46	0.36	15.5	10YR3.5/4褐～暗褐	CL～HC
	12	0.37	40.73	55.58	0.57	0.38	17.6	10YR3/3暗褐	CL～HC
	13	0.17	26.49	44.35	0.60	0.32	17.6	10YR3.5/3にぶい黄褐～暗	CL～HC

注. (1)分析値は乾度あたり。

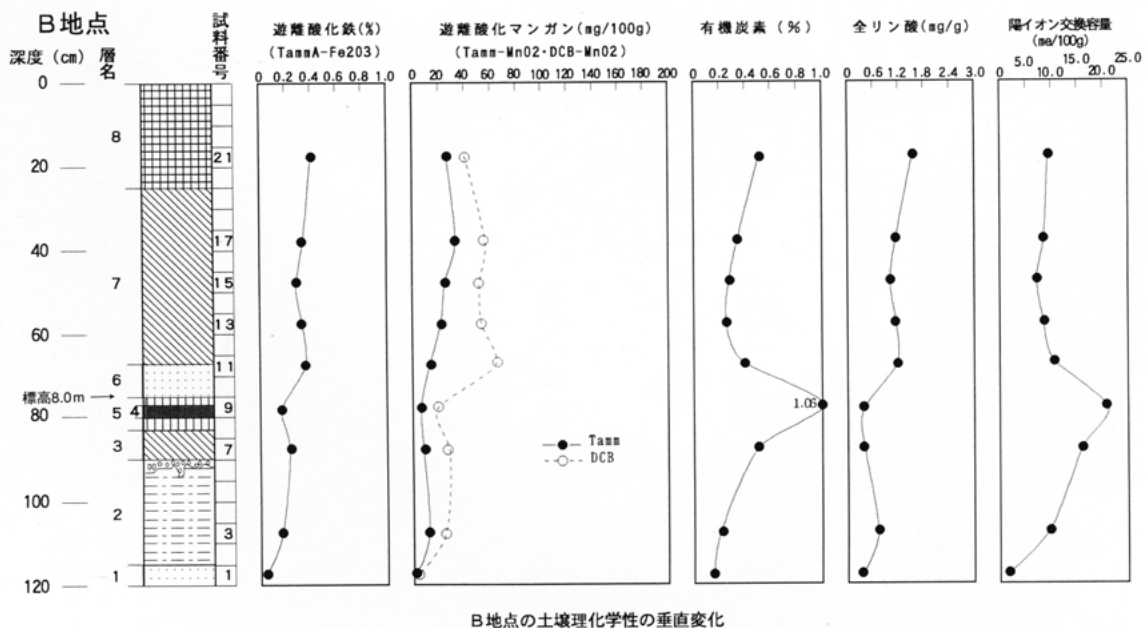
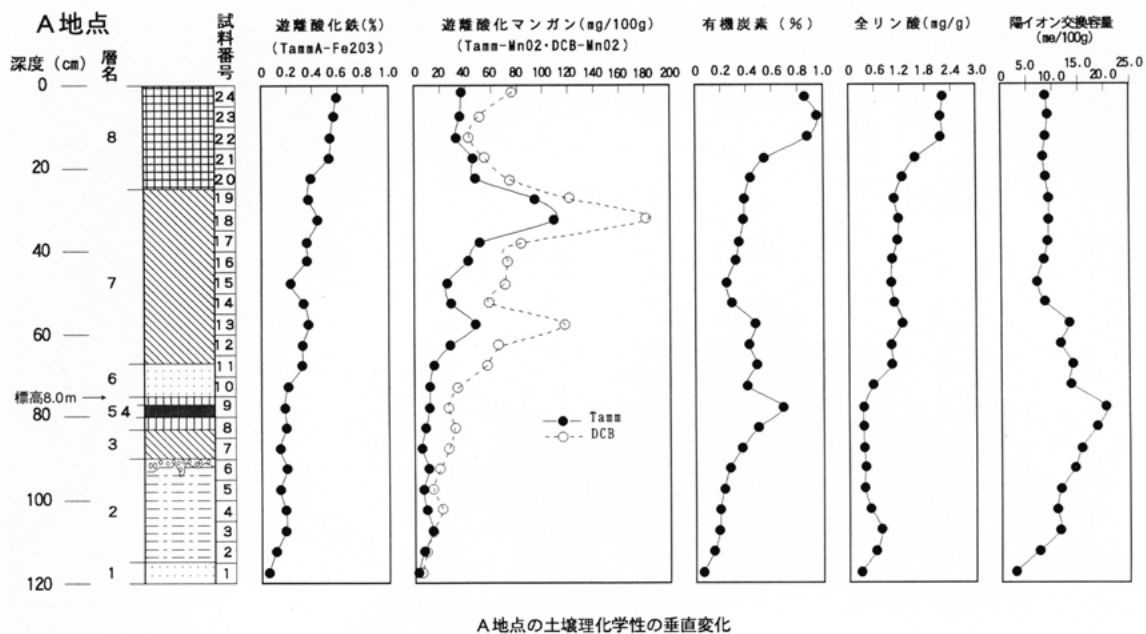
(2)土 色: マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省水産技術会議監修,1967)による

(3)土 性: 土壤調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会誌,1984)の野外土性の判定法による。

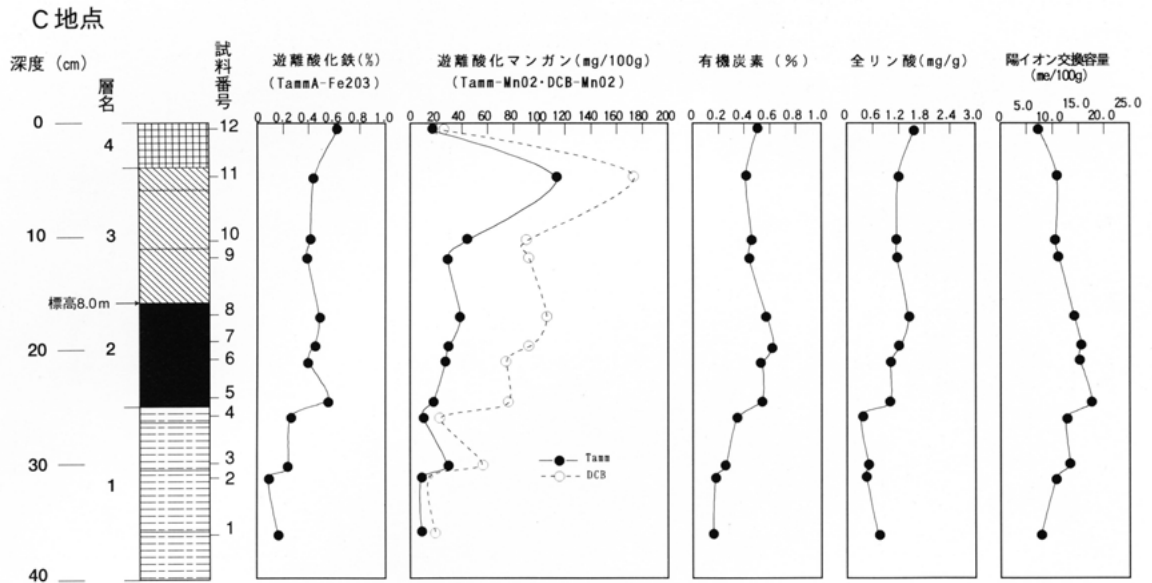
S:砂土(ほとんど砂ばかりで、ねばり気を全く感じない。)、L:壤土(砂と粘土を半々に感じる)、

SiL:シルト質壤土(砂はあまり感じないが、サラサラした小麦粉のような感触がある)、

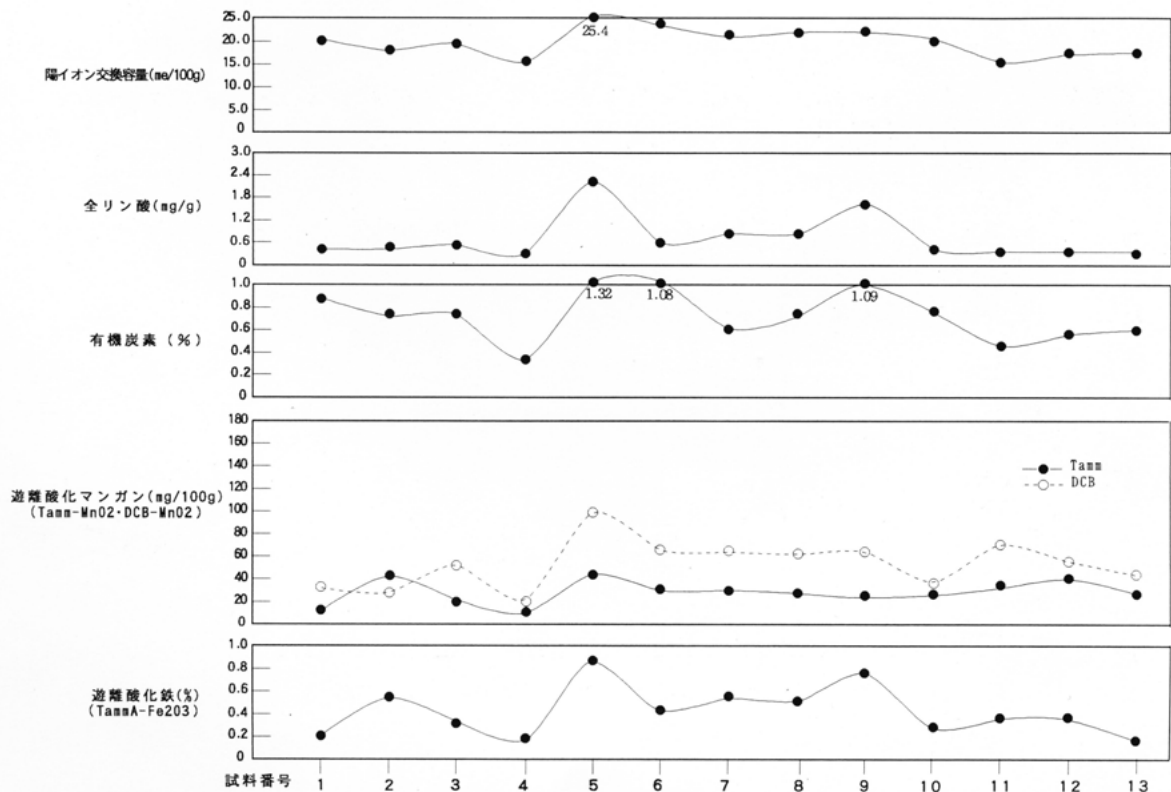
CL:埴壤土(砂よりも土を多く感じる)、HC:重埴土(ほとんど砂を感じないで、よく粘る)



第104図 93Ab各地点の土壤理化学性分析結果 (1)



大毛池田93AbC地点の土壌理化学性の垂直変化



D地点の土壌理化学性の水平分布図

第105図 93Ab各地点の土壌理化学性分析結果 (2)

VII まとめにかえて

検出された遺構の変遷をもとに古墳時代、古代、中世～戦国期の各時期の大毛池田遺跡についてまとめておきたい。特に中世期については、調査により確認された屋敷地区画が在地支配者の居住した中心地であった可能性もあり、この地の支配層の規模、動向を伝えるものとして注目される。文献によれば、遺跡の立地する周辺は中世以降「上門真庄」および「松枝庄」とされる地域にあたり、また、東海道・東山道の連絡道として重要な役割を果たすようになる美濃街道がこの地を通過する。このような文献資料にみられる中世期の歴史との関係についても若干の検討を行いたい。

(1) 古墳時代 大毛池田遺跡における水田開発

大毛池田遺跡で確認された第5層；黒色粘質土層の堆積の時期がいつまで遡れるかは未だ判然としないが、この地で水田が構築され始めたのは出土遺物より廻間Ⅰ式の時期に求められる。また、出土遺物が時期的なまとまりをみせるのは廻間Ⅲ式からであり、埋没の時期、すなわち松河戸Ⅱ式にいたるおよそ1世紀の間の水田耕作地帯の景観が想定される。第5層で検出された水田畦畔の痕跡（疑似畦畔B）から第4層上位で検出された埋没水田に至るまで、果たして幾度の耕作が繰り返され、またどの程度の耕作規模であったかは全く不明である。が、少なくとも堆積層序からは大きな断絶は認められない。上下水田層検出面の中間層では、水田面や畦畔が検出されなかったことなど、数次の洪水の影響を受けた後も「復旧」または「再開発」によって畦畔・水路などの機能を回復し、継続して水田耕作を行っていたことが推定される。調査で明らかになったのは、第5層水田の広大な広がりであり、これは本遺跡の範囲での開発が開始された比較的早い段階において、推定される最大規模の面積の水田化が行われ、なおかつ水路等による水利系統がほぼ完成していることを示している。第5層水田の基本的な構成は、水田一筆の大きさが8～11m²の比較的小さな小区画と、これらを囲む幅80cm規模の大畦、および水路を伴う畝畝によってつくられる大区画から成り、きわめて規格性、計画性に富んだものといえよう。包含層、および95AbSD206出土遺物の分析から、廻間Ⅲ式を中心とした3世紀～4世紀初めにこの地の開発におけるひとつのピークがあったと推測される。一方、埋没前の水田景観を示す第4層水田域の範囲は、第5層水田には及ばず、また水田畦畔と水路のいずれも新たな設計により構築されたものである。出土遺物の年代観より、松河戸Ⅰ式を中心とした4世紀後半の時期が比定される。今回の調査ではこの間に生じた水田形態、開発規模の差異がどのような条件によるものか明らかにできなかったが、総合的な土木農耕技術の変化といった技術的な側面のほか、開発の主体となる周辺集落の動向も含めて今後解釈されることを期待したい。

さて、今回の調査では第4層水田の埋没した時期を明確に示す貴重な資料を得た。洪水

性の堆積、砂層にバックされた松河戸Ⅱ式の後半段階のまとまりをもつ一群は、今後一括性の高い基準資料として扱われるものとなろう。

古代の開発行為・大溝の掘削

遺構群は、特徴ある溝群の掘削時期をもとに大きく2つに分けられる。7世紀代を中心とする古代Ⅰ期、8世紀～9世紀を中心とする古代Ⅱ・Ⅲ期と区分した時期である。

調査域西辺で円墳が築かれた7世紀中葉には、周辺に集落が存在したと思われる。この時期、北東から南西に向かう旧流路（95BNR201）が最も西寄りを流れており、大きな集落の中心は調査区外のさらに西北方に位置するものと考えられる。大毛沖遺跡では7世紀後半代、この旧流路左岸よりはるか東に散発的に堅穴住居跡が検出される。溝A、Bおよび溝C、Dはいずれもこの旧流路に規制されたものと考えられるが、きわめて人工的な形態をとる溝A、Bについては、旧流路の影響のほか、右岸域に小規模な単位で存在したと思われる居住域・生活域に関わるなんらかの必要性から設定されたものと考えてみたい。幅6～8mを測る溝C、Dは、その後大毛沖遺跡側に流路をジャンプさせていく河道に対してほぼ並行に設定される。出土遺物からは溝C、D両者の時期差は抽出できない。掘削の際の大量の廃土の処理方法などが不明な点が残るものの、現段階では同時期に併存していた可能性は否定できない。

古代Ⅱ期、8世紀に入ると特徴的な溝E、Fが溝C、Dのさらに西側の位置に掘削される。この時期の旧流路は大毛池田遺跡東方に位置する大毛沖遺跡で確実にとらえられており、溝Eは大毛沖遺跡旧流路（NR01）右岸よりおよそ200mの距離にあたる。溝E、Fの掘削時期については、出土遺物の年代観から時期差を判別することはできない。これも2条の溝が同時併存した可能性について否定できない。古代Ⅲ期にあたる溝E、F（上層）併行～廃絶期には、溝群西側に限って居住域が出現する。旧流路の東方への移動により、漸く安定した土地が確保できるようになったためとも考えられる。大毛沖遺跡ではⅢ期に至り旧流路右岸（94I）で堅穴住居跡を含む遺構数が増加する。また、8世紀後半代には低水位護岸施設が設置されている。

その他に溝Eの掘削に若干先行して数棟単位の堅穴住居（95F、94M）が存在した。大毛沖遺跡旧流路右岸域に展開した遺構群の広がりにも属するものと思われる。

さて、特に大毛池田遺跡で検出された溝C、D、E、Fは幅5m、深さ1.5mをこえる規模をもち、検出された範囲は最も長いものでは200mに及ぶ。さらに南西に隣接する門間沼遺跡調査範囲へも連続してのびていることが確認されている。溝の開削はおそらく周辺及び下流域の集落の広域的な利益に結びつくものであったであろう。文献によれば769（神武景雲3）年に鵜沼川大洪水の記録があり、当時の木曾川（現境川）の氾濫により葉栗・中島・海部郡に甚大な被害を及ぼした、とある。これら「大溝」の機能についてはなお不明である

（2）古代

古代Ⅰ期

古代Ⅱ、Ⅲ期

が、集落周辺を流れる木曽川水系の支流、すなわち大毛池田・大毛沖遺跡で検出された旧流路に対する水防施設としての役割、あるいは物資の運搬など水上交通路としての機能が想定されよう。

さて「大溝」から大量に出土した須恵器の産地別の傾向では、猿投・美濃須衛産の製品が競合する。なかでも8世紀前半を中心とする時期（溝E、F下層資料）に限り特徴的に美濃須衛窯産が圧倒している。具体的な分析数値として示すことが出来なかったが、尾張の北西端に位置する本遺跡での出土状況は、単なる消費遺跡であるばかりでなく、物資集散の中間地点の一形態として抽出されるものかもしれない。

(3) 中世 ～戦国期

中世Ⅰ期～Ⅱ期

大毛池田遺跡における中世居住域の変遷

大毛池田遺跡の中世時期の遺構の展開は、11世紀後半よりはじまる。人工の池（94FSG01）、水路（93AaSD01・94FSD01）の掘削と時期を同じくして居住域が散漫ながらも形成されることは、この地の本格的な開発が開始されたことを物語っている。その後12世紀代には井戸・溝も検出数を増し集落規模の拡大が窺われる。

中世Ⅱ期 井戸・区画溝などの遺構が集中する調査範囲東辺では、16世紀初めまで継続して遺構が展開する。この範囲は中小規模の在地領主層が居住した一角と思われ、その意味で集落の中心部分に相当するといえる。まず居住空間の周囲に溝を方形にめぐらす屋敷地（区画1・2）が発生する（中世Ⅱa期）。このような形態は中世Ⅰ期では不明瞭であった。区画1・2は一辺の規模は25～30mであり、西辺を基本軸とすると真北に近い南北ラインに規制される遺構は他に確認されていない。

一方、開発当初に掘削された池（94ESG01）はほぼ機能を失っていたと思われるが、新たな設計のもと調査域を南北に縦断する水路（溝A）が掘削される。溝Aは現在の市町境の水路東側に並行してのびることが確認されているが、東西に流れていた木曽川水系の支流、当時の黒田川と調査区北方でおそらく接していたと考えられる。溝Aは以後中世Ⅲ期末にいたるまで周辺の遺構群の方向性を規制している。また周辺の遺構の分布からこれに沿う南北方向の道が想定される。そしてこの溝Aの位置を基本軸として屋敷地区画3・4が設定される（中世Ⅱb期）。区画の位置・規模などは基本的に区画1・2と同様であり、区画1・2の廃棄から期間を置かず建て替えられたと考えられる。

中世Ⅲ期 14世紀代には溝Aと区画3・4との間に新たに区画5（94N・95F）が設定される。区画5は溝Aを基本軸としており、溝Aの西側では区画7が設定される。そして15世紀に入ると大きな変化として、一町四方規模の居館区画（区画6）が構築される。これもまた溝Aを基本軸としながら区画5の東に対面する。屋敷地区画内部の様相について建物跡など施設を復元するには至らなかったが、ピットの集中域は北側（94M）にあり、漆器椀など木製遺物、土師器皿は区画南辺周囲（94J）に多く分布する。以上より建物群は北側に集中して配置され、南辺にも消費活動の中心部分が想定できる。区画5と対面する西辺区画溝では一部が浅くなっており、通路が設定されていた可能性がある。これら南辺区画外大毛沖遺跡にむかっ

ての範囲は、近世水田耕作・昭和初期の整地により多くは削平を受けているが、その下で井戸跡などは検出されず、遺構は希薄であったとみられる。当時より居館に隣接する水田など耕作地であったとも考えられる。

区画6を構成する溝西辺は土器編年では大窯Ⅰ期、16世紀初めには埋没している。居館 中世Ⅳ期は一気に規模を縮小し、小規模の区画溝が区画6と重複する位置に設定される。区画6の北西角に掘削された池状の土坑(94AbSX01)から検出された卒塔婆には「天文八年」

(1538)と記され、陶器の編年観では土坑共伴遺物はもとより、遺構群全体でも最も新しい年代を示すものである。共伴する土坑出土遺物には大窯期まで年代のくだる資料は検出されず、区画6の溝出土資料も含めたカウントでは、常滑産の大型品、壺・甕類、陶器壺・瓶類の占める割合が土坑周辺で特に高いという結果が得られた。居館内部景観の具体的な復元は困難であるが、敷地内に設けられたなんらかの宗教施設(屋敷墓、持仏堂など)の痕跡を示すものと考えたい。このように居館が存在していたかつての中心部が急激に衰退するのに対し、調査域西部にかけて中世Ⅳ期になって活発化する地域が存在する。幅30cm前後の数条の溝がおそらく2条単位でセットとなる道路側溝跡とその周辺である。推定される道幅は2m程度であり両側に溝、井戸、建物跡などが展開する。溝Aに沿うルートを通る南北方向の道を仮定するならば、これに代わる東西の新たなルートとみることができる。

清洲城下町遺跡、岩倉城遺跡の調査では、少なくとも尾張地域における中世集落再編の一つの画期が大窯Ⅰ期にあり大毛池田遺跡では遺構群が終息していく時期にあたる。大毛池田遺跡では、具体的な事象として居館を含む中心的な屋敷地区画の消滅と中世Ⅳ期にみられる道の成立とが連動する動きとしてとらえられた。すなわち、遺跡西側に位置する美濃街道の整備と宿場町(黒田集落)の発展が影響したものと予想されるのである。

以上のような大毛池田遺跡における中世屋敷地変遷の背景として、①遺跡の位置 ②遺跡周辺の開発 ③黒田宿の発展という視点から遺跡周辺の歴史について文献資料を含めて考察を行いたい。

遺跡周辺には、松枝庄、上門真庄、黒田庄の存在が知られる。各々の庄域は明らかでないが、資料1*によれば、松枝庄の四至は、東は上門真庄、西は玉井庄、南は中島郡、北は黒田川に限られる。大毛池田遺跡の中心から北西約300mにある野府川のすぐ南に白山神社があり、そのやや西には現在も「松枝」の小字が残る。松枝庄は割田庄と呼ばれることもあり、また松枝庄割田郷という記述もあることから割田という地名を庄域内にもっていたようである。「割田」の地名は遺跡西方3~4kmの範囲に現在も字内割田・外割田として存在する。外割田の西は字玉井であり、その南は旧中島郡であった。字黒田の中央を東西に野府川が流れているが、これは木曽川堤が築かれる前は流量も川幅も大きい黒田川であったといわれている。遺跡の中心から南東250mの所には伊富利部神社があるが、ここより以南が上門真庄の「カドマ」を字名にする地である。以上から、松枝庄の庄域は、現 庄域

在の字黒田のうち南半分、および内割田、外割田ぐらいの広がりであったと思われる。そして、調査した遺跡の位置は松枝庄と上門真庄の両庄の境付近にと想定される。

調査で確認された溝Aは現在の葉栗郡木曾川町と一宮市の境界に沿っているが、位置的にも松枝庄と上門真庄の境界であった可能性が考えられる。両庄域が確定した時期に掘または別の形態でこの位置に境界が存在していたのではないだろうか。

大毛集落の成立

遺跡は一宮市大毛、木曾川町黒田にかけて所在するが、「大毛」が文献に登場するのは嘉定四（1238）年である。資料₂*によれば尾塞氏の「尾張国五代相伝の本領」10ヶ所のうちのひとつとして挙げられている。10ヶ所すべてが現地比定できているわけではないが、尾塞・泉・松竹・託美・大毛の4ヶ所が旧葉栗郡の東部地域から丹羽郡の一部地域であるから、尾塞氏の勢力範囲はおそらくそれから大きく出るものではないであろう。これらの地を「五代相伝」していることから12世紀初めには、開発・伝領によって手に入れたものと考えられる。ただし、尾塞氏の名字の地であり支配の中心であった一宮市尾関は遺跡北東に位置しており、近世大毛村の大毛と西大毛の2つの郷のうち、大毛は遺跡の東方1.5kmにあたる。大毛池田遺跡で遺構数が増加する鎌倉時代前半において、近世の村落規模の土地一円が支配されたとは思われないため実際の所領の支配は本遺跡まで及んでいなかったと考えられる。

上門真・松枝庄の開発

上門真庄の初見は、資料₃*による建久二（1191）年である。12世紀末には寺領荘園としての上門真庄の成立が確認される。松枝庄は資料₄*によれば建久一（1190）年4.19条にみられ、同書建久三（1192）年12.14条と併せて考えれば、これ以前は平家の所領であったこと、「松枝保」と記されることから国衙領であったことがわかる。これらは荘園の成立時期を示すものであり、少なくとも両庄の地の開発はその年代以前に遡るものと考えられる。

大毛池田遺跡では中世0～I期の動きとして、平安時代末期にまず池（94ESG01）の掘削があった。遺跡周辺の耕作および居住地の開発の初段階として池の掘削が想定される。

鎌倉時代の 上門真・松枝庄

上門間庄の属する長講堂領は以下のように伝領されていく。後白川法皇は娘宣陽門院に長講堂領を渡した。これに注目した後鳥羽上皇は息子六条宮を宣陽門院の猶子として長講堂領を相続させた。承久三（1221）年後鳥羽上皇が承久の乱に破れると、長講堂領は一旦没収され、宣陽門院に返還された。その後後深草天皇に伝領され、以後持明院統の中心領となる。領家職については、資料₅*によれば正中二（1325）年、公用のため5年に限り延暦寺に与えられていた上門真庄本加納分の半分について慈光寺仲経が返還を求め、かなえられたと記録されているが、少なくとも14世紀初めには宇多源氏の慈光寺家が有していたことになる。

松枝庄の方は前述のように平家没官領であるが、それ以後の領家職は以下のように移動した。まず建久三（1192）年、源頼朝の妹一条能保室が死去すると、その娘全子を通じて夫である西園寺公経に渡る。西園寺公経は、承久二（1220）年に白川伯家の北山の地を交換し、これ以降松枝庄は白川伯家を領家とした。

上門真庄の本家職は持明院統であり、北朝より皇室領として続く。領家職は応永二八（1421）年慈光寺家から召し上げられそうになるが安堵され、永享七、八（1435～36）年ごろまでは保持していたことが確認できる。資料*によれば応永十四（1407）年時点で慈光寺家以外に日野町家が長講堂供僧方分として領家職を有していたようである。資料*では永和一（1375）年六角高経が儀俄五郎の上門真庄本加納以下の安堵をしているが、これ以前に六角氏が上門真庄の地頭職を有していたと思われる。

南北朝・室町時代の
上門真・松枝庄

松枝庄は永徳二（1382）年白川伯家が大徳寺如意庵に寄進する。観応三（1352）年、近江・美濃・尾張に半済令が実施されているが、禅院の寺領にはこの半済が適用されないためかと思われる。如意庵は永徳二年からはじめて応永七（1400）年までこの時期次々に変わる尾張守護に武士の干渉を止めさせる書状を求めた。白川伯家は如意庵より年貢の一部を受け取っていたが、応永十四（1407）年この地を如意庵に売り渡し、以降如意庵がこの庄の権利すべてを有するようになる。また、如意庵が庄内の一円支配のため名主職を買得たことがわかっている。

上門真庄の本家職・地頭職が応仁の乱以降も続いたかどうかは不明である。六角氏の知行については、長享一（1487）年足利義尚による六角征伐が行われ、同年京都臨川寺は二階堂氏に与えられた押立保の代りに上門真庄を得る。ただし、近江では旧領主に返却された六角氏領ですら国人領主の反発により支配が困難であったとされ、元来係りのなかった臨川寺が上門真庄を支配するのは不可能であったと思われる。一方、大毛の東隣りの集落、島村を戦国期に支配していたのは兼松氏であり系図より想定すれば、15世紀後半頃に越前国から移住してきたようである。黒田にも15世紀末には五藤氏が相模国から移住し、六角氏は弱体化し、15世紀末から16世紀には支配が及ばなくなったのではないだろうか。

戦国時代の
上門真・松枝庄

松枝庄に関する記述は、文明十六（1484）年の足利義政御教書を最後に消えてしまう。御教書に対する遵行状もなく、如意庵の支配方式から考えて以降の支配は不可能になったであろう。

居館大区画の北西300mほどのところに白山社がある。その西50mのところには神明宮があり、江戸時代の村絵図ではその間に何も描かれていない。ただし、白山社所蔵の「絵図面葉栗郡上門間庄黒田村」では、両社の南やや神明宮より宝光寺本屋敷と書かれている。宝光寺は現在野府川の南で内割田との境付近にあるが、かつてはこの辺りにあったのであろう。白山社南西には今でも寺屋敷の地名が残っている。また15世紀後半、万里集九がこの地を訪れ『梅花無尽蔵』で「宝光寺は白山社の前にあり、白山社が鎮守である」と述べている。さらに白山社の社伝によれば、白山社と宝光寺が浮野合戦（1558年）で付近の民家とともに消失したとある。宝光寺の創建年代は不明であるが、近辺の禅宗寺院の建立年代から15世紀初めには存在したであろう。神明宮の東の小字は松枝である。以上からこの松枝付近に白山社、宝光寺そしてそれらを中心とする集落が中世後期から戦国時代にかけて存在したと思われる。

中世後期～戦国時代の
遺跡周辺の様相

黒田宿は黒田川を境に北宿と南宿に分かれる。北宿の主要な寺社は箆守社・熊野権現・剣光寺・法蓮寺である。箆守社は応永十四（1408）年の「斯波義将祈願状」をもち移転の伝承もないことから、中世後期には現在の位置にあったと思われる。熊野権現は箆守社の末社であり、箆守社の御駕箆祭の御旅所となる。剣光寺はかつて300mほど北「てらへんち」と呼ばれる地にあったが、嘉慶二（1388）年の黒田合戦で焼亡し衰退する。応永五（1398）年の再興の折りに現在地に移った。法蓮寺は明応二（1493）年に黒田宿に來た日妙の開基である。黒田北の集落も中世後期から戦国時代にはこれらの寺社の周辺にあったであろう。

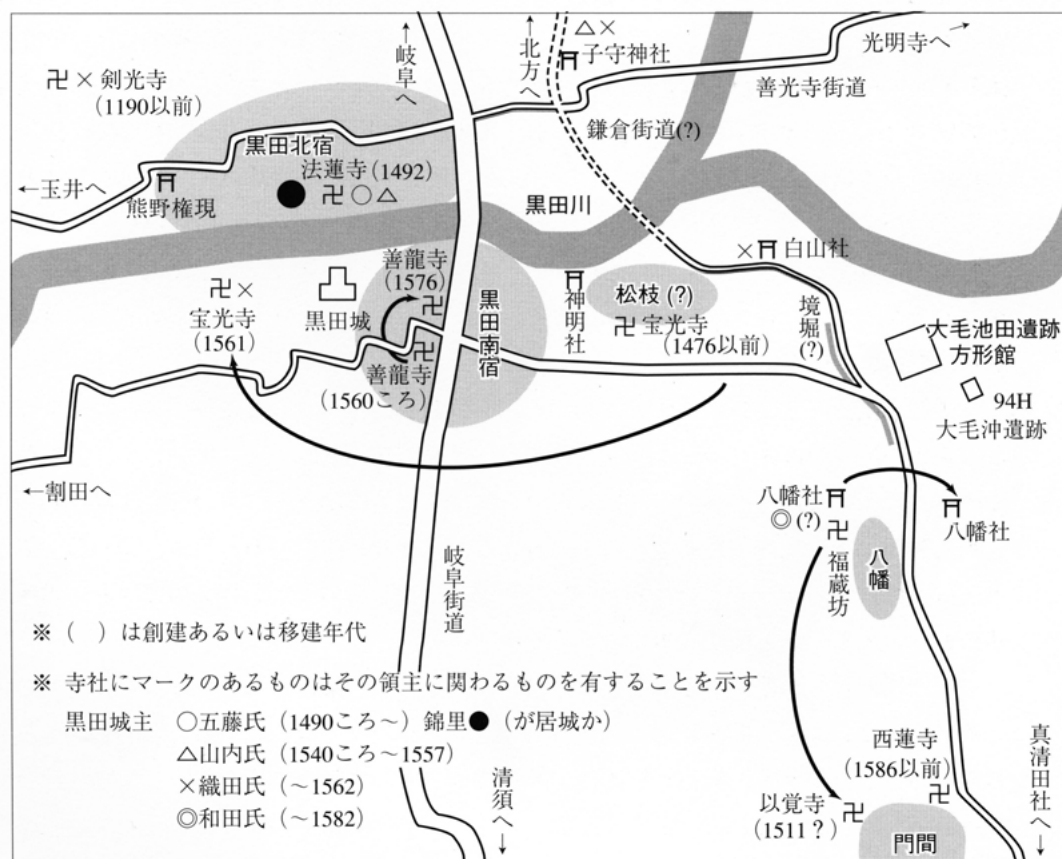
南宿には江戸時代初期宝光寺・西蓮寺・善龍寺の3つの寺院があった。宝光寺は既述のように白山社の南西にあったが、浮野合戦で焼失し永禄四（1561）年に建立された。その後寛永十八（1641）年に立宝が住職となり改めて寺院として整備された。善龍寺は寺伝によれば現在地より半町ほど南西にあったものを天正四（1576）年に移したようである。織田信長の難を避けるために美濃にあったものを黒田に移したとあり、永禄十（1567）年信長の岐阜入城の前後に現在地の南西に移ってきたのであろうか。なお、中世前期に善光寺が善龍寺の現在地付近にあったとの伝承がある。その伝承によれば、善光寺は嘉慶二（1388）年の黒田合戦で焼失したが、文明三（1471）年善龍寺の住職によって再興され、永禄十（1567）年以前に清洲に移されたとのことである。善龍寺の寺伝にあいまいな部分はあるが、以上から現在の南宿周辺には中世後期に寺社がなかったようである。南宿の広がり寺院の成立から想像するに、黒田城の城下町の成立および岐阜街道の整備と絡みながら、南宿、寺院が配置されていったようである。

八幡社は弘治二（1556）年現在地に移る以前は北西一町ほどのところにあったようである。神社の隣りには神宮寺として福蔵坊があった。八幡社は康正一（1455）年兵火を受けて焼失したが、文亀二（1502）年には再興された。福蔵坊は正長一（1428）年銘の鰐口に「伊富利部神社御宝前」とあり、このころには八幡社の神宮寺であったようである。以下寺伝は曖昧であるが、元々天台宗であったものが浄土真宗に改宗し以覚寺となり、門間集落に移ったとある。その間の年代は不明である。

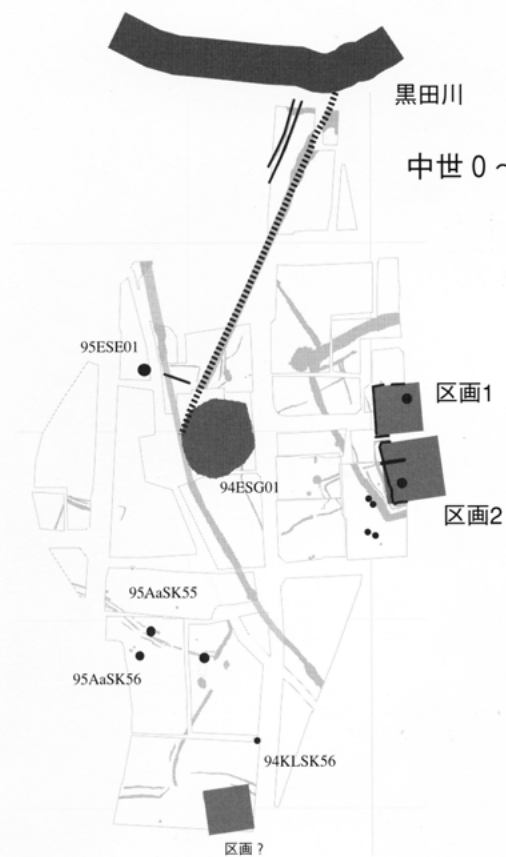
中世後期から戦国期にかけて存在した寺社の位置から、集落とそれらをつなぐ主要な道を想定すると、まず門間から八幡を通り松枝（？）を抜けて黒田北、さらに玉井へと続くものがあり、やはり大毛池田遺跡中世末の様相は、このような街道の発達、宿場町の発展の中でとらえられるものといえよう。岐阜街道へ主要な道が推移したのに伴って、集落内から黒田南宿を直接結ぶルートが形成されたものと思われる。

註・参考文献

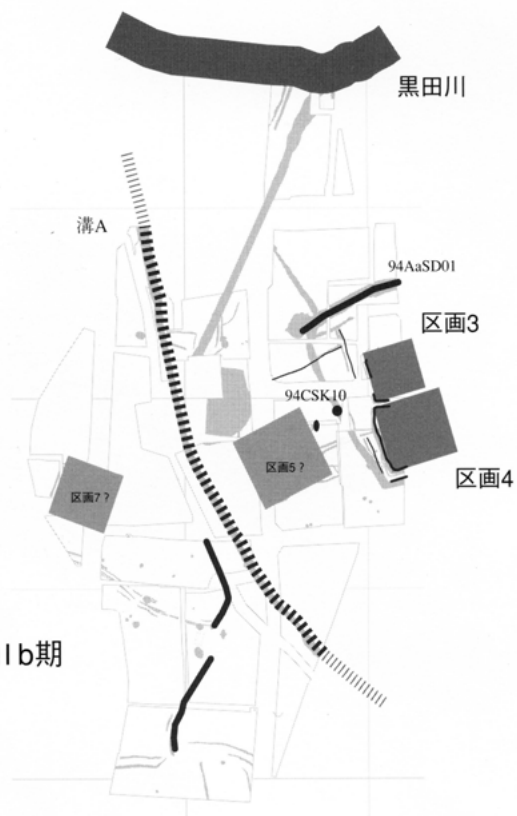
- 資料1 「西園寺家家領相傳状案」『大徳寺文書』鎌倉遺文
 資料2 「尾張国尾塞重書案」『石清水八幡宮菊大路家文書』鎌倉遺文
 資料3 「長講堂領課役注進状案」『島田文書』鎌倉遺文
 資料4 『吾妻鏡』4.19条
 資料5 『花園天皇日記』正中二.12.4および6条
 資料6 「宣陽門院領目録写」『島田文書』新編一宮市史資料編6 586
 資料7 「六角安堵条」『蒲生文書』①S.34.水口町志『蒲生文書』45 儀俄庄域地頭職等安堵状
 ②S.50.神奈川県史資料編3 4742近江守護佐々木高詮所領安堵状 ただし、「佐々木高詮」に関する書状という点については保留。



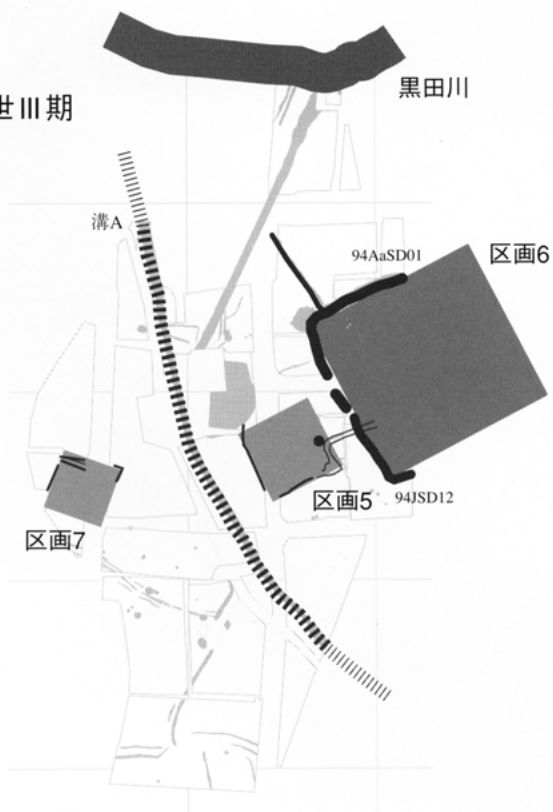
第106図 遺跡周辺の中世後期・戦国期の様相概念図



中世 0～11a期



中世 III期



区画6廃絶後
中世 IV期

第107図 中世～戦国期における遺構の変遷

付 表

出土遺物分析データ

遺構一覧表

遺物一覧表

基本遺構図

(S= 1/1,000,1/500,1/200)

写真図版

区画 6 周辺出土遺物分布傾向 器種別

破片数

器種別分類項目	居館溝 北辺	居館溝 北西角	居館溝 西辺	居館溝 西南角	居館溝 南辺	94D/ SD02	94J/ SD01	94Ab/ SX01	合計
灰釉系陶器 椀 尾張・瀬戸型	847	413	546	81	26	28	326	163	2430
灰釉系陶器 椀 東濃型	132	64	404	96	31	3	147	34	911
灰釉系陶器 皿 尾張・瀬戸型	73	22	71	17	7	1	40	8	239
灰釉系陶器 皿 東濃型	23	7	72	18	12	1	32	9	174
灰釉系陶器 鉢	27	13	41	4	1	0	30	9	125
瀬戸美濃陶器 椀	7	2	7	8	0	0	9	5	38
瀬戸美濃陶器 皿	1	0	3	1	0	1	6	10	22
瀬戸美濃陶器 鉢	22	6	20	1	0	1	15	13	78
瀬戸美濃陶器 壺・瓶	6	3	6	1	0	0	12	18	46
瀬戸美濃陶器 小型品	3	3	3	0	0	1	5	4	19
常滑産陶器 壺・甕	133	48	100	5	9	4	27	88	414
土師器 皿	71	26	170	249	15	0	178	0	709
土師器 鍋（伊勢型・羽釜を含む）	1	4	44	25	2	0	50	5	131
合計	1346	611	1487	506	103	40	877	366	5336

口縁残存率

器種別分類項目	居館溝 北辺	居館溝 北西角	居館溝 西辺	居館溝 西南角	居館溝 南辺	94D/ SD02	94J/ SD01	94Ab/ SX01	合計
灰釉系陶器 椀 尾張・瀬戸型	249	104	148	30	6	1	132	38	708
灰釉系陶器 椀 東濃型	71	30	170	40	9	2	62	9	393
灰釉系陶器 皿 尾張・瀬戸型	58	27	27	10	2	2	41	8	175
灰釉系陶器 皿 東濃型	23	23	45	11	4	1	57	5	169
灰釉系陶器 鉢	5	2	13	0	0	0	6	2	28
瀬戸美濃陶器 椀	8	0	8	27	0	0	19	3	65
瀬戸美濃陶器 皿	1	0	2	3	0	0	16	24	46
瀬戸美濃陶器 鉢	9	1	9	2	0	2	2	8	33
瀬戸美濃陶器 壺・瓶	0	0	3	0	0	0	3	0	6
瀬戸美濃陶器 小型品	4	1	1	0	0	0	38	6	50
常滑産陶器 壺・甕	13	4	5	0	0	0	0	3	25
土師器 皿	34	29	148	683	8	0	631	0	1533
土師器 鍋（伊勢型・羽釜を含む）	0	3	17	17	1	0	7	2	47
合計	475	224	596	823	30	8	1014	108	3278

区画6周辺出土遺物分布傾向 地域別

破片数

遺構	灰釉系 陶器	土師器	常滑	瀬戸美濃 碗/皿/鉢	瀬戸美濃 小型品	瀬戸美濃 壺/瓶	中世以降 合計	灰釉	須恵器	土師器甕	中世以前 合計	合計
居館溝北辺	312	34	13	18	0	4	381	25	84	28	137	518
居館溝北西角	133	32	4	1	0	1	171	15	30	3	48	219
居館溝西辺	188	165	6	19	3	0	381	13	28	8	49	430
居館溝西南角	41	700	0	32	0	0	773	3	3	0	6	779
居館溝南辺	10	9	0	0	0	0	19	0	2	0	2	21
94D/SD02	3	0	0	2	0	0	5	2	10	0	12	17
94J/SD01	179	638	0	37	3	38	895	2	18	2	22	917
94Ab/SX01	48	2	3	35	0	6	94	5	0	2	7	101
合計	914	1580	26	144	6	49	2719	65	175	43	283	3002

口縁残存率

遺構	灰釉系 陶器	土師器	常滑	瀬戸美濃 碗/皿/鉢	瀬戸美濃 小型品	瀬戸美濃 壺/瓶	中世以降 合計	灰釉	須恵器	土師器甕	中世以前 合計	合計
居館溝北辺	1107	72	133	30	3	6	1351	137	325	99	561	1912
居館溝北西角	519	30	48	8	3	3	611	48	157	34	239	850
居館溝西辺	1137	214	101	30	3	6	1491	69	143	22	234	1725
居館溝西南角	217	214	5	10		1	447	12	29	12	53	500
居館溝南辺	79	17	9				105	1	9	5	15	120
94D/SD02	33	0	4	2	1		40	10	18	0	28	68
94J/SD01	576	228	27	30	5	12	878	15	54	7	76	954
94Ab/SX01	223	5	88	28	4	18	366	39	12	4	55	421
合計	3891	780	415	138	19	46	5289	331	747	183	1261	6550

[illegible]

土器カウント集計表 土師器

遺構	グリッド	皿				伊勢型鍋				羽釜				内耳鍋				破片数 合計		
		口縁部		底部	他	口縁部		底部	他	口縁部		底部	他	口縁部		底部	他			
		残存	破片	残存	破片	破片	片数	残存	破片	破片	片数	残存	破片	破片	片数	残存	破片		破片	片数
居館大溝	北 E 9s						0												0	
	北 E 9n	2	1	2			1												0	
	北 E 10q						0												0	
	北 E 10r	3	1	8	2	3	6												0	
	北 E 10s	3	3	10	3	3	9												0	
	北 E 10t						0												0	
	北 E 11p						5	5											0	
	北 E 11q,12p						0												0	
	北 E 11r	12	7	19	3	7	17												0	
	北 E 11s	1	1	2		2	3												0	
94Aa	北 E 11t						0											0		
SD01	北 E 11u						0												0	
	北 E 11v						0												0	
94Ab	北 E 11w						0												0	
	北 E 11x						0												0	
SD04	北 E 11y						0												0	
	北 E 11z						0												0	
94C	北 E 12a						0												0	
	北 E 12b						0												0	
SD09	北 E 12c						0												0	
	北 E 12d						0												0	
94D	北 E 12e						0												0	
	北 F 8a						0												0	
SD06	北 F 8b						0												0	
	北 F 8c	2	1				1												0	
94J	北 F 8d	2	1	4	1	3	5												0	
	北 F 8e	1	1				1	2											0	
SD12	北 F 8f			8	4	2	6												0	
	北 F 8g	4	3	5	2	2	7												0	
94J	北 F 8h			12	2	3	5											1	1	1
	北 F 8i						0												0	
SD12	北 F 8j	2	1	2			1												0	
	北 F 10a						0												0	
94J	北 F 10b						0												0	
	北 F 10c						0												0	
SD12	北 F 11a						0												0	
	北 F 11b						0												0	
94J	北 F 11c						0												0	
	北 F 11d	2	1			2	3												0	
SD12	北 F 11e						0												0	
	北 F 11f						0												0	
94J	北 F 11g						0												0	
	北 F 11h						0												0	
SD12	北 F 11i						0												0	
	北 F 11j						0												0	
94J	北 F 11k						0												0	
	北 F 11l						0												0	
SD12	北 F 11m						0												0	
	北 F 11n						0												0	
94J	北 F 11o						0												0	
	北 F 11p						0												0	
SD12	北 F 11q						0												0	
	北 F 11r						0												0	
94J	北 F 11s						0												0	
	北 F 11t						0												0	
SD12	北 F 11u						0												0	
	北 F 11v						0												0	
94J	北 F 11w						0												0	
	北 F 11x						0												0	
SD12	北 F 11y						0												0	
	北 F 11z						0												0	
94J	北 F 12a						0												0	
	北 F 12b						0												0	
SD12	北 F 12c						0												0	
	北 F 12d						0												0	
94J	北 F 12e						0												0	
	北 F 12f						0												0	
SD12	北 F 12g						0												0	
	北 F 12h						0												0	
94J	北 F 12i						0												0	
	北 F 12j						0												0	
SD12	北 F 12k						0												0	
	北 F 12l						0												0	
94J	北 F 12m						0												0	
	北 F 12n						0												0	
SD12	北 F 12o						0												0	
	北 F 12p						0												0	
94J	北 F 12q						0												0	
	北 F 12r						0												0	
SD12	北 F 12s						0												0	
	北 F 12t						0												0	
94J	北 F 12u						0												0	
	北 F 12v						0												0	
SD12	北 F 12w						0												0	
	北 F 12x						0												0	
94J	北 F 12y						0												0	
	北 F 12z						0												0	
SD12	北 F 13a						0												0	
	北 F 13b						0												0	
94J	北 F 13c						0												0	
	北 F 13d						0												0	
SD12	北 F 13e						0												0	
	北 F 13f						0												0	
94J	北 F 13g						0												0	
	北 F 13h						0												0	
SD12	北 F 13i						0												0	
	北 F 13j						0												0	
94J	北 F 13k						0												0	
	北 F 13l						0												0	
SD12	北 F 13m						0												0	
	北 F 13n						0												0	
94J	北 F 13o						0												0	
	北 F 13p						0												0	
SD12	北 F 13q						0												0	
	北 F 13r						0												0	
94J	北 F 13s						0												0	
	北 F 13t						0												0	
SD12	北 F 13u						0												0	
	北 F 13v						0												0	
94J	北 F 13w						0												0	
	北 F 13x						0												0	
SD12	北 F 13y						0												0	
	北 F 13z						0												0	
94J	北 F 14a						0												0	
	北 F 14b						0													

通稱	グリッド	巻				巻				その他				破片 合計		
		口縁部		底部		口縁部		底部		口縁部		底部				
		残存	破片	残存	破片	残存	破片	残存	破片	残存	破片	残存	破片			
居	北 E 9a				0					0			0	0		
跡	北 E 9b				0					2			0	2		
大	北 E 10a				0								0	0		
溝	北 E 10b			1	1					5			0	6		
	北 E 10c					0	1	1		10	11		0	11		
	北 E 10d				0					4	4		0	4		
94Aa	北 E 11p				0					1	1		0	1		
SD01	北 E 11p,12p				0						0		0	0		
94Ab	北 E 11q				0					5	5		0	5		
SD04	北 E 11r				0			3	1	4	5		0	5		
94C	北 E 11s				0						0		0	0		
SD02	北 E 11t				0						0		0	0		
94C	北 E 12p				0			2	1	14	15		0	15		
SD09	北 E 12q				0						0		0	0		
94D	北 E 12r				0						0		0	0		
SD06	北 F 8a				0						0		0	0		
94J	北 F 8b				0					1	1		0	1		
SD12	北 F 8c				0					5	5		0	5		
	北 F 8d				0					2	2		0	2		
	北 F 9a			1	1	7	7	2	1	25	33		0	34		
	北 F 9b				0	4	3			17	20		0	20		
	北 F 9c				0					4	4		0	4		
	北 F 9d				0					4	4		0	4		
	北 F 10a				0	1	1			4	5		0	5		
	北 F 10b				0						0		0	0		
	北 F 10c				0						0		0	0		
	北 F 11a				0						0		0	0		
	北 F 11b				0						0		0	0		
	北 F 11c				0						0		0	0		
	北 不明				0					9	9		0	9		
北西角	E 11m				0						0		0	0		
北西角	E 11n				0						0		0	0		
北西角	E 11o				0					1	1		0	1		
北西角	E 12m				0					1	1		0	1		
北西角	E 12n			1	1					4	4		0	5		
北西角	E 12o	1	1		4	5				13	13		0	18		
北西角	E 13m				0					3	3		0	3		
北西角	E 13n				0	3	1			14	15		0	15		
北西角	E 13o				0					1	1		0	1		
北西角	E 14m				0						0		0	0		
北西角	E 14n				0					4	4		0	4		
西	E 15a				0					1	1		0	1		
西	E 15b				0						0		0	0		
西	E 16a				0					1	1		0	1		
西	E 16b				0						0		0	0		
西	E 17a				0						0		0	0		
西	E 17b				0						0		0	0		
西	E 17c				0					2	2		0	2		
西	E 18a				0					3	3		0	3		
西	E 18b,19a				0					4	4		0	4		
西	E 18p				0						0		0	0		
西	E 19a				0						0		0	0		
西	E 19b				0						0		0	0		
西	E 19c				0						0		0	0		
西	E 19p				0						0		0	0		
西	E 20p				0						0		0	0		
西	E 20q				0						0		0	0		
西	E 1p				0					10	10		0	10		
西	E 1p,1q				0					2	3		0	3		
西	E 1q				0	1	1				6		0	6		
西	E 1q,2q				0						0		0	0		
西	E 2p				0						0		0	0		
西	E 2a				0			2	1	8	9	1	1	10		
西	E 3a				0					2	2		0	2		
西	E 3r				0						0		0	0		
西	E 4r				0					2	2		0	2		
西	E 4s				0					6	6		0	6		
西	E 5r				0						0		0	0		
西	E 5s				0	1	1	1	1	14	16		0	16		
西	E 5t				0					3	3		0	3		
西	E 5t,6s				0						0		0	0		
西	E 6s				0					2	2		0	2		
西	E 6t	3	1		1			2	1	8	9		0	10		
西	E 7t				0						0		0	0		
西	E 8t				0						0		0	0		
西	E 8t,F 8a				0						0		0	0		
西	F 7a				0					3	3		0	3		
西	F 8a				0					9	9		0	9		
西	F 8b				0					8	8		0	8		
西	F 9a				0						0		0	0		
西南角	F 9b				0						0		0	0		
西南角	F 9c				0			2	1		1		0	1		
西南角	F 10b				0					2	2		0	2		
西南角	F 10c				0					2	2		0	2		
南	F 9d				0					4	4		0	4		
南	F 10d				0					5	5		0	5		
合計		4	2	0	0	7	9	18	15	14	7	264	286	1	1	296
	E 11m				0							0		0	0	
	E 12i				0						2		0	2	0	
	E 12m				0							0		0	0	
	E 12n				0					3	1	1	2	0	2	
	E 13k				0								0	0	0	
	E 13l				0	1	1				3	4		0	4	
	E 13m				0						15	15		0	15	
	E 13n				0			2	2	3	1	40	43	0	43	
	E 13o				0							0		0	0	
	E 14i				0						4	4		0	4	
	E 14m				0			6	2	13	15		0	15	0	
	E 14n				0						0		0	0	0	
	E 14o				0						0		0	0	0	
	不明				0						3	3		0	3	
合計		0	0	0	0	0	0	3	3	12	4	81	88	0	0	88
	E 15a				0							0		0	0	0
	E 15a,15o				0						2		0	2	0	0
	E 15o				0							0		0	0	0
	E 16o				0							0		0	0	0
	E 17o				0					2	2		0	2	0	0
	E 18o				0						0		0	0	0	0
	E 18p				0						0		0	0	0	0
	E 18q				0						0		0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	4
	E 5t				0							0		0	0	0
	E 5t,6t				0							0		0	0	0
	E 6t				0					1	1	1	2	0	2	0
	F 6a				0						1	1		0	1	0
	F 7a				0						5	5		0	5	0
	F 7b				0							0		0	0	0
	F 8a				0						1	1		0	1	0
	F 8b				0			1	1	9	10		0	10	0	0
	F 9b				0			1	1	5	6		0	6	0	0
	F 9c				0						1	1		0	1	0
	F 9d				0					1	1		0	1	0	0
	F 10k				0						0		0	0	0	0
	F 11d				0						0		0	0	0	0
	F 12c				0						0		0	0	0	0
	F 12d				0						0		0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	24	27	0	0	27
総計		4	2	0	0	7	9	21	18	29	14	373	405	1	1	414

土器カウント集計表 瀬戸美濃産陶器 椀・皿

[illegible]

壺・瓶

[illegible][illegible]

土器カウント集計表 瀬戸美濃産陶器 小型品

遺構	グリッド	小杯					香炉					合子					茶入					筒形製品					破片 数 合計
		口縁部		底部	他	破	口縁部		底部	他	破	口縁部		底部	他	破	口縁部		底部	他	破	口縁部		底部	他	破	
		残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	残存、破片	
居館大溝	北	Ⅱ E 9a				0					0					0					0					0	0
	北	Ⅱ E 9b				0					0					0					0					0	0
94Aa	北	Ⅱ E 10a				0					0					0					0					0	0
	北	Ⅱ E 10b				0					0					0					0					0	0
SD01	北	Ⅱ E 10c				0	2	1			1					0					0					0	1
	北	Ⅱ E 11p				0	2	1			1					0					0					0	1
94Ab	北	Ⅱ E 11p,12p				0					0					0					0					0	0
	北	Ⅱ E 11q				0					0					0					0					0	0
SD04	北	Ⅱ E 11r				0					0					0					0					0	0
	北	Ⅱ E 11s				0					0					0					0					0	0
94C	北	Ⅱ E 11t				0					0					0					0					0	0
	北	Ⅱ E 12p				0					0					0					0					0	0
SD09	北	Ⅱ E 12q				0					0					0					0					0	0
	北	Ⅱ E 12r				0					0					0					0					0	0
94D	北	Ⅱ F 8a				0					0					0					0					0	0
	北	Ⅱ F 8b				0					0					0					0					0	0
SD12	北	Ⅱ F 8c				0					0					0					0					0	0
	北	Ⅱ F 8d				0					0					0					0					0	0
不明	北	Ⅱ F 9a				0					0					0					0					0	0
	北	Ⅱ F 9b				0					0					0					0					0	0
北西角	北	Ⅱ F 9c				0					0					0					0					0	0
	北	Ⅱ F 9d				0					0					0					0					0	0
北西角	北	Ⅱ F 10a				0					0					0					0					0	0
	北	Ⅱ F 10b				0					0					0					0					0	0
北西角	北	Ⅱ F 10c				0					0					0					0					0	0
	北	Ⅱ F 11a				0					0					0					0					0	0
北西角	北	Ⅱ F 11b				0					0					0					0					0	0
	北	Ⅱ F 11c				0					0					0					0					0	0
北西角	北	Ⅱ E 11m				0					0					0					0					0	0
	北西角	Ⅱ E 11n				0					0					0					0					0	0
北西角	北	Ⅱ E 11o				0					0					0					0					0	0
	北西角	Ⅱ E 12m				0					0					0					0					0	0
北西角	北	Ⅱ E 12n	1	1		1					0					0					0					0	1
	北西角	Ⅱ E 12o				1					0					0					0					0	1
北西角	北	Ⅱ E 13m				0					0					0					0					0	0
	北西角	Ⅱ E 13n				0					0					0					0					0	0
北西角	北	Ⅱ E 13o				0					0					0					0					0	0
	北西角	Ⅱ E 13p				0					0					0					0					0	0
北西角	北	Ⅱ E 14m				0					0					0					0					0	0
	北西角	Ⅱ E 14n				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 15a				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 15b				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 16a				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 16b				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 17a				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 17b				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 18a				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 18b,19a				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 18p				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 19a				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 19b				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 20p				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 20q				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 1p				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 1p,1q				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 1q				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 1q,2q				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 2p				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 2q				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 3q				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 3r				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 4r				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 4s				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 5r				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 5s				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 5t				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 5t,6s				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 6s				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 6t				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 7i				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ E 8i				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ E 8i,F 8a				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ F 7a				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ F 8a				0					0					0					0					0	0
西	西	Ⅱ F 8b				0					0					0					0					0	0
	西	Ⅱ F 9a				0					0					0					0					0	

[illegible]

土器カウント集計表 須恵器

通構	グリッド	坯身				坯蓋				高坯				坯				蓋				検																
		口縁部		底部		他		口縁部		底部		他		口縁部		底部		他		口縁部		底部		他														
		残存	破片	残存	破片	残存	破片	残存	破片	残存	破片	残存	破片	残存	破片	残存	破片	残存	破片	残存	破片	残存	破片	残存	破片													
居館大溝	北	E 9a				0																																
	北	E 9b				1	1																1	4	1													
	北	E 10a																							0													
	北	E 10b	1	1																					0													
	北	E 10c			1	1			1	1															0													
	北	E 10d					1	3																	0													
	北	E 11a			5	2	1	3																	0													
	北	E 11b																							0													
	北	E 11c																							0													
	北	E 11d																							0													
94Aa	北	E 11e																						0														
SD01	北	E 11f,12p																						0														
94Ab	北	E 11g																						0														
SD04	北	E 11h																						0														
94C	北	E 11i																						0														
SD02	北	E 11j																						0														
94C	北	E 12p																						0														
SD09	北	E 12q																						0														
94D	北	E 12r																						0														
SD06	北	F 8a																						0														
94J	北	F 8b																						0														
SD12	北	F 8c																						0														
	北	F 8d																						0														
	北	F 9a																						0														
	北	F 9b																						0														
	北	F 9c																						0														
	北	F 9d																						0														
	北	F 10a																						0														
	北	F 10b																						0														
	北	F 10c																						0														
	北	F 11a																						0														
	北	F 11b																						0														
	北	F 11c																						0														
	北	不明																						0														
	北西角	E 11m																						0														
	北西角	E 11n																						0														
	北西角	E 11o																						0														
	北西角	E 12m																						0														
	北西角	E 12n																						0														
	北西角	E 12o																						0														
	北西角	E 13m																						0														
	北西角	E 13n																						0														
	北西角	E 13o																						0														
	北西角	E 13p																						0														
	北西角	E 14m																						0														
	北西角	E 14n																						0														
	西	E 15a																						0														
	西	E 15b																						0														
	西	E 15c																						0														
	西	E 16a																						0														
	西	E 16b																						0														
	西	E 17a																						0														
	西	E 17b																						0														
	西	E 17c																						0														
	西	E 18a																						0														
	西	E 18b,19a																						0														
	西	E 18p																						0														
	西	E 19a																						0														
	西	E 19b																						0														
	西	E 20p																						0														
	西	E 20q																						0														
	西	E 1p																						0														
	西	E 1p,1q																						0														
	西	E 1q																						0														
	西	E 1q,2q																						0														
	西	E 2p																						0														
	西	E 2q																						0														
	西	E 3q																						0														
	西	E 3r																						0														
	西	E 4r																						0														
	西	E 4s																						0														
	西	E 5r																						0														
	西	E 5s																						0														
	西	E 5t																						0														
	西	E 5t,6s																						0														
	西	E 6s																						0														
	西	E 6t																						0														
	西	E 7r																						0														
	西	E 8r																						0														
	西	E 8r, F 8a																						0														
	西	F 7a																						0														
	西	F 8a																						0														
	西	F 8b																						0														
	西	F 9a																						0														
	西南角	F 9b																						0														
	西南角	F 9c																						0														
	西南角	F 10b																						0														
	西南角	F 10c																						0														
	南	F 9d																						0														
	南	F 10d																						0														
合計			14	6	11	6	26	36	9	11	0	0	9	20	3	2	3	2	11	15	35	25	56	25	43	93	26	21	7	4	37	62	12	8	24	2	2	12
94Ab SX01	北	E 11m																																				
	北	E 12i																																				
	北	E 12m																																				
	北	E 12n																																				
	北	E 13k																																				
	北	E 13l																																				
	北	E 13m																																				
	北	E 13n																																				
	北	E 13o																																				
	北	E 14l																																				

[illegible][illegible]

遺構一覧

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
93A	SD01	残6240	490	93		U字	I E8n-	中世0～II	
93A	SD03	残4782	160	38		U字	I E7l-	中世I～II	SD02続き
93A	SD04	残2838	130	24		U字	I E7k-	中世I～II	
93A	SD51	残2134	50	—			I E15o-	古墳I	
93A	SD52	残2214	67	—			I E15p-	古墳I	
93A	SB01	480	434	14	方形	皿	I E17o-	古代III	
93A	SB02	残420	残340	13	方形	皿	I E18o-	古代III	
93A	SB03	430	404	12	方形	皿	I E17o-	古代III	
93A	SB04	残360	残190	8	方形	皿	I E16p-	古代III	
93A	SB05	458	420	12	方形	皿	I E18n-	古代III	
93A	SB06	残438	残346	9	方形	皿	I E18m-	古代III	
93A	SB07	残292	残290	10	方形	皿	I E18m-	古代III	
93A	SB08	432	400	14	方形	皿	I E17m-	古代III	
93A	SB09	394	残218	14	方形	皿	I E16m-	古代III	
93A	SB10	384	残186	13	方形	皿	I E16m-	古代III	
93A	SB11	460	452	14	方形	皿	I E15n-	古代III	
93A	SB12	492	残325	6	方形	皿	I E12p-	古代III	中央に土坑
93A	SB13	464	残298	8		皿	I E12m-	古代III	
93A	SB14	446	残278	6		皿	I E11o-	古代III	
93A	SB15	562	520	13	方形	皿	I E16m-	古代III	炭化物集中域を伴う
93A	SB16	498	推488	8	方形	皿	I E14m-	古代III	
93A	SB17	498	438	16	方形	皿	I E13o-	古代III	噴砂に切られる
93A	SB18	残242	残230	7	方形	皿	I E18p	古代III	
93A	SB19	468	残184	9	方形	皿	I E19o-	古代III	
93A	SE01	203	171	91			I E10k	中世IV	SK06から変更
93A	SK13	残236	112	27	不定形	皿	I E7l	中世IV	
93A	ST01	残250	残204		方形	皿	I E18o-	古墳I	
93A	ST02	残486	717		方形	皿	I E18n-	古墳I	
93A	ST03	残1003	668		方形	皿	I E17l-	古墳I	
93A	ST04	残392	残226		方形	皿	I E17l-	古墳I	
93A	ST05	残376	残170		方形	皿	I E18o-	古墳I	
93A	ST06	1520	618		方形	皿	I E15p-	古墳I	
93A	ST07	1650	885		方形	皿	I E14n-	古墳I	
93A	ST08	1047	454		方形	皿	I E15m-	古墳I	
93A	ST09	残460	残182		方形	皿	I E14m-	古墳I	
93A	ST10	550	410		方形	皿	I E14m-	古墳I	
93A	ST11	613	残276		方形	皿	I E13m-	古墳I	
93A	ST12	1336	824		方形	皿	I E12o-	古墳I	
93A	ST13	1162	414		方形	皿	I E12o-	古墳I	
93A	ST14	1440	残598		方形	皿	I E11n-	古墳I	
93A	ST15	残226	残120		方形	皿	I E11p-	古墳I	
93A	ST16	残656	410		方形	皿	I E11p-	古墳I	
93A	ST17	—	—		方形	皿	I E11o	古墳I	
93B	SD02	残5305	467	80		皿	III D6t-	中世II～IV	
93B	SD08 ?	残3342	105	25		U字	III E5f-	中世III	
93B	SD14	残2456	150	92	湾曲	U字	III E10h-	古代I	溝A
93B	SD19	残2778	224	69		U字	III E5d-	古墳I	水路
93B	SD20	残2474	314	80		U字	III E5e-	古墳I	水路
93B	ST01	残115	残448		長方形		III E5-6h	古墳I	
93B	ST02	残490	残290		長方形		III E5g-	古墳I	
93B	ST03	482	残610		長方形		III E5e-	古墳I	
93B	ST04	540	740		長方形		III E5g-	古墳I	
93B	ST05	454	846		長方形		III E5f-	古墳I	
93B	ST06	残402	残425		長方形		III E6h-	古墳I	
93B	ST07	396	434		長方形		III E7g-	古墳I	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
93B	ST08	残319	残302		長方形		ⅢE8h	古墳Ⅰ	
93B	ST09	667	残504		長方形		ⅢE5b-	古墳Ⅰ	
93B	ST10	670	残615		長方形		ⅢE6a-	古墳Ⅰ	
93B	ST11	484	残750		長方形		ⅢD6t-	古墳Ⅰ	
93B	ST12	残480	残732		長方形		ⅢD7t-	古墳Ⅰ	
93B	ST13	664	877		長方形		ⅢE6c-	古墳Ⅰ	
93B	ST14	616	996		長方形		ⅢE6b-	古墳Ⅰ	
93B	ST15	518	1093		長方形		ⅢE7a-	古墳Ⅰ	
93B	ST16	残625	1230		長方形		ⅢD8t-	古墳Ⅰ	
93B	ST17	646	1218		長方形		ⅢE7d-	古墳Ⅰ	
93B	ST18	556	1126		長方形		ⅢE8c-	古墳Ⅰ	
93B	ST19	556	1111		長方形		ⅢE9b-	古墳Ⅰ	
93B	ST20	794	1064		長方形		ⅢE9b-	古墳Ⅰ	
93B	ST21	618	553		(正)方形		ⅢE9e-	古墳Ⅰ	
93B	ST22	506	594		(正)方形		ⅢE10e-	古墳Ⅰ	
93B	ST23	565	636		(正)方形		ⅢE10d-	古墳Ⅰ	
93B	ST24	701	675		長方形		ⅢE11c-	古墳Ⅰ	
93B	ST25	残73	残630		(長方形)		ⅢE11b-	古墳Ⅰ	
93B	ST26	残284	681		(長方形)		ⅢE12b-	古墳Ⅰ	
93B	ST27	546	834		(長方形)		ⅢE10f-	古墳Ⅰ	
93B	ST28	537	972		(長方形)		ⅢE10f-	古墳Ⅰ	
93B	ST29	533	971		(長方形)		ⅢE11e-	古墳Ⅰ	
93B	ST30	802	1039		(長方形)		ⅢE12d-	古墳Ⅰ	
93B	ST31	残658	1116		(長方形)		ⅢE13c-	古墳Ⅰ	
93B	ST32	510	654		方形		ⅢE11g-	古墳Ⅰ	
93B	ST33	501	668		長方形		ⅢE12g-	古墳Ⅰ	
93B	ST34	551	738		長方形		ⅢE13f-	古墳Ⅰ	
93B	ST35	866	805		方形		ⅢE14e-	古墳Ⅰ	
93B	ST36	残340	残264		方形		ⅢE15d-	古墳Ⅰ	
93B	ST37	残125	残112		(方形)		ⅢE12h	古墳Ⅰ	
93B	ST38	497	残498		(方形)		ⅢE13h-	古墳Ⅰ	
93B	ST39	620	残755		長方形		ⅢE13h-	古墳Ⅰ	
93B	ST40	残267	残365		(方形)		ⅢE14g-	古墳Ⅰ	
93B	NR02	残3854	630	113			ⅢE8h-	古代Ⅱ～Ⅲb	溝E
93C	SD01-NS	残792	68	16	屈曲	皿	ⅢD8m-	中世Ⅲ	
93C	SD01-WE	410	41	15	屈曲	皿	ⅢD8m-	中世Ⅲ	
93C	SD05	残3095	134	25	屈曲	U字	ⅡD16m-		
93C	SD21	残650	90	27			ⅡD16m-	古墳Ⅰ	
93C	SB03	681	439	21	長方形		ⅢD1-2m-	古代Ⅱ	カマド付
93C	ST42	残350	残213		(方形)		ⅡD16m	古墳Ⅰ	
93C	ST43	残190	残233		(方形)		ⅡD16n-	古墳Ⅰ	
93C	ST44	566	360		長方形		ⅡD16m-	古墳Ⅰ	
93C	ST45	507	374		(長方形)		ⅡD16m-	古墳Ⅰ	
93C	ST46	残460	286		(長方形)		ⅡD16o	古墳Ⅰ	
93C	ST47	517	248		長方形		ⅡD16n-	古墳Ⅰ	
93C	ST48	残586	291		長方形		ⅡD17m-	古墳Ⅰ	
93C	ST49	残261	残270		(方形)		ⅡD18m	古墳Ⅰ	
93C	ST50	残254	残313		(方形)		ⅡD16p	古墳Ⅰ	
93C	ST51	526	358		長方形		ⅡD16o-	古墳Ⅰ	
93C	ST52	510	360		長方形		ⅡD17n-	古墳Ⅰ	
93C	ST53	620	379		長方形		ⅡD17n-	古墳Ⅰ	
93C	ST54	残574	364		(長方形)		ⅡD18m-	古墳Ⅰ	
93C	ST55	残226	残223		(方形)		ⅡD16p-	古墳Ⅰ	
93C	ST56	468	312		長方形		ⅡD17o-	古墳Ⅰ	
93C	ST57	510	359		長方形		ⅡD17o-	古墳Ⅰ	
93C	ST58	478	387		台形		ⅡD18n-	古墳Ⅰ	
93C	ST59	771	413		長方形		ⅡD19m-	古墳Ⅰ	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
93C	ST60	残273	残227		(方形)		Ⅱ D20m	古墳Ⅰ	
93C	ST61	残432	417		(方形)		Ⅱ D17p-	古墳Ⅰ	
93C	ST62	678	457		長方形		Ⅱ D18o-	古墳Ⅰ	
93C	ST63	549	427		台形		Ⅱ D19n-	古墳Ⅰ	
93C	ST64	679	416		長方形		Ⅱ D19n-	古墳Ⅰ	
93C	ST65	583	387		長方形		Ⅱ D20m-	古墳Ⅰ	
93C	ST66	残119	残98		(方形)		Ⅲ D1l	古墳Ⅰ	
93C	ST67	残105	残126		(方形)		Ⅱ D18p-	古墳Ⅰ	
93C	ST68	686	458		長方形		Ⅱ D18p-	古墳Ⅰ	
93C	ST69	563	464		長方形		Ⅱ D19o-	古墳Ⅰ	
93C	ST70	661	391		長方形		Ⅱ D20n-	古墳Ⅰ	
93C	ST71	621	423		長方形		Ⅲ D1m-	古墳Ⅰ	
93C	ST72	残575	448		(長方形)		Ⅲ D2l-	古墳Ⅰ	
93C	ST73	残381	412		(長方形)		Ⅱ D19p-	古墳Ⅰ	
93C	ST74	575	414		長方形		Ⅱ D20o-	古墳Ⅰ	
93C	ST75	637	714		(長方形)		Ⅲ D1n-	古墳Ⅰ	
93C	ST76	598	688		台形		Ⅲ D1n-	古墳Ⅰ	
93C	ST77	762	439		長方形		Ⅲ D2m-	古墳Ⅰ	
93C	ST78	残210	残264		(方形)		Ⅲ D4lm	古墳Ⅰ	
93C	ST79	残419	残231		(方形)		Ⅱ D20p-	古墳Ⅰ	
93C	ST80	残150	残244		(方形)		Ⅲ D2o-	古墳Ⅰ	
93C	ST81	570	364		長方形		Ⅲ D2o-	古墳Ⅰ	
93C	ST82	638	416		長方形		Ⅲ D3m-	古墳Ⅰ	
93C	ST83	残724	344		長方形		Ⅲ D4l-	古墳Ⅰ	
93C	ST84	残558	392		(長方形)		Ⅲ D3n-	古墳Ⅰ	足跡検出
93C	ST85	520	411		長方形		Ⅲ D4m-	古墳Ⅰ	足跡検出
93C	ST86	720	416		台形		Ⅲ D4m-	古墳Ⅰ	足跡検出
93C	ST87	残280	334		(方形)		Ⅲ D5l-	古墳Ⅰ	
93C	ST88	残343	残407		(方形)		Ⅲ D4o-	古墳Ⅰ	
93C	ST89	552	522		台形		Ⅲ D4n-	古墳Ⅰ	足跡検出
93C	ST90	764	488		長方形		Ⅲ D5m-	古墳Ⅰ	足跡検出
93C	ST91	残520	378		(長方形)		Ⅲ D6l-	古墳Ⅰ	足跡検出
93C	ST92	残518	486		(長方形)		Ⅲ D5o-	古墳Ⅰ	
93C	ST93	864	464		長方形		Ⅲ D6m-	古墳Ⅰ	足跡検出
93C	ST94	614	394		長方形		Ⅲ D7l-	古墳Ⅰ	足跡検出
93C	ST95	残218	残273		(方形)		Ⅲ D7l-	古墳Ⅰ	
93C	ST96	残70	残115		(方形)		Ⅲ D6q	古墳Ⅰ	
93C	ST97	642	453		長方形		Ⅲ D6o-	古墳Ⅰ	
93C	ST98	960	541		(長方形)		Ⅲ D7n-	古墳Ⅰ	足跡検出
93C	ST99	570	残525		(長方形)		Ⅲ D7m-	古墳Ⅰ	足跡検出
93C	ST100	残278	残457		(長方形)		Ⅲ D8l-	古墳Ⅰ	足跡検出
93C	ST101	残444	702		(長方形)		Ⅲ D6p-	古墳Ⅰ	
93C	ST102	706	828		台形		Ⅲ D6q-	古墳Ⅰ	
93C	ST103	397	884		長方形		Ⅲ D7o-	古墳Ⅰ	
93C	ST104	残266	904		(長方形)		Ⅲ D8o-	古墳Ⅰ	
93C	ST105	残382	残710		(長方形)		Ⅲ D7r-	古墳Ⅰ	
93C	ST106	721	912		長方形		Ⅲ D7r-	古墳Ⅰ	
93C	ST107	483	882		長方形		Ⅲ D8q-	古墳Ⅰ	
93C	ST108	残227	838		(長方形)		Ⅲ D9p-	古墳Ⅰ	
93C	ST109	残528	1242		(長方形)		Ⅲ D8s-	古墳Ⅰ	
93C	ST110	628	1243		(長方形)		Ⅲ D10r-	古墳Ⅰ	
93C	ST111	残153	残806		(長方形)		Ⅲ D11t-	古墳Ⅰ	
93C	ST112	468	1057		(長方形)		Ⅲ D11t-	古墳Ⅰ	
93C	ST113	555	?		(長方形)		Ⅲ D10q-	古墳Ⅰ	
93C	ST121	残250	残243				Ⅲ E13a-	古墳Ⅰ	
93C	SX01	残1996	残2084	24	不定形	Ⅲ	Ⅱ D16m-	中世Ⅳ	
94Aa	SD01-ABC	残4018	987	85?	湾曲		Ⅱ E9s-	中世Ⅱ～Ⅲ	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
94Aa	SD04	残658	104	29		皿状	ⅡE13q-	中世Ⅱ	
94Aa	SD06	残1576	171	43		逆台形	ⅡE12r-	中世	須恵器多く含む
94Aa	SD07	残522	130	30		皿状	ⅡE13q-	中世Ⅱ	
94Aa	SD14	残1143	残270	15			ⅡE13q-	古代Ⅱ～Ⅲb	「美濃」刻印須恵器坏
94Aa	SD15	残1511	残344	33			ⅡE13q-	古代Ⅱ～Ⅲb	
94Aa	SK16	残386	250	13	不定形	逆台形	ⅡE12s	古代Ⅱ	
94Aa	SK17	残240	154	13	不定形	逆台形	ⅡE13s-	中世Ⅱ	
94Aa	ST01	残416	残308				ⅡF2a-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST02	残548	残209				ⅡF2b-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST03	残687	375				ⅡF3a-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST04	残563	343				ⅡF2b-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST05	残1173	328				ⅡF3a-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST06	残324	280				ⅡF4a-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST07	残702	267				ⅡF3c-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST08	残294	400				ⅡF5a-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST09	残124	残146				ⅡF5b	古墳Ⅰ	
94Aa	ST10	残260	254				ⅡF4c-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST11	残218	残270				ⅡF4c	古墳Ⅰ	
94Aa	ST12	残315	残370				ⅡF5b-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST13	残315	326				ⅡF5c	古墳Ⅰ	
94Aa	ST14	残89	残273				ⅡF6a-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST15	353	610				ⅡF5a-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST16	540	412				ⅡF5c-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST17	残325	318				ⅡF5c-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST18	残636	375				ⅡF7a-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST19	残653	553				ⅡF6b-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST20	838	残480				ⅡE9t-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST21	691	残655				ⅡF7b-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST22	残490	残607				ⅡF7c-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST23	1750	残424				ⅡE9r-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST24	残1010	残610				ⅡE9p-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST25	残82	残162				ⅡF9d	古墳Ⅰ	
94Aa	ST26	871	残370				ⅡF9b-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST27	—	—				ⅡF10a-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST28	残109	残80				ⅡF9d-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST29	残204	残430				ⅡF10c-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST30	367	450				ⅡF10c-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST31	残410	残283				ⅡF10b-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST32	—	—				ⅡE10t-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST33	—	残930				ⅡE11q-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST34	908	残594				ⅡE11q-	古墳Ⅰ	
94Aa	ST35	870	350				ⅡE13q-	古墳Ⅰ	
94Ab	SD02	残4056	306	53			ⅡE5j-	中世Ⅱ～Ⅲ	
94Ab	SD03	残614	170	31			ⅡE13o-	中世	
94Ab	SD04-NS	残912	283	54	屈曲		ⅡE13n-	中世Ⅱ～Ⅲ	
94Ab	SD04-WE	残1341	477	104	屈曲		ⅡE11o-	中世Ⅱ～Ⅲ	
94Ab	SK02	188	176	40	楕円形		ⅡE11o	中世Ⅱ	
94Ab	SK08	残370	残200	60			ⅡE4j-	中世Ⅱ～Ⅲ	Ab-I区
94Ab	ST01	残580	残452				ⅡE5j-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST02	280	376				ⅡE5k-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST03	997	962				ⅡE4j-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST04	残1062	646				ⅡE6j-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST05	1156	652				ⅡE5l-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST06	残980	843				ⅡE8j-	古墳Ⅱ	Ab-I区
94Ab	ST07	915	783				ⅡE7k-	古墳Ⅱ	Ab-I区
94Ab	ST08	1195	886				ⅡE6l-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST09	残502	残640				ⅡE11j-	古墳Ⅱ	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
94Ab	ST10	1065	732				ⅡE9k-	古墳Ⅱ	
94Ab	ST11	788	868				ⅡE8l-	古墳Ⅱ	
94Ab	ST12	1150	794				ⅡE7n-	古墳Ⅱ	Ab-I区
94Ab	ST13	残780	670				ⅡE12j-	古墳Ⅱ	
94Ab	ST14	1325	残780				ⅡE11k-	古墳Ⅱ	
94Ab	ST15	771	670				ⅡE10m-	古墳Ⅱ	
94Ab	ST16	1228	残1093				ⅡE8o-	古墳Ⅱ	
94Ab	ST17	残438	—				ⅡE14j-	古墳Ⅱ	
94Ab	ST19	残638	565				ⅡE13o-	古墳Ⅱ	
94Ab	ST20	772	残515				ⅡE3n-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST21	396	残476				ⅡE3n-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST22	892	806				ⅡE4n-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST23	849	793				ⅡE3o-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST24	950	残581				ⅡE3q-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST25	950	898				ⅡE5o-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST26	823	808				ⅡE4q-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST27	803	817				ⅡE4q-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST28	766	196				ⅡE7p	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST29	747	466				ⅡE6p-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST31	734	440				ⅡE7p-	古墳Ⅱ	Ab-I区
94Ab	ST32	736	296				ⅡE7q-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST34	728	残402				ⅡE7r-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	ST35	残1183	1206				ⅡE5r-	古墳Ⅱ	I区
94Ab	SX01	残1644	1220	196	不定形		ⅡE12l-	中世Ⅳ	
94B	SD01北側	—	—	111	不定形		I E7o-	中世	
94B	SD01南側	—	—	残67	不定形		I E9o-	中世	
94B	SB01	残230	223	12			I E9p-	古代Ⅲ	
94B	SB02	残258	残93	7			I E10p	古代Ⅲ	
94B	(ST01)	残78	残83				I E9o	古墳Ⅰ	
94B	(ST02)	残540	残205				I E8p-	古墳Ⅰ	
94B	(ST03)	残313	430				I E9o-	古墳Ⅰ	
94B	(ST04)	458	430				I E9p-	古墳Ⅰ	
94B	(ST05)	残245	残355				I E8q-	古墳Ⅰ	
94B	(ST06)	残210	残330				I E10p-	古墳Ⅰ	
94B	(ST07)	434	残342				I E9q-	古墳Ⅰ	
94C	SD02	残1478	393	54			ⅡE20p-	中世Ⅲ	
94C	SD03	残1883	297	28			ⅡE20p-	古代Ⅰ	
94C	SD11	残1351	571	93			ⅢE2p-	古代Ⅱ～Ⅲb 「濃」刻印須恵器蓋	
94C	SK11	117	93	18	楕円		ⅢE2q	中世Ⅲ	
94C	ST01	残253	残117				ⅢE1j-	古墳Ⅰ	
94C	ST02	残534	342		長方形		ⅢE1j-	古墳Ⅰ	
94C	ST03	残365	残296				ⅢE1k-	古墳Ⅰ	
94C	ST04	残183	390				ⅢE2j-	古墳Ⅰ	
94C	ST05	599	380		長方形		ⅢE1k-	古墳Ⅰ	
94C	ST06	536	450		長方形		ⅢE1k-	古墳Ⅰ	
94C	ST07	残330	残269				ⅢE1l-	古墳Ⅰ	
94C	ST08	残355	361				ⅢE3j-	古墳Ⅰ	
94C	ST09	582	371		長方形		ⅢE2k-	古墳Ⅰ	
94C	ST10	670	380		長方形		ⅢE1l-	古墳Ⅰ	
94C	ST11	590	340		長方形		ⅢE1m-	古墳Ⅰ	
94C	ST12	残268	残205				ⅢE1n	古墳Ⅰ	
94C	ST13	484	285		長方形		ⅢE3k-	古墳Ⅰ	
94C	ST14	644	352		長方形		ⅢE2l-	古墳Ⅰ	
94C	ST15	720	332		長方形		ⅢE1n-	古墳Ⅰ	
94C	ST16	400	305		長方形		ⅢE1n-	古墳Ⅰ	
94C	ST17	残250	残193				ⅢE1o	古墳Ⅰ	
94C	ST18	623	残257				ⅢE3l-	古墳Ⅰ	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
94C	ST19	717	321		長方形		ⅢE2n-	古墳Ⅰ	
94C	ST20	400	421		方形		ⅢE1o-	古墳Ⅰ	
94C	ST21	366	460		長方形		ⅢE1o-	古墳Ⅰ	
94C	ST22	480	残432				ⅢE1p-	古墳Ⅰ	
94C	ST23	残600	360				ⅢE2n-	古墳Ⅰ	
94C	ST24	435	342		方形		ⅢE2o-	古墳Ⅰ	
94C	ST25	389	374		方形		ⅢE1p-	古墳Ⅰ	
94C	ST26	466	297		方形		ⅢE1p-	古墳Ⅰ	
94C	ST27	残296	296				ⅡE20q-	古墳Ⅰ	
94C	ST28	344	残96				ⅢE2p-	古墳Ⅰ	
94C	ST29	360	残185				ⅢE2p-	古墳Ⅰ	
94C	ST30	522	残261				ⅢE1q-	古墳Ⅰ	
94C	ST31	残200	残210				ⅢE1q-	古墳Ⅰ	
94C	ST32	残170	残56				ⅢE3o	古墳Ⅰ	
94C	ST33	残241	残98				ⅢE3q	古墳Ⅰ	
94D	SD01	残1506	100	25	—	U字形	ⅡE15q-	中世Ⅱ	
94D	SD02	残2163	90	13	—	V字形	ⅡE15n-	中世Ⅳ	
94D	SD04	残1358	106	11	屈曲	皿	ⅡE15p-	中世	
94D	SD06	残2159	413	57	—	逆台形	ⅡE15n-	中世Ⅲ	C区SD02の続き
94D	SD10	残1783	94	11	—	V字形	ⅡE17m-	中世Ⅲ	
94D	SD15	残1180	残703	54	—	逆台形	ⅡE17s-	古代Ⅱ	C区SD03の続き
94D	SD16	残3037	472	4	—		ⅡE15n-	古代Ⅱ～Ⅲb	
94D	SK03	160	140	27	円形	箱	ⅡE18k	中世Ⅲ	
94D	ST01	残609	残392		—	—	ⅡE15j-	古墳Ⅰ	
94D	ST02	残212	残130		—	—	ⅡE15k	古墳Ⅰ	
94D	ST03	残162	残164		—	—	ⅡE16j-	古墳Ⅰ	
94D	ST04	732	453		方形	—	ⅡE15j-	古墳Ⅰ	
94D	ST05	残820	395		—	—	ⅡE15k-	古墳Ⅰ	
94D	ST06	残375	242		—	—	ⅡE17j	古墳Ⅰ	
94D	ST07	残426	266		—	—	ⅡE17j-	古墳Ⅰ	
94D	ST08	726	446		方形	—	ⅡE16j-	古墳Ⅰ	
94D	ST09	809	362		方形	—	ⅡE15l-	古墳Ⅰ	
94D	ST10	残535	残304		—	—	ⅡE15m-	古墳Ⅰ	
94D	ST11	残496	残90		—	—	ⅡE17j-	古墳Ⅰ	
94D	ST12	620	残138		—	—	ⅡE16k-	古墳Ⅰ	
94D	ST13	763	292		方形	—	ⅡE15m-	古墳Ⅰ	
94D	ST14	702	322		長方形	—	ⅡE15m-	古墳Ⅰ	
94D	ST15	残460	残260		—	—	ⅡE15n-	古墳Ⅰ	
94D	ST16	残200	残216		—	—	ⅡE19k	古墳Ⅰ	
94D	ST17	640	残380		—	—	ⅡE18k-	古墳Ⅰ	
94D	ST18	965	残325		—	—	ⅡE17l-	古墳Ⅰ	
94D	ST19	残560	残173		—	—	ⅡE16n-	古墳Ⅰ	
94D	ST20	残505	385		—	—	ⅡE18l-	古墳Ⅰ	
94D	ST21	952	390		長方形	—	ⅡE17m-	古墳Ⅰ	
94D	ST22	577	373		方形	—	ⅡE16n-	古墳Ⅰ	
94D	ST23	744	355		—	—	ⅡE15p-	古墳Ⅰ	
94D	ST24	残405	残162		—	—	ⅡE15p-	古墳Ⅰ	
94D	ST25	992	338		—	—	ⅡE16n-	古墳Ⅰ	
94D	ST26	518	323		長方形	—	ⅡE17n-	古墳Ⅰ	
94D	ST27	767	468		長方形	—	ⅡE16o-	古墳Ⅰ	
94D	ST28	435	480		長方形	—	ⅡE15p-	古墳Ⅰ	
94D	ST29	505	423		—	—	ⅡE15q-	古墳Ⅰ	
94D	ST30	残170	残135		—	—	ⅡE15r	古墳Ⅰ	
94D	ST31	残700	280		—	—	ⅡE18n-	古墳Ⅰ	
94D	ST32	418	287		長方形	—	ⅡE17o-	古墳Ⅰ	
94D	ST33	787	302		長方形	—	ⅡE17p-	古墳Ⅰ	
94D	ST34	497	287		長方形	—	ⅡE16q-	古墳Ⅰ	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
94 D	ST35	380	351		長方形	—	Ⅱ E15q-	古墳Ⅰ	
94 D	ST36	365	375		正方形	—	Ⅱ E15r-	古墳Ⅰ	
94 D	ST37	残872	332		—	—	Ⅱ E18o-	古墳Ⅰ	
94 D	ST38	858	345		長方形	—	Ⅱ E17p-	古墳Ⅰ	
94 D	ST39	452	349		長方形	—	Ⅱ E16q-	古墳Ⅰ	
94 D	ST40	404	348		長方形	—	Ⅱ E16r-	古墳Ⅰ	
94 D	ST41	410	302		長方形	—	Ⅱ E15s-	古墳Ⅰ	
94 D	ST42	残224	残256		—	—	Ⅱ E15s-	古墳Ⅰ	
94 D	ST43	残325	残175		—	—	Ⅱ E19p	古墳Ⅰ	
94 D	ST44	823	370		長方形	—	Ⅱ E17q-	古墳Ⅰ	
94 D	ST45	780	396		方形	—	Ⅱ E16r-	古墳Ⅰ	
94 D	ST46	337	223		長方形	—	Ⅱ E16s-	古墳Ⅰ	
94 D	ST47	残125	残220		—	—	Ⅱ E16s	古墳Ⅰ	
94 D	ST48	残476	358		—	—	Ⅱ E18q-	古墳Ⅰ	
94 D	ST49	648	412		長方形	—	Ⅱ E17r-	古墳Ⅰ	
94 D	ST50	残489	520		—	—	Ⅱ E16s-	古墳Ⅰ	
94 D	ST51	残140	残92		—	—	Ⅱ E19r	古墳Ⅰ	
94 D	ST52	615	残345		—	—	Ⅱ E18r-	古墳Ⅰ	
94 D	ST53	残150	残231		—	—	Ⅱ E18s	古墳Ⅰ	
94 D	ST54	残282	残280				Ⅱ E15s	古墳Ⅰ	
94 E	SD02	残1014	165	31		U	Ⅱ E17e-	中世Ⅱb	
94 E	SD03	残234	残245	34		U	Ⅱ E18f-	中世Ⅱb	
94 E	SD06	残762	213	40		U	Ⅲ E1g-	中世Ⅱb	天元通寶
94 E	SD09	残1168	181	46		U	Ⅲ E3g-	中世Ⅱb	
94 E	SD11	残352	121	29		皿	Ⅲ E4f-	中世Ⅱb	
94 E	SD12	残791	337	37		U	Ⅱ E19g-	中世Ⅱb	
94 E	SE01 ?	110	110	29	円形		Ⅲ E3f	中世Ⅱb	
94 E	SE02 ?	110	100	90	円形		Ⅲ E3e	中世Ⅱb	
94 E	SK02-A	残430	残165	残30			Ⅱ E17d-	中世Ⅱb	
94 E	SK04	447	249	72	楕円形		Ⅲ E2g-	中世Ⅱb	
94 E	SK05	304	240	30	楕円形		Ⅱ E20g-	中世Ⅲ	
94 E	SG01	残3588	残2394	残86			Ⅱ E18e-	中世Ⅰ～Ⅱa	
94 F	SD01	残2786	505	58		U	Ⅱ E10d-	中世Ⅰ～Ⅱa	
94 F	SD03	残1585	55	11	湾曲	U	Ⅱ E10f-	中世Ⅱ	
94 F	SD06	残756	215	34		U	Ⅱ E15f-	中世Ⅱ	
94 F	SD07	残677	75	28		U	Ⅱ E15f-	中世Ⅱ	
94 F	SD08	残1564	95	27		皿	Ⅱ E12d-	中世Ⅱ	
94 F	SD09	残1033	114	19		U	Ⅱ E12d-	中世Ⅱ	SD03として取り上げ
94 F	SD11	残633	58	3		皿	Ⅱ E15d-	中世Ⅱ	
94 F	SD12	残938	37	9	屈曲	皿	Ⅱ E15c-	中世Ⅱ	
94 F	SD13	残613	117	12		皿	Ⅱ E16c-	中世Ⅱ	
94 F	SD14-NS	815	46	9	屈曲	皿	Ⅱ E14b-	中世Ⅱ	
94 F	SD14-WE	残1619	100	15			Ⅱ D13r-	中世Ⅱ	
94 F	SD17	残1143	94	17		U	Ⅱ D14s-	中世Ⅰ	
94 F	SD18	残2251	412	49		皿	Ⅱ D13q-	中世Ⅱ～Ⅳ	
94 F	SD19-A	残442	169	27		U	Ⅱ D16s-	中世Ⅱ	
94 F	SB01	残303	残297	9			Ⅱ E9g-	古代Ⅱ	
94 F	SB02	残395	残225	10			Ⅱ E11g-	古代Ⅱ	
94 F	SB03	405	390	11	方形		Ⅱ E12g-	古代Ⅱ	
94 F	SB04	340	290	8	方形		Ⅱ E12f-	古代Ⅱ	
94 F	SB05	残454	375	14	方形		Ⅱ E13g-	古代Ⅱ	炭化物集積あり
94 F	SB06	395	380	6	方形		Ⅱ E11f-	古代Ⅱ	
94 F	SB07	475	395	9	方形		Ⅱ E12e-	古代Ⅱ	
94 F	SB08	527	残340	8	方形		Ⅱ E12e-	古代Ⅱ	
94 F	SB09	残300	残117	22			Ⅱ E10a-	古代Ⅲ	
94 F	SB10	460	残458	12			Ⅱ E10a-	古代Ⅲ	土器集積あり
94 F	SB11	残372	残211	11			Ⅱ D10t-	古代Ⅲ	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
94 F	SB12	430	残420	22			Ⅱ D11t-	古代Ⅲ	
94 F	SE01	353	310	114	長方形	箱	Ⅱ E14d-	中世Ⅰ	断面図あり
94 F	SE02	450	395	96	長方形	箱	Ⅱ E14e-	中世Ⅰ	断面図あり
94 F	SK08	180	138	38	小判型	U	Ⅱ E14g-	中世Ⅱb	斑土
94 F	SK09	残235	175	115	長方形		Ⅱ E14g-	中世Ⅱb	斑土
94 F	SK10	120	90	30	長方形	箱	Ⅱ E15g	中世Ⅱb	斑土
94 F	SK11	210	83	19	長方形	U	Ⅱ E15fg	中世Ⅳ	骨、炭化物を含む
94 F	SK13	残92	62	9	長方形	U	Ⅱ E15g	中世	斑土、無遺物
94 F	SK17	240	92	19		U	Ⅱ E12c	中世Ⅱb	
94 F	SK20	242	106	14	長方形	箱	Ⅱ E13b-	中世	
94 F	SK21	138	111	13	長方形	箱	Ⅱ E13b-	中世	
94 F	SK24A	430	365	122	円形	箱	Ⅱ D15t-	古代Ⅱ	井戸
94 F	SK24B	残398	残370	20	円形	箱	Ⅱ D15t-	古代Ⅱ	土坑
94 F	SK25	450	186	43		U	Ⅱ E14f-	中世Ⅰ	
94 F	ST01	残165	残251				Ⅱ E9g-	古墳Ⅱ	
94 F	ST02	残480	残213				Ⅱ E9f-	古墳Ⅱ	
94 F	ST03	693	399				Ⅱ E9f-	古墳Ⅱ	
94 F	ST04	987	409				Ⅱ E10e-	古墳Ⅱ	
94 F	ST05	残698	545				Ⅱ E10f-	古墳Ⅱ	
94 F	ST06	1040	529				Ⅱ E11e-	古墳Ⅱ	
94 F	ST07	残330	残517				Ⅱ E11g-	古墳Ⅱ	
94 F	ST08	1166	441				Ⅱ E10c-	古墳Ⅱ	
94 F	ST09	残858	残375				Ⅱ E10c-	古墳Ⅱ	
94 F	ST10	696	592				Ⅱ E10a-	古墳Ⅱ	
94 F	ST11	692	488				Ⅱ E11b-	古墳Ⅱ	
94 F	ST12	670	残424				Ⅱ E11c-	古墳Ⅱ	
94 F	ST13	494	残168				Ⅱ E12d-	古墳Ⅱ	
94 F	ST14	569	514				Ⅱ E12d-	古墳Ⅱ	
94 F	ST15	852	632				Ⅱ E13d-	古墳Ⅱ	
94 F	ST16	792	630				Ⅱ E12b-	古墳Ⅱ	
94 F	ST17	717	630				Ⅱ E11b-	古墳Ⅱ	
94 F	ST18	残670	489				Ⅱ D11t-	古墳Ⅱ	
94 F	ST19	残707	残323				Ⅱ D10t-	古墳Ⅱ	
94 F	ST20	1009	616				Ⅱ D12t-	古墳Ⅱ	
94 F	ST21	1340?	753				Ⅱ D14t-	古墳Ⅱ	1辺は大睦畔(?)
94 F	ST22	360?	残177				Ⅱ D14s	古墳Ⅱ	1辺は大睦畔(?)
94 F	ST23	432?	630				Ⅱ D14s-	古墳Ⅱ	1辺は大睦畔(?)
94 F	ST24	残966	676				Ⅱ E14b-	古墳Ⅱ	
94 F	ST25	1365	1030?				Ⅱ E12f-	古墳Ⅱ	1辺は大睦畔(?)
94 F	ST26	1016	2016				Ⅱ E14d-	古墳Ⅱ	
94 F	ST27	886?	705?				Ⅱ E15e-	古墳Ⅱ	
94 F	ST28	残436	残421				Ⅱ E15c-	古墳Ⅱ	
94 F	ST29	残403	残588				Ⅱ E16e-	古墳Ⅱ	
94 F	ST30	残596	残560				Ⅱ E17g-	古墳Ⅱ	
94 G	SD02	残3130	907	158			Ⅲ D16t-	古代Ⅱ～Ⅲb	
94 G	SD04	残691	51	15			Ⅲ D19k-	中世Ⅰ	
94 G	SD05	残910	86	32			Ⅲ D19k-	中世Ⅳ	
94 G	SD06	残1321	56	18			Ⅲ D18k-	中世Ⅳ	
94 G	SD07	残399	107	43			Ⅲ D18k-	中世Ⅳ	
94 G	SD08	残1794	391	85			Ⅲ E15f-	中世Ⅱ～Ⅲ	
94 G	SD09	残1890	160	33			Ⅲ E16b-	中世Ⅲ	
94 G	SD12	残1125	263	151			Ⅲ E15f-	古代Ⅰ	
94 G	SD15	残824	85	10	湾曲		Ⅲ E16e-	古代Ⅰ	
94 G	SE01	170	160	71			Ⅲ D19s	中世Ⅳ	桶組
94 G	SE02	177	150	77			Ⅲ E17a	中世Ⅲ	
94 G	SE03	264	220	131			Ⅲ D18o-	中世Ⅳ	
94 G	SE04	165	残120	153			Ⅲ D15n	中世Ⅱb	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
94G	SK03	177	153	44			ⅢD17k-	中世Ⅳ	
94G	ST01	残1203	残1078				ⅢD15r-	古墳Ⅱ	
94G	ST02	1120	残1590				ⅢD15q-	古墳Ⅱ	
94G	ST03	残786	残1107				ⅢD15n-	古墳Ⅱ	
94G	ST04	1188	残1627				ⅢD17o-	古墳Ⅱ	
94G	ST05	1138	残1693				ⅢD15m-	古墳Ⅱ	
94G	ST06	残816	残753				ⅢD18n-	古墳Ⅱ	
94G	ST07	残1371	残1541				ⅢD16l-	古墳Ⅱ	
94G	ST08	残300	残145				ⅢE20c-	古墳Ⅰ	
94G	ST09	残670	376				ⅢE19c-	古墳Ⅰ	
94G	ST10	残575	343				ⅢE19b-	古墳Ⅰ	
94G	ST11	残1127	339				ⅢD20t-	古墳Ⅰ	
94G	ST12	残1350	332				ⅢD19t-	古墳Ⅰ	
94G	ST13	残240	残149				ⅢD20s	古墳Ⅰ	
94G	ST14	残880	残117				ⅢD19t-	古墳Ⅰ	
94G	ST15	255	317				ⅢE19b-	古墳Ⅰ	
94G	ST16	629	207				ⅢE19c-	古墳Ⅰ	
94G	ST17	588	213				ⅢE18c-	古墳Ⅰ	
94G	ST18	626	329				ⅢE18b-	古墳Ⅰ	
94G	ST19	561	237				ⅢE18b-	古墳Ⅰ	
94G	ST20	542	274				ⅢE17b-	古墳Ⅰ	
94G	ST21	731	233				ⅢE18d-	古墳Ⅰ	
94G	ST22	1312	257				ⅢE17e-	古墳Ⅰ	
94G	ST23	1317	270				ⅢE16e-	古墳Ⅰ	
94G	ST24	363	323				ⅢE17c-	古墳Ⅰ	
94G	ST25	432	172				ⅢE17c-	古墳Ⅰ	
94G	ST26	452	260				ⅢE17b-	古墳Ⅰ	
94G	ST27	620	235				ⅢE17e-	古墳Ⅰ	
94G	ST28	残394	残230				ⅢE16f-	古墳Ⅰ	
94G	ST29	418	220				ⅢE16f-	古墳Ⅰ	
94G	ST30	370	310				ⅢE17c-	古墳Ⅰ	
94G	ST31	残180	残88				ⅢE17d	古墳Ⅰ	
94G	ST32	残86	197				ⅢE17c	古墳Ⅰ	
94G	ST33	残114	残113				ⅢE17c	古墳Ⅰ	
94G	ST34	残385	残168				ⅢE16e-	古墳Ⅰ	
94G	ST35	481	363				ⅢD15p-	古墳Ⅰ	
94G	ST36	454	263				ⅢD16p-	古墳Ⅰ	
94G	ST37	604	327				ⅢD16p-	古墳Ⅰ	
94G	ST38	562	268				ⅢD16q-	古墳Ⅰ	
94G	ST39	481	330				ⅢD16p-	古墳Ⅰ	
94G	ST40	425	320				ⅢD17p-	古墳Ⅰ	
94G	ST41	545	292				ⅢD15r-	古墳Ⅰ	
94G	ST42	613	278				ⅢD16r-	古墳Ⅰ	
94G	ST43	残50	残70				ⅢD15p-	古墳Ⅰ	
94G	ST44	449	330				ⅢD16o-	古墳Ⅰ	
94G	ST45	残299	292				ⅢD17p-	古墳Ⅰ	
94G	ST46	残519	残225				ⅢD17q-	古墳Ⅰ	
94G	ST47	502	残283				ⅢD17q-	古墳Ⅰ	
94G	ST48	残302	309				ⅢD17p-	古墳Ⅰ	
94G	ST49	残294	260				ⅢD17o-	古墳Ⅰ	
94G	ST50	残79	305				ⅢD15q-	古墳Ⅰ	
94G	ST51	残457	残167				ⅢD15r-	古墳Ⅰ	
94H	SD02	残912	50	5			I E18r-		
94H	SD03	残742	60	14			I E18r-		
94H	SB01	379	残360	10			I E13q-	古代Ⅱ	
94H	SB02	428	残163	8			I E14q-	古代Ⅲ	
94H	ST06	残570	残143				I E14q-	古墳Ⅰ	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
94H	ST07	578	284				I E15q-	古墳 I	
94H	ST08	485	290				I E15r-	古墳 I	
94H	ST09	残230	300				I E16r-	古墳 I	
94H	ST10	残359	276				I E16q	古墳 I	
94H	ST11	489	278				I E16q-	古墳 I	
94H	ST12	468	315				I E16r-	古墳 I	
94H	ST13	478	残103				I E17r-	古墳 I	
94H	ST14	100	残143				I E17q	古墳 I	
94H	ST15	554	300				I E17q-	古墳 I	
94H	ST16	510	残250				I E18q-	古墳 I	
94H	ST17	残74	残56				I E18q	古墳 I	
94H	ST18	残86	残200				I E18q-	古墳 I	
94J	SD01-NS	残2550	257	33	屈曲	U字	ⅢE5t-	中世Ⅳ	
94J	SD01-WE	残946	111	22	屈曲		ⅢF9c-	中世Ⅳ	
94J	SD02	残997	89	21			ⅢF11d-	中世Ⅲ～Ⅳ	
94J	SD03	残3314	162	18			ⅢE13t-	中世Ⅲ～Ⅳ	
94J	SD06-NS	残1330	70	12	屈曲		ⅢF6b-	中世Ⅱ	
94J	SD06-WE	残858	58	13	屈曲		ⅢF9c-	中世Ⅱ	
94J	SD07-NS	残2435	224	65	屈曲		ⅢF4a-	中世Ⅱ～Ⅲ	
94J	SD07-WE	残774	161	42	屈曲		ⅢF8c-	中世Ⅱ～Ⅳ	
94J	SD08	残1447	62	15			ⅢE8s-	中世Ⅱb	
94J	SD09	残741	64	?			ⅢE5q-	中世Ⅲ	
94J	SD10	残285	88	?			ⅢE5q-	中世Ⅱb	
94J	SD11	残705	140	残19			ⅢF8d-	中世Ⅲ	
94J	SD12-NS	残3664	349	95	屈曲		ⅢE4r-	中世Ⅲ～Ⅳ	
94J	SD12-WE	残1105	残290	92	屈曲		ⅢF9c-	中世Ⅲ～Ⅳ	
94J	SD14	残2244	185	57			ⅢF4b-	中世Ⅱb	
94J	SD17	残5027	759	149	—		ⅢE8t-	古代Ⅱ	
94J	SD18	残3882	435	99	—		ⅢE12t-	古代Ⅱ	
94J	SD20	残707	102	35	—		ⅢE4t-	中世Ⅰ	
94J	SB01	残640	残425	4			ⅢE4r-	古代	
94J	SK15	390	339	27	不定形		ⅢE8s-	中世Ⅲ	
94J	SK42	191	133	24	不定形		ⅢF7c-	中世Ⅳ	
94J	SK45	320	268	17	方形		ⅢF6c-	中世Ⅲ	
94J	SK51	455	435	178	方形		ⅢF6c-	中世Ⅲ	井戸（曲物）
94J	SK64	179	159	90	楕円形		ⅢF5b	中世Ⅲ	
94J	SK75	236	197	144	不定形		ⅢE11t	中世Ⅱb	井戸
94J	SK84	620	140		不定形		ⅢE8t-	中世Ⅱa	井戸
94J	SK85-1/2	残623?	残173?	残199			ⅢE7t-	中世Ⅱ	井戸
94J	SK94	157	147	79	楕円形		ⅢF6a-	中世Ⅳ	亀遺体
94J	SK97	164	153	81	楕円形		ⅢF12a-	中世0	井戸、墨書土器
94J	SK101	185	177	55	円形		ⅢF11a-	中世0	井戸
94J	ST01	残266	残322		—		ⅢE5q-	古墳 I	
94J	ST02	414	残518		方形		ⅢE4q-	古墳 I	
94J	ST03	残223	残306		—		ⅢE4r-	古墳 I	
94J	ST04	残216	残262		—		ⅢE6q-	古墳 I	
94J	ST05	429	414		方形		ⅢE5q-	古墳 I	
94J	ST06	388	390		方形		ⅢE5r-	古墳 I	
94J	ST07	444	353		方形		ⅢE4r-	古墳 I	
94J	ST08	残222	残265		—		ⅢE4s-	古墳 I	
94J	ST09	残306	残146		—		ⅢE6q-	古墳 I	
94J	ST10	512	残220		—		ⅢE6r-	古墳 I	
94J	ST11	313	残262		—		ⅢE5s-	古墳 I	
94J	ST12	455	残280		—		ⅢE4s-	古墳 I	
94J	ST13	210	残287		—		ⅢE4t-	古墳 I	
94J	ST14	残430	残260		—		ⅢE4t-	古墳 I	
94J	ST15	残150	残83		—		ⅢE13r	古墳 I	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
94 J	ST16	482	残120		—		ⅢE12r-	古墳 I	
94 J	ST17	462	残184		—		ⅢE12s	古墳 I	
94 J	ST18	642	残147		—		ⅢE11t-	古墳 I	
94 J	ST19	残332	残54		—		ⅢE10t-	古墳 I	
94 J	ST20	620	300		—		ⅢE13r-	古墳 I	
94 J	ST21	482	178		方形		ⅢE12s-	古墳 I	
94 J	ST22	475	残255		—		ⅢE12s-	古墳 I	
94 J	ST23	430	238		方形		ⅢE12s-	古墳 I	
94 J	ST24	699	270		方形		ⅢE11t-	古墳 I	
94 J	ST25	522	304		方形		ⅢF10a-	古墳 I	
94 J	ST26	残395	残290		—		ⅢF9a-	古墳 I	
94 J	ST27	残717	残347		—		ⅢF8b-	古墳 I	
94 J	ST28	690	残286		—		ⅢF7c-	古墳 I	
94 J	ST29	残180	残255		—		ⅢF7d	古墳 I	
94 J	ST30	残339	残120		—		ⅢE12t-	古墳 I	
94 J	ST31	719	残250		—		ⅢE11t-	古墳 I	
94 J	ST32	592	260		方形		ⅢF10a-	古墳 I	
94 J	ST33	残410	243		—		ⅢF10b	古墳 I	
94 J	ST34	残548	残200		—		ⅢF9c	古墳 I	
94 J	ST35	残795	320		—		ⅢF8c-	古墳 I	
94 J	ST36	残360	残152		—		ⅢF11b	古墳 I	
94 J	ST37	443	残135		—		ⅢF10b-	古墳 I	
94 J	ST38	残210	残200		—		ⅢE13b	古墳 I	
94 J	ST39	366	残294		—		ⅢF13c	古墳 I	
94 J	ST40	479	残235		—		ⅢF12c-	古墳 I	
94 J	ST41	残370	残128		—		ⅢF12d	古墳 I	
94 J	ST42	残505	310		—		ⅢF13c-	古墳 I	
94 J	ST43	476	339		方形		ⅢF12d-	古墳 I	
94 J	ST44	残284	残255		—		ⅢF12d-	古墳 I	
94 J	ST45	残160	残173		—		ⅢF13d-	古墳 I	
94 J	ST46	残325	残262		—		ⅢF13d-	古墳 I	
94 J	SX01	残1490	残159	残140			ⅢF4a-	中世 I ~ II a	墨書土器、刀子
94 K L	SD01	残2006	138	16			VD19b-	中世 I	
94 K L	SD03	283	70	15		皿状	IVD20r-		
94 K L	SD04	残3994	137	32		U字	IVD17t-	中世 I	
94 K L	SD05	残1513	86	17		皿状	IVE18e-	中世 I	
94 K L	SD06	残1072	50	8		皿状	IVD19r-	中世 II	
94 K L	SD07	残1528	173	11	湾曲	皿状	IVD18r-	中世	
94 K L	SD08	残224	81	22		皿状	IVD18n	中世 I	
94 K L	SD10-NS	残795	65	6	屈曲		IVD18r-	中世 II b ~ III	
94 K L	SD10-WE	残2258	120	28	屈曲		IVD19m-	中世 II b ~ III	
94 K L	SD12	残821	67	8		皿状	IVD20m-	中世 I	
94 K L	SD14	残1738	172	49			IVD19m-	中世 II b ~ III	
94 K L	SD15	残1582	90	14	湾曲	皿状	IVE19g-		
94 K L	SD17	残2302	119	31			IVD18m-	中世 I	
94 K L	SD18	残1525	67	19		皿状	IV17m-	中世 II b ~ III	
94 K L	SD20	残1517	残140	残9			VD21-	中世 III	
94 K L	SD21	残481	残52	9			IVE19g-	中世 0	
94 K L	SD22	559	87	24		皿状	IVE17e-	中世 I	
94 K L	SD23	残1042	89	25	湾曲	箱状	IVE16g-	中世	
94 K L	SD24	残2586	178	39	湾曲	皿状	IVD13s-	中世 II	
94 K L	SD25	残1048	130	12	湾曲	皿状	IVD14r-	中世 I	
94 K L	SD26	926	102	21		皿状	IVD14r-	中世 I	
94 K L	SD27	1807	125	27	湾曲	皿状	IVD13q-	中世	
94 K L	SD28	残6082	620	96			IVD14t-	古代 I	
94 K L	SD29	残5200	残585	残111			IVD19t-	古代 I	
94 K L	SD30	残3537	289	45	2本?		IVD13p-	古代 I	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備 考
94 K L	SD31						ⅣD19t-	古代 I	
94 K L	SK02	残287	274	79			ⅣD18m-		
94 K L	SK04	357	169	17	不定形	皿状	ⅣE20c-	中世Ⅳ	
94 K L	SK09	472	251	129	不定形		ⅣD1n-	中世Ⅳ	
94 K L	SK10	153	141	39	楕円形		ⅣD2q	中世Ⅱ b	
94 K L	SK11	252	202	80	楕円形		ⅣD20q	中世Ⅳ	
94 K L	SK13	299	285	62	不定形		ⅣD18r-	中世Ⅳ	
94 K L	SK14-A	345	264	112	楕円形		ⅣD17q-	中世Ⅳ	
94 K L	SK14-B	478	116	9			ⅣD2o-	中世Ⅳ	
94 K L	SK15-A	363	241	89	不定形		ⅣD16t	中世Ⅳ	
94 K L	SK15-B	350	178	46			ⅣD16q		
94 K L	SK16	263	141	109	楕円形		ⅣD17t-	中世Ⅲ	
94 K L	SK17	残306	残91	残28	不定形	皿状	ⅣE18b-	中世Ⅱ a	
94 K L	SK20	227	150	32	方形	皿状	ⅣD1o		
94 K L	SK27	406	71	6	方形	皿状	ⅣE2e-	中世Ⅳ	
94 K L	SK29	239	199	66	不定形		ⅣE19d-	中世 0	
94 K L	SK30	227	207	55	楕円形		ⅣD18n-	中世Ⅳ	
94 K L	SK32-B	162	123	25			ⅣD19s-		
94 K L	SK36	217	194	50	楕円形		ⅣD11m	中世Ⅳ	
94 K L	SK39	214	150	54	楕円形	皿状	ⅣD17t-	中世 I	
94 K L	SK40	473	315	118	不定形		ⅣD13t-	中世Ⅳ	
94 K L	SK41	483	—	30	不定形	皿状	ⅣD1p-	中世Ⅲ	
94 K L	SK43	289	残167	31		皿状	ⅣD17t-	中世Ⅱ a	
94 K L	SK48	残320	残65	残9			ⅣD18o	中世Ⅱ b	
94 K L	SK52	残445	161	12	不定形	皿状	ⅣD17r-	中世Ⅱ	
94 K L	SK56 ?	122	推118	44	円形		ⅣE13h	中世 I	土器溜まり
94 K L	NR01	残4826	945	残149			ⅣD13r-	古代 I	
94Ma	SD01	残1754	残616	91			ⅡE12t-	古代Ⅱ～Ⅲ a	
94Ma	SD02-NS	残1373	83	24	屈曲		ⅡF16a-	中世Ⅱ b	
94Ma	SD02-WE	残530	74	21	屈曲		ⅡF16a-	中世Ⅱ b	
94Ma	SD03	残1348	81	34			ⅡF16a-	中世Ⅱ b	
94Ma	SD05	残660	153	30			ⅡF16c-	中世Ⅱ b	
94Ma	SD06	残353	75	24			ⅡF16a-	中世Ⅲ	
94Ma	SD07	残580	40	20			ⅡF15c-	中世Ⅱ b	
94Ma	SD08	残283	42	8			ⅡF15c-	中世Ⅱ	
94Ma	SD10	残2860	137	60	湾曲	椀	ⅡE16t-	古代 I	
94Ma	SD11	残725	残329	残62			ⅡF17d-	古代Ⅲ	
94Ma	SK04	207	143	28	楕円形		ⅡF17c-	中世Ⅳ	
94Ma	SK10	481	残172	11	不定形		ⅡF17d-	中世Ⅳ	廃棄土坑
94Ma	SK16	残200	147	24	楕円形		ⅡF17a-	中世Ⅳ	
94Ma	ST01	687?	残360				ⅡF13a-	古墳 I	
94Ma	ST02	残300	残300				ⅡF13a-	古墳 I	
94Ma	ST03	残277	残129				ⅡF13b	古墳 I	
94Ma	ST04	残178	残67				ⅡF13b-	古墳 I	
94Ma	ST05	残72	残38				ⅡF12c-	古墳 I	
94Ma	ST06	残680	残702				ⅡE15t-	古墳 I	
94Ma	ST07	残688	474				ⅡE15t-	古墳 I	
94Ma	ST08	398	残247				ⅡF15a-	古墳 I	
94Ma	ST09	309	残615				ⅡF14a-	古墳 I	
94Ma	ST10	340	残593				ⅡF13b-	古墳 I	
94Ma	ST11	293	残593				ⅡF13b-	古墳 I	
94Ma	ST12	295	残417				ⅡF13b-	古墳 I	
94Ma	ST13	残338	残350				ⅡF12c-	古墳 I	
94Ma	ST14	?	残232				ⅡF15b	古墳 I	
94Ma	ST15	219	残647				ⅡF14b-	古墳 I	
94Ma	ST16	369	残677				ⅡF14c-	古墳 I	
94Ma	ST17	残290	残188				ⅡF14c-	古墳 I	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
94Ma	ST19	?	163				ⅡE18t	古墳Ⅰ	
94Ma	ST20	残257	残190				ⅡE18t-	古墳Ⅰ	
94Ma	ST21	343	残465				ⅡF18a-	古墳Ⅰ	
94Ma	ST22	残369	残480				ⅡF18a-	古墳Ⅰ	
94Ma	ST23	430	残760				ⅡF17c-	古墳Ⅰ	
94Ma	ST24	276	残1029				ⅡF16c-	古墳Ⅰ	
94Ma	ST25	260	残500				ⅡF15c-	古墳Ⅰ	
94Ma	ST26	残252	残185				ⅡF15c-	古墳Ⅰ	
94Mb	SD01	残1111	100	32	湾曲		ⅢE2r-	中世Ⅳ	
94Mb	SD04	残785	110	40			ⅢF1a-	中世Ⅰ	
94Mb	SD05	残508	残167	54			ⅢE3r-	中世Ⅲ	区画6
94Mb	SD06	残770	85	53			ⅢF1a-	中世Ⅱ	
94Mb	SD07-NS	残452	33	15	屈曲		ⅢF3b-	中世	
94Mb	SD07-WE	残345	39	23			ⅢF3b	中世	
94Mb	SD09	残2333	746	38			ⅡE20r-	古代Ⅱ～Ⅲb	溝E
94Mb	SD10-NS	残983	107	38	屈曲		ⅢF2a-	中世Ⅱ	
94Mb	SD10-WE	残555	62	18			ⅢF2a-	中世Ⅱ	
94Mb	SD12	残365	67	16			ⅡF20a-	中世Ⅰ	
94Mb	SB01	503	残405	26	方形		ⅢE3s-	古代Ⅱ	
94Mb	SB02	残229	残221	21	—		ⅢF2a-	古代Ⅱ	
94Mb	SB03	507	501	24	方形		ⅢF2a-	古代Ⅱ	
94Mb	SB04	残257	残235	17	—		ⅢE2s-	古代Ⅱ	
94Mb	SB05	残318	残237	17	—		ⅢE2s-	古代Ⅱ	
94Mb	SK03	273	203	残140	楕円形		ⅢF2b-	中世Ⅲ	井戸,曲物
94Mb	SK05	138	122	74	楕円形		ⅢF1a	中世Ⅰ	井戸
94Mb	ST27	残227	残227		—		ⅢE3s-	古墳Ⅰ	
94Mb	ST28	698	残366				ⅢE2s-	古墳Ⅰ	
94Mb	ST29	残408	残200				ⅢE2t	古墳Ⅰ	
94Mb	ST30	268	277				ⅢE3s-	古墳Ⅰ	
94Mb	ST31	666	280				ⅢE2t-	古墳Ⅰ	
94Mb	ST32	372	残170				ⅢE2t	古墳Ⅰ	
94Mb	ST33	405	残98		—		ⅢF1a-	古墳Ⅰ	
94Mb	ST34	残166	残180		—		ⅢE4s	古墳Ⅰ	
94Mb	ST35	327	残206				ⅢE3t-	古墳Ⅰ	
94Mb	ST36	?	残202		—		ⅢE3t	古墳Ⅰ	
94Mb	ST37	残227	残140				ⅢF2a	古墳Ⅰ	
94Mb	ST38	残460	残380				ⅢF1a-	古墳Ⅰ	
94N	SD01	残676	残335	残48			ⅢE8j-	古代Ⅱ～Ⅲb	溝E
94N	SD03	残1295	53	13			ⅢE9l-	中前	
94N	SD04	残1788	80	21			ⅢE9m-	中世Ⅲ	
94N	SD05	残1844	150	55	蛇行		ⅢE10l-	中世Ⅲ	
94N	SD06	残2148	66	21			ⅢE10m-	中世Ⅱa	
94N	SD07	残906	52	17	蛇行		ⅢE8o-	中世Ⅲ	
94N	SD08-NS	残671	48	11	屈曲		ⅢE8p-	中世Ⅲ	
94N	SD08-WE	1440	107	32	屈曲		ⅢE9n-	中世Ⅲ	
94N	SD09	399	50	14			ⅢE13j-	中世	
94N	SD11	残483	37	8	湾曲		ⅢE9m-	中世Ⅲ	
94N	SD20	残1766	747	148	—		ⅢE11q-	古代Ⅰ	溝D
94N	SD21	残3409	160	48	—		ⅢE10q-	古代Ⅰ	溝A
94N	SE01	204	187	47	楕円形		ⅢE12k-	中世	井戸
94N	SK02	163	142	52	楕円形		ⅢE8m-	中世	埋土斑土
94N	SK03	234	211	128	楕円形		ⅢE10m-	中世Ⅲ	井戸
94N	SK29	179	156	67(?)	楕円形		ⅢE14n	中世	
94N	SK59	196	176	67	円形		ⅢE14n	中世	
94N	ST01	残122	残139		—		ⅢE8l	古墳Ⅰ	
94N	ST02?	154	残252		—		ⅢE8k-	古墳Ⅰ	
94N	ST03	1134	残530		—		ⅢE8j-	古墳Ⅰ	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
94N	ST04	残179	残182		—		ⅢE10j	古墳Ⅰ	
94N	ST05	332	467		—		ⅢE8l-	古墳Ⅰ	
94N	ST06	426	451		方形		ⅢE8l-	古墳Ⅰ	
94N	ST07	300	437		方形		ⅢE9k-	古墳Ⅰ	
94N	ST08	426	437		方形		ⅢE9k-	古墳Ⅰ	
94N	ST09	293	399		—		ⅢE10j-	古墳Ⅰ	
94N	ST10	残111	残369		—		ⅢE8n-	古墳Ⅰ	
94N	ST11	194	560		—		ⅢE8m-	古墳Ⅰ	
94N	ST12	539	535		方形		ⅢE8m--	古墳Ⅰ	
94N	ST13	746	526		方形		ⅢE9l-	古墳Ⅰ	
94N	ST14	465	510		—		ⅢE10k-	古墳Ⅰ	
94N	ST15	306	残605		—		ⅢE10k-	古墳Ⅰ	
94N	ST16	残109	残167		—		ⅢE8o	古墳Ⅰ	
94N	ST17	144	残158		—		ⅢE8n-	古墳Ⅰ	
94N	ST18	551	残294		—		ⅢE9n-	古墳Ⅰ	
94N	ST19	残754	残273		—		ⅢE9m-	古墳Ⅰ	
95Aa	SD01	863	47	10			ⅣD1m-	中世Ⅳ	
95Aa	SD02	残1170	60	23			ⅢD20m-	中世Ⅳ	
95Aa	SD03	512	102	24			ⅣD3s-	中世Ⅳ	
95Aa	SD07	608	66	16			ⅣD1o-	中世Ⅳ	
95Aa	SD08	1600	68	20			ⅣD2o-	中世Ⅳ	
95Aa	SD10	767	64	13	蛇行		ⅣD2o-	中世Ⅲ～Ⅳ	
95Aa	SD11	490	55	17			ⅣD3q-	中世Ⅳ	
95Aa	SD13	626	80	19	蛇行		ⅣD3p-	中世Ⅳ	
95Aa	SD15	残1808	36	7			ⅣD7r-	中世	
95Aa	SD16	残2977	46	10			ⅣD5t-	中世	
95Aa	SD17	残4096	66	15			ⅣD6t-	中世	
95Aa	SD18	残3654	110	17			ⅣD7s-	中世	
95Aa	SD20	残1656	60	12			ⅣD9r-	中世	
95Aa	SD23-B	残4732	68	27			ⅣD5t-	中世Ⅲ	
95Aa	SD24	残1390	40	21			ⅣD10p-	中世	
95Aa	SD31	残810	90	14			ⅣD10t-	中世	
95Aa	SD101	残3580	1107	263			ⅢD20q-	古代Ⅱ～Ⅲb	
95Aa	SD102 ?	残496	170	—			ⅣD12t-	中世Ⅱ	
95Aa	SD106 ?	残1163	残560	154			ⅣD11t-	古代Ⅰ	溝D
95Aa	SD201	残260	75	15			ⅣD12r-	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Aa	SD202	400	30	5			ⅣD11s-	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Aa	SK23	156	139	112			ⅣD5p-	中世Ⅱb	
95Aa	SK24	170	167	16			ⅣD5p-	中世Ⅲ	
95Aa	SK25	162	133	70			ⅣD3n-	中世Ⅳ	井戸、内耳鍋
95Aa	SK26	194	180	126			ⅣD4n	中世Ⅳ	井戸、内耳鍋
95Aa	SK34-A	127	122	95			ⅣD6r-	中世Ⅳ	
95Aa	SK44	490	90	23			ⅣD2p-	中世Ⅳ	
95Aa	SK55	480	404	193			ⅣD1p-	中世Ⅰ	SK45,井戸,曲物
95Aa	SK56	422	374	178	不定形		ⅣD4o-	中世Ⅱa	井戸
95Aa	SK122	150	104	15			ⅣD2n	古代Ⅰ	
95Aa	SK201	64	60	26			ⅣD11t	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Aa	SK202	残213	—	残9	不定形		ⅣD11r	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Aa	SK203	136	94	68			ⅣD10s-	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Aa	SK204	残348	222	104	不定形		ⅣD10t	古墳Ⅰ～Ⅱ	井戸
95Aa	SK205	76	64	20	不定形		ⅣD10t-	古墳Ⅰ～Ⅱ	井戸
95Aa	P01B	30	20	L=771	不定形		ⅣD11t	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Aa	P02B	23	21	L=757			ⅣD11t	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Aa	P03B	20	18	L=765			ⅣD11t	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Aa	P04B	23	20	L=765			ⅣD11t	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Aa	P05	38	30	L=762			ⅣD11t	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Aa	P06	24	21	L=774			ⅣD11t	古墳Ⅰ～Ⅱ	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
95Aa	ST01	残490	残386				ⅢD20s-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST02	残442	344				ⅣD1s-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST03	残186	残300				ⅣD2t	古墳Ⅰ	
95Aa	ST04	483	残324				ⅣD1r-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST05	534	418				ⅣD2s-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST06	414	残345				ⅣD2s-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST07	527	344				ⅣD2r-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST08	648	454				ⅣD3r-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST09	206	残180				ⅣD3t	古墳Ⅰ	
95Aa	ST10	726	残522				ⅣD3q-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST11	668	414				ⅣD4r-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST12	628	270				ⅣD4s-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST13	残408	317				ⅣD4s-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST14	704	275				ⅣD5s-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST15	残164	残134				ⅣD5t	古墳Ⅰ	
95Aa	ST16	700	残303				ⅣD6o-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST17	残734	298				ⅣD6p-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST18	残552	492				ⅣD6p-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST19	残548	残653				ⅣD6r-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST20	残646	残256				ⅣD6o-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST21	526	266				ⅣD6o-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST22	565	414				ⅣD6p-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST23	残255	204				ⅣD7o-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST24	217	456				ⅣD7o-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST25	430	残282				ⅣD8o-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST26	1126	310				ⅣD7p-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST27	1012	残495				ⅣD9p-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST28	残942	残288				ⅣD8o-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST29	679	302				ⅣD9o-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST30	742	290				ⅣD9p-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST31	残448	残246				ⅣD9p-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST32	474	375				ⅣD10n-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST33	456	残350				ⅣD10o-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST34	残612	残508				ⅣD11n-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST35	残750	残178				ⅣD11o-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST36	残468	残200				ⅣD6t	古墳Ⅰ	
95Aa	ST37	660	244				ⅣD3s-	古墳Ⅰ	
95Aa	ST38	636	324				ⅣD5s-	古墳Ⅰ	
95Aa	SZ01	1274	—	—			ⅢD20m-	古代Ⅰ	
95Abc	SD02 ?						ⅣE2f	中世Ⅱ～Ⅳ	
95Abc	SD04	残2379	290	43	屈曲		ⅣE1e-	中世Ⅱb	
95Abc	SD05	残1296	43	11			ⅣE8b-	中世	
95Abc	SD06	残2268	214	61			ⅣE8b-	中世Ⅱb	
95Abc	SD07	残2032	45	11			ⅣE8b-	中世	
95Abc	SD31	残1066	50	6			ⅣD4t-	中世	
95Abc	SD51	残4860	684	117			ⅣE5h-	古代Ⅰ	溝C
95Abc	SD52	残7065	870	184			ⅣE1h-	古代Ⅰ	溝D
95Abc	SD55	残4720	589	114			ⅢE20f-	古代Ⅰ	
95Abc	SD205	残936	82	23				古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Abc	SD206	残1270	153	17	二股			古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Abc	SB01	572	382	—			ⅣE8a	中世Ⅳ	礎板
95Abc	SB101	残150	残50	—			ⅣE5b-	古墳Ⅱ	
95Abc	SB102	残150	残50	—			ⅣE5b-	古墳Ⅱ	
95Abc	SE01	217	200	109			ⅣE5a	中世Ⅳ	曲物
95Abc	SX02						ⅣE5e-	中世	昆虫遺骸集中地点
95Abc	SK03	639	454	119			ⅣE7a-	中世Ⅳ	
95Abc	SK05	448	364	112			ⅣE4b-	中世Ⅲ	井戸

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
95Abc	SK07	89	85	8			IVD3t	中世	
95Abc	SK11	117	104	120	不定形		IVE2a-	中世Ⅳ	井戸
95Abc	SK12	150	103	88			IVE3d-	中世Ⅳ	
95Abc	SK102	235	230	88			IVE10c-	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Abc	SK103	176	165	75			IVE9d-	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Abc	SK104	残296	238	60	不定形		IVE8b-	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Abc	SK105	残132	114	70			IVE8a-	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Abc	SK106	65	61	18			IVE9a	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Abc	SK107	65	67	28			IVE9b	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Abc	SK108	181	残130	71			IVE9b-	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Abc	SK109	170	74	18			IVE10b	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Abc	SK110	167	124	60			IVE9a	古墳Ⅰ	
95Abc	SK111	130	残107	37			IVE9a-	古墳Ⅰ	
95Abc	SK112	97	59	44			IVE11b	古墳Ⅰ～Ⅱ	
95Abc	P52	96	80				IVE10b	古墳Ⅱ	
95Abc	ST101	残416	残220				IVD1t-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST102	残371	残212				IVD2t-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST103	残222	232				IVE1b	古墳Ⅰ	
95Abc	ST104	260	230				IVE1a-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST105	624	234				IVD2t-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST106	残180	残130				IVD3t-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST107	残820	264				IVE1b-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST108	残1087	312				IVD3t-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST109	残328	260				IVE1c-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST110	491	288				IVE1b-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST111	793	324				IVE2b-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST112	残943	292				IVE3a-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST113	残485	312				IVE1c-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST114	554	318				IVE1c-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST115	524	320				IVE2b-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST116	残1427	230				IVE3b-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST117	残655	残135				IVE1d-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST118	残401	残277				IVE7h-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST119	残321	残212				IVE8g-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST120	残773	残382				IVE8g-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST121	263	213				IVE8h-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST122	残43	残30				IVE9h	古墳Ⅰ	
95Abc	ST123	残75	残45				IVE9h	古墳Ⅰ	
95Abc	ST124	401	341				IVE9g-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST125	853	260				IVE9f-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST126	残26	残25				IVE10f	古墳Ⅰ	
95Abc	ST127	残612	468				IVE10e-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST128	545	478				IVE10f-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST129	635	388				IVE10g-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST130	残565	308				IVE10h-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST131	544	305				IVE11f-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST132	664	394				IVE11e-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST133	-	残89				IVE12e	古墳Ⅰ	
95Abc	ST134	残67	残157				IVE12e-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST135	572	211				IVE12e-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST136	626	213				IVE11g-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST137	残240	219				IVE11h	古墳Ⅰ	
95Abc	ST138	残181	209				IVE11h-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST139	614	263				IVE12g-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST140	578	284				IVE12f-	古墳Ⅰ	
95Abc	ST142	残651	残220				IVE13g-	古墳Ⅰ	
95Abc	SX01	442	残375	74	不定形		IVE7a-		

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備 考
95A bc	NR01			85			ⅣE12h	古代Ⅰ	
95Ba	SD01	残3566	550	34			ⅢE16n-	中世Ⅲ～Ⅳ	
95Ba	SD02	残3469	65	41			ⅢE16p-	中世Ⅲ～Ⅳ	
95Ba	SD03	残2669	183	?			ⅢE16o-	中世Ⅲ～Ⅳ	
95Ba	SD04	残2025	37	10			ⅢE16n-	中世Ⅱ～Ⅲ	
95Ba	SD08	残3247	90	43			ⅢE16o-	中世Ⅱ	
95Ba	SD09	残3328	297	81			ⅣE2k-	中世Ⅱ～Ⅳ	
95Ba	SD10	残1463	149	24			ⅣE6o-	中世Ⅱ	
95Ba	SD201	残4951	706	193			ⅢE16o-	古代Ⅰ	溝C
95Ba	SD202	残3212	933	218			ⅢE16l-	古代Ⅰ	溝D
95Ba	SE01	132	93	134			ⅢE19p	中世Ⅳ	結桶
95Ba	SK01	273	141	93	長方形		ⅢE18l	中世Ⅲ	
95Ba	SK02	149	129	78	長方形		ⅢE16n-	中世Ⅲ	
95Ba	SK03	196	158	70			ⅢE17n	中世Ⅲ	
95Ba	SK04	257	236	75			ⅢE17n	中世Ⅲ	
95Ba	SK05	172	残162	85			ⅢE16q-	中世Ⅲ	
95Ba	SK06	106	76	21			ⅢE17q	中世	
95Ba	SK40	283	残233	86			ⅣE8n-	中世Ⅲ	
95Ba	SK41	98	50	?			ⅣE7m	中世	
95Ba	SK43	215	143	40	不定形		ⅣE7m	中世Ⅲ	
95Ba	SK44	117	101	25			ⅣE7lm	中世	
95Ba	NR201	—	—	残203			ⅢE19q-	古代Ⅰ	
95Bb	SD01	残2215	173	25			ⅣE7k-	中世Ⅱ～Ⅲ	
95Bb	SD03	残1725	163	5	蛇行		ⅣE8k-	中世Ⅱ～Ⅲ	
95Bb	SD04	残918	170	22	湾曲		ⅣE9k-	中世Ⅲ	
95Bb	SD06西側	残431	70	6	二股		ⅣE9l-	中世	
95Bb	SD06東側	残622	63	28	二股		ⅣE9l-	中世	
95Bb	SD07	残162	80	6			ⅣE9k		
95Bb	SD17	残493	116	25			ⅣE8k-		
95C	SD01	175	40	7		皿	ⅢD18i	中世Ⅳ	
95C	SD02	残470	54	20		皿	ⅢD17h-	中世Ⅳ	
95C	SD03	464	34	10		皿	ⅢD17h-	中世Ⅳ	
95C	SD04	残836	92	21		皿	ⅢD16h-	中世Ⅳ	桃の種多く含む
95D	SD01-A	残1430	133	36			ⅢD8f-	中世Ⅱ～Ⅲ	
95D	SB01	345	残174	23			ⅢD9d-	古代Ⅲ	
95D	SB02	307	218	21			ⅢD9d-	古代Ⅲ	
95D	SB03	残239	233	25			ⅢD10d-	古代Ⅲ	
95D	SB04 ?						ⅢD9d	古代Ⅲ	
95D	ST07	残322	残194				ⅢD7c-	古墳Ⅰ	
95D	ST08	残387	289				ⅢD7c-	古墳Ⅰ	
95D	ST09	残460	258				ⅢD7d-	古墳Ⅰ	
95D	ST10	残523	325				ⅢD8d-	古墳Ⅰ	
95D	ST11	635	333				ⅢD7d-	古墳Ⅰ	
95D	ST12	残662	331				ⅢD8d-	古墳Ⅰ	
95D	ST13	636	320				ⅢD7e-	古墳Ⅰ	
95D	ST14	残294	残233				ⅢD7f	古墳Ⅰ	
95D	ST15	600	353				ⅢD9d-	古墳Ⅰ	
95D	ST16	701	350				ⅢD8e-	古墳Ⅰ	
95D	ST17	残395	残590 ?				ⅢD7f-	古墳Ⅰ	
95D	ST18	残531	288				ⅢD9e-	古墳Ⅰ	
95D	ST19	653	341				ⅢD8f-	古墳Ⅰ	
95E	SD05	残5557	残677	116		箱	ⅡD2o-	中世Ⅱ～Ⅳ	
95E	SE01	残450	435	93			ⅡD13p-	中世0	
95E	SK01	150	141	38	円形	箱	ⅡD6m-	中世	井戸
95E	SK05	283	247	223	楕円形	皿	ⅡD9o-	中世Ⅰ	井戸
95E	SK12	残104	94	11	隅丸方形	皿	ⅡD7n	中世Ⅲ	
95E	SK13	168	154	21	円形	皿	ⅡD8m-	中世	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備 考
95 F	SD01-NS	残715	93	36	屈曲		Ⅲ E6o-	中世Ⅲ	
95 F	SD01-WE	残914	101	51	屈曲		Ⅲ E5q-	中世Ⅲ	
95 F	SD02	残958	56	22	蛇行,枝別れ		Ⅲ E6o-	中世Ⅲ	
95 F	SD03	残1132	141	48			Ⅲ E5o-	中世Ⅲ	
95 F	SD05	残274	35	11			Ⅲ E3j-	中世	
95 F	SD201	残3608	840	175			Ⅲ E3n-	古代Ⅱ～Ⅲb	
95 F	SD202	残1973	320	86			Ⅲ E3l-	古代Ⅰ	
95 F	SB01	490	残126	10			Ⅲ E6o-	古代Ⅱ	
95 F	SB02	—	—	—			Ⅲ E7p	古代Ⅱ	カト'跡,フ'ラン不明
95 F	SB03	残599	残336	9			Ⅲ E6p-	古代Ⅱ	
95 F	SB04	500	479	11			Ⅲ E4p-	古代Ⅱ	
95 F	SE01	262	233	131			Ⅲ E7m-	中世Ⅲ	
95 F	SE02	524	491	209			Ⅲ E5n-	中世Ⅲ	
95 F	SE03	残98	残74	残60			Ⅲ E6n	中世Ⅲ	
95 F	SK01	282	193	31	不定形		Ⅲ E5l-	中世	
95 F	SK03	198	94	65	長方形		Ⅲ E3o-	中世	
95 F	ST01	残200	残223				Ⅲ E3j-	古墳Ⅰ	
95 F	ST02	残236	残234				Ⅲ E3j-	古墳Ⅰ	
95 F	ST03	残127	残160				Ⅲ E5j	古墳Ⅰ	
95 F	ST04	558	498				Ⅲ E4j-	古墳Ⅰ	
95 F	ST05	480	383				Ⅲ E3k-	古墳Ⅰ	
95 F	ST06	残280	残152				Ⅲ E3k-	古墳Ⅰ	
95 F	ST07	残496	残524				Ⅲ E5j-	古墳Ⅰ	
95 F	ST08	606	残560				Ⅲ E4k-	古墳Ⅰ	
95 F	ST09	620	残860				Ⅲ E3l-	古墳Ⅰ	
95 F	ST10	残370	残370				Ⅲ E3l-	古墳Ⅰ	
95 F	ST11	779	残410				Ⅲ E3m-	古墳Ⅰ	
95 F	ST12	残384	残312				Ⅲ E3n-	古墳Ⅰ	
95 F	ST13	299	残62				Ⅲ E6m	古墳Ⅰ	
95 F	ST14	残135	残54				Ⅲ E6m	古墳Ⅰ	
95 F	ST15	残208	残411				Ⅲ E7l-	古墳Ⅰ	
95 F	ST16	268	残417				Ⅲ E6l-	古墳Ⅰ	
95 F	ST17	262	332				Ⅲ E6m-	古墳Ⅰ	
95 F	ST18	540	520				Ⅲ E5m-	古墳Ⅰ	
95 F	ST19	362	残355				Ⅲ E5n-	古墳Ⅰ	
95 F	ST20	272	残284				Ⅲ E4o-	古墳Ⅰ	
95 F	ST21	324	残200				Ⅲ E4o-	古墳Ⅰ	
95 F	ST22	残398	残150				Ⅲ E4p	古墳Ⅰ	
95 F	ST23	残225	248				Ⅲ E7m-	古墳Ⅰ	
95 F	ST24	281	454				Ⅲ E7m-	古墳Ⅰ	
95 F	ST25	286	446				Ⅲ E7m-	古墳Ⅰ	
95 F	ST26	450	329				Ⅲ E6n-	古墳Ⅰ	
95 F	ST27	296	543				Ⅲ E6o-	古墳Ⅰ	
95 F	ST28	224	558				Ⅲ E5o-	古墳Ⅰ	
95 F	ST29	252	649				Ⅲ E5o-	古墳Ⅰ	
95 F	ST30	318	681				Ⅲ E4p-	古墳Ⅰ	
95 F	ST31	454	637				Ⅲ E4p-	古墳Ⅰ	
95 F	ST32	残400	残510				Ⅲ E3q-	古墳Ⅰ	
95 F	ST33	残80	残80				Ⅲ E8n	古墳Ⅰ	
95 F	ST34	236	残316				Ⅲ E7n-	古墳Ⅰ	
95 F	ST35	424	残660				Ⅲ E7n-	古墳Ⅰ	
95 F	ST36	328	残829				Ⅲ E6o-	古墳Ⅰ	
95 F	ST37	250	残752				Ⅲ E6p-	古墳Ⅰ	
95 F	ST38	276	残756				Ⅲ E6p-	古墳Ⅰ	
95 F	ST39	308	残546				Ⅲ E5q-	古墳Ⅰ	
95 F	ST40	残301	残275				Ⅲ E5q-	古墳Ⅰ	
95 F	SX01	303	304	32	不定形		Ⅲ E4n-	中世	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備 考
95 F	SX02	残369	残158	69	不定形		Ⅲ E3n-	中世Ⅲ	廃棄土坑
95 F	SX03	400	358	36	不定形		Ⅲ E5o	中世Ⅲ	
95 Ga	SD07	残1314	62	22			Ⅲ D7g-	中世Ⅱ	
95 Ga	SD08	残1236	117	34			Ⅲ D7g-	中世Ⅱ	
95 Ga	SD09	残1360	237	36			Ⅲ D7g-	中世Ⅱ	
95 Ga	SD201	残5006	170	18			Ⅱ D18j-	古墳Ⅰ	
95 Ga	SD202	残892	83	7			Ⅲ D5d-	古墳Ⅰ	
95 Ga	SB01	624	592	—			Ⅱ D20e-	古代Ⅱ	
95 Ga	SB02	689	残541	残2			Ⅲ D8g-	古代Ⅱ	
95 Ga	SB03	736	470				Ⅱ D18f-	古代Ⅱ？	掘立柱建物
95 Ga	SB04	？	？				Ⅱ D20h-	古代Ⅱ？	掘立柱建物
95 Ga	ST201	残1464	残1084				Ⅲ D8i-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST203	残1533	448				Ⅲ D7i-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST204	残449	残350				Ⅲ D5j-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST205	753	312				Ⅲ D6i-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST206	1103	378				Ⅲ D7h-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST207	残403	残325				Ⅲ D4j-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST208	657	540				Ⅲ D4i-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST209	797	540				Ⅲ D5h-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST210	残628	487				Ⅲ D6g-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST211	残860	373				Ⅲ D3i-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST212	604	369				Ⅲ D4h-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST213	751	415				Ⅲ D5g-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST214	残563	412				Ⅲ D6f-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST215	残545	454				Ⅲ D1j-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST216	839	403				Ⅲ D2i-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST217	610	414				Ⅲ D3h-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST218	710	465				Ⅲ D4g-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST219	889	471				Ⅲ D5f-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST220	886	347				Ⅱ D20j-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST221	879	325				Ⅲ D2h-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST222	596	243				Ⅲ D3h-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST223	704	205				Ⅲ D4f-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST224	885	208				Ⅲ D5e-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST225	残344	287				Ⅱ D20j	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST226	786	256				Ⅱ D20j-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST227	886	356				Ⅲ D1h-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST228	589	408				Ⅲ D3g-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST229	705	324				Ⅲ D3f-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST230	871	333				Ⅲ D4e-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST231	残556	290				Ⅱ D19j-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST232	832	300				Ⅱ D20i-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST233	780	317				Ⅲ D1h-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST234	562	308				Ⅲ D2g-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST235	693	324				Ⅲ D3e-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST236	890	340				Ⅲ D4e-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST237	残164	残173				Ⅲ D6d-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST238	残358	231				Ⅲ D6d-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST239	残467	300				Ⅲ D6d	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST240	599	383				Ⅲ D4d-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST241	残180	残164				Ⅲ D3d-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST242	665	432				Ⅲ D2e-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST243	632	残445				Ⅲ D2d-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST244	603	495				Ⅲ D2e-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST245	538	451				Ⅲ D1d-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST246	565	残212				Ⅲ D1d-	古墳Ⅰ	
95 Ga	ST247	562	555				Ⅲ D1e-	古墳Ⅰ	

調査区	遺構	長cm	短cm	深cm	平面	断面	グリッド	時期	備考
95 Ga	ST248	600	457				Ⅱ D20e-	古墳 I	
95 Ga	ST249	521	残266				Ⅱ D20e-	古墳 I	
95 Ga	ST250	686	273				Ⅱ D20g-	古墳 I	
95 Ga	ST251	680	335				Ⅱ D20f-	古墳 I	
95 Ga	ST252	858	418				Ⅱ D19f-	古墳 I	
95 Ga	ST253	987	462				Ⅱ D18f-	古墳 I	
95 Ga	ST254	残169	残60				Ⅱ D18f	古墳 I	
95 Ga	ST255	残686	253				Ⅱ D19h-	古墳 I	
95 Ga	ST256	777	338				Ⅱ D19g-	古墳 I	
95 Ga	ST257	643	514				Ⅱ D18g-	古墳 I	
95 Ga	ST258	644	409				Ⅱ D17g-	古墳 I	
95 Ga	ST259	670	残299				Ⅱ D17f-	古墳 I	
95 Ga	ST260	1415	600				Ⅱ D17i-	古墳 I	
95 Ga	ST261	670	498				Ⅱ D17h-	古墳 I	
95 Ga	ST262	1306	408				Ⅱ D16h-	古墳 I	
95 Ga	ST263	590	362				Ⅱ D16g-	古墳 I	
95 Ga	ST264	残330	残147				Ⅱ D16g	古墳 I	
95 Ga	ST265	684	399				Ⅱ D16i-	古墳 I	
95 Ga	ST266	700	327				Ⅱ D15h-	古墳 I	
95 Ga	ST267	700	残289				Ⅱ D15h-	古墳 I	
95 Gb	ST268	残164	残132				Ⅱ D16j-	古墳 I	
95 Gb	ST269	残641	342				Ⅱ D15j-	古墳 I	
95 Gb	ST270	残994	386				Ⅱ D14j-	古墳 I	
95 Gb	ST271	708	380				Ⅱ D14i-	古墳 I	
95 Gb	ST272	673	残358				Ⅱ D14h-	古墳 I	
95 Gb	ST273	596	392				Ⅱ D13j-	古墳 I	
95 Gb	ST274	560	残432				Ⅱ D13i-	古墳 I	
95 Gb	ST275	残139	残175				Ⅱ D13j-	古墳 I	
95 Gb	ST276	残226	残252				Ⅱ D13j-	古墳 I	

石器

番号	調査区	グリッド	遺構番号	種別	重量g	石材	備考
1	95Ba	ⅢE19k	SD202下層	石鏃	1.9	細粒玄武岩	
2	95Ab	ⅣE6e	SD52	石鏃	2.6	細粒玄武岩	
3	95F	ⅢE	ST31	石鏃	4.7	細粒玄武岩	
4	94J	ⅢE5s	SD12	石鏃	1.4	細粒玄武岩	
5	95Ab	ⅣE8c	SD52	石鏃	2.0	細粒玄武岩	
6	95Ba	ⅢE20p	検Ⅲ	石鏃	3.1	細粒玄武岩	
7	95Ab	ⅣE12b	検Ⅱ	石鏃	3.3	細粒玄武岩	
8	94Aa		水田床土上層	石鏃	2.2	細粒玄武岩	
9	95F	ⅢE6n	SK2081	石鏃	1.4	細粒玄武岩	
10	95Ab		東北トレンチ	石鏃?	1.9	細粒玄武岩	
11	95Ba	ⅣE1n	検Ⅲ	石鏃	2.1	細粒玄武岩	
12	95Ba	ⅢE20m	SD201-202交点	磨製石斧	115.1	安山岩質凝灰岩	欠損
13	95Ab	ⅣE8a	包含層Ⅲ下層	磨製石斧	485.0	安山岩	欠損
14	95Ab	ⅣE9c	SD52	磨製石斧	798.2	石英安山岩	
15	95E	ⅡD3p	トレンチ	フレーク	378.8	凝灰質砂岩	

古墳時代

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	備考
16	94GSD02	鉢	28.8		*4.9	
17	95AbSD52	鉢	27.8		*10.2	外刃
18	95AbSD52	鉢			*5.2	外刃
19	95AbSD206	S字甕	16.0		*3.1	
20	95AbSD206	S字甕	12.6		*6.4	
21	95AbSD206	S字甕	14.1		*5.0	
22	95AbSD206	S字甕	16.0		*4.4	
23	95AbSD206	S字甕	14.2		*5.7	
24	95AbSD206	S字甕	12.8		*4.7	内外摩減/外刃
25	95AbSD206	広口壺	16.0		*5.6	
26	95AbSD206	小型壺	8.3		*4.9	
27	95AbSD206	直口壺	11.0		*4.3	
28	95AbSD206	小型壺	10.0		*6.3	
29	95AbSD206	小型壺			*7.2	
30	95AbSD206	小型壺			*6.1	
31	95AbSD206	小型壺		1.6	*3.0	
32	95AbSD206	小型壺		2.6	*4.0	
33	95AbSD206	広口壺	14.7	6.6	31.5	
34	95AbSD206	高杯	15.7	12.0	12.5	
35	95AbSD206	高杯	15.8	11.2	13.5	
36	95AbSD206	高杯	19.0		*5.3	
37	95AbSD206	高杯		10.8	*9.0	
38	95AbSD206	高杯		11.2	*7.7	
39	95AbSK102	S字甕	13.8	8.8	27.0	外刃
40	95AbSK102	S字甕	14.0		*3.1	
41	95AbSK102	S字甕	13.2		*5.2	内外摩減
42	95AbSK102	S字甕	9.4	6.7	12.8	
43	95AbSK102	高杯	15.8	11.1	10.7	
44	95AbSK102	高杯	19.0		*12.6	内外摩減
45	95AbSB02	S字甕	23.0			
46	95AbSB02	S字甕	15.8		*3.4	外刃
47	95AbSB02	S字甕	14.8		*3.4	
48	95AbSB02	S字甕	14.6		*3.8	
49	95AbSB02	S字甕	15.1		*6.6	内外摩減
50	95AbSB02	S字甕	11.6			
51	95AbSB02	S字甕			*5.0	内炭化物
52	95AbSB02	広口壺	15.4		*6.2	
53	95AbSB02	直口壺	13.4		*10.0	

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	備考
54	95AbSB02	直口壺	9.4	4.0	13.8	
55	95AbSB02	小型壺			*6.0	
56	95AbSB02	小型壺		2.8	*5.4	
57	95AbSB02	小型壺	8.4		8.0	
58	95AbSB02	小型器台 ?	13.6		*3.0	内外摩滅
59	95AbSB02	高杯		10.4	*7.9	
60	95AbSB02	高杯		8.8	*7.6	
61	95AbSB02	高杯	17.0	10.2	12.1	
62	95AbSK104	く字甕	13.0	9.6	27.5	
63	95AbSK104	S字甕	13.7		*5.3	
64	95AbSK104	S字甕	14.0		*5.8	内外摩滅
65	95AbSK104	直口壺	12.2		*9.4	外刃
66	95AbSK104	広口壺	14.1		*5.4	
67	95AbSK104	高杯	17.6	10.4	13.5	
68	95AbSK104	高杯	16.4		*4.7	
69	95AbSK104	高杯			*6.8	
70	95AbSK104	高杯			*6.3	外刃
71	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	15.4		*5.6	
72	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	14.2		*5.3	外刃
73	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	15.6		*3.8	
74	95Ab包含層Ⅳ層	高杯			*9.9	内外摩滅
75	95Ab検出Ⅳ	手焙り	18.0	4.6		外刃
76	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	16.8		*3.0	
77	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	17.0		*3.2	
78	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	15.6		*4.7	
79	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	13.4		*4.7	内外摩滅
80	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	13.0		*4.6	内外摩滅
81	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	13.6		*3.8	外刃
82	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	12.8		*5.2	
83	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	13.6		*4.5	
84	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	13.0		*4.4	
85	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	12.0		*8.6	内外摩滅/外刃
86	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	12.8		*6.9	
87	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	10.4	7.0	15.2	
88	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕		9.6	*8.0	
89	95Ab包含層Ⅲ層	柳ヶ坪型壺	18.6		*6.5	
90	95Ab包含層Ⅲ層	広口壺	14.4		*5.7	
91	95Ab包含層Ⅲ層	壺(底部)		5.4	*3.7	
92	95Ab包含層Ⅲ層	高杯	15.6		*11.9	
93	95Ab包含層Ⅲ層	高杯			*6.6	
94	95Ab包含層Ⅲ層	高杯		9.3	*6.8	
95	95Ab包含層Ⅲ層	高杯		11.4	*9.7	
96	95Ab包含層Ⅲ層	直口壺			*18.0	
97	95Ab検出Ⅲ	直口壺	9.8		12.4	
98	95Ab包含層Ⅲ層	有段口縁鉢	14.0		4.2	
99	95Ab包含層Ⅲ層	小型壺	9.9	4.0	6.4	
100	95Ab包含層Ⅳ層	壺 ?	14.0		*8.3	
101	95Ab検出Ⅲ	S字甕	14.0		*23.5	外刃
102	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	15.0	9.0		外刃
103	94Ab包含層Ⅲ層	S字甕	16.0		*23.8	
104	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	16.4		*22.4	外刃
105	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	15.0		*12.9	
106	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	15.6		*8.3	
107	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	15.4		*10.9	
108	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕	13.0		*6.5	
109	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕		8.4	*6.3	

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	備考
110	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕		8.8	*5.5	
111	95Ab包含層Ⅲ層	S字甕		13.4	*8.4	
112	95Ab検出Ⅲ	宇田型甕	15.4	8.2	31.0	
113	95Ab包含層Ⅲ層	宇田型甕	15.6		*3.9	
114	95Ab検出Ⅲ	宇田型甕	23.6		*4.8	
115	95Ab包含層Ⅲ層	く字甕		9.2	*15.3	
116	95Ab包含層Ⅲ層	く字甕	14.9		*5.0	
117	95Ab包含層Ⅲ層	く字甕	12.6		*13.1	外ス
118	95Ab検出Ⅲ	く字甕		8.0	*5.6	
119	95Ab検出Ⅲ	く字甕		9.4	*4.7	
120	95Ab包含層Ⅲ層	甌	14.0		16.8	
121	95Ab包含層Ⅲ層	高杯	16.4	10.2	12.0	
122	95Ab包含層Ⅲ層	高杯	16.6		*5.0	
123	95Ab検出Ⅲ	高杯	17.3		*5.4	
124	95Ab包含層Ⅲ層	高杯	17.8		*5.7	
125	95Ab検出Ⅲ	高杯	18.8		*6.2	内摩滅
126	95Ab検出Ⅲ	高杯	22.9		*5.2	
127	95Ab検出Ⅲ	高杯	20.0		*4.6	
128	95Ab検出Ⅲ	高杯	19.0	12.8	13.7	
129	95Ab包含層Ⅲ層	高杯	17.0	10.7	12.3	
130	95Ab検出Ⅲ	高杯	21.4	14.3	12.5	
131	95Ab包含層Ⅲ層	高杯	22.0		*6.2	
132	95Ab包含層Ⅲ層	高杯		9.0	*5.0	
133	95Ab包含層Ⅲ層	高杯		10.8	*7.1	
134	95Ab包含層Ⅲ層	高杯		13.4	*6.4	
135	95Ab包含層Ⅲ層	高杯		13.8	*8.7	
136	95Ab包含層Ⅲ層	高杯		14.8	*8.5	
137	95Ab包含層Ⅲ層	高杯		11.2	*7.2	
138	95Ab包含層Ⅲ層	有段口縁壺	16.6		*8.6	
139	95Ab検出Ⅲ	直口壺	8.8		*12.6	
140	95Ab検出Ⅲ	直口壺	11.5		*15.6	
141	95Ab検出Ⅲ	直口壺	12.2		*15.1	外摩滅
142	95Ab包含層Ⅲ層	広口壺	14.5	8.1	34.5	
143	95Ab包含層Ⅲ層	小型壺		3.4	*6.3	
144	95Ab検出Ⅲ	小型壺		3.6	*4.3	
145	95Ab検出Ⅲ	小型壺			*6.3	
146	95Ab包含層Ⅲ層	小型壺			*6.8	
147	95Ab包含層Ⅲ層	直口壺			*9.0	
148	95Ab検出Ⅲ	直口壺			*7.5	
149	95Ab包含層Ⅲ層	直口壺	11.2		*5.5	
150	95AbSD52	パレス壺	23.6		*5.2	外赤彩
151	95AbSD51	パレス壺	21.0		*3.2	外赤彩
152	95AbSD52	パレス壺	17.8		*5.3	外赤彩
153	94JSD17	小型壺	12.6		*10.4	
154	95AbSD52	小型壺	8.8		10.3	
155	95AbSD51	高杯		11.2	*11.5	脚部鋸歯状線刻
156	94JSD17	布留式甕	11.9		*13.2	外ス
157	94JSD17	S字甕	10.8		*14.05	外ス
158	95AbSD52	甕	11.4	5.8	18.5	外スス

石製品

番号	調査区	グリッド	遺構番号	種別	重量g	石材	備考
159	95Ab	ⅣE12d	SD51	フレーク	5.1	めのう（玉ズイ）	
160	94D	ⅤE18l	検	管玉	1.5	安山岩	
161	94K	ⅣD15t	SD28	丸玉	2.1	安山岩	
162	95Ab	ⅣE11a	SD06	玉砥石		流紋 使用面2	
163	95Ba	ⅢE17l	ST02	石錘?	65.5	凝灰 穿孔1	

古代							
番号	遺構	種別	口径	底径	器高	時期	備考
164	94JSD19	須恵器杯H蓋	12.0		3.9	H-4 4	猿投窯産
165	94JSD19	須恵器杯H蓋	12.0		4.4	H-4 4	猿投窯産
166	94JSD19	須恵器杯H蓋	11.0		4.0	I-1 7	猿投窯産
167	94JSD19	須恵器杯H身	11.4	4.8	4.4	H-4 4	猿投窯産
168	94JSD19	須恵器杯H身	10.4	3.6	4.2	H-4 4	猿投窯産
169	94JSD19	須恵器杯H身	9.5	1.7	4.2	I-1 7	美濃須衛窯産
170	94JSD19	土師器甕A	16.0		5.0	7 c 前半	
171	94JSD19	土師器甕A	21.4			7 c 後半	
172	94JSD19	土師器鍋	21.8		9.1	7 c 前半	
173	95AbSD55	須恵器蓋A	9.8		3.0	I-1 7	
174	95AbSD55	須恵器杯H蓋	11.9		3.3	I-1 7	美濃須衛窯産
175	95AbSD55	須恵器杯A	9.5		2.7	I-1 7	美濃須衛窯産
176	95AbSD55	須恵器高杯	11.3	7.8	6.1	I-1 7	美濃須衛窯産
177	94CSD03/10	須恵器杯H蓋	11.2		4.0	H-5 0	美濃須衛窯産
178	94CSD03/10	須恵器杯H蓋	10.4		3.0	H-5 0	須山窯産
179	94CSD03/10	須恵器杯H身	10.0		4.0	H-5 0	
180	94CSD03/10	須恵器 甕	8.2		11.0	7 c 後半	美濃須衛窯産
181	94CSD03/10	須恵器甕				7 c 後半	
182	94CSD03/10	須恵器短頸壺	12.0		8.3	I-1 7	猿投窯産
183	94CSD03/10	須恵器鉢	11.6		4.2	7 c 中	尾北窯産
184	94CSD03/10	土師器甕	13.4			7 c 後半	
185	94CSD03/10	土師器甕A	13.8		6.5	7 c 後半	
186	94CSD03/10	土師器甕A	20.0			7 c 後半	
187	94CSD03/10	土師器甕A	21.8			7 c 後半	
188	94CSD03/10	土師器甕A	18.0		5.5	7 c 後半	
189	94CSD03/10	土師器甕A	17.6		8.7	7 c 後半	
190	94CSD03/10	土師器甕A	18.0		16.2	7 c 後半	
191	94CSD03/10	土師器甕		10.6	8.8	7 c 後半	
192	94CSD03/10	土師器甕A	31.4			7 c 後半	
193	94MaSD10	須恵器杯H身	10.7	3.6	4.2	H-4 4	
194	94MaSD10	須恵器杯H身	9.2	3.4	4.0	H-4 4	須山窯産
195	94MaSD10	須恵器杯H蓋	11.6		3.5	H-5 0	猿投窯産
196	94MaSD10	須恵器杯H蓋	12.8		3.3	H-5 0	
197	94MaSD10	須恵器杯H蓋	11.2		3.5	H-5 0	
198	94MaSD10	須恵器杯H身	10.2	4.8	4.8	H-5 0	須山窯産
199	94MaSD10	須恵器杯H身	9.3	3.2	3.4	H-5 0	猿投窯産
200	94MaSD10	須恵器杯H身		3.4	10.0	H-5 0	美濃須衛窯産
201	94MaSD10	土師器甕A	18.0		4.4	7 c	
202	94MaSD10	土師器甕A	20.8		7.2	7 c	
203	94DSD15	須恵器高杯				6 c 後葉	美濃須衛窯産
204	94DSD15	土師器甕A	15.8	2.3	18.3	6 c 後葉	
205	94DSD15	土師器甕A	15.4		16.2	6 c 後葉	
206	94DSD15	土師器甕A	13.7			6 c 後葉	
207	94DSD15	土師器甕A	14.8			6 c 後葉	
208	94DSD15	土師器甕A	18.2		7.7	6 c 後葉	
209	94DSD15	土師器甕A	18.6		18.8	6 c 後葉	
210	94DSD15	土師器甕A	20.0		17.4	6 c 後葉	
211	94JSD18	須恵器杯H身	5.0		4.7	7 c 中	
212	94JSD18	須恵器杯H身	9.2		3.7	H-5 0	
213	94JSD18	須恵器横瓶	12.2		7.4	7 c 前半	須山窯
214	94BaSD201	須恵器杯H蓋	9.6		4.0	H-5 0	猿投窯産
215	94BaSD201	須恵器杯H身	9.2	4.2	3.4	H-5 0	
216	94BaSD201	須恵器杯H身	5.0		4.0	H-5 0	
217	95BaSD202	須恵器杯H蓋	10.3	4.2	2.7	H-5 0	猿投窯産
218	95BaSD202	須恵器鉢	9.4	2.0	4.3	H-5 0	猿投窯産

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	時期	備考
219	95BaSD202	須恵器甕	23.4		7.5	6 c 後半	猿投窯産
220	95BaSD202	土師器甕A	12.0		4.6	7 c	
221	94JSD17	須恵器杯H身	9.5	3.0	3.9	H-4 4	
222	94JSD17	須恵器杯H身	11.3	4.4	4.0	H-4 4	猿投窯産
223	94JSD17	須恵器杯H蓋	11.2		3.4	H-5 0	猿投窯産
224	94JSD17	須恵器杯H身	9.0	4.0	3.6	H-5 0	
225	94JSD17	須恵器杯A	10.6	13.0	3.9	7 c 後葉	美濃須衛窯産
226	94JSD17	須恵器高杯	10.3	9.6	8.0	I-1 7	
227	94JSD17	須恵器甕	20.0		5.1	7 c 後半	
228	94JSD17	須恵器横瓶	13.0		5.3	7 c 初	美濃須衛窯産
229	94JSD17	土師器甕A	17.4		5.1	7 c 後半	
230	94JSD17	土師器甕A	19.8		3.9	7 c 後半	
231	94JSD17	土師器甕A	17.8		6.9	7 c 後半	
232	94JSD17	土師器甕A	19.6		7.0	7 c 後半	
233	94CSD11	須恵器蓋B	15.0		1.8	8 c 前	美濃刻印
234	94CSD11	須恵器蓋B	15.2		3.7	8 c 前	美濃須衛窯産
235	94CSD11	須恵器杯A	13.4	4.5	4.7	8 c	美濃須衛窯産
236	94CSD11	須恵器碗	15.8	7.7	6.4	8 c	猿投窯産?
237	94CSD11	須恵器鉢B	12.0		5.5	8 c 初	美濃須衛窯産
238	94CSD11	須恵器杯B	14.2	10.2	4.0	8 c	美濃須衛窯産
239	94CSD11	須恵器杯A	11.7	7.6	3.1	8 c 前	美濃須衛窯産
240	94CSD11	灰釉陶器碗A	14.0	7.0	4.0	K-1 4	猿投窯産
241	94CSD11	須恵器碗A	12.6	6.0	4.6	8 c	
242	94CSD11	須恵器鉢B	19.6	8.0	11.4	8 c 初	美濃須衛窯産
243	94CSD11	土師器甕	13.1		14.2	8 c 前	近江系?
244	94CSD11	土師器甕A	18.6		7.7	8 c 前	
245	94CSD11	土師器甕A	17.2		4.8	8 c 前	
246	94CSD11	土師器甕A	18.6		5.3	8 c 前	
247	94CSD11	土師器甕A	21.0		6.4	8 c 前	
248	94CSD11	土師器甕B		6.6	3.9	8 c 前	
249	94CSD11	土師器甕B		6.0		8 c 前	
250	94CSD11	土師器甕B		5.6	5.4	8 c 前	底部木葉痕
251	94CSD11	須恵器鉢B	8.6	2.6	8.7	7 c 後葉	美濃須衛窯産
252	94CSD11	須恵器杯H身	11.7	5.3	4.8	H-1 1	猿投窯産
253	94CSD11	須恵器杯H身	10.2		3.8	H-5 0	猿投窯産
254	93BNR02	須恵器蓋	16.3		2.9	8 c 前	関東産?
255	93BNR02	須恵器杯B	15.0	7.0	5.0	8 c 前	美濃須衛窯産
256	93BNR02	須恵器杯A	11.8	0.8	3.7	8 c 前	美濃須衛窯産
257	93BNR02	須恵器碗D	18.6	12.0	5.9	8 c 前	美濃須衛窯産
258	93BNR02	須恵器杯B	17.4	14.2	4.5	8 c 前	美濃須衛窯産
259	93BNR02	土師器甕A	20.8			8 c 前	
260	93BNR02	土師器甕A	29.9		8.3	8 c 前	
261	93BNR02	須恵器杯A	13.0	2.0	3.9		
262	93BNR02	須恵器杯A	12.0	6.6	3.5	8 c 後	美濃須衛窯産
263	93BNR02	須恵器杯A	12.6	10.6	3.9	NN-3 2	
264	93BNR02	須恵器碗A	12.4	6.0	3.6	I G-7 8	猿投窯産
265	93BNR02	須恵器長頸瓶	6.2		7.3	O-1 0	猿投窯産
266	93BNR02	須恵器水瓶	6.7		8.9		猿投窯産
267	93BNR02	須恵器長頸瓶		5.0	5.3	O-1 0	猿投窯産
268	93BNR02	須恵器長頸瓶		3.8	6.2	O-1 0 新	
269	93BNR02	須恵器甕	35.7	22.5	24.6	8 c 後半	美濃須衛窯産
270	93BNR02	灰釉陶器碗A	11.6	6.2	3.6	K-1 4	猿投窯産
271	93BNR02	灰釉陶器碗A	13.4	6.6	4.1	K-1 4	猿投窯産
272	93BNR02	灰釉陶器耳皿	7.3	4.6	2.9	K-1 4	猿投窯産
273	95AaSD101	須恵器蓋B	13.9		3.2	O-1 0	猿投窯産
274	95AaSD101	須恵器蓋B	14.8		3.1	O-1 0	猿投窯産
275	95AaSD101	須恵器杯A	12.6	6.6	4.0		猿投窯産

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	時期	備考
276	95AaSD101	須惠器杯A	12.6	9.8	3.9		美濃須衛窯産
277	95AaSD101	須惠器杯A	14.7	6.2	4.3	8 c 中	猿投窯産
278	95AaSD101	須惠器杯A	12.0	6.8	3.3		猿投窯産
279	95AaSD101	須惠器杯A	11.7	2.0	4.1	8 c 後葉	美濃須衛窯産
280	95AaSD101	須惠器杯	11.6	9.6	4.3	8 c 中	猿投窯産
281	95AaSD101	須惠器杯A	17.8	6.4	3.8	8 c 後	猿投窯産
282	95AaSD101	須惠器杯A	16.1	12.2	5.4		美濃須衛窯産
283	95AaSD101	須惠器碗B	18.0	10.8	4.5		美濃須衛窯産
284	95AaSD101	須惠器碗B	14.4	6.6	4.0	8 c 後葉	美濃須衛窯産
285	95AaSD101	須惠器碗B	16.2	6.7	5.0	8 c 後葉	美濃須衛窯産
286	95AaSD101	須惠器高盤		12.2	11.1		猿投窯産
287	95AaSD101	灰釉陶器碗A	16.4	9.0	5.2	K-9 0	尾北窯産?
288	95AaSD101	灰釉陶器碗A		8.0	3.5	K-9 0	尾北窯産?
289	95AaSD101	須惠器長頸瓶	10.4		10.1	8 c 後半	美濃須衛窯産
290	95AaSD101	須惠器長頸瓶	8.6		11.2	NN-3 2	猿投窯産
291	95AaSD101	須惠器長頸瓶		8.0	15.4	8 c 後半	美濃須衛窯産
292	95AaSD101	須惠器平瓶		15.0		8 c 後半	美濃須衛窯産
293	94GSD02	須惠器蓋B	16.4		2.6	O-1 0	猿投窯産
294	94GSD02	須惠器鉢	24.4			8 c 末	美濃須衛窯産
295	95FSD201	須惠器蓋B	13.0		3.1	O-1 0	猿投窯産
296	95FSD201	須惠器蓋B	13.6	14.0	3.1	O-1 0	猿投窯産
297	95FSD201	須惠器蓋B	12.6		3.2	O-1 0	猿投窯産
298	95FSD201	須惠器蓋B	14.2		2.7	O-1 0	猿投窯産
299	95FSD201	須惠器蓋B	13.2		3.4	O-1 0	猿投窯産
300	95FSD201	須惠器蓋B	14.0		3.3	O-1 0	猿投窯産
301	95FSD201	須惠器蓋C	13.8		2.3	天狗谷10号	美濃須衛窯産
302	95FSD201	須惠器蓋C	13.6		2.5	IG-7 8	猿投窯産
303	95FSD201	須惠器杯A	11.0	6.6	4.0		美濃須衛窯産
304	95FSD201	須惠器杯A	15.0	11.4	4.6		美濃須衛窯産
305	95FSD201	須惠器杯A	14.6	13.6	3.8		美濃須衛窯産
306	95FSD201	須惠器杯A	13.3	7.4	4.2		猿投窯産
307	95FSD201	須惠器杯A	12.3	6.3	3.8		猿投窯産
308	95FSD201	須惠器杯A	14.0	8.9	4.7	8 c 後葉	猿投窯産
309	95FSD201	須惠器杯A	11.6	4.0	4.0	8 c 後葉	美濃須衛窯産
310	95FSD201	須惠器杯A	13.4	8.2	3.9	8 c 後葉	美濃須衛窯産
311	95FSD201	須惠器杯A	13.2	7.0	4.0		美濃須衛窯産
312	95FSD201	須惠器杯A	11.8	6.9	3.6		美濃須衛窯産
313	95FSD201	須惠器碗A	12.1	7.0	3.4	8 c 後葉	美濃須衛窯産
314	95FSD201	須惠器碗A	13.2	5.6	4.2	O-1 0	猿投窯産
315	95FSD201	須惠器碗A	12.0	3.9	4.4		猿投窯産
316	95FSD201	須惠器碗D	15.6	8.0	5.0		
317	95FSD201	須惠器碗D	12.4	8.0	6.3	O-1 0	猿投窯産
318	95FSD201	須惠器盤B	15.2	10.0	2.9		美濃須衛窯産
319	95FSD201	須惠器盤C	19.3	11.0	3.9		美濃須衛窯産
320	95FSD201	須惠器甕	18.8		*25.3	8 c 初	美濃須衛窯産
321	95FSD201	須惠器鉢	20.2		8.6	8 c 初	美濃須衛窯産
322	95FSD201	須惠器 甕		5.6	4.6	8 c 前半	
323	95FSD201	須惠器甕	24.0		8.9		美濃須衛窯産
324	95FSD201	須惠器甕		13.4	6.6	8 c 末	美濃須衛窯産
325	95FSD201	灰釉陶器碗A	11.0	5.1	3.3	K-1 4	猿投窯産
326	95FSD201	灰釉陶器碗A	16.4	7.2	5.1	K-9 0 古	
327	95FSD201	灰釉陶器碗	14.2	6.2	4.5	O-5 3	
328	95FSD201	灰釉陶器皿	14.0	6.8	2.6	K-1 4	猿投窯産
329	95FSD201	灰釉陶器皿	14.6	8.0	2.4	K-1 4	猿投窯産
330	95FSD201	灰釉陶器皿	15.1	7.4	2.8	K-1 4	猿投窯産
331	95FSD201	灰釉陶器皿	14.0	7.0	2.4	K-1 4	猿投窯産
332	95FSD201	灰釉陶器皿	18.0	9.0	3.2	K-1 4	猿投窯産

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	時期	備考
333	95FSD201	緑釉陶器椀	18.0	9.1	6.2		
334	95FSD201	灰釉陶器香炉			3.3	K-90	
335	95FSD201	灰釉陶器蓋			4.0	K-90?	
336	95FSD201	灰釉陶器淨瓶				K-90?	
337	95FSD201	須恵器	3.6		4.5		
338	95FSD201	灰釉陶器		7.6	8.7	K-90	
339	95FSD201	黒色土器	25.6		11.8		
340	95FSD201	黒色土器	19.0	8.2	4.5		
341	95FSD201	畿内産土師器	16.0	8.4	2.9		
342	95FSD201	土師器甕	8.6	5.0	7.8	6c後半	
343	95FSD201	土師器甕A	12.6		5.7	8c	
344	95FSD201	土師器甕A	18.0		12.5	8c	
345	95FSD201	土師器甕B	26.0		7.0	9c	
346	95FSD201	土師器甕A	21.2		4.4	6c後半	
347	94MbSD09	須恵器蓋B	17.8		2.6	O-10	猿投窯産?
348	94MbSD09	須恵器蓋B	14.6		3.5	O-10	猿投窯産
349	94MbSD09	須恵器壺蓋	6.3		1.1	O-10	
350	94MbSD09	須恵器杯A	16.9	6.0	4.3	O-10	
351	94MbSD09	須恵器杯A	11.3	3.8	4.1	O-10	美濃須衛窯産
352	94MbSD09	須恵器杯A	10.4	4.6	4.2	O-10	
353	94MbSD09	須恵器杯B	12.4	9.2	3.3	8c末	美濃須衛窯産
354	94MbSD09	須恵器椀A	13.0	5.4	3.8	O-10	猿投窯産
355	94MbSD09	須恵器椀A	10.4	5.4	3.8	O-10	猿投窯産
356	94MbSD09	須恵器椀A	10.0	4.6	3.4	O-10	猿投窯産
357	94MbSD09	須恵器盤B	13.6	6.2	2.7	0-10新	猿投窯産
358	94MbSD09	須恵器盤B	15.1	8.2	3.0	9c初	美濃須衛窯産
359	94MbSD09	須恵器盤B	16.6	10.2	3.3	9c前	美濃須衛窯産
360	94MbSD09	須恵器盤B	13.4	6.4	2.2		猿投窯産
361	94MbSD09	須恵器盤C	17.8	10.8	5.0		猿投窯産?
362	94MbSD09	灰釉陶器水瓶		7.8	5.3	K-14	猿投窯産
363	94MbSD09	須恵器甕	15.4		5.0		
364	94MbSD09	灰釉陶器手付瓶	4.2			K-90	
365	94MbSD09	灰釉陶器皿	14.0	7.7	2.6	K-14	
366	94MbSD09	灰釉陶器皿	14.8	6.8	1.3	K-14	
367	94MbSD09	灰釉陶器皿	15.6	7.6	2.4	K-14	
368	94MbSD09	灰釉陶器段皿	17.0	7.2	3.6	K-14	
369	94MbSD09	灰釉陶器三足盤	18.0	13.0	3.4	K-14	
370	94MbSD09	灰釉陶器皿	15.8	8.4	2.5	K-14	
371	94MbSD09	灰釉陶器椀A	21.3	9.6	6.0	K-14	
372	94MbSD09	灰釉陶器椀A	15.0	7.0	4.5	K-14	猿投窯産
373	94MbSD09	灰釉陶器椀A	17.2	8.6	4.7	K-14	
374	94MbSD09	灰釉陶器椀A	11.0	5.5	3.3	K-14	
375	94MbSD09	灰釉陶器椀A	19.2	9.1	6.1	K-14	美濃須衛窯産
376	94MbSD09	灰釉陶器椀A	15.4	8.2	5.0	K-14	美濃須衛窯産
377	94MbSD09	灰釉陶器鉢	13.8		9.8	K-14	
378	94MbSD09	須恵器甕		23.0	8.3		美濃須衛窯産
379	94MbSD09	土師器甕A	20.6		5.4		
380	94MbSD09	土師器甕	20.0		3.5		
381	94MbSD09	土師器甕A	25.8		7.4		
382	94MbSD09	土師器甕B	11.6		4.5		
383	94MbSD09	土師器甕	15.2		5.0		
384	94MbSD09	土師器甕B	22.6		4.5		
385	94MbSD09	土師器甕B	20.4		4.3		
386	94MbSD09	土師器甕B	23.6		4.3		
387	94AaSD14/15	須恵器杯A	14.2	5.4	3.4	8c前葉	美濃刻印
388	94AaSD14/15	須恵器杯A	12.9	6.2	4.1	8c前	美濃須衛窯産
389	94AaSD14/15	須恵器杯B	14.8	8.6	5.1	8c	

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	時期	備考
390	94AaSD14/15	黒色土器	14.8	10.8	3.0		
391	94AaSD14/15	土師器甕A	15.9		4.7	8c前	
392	94DSD16	須恵器杯H身	10.0		4.0	H-50	猿投窯産
393	94DSD16	須恵器高杯		12.0	4.2	H-50	猿投窯産
394	94DSD16	須恵器台付長頸瓶			15.7	8c前葉	美濃須衛窯産
395	94DSD16	須恵器長頸瓶	10.0		13.2	NN-32	猿投窯産
396	94MaSD01	須恵器杯A	12.2	4.4	3.6	8c前	美濃須衛窯産
397	94MaSD01	須恵器杯A	13.0	8.0	3.9	8c前	美濃須衛窯産
398	94MaSD01	須恵器杯B	11.2	6.2	4.7	8c前	美濃須衛窯産
399	94MaSD01	須恵器水瓶		4.8	12.0	C-2	猿投窯産
400	94MaSD01	須恵器ハソウ	7.8	6.0	8.6	8c初	猿投窯産
401	94MaSD01	須恵器杯C	15.5	7.6	7.3	8c前	
402	94MaSD01	須恵器蓋B	13.1		2.9	O-10	猿投窯産
403	94MaSD01	須恵器蓋B	15.5		2.8	8c末	美濃須衛窯産
404	94MaSD01	須恵器盤B	17.0	10.2	3.0	O-10	猿投窯産
405	94MaSD01	須恵器杯C	14.2	10.0	5.7	O-10	猿投窯産
406	94MaSD01	須恵器杯B	18.4	12.0	4.6	8c後葉	美濃須衛窯産
407	94MaSD01	灰釉陶器碗A	13.4	7.6	4.0	K-14	猿投窯産
408	94MaSD01	土師器甕B	19.2		3.4	8c後半	
409	94MaSD01	須恵器高杯	12.4		4.2	H-50	
410	94MaSD01	須恵器高杯	14.4		4.8	6c	
411	94MaSD01	須恵器甕	13.1		16.8	7c	美濃須衛窯産
412	94MaSD01	須恵器甕	10.8		9.0	6c後	美濃須衛窯産
413	94MaSD01	土師器甕A	19.0		15.7	6c後半	
414	94MaSD01	土師器甕A	12.8		5.5	7c	
415	94FSB06	須恵器蓋B	14.0		3.5	O-10	猿投窯産
416	94FSB06	須恵器蓋B	13.2		3.2	8c後葉	美濃須衛窯産
417	94FSB06	須恵器碗	17.6		4.2		
418	94FSB10	灰釉陶器碗	15.7	6.9	5.6	O-53	
419	94FSB10	灰釉陶器碗	13.0	5.8	4.5	K-90	
420	94FSB10	灰釉陶器碗	13.1	6.6	3.9	O-53	
421	94FSB10	灰釉陶器皿	16.0	7.2	3.8	O-53	尾北窯産?
422	94FSB10	土師器甕	19.6		5.4	9c後半	
423	94FSB10	土師器甕	21.2		7.8	9c後半	
424	95FSB03	土師器甕	11.0		7.5	8c	
425	95FSB03	土師器甕A	17.2		5.5	8c	
426	93AbSB12	灰釉陶器碗	17.4	8.2	5.8	K-14	猿投窯産
427	93AbSB12	須恵器鉢	16.2		12.0		美濃須衛窯産
428	93AbSB13	灰釉陶器碗	16.0	8.0	5.1	K-14	猿投窯産
429	93AbSB13	須恵器碗	16.0	9.8	6.9		
430	93AbSB14	土師器甕B	17.6		6.0		
431	95DSB02	灰釉陶器皿	15.4	7.8	2.1	K-14	猿投窯産
432	95DSB02	灰釉陶器皿	14.6	7.0	2.7	K-14	猿投窯産
433	95DSB02	灰釉陶器碗	14.6	7.2	4.4	K-14	猿投窯産
434	95AaSZ01	須恵器高杯	15.0	9.6	10.5	7世紀中	
435	95AbSD04	灰釉陶器円面硯	13.8	20.0	8.0	K-14	
436	94AaSD06	畿内産土師器	15.0		3.9		
437	94CSD01	畿内産土師器	20.0		3.3		
438	94Aa2検2	畿内産土師器	17.0	8.0	4.3		
439	94C検1	畿内産土師器	22.0		2.3		

中世

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	時期	備考
440	94FSD14	灰釉輪花椀	16.2	6.4	5.5	中世 0	
441	94FSD14	灰釉輪花椀	16.4	7.3	5.4	中世 0	外摩減
442	94FSD14	灰釉輪花椀	16.6	7.6	5.4	中世 0	
443	94FSD14	灰釉輪花椀	16.9	7.2	5.6	中世 0	内外摩減
444	94FSD14	灰釉輪花椀	16.4	7.4	5.5	中世 0	内摩減
445	94FSD14	灰釉輪花椀	16.4	7.6	5.5	中世 0	内摩減
446	94FSD14	灰釉輪花椀	16.8	7.5	5.7	中世 0	内摩減
447	94FSD14	灰釉輪花椀	16.9	6.5	5.9	中世 0	内外摩減
448	95ESE01	灰釉系陶器椀	16.7	7.2	5.0	中世 I a	内外摩減
449	95ESE01	灰釉系陶器椀	16.9	7.4	5.2	中世 I a	内摩減
450	95ESE01	灰釉系陶器椀	15.6	8.2	6.1	中世 I a	
451	95ESE01	灰釉系陶器椀	17.0	8.0	5.4	中世 I a	外双
452	95ESE01	灰釉系陶器椀	16.1	6.9	5.8	中世 I a	外摩減
453	95ESE01	灰釉系陶器椀	16.8	8.0	5.7	中世 I b	内外摩減
454	95ESE01	灰釉系陶器小椀	9.6	5.0	2.5	中世 I a	外摩減
455	95ESE01	灰釉系陶器小椀	9.2	5.2	2.8	中世 I a	内外摩減
456	95ESE01	灰釉系陶器小椀	8.8	4.1	3.0	中世 I a	内外摩減
457	95ESE01	灰釉系陶器小椀	9.8	5.6	3.1	中世 I a	内外摩減
458	95ESE01	灰釉系陶器鉢		15.6	*7.7	中世 I	内外摩減
459	95ESE01	灰釉系陶器鉢		13.6	*3.8	中世 I	内外摩減
460	95ESE01	土師器甕	34.0		*9.7		外双
461	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.5	7.3	4.8	中世 I c	内摩減
462	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.9	8.2	4.7	中世 I c	内外摩減
463	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.2	7.0	5.1	中世 I c	内外摩減
464	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.2	7.6	5.0	中世 I c	内外摩減
465	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.8	8.0	5.0	中世 I c	内外摩減
466	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.7	7.5	4.7	中世 I c	内外摩減
467	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.0	7.6	4.6	中世 I c	内外摩減/内双
468	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.8	7.6	5.0	中世 I c	内外摩減
469	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.7	7.0	5.2	中世 I c	内外摩減
470	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.7	7.6	5.1	中世 I c	内摩減
471	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.6	7.4	4.5	中世 I c	内外摩減/内双
472	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.6	6.4	4.8	中世 I c	内外摩減
473	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.0	7.6	4.5	中世 I c	内摩減/内双
474	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.2	8.2	4.7	中世 I b	内外摩減
475	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.7	7.6	4.7	中世 I c	外摩減
476	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.8	7.8	4.9	中世 I c	内摩減
477	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.7	7.6	4.7	中世 I c	内摩減/内双
478	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.2	7.6	4.6	中世 I c	内外摩減
479	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.3	7.7	5.6	中世 I c	内外摩減
480	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.8	7.6	5.0	中世 I c	内外摩減
481	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.6	7.6	4.9	中世 I c	内外摩減/外、破面双
482	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.5	8.0	5.2	中世 I c	内外摩減
483	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.5	7.6	4.7	中世 I c	内摩減
484	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.6	8.2	5.1	中世 I c	内外摩減
485	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.3	8.0	5.2	中世 I c	内摩減/内双
486	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.2	8.2	4.6	中世 I c	内双
487	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.6	8.0	4.9	中世 I c	内外摩減
488	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.8	7.0	5.8	中世 I c	内外摩減
489	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.0	7.8	4.6	中世 I c	内外摩減
490	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.7	7.6	5.3	中世 I c	内外摩減
491	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.8	7.6	4.9	中世 I c	内外摩減
492	94KSK56	灰釉系陶器椀	17.0	8.1	5.1	中世 I c	内外摩減
493	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.9	7.6	4.8	中世 I c	内外摩減/双
494	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.8	7.0	5.0	中世 I c	内外摩減

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	時期	備考
495	94KSK56	灰釉系陶器椀	17.8	6.6	4.8	中世Ⅰc	内外摩減
496	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.6	6.5	4.9	中世Ⅰc	内外摩減
497	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.6	7.2	4.7	中世Ⅰc	
498	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.5	7.1	4.4	中世Ⅰc	内外摩減
499	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.0	8.2	4.5	中世Ⅰc	外摩減
500	94KSK56	灰釉系陶器椀	15.7	7.3	4.7	中世Ⅱa	内外摩減
501	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.8	8.0	5.0	中世Ⅰc	外摩減
502	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.2	8.2	4.3	中世Ⅰc	内外摩減
503	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.3	7.6	4.9	中世Ⅰc	内外摩減
504	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.6	8.0	6.8	中世Ⅰc	内外摩減
505	94KSK56	灰釉系陶器椀	18.0	7.1	4.8	中世Ⅰc	内外摩減
506	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.7	7.0	4.9	中世Ⅰc	内外摩減
507	94KSK56	灰釉系陶器椀	16.8	7.7	5.3	中世Ⅰb	内外摩減
508	94KSK56	灰釉系陶器皿	6.2	4.2	2.4	中世Ⅰ	外摩減/内双
509	94KSK56	灰釉系陶器皿	8.3	4.3	2.0	中世Ⅰ	外摩減
510	94KSK56	灰釉系陶器皿	8.6	4.3	2.4	中世Ⅰ	外摩減、内摩減?
511	94KSK56	灰釉系陶器皿	8.7	4.2	2.5	中世Ⅰ	内外摩減
512	94KSK56	灰釉系陶器皿	8.1	4.2	2.1	中世Ⅰ	内外摩減/外双
513	94KSK56	灰釉系陶器皿	8.6	4.0	2.4	中世Ⅰ	内外摩減
514	94KSK56	灰釉系陶器皿	8.2	3.6	2.5	中世Ⅰ	内外摩減
515	94KSK56	灰釉系陶器皿	8.5	4.1	2.2	中世Ⅰ	内外摩減/内双
516	94KSK56	灰釉系陶器皿	8.6	4.0	2.4	中世Ⅰ	内外摩減
517	94KSK56	灰釉系陶器皿	8.4	4.5	2.4	中世Ⅰ	外摩減/外面底部板压痕
518	94KSK56	灰釉系陶器皿	7.8	3.8	1.9	中世Ⅰ	内外摩減
519	94KSK56	灰釉系陶器皿	8.6	4.6	2.5	中世Ⅰ	外摩減
520	94KSK56	灰釉系陶器皿	8.2	3.7	2.4	中世Ⅰ	内外摩減
521	94KSK56	灰釉系陶器皿	8.0	4.3	2.9	中世Ⅰ	内外摩減
522	94KSK56	灰釉系陶器皿	8.8	4.0	2.4	中世Ⅰ	外摩減/双
523	94KSK56	灰釉系陶器鉢	21.0	11.0	25.3	中世Ⅰ	内外摩減、片口
524	94KSK56	常滑産壺		13.0	*16.0		
525	94KSK56	伊勢型	22.0		*5.7	中世Ⅰ	
526	94KSK56	伊勢型	22.0		*5.7	中世Ⅰ	
527	94KSK56	土師器皿	8.6	4.0	2.2	中世Ⅰ	
528	94KSK56	土師器皿	8.4	3.4	2.0	中世Ⅰ	
529	94KSK56	土師器皿	9.0	4.2	2.1	中世Ⅰ	
530	94KSK56	土師器皿	9.4	3.0	2.4	中世Ⅰ	
531	94KSK56	土師器皿	8.5	2.6	2.2	中世Ⅰ	外面底部板压痕
532	94KSK56	土師器皿	8.2	2.8	2.1	中世Ⅰ	
533	95AaSK55	灰釉系陶器椀	14.4	6.8	5.6	中世Ⅱa	内外摩減
534	95AaSK55	灰釉系陶器椀	15.0	7.1	5.5	中世Ⅱa	内外摩減
535	95AaSK55	灰釉系陶器椀	16.2	7.4	5.5	中世Ⅱa	内外摩減
536	95AaSK55	灰釉系陶器椀	15.0	7.2	5.3	中世Ⅱa	内外摩減
537	95AaSK55	灰釉系陶器椀	13.8	7.6	5.1	中世Ⅱa	内外摩減/内面漆?付着
538	95AaSK55	灰釉系陶器椀	15.6	6.2	5.0	中世Ⅱa	内外摩減
539	95AaSK55	灰釉系陶器皿	7.2	3.0	2.2	中世Ⅱa	内外摩減
540	95AaSK55	灰釉系陶器皿	8.2	4.6	2.0	中世Ⅱa	内外摩減
541	95AaSK55	灰釉系陶器皿	7.2	3.8	2.2	中世Ⅱa	墨書・上/内外摩減
542	94JSD20	灰釉系陶器椀	14.5	7.0	4.8	中世Ⅱb	内摩減
543	94JSD20	灰釉系陶器椀	15.3	6.6	4.9	中世Ⅱb	
544	94JSD20	灰釉系陶器椀	13.8	5.6	5.0	中世Ⅱb	
545	94JSD20	灰釉系陶器椀	15.4	7.3	5.4	中世Ⅱb	内摩減/外双
546	94JSD20	灰釉系陶器皿	8.0	4.2	1.8	中世Ⅱb	外タテ
547	94JSD20	灰釉系陶器皿	7.9	4.6	1.6	中世Ⅱb	
548	94JSD20	灰釉系陶器皿	8.0	5.0	1.8	中世Ⅱb	外摩減
549	94JSD20	灰釉系陶器皿	8.7	5.4	2.0	中世Ⅱb	外摩減
550	94JSD20	土師器皿	9.0	3.6	1.9		
551	94JSD20	灰釉系陶器鉢	23.0	12.4	10.1	中世Ⅱ	

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	時期	備考
552	94JSD20	灰釉系陶器鉢		14.4	11.1	中世Ⅱ	内摩滅/内破面双
553	94JSD20	土師器皿	13.2	8.0	4.0	中世Ⅱ	外双/底部穿孔?
554	94JSD20	土師器皿	13.5	8.4	3.1	中世Ⅱ	
555	94JSD20	土師器皿	13.6	7.6	3.1	中世Ⅱ	
556	94JSD20	土師器皿	13.0	9.6	2.5	中世Ⅱ	
557	94JSD20	土師器皿	13.3	8.8	2.5	中世Ⅱ	
558	94JSD20	土師器皿	13.0	8.4	2.8	中世Ⅱ	
559	94JSD20	土師器皿	13.7	9.0	2.7	中世Ⅱ	
560	94JSD20	灰釉系陶器鉢	34.0	14.8	13.2	中世Ⅱ	
561	94JSD20	伊勢型	24.1		*15.0		
562	94JSD20	伊勢型	22.0		*6.3		
563	94JSD20	伊勢型	23.2		*12.5		
564	94JSD20	伊勢型	27.8		*17.0		
565	94JSD20	伊勢型	32.0		*17.3		
566	94JSD20	灰釉壺			*11.6		美濃須衛窯
567	94JSX01	灰釉系陶器皿	8.2	4.6	1.6	中世Ⅱb	内外摩滅
568	94JSX01	灰釉系陶器皿	8.0	4.5	1.6	中世Ⅱb	
569	94JSX01	灰釉系陶器皿	8.6	5.0	1.5	中世Ⅱb	
570	94JSX01	灰釉系陶器皿	7.6	5.2	1.9	中世Ⅱb	外摩滅/内付着物
571	94JSX01	灰釉系陶器皿	7.8	4.4	1.5	中世Ⅱb	
572	94JSX01	灰釉系陶器皿	8.6	4.4	2.0	中世Ⅱb	内外摩滅
573	94JSX01	灰釉系陶器碗	14.2	6.0	5.4	中世Ⅱa	
574	94JSX01	灰釉系陶器碗	14.2	6.6	4.9	中世Ⅱb	
575	94JSX01	灰釉系陶器碗	13.8	6.4	5.0	中世Ⅱb	内外摩滅
576	94JSX01	土師器皿	8.1	7.0	1.6	中世Ⅱ	
577	94JSX01	土師器皿	7.9	6.6	1.8	中世Ⅱ	
578	94JSX01	土師器皿	8.2	7.1	1.8	中世Ⅱ	
579	94JSX01	土師器皿	8.2	6.6	1.7	中世Ⅱ	
580	94JSX01	土師器皿	8.2	6.2	1.3	中世Ⅱ	
581	94JSX01	土師器皿	8.0	6.6	1.7	中世Ⅱ	
582	94JSX01	土師器皿	8.4	7.2	1.0	中世Ⅱ	
583	94JSX01	土師器皿	8.4	7.4	1.4	中世Ⅱ	
584	94JSX01	土師器皿	8.3	7.3	1.8	中世Ⅱ	
585	94JSX01	土師器皿	8.0	6.4	1.2	中世Ⅱ	
586	94JSX01	土師器皿	8.4	7.4	1.7	中世Ⅱ	
587	94JSX01	土師器皿	8.2	6.6	1.4	中世Ⅱ	粘土紐痕跡
588	94JSX01	土師器皿	8.6	7.0	1.5	中世Ⅱ	
589	94JSX01	土師器皿	8.2	6.8	1.3	中世Ⅱ	
590	94JSX01	土師器皿	8.7	7.5	1.5	中世Ⅱ	内タ-ル
591	94JSX01	土師器皿	8.4	7.1	1.7	中世Ⅱ	
592	94JSX01	土師器皿	9.2	5.3	1.7	中世Ⅱ	
593	94JSX01	土師器皿	8.6	7.0	1.4	中世Ⅱ	
594	94JSX01	土師器皿	8.8	7.9	1.8	中世Ⅱa	
595	94JSX01	土師器皿	9.2	5.4	2.3	中世Ⅱa	粘土紐痕跡
596	94JSX01	土師器皿	12.6	7.2	2.5	中世Ⅱ	
597	94JSX01	土師器皿	12.6	6.2	3.2	中世Ⅱ	
598	94JSX01	土師器皿	12.6	7.8	3.1	中世Ⅱ	
599	94JSX01	土師器皿	13.0	9.4	2.8	中世Ⅱ	内タ-ル、双
600	94JSX01	土師器皿	13.1	10.0	3.1	中世Ⅱ	
601	94JSK72	灰釉系陶器碗	14.4	6.0	5.2	中世Ⅱa	
602	94JSK72	土師器皿	8.0	5.8	1.5	中世Ⅱ	
603	94JSK72	土師器皿	8.2	6.4	1.6	中世Ⅱ	
604	94JSK72	土師器皿	8.8	6.0	1.7	中世Ⅱ	
605	94JSK72	土師器皿	8.3	6.0	1.7	中世Ⅱ	
606	94JSD13	土師器皿	8.6	6.6	1.4	中世Ⅱ	
607	94JSD15	土師器皿	8.4	5.8	1.6	中世Ⅱ	
608	94JSD15	土師器皿	8.4	6.2	1.4	中世Ⅱ	

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	時期	備考
609	94JSD15	土師器皿	9.2	7.1	1.9	中世Ⅱ	
610	94JSD13	土師器皿	8.2	5.9	1.6	中世Ⅱ	粘土紐痕跡/内双、ター
611	94JSD15	土師器皿	8.4	4.9	1.6	中世Ⅱ	粘土紐痕跡
612	94JSD15	土師器皿	8.6	4.2	1.8	中世Ⅱ	外双
613	94JSD15	土師器皿	8.7	4.7	1.6	中世Ⅱ	粘土紐痕跡
614	94JSD15	土師器皿	8.4	5.2	1.5	中世Ⅱ	粘土紐痕跡
615	94JSD15	土師器皿	8.4	4.5	1.8	中世Ⅱ	粘土紐痕跡、SD01取上げ
616	94JSK72	土師器皿	13.2	8.6	2.7	中世Ⅱ	
617	94JSK72	土師器皿	13.0	9.0	2.2	中世Ⅱ	
618	94JSK72	土師器皿	12.4	9.0	2.9	中世Ⅱ	外面底部板圧痕
619	94JSK72	土師器皿	12.5	8.9	2.8	中世Ⅱ	外面底部板圧痕
620	94JSD13	土師器皿	6.2	5.7	3.4	中世Ⅱ	粘土紐痕跡
621	94JSD15	土師器皿	12.0	3.3	3.6	中世Ⅱ	粘土紐痕跡
622	94JSD15	土師器皿	12.4	6.0	2.9	中世Ⅱ	粘土紐痕跡、SD01取上げ
623	94JSK72	土師器皿	13.2	9.2	2.6	中世Ⅱ	外面底部板圧痕
624	94JSD15	伊勢型	24.5		*14.2		SD06取上げ/伊
625	94CSK10	灰釉系陶器椀	14.7	5.8	5.2	中世Ⅱa	外摩滅
626	94CSK10	灰釉系陶器椀	14.2	6.4	5.1	中世Ⅱa	外摩滅
627	94CSK10	灰釉系陶器椀	14.4	6.6	5.1	中世Ⅱa	
628	94CSK10	灰釉系陶器椀	15.0	7.0	4.9	中世Ⅱa	外摩滅
629	94CSK10	灰釉系陶器椀	14.6	6.4	5.4	中世Ⅱa	外摩滅
630	94CSK10	灰釉系陶器椀	14.3	6.8	5.4	中世Ⅱa	
631	94CSK10	灰釉系陶器椀	14.8	6.2	5.0	中世Ⅱa	
632	94CSK10	灰釉系陶器椀	14.8	6.2	5.7	中世Ⅱa	外摩滅
633	94CSK10	灰釉系陶器椀	14.4	6.4	5.5	中世Ⅱa	外摩滅
634	94CSK10	灰釉系陶器椀	15.0	6.2	5.3	中世Ⅱa	SE01取上げ
635	94CSK10	灰釉系陶器椀	14.8	6.4	5.3	中世Ⅱa	外摩滅
636	94CSK10	灰釉系陶器椀	14.6	6.0	5.7	中世Ⅱa	外摩滅
637	94CSK10	灰釉系陶器椀	14.6	7.2	5.1	中世Ⅱa	外摩滅
638	94CSK10	灰釉系陶器椀	14.6	7.6	5.7	中世Ⅱa	
639	94CSK10	灰釉系陶器椀	8.0	6.0	5.6	中世Ⅱa	外摩滅
640	94CSK10	灰釉系陶器椀	14.8	6.7	6.0	中世Ⅱb	外摩滅
641	94CSK10	灰釉系陶器椀	15.4	6.8	5.7	中世Ⅱa	外摩滅
642	94CSK10	灰釉系陶器椀	15.3	6.5	6.2	中世Ⅱa	
643	94CSK10	灰釉系陶器椀	15.4	7.2	5.6	中世Ⅱb	
644	94CSK10	灰釉系陶器椀	15.8	7.2	5.4	中世Ⅱa	外摩滅
645	94CSK10	灰釉系陶器椀	15.4	6.0	5.3	中世Ⅱa	
646	94CSK10	灰釉系陶器皿	7.8	3.8	2.1	中世Ⅱ	外摩滅
647	94CSK10	灰釉系陶器皿	6.4	5.4	1.7	中世Ⅱ	
648	94CSK10	灰釉系陶器皿	7.6	4.8	2.0	中世Ⅱ	
649	94CSK10	灰釉系陶器皿	8.2	5.4	1.6	中世Ⅱ	内摩滅
650	94CSK10	灰釉系陶器皿	8.4	3.6	2.2	中世Ⅱ	
651	94CSK10	灰釉系陶器皿	8.2	4.8	2.1	中世Ⅱ	外摩滅
652	94CSK10	灰釉系陶器皿	8.2	4.2	1.9	中世Ⅱ	外摩滅
653	94CSK10	灰釉系陶器皿	7.7	5.0	1.7	中世Ⅱ	
654	94CSK10	灰釉系陶器皿	8.1	5.1	1.7	中世Ⅱ	
655	94CSK10	灰釉系陶器皿	8.2	5.0	1.5	中世Ⅱ	内摩滅
656	94CSK10	灰釉系陶器皿	8.2	5.4	1.5	中世Ⅱ	
657	94CSK10	灰釉系陶器皿	8.5	5.6	2.0	中世Ⅱ	内摩滅
658	94CSK10	灰釉系陶器鉢	27.7	9.0		中世Ⅱ	捏ね鉢?/破面双
659	94CSK10	灰釉系陶器鉢	34.0	14.0	11.0	中世Ⅱ	内摩滅
660	94CSK10	土師器皿	12.2	7.0	2.5	中世Ⅱ	
661	94CSK10	土師器皿	13.0	9.5	2.7	中世Ⅱ	
662	94CSK10	土師器皿	13.0	8.6	2.4	中世Ⅱ	
663	94CSK10	土師器皿	8.2	6.0	1.9	中世Ⅱ	内外ター
664	94CSK10	土師器皿	8.1	6.4	1.9	中世Ⅱ	
665	94CSK10	土師器皿	7.6	3.4	1.3	中世Ⅱ	

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	時期	備考
666	94CSK10	伊勢型	26.0		*8.4		
667	94JSD11	灰釉系陶器椀	14.0	6.0	5.3	中世Ⅱb	
668	94JSD11	灰釉系陶器椀	14.6	6.4	5.5	中世Ⅱb	内外摩減
669	94JSD11	灰釉系陶器椀	13.4	7.4	5.9	中世Ⅱb	
670	94JSD11	灰釉系陶器椀	13.8	6.6	5.0	中世Ⅱb	内外双
671	94JSD11	灰釉系陶器椀	15.0	5.6	5.4	中世Ⅱb	内外摩減
672	94JSD11	灰釉系陶器椀	14.4	5.3	5.3	中世Ⅱb	
673	94JSD11	灰釉系陶器椀	15.7	6.5	5.1	中世Ⅱb	内外摩減
674	94JSD11	土師器皿	8.2	5.2	1.4	中世Ⅱb	
675	94JSD11	土師器皿	8.8	6.1	1.5	中世Ⅱb	
676	94JSD11	土師器皿	13.0	8.7	2.4	中世Ⅱb	
677	94JSD11	土師器皿	13.4	10.4	2.1	中世Ⅱb	
678	95FSD01	灰釉系陶器椀	13.4	5.0	4.9	中Ⅱb～Ⅲa	
679	95FSD01	灰釉系陶器椀	11.5	3.5	5.1	中Ⅱb～Ⅲa	外摩減
680	95FSD01	灰釉系陶器椀	11.8	3.6	3.2	中世Ⅲ	内漆付着
681	95FSD01	灰釉系陶器椀	12.6	4.0	3.4	中世Ⅲ	
682	95FSD01	灰釉系陶器椀	14.6	5.6	5.6	中Ⅱb～Ⅲa	
683	95FSD01	灰釉系陶器椀	11.8	4.7	5.1	中Ⅱb～Ⅲa	
684	95FSD01	灰釉系陶器椀	12.0	3.3	4.2	中世Ⅲ	
685	95FSD01	灰釉系陶器椀	13.6	4.8	5.1	中Ⅱb～Ⅲa	外摩減?
686	95FSD01	灰釉系陶器椀	13.1	4.6	4.9	中Ⅱb～Ⅲa	外摩減
687	95FSD01	灰釉系陶器椀	12.2	3.8	4.2	中世Ⅲ	内漆付着
688	95FSD01	灰釉系陶器椀	14.6	5.4	4.6	中Ⅱb～Ⅲa	
689	95FSD01	灰釉系陶器椀	12.8	4.8	6.0	中Ⅱb～Ⅲa	内摩減?
690	95FSD01	灰釉系陶器椀	13.6	6.0	5.7	中世Ⅲ	
691	95FSD01	灰釉系陶器椀	14.6	6.0	5.1	中Ⅱb～Ⅲa	外摩減?
692	95FSD01	灰釉系陶器椀	13.6	4.8	6.0	中Ⅱb～Ⅲa	外摩減?
693	95FSD01	灰釉系陶器椀	13.0	6.2	4.6	中世Ⅲ	
694	95FSD01	灰釉系陶器皿	7.8	8.8	1.7	中Ⅱb～Ⅲa	内摩減
695	95FSD01	灰釉系陶器皿	8.0	5.6	1.7	中Ⅱb～Ⅲa	
696	95FSD01	灰釉系陶器皿	7.6	4.6	1.5	中Ⅱb～Ⅲa	
697	95FSD01	灰釉系陶器皿	8.2	4.8	0.9	中Ⅱb～Ⅲa	
698	95FSD01	灰釉系陶器皿	8.4	4.6	1.7	中Ⅱb～Ⅲa	
699	95FSD01	灰釉系陶器皿	8.4	4.4	1.5	中Ⅱb～Ⅲa	
700	95FSD01	灰釉系陶器皿	9.4	4.0	1.9	中Ⅱb～Ⅲa	
701	95FSD01	灰釉系陶器皿	9.0	6.4	1.4	中Ⅱb～Ⅲa	
702	95FSD01	古瀬戸茶入	4.0		*3.4	中世Ⅲ	灰釉
703	95FSD01	仏具	8.0	4.0	5.0	中世Ⅲ	
704	95FSD01	古瀬戸水注		8.8	*14.1	中世Ⅲ	灰釉
705	95FSD01	古瀬戸折縁鉢	28.4	15.2	6.1	中世Ⅲ	灰釉
706	95FSD01	常滑産陶器甕	35.6		*8.8		
707	95FSD01	常滑産陶器壺	20.6		*6.2		
708	95FSD01	常滑産陶器甕	44.0		*8.6		
709	94JSD07	重圈皿	9.9	3.6	3.0	中世Ⅳ	白色、生焼け
710	94JSD07	重圈皿	10.8	4.8	2.8	中世Ⅳ	
711	94JSD07	重圈皿	11.5	5.0	2.4	中世Ⅳ	
712	94JSD07	天目椀	11.6			中世Ⅳ	高台錆釉
713	94JSD07	天目椀	11.3	4.0	6.2	中世Ⅳ	高台錆釉
714	94JSD07	灰釉平椀	14.3	4.4	5.3	中世Ⅳ	焼台跡4ヶ所
715	94JSD07	灰釉系陶器皿	8.1	4.2	1.2	中世Ⅲ	
716	94JSD07	緑釉皿	10.6		1.8	中世Ⅲ	灰釉
717	94JSD07	土師器皿	7.8	6.4	1.2	中Ⅲ～Ⅳ	
718	94JSD07	土師器皿	7.2	5.6	1.1	中Ⅲ～Ⅳ	
719	94JSD07	土師器皿	7.4	6.0	1.3	中Ⅲ～Ⅳ	
720	94JSD07	土師器皿	7.4	6.0	1.4	中Ⅲ～Ⅳ	タタ付着
721	94JSD07	土師器皿	7.4	6.4	1.2	中Ⅲ～Ⅳ	タタ付着
722	94JSD07	古瀬戸壺		11.8	*8.8	中世Ⅲ	灰釉

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	時期	備考
723	94JSD07	灰釉平鉢	31.0		*6.2	中世Ⅳ	灰釉
724	94JSD12	天目椀	11.6	4.0	6.7	中世Ⅳ	高台錆釉、鉄釉
725	94JSD12	天目椀	12.4		*6.1	中世Ⅳ	高台錆釉
726	94JSD12	天目椀	11.2		*5.7	中世Ⅳ	鉄釉・露胎
727	94JSD12	天目椀	11.4		*5.1	中世Ⅳ	高台錆釉、鉄釉
728	94JSD12	天目椀	11.4		*5.6	中世Ⅳ	高台錆釉、鉄釉
729	94JSD12	天目椀	11.0		*3.7	中世Ⅳ	鉄釉
730	94JSD12	土師器皿	8.0	3.8	1.2	中Ⅲ～Ⅳ	内外ス、タール、ロコ
731	94JSD12	土師器皿	7.8	3.8	1.3	中Ⅲ～Ⅳ	内ス、ロコ
732	94JSD12	重圓皿	10.2	4.8	2.6	中世Ⅳ	
733	94JSD12	重圓皿	10.2		*2.1	中世Ⅳ	
734	94JSD12	常滑産陶器壺	22.2		*6.8		
735	94JSD12	播鉢	29.2		*6.7	中Ⅲ～Ⅳ	
736	94JSD12	播鉢		9.8	*7.0	中Ⅲ～Ⅳ	
737	94JSD12	釜	12.8		*5.4	中世Ⅳ	錆釉
738	94JSD12	播鉢	31.2		*5.2	中世Ⅳ	捏ね鉢?
739	94JSD12	土師器皿	11.6	5.8	2.1	中Ⅲ～Ⅳ	粘土紐痕跡
740	94JSD12	土師器皿	12.8	5.6	2.0	中Ⅲ～Ⅳ	粘土紐痕跡
741	94JSD12	土師器皿	13.4	5.0	2.3	中Ⅲ～Ⅳ	粘土紐痕跡/内外ス、タール
742	94JSD12	土師器皿	11.4	5.8	2.0	中Ⅲ～Ⅳ	内外ス、タール
743	94JSD12	土師器皿	13.0	5.4	2.1	中Ⅲ～Ⅳ	粘土紐痕跡
744	94JSD12	土師器皿	13.6	6.2	2.3	中Ⅲ～Ⅳ	粘土紐痕跡/内外ス、タール
745	94JSD12	土師器皿	13.0	5.4	2.1	中Ⅲ～Ⅳ	
746	94JSD12	土師器皿	13.0	5.0	2.4	中Ⅲ～Ⅳ	粘土紐痕跡
747	94JSD12	土師器皿	12.6	9.6	2.7	中Ⅲ～Ⅳ	
748	94JSD12	土師器皿	8.8	4.7	1.8	中世Ⅱ	粘土紐痕跡
749	94JSD12	土師器皿	6.5	5.6	1.3	中Ⅲ～Ⅳ	内タール
750	94JSD12	土師器皿	6.8	5.4	1.2	中Ⅲ～Ⅳ	
751	94JSD12	土師器皿	6.0	5.0	1.2	中Ⅲ～Ⅳ	内タール
752	94JSD12	土師器皿	6.0	5.3	1.0	中Ⅲ～Ⅳ	
753	94JSD12	土師器皿	6.3	5.6	1.1	中Ⅲ～Ⅳ	
754	94JSD12	土師器皿	6.4	5.1	1.1	中Ⅲ～Ⅳ	
755	94JSD12	土師器皿	6.7	5.2	1.1	中Ⅲ～Ⅳ	
756	94JSD12	土師器皿	6.8	5.8	1.3	中Ⅲ～Ⅳ	
757	94JSD12	土師器皿	6.4	5.4	1.1	中Ⅲ～Ⅳ	
758	94JSD12	土師器皿	6.4	5.8	1.1	中Ⅲ～Ⅳ	
759	94JSD12	土師器皿	6.2	4.8	1.3	中Ⅲ～Ⅳ	
760	94JSD12	土師器皿	6.6	5.3	1.1	中Ⅲ～Ⅳ	
761	94JSD12	土師器皿	6.6	5.4	1.6	中Ⅲ～Ⅳ	
762	94JSD12	土師器皿	6.8	6.0	1.5	中Ⅲ～Ⅳ	
763	94JSD12	土師器皿	6.4	5.8	1.2	中Ⅲ～Ⅳ	
764	94JSD12	土師器皿	6.4	4.3	1.2	中Ⅲ～Ⅳ	
765	94JSD12	土師器皿	6.8	5.7	1.2	中Ⅲ～Ⅳ	
766	94JSD12	土師器皿	6.6	5.6	1.3	中Ⅲ～Ⅳ	
767	94JSD12	土師器皿	6.6	5.2	1.1	中Ⅲ～Ⅳ	内タール
768	94JSD12	土師器皿	6.6	6.1	0.9	中Ⅲ～Ⅳ	
769	94JSD12	土師器皿	6.6	5.2	1.3	中Ⅲ～Ⅳ	
770	94JSD12	土師器皿	7.1	6.2	1.2	中Ⅲ～Ⅳ	
771	94JSD12	土師器皿	6.8	5.8	1.2	中Ⅲ～Ⅳ	内外ス、タール
772	94JSD12	土師器皿	6.6	6.0	1.2	中Ⅲ～Ⅳ	
773	94JSD12	土師器皿	6.8	6.4	0.9	中Ⅲ～Ⅳ	
774	94JSD12	土師器皿	7.0	5.7	1.6	中Ⅲ～Ⅳ	
775	94JSD12	土師器皿	6.9	5.4	1.5	中Ⅲ～Ⅳ	
776	94JSD12	土師器皿	6.8	5.7	1.5	中Ⅲ～Ⅳ	
777	94JSD12	土師器皿	6.8	5.8	1.0	中Ⅲ～Ⅳ	
778	94JSD12	土師器皿	6.8	6.0	1.2	中Ⅲ～Ⅳ	
779	94JSD12	土師器皿	6.8	5.8	1.1	中Ⅲ～Ⅳ	

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	時期	備考
780	94JSD12	土師器皿	7.1	5.3	1.5	中Ⅲ～Ⅳ	
781	94JSD12	土師器皿	7.0	6.2	1.4	中Ⅲ～Ⅳ	
782	94JSD12	土師器皿	7.0	5.8	1.0	中Ⅲ～Ⅳ	外タ-N
783	94JSD12	土師器皿	7.0	6.0	1.4	中Ⅲ～Ⅳ	内タ-N
784	94JSD12	土師器皿	7.2	4.6	1.1	中Ⅲ～Ⅳ	
785	94JSD12	土師器皿	7.2	5.6	1.3	中Ⅲ～Ⅳ	
786	94JSD12	土師器皿	7.1	6.2	1.3	中Ⅲ～Ⅳ	
787	94JSD12	土師器皿	7.3	6.2	1.4	中Ⅲ～Ⅳ	
788	94JSD12	土師器皿	7.2	6.1	1.1	中Ⅲ～Ⅳ	
789	94AbSX01	擂鉢	27.8		*6.0	中Ⅲ～Ⅳ	
790	94AbSX01	擂鉢		9.6	*1.7	中Ⅲ～Ⅳ	
791	94AbSX01	灰釉瓦	15.2	9.0	2.0	中世Ⅰ	
792	94AbSX01	灰釉瓦	9.6	8.9	2.5	中世Ⅰ	
793	94AbSX01	台付皿	9.2	5.0	2.0	中世Ⅳ	灰釉
794	94AbSX01	重圈皿	10.0	4.6	2.4	中世Ⅳ	ス?
795	94AbSX01	香炉		4.8	*2.3	中世Ⅲ	錆釉
796	94AbSX01	古瀬戸短頸壺			*10.5		灰釉
797	94AbSX01	古瀬戸折縁鉢	39.2		*3.9	中世Ⅲ	
798	94AbSX01	古瀬戸四耳壺			*6.5	中世Ⅲ	
799	94AbSX01	常滑産陶器甕	40.0		*17.7		S=1/8
800	94JSD01	平椀	16.4	4.5	5.7	中世Ⅳ	灰釉
801	94JSD01	縁釉皿	9.9	5.2	2.7	中世Ⅳ	灰釉
802	94JSD01	縁釉皿	9.9	4.0	2.5	中世Ⅳ	灰釉/内外ス
803	94JSD01	縁釉皿	11.0	5.6	1.9	中世Ⅳ	灰釉/外摩滅
804	94JSD01	縁釉皿	10.6	5.0	2.5	中世Ⅳ	鉄釉
805	94JSD01	天目椀	11.8		*4.6	中世Ⅳ	鉄釉
806	94JSD01	天目椀		4.0	*5.9	中世Ⅳ	鉄釉・露胎
807	94JSD01	天目椀	11.2		*5.0	中世Ⅳ	鉄釉
808	94JSD01	香炉	10.7	5.0	3.0	中世Ⅳ	鉄釉
809	94JSD01	鉄釉壺		6.1	1.4	中世Ⅳ	
810	94JSD01	鉢?	22.0		7.9	中世Ⅳ	鉄釉
811	94JSD01	合子・蓋			1.0	中Ⅲ～Ⅳ	灰釉
812	94JSD01	合子・身	2.6	3.0	3.2	中Ⅲ～Ⅳ	灰釉
813	94JSD01	擂鉢		10.2	*2.8	中世Ⅳ	
814	94JSD01	擂鉢		10.8	*4.5	中世Ⅳ	
815	94JSD01	土師器羽釜	24.0		*3.8	中世Ⅳ	
816	94JSD01	釜	14.0		2.9	中世Ⅳ	
817	94JSD01	土師器皿	7.4	3.8	1.5	中世Ⅳ	
818	94JSD01	土師器皿	7.4	4.7	1.6	中世Ⅳ	
819	94JSD01	土師器皿	7.4	3.2	1.6	中世Ⅳ	
820	94JSD01	土師器皿	7.2	3.6	1.4	中世Ⅳ	
821	94JSD01	土師器皿	7.4	3.6	1.5	中世Ⅳ	
822	94JSD01	土師器皿	7.5	3.6	1.8	中世Ⅳ	
823	94JSD01	土師器皿	7.4	3.8	1.5	中世Ⅳ	
824	94JSD01	土師器皿	7.6	4.3	1.6	中世Ⅳ	
825	94JSD01	土師器皿	7.6	5.8	1.4	中世Ⅳ	
826	94JSD01	土師器皿	7.8	4.3	1.6	中世Ⅳ	
827	94JSD01	土師器皿	7.7	4.3	1.8	中世Ⅳ	
828	94JSD01	土師器皿	7.6	4.4	1.6	中世Ⅳ	
829	94JSD01	土師器皿	7.8	5.1	1.5	中世Ⅳ	
830	94JSD01	土師器皿	7.5	4.2	1.6	中世Ⅳ	
831	94JSD01	土師器皿	7.6	4.2	1.6	中世Ⅳ	
832	94JSD01	土師器皿	7.8	3.8	1.5	中世Ⅳ	
833	94JSD01	土師器皿	7.7	4.1	1.8	中世Ⅳ	
834	94JSD01	土師器皿	7.8	3.6	1.6	中世Ⅳ	
835	94JSD01	土師器皿	7.8	4.8	1.9	中世Ⅳ	
836	94JSD01	土師器皿	9.6	5.0	2.0	中世Ⅳ	

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	時期	備考
837	94JSD01	土師器皿	9.8	4.7	2.1	中世Ⅳ	
838	94JSD01	土師器皿	10.2	4.7	2.5	中世Ⅳ	
839	94JSD01	土師器皿	9.4	4.0	2.1	中世Ⅳ	
840	94JSD01	土師器皿	13.2	10.0	2.9		
841	94LSK10	天目椀	11.6	4.6	6.6	中世Ⅳ	
842	94LSK10	土師器皿	10.0	5.2	1.8	中世Ⅲ	
843	95AbSK03	端反皿	9.0	4.6	2.1	中世Ⅳ	印花/灰釉
844	95AbSX01	土師器皿	6.5	4.8	1.0	中世Ⅳ	
845	94LSK10	内耳鍋	28.0		*13.6	中世Ⅳ	
846	95AbSX01	土師器皿	12.7	6.2	2.1	中世Ⅳ	内タル、口刃
847	95AbSX01	土師器皿	14.0	5.9	2.6	中世Ⅳ	内外ス/凹線、口刃
848	95AbSX01	土師器皿	15.5	7.3	2.9	中世Ⅳ	内タル/凹線、口刃
849	95AbSX01	土師器皿	13.6	7.2	2.3	中世Ⅳ	内タル、口刃
850	95AbSX01	土師器皿	13.2	4.4	2.3	中世Ⅳ	非口刃
851	95AbSX01	内耳鍋	22.0		*11.6	中世Ⅳ	外ス厚い
852	95AaSK26	内耳鍋	22.2		*11.5	中世Ⅳ	水位コケレ
853	95AaSK26	内耳鍋	24.9		12.7	中世Ⅳ	
854	95AaSK26	内耳鍋	16.0		12.9	中世Ⅳ	
855	95AaSK26	内耳鍋	15.6		*13.5	中世Ⅳ	
856	95AaSK26	内耳鍋	29.0		*15.7	中世Ⅳ	
857	95AaSK26	内耳鍋	29.6		*12.0	中世Ⅳ	
858	95AaSK25	内耳鍋	22.7		*12.0	中世Ⅳ	
859	95AaSK25	内耳鍋	23.2		*11.8	中世Ⅳ	水位コケレ
860	95AaSK25	内耳鍋	22.0		*12.0	中世Ⅳ	
861	95AaSK25	内耳鍋	22.0		*6.5	中世Ⅳ	
862	95AaSK25	内耳鍋	25.0		*7.3	中世Ⅳ	
863	95AaSK25	内耳鍋	25.0		*10.8	中世Ⅳ	水位コケレ
864	95AaSK25	内耳鍋	25.8		*8.5	中世Ⅳ	内より穿孔1ヶ
865	94GSE03	播鉢	31.8		*5.1	中世Ⅳ	
866	94GSE03	播鉢		10.8	*10.9	中世Ⅳ	
867	94GSE03	内耳鍋	22.2		*6.0	中世Ⅳ	外ス
868	94GSE03	重圍皿	10.6	4.0	2.7	中世Ⅳ	
869	94GSE03	古瀬戸壺		9.0	*5.0	中世Ⅲ	灰釉
870	95AaSD02	天目椀	11.6		*5.6	中世Ⅳ	鉄釉・露胎
871	95AaSD02	天目椀	11.0		*4.7	中世Ⅳ	鉄釉
872	95AaSD02	縁釉皿	9.8		*2.6	中世Ⅳ	灰釉
873	95AaSD02	縁釉皿	9.6	4.6	2.1	中世Ⅳ	灰釉/内ス
874	95AaSD02	土師器皿	7.2	3.6	1.2	中世Ⅳ	凹線、口刃
875	95AaSD02	土師器皿	7.5	3.7	1.6	中世Ⅳ	口刃
876	95AaSD02	土師器皿	7.1	3.5	1.4	中世Ⅳ	口刃
877	95AaSD02	土師器皿	7.2	3.5	1.3	中世Ⅳ	口刃
878	95AaSD02	内耳鍋	30.0		*7.9	中世Ⅳ	
879	95AaSD02	内耳鍋	27.0		*10.5	中世Ⅳ	
880	95AaSD02	土師器皿	6.8	6.0	1.1	中世Ⅳ	
881	95AaSD02	土師器皿	6.6	5.8	1.0	中世Ⅳ	
882	95AaSD02	土師器皿	6.9	5.5	1.0	中世Ⅳ	
883	95AaSD02	土師器皿	6.3	5.6	1.1	中世Ⅳ	
884	95AaSD02	土師器皿	6.2		1.2	中世Ⅳ	
885	95AaSD02	土師器皿	6.4	5.7	1.3	中世Ⅳ	
886	95AaSD02	土師器皿	6.2		1.2	中世Ⅳ	
887	95AaSD02	土師器皿	6.2	5.8	1.1	中世Ⅳ	
888	95AaSD02	土師器皿	6.2	5.8	1.0	中世Ⅳ	
889	95AaSD02	土師器皿	6.2	5.5	1.0	中世Ⅳ	
890	95AaSD02	土師器皿	11.0	5.6	1.9	中世Ⅳ	凹線、口刃
891	95AaSD02	土師器皿	10.7	5.1	2.0	中世Ⅳ	口刃
892	95AaSD02	土師器皿	10.9	5.8	1.9	中世Ⅳ	口刃
893	95AaSD02	土師器皿	11.0	6.0	1.8	中世Ⅳ	凹線、口刃

番号	遺構	種別	口径	底径	器高	時期	備考
894	95AaSD02	土師器皿	10.0	4.7	1.8	中世Ⅳ	凹線/外刃、口
895	95AaSD02	土師器皿	11.6	6.4	1.9	中世Ⅳ	内タ、口
896	95AaSD02	土師器皿	12.6	6.3	2.3	中世Ⅳ	口
897	95AaSD02	土師器皿	12.3	7.0	2.0	中世Ⅳ	凹線、口
898	95AaSD03	四耳壺	9.0		*15.0	中世Ⅳ	鉄釉
899	95AaSD03	釜	14.8	9.2	15.7	中世Ⅳ	鉄釉
900	95AaSD03	土師器皿	16.5	8.2	3.2	中世Ⅳ	凹線/穿孔3、口
901	95AaSD03	土師器皿	11.6	5.4	2.0	中世Ⅳ	墨書・道、口

貿易陶磁

番号	調査区	遺構番号	器種	口径	底径	器高	時期	備考
902	94Ab	SD04	白磁椀	12.4	-	*2.7	11C後～12C中	太宰府編年Ⅱ類
903	95Aa	SK50	白磁椀	12.6	-	*3.9	11C後～12C中	太宰府編年Ⅱ類
904	93Aa	SD04	白磁椀	11.0	-	*3.6	11C後～12C中	太宰府編年Ⅱ類
905	94J	SK15	白磁椀	12.6	-	*2.8	11C後～12C中	太宰府編年Ⅳ類
906	94Ab	SD04	白磁椀	13.2	-	*3.8	11C後～12C中	太宰府編年Ⅳ類
907	94Aa	SD01-B下	白磁椀	15.0	-	*2.8	11C後～12C中	太宰府編年Ⅳ類
908	94D	SD02	白磁椀	14.8	-	*4.8	11C後～12C中	太宰府編年Ⅳ類
909	94D	SD02	白磁椀	15.6	-	*2.9	11C後～12C中	太宰府編年Ⅳ類
910	94Ab	SX01	白磁椀	15.8	-	*2.7	11C後～12C中	太宰府編年Ⅳ類
911	93Aa	SE01東側溝	白磁椀	-	6.8	*2.8	11C後～12C中	太宰府編年Ⅳ類
912	94Ab	SX01	白磁椀	14.4	-	*3.0	11C後～12C中	太宰府編年Ⅴ類
913	94E	SD09	白磁椀	12.8	-	*2.6	11C後～12C中	太宰府編年Ⅴ類
914	95Ba	ST02	白磁椀	14.0	-	*2.5	11C後～12C中	太宰府編年Ⅴ類
915	94J	SD12	白磁椀	-	6.4	*3.2	11C後～12C中	太宰府編年Ⅴ類
916	94Ab	SD04	白磁椀	-	7.1	*3.5	11C後～12C中	太宰府編年Ⅴ類
917	95Aa	検Ⅰ	白磁椀	15.6	-	*3.0	12C後～13C前	太宰府編年Ⅷ類
918	94J	SK15	白磁椀	14.0	-	*4.8	13C前～14C後	太宰府編年Ⅸ類
919	94J	SD12	白磁椀	-	5.0	*1.7		中世後半
920	94Ab	SX01	白磁皿	-	4.4	*2.3	11C後～12C	潮州窯
921	94Aa	SD01-A上	白磁皿	-	6.4	*0.8	13C前～14C後	太宰府編年Ⅸ類
922	94D	SD06	白磁皿	11.6	-	*2.3	15C初～15C中	白磁皿B群
923	94C	SK10	青白磁入子	6.6	-	*1.3	12C～13C	
924	94J	SD01	青白磁合子	8.0	-	*1.3	12C代	福建
925	94J	検Ⅰ	青白磁小椀	-	-	*1.5	12C代	
926	93B	SD02上層	青磁椀	14.2	-	*2.6	12C前～13C初	同安窯系Ⅰ類
927	95Aa	SK56	青磁椀	-	4.8	*3.2	12C前～13C初	同安窯系
928	94C	SK10	青磁皿	11.4	-	*1.6	12C前～13C初	同安窯系
929	94Ma	検Ⅰ	青磁皿	9.0	-	*1.4	12C前～13C初	同安窯系
930	94J	SD12	青磁皿	10.4	5.1	2.7	12C前～13C初	同安窯系
931	94J	SD12	青磁椀	14.0	-	*4.8	12C中～13C初	龍泉窯系Ⅰ類
932	93Aa	SD03	青磁椀	14.0	-	*5.4	12C中～13C初	龍泉窯系Ⅰ類
933	94J	SX01	青磁椀	15.8	-	*2.5	12C中～13C初	龍泉窯系Ⅰ類
934	94Ma	検Ⅰ	青磁椀	15.2	-	*2.2	12C中～13C初	龍泉窯系Ⅰ類
935	94J	検Ⅰ	青磁椀	15.0	-	*3.7	12C中～13C初	龍泉窯系Ⅰ類
936	94J	SD12	青磁椀	-	5.6	-	12C後～	龍泉窯系Ⅰ類
937	95Ba	SK01	青磁椀	14.4	-	*4.3	13C中～14C後	龍泉窯系BⅠ類
938	95Ab	SD04	青磁椀	13.2	-	*2.8	13C中～14C後	龍泉窯系BⅠ類
939	95F	SX01	青磁椀	13.2	-	*5.4	13C中～14C後	龍泉窯系BⅠ類
940	94D	SD06	青磁椀	14.4	-	*3.2	14C末～15C初	龍泉窯系BⅢ類
941	94J	SK15	青磁椀	15.0	-	*2.0	14C末～15C初	龍泉窯系BⅢ類
942	94Aa	SD01-A下	青磁椀	-	4.7	*2.1		龍泉窯系B類
943	95F	SD01土器	青磁椀	-	5.5	*3.6		龍泉窯系B類
944	95Aa	SD03-1	青磁椀	11.8	-	*3.8	15C末～16C初	龍泉窯系BⅣ類
945	95Ba	ST01	青磁椀	12.0	-	*3.2	15C末～16C初	龍泉窯系BⅣ類
946	94J	SK15	青磁椀	-	3.8	-	13C中～14C後	龍泉窯系BⅦ類
947	95Ba	ST02	青磁椀	14.4	-	*5.3	14C末～15C初	龍泉窯系D類
948	94Ma	検Ⅰ	青磁小椀	7.4	3.4	4.2	12C前～13C	龍泉窯系
949	93C	SD01	青磁小椀	10.0	-	*2.6		龍泉窯系
950	95C	検Ⅰ	青磁皿	-	3.3	*1.5	12C後～13C前	龍泉窯系
951	94Aa	SD01-A上	青磁大皿	20.6	-	*2.9	14C	龍泉窯系
952	94J	SD12	青磁大皿	24.2	-	*3.1		龍泉窯系
953	94G	SE03	青花椀	14.4	-	*2.7	14C末～15C後	染付椀B群

土錘

番号	調査区	遺構番号	時期	重量 g	長さ mm	孔径 mm	最大径 mm	分類1	分類2	備考
954	95F	SD201上層	古代Ⅲ	6.9	28	2	16	I	A a	土師
955	95Ab	検出 I		7.2	32	2	16	I	B	土師
956	94J	SD07	中世	*5.8	35	3	13	I	B	土師
957	94J	SD07	中世以降	*3.2	*36	2	10	I	B	土師
958	94J	SD07	中世以降	4.8	40	2	12	I	A a	土師
959	95Ba	SD201下層	古代	*19.0	49	5	21	I・II	A a	土師、側面に摺痕
960	95Ba	SD201下層	古代	17.7	56	6	18	I・II	B	土師
961	95Ba	SD01下層	古代	*8.3	*50	4	13	I	?	土師
962	95Ab	SD06	中世以降	67.8	76	5	26			有孔土錘
963	93B	NR02	古代	*87.8	*76	溝幅7	38			有溝土錘
964	94Mb	SD09	古代	17.2	41	5	20	I	A a	土師
965	95Ba	SD202下層	古代	*16.9	*40	5	20	I・II	A a	土師
966	94J	SD13	中世以降	52.4	49	13	34	II	A a	土師
967	94J	検出 I		*61.5	50	15	37	II	A a	土師
968	93Ab	SK06	中世以降	1.6	28	2	6	I	A a	陶錘
969	95Ab	南トレンチ		10.4	50	5	16	I	A a	須恵、側面に摺痕
970	94J	SD17	古代	6.7	50	2	12	I	A a	須恵or灰釉陶器
971	94J	検出 I		9.6	*45	4	15	I	A a	須恵
972	95Ba	SD09下層	中世以降	11.6	51	5	15	I	A a	須恵
973	94Mb	SD14	古代	13.0	40	5	18	I	A a	須恵、×印あり
974	93Aa	SD03	中世以降	9.4	42	3	13	I	A a	陶錘
975	95Ba	ST01	中世以降	8.6	43	3	13	I	A a	灰釉or灰釉系陶器?
976	94E	SG01	古代	8.8	42	3	12	I	A a	須恵or灰釉陶器?

加工円盤

番号	調査区	グリッド	遺構番号	重量g	長cm	短cm	分類	備考
977	94 E	Ⅲ E 4f	SD09	6.8	2.3	1.9	A 1	
978	94 E	Ⅱ E 20g	SD12	5.3	2.3	1.8	A 1	磨減
979	94 E	Ⅲ E 1de	トレンチ	9.6	2.8	1.9	A 1	
980	94 E	Ⅱ E 18e	SG01	9.0	2.3	2.0	A 1	
981	94 E	Ⅱ E 18e	SG01	8.2	2.5	2.1	A 1	磨減
982	94 E	Ⅱ E 18e	SG01	7.7	2.4	2.1	A 1	
983	94 E	Ⅱ E 18e	SG01	*5.0	2.4	*1.4	A 1	
984	94 E	Ⅱ E 18f	SG01	12.3	3.4	2.8	A 1	
985	94 E	Ⅱ E 19fg	SG01	10.3	2.6	2.2	A 1	磨減
986	94 E	Ⅱ E 20f	SG01(下)	9.9	3.3	1.9	A 1	
987	94 E	Ⅱ E 20f	SG01(下)	7.3	2.4	1.9	A 1	
988	94 E	Ⅲ E 1c	SG01	9.0	2.6	2.1	A 1	
989	94 E	Ⅲ E 1d	SG01	13.1	2.8	2.2	A 1	
990	94 E	Ⅲ E 1d	SG01	5.3	2.0	1.4	A 1	
991	94 E	Ⅲ E 1d	SG01	9.6	2.9	1.9	A 1	磨減
992	94 E	Ⅲ E 1d	SG01	12.4	2.9	1.8	A 1	
993	94 E	Ⅲ E 3d	SG01	7.8	2.2	1.9	A 1	
994	94 E	Ⅲ E 3d	SG01	13.1	3.0	2.8	A 1	
995	94 E	Ⅲ E 4c	SG01	9.7	2.8	2.3	A 1	
996	94 E	Ⅲ E 4f	SG01	8.2	2.7	2.4	A 1	磨減
997	94 F	Ⅱ E 11d	SD01(下)	8.1	2.3	2.0	A 1	
998	94 F	Ⅱ E 12d	SD01(下)	6.7	2.3	2.2	A 1	磨減
999	94 F	Ⅱ E 15fg	SK11	10.1	2.6	2.1	A 1	磨減
1000	94 F	Ⅱ D 15s	SD18	9.5	2.8	2.2	A 1	磨減
1001	95Ba	Ⅳ E 7n	SD10	6.2	2.4	2.1	B 1	磨減
1002	95Ba	Ⅲ E 16o	ST01	5.8	2.5	2.1	B 1	須恵,坏,磨減
1003	95Ba	Ⅲ E 16p	ST01	10.8	2.7	2.4	A 1	
1004	95Ba	Ⅲ E 16p	ST01	7.5	2.8	2.4	B 1	灰釉,皿
1005	95Ba	Ⅲ E 16p	ST01	11.2	2.8	2.4	A 1	
1006	95Ba	Ⅲ E 16r	ST01	6.5	2.2	1.9	A 1	磨減
1007	95Ba	Ⅲ E 16r	ST01	6.8	2.5	2.4	A 1	

加工円盤

番号	調査区	グリッド	遺構番号	重量g	長cm	短cm	分類	備考
1008	95Ba	Ⅲ E 16r	ST01	7.9	2.4	2.0	A 1	磨減
1009	95Ba	Ⅲ E 17o	ST01	7.7	2.4	2.2	A 1	磨減
1010	95Ba	Ⅲ E 17o	ST01	11.6	3.2	2.5	A 1	
1011	95Ba	Ⅲ E 17o	ST01	5.7	2.3	2.1	B 1	灰釉,碗
1012	95Ba	Ⅲ E 17o	ST01	9.3	2.7	2.3	A 1	磨減
1013	95Ba	Ⅲ E 18o	ST01	7.0	2.6	2.4	A 1	
1014	95Ba	Ⅲ E 17m	ST02	9.9	3.1	2.5	A 1	
1015	95Ba	Ⅲ E 17m	ST02	6.9	2.6	2.1	A 1	
1016	95Ba	Ⅲ E 17m	ST02	9.7	3.4	3.0	A 1	
1017	95Ba	Ⅲ E 18m	ST02	4.3	2.2	1.7	A 1	
1018	95Ba	Ⅲ E 18m	ST02	5.8	2.5	2.0	A 1	
1019	95Ba	Ⅲ E 19l	ST02	10.5	2.7	2.4	A 1	
1020	95Ba	Ⅲ E 16l	ST04	6.4	2.1	2.0	A 1	
1021	95Ba	Ⅲ E 16l	ST04	8.3	3.0	2.4	A 1	
1022	95Ba	Ⅲ E 17l	ST02-04間	9.6	3.0	2.4	B 1	灰釉,碗
1023	94 E	Ⅱ E 20g	SD12	11.3	2.8	2.3	B 2	須恵,甕,磨減
1024	94 E	Ⅲ E 1de	トレンチ	7.6	2.5	1.9	B 2	須恵,甕?,磨減
1025	95Ba	Ⅲ E 18m	SD01	12.4	2.8	2.5	A 2	鉢?
1026	95Ba	Ⅲ E 17m	ST02	10.4	3.2	2.9	A 2	鉢
1027	95Ba	Ⅲ E 17o	ST02	10.4	3.1	2.7	A 2	鉢?
1028	95Ba	Ⅲ E 18m	ST02	8.7	2.6	2.6	B 2	灰釉,大型品

陶丸

番号	調査区	グリッド	遺構番号	重量g	長cm	短cm	備考
1029	94B	I E 7p	SD01	12.5	2.4	2.2	磨減
1030	95Aa	Ⅳ D 1o	SD02	*6.9	2.0	1.9	磨減
1031	95Ab	Ⅳ E 7a	SX01	*9.5	2.4	2.2	磨減
1032	95Ab	Ⅳ E 7b	SK03(へ'ル)	*13.6	2.4	2.4	磨減
1033	95Ba	Ⅲ E 17n	ST02	16.8	2.6	2.4	磨減
1034	95Ba	Ⅲ E 17p	ST01	*7.9	2.1	1.6	自然釉
1035	95Ba	Ⅲ E 18m	ST02	9.3	2.1	2.0	
1036	95F	Ⅲ E 5n	SX01トレンチ5西側	10.5	2.1	2.0	磨減
1037	95F		表土剥ぎ	13.1	2.3	2.2	磨減,「×」線刻
1038	94E	Ⅱ E 17g	SD10	10.8	2.5	2.2	土師質
1039	94J	Ⅲ F 7b	SD06	4.5	2.0	1.6	土師質

墨書土器

番号	調査区	グリッド	遺構番号	器種	墨書部位	材質	内容	備考
1040	94Ma	Ⅱ F 18d	SD11	坏	中底,外底	須恵器	数字	中:万,外:万
1041	94E	Ⅲ E 3f	SG01	坏	中底,外側	須恵器	文字	中:公平,外:公平
1042	95C	Ⅲ D 13g	検出。	椀	外底	須恵器	文字	
1043	95F	Ⅲ E 5m	SD201上層	皿	外底	須恵器	不明	
1044	95C	Ⅲ D 17i	検出。	皿	外底	須恵器	文字	
1045	94Mb	Ⅲ E 1t	SD09	皿	外底	須恵器		
1046	94Ma	Ⅱ F 12c	包含層	皿	外底	須恵器	数字	三
1047	94G	Ⅲ D 19t	SD02(砂層)	坏	外底	須恵器	数字	十
1048	94C	Ⅲ E 2q	SK10	椀	外底	灰釉系	記号	花押状
1049	94J	Ⅲ F 13ab	SK97(井戸)	皿	外底	灰釉系	文字	大
1050	95Bc	Ⅳ E 18k	暗灰褐色土	皿	外底	灰釉	文字	川
1051	93Aa		西壁前トレンチ	椀	外底	灰釉	文字	之
1052	94J	Ⅲ E 4t	検出「	椀	外底	灰釉系	記号	∴
1053	94J		表土剥ぎ	皿	外底	灰釉系	記号	∴
1054	94J	Ⅲ F 4b	SX01	皿	外底	灰釉系	記号	∴
1055	94J		表土剥ぎ√	皿	外底	灰釉系	記号	∴
1056	94J	Ⅲ F 8c	SD14(へ'ル)	椀	外底	灰釉系		∴
1057	94J	Ⅲ F 12c	SD03	皿	外底	灰釉系	文字	

墨書土器

番号	調査区	グリッド	遺構番号	器種	墨書部位	材質	内容	備考
1058	95C	Ⅲ D 13f	SD11	皿	外底	灰釉系	数字 十	
1059	94Ab	Ⅱ E 12o	SD04(馬骨共出)	皿	外底	灰釉系	数字 八	
1060	94J	Ⅲ E 4t	検出	皿	外底	灰釉系	文字 あ	
1061	94I	Ⅱ E 7t	包含層	椀	外底	灰釉系	不明 花押状	
1062	95Aa	Ⅳ D 2p	SD55	皿	外底	灰釉系	文字 上	
1063	94J		表土剥ぎ	小椀	外底	灰釉系	文字 上	
1064	94J	Ⅲ F 4c	SX01	皿	外底	灰釉系	上	
1065	94J	Ⅲ F 4bc	SX01	皿	外底	灰釉系	土	
1066	94Ab	Ⅱ E 12n	SD04	椀	外底	灰釉系	不明 花押状	
1067	94J	Ⅲ F 9c	SD11	椀	外底	灰釉系	数字 十	
1068	94J	Ⅲ F 4c	SX01	皿	外底	灰釉系		
1069	94J	Ⅲ F 4bc	SX01	皿	外底	灰釉系		花押状
1070	94J	Ⅲ F 4d	SX01	皿	外底	灰釉系		花押状
1071	94Aa	Ⅱ E 9t	SD01-B下層	椀	外底	灰釉系	文字 大	
1072	94J	Ⅲ F 9c	SD12(最下層)	椀	外側面下	灰釉系	数字 十	
1073	94J	Ⅲ F 8a	SD12	椀	外底	灰釉系	不明 (..)	
1074	94K	Ⅳ D 16s	検出。	皿	外底			福
1075	94J	Ⅲ F 9c	SD11	椀?	外底	灰釉系	不明 花押状	
1076	94J	Ⅲ F 9d	SD11	椀	外底	灰釉系	文字 大	
1077	94Aa	Ⅱ E 9t	SD01-B下層	椀	外底	灰釉系	数字 十	
1078	94Aa	Ⅱ E 9t	SD01-B下層	椀	外底	灰釉系	数字 十	
1079	94J	Ⅲ F 4c	SX01	椀	外底	灰釉系	数字 十	
1080	94E		SG01	皿	外底	灰釉系	記号	
1081	94J		表土剥ぎ	小椀	外底	灰釉系	数字 二	
1082	94J		南壁トレンチ	皿	外底	灰釉系	数字 二	
1083	94G	Ⅲ D 20m	SD05	皿	外底	土師		
1084	95Ba	Ⅲ E 17n	検出。	椀	外底	灰釉系		万
1085	94Aa	Ⅱ E 9t	SD01-B下層	椀	外底	灰釉系	文字?	花押状
1086	95D	Ⅲ D 7g	検出	椀	外底	灰釉系	不明	
1087	94Ab	Ⅱ E 12o	SD04	椀	外底	灰釉系	数字 一	
1088	94J	Ⅲ F 4c	SX01	椀	外底	灰釉系	二	
1089	94Aa	Ⅱ F 9b	SD01-B下層	皿	外底	灰釉系	数字 二	
1090	94J	Ⅲ F 13d	検出。	椀	外底	灰釉系		花押状
1091	94Ab	Ⅱ E 12p	SD04	皿	外底	灰釉系		

木製品

番号	調査区	グリッド	遺構番号	器種	口径	底径	器高	備考
1092	94J	Ⅲ F10b	SD12	椀	14.8	7.4	6.1	
1093	94J	Ⅲ F10c	SD12	椀	*12.6	*7.6	10.0	
1094	94J	Ⅲ F 9b	SD12	柄杓	直径8.0		6.2	
1095	94J	Ⅲ F 9b	SD12	箸	長さ21.5	幅0.6		
1096	94J	Ⅲ F 9b	SD12	箸	22.5	0.7		
1097	94KL	Ⅳ E19e	SK29	しゃもじ	長さ22.0	幅7.0		
1098	94J	Ⅲ F 9b	SK86	曲物底板	直径14.5	厚さ1.0		
1099	95F	Ⅲ E5n	SE02	曲物横板	内径35.2			
1100	94Ab	Ⅱ E12m	SX01	卒塔婆	長さ45.1	幅6.3	厚さ0.2	

石製品（砥石）

番号	調査区	グリッド	遺構番号	石材	研磨されて いる面数	備考
1101	95F	Ⅲ E 7n	SE01トレンチ	珪質頁岩	4	定形,短冊形,欠損
1102	95F	Ⅲ E 5n	SD201上層	流紋岩	4	定形,短冊形
1103	95Aa	Ⅳ D 2p	SK55	流紋岩	4	定形,短冊形
1104	94J	Ⅲ F12b	東北トレンチ	シルト岩	2	うすい,定形,短冊形
1105	94Ma	Ⅱ F 17b	検出 I	流紋岩質凝灰岩	4	定形,欠損
1106	95Ba	Ⅲ E 19l	ST02	流紋岩	4	定形
1107	95F	Ⅲ E 6n	SE02トレンチ	珪質頁岩	4	定形,短冊形
1108	94E	Ⅲ E 4e	SG01			

石製品（その他）

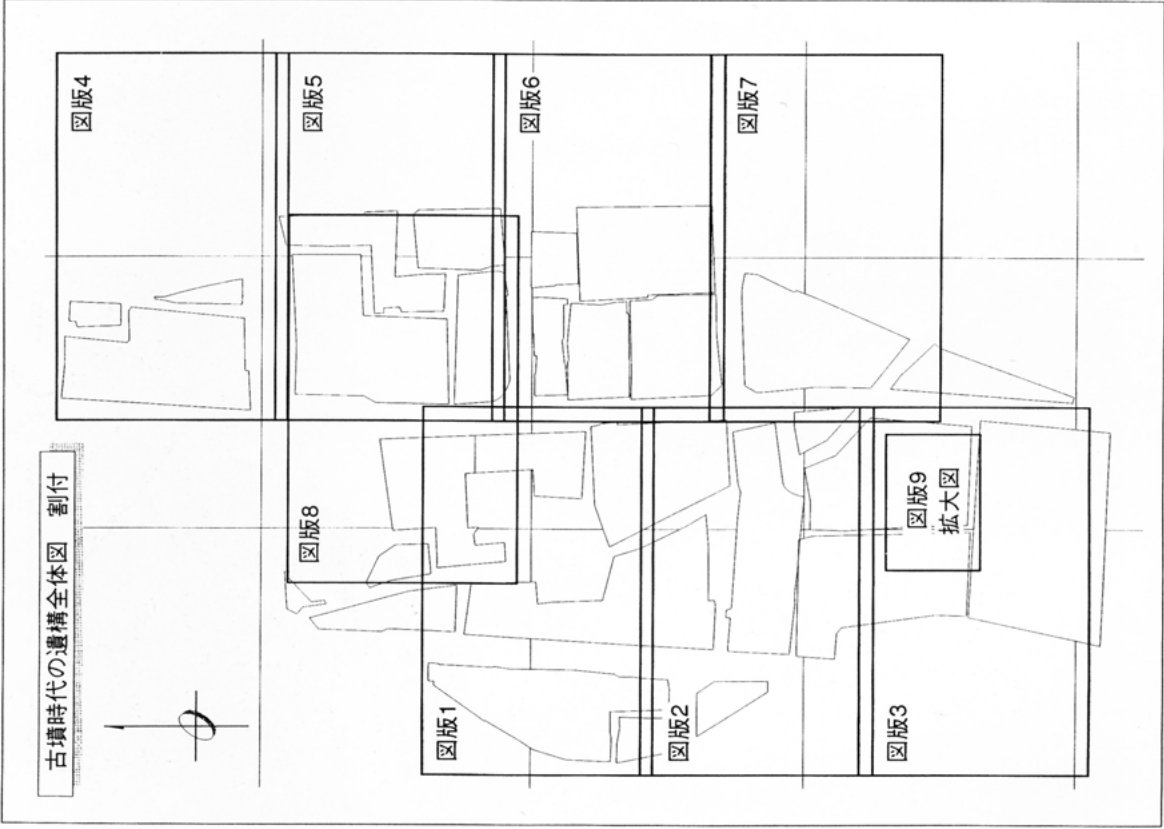
番号	調査区	グリッド	遺構番号	種別	石材
1109	94Ab	Ⅱ E13m	SX01	五輪塔	花崗岩
1110	94Ab	Ⅱ E13m	SX01	五輪塔	花崗岩
1111	94J	Ⅲ F7b	検出 I	五輪塔	花崗岩

金属製品

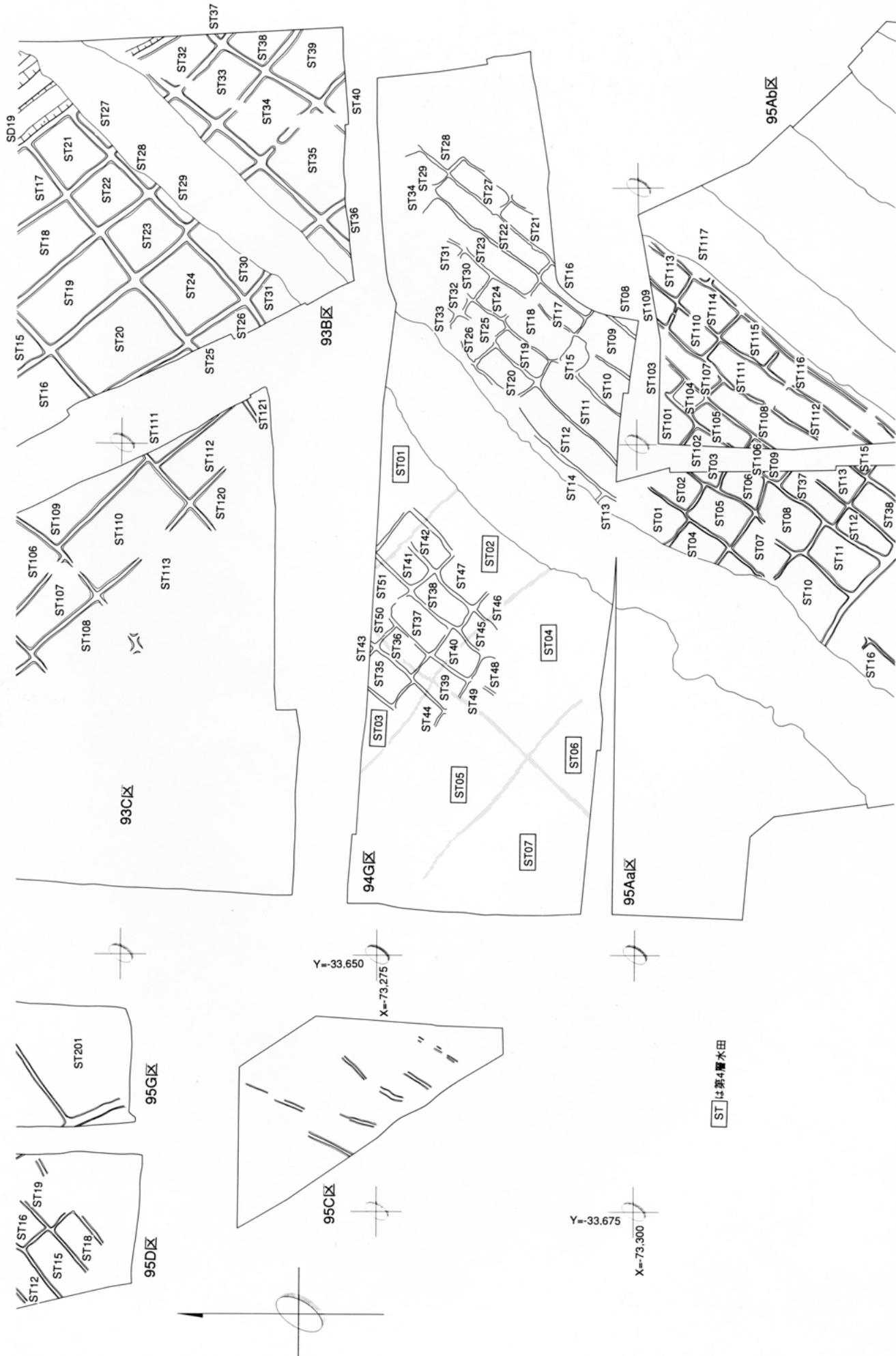
番号	調査区	グリッド	遺構番号	器種	口径	底径	器高	備考
1112	94Mb	Ⅲ E 1s	SD09	鎌	長さ17.9	幅3.4		
1113	95Ba	Ⅲ E 1t	SD09		長さ11.7	直径1.8		
1114	94E	Ⅱ F15b	SK08		長さ19.6	幅3.3		
1115	93B	Ⅲ E11f	NR02	蓋	11.5			*1.6 経筒? 容器蓋片

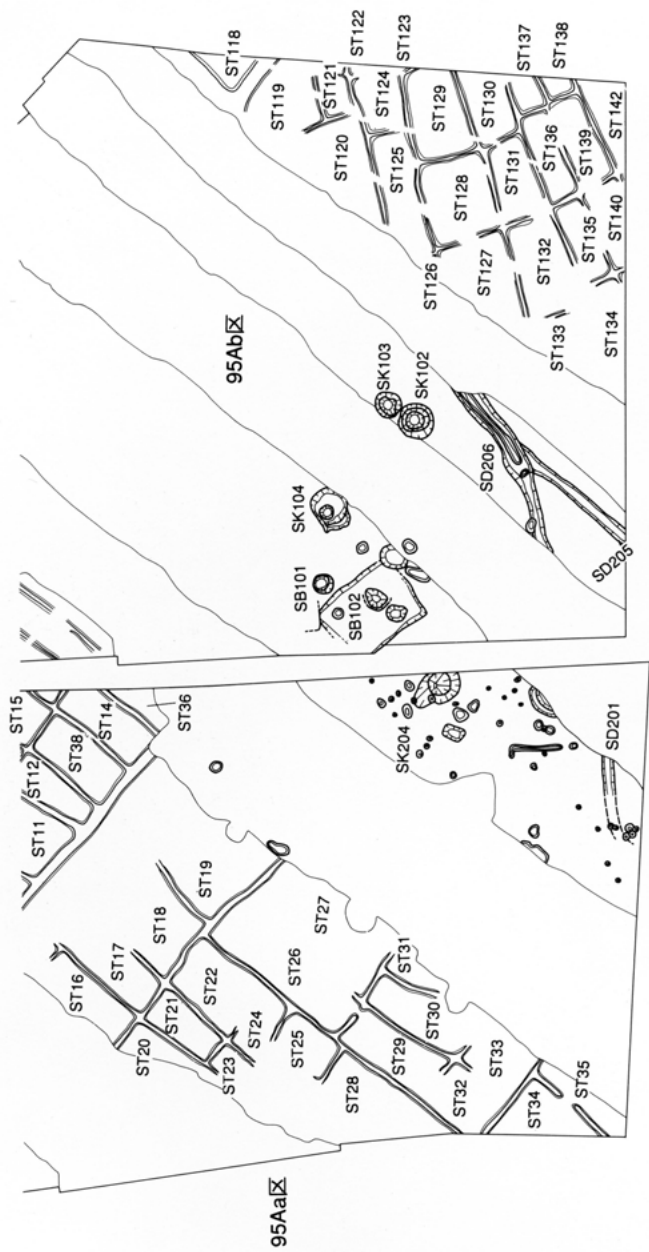
銭貨

番号	調査区	グリッド	遺構番号	X線処理番号	初鑄年代
1116	94E	Ⅲ E 1g	SG01	天聖元寶	北宋 1023
1117	94G	Ⅲ D17m	SK05	開元通寶	唐 628
1118	94L	Ⅳ D 1p	検出 I	熙寧通寶	北宋 1068
1119	95Aa	Ⅲ D20n	SK43	洪武通寶	明 1368
1120	95Aa	Ⅳ D 3r	検出 I	皇宋通寶	北宋 1039
1121	95B	表土剥ぎ		元豐通寶	北宋 1078
1122	95Ba	Ⅲ E 17o	ST01-02間畦	景祐元寶	1034
1123	95Ba	Ⅲ E 17o	ST01-02間畦		
1124	95Ba	Ⅲ E 17p南北へ向	ST	永樂通寶	明 1408
1125	95Ba	Ⅲ E 17o	ST02	太平通寶	北宋 976
1126	95F	Ⅲ E 5n	検出 I	元祐通寶	北宋 1093
1127	94J	Ⅲ F 4d	検出 I	大觀通寶	北宋 1107







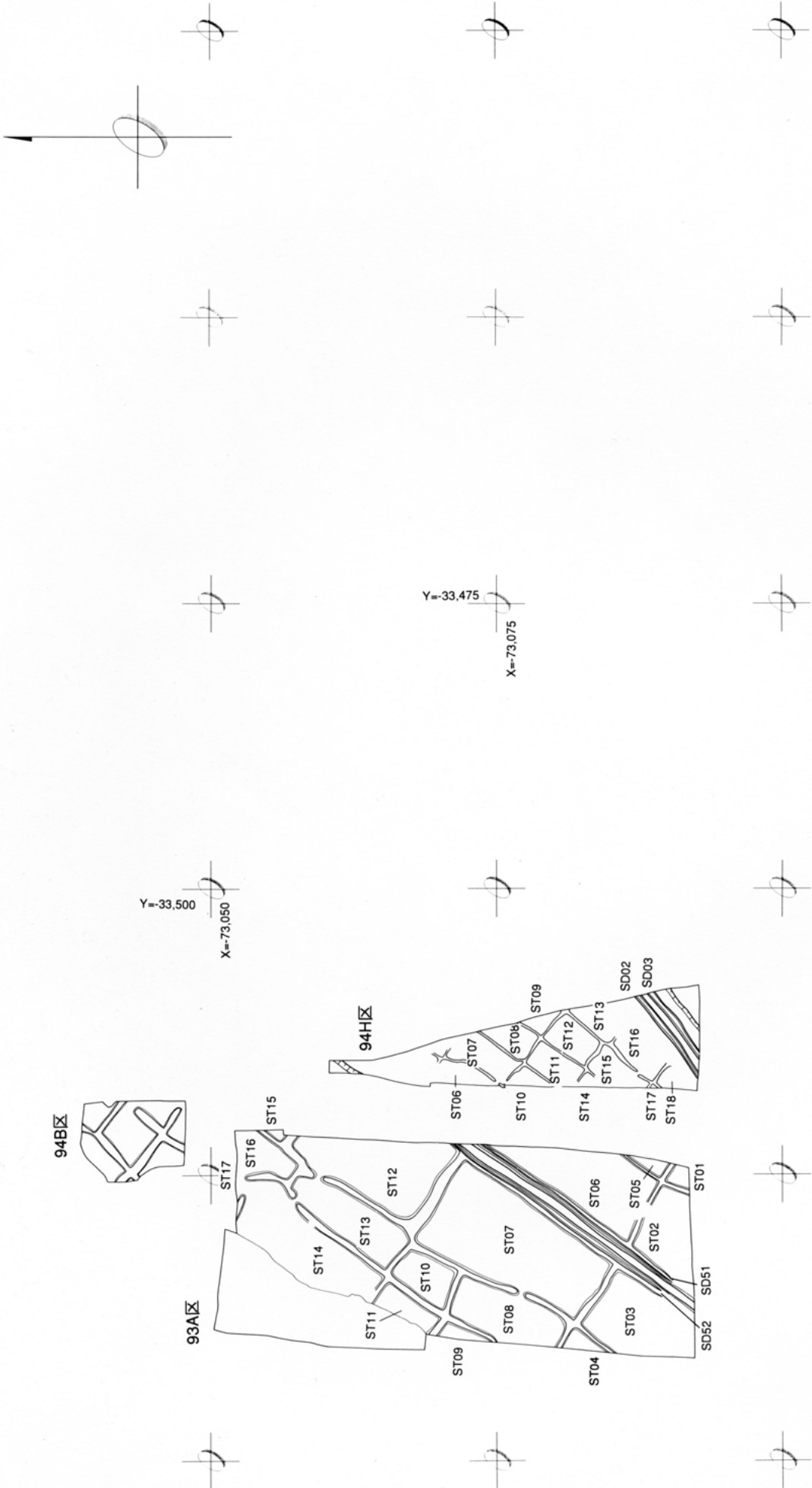


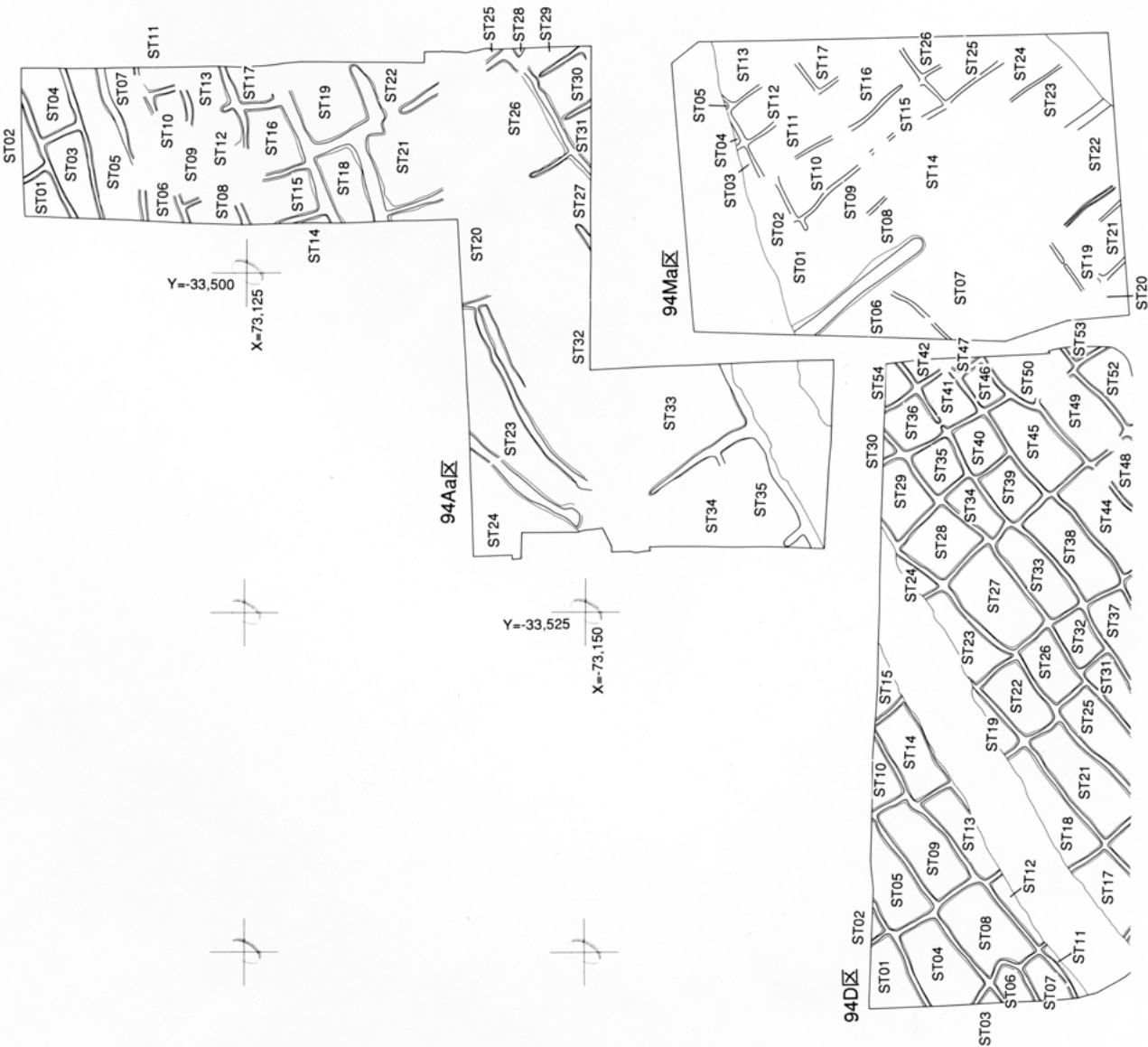
Y=-33,600

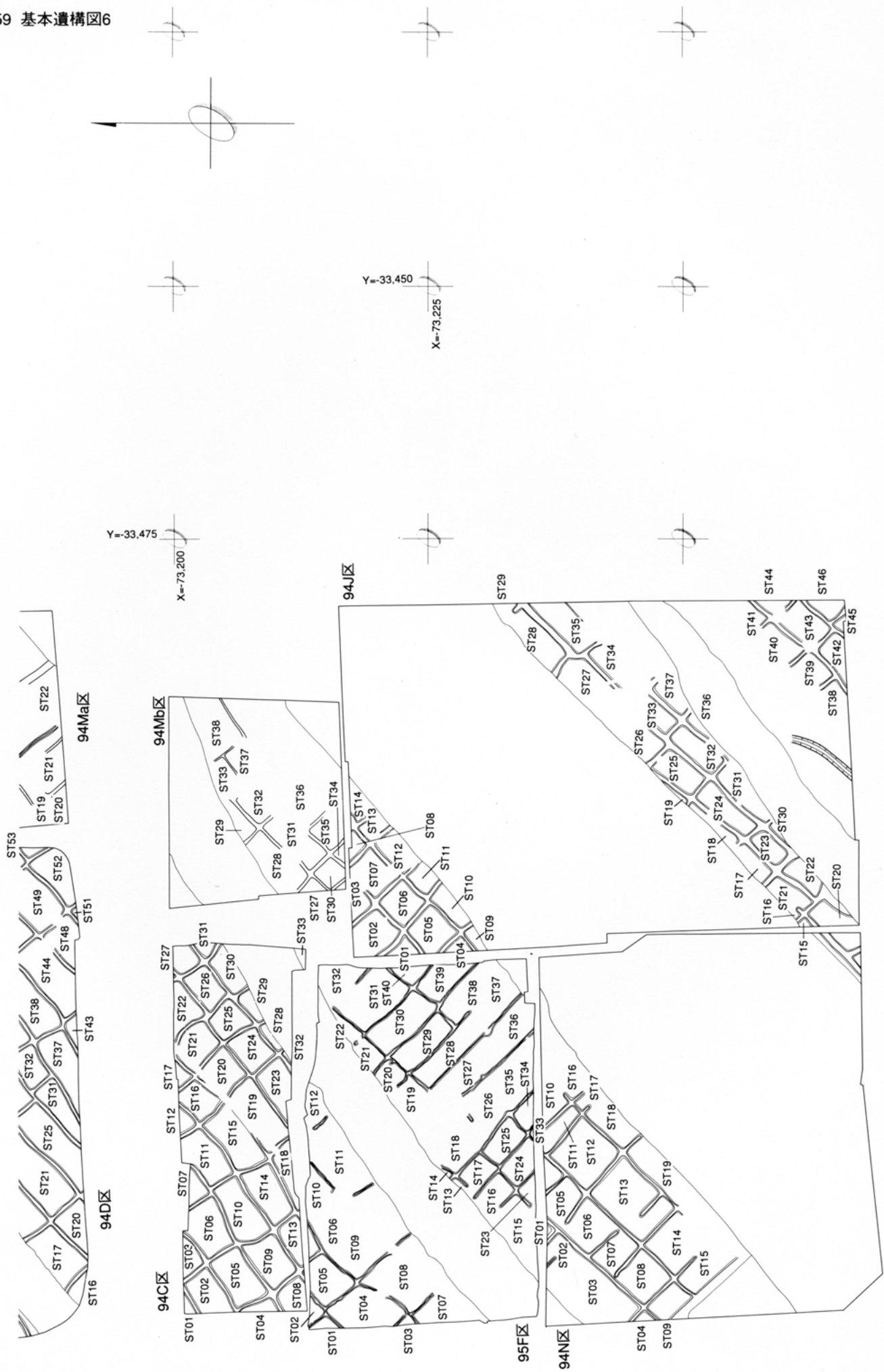
X=-73,375

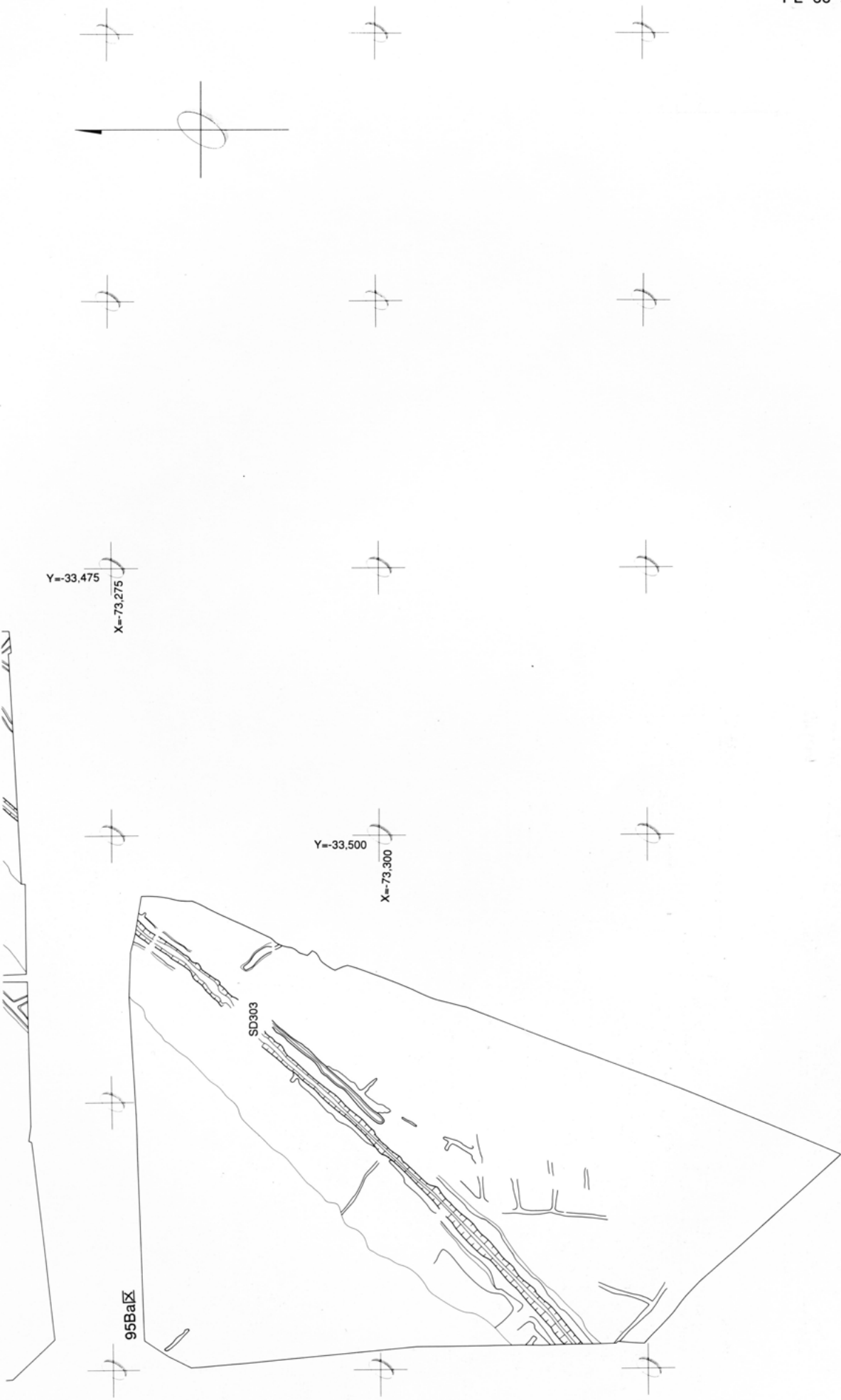
Y=-33,625

X=-73,400

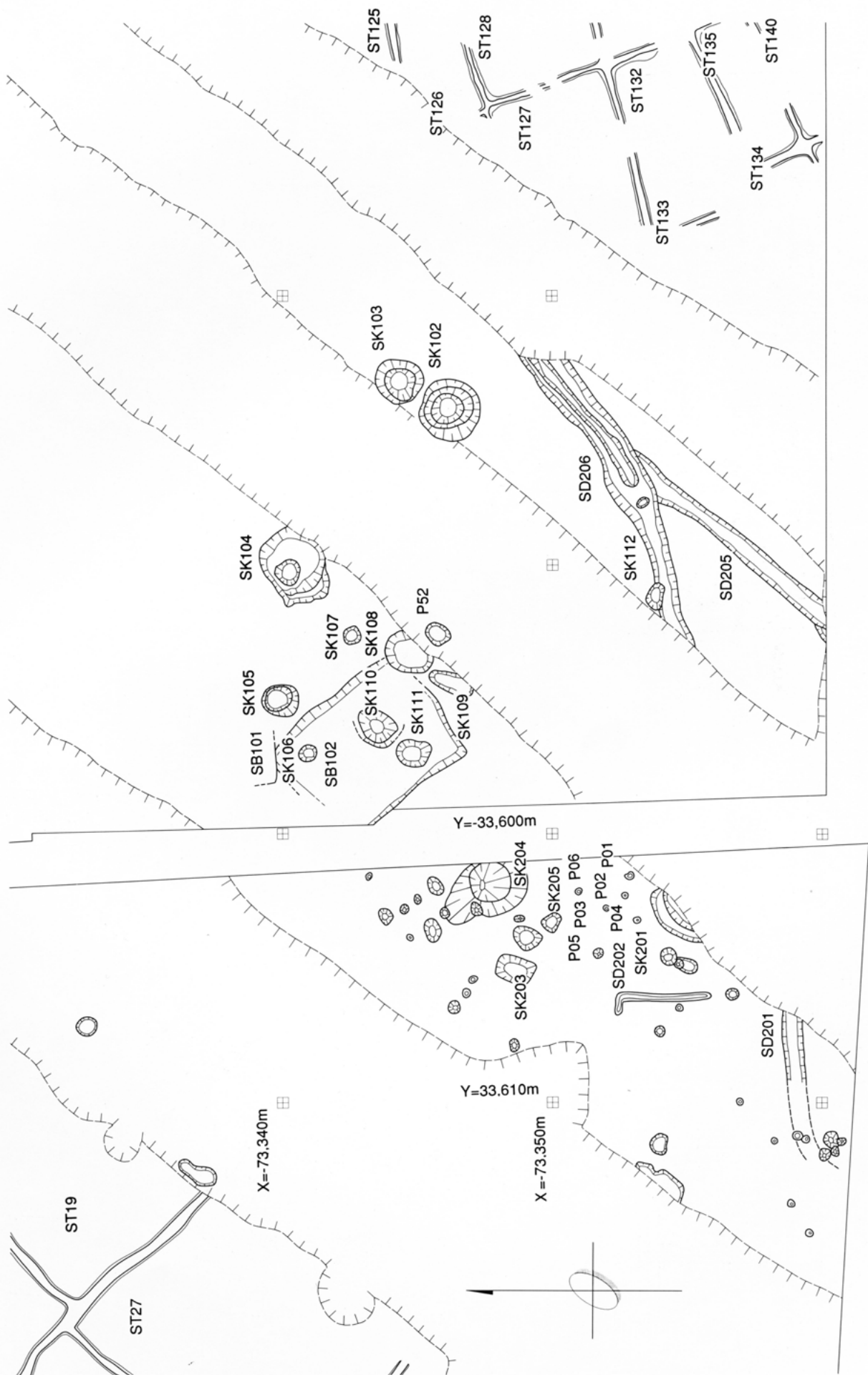


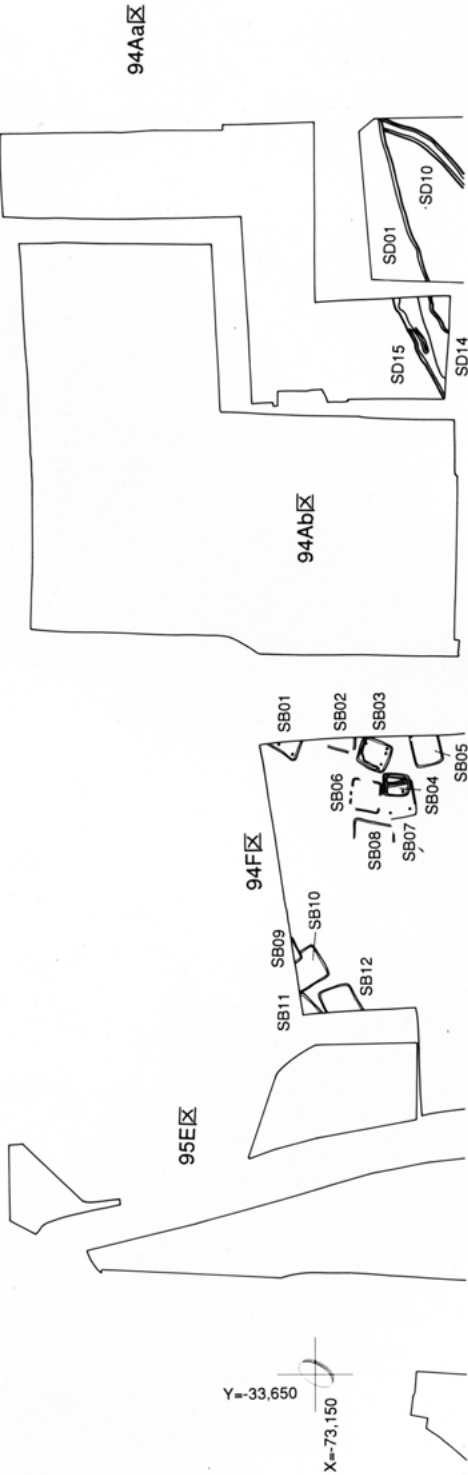
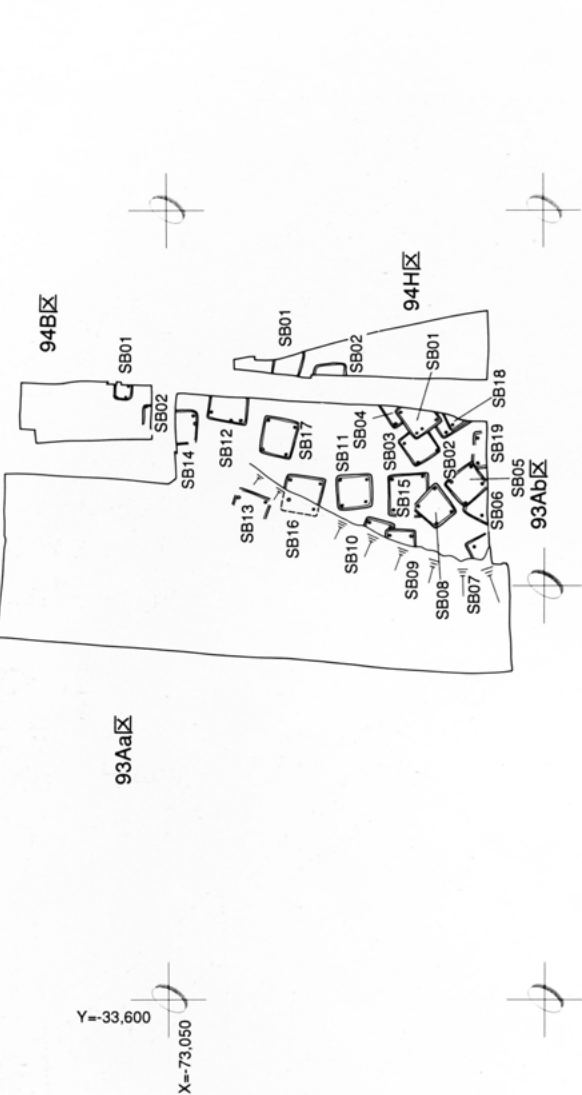
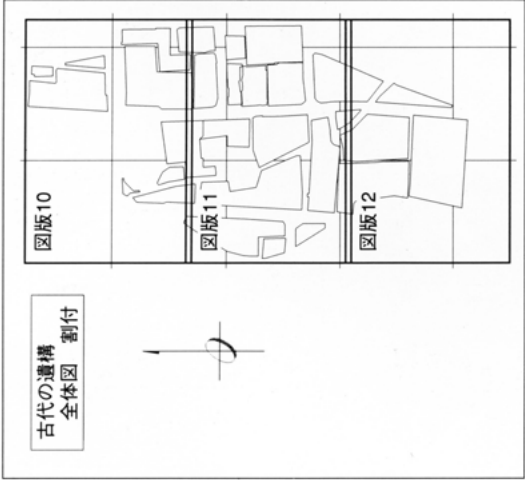


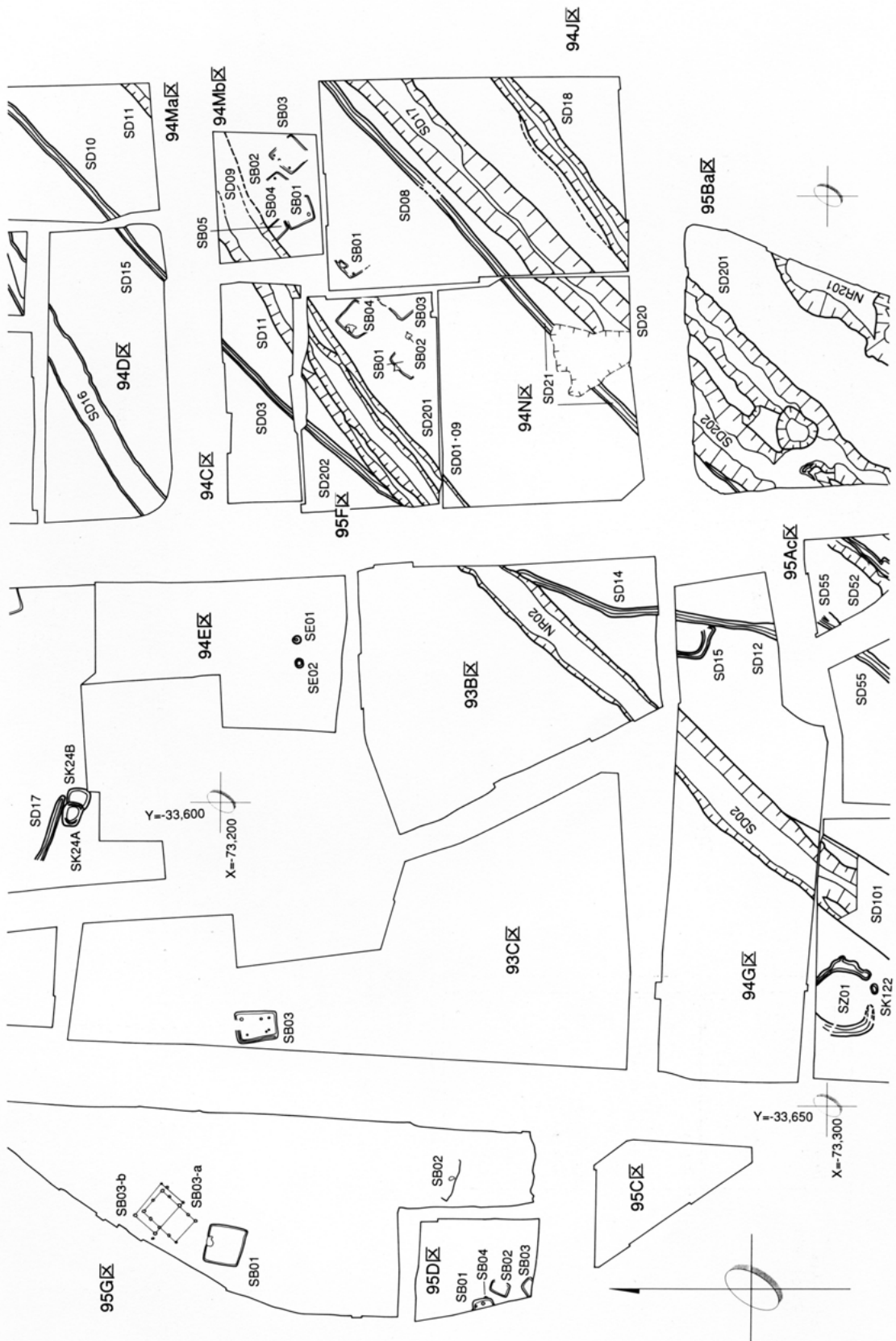


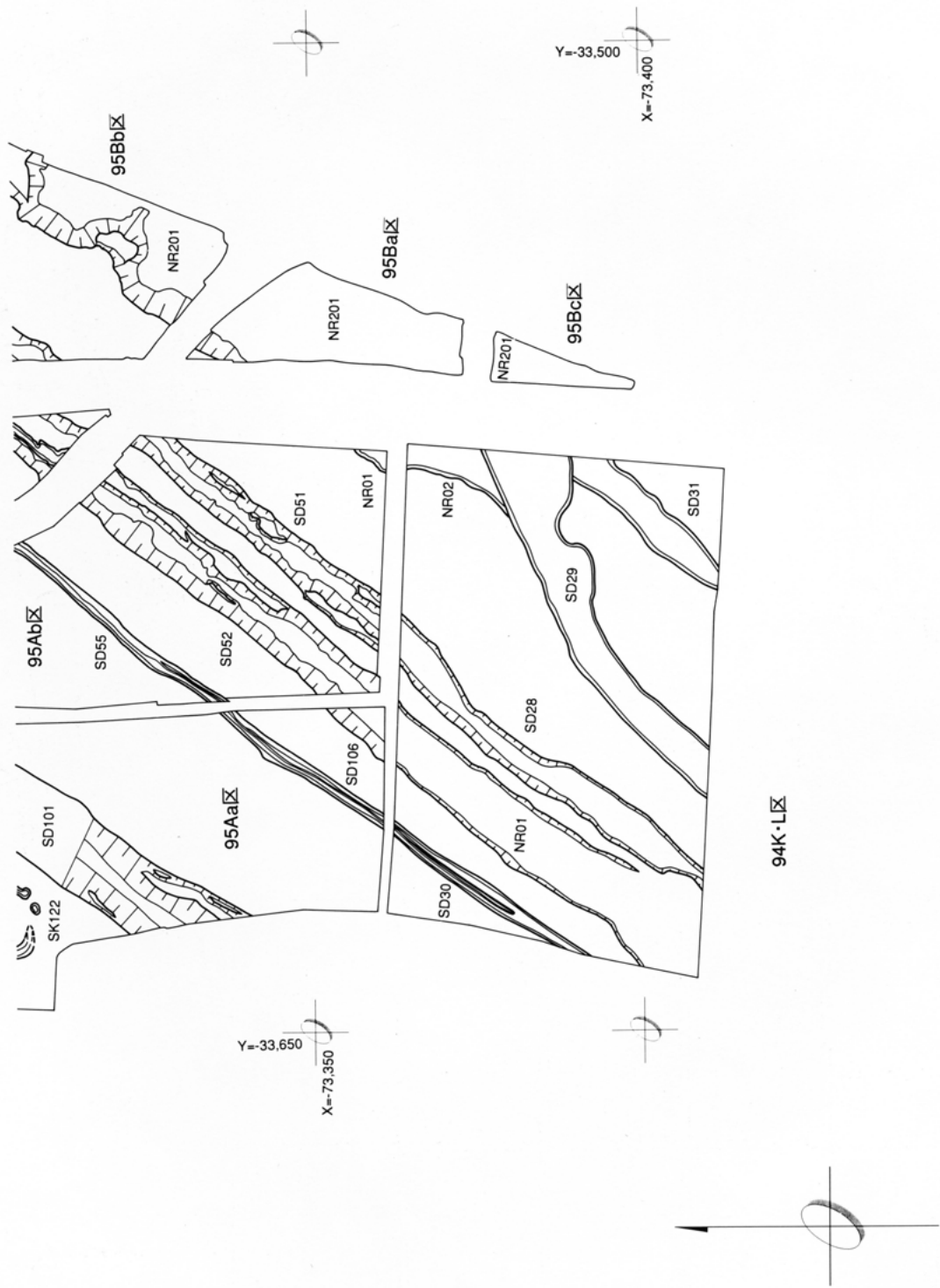


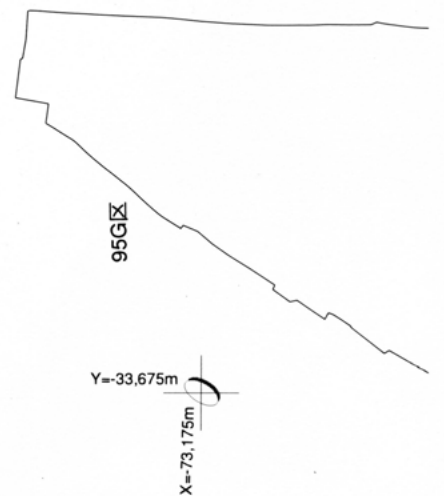
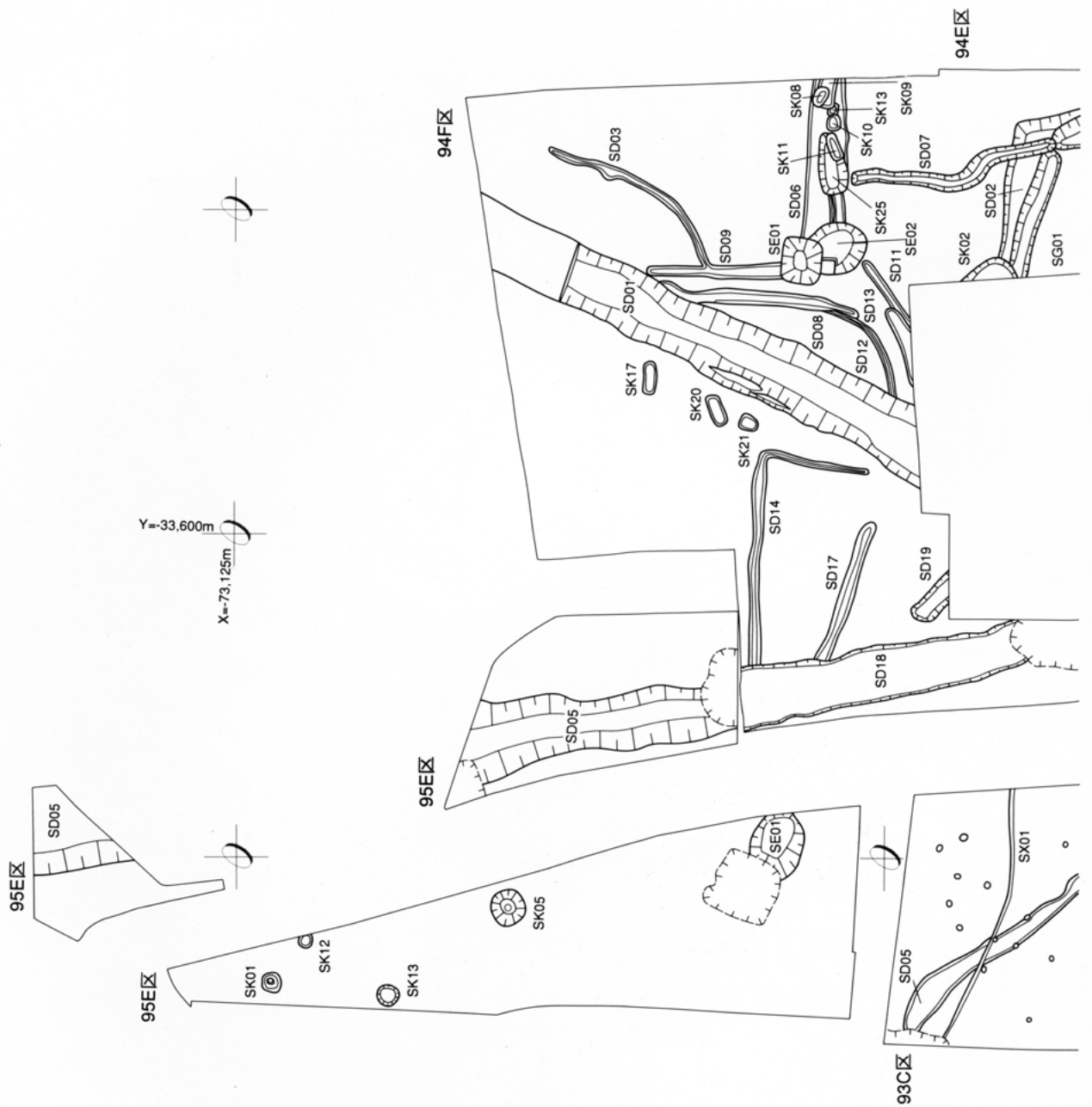
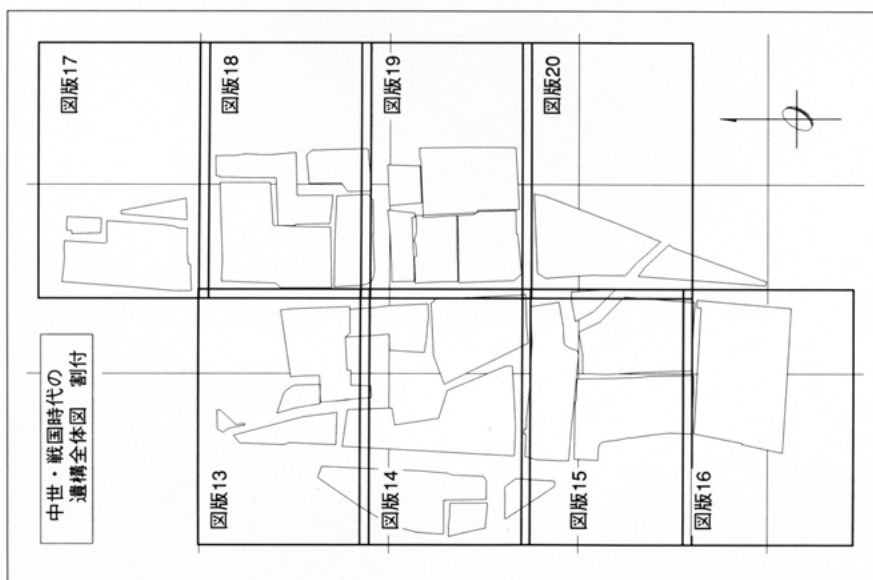


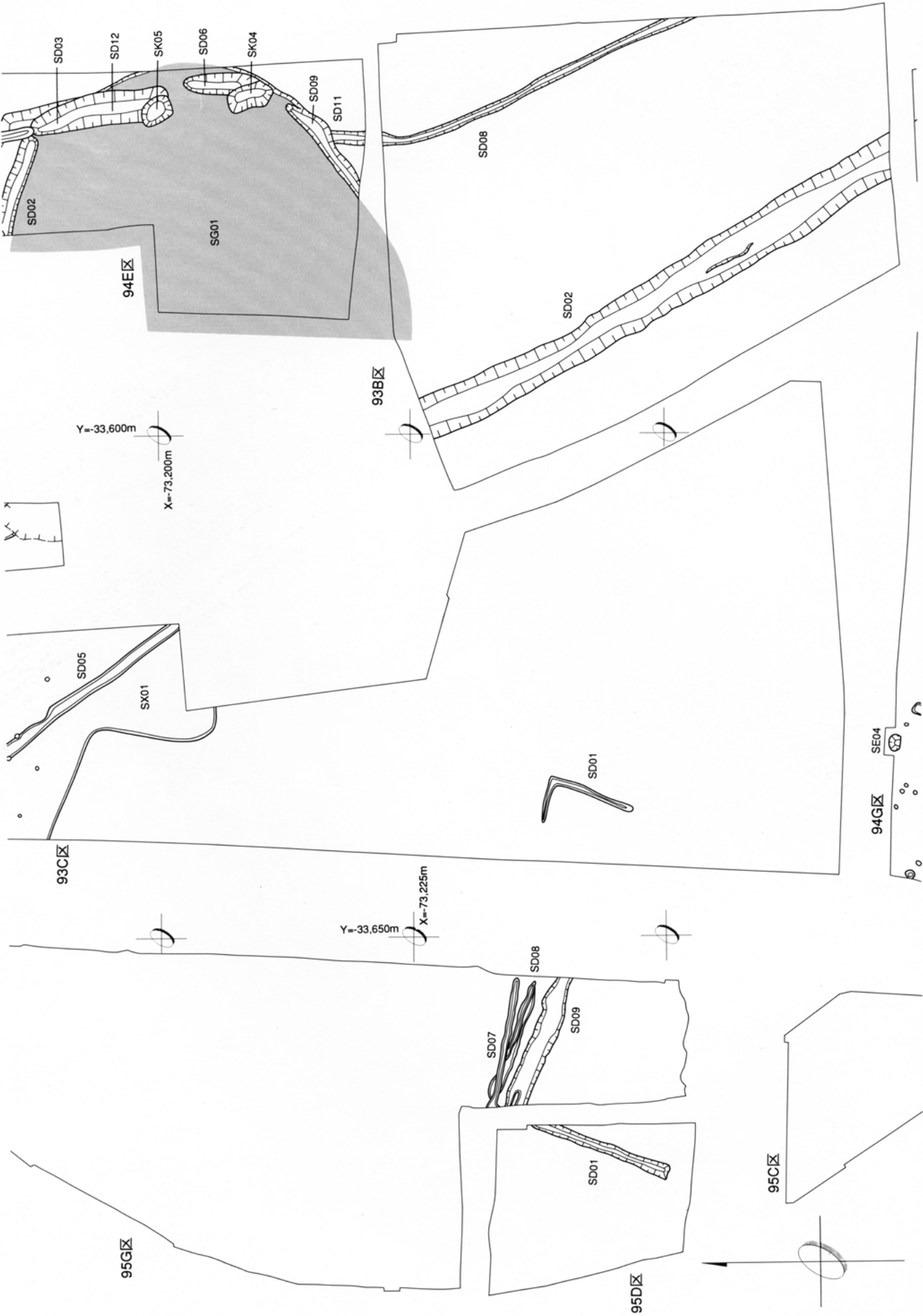


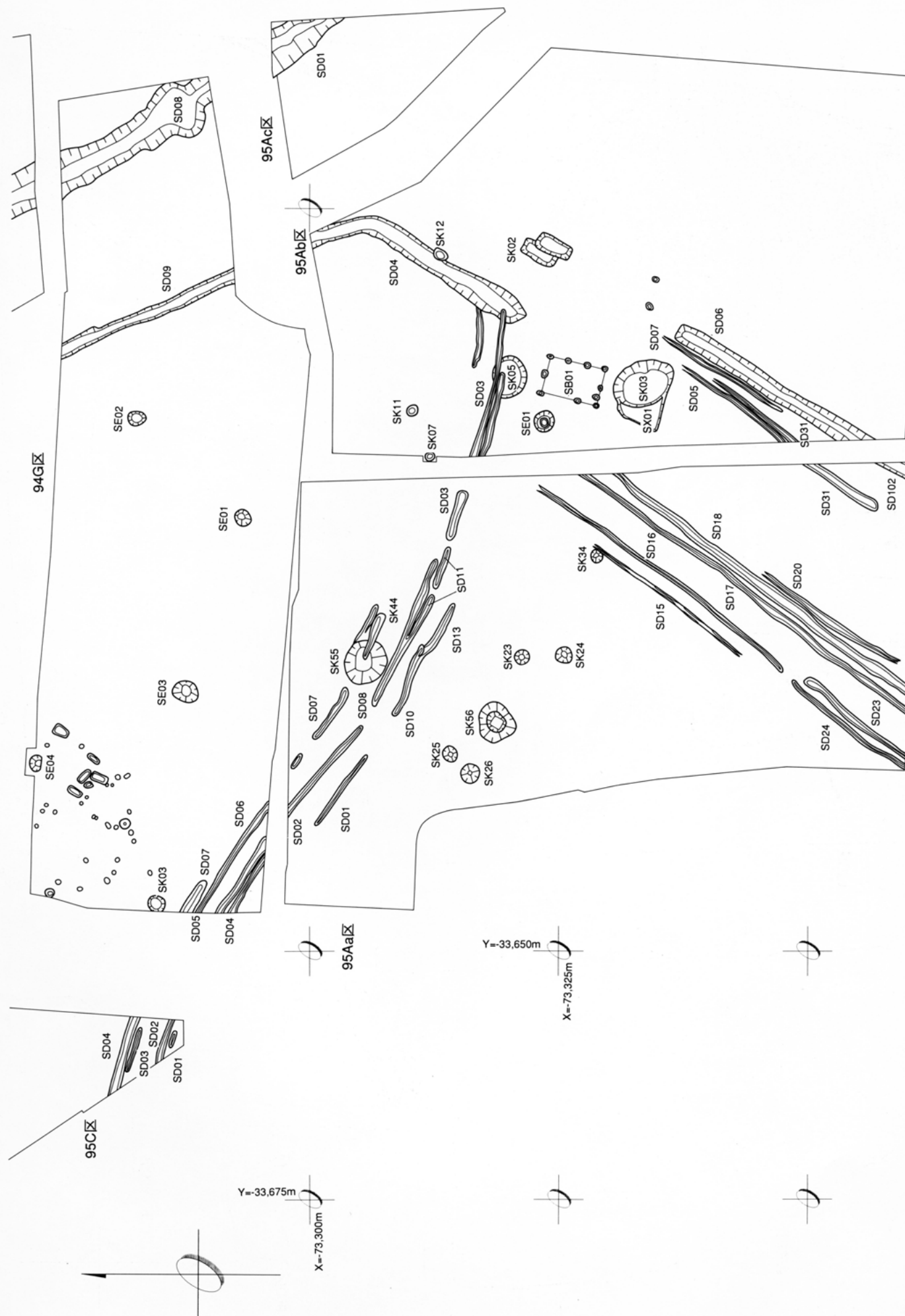




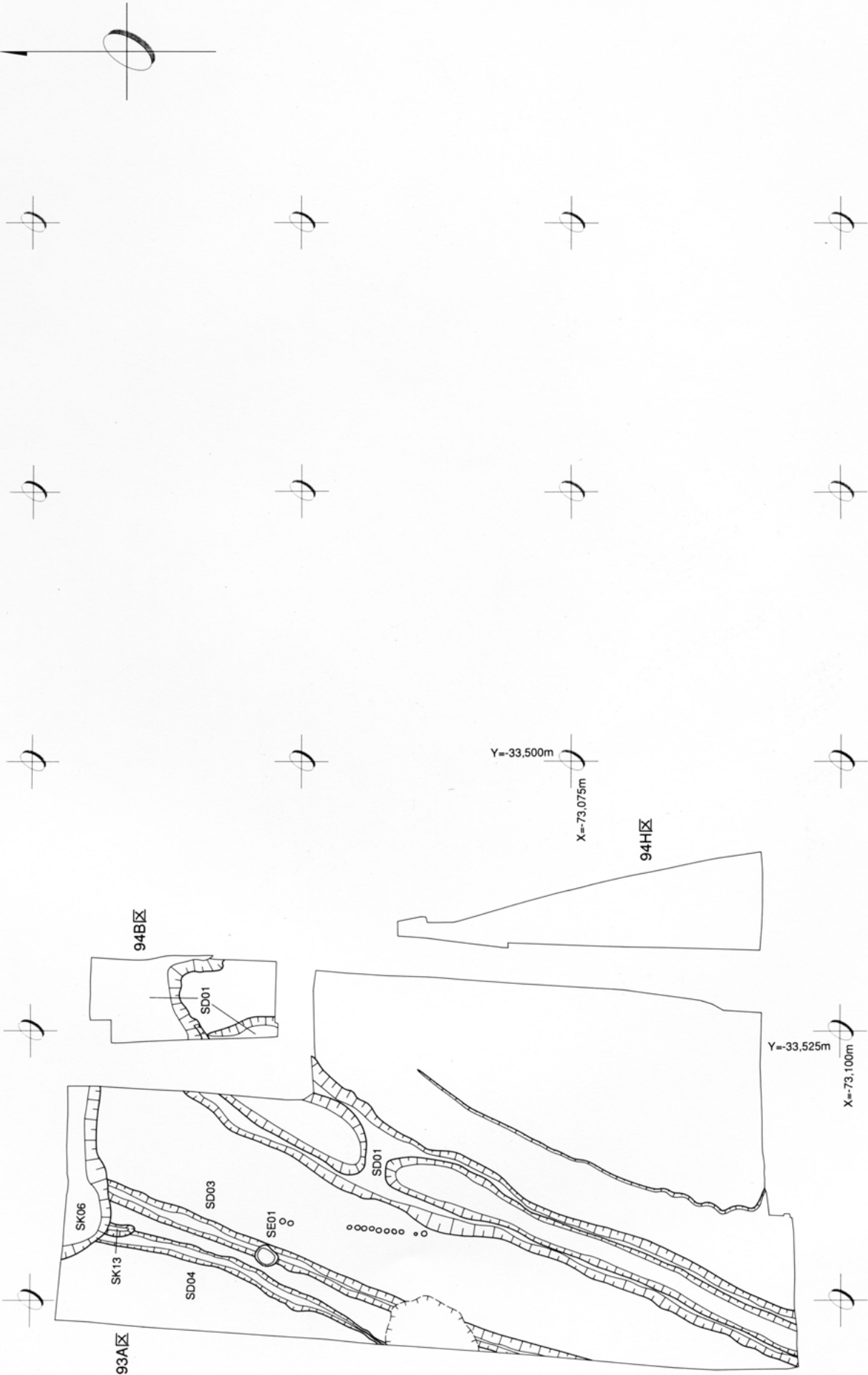












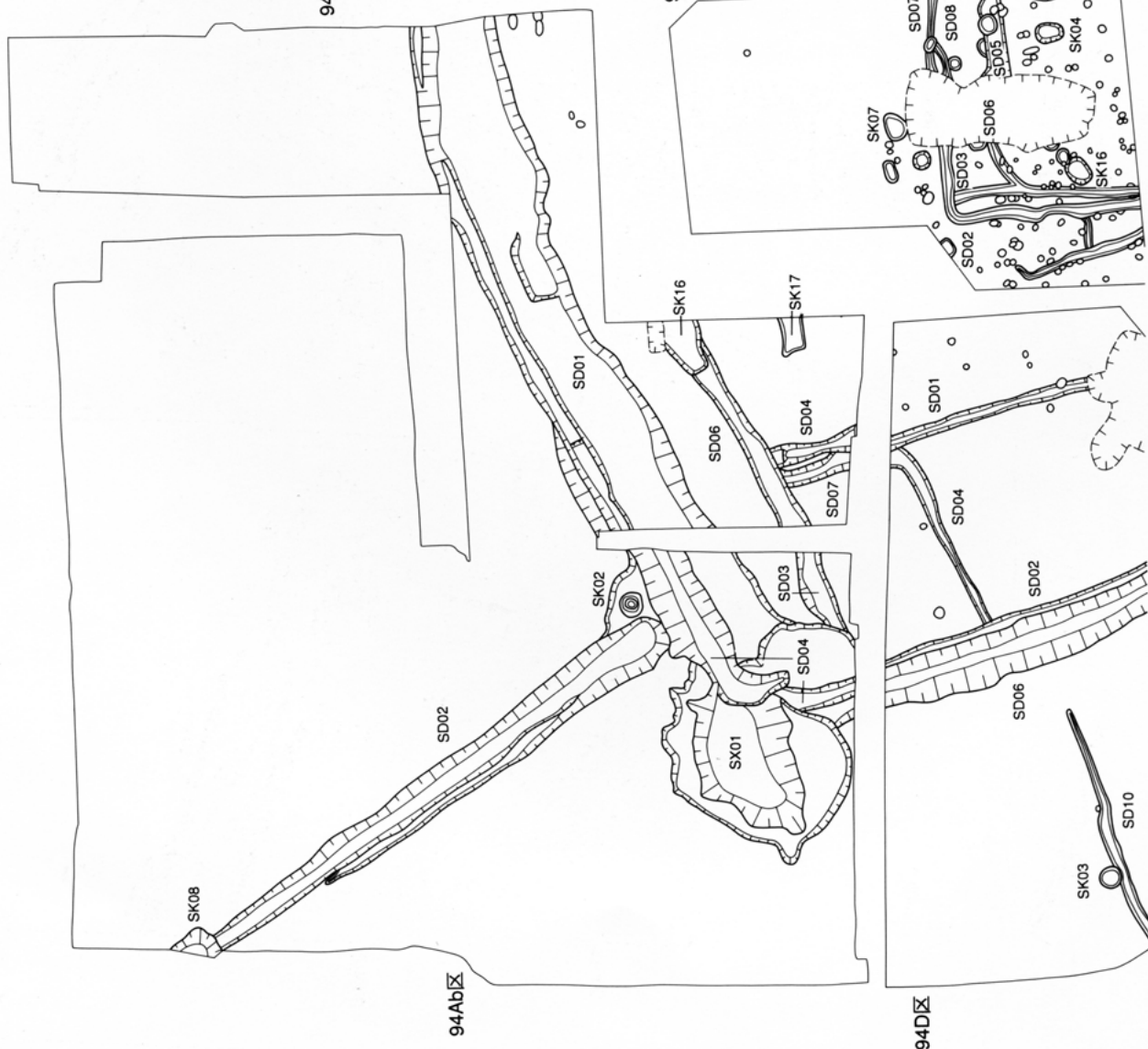


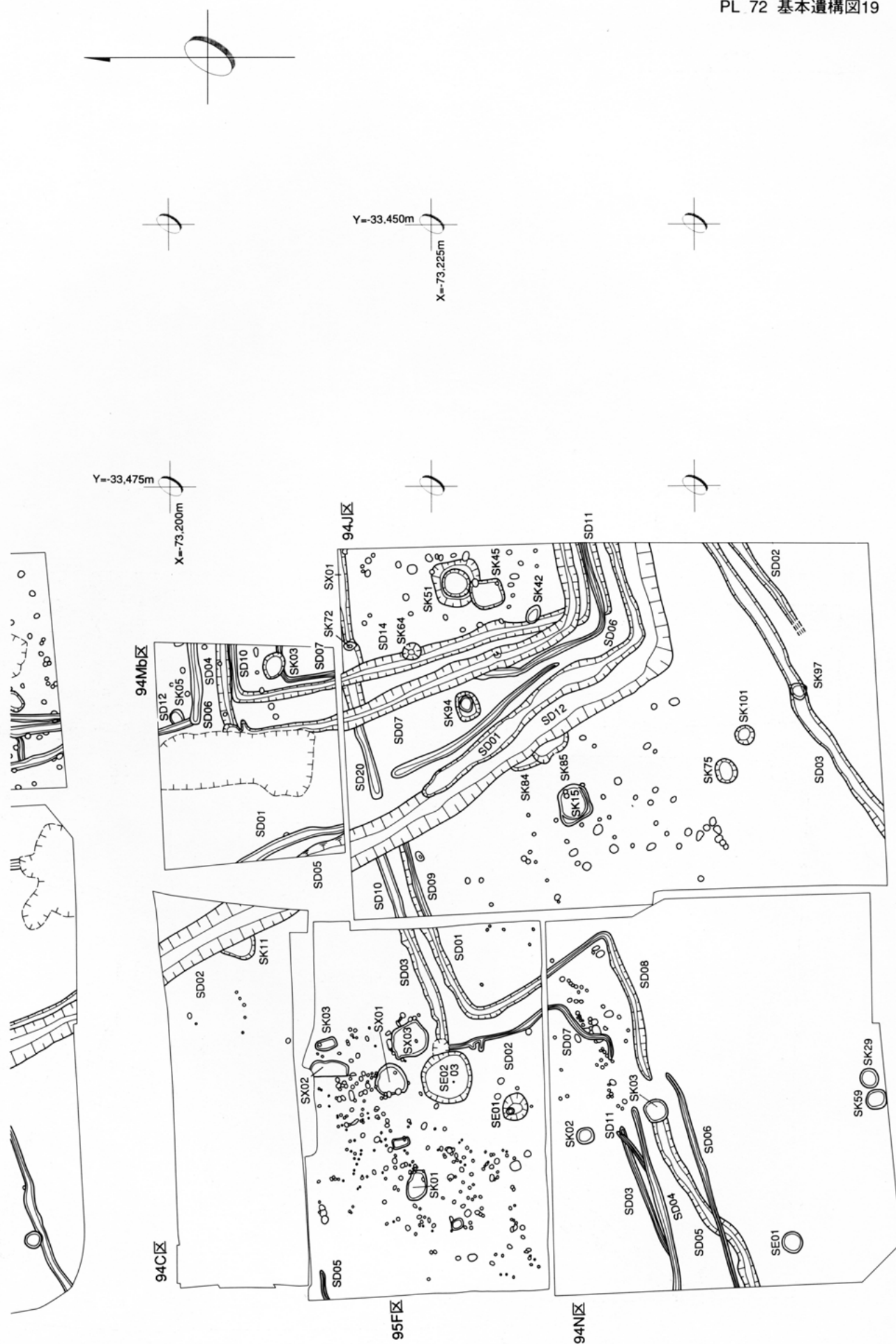
Y=-33,475m
X=-73,125m

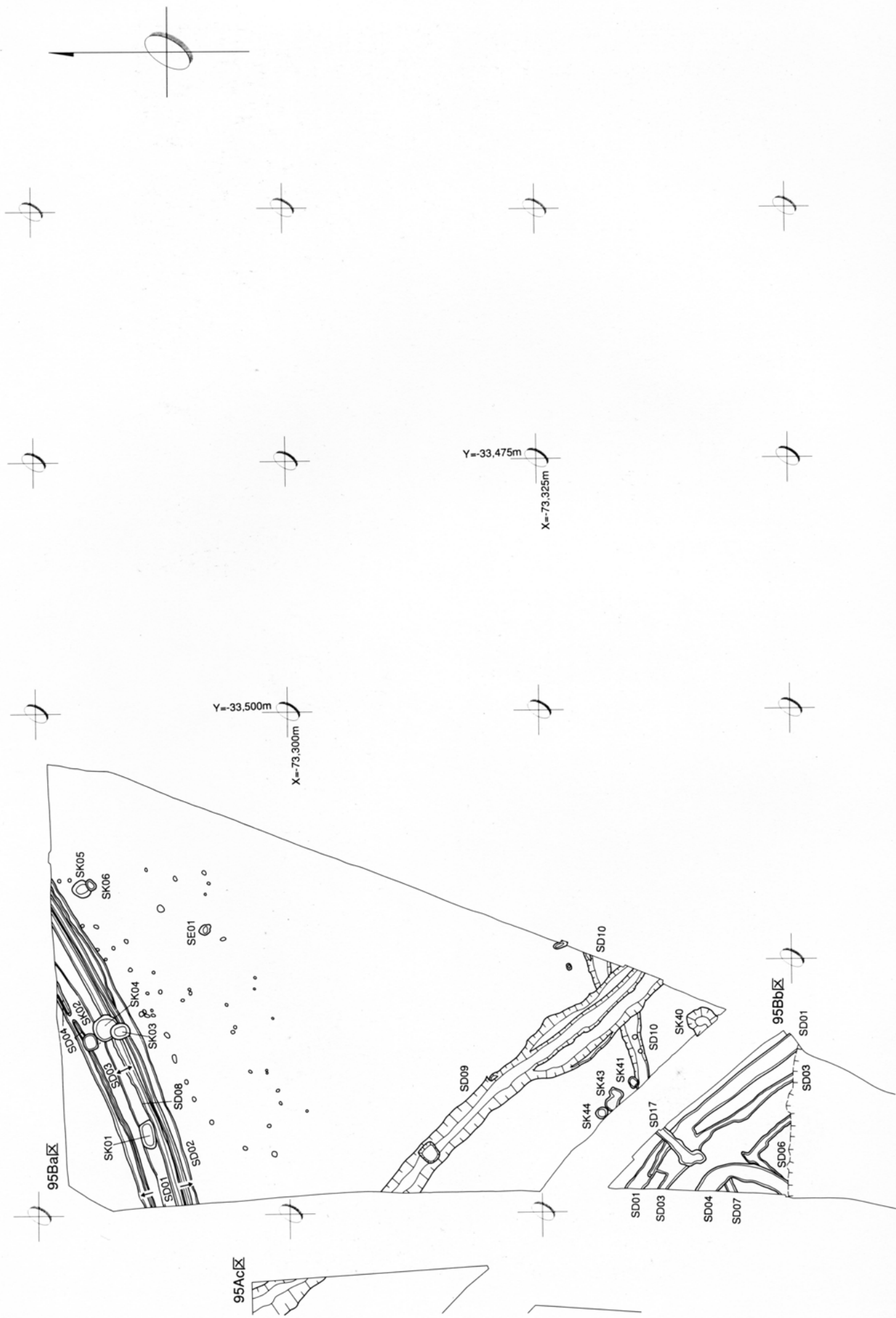
94Aa区

Y=-33,450m
X=-73,150m

94Ma区









第4層水田全景
94Aa区 西から



第5層水田全景
95G区 北から



第5層水田全景
93Ab区 北から



第5層水田全景
93B・C区 北西から



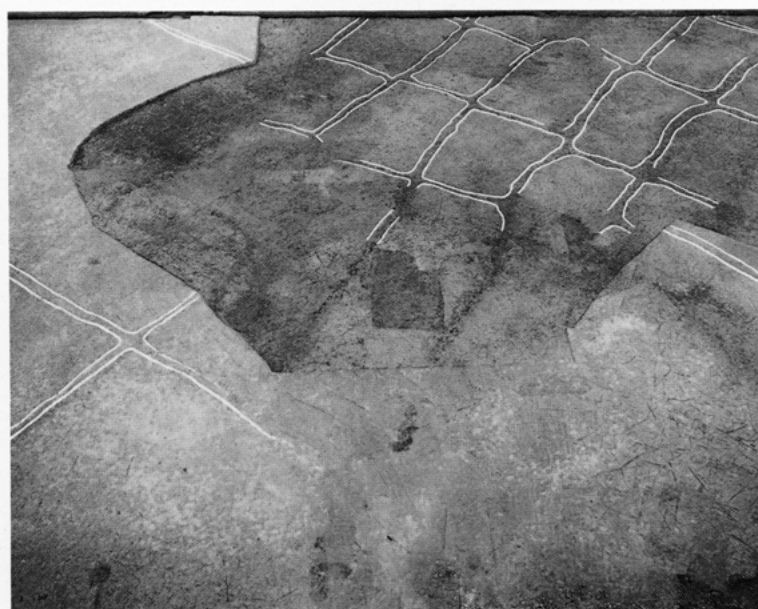
第5層水田全景
95Aa区 南から
右下端が微高地



第5層水田・水路
95G区SD201 南西から



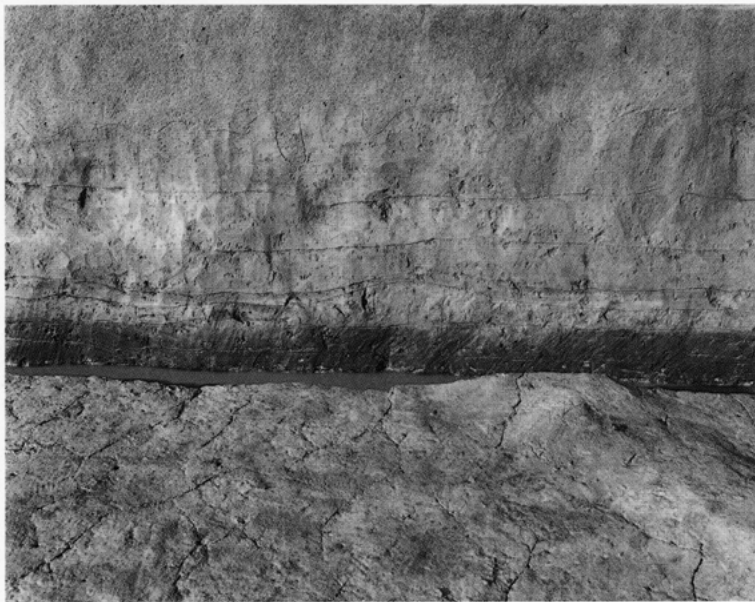
第4・5層水田
94G区 東から
手前が第5層水田



第5層水田検出状況
94G区



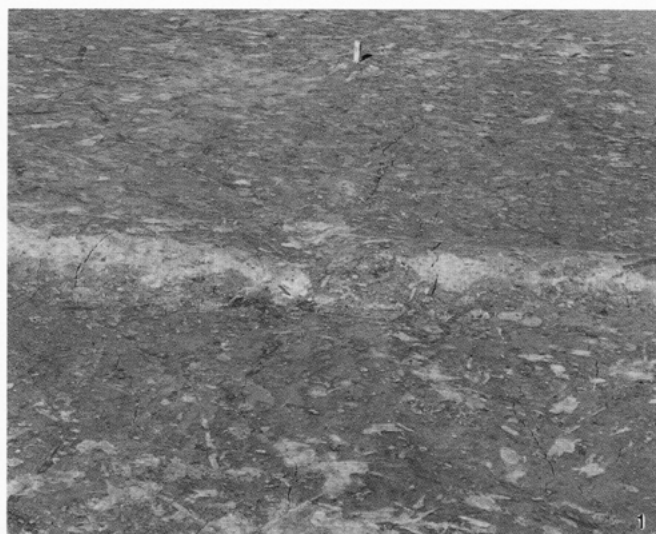
第4層水田 大畦付近



畦畔付近 土層セクション
94Ab区 西壁



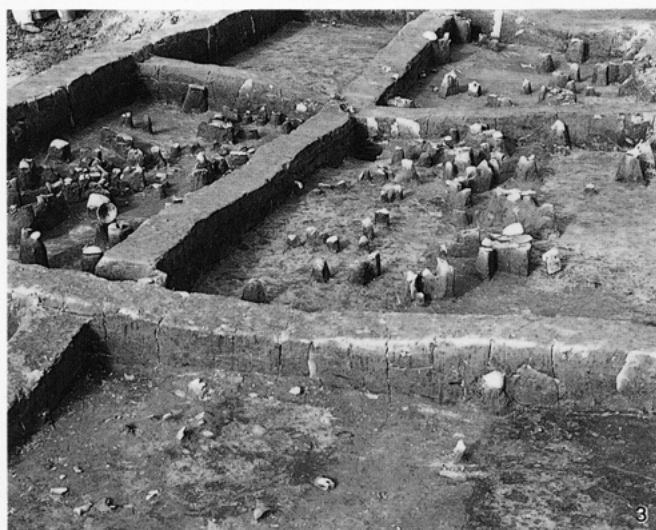
93B区 SD19・20南東から



- 1.第4層水田 水口(付近)
94Ab区
- 2.第4層水田 小土抗・足跡
94Ab区
- 3.第5層で検出された足跡
93C区
- 4.第5層で検出された足跡
93C区
- 5.微高地周辺
95Aa区 西から



- 1. 95Ab区 SK104
- 2. 94Ab区 SK102・103
- 3. 95Ab区 SD205・206
- 4. 95Ab区 Pit51 遺物出土状況
- 5. 95Ab区 第4層直上遺物検出状況



1. 第4層(包含層Ⅲ)上位遺物検出状況
95Ab区
2. 第4層(包含層Ⅲ)上位遺物検出状況
95Ab区
3. 第4層(包含層Ⅲ)遺物出土状況
95Ab区
4. 第4層(包含層Ⅲ)遺物検出状況
95Ab区
5. 第5層(包含層Ⅳ)直上遺物検出状況
95Ab区



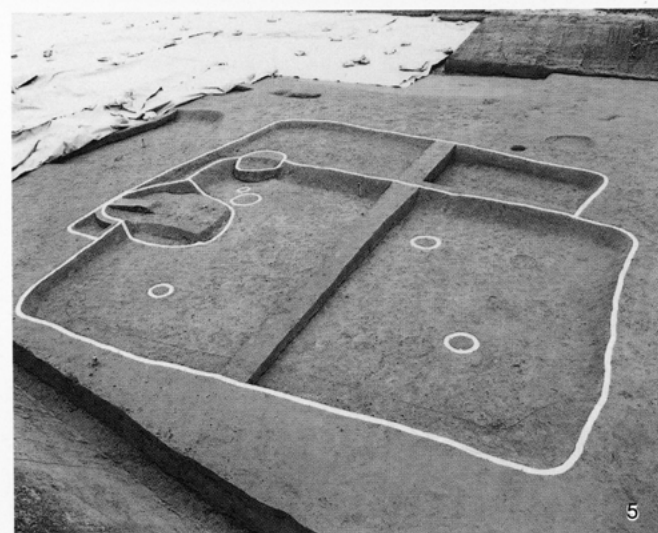
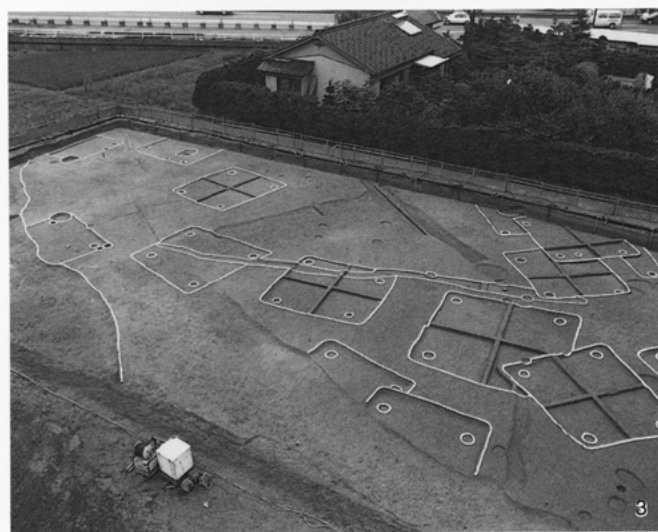
古代 大溝群全景
95Ab区 北から



95B区 NR201 南から



95Aa区 SD101 北から
(溝E)



- 1. 95Aa区 SZ01 北から
- 2. 94F区 SB06
- 3. 93Ab区 SB 西から
- 4. 94F区 SB01～07 東から
- 5. 93C区 SB03 西から



95F区 SD202
(溝A)



95Ab区 SD52 南西から
(溝D)



95F区 SD201
(溝E)



1. 95Ab区 SD52 セクション 南から
2. 95Aa区 SD101 セクション 南から
(溝E)
3. 95Ab区 SD52 遺物検出状況
4. 94C区 SD11 遺物検出状況
(溝E)
5. 93B区 NR02 遺物検出状況
(溝E)



(区画6)
居館大区画 南西コーナー
94J区 北西から



(区画1・2)
94M区北側 西から



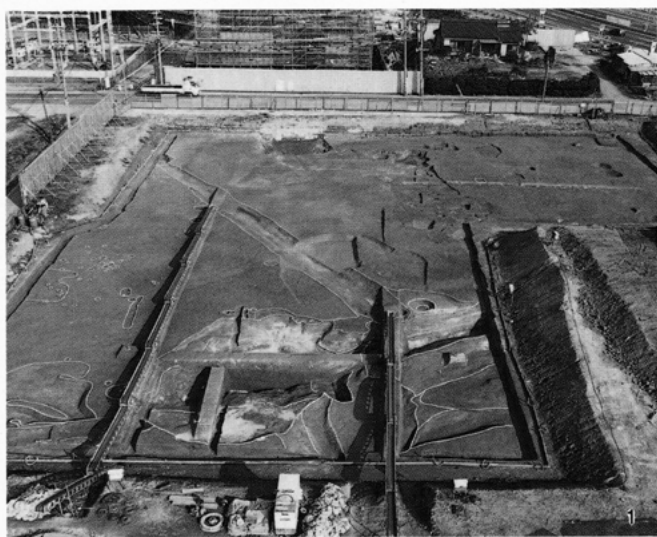
屋敷地区画溝 94Ma区 SD02・03 南から
(区画1・2)



屋敷地区画溝 95F区 SD01・03 東から
(区画5周辺)

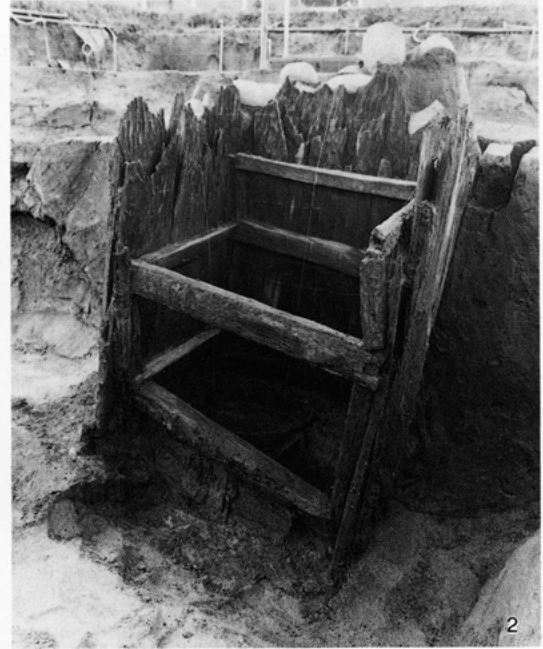


居館区画溝 94J区 SD12 西から
(区画6)

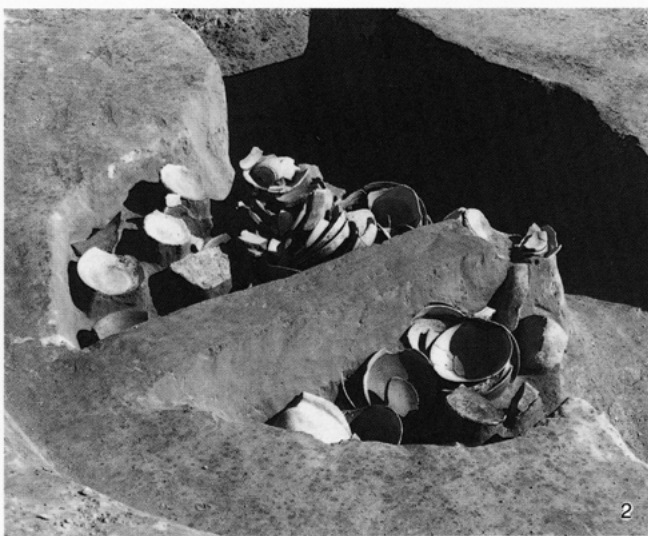
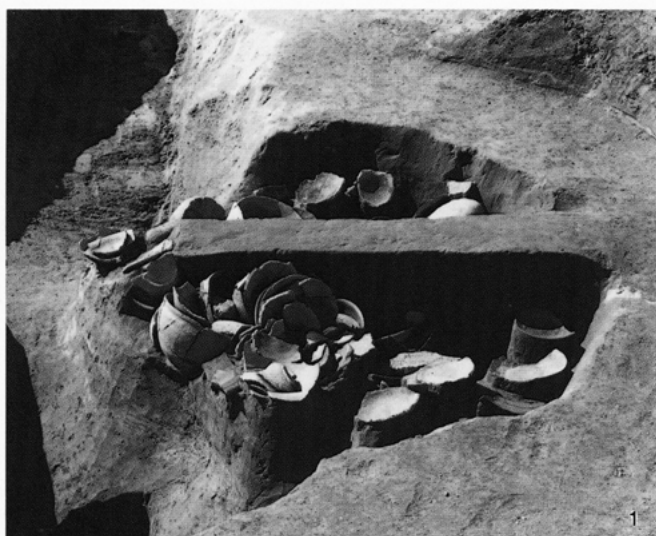


- 1. 94Ab区 SX01 南から
- 2. 94Ab区 SX01 卒塔婆検出状況
- 3. 94J区 SK85-a, b(SE)セクション 東から
- 4. 95Aa区 SK55(SE)
- 5. 95Aa区 SK55(SE) 下層曲物検出状況



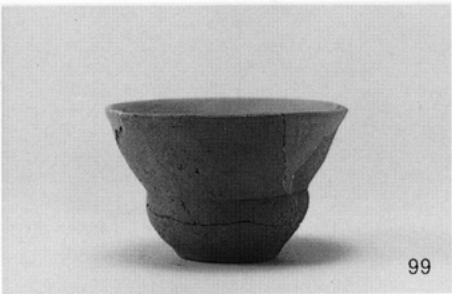
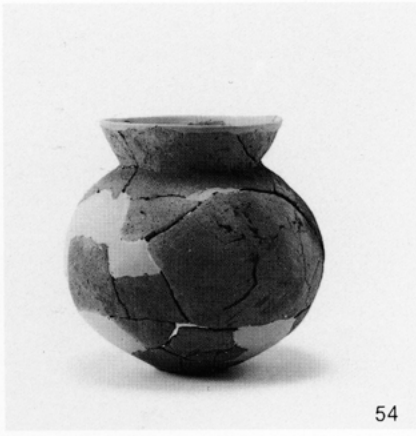


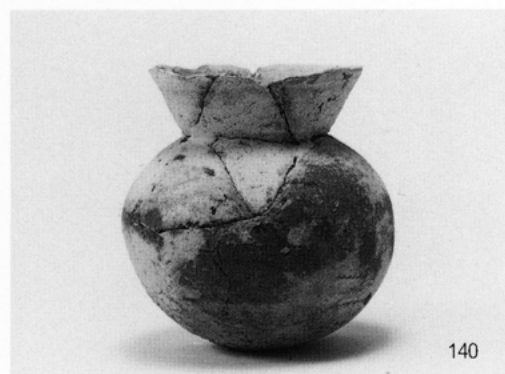
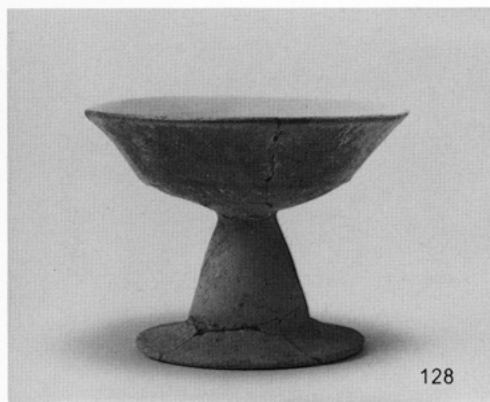
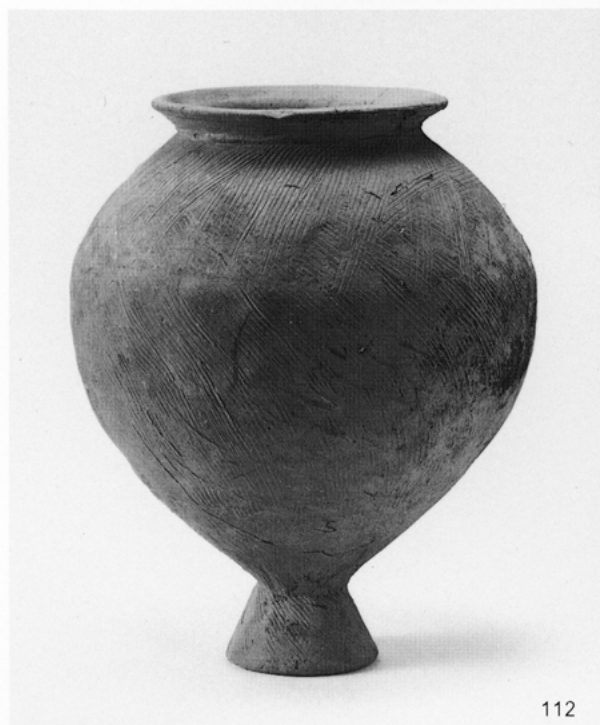
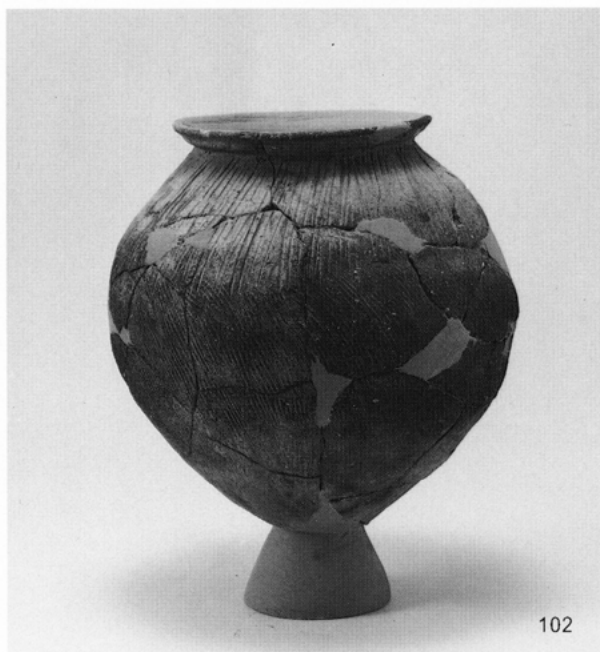
- 1. 95F区 SE02 上から
- 2. 95F区 SE02
- 3. 94G区 SE01
- 4. 95Aa区 SK25
- 5. 94G区 SE03



1. 94K区 SK56 遺物出土状況
2. 94K区 SK56 遺物出土状況
3. 95Aa区 SD02 遺物出土状況 北西から
4. 95Ab区 SX01 漆碗検出状況
5. 95B区 SD09 南から(推定「境堀」)

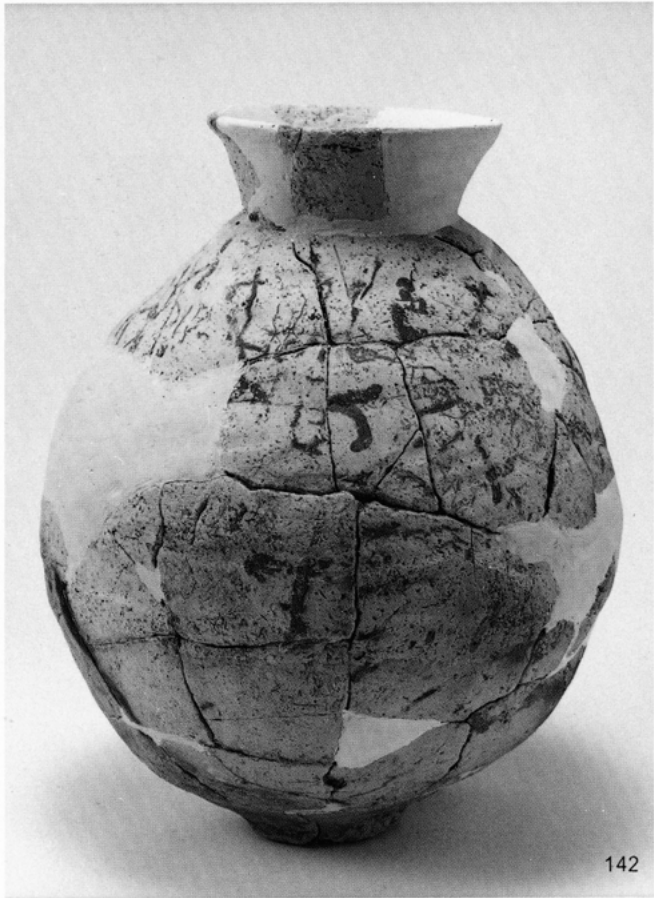








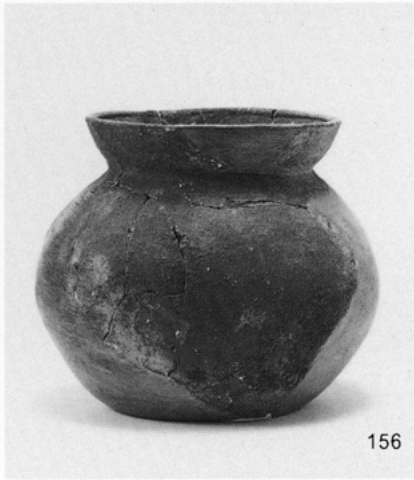
第4層（包含層）直上出土遺物



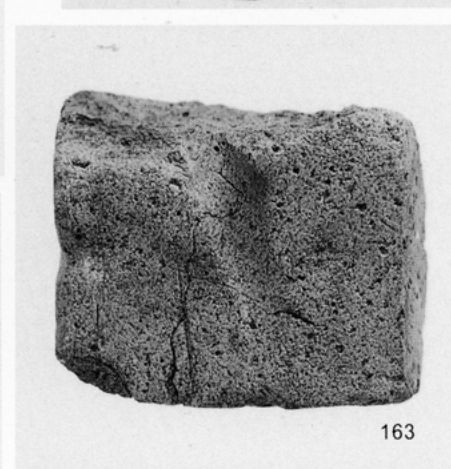
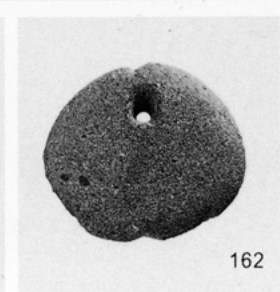
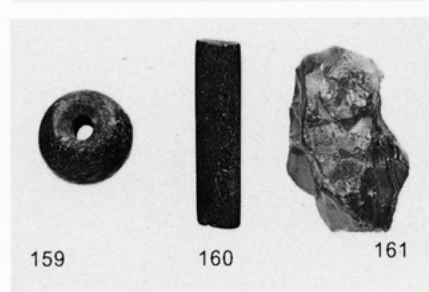
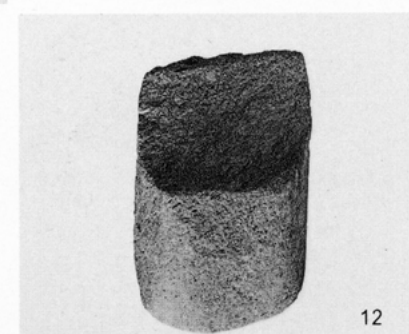
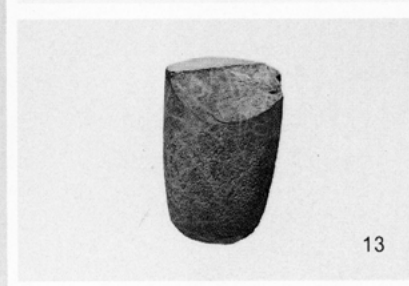
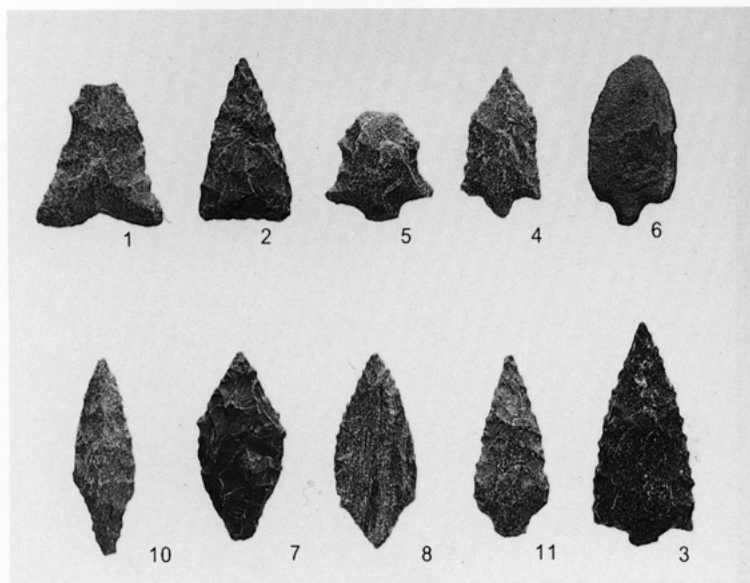
142

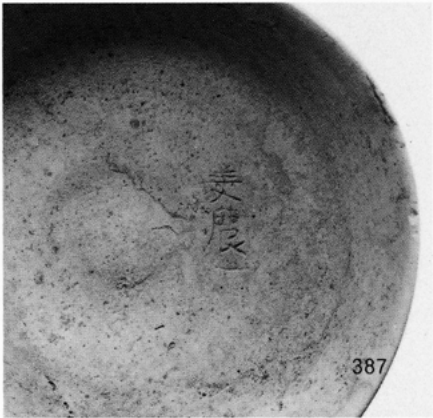
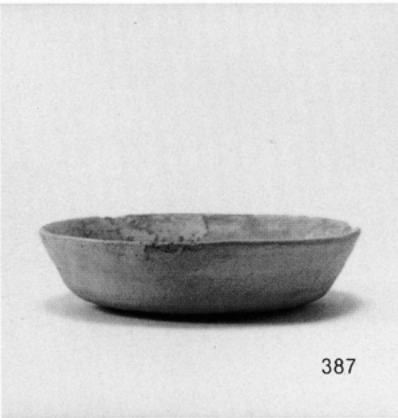
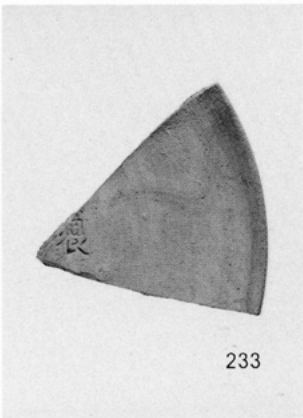


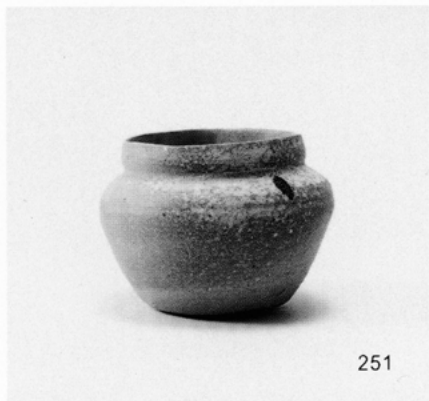
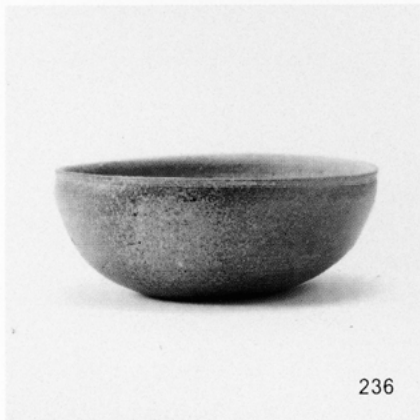
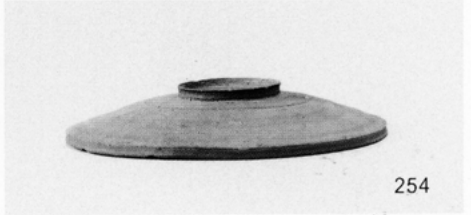
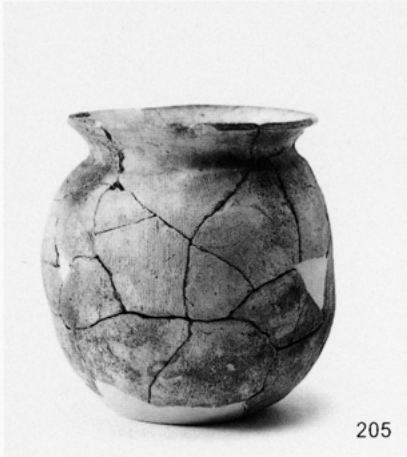
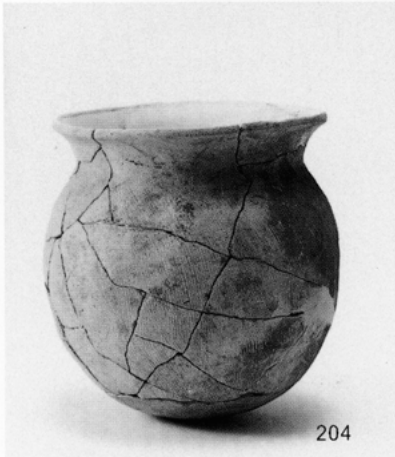
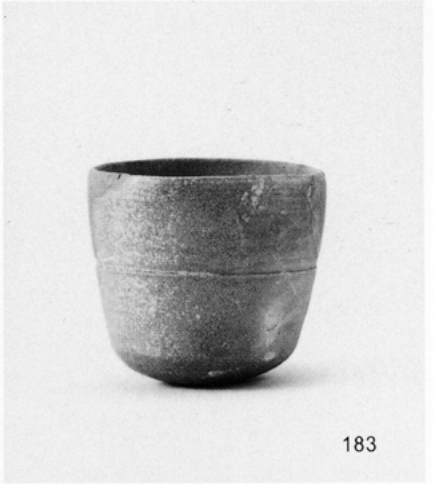
153

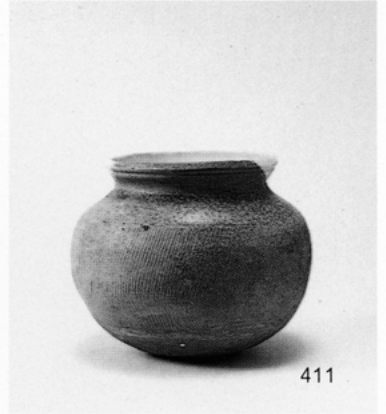
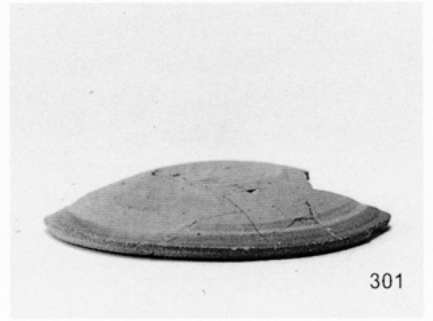
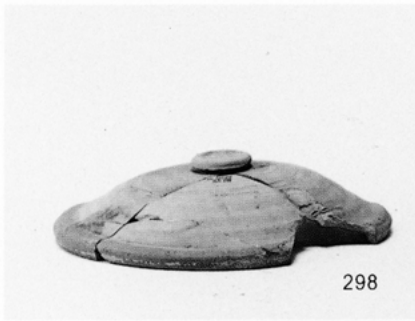


156











94KSK56



94JSD20



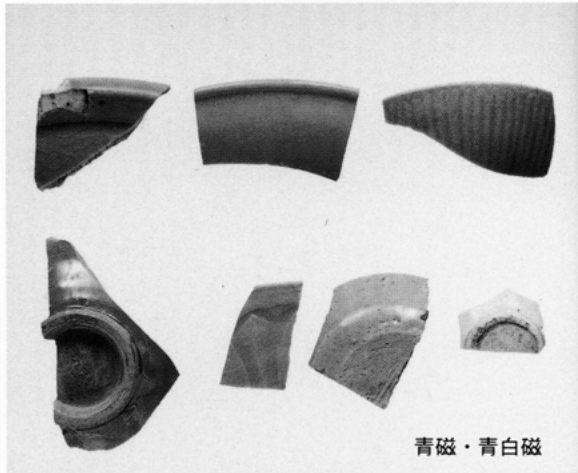
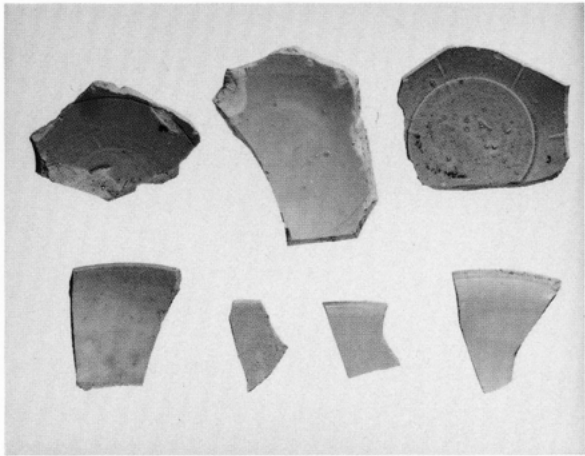
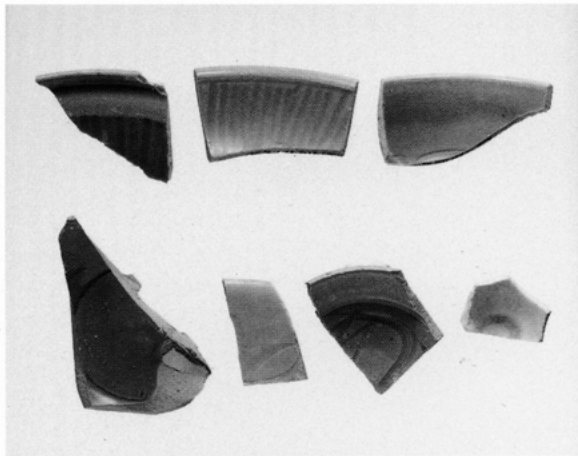
94JSD12



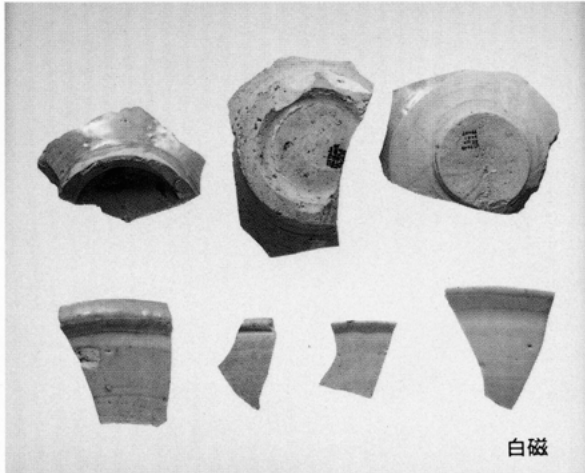
94JSD01



95Aa SK25 · 26



青磁・青白磁



白磁



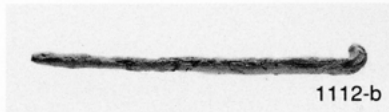
加工円盤・陶丸



土錘



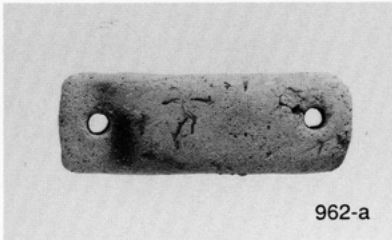
1112-a



1112-b



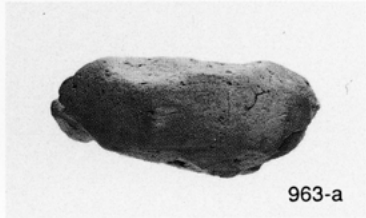
1113



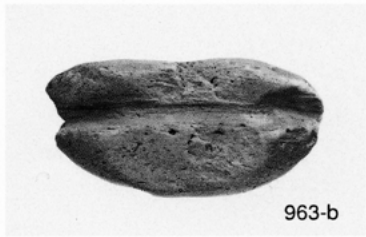
962-a



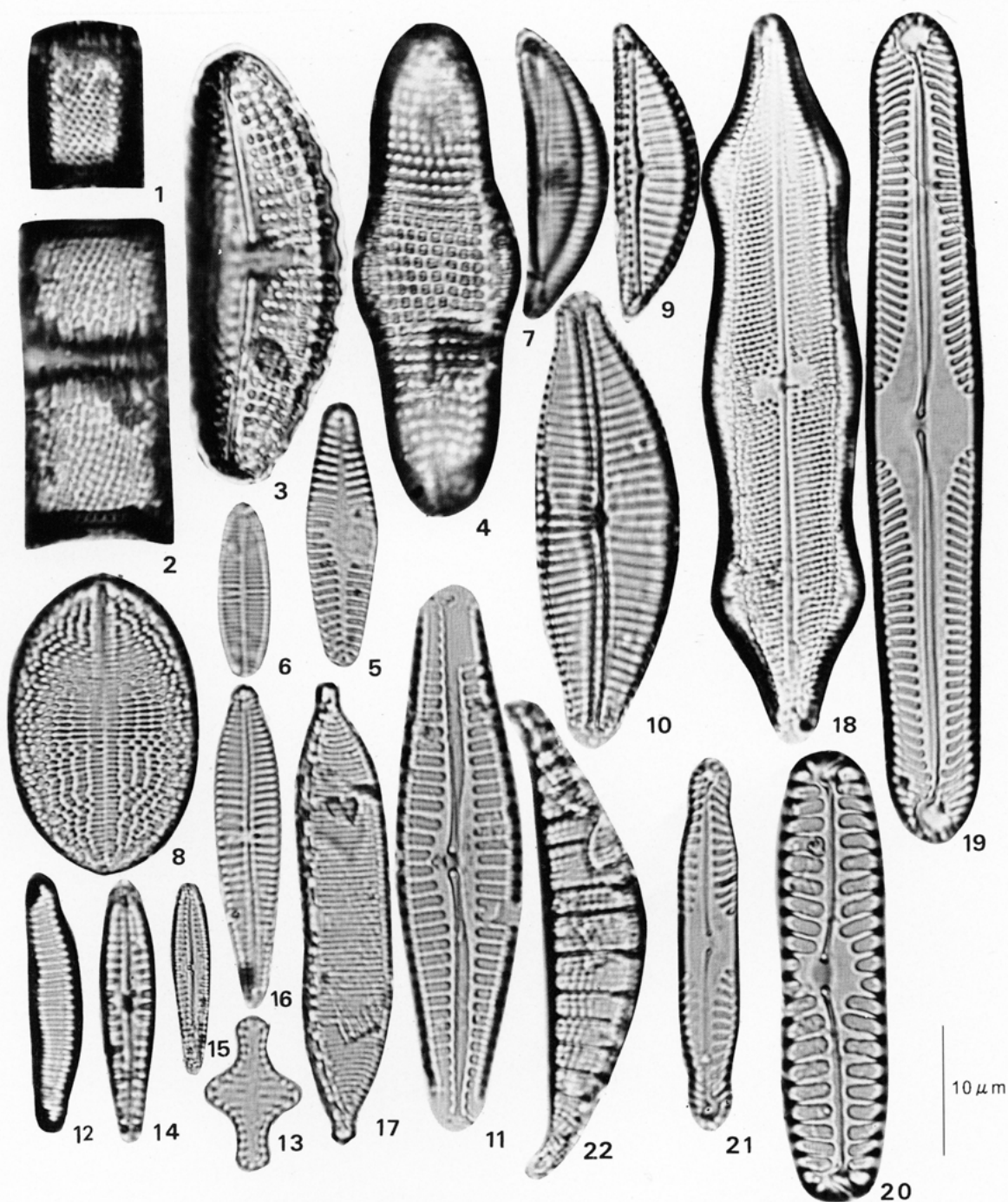
962-b



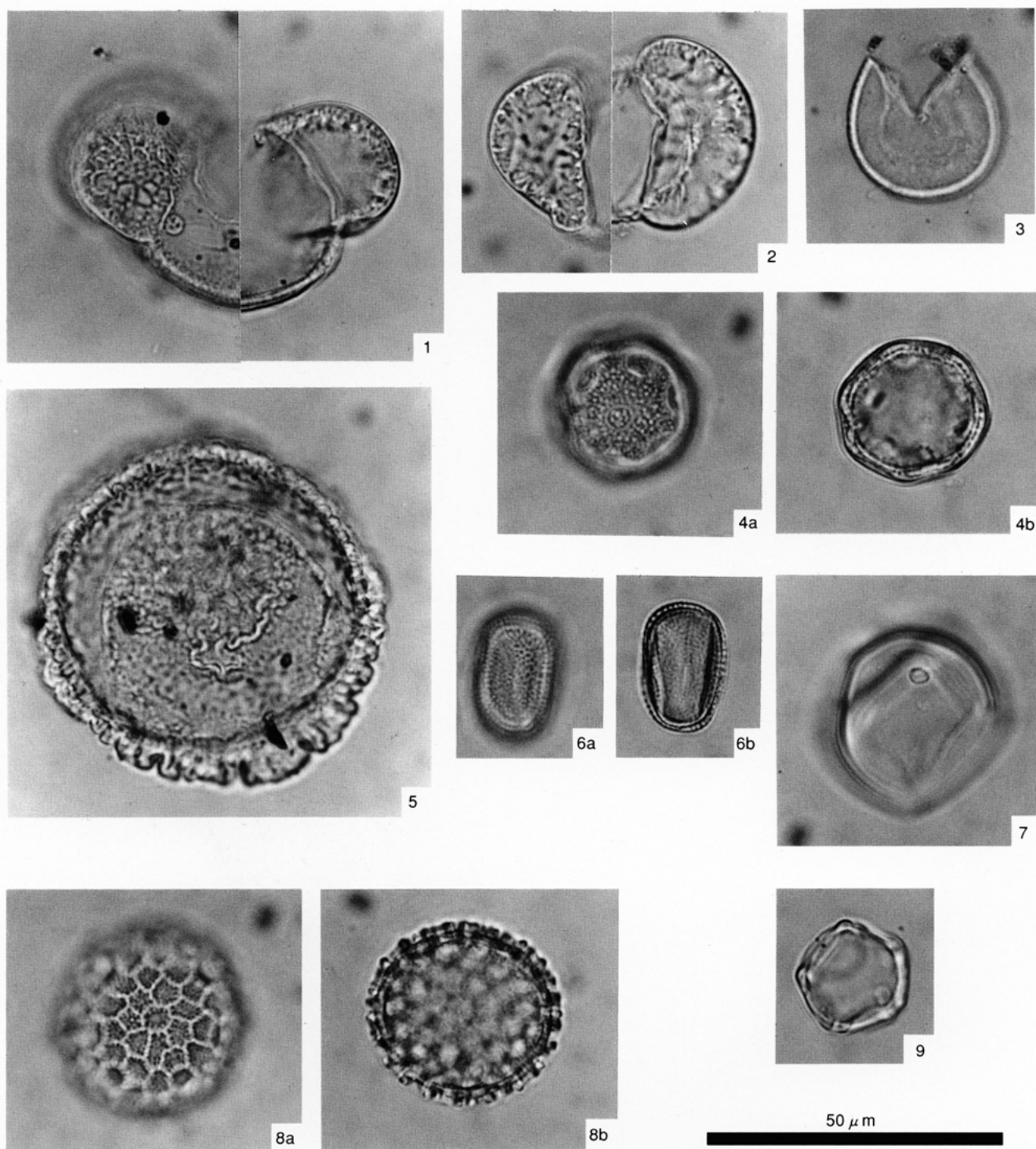
963-a



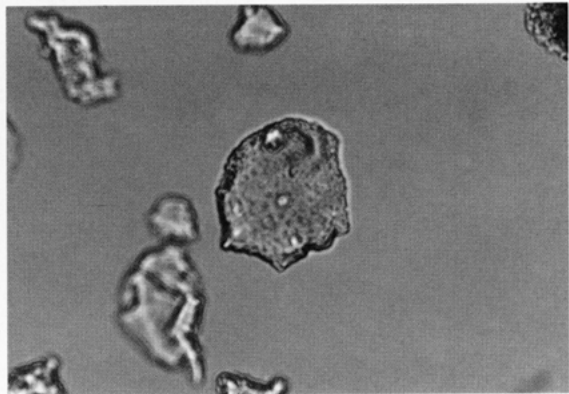
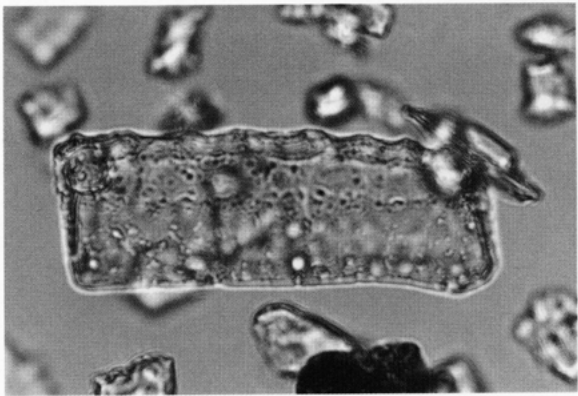
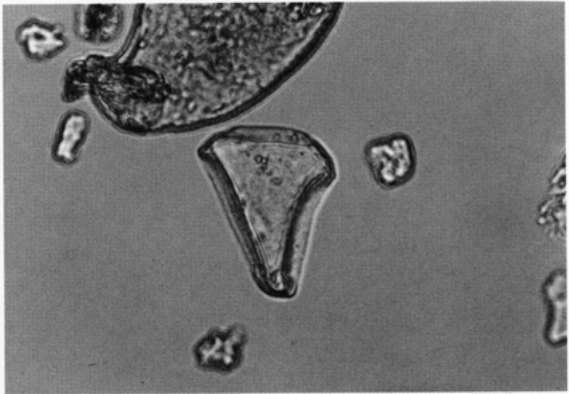
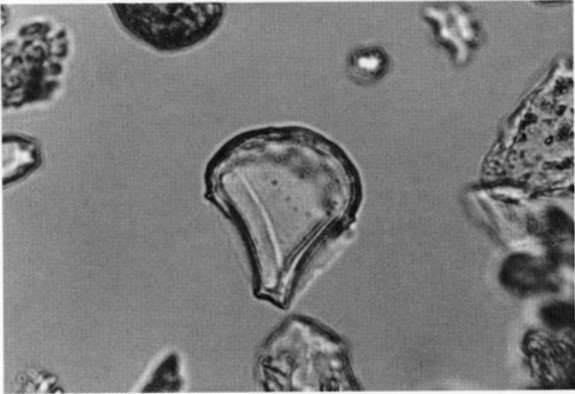
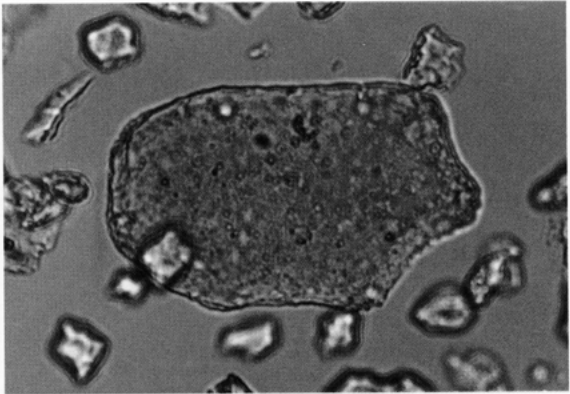
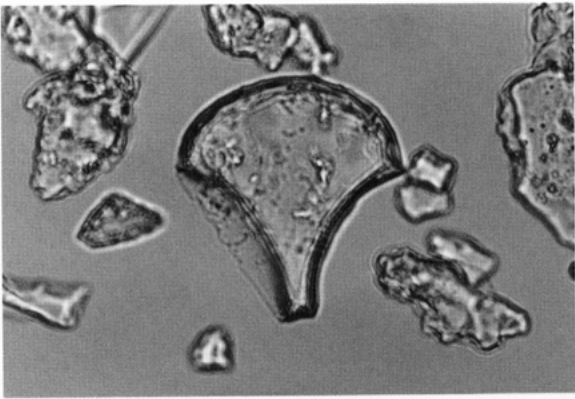
963-b



- | | |
|---|---|
| 1. <i>Aulacosira italica</i> (Whr.)Simonsen | 2. <i>A. italica</i> var. <i>valida</i> (Grun.)Simonsen |
| 3. <i>Achnanthes crenulata</i> Grunow | 4. <i>A. inflata</i> Kuetzing |
| 5. <i>A. lanseolata</i> (Breb.)Grunow | 6. <i>A. japonica</i> H.Kobayasi |
| 7. <i>Amphora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuet.)Heur. | 8. <i>Cocconeis placentula</i> (Ehr.)Cleve |
| 9. <i>Cymbella silesiaca</i> Bleisch | 10. <i>Cymbella turgidula</i> Grunow |
| 11. <i>Cybella leptoceros</i> Bleisch | 12. <i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.)Rabe. |
| 13. <i>Fragilaria construens</i> (Ehr.)Grunow | 14. <i>Gomphonema sumatrense</i> Fricke |
| 15. <i>Gomphonema angustum</i> Agardh | 16. <i>G. parvulum</i> Kuetzing |
| 17. <i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.)Grunow | 18. <i>Neidium hitchcockii</i> (Ehr.)Cleve |
| 19. <i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg | 20. <i>P. borealis</i> Ehrenberg |
| 21. <i>P. subcapitata</i> Gregory | 22. <i>Rhopalodia gibbeula</i> (Ehr.)O.Muller |



- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. マツ層複維管束亜属 | 2. マキ属 |
| 3. スギ属 | 4. ナデシコ科 |
| 5. ツガ属 | 6. アブラナ科 |
| 7. イネ科 | 8. サナエタデ節ーワナギツカミ節 |
| | 9. ハンノキ属 |



1	2
3	4
5	6

- 1.イネ
- 2.ヨシ属
- 3.イネ
- 4.ウシクサ族(ススキ属など)
- 5.キビ属(ヒエ属など)
- 6.クマザサ属型

0 50 100 μm



1. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY
左右鞘翅 長さ9.8mm (試料E-標本121)
2. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY
左鞘翅 長さ11.0mm (試料B-標本26)
3. アカガネサルハムシ *Acrothidium gaschkevitchii* (MOTSCHULSKY)
右鞘翅 長さ4.1mm (試料E-標本97)
4. クシコメツキ *Melanotus legatus* CANDEZE
右鞘翅 長さ11.2mm (試料E-標本1)
5. カナブン *Rhomborrhina japonica* HOPE
頭部 長さ5.6mm (試料E-標本43)

6. オオマグソコガネ *Aphodius haroldianus* BALTHASAR
左鞘翅 長さ6.2mm (試料E-標本55)
7. オオミズスマシ *Dineutus orientalis* MODEER
左鞘翅 長さ5.4mm (試料B-標本24)
8. ゲンゴロウ *Cybister japonicus* SHARP
鞘翅片 長さ12.0mm (試料B-標本38)
9. イネネケイハムシ *Donacia provosti* FAIRMAIRE
右鞘翅 長さ6.8mm (試料A-標本28)

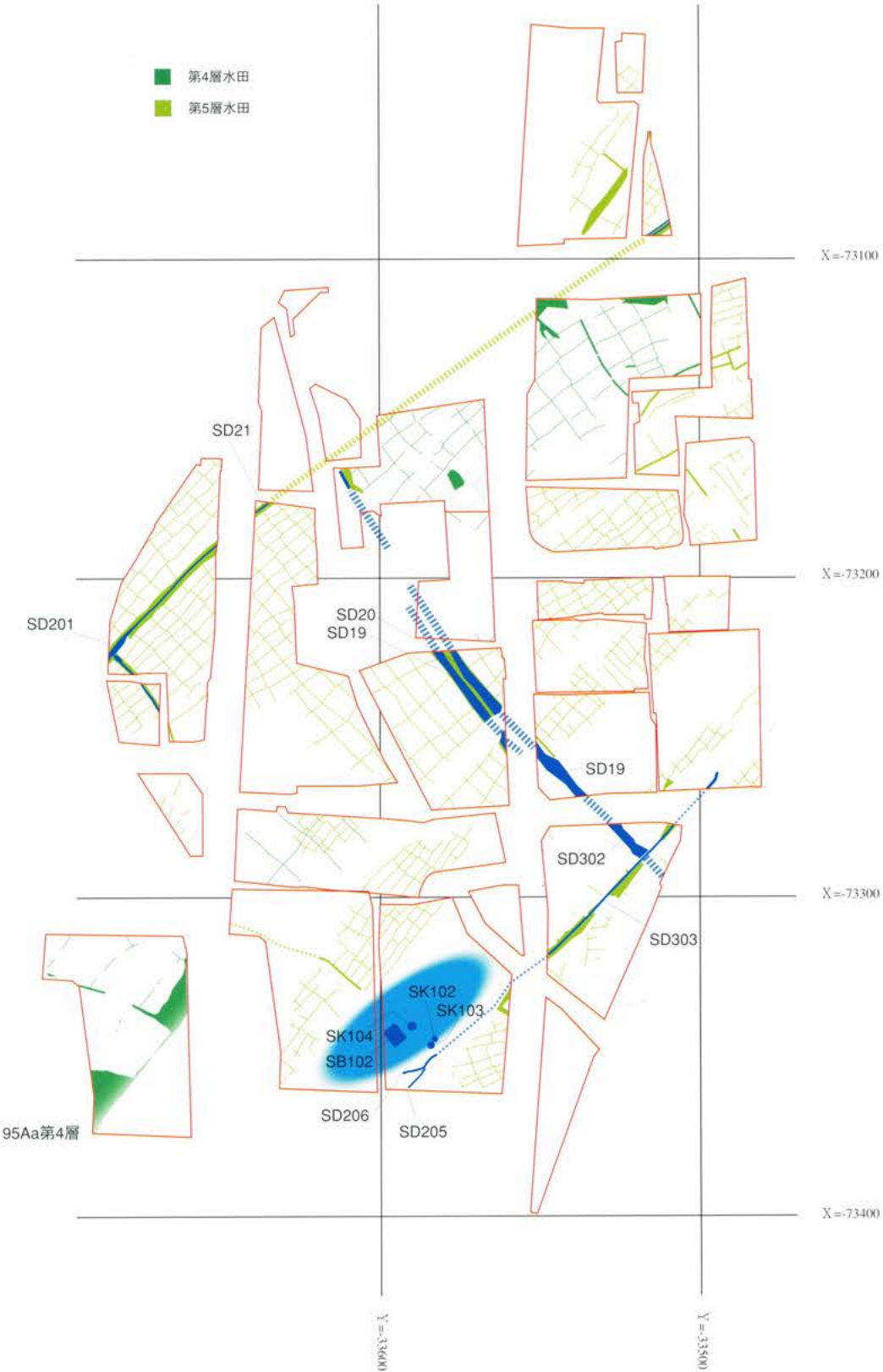


333



1100

大毛池田遺跡 93,94,95年度
調査区全体主要遺構配置図/古墳



調査進行表

年度	調査区	調査担当者	調査期間 (月)				面積 (m ²)	備考
			6	9	12	3		
93	A	服部 ^(信) ・今西・北條					2299	
	B	服部 ^(信) ・黒田・小池・北條					2100	
	C	服部 ^(信) ・黒田・小池・北條					3191	
94	A	杉浦・樋上・伊藤					3500	Abi区として 調査
	I	杉浦・樋上・伊藤					1400	
	B	杉浦・樋上・伊藤					200	
	C	黒田・北條・小川・杉浦					700	
	D	黒田・北條・小川・杉浦					1100	KL区として 調査
	E	大竹・赤塚・小泉					1000	
	F	大竹・赤塚・小泉					1800	
	G	飴谷・今西・大竹					2200	
	H	今西					300	
	J	北條・黒田・小川・杉浦					2100	
	K	飴谷・今西					1600	
	L	樋上・伊藤・杉浦					2400	
	M	杉浦・黒田・小川・北條					1000	
	N	杉浦・黒田・小川・北條					1400	
95	A	伊藤・武部・前田					5300	
	B	前田・北村・大崎					3200	
	C	小澤・小池・早野					600	
	D	小澤・小池・早野					800	
	E	小澤・小池・早野					1000	
	F	前田・北村・大崎					600	
	G	前田・北村・大崎					1900	

面積合計：41690

97年8月 所属

大竹正吾・佐織町立西川端小学校
 小池一徳・県立東郷高等学校
 前田雅彦・小牧市立北里小学校教頭
 杉浦 茂・知立市教育委員会
 今西康二・県立丹羽高等学校
 小泉 渡・一宮市立浅野小学校

97年8月センター在職

赤塚次郎 (主査)
 黒田哲生 (主査)
 北村和宏 (主査)
 小澤一弘 (主任)
 大崎正敬 (主査)
 伊藤秀紀
 服部信博 (94年4月～97年3月まで県立新川高等学校)
 小川芳範
 飴谷 一
 樋上 昇
 武部 (北條) 真木
 早野浩二

報告書抄録

ふりがな	おおけいけだ
書名	大毛池田遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第72集
編集者名	武部真木
編集機関	財団法人愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL0567-67-4161
発行年月日	西暦 1997年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ・・・	東経 ・・・	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおけいけだ 大毛池田	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 おおあざおおけ 大字大毛 はぐりぐんきそがわ 葉栗郡木曾川 ちようくろだ 町黒田	23203	02096	35	136	199304～	7590㎡	東海北陸自動車道建設に伴う 事前調査
		23381		度	度	199403	20700㎡	
				20	47	199404～	13400㎡	
				分	分	199503		
				20	50	199504～		
				秒	秒	199603		
							41690㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大毛池田	水田	古墳 初頭	水田・土坑・溝	土師器・石器	
	集落	奈良	竪穴住居跡・溝	須恵器、土師器、 灰釉陶器、緑釉椀	大型の溝4条
	居館	鎌倉	溝 土壙・井戸	灰釉系陶器・土師器	屋敷地区画溝
		戦国	溝・井戸	施釉陶器・土師器	

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第72集

大毛池田遺跡

1997年8月29日

編集・発行 財団法人愛知県埋蔵文化財センター

印刷 株式会社 名古屋大気堂
